兵庫県文化財調査報告　第418冊

神戸市西区

神出窯跡群Ⅱ

（神出遺跡の調査）

175号神出バイパス事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成24（2012）年2月

兵庫県教育委員会

神戸市西区

神出窯跡群Ⅱ

（神出遺跡の調査）

175号神出バイパス事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成24（2012）年2月

兵庫県教育委員会

Ａ地区調査地遠景（北から）

Ａ地区調査地遠景（南から）

A地区調査区遠景（西から）

A地区調査区近景（北から）

B地区調査区遠景（西上空から）

B地区本発掘調査区全景（北から）

B地区 SK01 全景（北から）

B地区 SK02 全景（北西から）

B地区 SK03 炭層堆積状況（東から）

B地区 SK03 炭層除去後の状態（東から）

B地区 SE01 須恵器鉢出土状況（北から）

C地区全景（南から）

C地区 SK04 遺物出土状況（北西から）

C地区出土漆椀（CW06）

C地区出土漆椀（CW07）

D地区調査区遠景（南から）

D地区調査区遠景（西から）

D地区調査区近景（南から）

D地区調査区近景（西から）

例　言

1．本書は兵庫県神戸市西区神出町に所在する、神出窯跡群内における神出遺跡の発掘調査報告書である。
2．発掘調査は、国道175号神出バイパス建設事業に伴い、建設省近畿地方整備局兵庫国道事務所長の依頼を受けて、兵庫県教育委員会が平成５年度、７年度、９年度、10年度に本発掘調査を実施した。
3．出土品整理は国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所長の依頼を受けて、兵庫県立考古博物館が平成15年度～平成23年度に実施した。
4．本書に使用した方位は国土座標（第Ⅴ系）の座標北を示す。また、標高値は東京湾平均海水面（T.P.）を基準とした。
5．地図は、国土地理院「三木」・「東二見」・「前開」・「淡河」1/2,5000を使用した。
6．本書の執筆は、池田征弘、岸本一宏、別府洋二、森内秀造、深江英憲が分担して行った。各執筆分担については、目次に明記した。
7．本書第２章については、先に刊行した神出窯跡群Ⅰ、及び神出窯跡群Ⅲを参考に、文章、図面、一覧表等について、再録及び追加を行った。また、各章の内容についても、既刊の報告書を参考とした。
8．報告書の作成にあたっては、森本貴子の補助のもと、深江が編集を行った。
9．本書にかかる写真・図面などの記録や出土した遺物などは、兵庫県立考古博物館に保管している。

凡　例

1．報告遺構の名称については、掘立柱建物をSB、柱穴（ピット）をP、土坑をSK、井戸をSE、溝をSD、流路をSRで標記し、後に遺構番号を付すことを基本とし、各地区の発掘調査段階で付された遺構の名称については、遺構の性格を特徴付けるものとして、そのまま使用することとした。また、遺構番号については、発掘調査段階で付された番号をそのまま使用するため、番号は連続しない。
2．遺物の報告書番号については、地区毎に完結させるため、各地区名を頭文字として、土器・瓦等については数字のみを付す。また、土器以外では、各地区名の頭文字の後、石器はＳ、金属器はM、木器はWとし、後に数字を付す。なお、多量の土器の出土があったＡ地区の確認調査出土遺物については、Ａの後にＩを付す。標記例は以下の表の通りである。

地区名	土器・瓦	石器	木器	金属器
Ａ地区確認調査	AI01	AIS01	AIW01	AIM01
Ａ地区	A01	AS01	AW01	AM01
Ｂ地区	B01	BS01	BW01	BM01
Ｃ地区	C01	CS01	CW01	CM01
Ｄ地区	D01	DS01	DW01	DM01

3．土器等の断面については、土師器・土製品、及び瓦は白抜き、須恵器は黒塗り、陶磁器は網掛けとした。その他、石器、金属器は白抜き、木器の断面については、直線及び曲線等で木目調表現とした。

本文目次

第１章　調査に至る経緯と経過
第１節　調査に至る経緯……（深江英憲）1
第２節　調査の経過……（深江）1
１．確認調査
２．本発掘調査
第３節　整理作業の経過……（深江）7

第２章　遺跡の位置と環境
第１節　神出窯跡群の分布……（深江）8

第３章　Ａ地区の調査……（岸本一宏・深江）12
第１節　Ａ地区の確認調査
第２節　本発掘調査の概要
第３節　遺構
第４節　遺物

第４章　Ｂ地区の調査……（深江）23
第１節　概要
第２節　遺構
第３節　遺物

第５章　Ｃ地区の調査……（別府洋二）28
第１節　概要
第２節　遺構
第３節　遺物

第６章　Ｄ地区の調査……（深江）49
第１節　概要
第２節　遺構
第３節　遺物

第７章　総括
第１節　神出遺跡・神出窯跡群　出土木製品の樹種同定……（植田弥生：パレオ・ラボ）60
第２節　まとめ……（深江）64

挿図目次

第 1 図　神出バイパスにおける発掘調査位置図 …… 5
第 2 図　神出窯跡群分布図 ……10
第 3 図　SK56 出土木器 ……56
第 4 図　出土銅銭 ……59
第 5 図　神出遺跡・神出窯跡群出土木製品材組織の光学顕微鏡写真 ……62
第 6 図　神出遺跡・神出窯跡群出土木製品材組織の光学顕微鏡写真 ……63

表目次

第 1 表　神出窯跡群分布一覧表 ……11
第 2 表　第 2 表　C 地区出土須恵器分類表 ……33
第 3 表　神出遺跡・神出窯跡群出土木器樹種同定一覧 ……61
第 4 表　出土遺物一覧表 ……66

巻頭写真図版目次

Ａ地区

巻頭写真図版１　Ａ地区調査地遠景（北から）
　　Ａ地区調査地遠景（南から）
巻頭写真図版２　Ａ地区調査区遠景（西から）
　　Ａ地区調査区近景（北から）

Ｂ地区

巻頭写真図版３　Ｂ地区調査区遠景（西上空から）
　　Ｂ地区本発掘調査区全景（北から）
巻頭写真図版４　Ｂ地区 SK01 全景（北から）
　　Ｂ地区 SK02 全景（北西から）
巻頭写真図版５　Ｂ地区 SK03 炭層堆積状況（東から）
　　Ｂ地区 SK03 炭層除去後の状態（東から）
巻頭写真図版６　Ｂ地区 SE01 須恵器鉢出土状況（北から）

Ｃ地区

巻頭写真図版７　Ｃ地区全景（南から）
　　Ｃ地区 SK04 遺物」出土状況（北西から）
巻頭写真図版８　Ｃ地区出土漆椀（W6）
　　Ｃ地区出土漆椀（W7）

Ｄ地区

巻頭写真図版９　Ｄ地区調査区遠景（南から）
　　Ｄ地区調査区遠景（西から）
巻頭写真図版 10　Ｄ地区調査区近景（南から）
　　Ｄ地区調査区近景（西から）

図版目次

図版１　神出バイパス用地内発掘調査地区位置図
図版２　確認調査トレンチと各本発掘調査地区位置図

Ａ地区の確認調査

図版３　トレンチ及びＢ地区本発掘調査区位置図
図版４　トレンチ平面図
図版５　トレンチ断面図①
図版６　トレンチ断面図②
図版７　２トレンチ・８トレンチ出土土器
図版８　３トレンチ出土土器・出土金属器
図版９　３トレンチ出土土器
図版 10　３トレンチ出土土器
図版 11　３トレンチ出土土器
図版 12　３トレンチ・６トレンチ出土土器

Ａ地区

図版 13　遺構配置図
図版 14　調査区壁断面図
図版 15　SB01・02 平面図・断面図
図版 16　P02・03・39 平面図・断面図
図版 17　SB03 平面図・断面図
図版 18　SB03 柱穴平面図・断面図①
図版 19　SB03 柱穴平面図・断面図②
図版 20　SB03 内 SK07 平面図・断面図
図版 21　SB04 平面図・断面図
図版 22　炭窯 01 平面図・断面図
図版 23　炭窯 02 平面図・断面図
図版 24　SK03 平面図・断面図
図版 25　SB03 出土土器
図版 26　SB03 出土土器
図版 27　SB03（SD07・SD03）・SB04・ピット出土土器
図版 28　ピット・炭窯 01 出土土器
図版 29　炭窯 01・炭窯 02 出土土器
図版 30　炭窯 02 出土土器
図版 31　炭窯 02 出土土器
図版 32　炭窯 02・SK02・SK03 出土土器
図版 33　SK03 出土土器
図版 34　包含層出土土器・出土石器・出土金属器

Ｂ地区

図版 35　調査区位置図
図版 36　調査区平面図
図版 37　調査区西側壁断面図
図版 38　SK01 平面図・断面図
図版 39　SK02・SK03 平面図・断面図

図版 40　SE01 平面図・断面見通し図
図版 41　SD01・SD02 平面図・断面図
図版 42　ピット群平面図
図版 43　SK01・SK02・包含層出土土器
図版 44　SE01 出土土器
図版 45　SE01 出土土器
図版 46　SE01 出土土器
図版 47　SE01 出土土器
図版 48　SE01 出土土器
図版 49　SD02 出土土器
図版 50　SD02 出土土器
図版 51　SD02 出土土器
図版 52　SD02 出土土器
図版 53　SD02 出土土器
図版 54　SD02 出土土器
図版 55　SD02 出土土器
図版 56　SD02 出土土器
図版 57　SD02 出土土器
図版 58　SD02 出土土器
図版 59　SD02 出土土器
図版 60　SD01 出土土器
図版 61　包含層出土土器
図版 62　包含層出土土器
図版 63　包含層出土土器
図版 64　包含層出土土器
図版 65　包含層出土土器
図版 66　包含層出土土器

C地区

図版 67　調査区平面図
図版 68　調査区東壁断面図
図版 69　調査区南壁断面図
図版 70　灰原範囲畦断面図①
図版 71　灰原範囲畦断面図②
図版 72　SR01・SD01 平面図・断面図
図版 73　SK01 ～ 06・SD05 平面図・断面図
図版 74　SK04 平面図・断面図
図版 75　SK04 出土土器
図版 76　SK02・SK05 ～ SK07・SK09 ～ SK14・SD05 出土土器
図版 77　灰原出土土器
図版 78　灰原出土土器
図版 79　灰原出土土器
図版 80　灰原出土土器
図版 81　灰原出土土器
図版 82　灰原出土土器
図版 83　灰原出土土器
図版 84　灰原出土土器
図版 85　灰原出土土器
図版 86　灰原出土土器
図版 87　灰原出土土器
図版 88　SD01 出土土器
図版 89　SD01 出土土器
図版 90　SD01 出土土器
図版 91　SR01 出土土器
図版 92　SR01 出土土器
図版 93　SR01 出土土器
図版 94　SR01 出土土器
図版 95　SR01 出土土器
図版 96　SR01 出土土器
図版 97　SR01 出土土器
図版 98　SR01 出土土器
図版 99　SR01 出土土器
図版 100　SR01 出土土器
図版 101　SR01 出土土器
図版 102　SR01 出土土器
図版 103　SR01 出土土器
図版 104　SD02・包含層出土土器
図版 105　包含層出土土器
図版 106　出土木器・出土金属器

D地区

図版 107　南区平面図
図版 108　北区平面図
図版 109　南区調査区壁断面図
図版 110　北区調査区壁断面図
図版 111　P02・09・123・SK01 ～ 07・12・22 平面図・断面図
図版 112　SK09・16 平面図・断面図
図版 113　SK57・58・62 平面図・断面図

図版 114　SD05 平面図・断面図
図版 115　SD03 ～ 06・SD51・52・57・58 断面図
図版 116　SD59・60・62・68・70 断面図
図版 117　P02・P09・P40・SK01 ～ SK07・SK09 出土土器
図版 118　SK09 出土土器
図版 119　SK09 出土土器
図版 120　SK09 出土土器
図版 121　SK09・SK12・SK14 出土土器
図版 122　SK16 出土土器
図版 123　SK16・SK17・SK22・SK57 出土土器
図版 124　SK57 出土土器
図版 125　SK57 出土土器
図版 126　SK57 出土土器
図版 127　SK57・SK58・SK62・SD04 出土土器
図版 128　SD05 出土土器
図版 129　SD05 出土土器
図版 130　SD05 出土土器
図版 131　SD05・SD51 出土土器
図版 132　SD51・SD52 出土土器
図版 133　SD52・SD58・SD60・SD62 出土土器
図版 134　SD68・SD70 出土土器
図版 135　SD70・包含層出土土器
図版 136　包含層出土土器
図版 137　包含層出土土器・出土石器

写真図版目次

A 地区の確認調査

写真図版１　①１トレンチ全景（西から）
②２トレンチ全景（東から）
③３トレンチ全景（東から）
④３トレンチ西半部（東から）
⑤３トレンチ中央部土層断面（南から）
⑥４トレンチ全景（西から）
⑦４トレンチ中央部（南から）
⑧５トレンチ全景（南西から）
写真図版２　①５トレンチ東部柱穴群（東から）
②５トレンチ P01（東から）
③５トレンチ P03 鬼瓦出土状況（北から）
④６トレンチ全景（東から）
⑤７トレンチ北部（南から）
⑥８トレンチ全景（北西から）
⑦調査前全景（北西から）
⑧人力掘削状況（西から）
写真図版３　３トレンチ出土土器
写真図版４　３・６トレンチ出土土器
写真図版５　２・８トレンチ出土土器
２・６・８トレンチ出土土器
写真図版６　３トレンチ出土土器
３トレンチ出土土器
写真図版７　２・３トレンチ出土土器
３トレンチ出土土器
写真図版８　３トレンチ出土土器
３トレンチ出土土器
写真図版９　３トレンチ出土丸瓦（凸面）
３トレンチ出土丸瓦（凹面）
写真図版 10　３トレンチ出土平瓦（凹面）
３トレンチ出土平瓦（凸面）

A 地区

写真図版 11　調査区全景（上空から）
写真図版 12　調査区東壁（南西から）
調査区南壁（北東から）
調査区西壁（南東から）
写真図版 13　全景（南から）
全景（北から）
写真図版 14　SB01（南から）
SB01（東から）
写真図版 15　SB01（P02）検出状況（南西から）
SB01（P02）柱痕掘り抜き状況（北東から）
SB01（P02）断ち割り状況（東から）
SB01（P03）検出状況（南西から）
SB01（P03）柱痕掘り抜き状況（東から）
SB01（P03）断ち割り状況（東から）

SB01（P39）柱痕掘り抜き状況（東から）
SB01（P39）断ち割り状況（東から）
写真図版 16　SB02（南西から）
SB02（西から）
写真図版 17　SB03（南から）
SB03（北から）
写真図版 18　SB03（PB01）検出状況（東から）
SB03（PB02）柱材検出状況（北から）
SB03（PB05）遺物出土状況（東から）
SB03（PC01）断ち割り状況（東から）
SB03（PD02）断ち割り状況（東から）
SB03（PE02）断ち割り状況（東から）
写真図版 19　SB03（PE04）検出状況（南から）
SB03（PE04）掘り抜き状況（東から）
SB03（PE04）断ち割り状況（南から）
写真図版 20　SK03 遺物出土状況（北東から）
SK03 遺物出土状況（北から）
SB03 内 SK07 南北畦断面（東から）
SB03 内 SD03 東西畦断面（南から）
写真図版 21　SB04（南西から）
SB04（PA03）遺物出土状況（東から）
P11 遺物出土状況（南東から）
P31 遺物出土状況（東から）
写真図版 22　炭窯 01 東西畦断面（北から）
炭窯 01 南北畦断面（東から）
炭窯 01（東から）
写真図版 23　炭窯 02 東西畦断面（南から）
炭窯 02 南北畦断面（東から）
炭窯 02（東から）
写真図版 24　SB03 出土土器
写真図版 25　柱穴・炭窯 01 出土土器
写真図版 26　炭窯 02 出土土器
写真図版 27　炭窯 02・SK03・包含層出土土器
写真図版 28　SB03 出土土器
SB03 出土土器
写真図版 29　SB03・04 出土土器
炭窯 01・02 出土土器
写真図版 30　炭窯 01・02 出土土器
炭窯 02 出土土器
写真図版 31　炭窯 02 出土土器
炭窯 02 出土土器
写真図版 32　炭窯 02 出土土器
炭窯 02・SK03 出土土器
写真図版 33　SK03 出土土器
SK03 出土土器
写真図版 34　柱穴出土土器
柱穴・SK03 出土土器
写真図版 35　包含層出土土器
包含層出土土器
写真図版 36　SK03・包含層出土瓦
柱穴・SK03 出土瓦
写真図版 37　柱穴・SK03 出土瓦
炭窯 02 出土瓦
写真図版 38　出土石器
出土石器
出土金属器

B地区

写真図版 39　調査区遠景（西上空から）
調査区遠景（南上空から）
写真図版 40　調査区遠景（南上空から）
調査区全景（西上空から）
写真図版 41　調査区全景（南から）
調査区全景（北から）
写真図版 42　北側地区南東部土層堆積状況（北東から）
北側地区中央部土層堆積状況（東から）
写真図版 43　北側地区中央部土層堆積状況（東から）
北側地区中央部西側壁土層堆積状況（東から）
写真図版 44　南側調査区全景（西から）
南側調査区 SK01・02（南から）
写真図版 45　SK01 完掘状況（北から）
SK02 完掘状況（南から）
写真図版 46　① SK01 遺物出土状況（北東から）
② SK01 上層埋土土層断面（東から）
③ SK01 埋土土層断面（北から）
④ SK02 埋土土層断面（南東から）
北側調査区北部の溝（東から）

写真図版 47　SE01 須恵器鉢出土状況（北から）
SE01 完掘状況（北から）
写真図版 48　① SE01 遺物出土状況（南東から）
② SE01 遺物出土状況（北西から）
③ SE01 遺物出土状況（南から）
④ SD02 南岸補修部土層断面（東から）
SD02 東部北岸付近須恵器鉢出土状況（南から）
写真図版 49　① SK03 上層埋土土層断面（東から）
② SK03 下層埋土土層断面（東から）
③ SD01 埋土土層断面（東から）
④ SD01 埋土土層断面（東から）
⑤機械掘削状況
⑥人力掘削状況
⑦ SE01 遺物取上げ状況
⑧遺構実測状況
写真図版 50　SK02・土器集中部・SE01 出土土器
写真図版 51　SE01 出土土器
写真図版 52　SE01 出土土器
写真図版 53　SD02 出土土器
写真図版 54　SD02 出土土器
写真図版 55　SD02 出土土器
写真図版 56　SD02 出土土器・瓦・金属器
写真図版 57　SK01・SK02・SD01 出土土器
SK01 出土土器
写真図版 58　SE01 出土土器
SD02 出土土器
写真図版 59　SD02 出土土器
SD02 出土土器
写真図版 60　SD02 出土土器
SD01 出土土器
写真図版 61　包含層出土土器
包含層出土土器
写真図版 62　SD02 出土軒丸瓦・鬼瓦
包含層・Ａ地区３トレンチ出土軒丸瓦・軒平瓦
写真図版 63　SD02・包含層出土軒丸瓦・軒平瓦（凸面）
SD02・包含層出土軒丸瓦・軒平瓦（凹面）
写真図版 64　SD02・包含層出土丸瓦（凸面）
SD02・包含層出土丸瓦（凹面）
写真図版 65　SE01･SD01･包含層出土丸瓦（凸面）
SE01･SD01･包含層出土丸瓦（凹面）
写真図版 66　SD02 出土平瓦（凹面）
SD02 出土平瓦（凸面）
写真図版 67　SD02 出土平瓦（凹面）
SD02 出土平瓦（凸面）
写真図版 68　SD02 出土平瓦（凹面）
SD02 出土平瓦（凸面）
写真図版 69　包含層出土丸瓦（凸面）
包含層出土丸瓦（凹面）
写真図版 70　包含層出土丸瓦（凸面）
包含層出土丸瓦（凹面）
写真図版 71　包含層出土平瓦（凹面）
包含層出土平瓦（凸面）
写真図版 72　包含層出土平瓦（凹面）
包含層出土平瓦（凸面）
写真図版 73　包含層出土平瓦（凹面）
包含層出土平瓦（凸面）
写真図版 74　包含層出土平瓦（凹面）
包含層出土平瓦（凸面）
写真図版 75　包含層出土平瓦（凹面）
包含層出土平瓦（凸面）

Ｃ地区

写真図版 76　調査区遠景（南西から）
調査区遠景（東から）
写真図版 77　調査区全景（南西から）
Ｃ地区･Ｄ地区･鴨谷地区を望む（南東から）
写真図版 78　調査区全景（東から）
調査区全景（上空から）
写真図版 79　灰原検出状況（東北から）
灰原検出状況（東南から）
灰原遺物検出状況（東から）
写真図版 80　灰原全景及び遺物検出状況（西から）

灰原遺物検出状況（南西から）
灰原全景（西から）
写真図版 81　灰原下遺構検出状況（東から）
灰原下遺構検出状況（東から）
灰原下遺構検出状況（北から）
写真図版 82　土坑群検出作業状況
土坑群（南から）
SK01（南から）
写真図版 83　SK03 遺物検出状況（南から）
SK03（南から）
SK06（南から）
写真図版 84　SK04（西から）
SK04（南から）
SK04 遺物出土状況（北西から）
写真図版 85　SK05（南から）
SK05 土層断面（西から）
SD05（西から）
写真図版 86　灰原及び SR01（北西から）
SR01 上面 SD01（北から）
SD01（北西から）
写真図版 87　① SD01 杭列（北から）
② SD01 杭列（東から）
③杭列断ち割り（北から）
④杭列断ち割り（北から）
⑤ SD01 西肩土器出土状況（北東から）
写真図版 88　① SR01 下層の掘削（西から）
② SR01 下層の遺物出土状況（東から）
③ SR01 下層の遺物出土状況（北から）
④軒丸瓦出土状況
⑤軒平瓦出土状況
写真図版 89　SK04 出土土器
写真図版 90　SK02・04・06・灰原出土土器
写真図版 91　灰原出土土器
写真図版 92　灰原出土土器
写真図版 93　灰原出土土器
写真図版 94　灰原出土土器
写真図版 95　灰原出土土器
写真図版 96　灰原・SD01 出土土器
写真図版 97　SD01・SR01 出土土器
写真図版 98　SR01 出土土器
写真図版 99　SR01 出土土器
写真図版 100　SR01 出土土器
写真図版 101　SR01 出土土器
写真図版 102　SR01 出土土器
写真図版 103　SR01・包含層出土土器
写真図版 104　包含層出土土器・灰原出土軒丸瓦・平瓦
写真図版 105　SD01 出土軒丸瓦・軒平瓦
写真図版 106　SD01 出土丸瓦・平瓦
写真図版 107　SR01 出土軒丸瓦・軒平瓦
写真図版 108　SR01 出土軒平瓦
写真図版 109　SR01 出土軒平瓦
写真図版 110　SR01 出土軒平瓦・丸瓦
写真図版 111　SR01 出土平瓦
写真図版 112　SR01 出土平瓦
写真図版 113　SR01 出土平瓦
写真図版 114　SR01 出土平瓦
写真図版 115　包含層出土軒丸瓦・軒平瓦
写真図版 116　包含層出土軒平瓦
SK04 出土土器
SK04 出土土器
写真図版 117　SK04・包含層出土土器
SK02・05・07・13 出土土器
写真図版 118　SK09・10 出土土器
SK14 出土土器
写真図版 119　SK11・12 出土土器
SK11・12 出土土器
写真図版 120　SK11・12 出土土器
SK11・12 出土土器
写真図版 121　灰原出土土器
灰原出土土器
写真図版 122　灰原出土土器
灰原出土土器
写真図版 123　灰原出土土器
灰原出土土器
写真図版 124　灰原出土土器
灰原出土土器

写真図版 125　灰原・包含層出土土器
SE01・SK04・灰原・包含層出土土器
写真図版 126　灰原出土土器
灰原出土土器
写真図版 127　灰原出土土器
灰原出土土器
写真図版 128　灰原出土土器
灰原出土土器
写真図版 129　灰原出土土器
灰原出土土器
写真図版 130　灰原出土土器
灰原出土土器
写真図版 131　SK04・灰原出土土器
灰原・SR01・包含層出土土器
写真図版 132　灰原出土土器
灰原・SR01 出土土器
写真図版 133　SD01・SR01 出土土器
SD01 出土土器
写真図版 134　SD01・SR01 出土土器
SD01 出土土器
写真図版 135　SR01 出土土器
SR01 出土土器
写真図版 136　SD02・05 出土土器
SD02・05 出土土器
写真図版 137　灰原・包含層出土土器
包含層出土土器
写真図版 138　SR01・包含層出土土器
写真図版 139　SE01・灰原・包含層出土軒丸瓦
灰原出土丸瓦
写真図版 140　灰原出土丸瓦（凸面）
灰原出土丸瓦（凹面）
写真図版 141　灰原出土平瓦（凹面）
灰原出土平瓦（凸面）
写真図版 142　SD01・包含層出土丸瓦（凸面）
SD01・包含層出土丸瓦（凹面）
写真図版 143　SD01・灰原・SR01 出土丸瓦（凸面）
SD01・灰原・SR01 出土丸瓦（凹面）
写真図版 144　SR01 出土丸瓦（凸面）
SR01 出土丸瓦（凹面）
写真図版 145　SD01・SR01 出土丸瓦
SR01 出土平瓦
写真図版 146　SR01 出土平瓦（凹面）
SR01 出土平瓦（凸面）
写真図版 147　出土木器
写真図版 148　出土木器
出土金属器

D地区

写真図版 149　南区全景（南から）①
南区全景（南から）②
写真図版 150　南区全景（北から）
南区 SD04 周辺（北から）
写真図版 151　北区全景（南から）
北区全景（北から）
写真図版 152　北区全景（西から）①
北区全景（西から）②
写真図版 153　SK01 畦断面（西から）
SK01 完掘状況（南から）
写真図版 154　SK09 検出状況（北から）
SK09 遺物出土状況（西から）
SK09 完掘状況（東から）
写真図版 155　SK16 畦断面（北から）
SK16 遺物出土状況（北から）
SK57 遺物出土状況（西から）
写真図版 156　SK62 検出状況（西から）
SK62 検出状況（上から）
SK62 完掘状況（西から）
写真図版 157　SD05 遺物出土状況（西から）
SD57 畦（B-B’）断面（東から）
P123 完掘状況（東から）
写真図版 158　P02・09・40・SK01・06・09 出土土器
写真図版 159　SK09 出土土器
写真図版 160　SK09 出土土器
写真図版 161　SK09 出土土器
写真図版 162　SK09・12・14・16 出土土器
写真図版 163　SK16 出土土器
写真図版 164　SK16 出土土器

写真図版 165　SK57 出土土器
写真図版 166　SK62・SD04・05 出土土器
写真図版 167　SD05 出土土器
写真図版 168　SD05 出土土器
写真図版 169　SD51・52・62 出土土器
写真図版 170　SD62・68・70 出土土器
写真図版 171　SD70 出土土器
写真図版 172　SK01 ～ 05 出土土器
SK06・07・17・22 出土土器
写真図版 173　SK09 出土土器
SK09 出土土器
写真図版 174　SK09 出土土器
SK57 出土土器
写真図版 175　SK57 出土土器
SK57 出土土器
写真図版 176　SK58 出土土器
SK59・62 出土土器
写真図版 177　SD04・05 出土土器
SD05 出土土器
写真図版 178　SD05 出土土器
SD05 出土土器
写真図版 179　SD05 出土土器
SD51 出土土器
写真図版 180　SD51 出土土器
SD52 出土土器
写真図版 181　SD58 出土土器
SD60・62 出土土器
写真図版 182　SD68 出土土器
SD70 出土土器
写真図版 183　SK09・SD58 出土鬼瓦・
SK16・SD05 出土軒丸瓦
写真図版 184　SK57 出土軒平瓦
写真図版 185　SK57 出土軒平瓦・
SK09・57 出土平瓦
写真図版 186　SK57・SD05・52 出土平瓦
写真図版 187　包含層出土軒丸瓦
SD62・包含層出土軒平瓦
写真図版 188　SK57 出土丸瓦（凸面）
SK57 出土丸瓦（凹面）
写真図版 189　SD05 出土平瓦（凹面）
SD05 出土平瓦（凸面）
写真図版 190　SD51 出土丸瓦（凸面）
SD51 出土丸瓦（凹面）
写真図版 191　包含層出土丸瓦（凸面）
包含層出土丸瓦（凹面）
写真図版 192　出土石器・木器・銅銭・炭化物（籾）

第１章　調査の経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

神出古窯跡群は、雌岡山を中心に分布し、数基から10数基が単位となる支群によって構成される。操業時期は、平安時代後期から鎌倉時代にかけてで、製品である瓦、須恵器は、兵庫県域を越えた広い範囲に流通していることによっても著名である。また、神出古窯跡群では、総数100基を超える窯跡以外に、それに伴う集落跡や、粘土採掘坑が発見されたことによって、瓦、須恵器生産の過程の一端が明らかとなっている。

現在の雌岡山西南麓一帯は、近世以降に開発された新田地帯となっているが、窯跡とそれに伴う遺構の存在が確認され、南北1.5㎞、東西2.0㎞の広大な範囲が、周知の埋蔵文化財包蔵地となっている。

国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所では、建設省時代より、一般国道175号（神出バイパス）の建設事業を進めており、現在も工事が継続している。

本報告書に係る調査地区については、事業地内の分布調査結果に基づき、平成４年度から平成９年度まで実施した確認調査の結果、Ａ地区からＤ地区の合計４地区における本発掘調査が必要となったため、各地区について、建設省近畿地方整備局兵庫国道事務所長からの依頼に基づき本発掘調査を行った。

第２節　調査の経過

１．確認調査

①Ａ地区の確認調査（図版２～６　写真図版１～１０）

平成４年度に、事業対象地の内の延長約780ｍの区間について、20ｍ間隔で２ｍ×２ｍのグリッドによる確認調査を実施した（遺跡調査番号：920328）。調査対象地の内、本発掘調査Ａ地区（以下Ａ地区）となる部分では、４箇所のグリッドにおいて柱穴等の遺構を確認する等、集落遺跡が存在する可能性が高かったため、翌平成５年度に二次確認調査を実施した（遺跡調査番号：930090）。その結果、設定した幅２ｍ×長さ28～30ｍの、合計８本のトレンチの内、５箇所のトレンチで遺構、遺物を検出したため、その範囲について要本発掘調査とした。

一次確認調査（Ａ地区確認調査①）、二次確認調査（Ａ地区確認調査②）の調査体制等は、以下の通りである。

Ａ地区の確認調査①（遺跡調査番号：920328）

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所

企画調整班　主　　査　水口　富夫

主　　任　平田　博幸

調査期間：平成４年12月７日～平成４年12月９日

調査面積：172㎡（内16㎡）

Ａ地区の確認調査②（遺跡調査番号：930090）

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所

調査第２班　研 修 員　藤原　清尚

主　　任　岸本　一宏

調査期間：平成５年６月19日～平成５年11月15日

調査面積：412㎡

②Ｂ地区の確認調査（図版２）

平成４年度に、事業対象地の内、延長約780 mの区間について、20 m間隔で２m×２mのグリッドによる確認調査を実施した（遺跡調査番号：920328）。調査対象地の内、本発掘調査Ｂ地区（以下Ｂ地区）となるところでは、４箇所のグリッドにおいて、窯業生産に伴う灰層が確認され、窯の存在する可能性が高いため、その部分を含む範囲について、要本発掘調査とした。

確認調査の調査体制等は、以下の通りである。

Ｂ地区の確認調査（遺跡調査番号：920328）

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所

企画調整班　主　　査　水口　富夫

主　　任　平田　博幸

調査期間：平成４年12月７日～平成４年12月９日

調査面積：172㎡（内24㎡）

③Ｃ地区の確認調査（図版２）

平成７年度に、主要県道神戸加古川姫路線南側と北側の延長区間約190 mについて、計10箇所のトレンチ（延長４～31.5 m、幅1.5～3.5 m）による確認調査を実施した（遺跡調査番号：950399）。調査対象地の内、本調査Ｃ地区（以下Ｃ地区）となるところでは、３箇所のトレンチにおいて、須恵器及び瓦等を含む遺物包含層、及び灰原と考えられる堆積を確認した。また、３箇所のトレンチ南側の一部について、未調査箇所が存在したため、平成９年度に二次確認調査を実施した（遺跡調査番号：970212）。その結果、設定した２×５mのトレンチ４箇所において、流路、及び遺物包含層を検出したため、一次確認調査を含めた範囲について、要本発掘調査とした。

一次確認調査（Ｃ地区確認調査①）、二次確認調査（Ｃ地区確認調査②）の調査体制等は、以下の通りである。

Ｃ地区の確認調査①（遺跡調査番号：950399）

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所

調査第１班　調 査 専 門 員　西口　和彦

臨時的任用職員　國本　綾子

調査期間：平成８年３月11日～平成８年３月12日

調査面積：259㎡（内43㎡）

Ｃ地区の確認調査②（遺跡調査番号：970212）

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所

調査第１班　主　査　別府　洋二

研修員　高木　芳史

調査期間：平成９年６月 24 日～平成９年６月 27 日

調査面積：230㎡（内 40㎡）

④Ｄ地区の確認調査（図版２）

調査対象地の内、本発掘調査Ｄ地区（以下Ｄ地区）としたところでは、以下の２箇年に渡る確認調査の結果から、要本発掘調査と判断した。

平成７年度に実施した確認調査（遺跡調査番号:950399）において調査した 10 箇所のトレンチの内、２箇所で、須恵器及び瓦片を含む遺物包含層が確認された。また、その北側で実施した平成９年度の確認調査（遺跡調査番号：970212）において、調査した計 21 箇所のトレンチの内、４箇所で、浅い流路状の遺構や、鬼瓦等を含む遺物包含層を検出し、集落跡及び工房跡等が存在する可能性が高くなったため、その範囲について要本発掘調査とした。

平成７年度の確認調査（Ｄ地区の確認調査①）、平成９年度の確認調査（Ｄ地区の確認調査②）の調査体制等は、以下の通りである。

Ｄ地区の確認調査①（遺跡調査番号：950399）

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所

調査第１班　調 査 専 門 員　西口　和彦

臨時的任用職員　國本　綾子

調査期間：平成８年３月 11 日～平成８年３月 12 日

調査面積：259㎡（内 24㎡）

Ｄ地区の確認調査②（遺跡調査番号：970212）

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所

調査第１班　主　査　別府　洋二

研修員　高木　芳史

調査期間：平成９年６月 24 日～平成９年６月 27 日

調査面積：230㎡（内 40㎡）

２．本発掘調査

①Ａ地区の調査（図版 13 ～ 34　写真図版 11 ～ 38）

平成４年度、及び平成５年度と、二度の確認調査の結果を受けて、平成７年６月 13 日付け　建近

兵調第19号の、建設省近畿地方整備局兵庫国道事務所長（当時）からの依頼により、本発掘調査を実施した。

調査区の設定については、確認調査の結果から、南側については、遺跡範囲の南端と考えられるトレンチの北側とし、北側については、Ｂ地区との間を通る農業用水路までとした。掘削は、現耕土と遺物包含層の間に、多量の遺物を含む近世以降の盛土及び整地土が存在していたため、重機による掘削が困難な部分があった。

調査の結果、ロクロピットを伴う掘立柱建物１棟、ロクロピットを伴わない掘立柱建物１棟、建物の周囲に雨落ち溝を伴う大型の掘立柱建物１棟、それに一部重複して大型の掘立柱建物１棟、炭窯跡とした多量の遺物が廃棄された遺構２基、その他、ピットや土坑、溝を検出した。また、平成７年10月11日には空中写真撮影を行った。

本地区の調査体制は以下の通りである。

Ａ地区の調査（遺跡調査番号：950203）

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所

調査第１班　主　　査　別府　洋二

技術職員　深江　英憲

臨時的任用職員　國本　綾子

調査期間：平成７年８月25日～平成７年10月30日

調査面積：1,525㎡

②Ｂ地区の調査（図版35～66　写真図版39～75）

平成４年度の確認調査の結果を受けて、平成５年５月24日付け　建近兵調第45号の、建設省近畿地方整備局兵庫国道事務所長（当時）からの依頼により、本発掘調査を実施した。

本地区は、確認調査の結果から、灰層が多量の土器と共に堆積していることから、窯跡の存在が考えられた。調査区の設定については、調査対象範囲の中央に東西方向の道路が存在するため、先に道路南側の調査を実施し、その部分の調査終了後に迂回路を設置して、現道路下についても調査を実施した。

調査の結果、調査区南側では、後世の削平で全容が不明ながら、窯跡の痕跡の可能性がある土坑２基、北側では、中世溝１条、近世溝１条、近世溝に破壊された井戸や多量の炭が混入する土坑の他、ピットを検出した。また、平成５年９月28日には、空中写真撮影を行った。

本地区の調査体制等は以下の通りである。

Ｂ地区の調査（遺跡調査番号：930090）

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所

調査第２班　研修員　藤原　清尚

主　任　岸本　一宏

調査期間：平成５年６月19日～平成５年11月15日

調査面積：1,181㎡

第１図　神出バイパスにおける発掘調査位置図

③Ｃ地区の調査（図版 67 ～ 106　写真図版 76 ～ 148）

平成８年度、及び平成９年度と、二度の確認調査の結果を受けて、平成９年 10 月２日付け　建近兵調第 84 －１号の、建設省近畿地方整備局兵庫国道事務所長（当時）からの依頼により、本発掘調査を実施した。

本調査区は、主要県道神戸加古川姫路線の北側沿線に位置し、確認調査の結果から、遺物包含層、及び灰原が堆積していることが判明していた。

本発掘調査における遺構面精査の段階では、調査区の一部で灰原の広がりが確認されたため、土層観察用の畦を残して、更に掘削を行った。

調査の結果、多量の遺物を含む灰原の堆積、流路１条とその埋没過程で流路に平行して掘り込まれた溝１条の他、ピット、土坑を検出した。また、平成 10 年２月 28 日には、空中写真測量を行った。

本地区の調査体制等は以下の通りである。

Ｃ地区の調査（遺跡調査番号：970409）

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所

調査第１班　主　査　別府　洋二

研修員　高木　芳史

調査期間：平成 10 年１月 14 日～平成 10 年３月 16 日

調査面積：1,070㎡

④Ｄ地区の調査（図版 107 ～ 137　写真図版 149 ～ 192）

平成７年度、及び平成９年度と、二度の確認調査の結果を受けて、平成 10 年６月５日付け　建近兵調第 62 号の、建設省近畿地方整備局兵庫国道事務所長（当時）からの依頼により、本発掘調査を実施した。

本調査区は、主要県道神戸加古川姫路線の北側に位置する。調査区中央やや北よりには、東西方向の農道が横断しているため、農道の北側の北区、南側の南区と、２地区に分割して調査を行った。また、確認調査の結果から、集落跡、及び工房跡等が存在する可能性が考えられた。

調査の結果、北区では、東西方向の溝４条、溝の北側の微行地上にピット群、土坑等を検出し、溝の南側において水田が広がる。また、南区では、溝５条、溝の北側で北区に続く水田や素掘りの井戸、水溜用と考えられる土坑を含めた土坑群を検出し、調査区の南側の微高地上にはピット群を検出した。また、平成 10 年 10 月 27 日には、空中写真測量を行った。

本地区の調査体制等は以下の通りである。

Ｄ地区の調査（遺跡調査番号：980128）

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当者：兵庫県教育委員会　埋蔵文化財調査事務所

調査第３班　主　　査　岡田　章一

技術職員　松岡　千寿

調査期間：平成 10 年８月 25 日～平成 10 年 12 月２日

調査面積：2,876㎡

第３節　整理作業の経過

１．平成 15 年度の出土品整理作業

平成 15 年度の出土品整理作業は、水洗い、ネーミング作業を行った。

２．平成 16 年度の出土品整理作業

平成 16 年度の出土品整理作業は、接合・補強作業を行った。

３．平成 17 年度の出土品整理作業

平成 17 年度の出土品整理作業は、実測・拓本作業を行った。また、外部委託により、出土木器の分析鑑定を行った。

４．平成 18 年度の出土品整理作業

平成 18 年度の出土品整理作業は、実測・拓本、復元作業を行った。また、出土金属器の保存処理を行った。

５．平成 19 年度の出土品整理作業

平成 19 年度の出土品整理作業は、遺物写真撮影、写真整理作業を行った。また、出土木器の保存処理を行った。

６．平成 20 年度の出土品整理作業

平成 20 年度の出土品整理作業は、図面補正、遺構図トレース作業を行った。

７．平成 21 年度の出土品整理作業

平成 21 年度の出土品整理作業は、遺物図トレース作業を行った。

８．平成 22 年度の出土品整理作業

平成 22 年度の出土品整理作業は、遺物図トレース作業を行った。

９．平成 23 年度の出土品整理作業

平成 23 年度の出土品整理作業は、レイアウト作業を行い、報告書印刷・刊行に至った。なお、上記出土品整理作業に係る体制については、作業期間が長期に渡っているが、敢えて最終年度の出土品整理作業に係る体制のみ以下の通り明記することとした。

・整理保存課	主　　査	篠宮　　正
	主　　査	山本　　誠
	主　　査	深江　英憲
・調査第１課	課長補佐	岸本　一宏
・調査第２課	課　　長	森内　秀造
	課長補佐	別府　洋二
	主　　査	池田　征弘
・学芸課	課長補佐	岡田　章一
・非常勤嘱託職員	森本　貴子・大西　美緒	

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　神出窯跡群の分布

神出窯跡群は、印南野台地の東西 1.5㎞、南北 1.0㎞の範囲に広く分布する。現在約 100 基超の窯跡の存在が確認され、その内、約 55 基の窯跡が調査されている。これらの窯跡の分布は、①北西より切れ込む開析谷とその支谷に沿って位置する老ノ口支群、②西より切れ込む開析谷とその支谷に沿って位置する田井支群、③南より切れ込む開析谷とその支谷に沿って位置する南支群、④雌岡山の麓の斜面に位置する雌岡山支群、以上の大きく４つに区分され、それぞれが各小群に分かれる。この内、発掘調査が行われたものを中心に、各小群について述べる。

老ノ口支群

老ノ口、宮ノ裏、万堡池、鴨谷、梟谷等の小支群がある。

老ノ口小支群（1）

西側に切れ込む支谷の北斜面に位置する。昭和 58 年度と昭和 59 年度に神戸市教育委員会によって調査され、６基の窯体と３基分の灰原が調査されている。12 世紀後半の須恵器、瓦が出土している。

宮ノ裏小支群（2）

南側へ切れ込む支谷の最奥部に位置する。昭和 56 年度に神戸市教育委員会によって調査され、４基の窯体（煙管窯１基を含む）とその灰原が調査されている。12 世紀後半の須恵器、瓦が出土している。

万堡池小支群（3）

老ノ口小支群や宮ノ裏小支群が所在する谷の北側に位置する別の谷の北斜面に位置する。昭和 62 年度に神戸市教育委員会によって調査され、１基の窯体（検出のみ）とその灰原が調査されている。11 世紀～ 12 世紀の須恵器、瓦が出土している。

鴨谷小支群（4）

宮ノ裏小支群と同じ支谷の約 300 ｍ北側に位置する。平成 14 年度に兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所によって調査され、３基の窯体とその灰原が調査されている。10 世紀初頭前後～ 11 世紀の須恵器、瓦が出土している。

梟谷小支群（5）

鴨谷小支群、宮ノ裏小支群の所在する支谷より北側に存在する支谷に位置する。平成 14 年度に兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所によって調査され、１基の窯体とその灰原が調査されている。11 世紀の須恵器、瓦が出土している。神出窯の中では瓦の専焼が行われた事が明白な唯一の窯とされている。

田井支群

堂の前、田井裏、釜ノ口、池の下等の小支群がある。

堂の前小支群（6）

主谷の北斜面に位置する。昭和 57 年度に神戸市教育委員会によって調査され、８基の窯体（煙管窯１基を含む）が検出された。12 世紀前半の須恵器、瓦が出土している。

田井裏小支群（7）

北側に複雑に切れ込む支谷の斜面に位置する。昭和 57 年度に神戸市教育委員会によって調査され、１基の窯体の他、１基分の灰原が検出された。12 世紀前半の須恵器、瓦が出土している。

釜ノ口小支群（8）

主谷の南斜面に位置する。昭和56年度に神戸市教育委員会によって調査され、７基の窯体が検出された。12世紀代の須恵器、瓦が出土している。また、平成７年度に兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所が調査を行い、窯背後の平坦地で、ロクロピットを持つ掘立柱建物跡等、工房跡と考えられる遺構群を検出している（本調査報告書のＡ地区に当たる）。

池の下小支群（9）

主谷の南斜面に位置する。昭和57年度に神戸市教育委員会によって調査され、２基の窯体が検出された。12世紀後半の須恵器、瓦が出土している。

第８支群（11）

支谷の南斜面に位置する。昭和62年度に神戸市教育委員会によって調査され、１基の窯体が検出された。

芝垣内小支群（12）

主谷の北斜面に位置する。平成９年度兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所によって調査され、１基分の灰原が検出された。10世紀の須恵器が出土している（本調査報告書のＣ地区に当たる）。

南支群

垣内、苅屋谷池等の小支群がある。

垣内小支群（13）

北側へ切れ込む支谷に位置する。平成６年度に兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所によって調査され、８基の窯体と灰原、ロクロピットを持つ掘立柱建物等、工房跡と考えられる遺構群が検出された。

苅屋谷池小支群（14）

主谷の西斜面に位置する。平成６年度の垣内小支群の調査中に、同調査担当者が溜池内において窯体１基とその灰原を発見した。発掘調査は行われていないが、平成８年度に兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所によって測量調査及び遺物採集が行われた。また、妙見山麓遺跡調査会によっても測量調査及び遺物採集が行われた。13世紀の須恵器が採集されている。

雌岡山支群

茶山、大池北、拍子ヶ池等の小支群がある。

茶山小支群（15）

雌岡山の南斜面に位置する。昭和52年度に神戸市教育委員会によって調査され、１基（煙管状窯）が検出された。12世紀前半の須恵器、土師器、瓦が出土している。

大池北小支群（16）

雌岡山の南斜面に位置する。昭和63年度に妙見山麓遺跡調査会によって調査され、３基の窯体と２基分の灰原が検出された。13世紀～14世紀の須恵器、瓦が出土した。

拍子ヶ池小支群（17）

雌岡山の南斜面に位置する。昭和63年度に妙見山麓遺跡調査会によって調査が行われ、２基分の灰原が検出された。採集された瓦の中に建久５年（1194）頃に重源によって建立された浄土寺の瓦が認められる。

また、その他、平成元年度に土師器を焼成したと考えられる窯状遺構１基（23）が検出されている。

以上の各窯跡支群の状況から、本調査報告のＡ地区～Ｄ地区は、田井支群内の窯跡関連遺跡である事が認められる。

第２図　神出窯跡群分布図

第１表　神出窯跡群分布一覧表

地図番号	支群名	小支群名	神戸市遺跡地図支群名	文　　献
1	老ノ口	老ノ口	第４支群	『昭和 58 年度神戸市埋蔵文化財年報』（1986）
				『昭和 59 年度神戸市埋蔵文化財年報』（1987）
2		宮ノ裏	第１支群	『昭和 56 年度神戸市埋蔵文化財年報』（1983）
3		万堡池	第 17 支群	『昭和 62 年度神戸市埋蔵文化財年報』（1990）
4		鴨谷支群		『兵庫県文化財調査報告　第 407 号　神出窯跡群Ⅲ－神出鴨谷１号窯～３号窯・神出梟谷１号窯－』（2011）
5		梟谷支群		『兵庫県文化財調査報告　第 407 号　神出窯跡群Ⅲ－神出鴨谷１号窯～３号窯・神出梟谷１号窯－』（2011）
6	田井	堂ノ前	第３支群	『昭和 57 年度神戸市埋蔵文化財年報』（1985）
7		田井裏	第５支群	『昭和 57 年度神戸市埋蔵文化財年報』（1985）
8		釜ノ口	第２支群	『昭和 56 年度神戸市埋蔵文化財年報』（1983）
9		池の下	第７支群	『昭和 57 年度神戸市埋蔵文化財年報』（1985）
10			第６支群	
11			第８支群	『昭和 62 年度神戸市埋蔵文化財年報』（1990）
12		芝垣内		『平成９年度年報』（1998）
13	南	垣内	第 19 支群	『兵庫県文化財調査報告　第 171 号　神出窯跡群』（1998）
14		苅屋谷池		『兵庫県文化財調査報告　第 171 号　神出窯跡群』（1998）
15	雌岡山	茶山	第 12 支群	『神戸市立博物館だより』　№ 16　（1986）
16		大池北	第 13 支群	妙見山麓遺跡調査会『神出遺跡現地説明会資料』（1988）
17		拍子ヶ池	第 14 支群	真野修「雌岡山周辺の古窯址」『神戸古代史』１－３（1974）
18			第９支群	
19			第 10 支群	
20			第 11 支群	
21			第 115 支群	
22			第 16 支群	
23				『平成元年度神戸市埋蔵文化財年報』（1992）
24		金棒池		

第３章　Ａ地区の調査

第１節　Ａ地区の確認調査

１．概要（図版３　写真図版１・２　巻頭写真図版３上）

平成５年度に確認調査をおこなった部分は、平成７年度実施の本調査ではＡ地区にあたる。

平成４年度に道路予定地内の中心を 20 ｍ間隔で打設してあるセンター杭付近の試掘調査を実施した結果、柱穴の存在が認められたため掘立柱建物跡などの存在が予想された。その結果により、建物跡等が存在する範囲等を確認するために再度の確認調査を実施した。なお、確認調査はＢ地区の本発掘調査と並行しておこなった。

確認調査対象地は本発掘調査Ｂ地区に接した南側にあたり、幅約 33 ｍ、延長約 112 ｍの範囲である。地目は水田４筆分と畑地１筆分であり、この部分については圃場整備がおこなわれておらず、東側水田がやや高く西側水田がやや低いことから、緩やかな傾斜地であると想定された。東側と西側の水田の比高差は約 20㎝で、標高は 107.25 ｍ～ 107.55 ｍにおさまる。

調査は、対象地の路線延長方向と直行する方向に幅２ｍ、長さ 28 ｍ～ 30 ｍのトレンチを 12 ｍ～ 18 ｍの間隔で６箇所設定して掘削した。トレンチの呼称は南から北へ順に１から６の番号を付した。掘削方法は表土からすべて人力によりおこない、平面および断面を精査して遺構の検出や地層の確認をおこなった。なお、７・８トレンチも含めた最終調査面積は 412㎡であった。

調査の結果、３～５トレンチにおいて柱穴や溝などの遺構と多量の遺物を検出したが、１・２トレンチおよび６トレンチでは遺構は確認できなかった。遺構面の標高は 106.9 ｍ～ 107.3 ｍにほぼおさまることが判明したが、遺構の広がりについては、６トレンチで遺構が検出されなかったのが削平を受けたためと判断できたものの、２トレンチでは遺構が確認できなかった理由が不明であった。そこで、遺構が広がる範囲を確認するために２トレンチ～３トレンチ間に新たに南北方向のトレンチを上下二段の水田に１箇所ずつ、計２箇所設定して調査をおこなった。その結果、７・８の両トレンチにおいて柱穴等の遺構を検出した。このことから、遺構がひろがる範囲は、南側は２トレンチのすぐ北側まで、北側は５トレンチと６トレンチの間で、水田の境界付近までの間にあたると判断できた。

なお、３トレンチ西半部の下段水田にあたる部分および８トレンチの床土下には、水田嵩上げのための盛土と思われる層がありそこに大量の須恵器を含んでいたが、２・４トレンチでは盛土層は認められたものの、土器量は少なかった。

確認調査の結果検出できた遺構によって、掘立柱建物跡が少なくとも３棟存在することが判明し、その時期については、出土した須恵器から平安時代末頃と判断できた。

出土した遺物には須恵器片口鉢が大半を占め、ほかに須恵器埦・皿と続き、瓦も出土した。ほかには須恵器甕、須恵器土錘、土師器羽釜類、土師器皿、青白磁合子などがある。３トレンチでの出土量が最も多く、全体の７割以上を占める。ほかには２・６・８トレンチで出土したものを図示した。

確認調査で検出した掘立柱建物跡については窯跡群と同時代であることから、神出窯と深い関係があるものと推定でき、その性格については須恵器作りを営むうえでの管理関係では管理のための執務や管理者の家屋または倉庫など、工人関係では工房や宿舎などが想定されるが、推測の域を出ないものであることから、これらの建物群の全容が明らかにされれば解明できる可能性があろう。

２．遺構　（図版２～６　写真図版１・２）

今回の確認調査で検出した遺構等について、トレンチ別に内容を述べる。

１トレンチ　対象地南端に設定した東西方向のトレンチで、幅２ｍ、長さは 28 ｍである。調査の結果、遺構・遺物は出土しなかった。

２トレンチ　１トレンチの北側約 17 ｍの位置に設定した東西方向のトレンチで、幅２ｍ、長さは 29 ｍである。調査の結果、遺構は検出されなかったが、水田嵩上げ土から須恵器鉢等の土器が出土した。

３トレンチ　２トレンチの約 18 ｍ北側に設定した東西方向のトレンチで、調査対象地区のほぼ中心部にあたる。トレンチ幅は２ｍ、長さは 29 ｍである。

調査の結果、東端部を除いたほぼ全域で柱穴・溝を確認した。西側に存在してほぼ等間隔で一直線に並ぶ、直径約 50㎝の４基の柱穴は、すぐ南側に並行する溝を伴っており、掘立柱建物跡の南辺と雨落溝にあたると判断できた。この建物跡は本調査時の SB03 の一部である。また、柱間にあたる部分で一辺１ｍ強の方形に近い平面形を呈し、深さ 15㎝程度の土器溜まりを検出した。その位置から、この建物に伴うものと推定されよう。一方、中央東寄りに存在する直径約 30㎝でほぼ等間隔の一直線に並ぶ柱穴３基は、西半部の建物跡の柱穴よりも柱間隔が狭く、直径も小さいことから、別の建物跡と判断できた。この建物跡は本発掘調査時の SB04 である。なお、７トレンチで検出した柱列と直交することが判明し、３トレンチでは東側に柱穴が認められないことから、同一建物跡の東端にあたると判断できた。

遺物は遺構内や水田嵩上げ層から数多く出土した。また、遺物包含層出土遺物には瓦も認められたことから、建物が瓦葺であった可能性があるものの、量が少ないことから軒端に限られる可能性がある。

なお、遺構面の土層はオリーブ黄色・灰黄色の地山で、遺構埋土は灰黄色や明黄褐色であった。

４トレンチ　３トレンチの北側約 13 ｍに設定した東西方向のトレンチで、幅２ｍ、長さは 29 ｍである。

調査の結果、図示できる遺物は出土しなかったが、中央部のやや西寄りで幅 10 ～ 20㎝、深さ８㎝前後の細い溝を７条程度密集して検出した。この溝は南西－北東方向にのびており、重複も認められた。

５トレンチ　４トレンチの約 13 ｍ北側に設定した東西方向のトレンチで、幅２ｍ、長さは 29 ｍである。

調査の結果、トレンチの東部と中央西寄り部分で数個の柱穴や細い溝も検出した。これらの柱穴は列状や直角方向で等間隔に並んでいたことから掘立柱建物の一部と推定された。本発掘調査の結果、西側は SB01、東側は SB02 の一部分であった。また、西側の細い溝のすぐ東に存在していた柱穴（Ｐ 39）は、掘形に小礫を詰めて柱痕部分を囲んだかたちで検出され、ロクロピット状を呈していた。また、SB01 の南西隅にあたる柱穴の柱痕部分からは鬼瓦の破片が出土した。

６トレンチ　対象地北端に設定した東西方向のトレンチで、幅２ｍ、長さは 30 ｍである。調査の結果、遺構は削平により遺存していなかったが、少量の遺物が出土した。

７トレンチ　２～３トレンチ間の東半に設定した南北方向のトレンチで、幅２ｍ、長さは 16 ｍである。

調査の結果、トレンチの北部で柱穴列を検出した。この柱穴列は３トレンチ東側の建物跡（SB04）の柱穴列と直角方向にのびていることから、同一建物であると判断できた。したがって、その南北規模が３間以上であると推定した。また、柱穴が２基ずつ近接して存在していることから、建物の建て替えまたは補強がおこなわれたことが想定された。なお、図示できる遺物は出土しなかった。

８トレンチ　２～３トレンチ間の西半に設定した南北方向のトレンチで、幅２ｍ、長さは 16 ｍである。

調査の結果、トレンチ内の北寄り部分で土壙状落ち込みと２基の柱穴を検出した。これらの遺構からは遺物は出土しなかったが、水田嵩上げ層を中心に須恵器が出土した。

３．遺物　（図版７～12、写真図版３～10）

確認調査で出土した遺物を図示できたのは、２・３・６・８トレンチに限られる。以下、トレンチ別に出土遺物を述べるが、個別の法量については第４表に示したので、そちらにゆずることとする。

①２トレンチ出土遺物

図示したのは須恵器鉢５点と須恵器埦および皿各１点、土師器では大小の皿角店である。いずれも水田嵩上げ層から出土した。

須恵器鉢は直径 29㎝前後のもので、底部まで遺存して高さが判明しているものは AI01・AI04 に限られ、高さ 10㎝程度、底径 9.3㎝程度である。体部上半から口縁部にかけて若干外反する。口縁部は AI02・AI04・AI05 のように上下両方向の拡張がみられることからすれば、森田編年の神出Ⅱ期第２段階と思われるが、AI01 のような上方のみへの拡張はやや古い傾向、AI05 のような口縁部の上方への拡張が強まるものが神出Ⅲ期第１段階とすれば、AI04 の口縁部は神出Ⅱ期第２段階から神出Ⅲ期第１段階の過渡期のような特徴を示す。したがって、２トレンチ内の水田嵩上げ盛土層に含まれていた須恵器鉢は、森田編年の神出Ⅱ期第１段階の末頃から神出Ⅲ期第１段階までを含むこととなり、12 世紀後半～ 13 世紀中葉にあたると思われる。また、池田編年ではⅡ－１期の特徴を示している。

須恵器埦 AI08 は口縁部のみの破片であり、皿 AI09 の高台は若干突出するのみである。

土師器皿の大 AI06 は器表が磨滅している。AI07 の小皿底部は回転糸切で、口縁部は若干外反する。

②３トレンチ出土遺物

柱穴から出土した土器は AI17・AI18 の２点、SB03 の雨落溝から出土した遺物には AI19 ～ AI24 の土器と AIM01 の鉄釘、土器溜（SK03）から出土した土器は AI25 ～ AI35 の 11 を図示した。その他は遺物包含層が AI36 ～ AI60、水田嵩上げ盛土層から出土した土器は AI61 ～ AI70 に示した。また、瓦のうち、AI77 が土器溜から出土したもので、他はすべて包含層から出土している。

柱穴出土土器は須恵器鉢（AI17）と須恵器埦（AI18）で、鉢は柱穴№ SP04、埦は SP07 から出土したものであるが、現在ではその位置が不明となっている。AI17 は口縁端部が下方に大きく拡張しているものの、上方への拡張はわずかであることから、森田編年の神出Ⅱ期第２段階に編年されよう。AI18 は体部が扁平になってきていることから、器高も浅いものと思われるが、底部を欠失している。ともに 12 世紀末葉～ 13 世紀前半の時期が与えられよう。

雨落溝から出土した土器には須恵器甕（AI19）、須恵器埦（AI20 ～ AI22）、須恵器小皿（AI23・AI24）がある。AI19 の甕は口縁部が大きく外反して端部を丸くおさめることから、他の土器よりもやや古い傾向がある。AI20 の埦は形態的には森田氏の神出Ⅱ期第２段階、池田編年ではⅡ－２期に編年される可能性が高い。AI21 は器高が 3.7㎝しかなく、かなり浅い形態を示すが、成形・調整方法は他の埦と同じである。森田編年の老ノ口２号窯に例があることから、神出Ⅱ期第２段階に編年され、器種を小鉢とすれば池田編年のⅡ期の範疇でとらえることができよう。小皿は２点とも底部の高台をほとんど明確にしないことから、埦と同時期であろう。調整はロクロを使用したナデの後、内面中央部に一方向の仕上げナデを施しており、他の須恵器小皿と同じであり、底部外面が回転糸切り、口縁端部に重ね焼き痕が残るなど、成形・焼成も同一である。AIM01 の鉄製角釘は、全長 7.0㎝、頭部は曲げることを基本にしており、打ち延ばしはあまり認められない。最も太い部分での厚さ・幅は 5.5・5.0㎜で、先端は徐々に細くなって尖る。

土器溜（SK03）から出土した土器には、須恵器鉢（AI25・AI26）、須恵器埦（AI27 ～ AI33）と須恵器土錘（AI34）および蓋形の須恵器（AI35）がある。鉢の口縁部は主として上方に拡張してお

り、端面は垂直であることから、池田編年Ⅱ－１期、森田編年神出Ⅱ期にあたる。埦ではそのプロポーションが池田編年Ⅱ－１期からⅡ－２期の中間的形態を示していると判断される。したがって、土器溜出土土器は池田編年Ⅱ－１期の範疇に含まれる可能性が高いと判断しておきたい。そうすると、掘立柱建物跡（SB03）の雨落溝出土土器は池田編年Ⅱ－２期であることから、土器溜出土土器とは若干の時期差が生じる。しかし、その時期差はわずかに土器溜出土土器が古いことから、土器溜が掘立柱建物跡（SB03）存続時に機能していたもの、雨落溝出土土器が掘立柱建物跡（SB03）廃絶直後に堆積したものとして、土器溜（SK03）が掘立柱建物跡内に存在した施設と判断することを否定するものではないであろう。

なお、土器溜（SK03）から須恵質の管状土錘（AI34）片が１点と須恵質の蓋形土器（AI35）が出土している。AI35 は直径 5.7㎝で高さ 2.6㎝、つまみの長い笠形をした完形品である。

瓦は AI77 に示した１点が図示できた。丸瓦の破片で、凸面はタタキの後、凹面は布目痕をそれぞれナデ消している。

包含層出土土器は AI36 ～ AI60 に示した。須恵器鉢（AI36 ～ AI43）は森田編年Ⅱ期の特徴を示し、12 世紀後半～ 13 世紀前半の時期と思われる。底部に輪高台を貼り付けたもの（AI43）も認められる。

須恵器埦（AI46 ～ AI55）や大小の須恵器皿（AI44・AI45）も鉢と同時期であると思われる。

AI56 は青白磁の合子身の破片で、口径は 4.05㎝である。須恵器鉢などと同時期と思われる。

AI57 の鉄鍋形の鍋は須恵器鉢などと同時期とすれば、古い形態となる。

AI58 ～ AI60 の羽釜も須恵器鉢などと同時期の可能性がある。

包含層出土瓦には AI82 の巴文軒丸瓦のほか AI78 の丸瓦、AI79･AI80･AI83･AI84 の平瓦がある。

AI61 ～ AI76 は水田嵩上げ盛土出土土器で、AI61 ～ AI70 の須恵器鉢は、森田編年のⅡ期第１段階に近く、須恵器埦（AI71 ～ AI74）は森田編年のⅡ期第２段階に近い。池田編年では両者ともⅡ－１期におさまる。なお、AI75 は口縁端部も含め、特異な形態となっている。この層出土の平瓦は AI81 の１点に限られる。

③５トレンチ出土遺物

５トレンチの柱穴から出土した鬼瓦片は、図化に至らなかった。

④６トレンチ出土遺物

６トレンチでは耕土および地山直上から須恵器鉢（AI85 ～ AI87）や須恵器埦（AI88）、須恵器小皿（AI89）が出土しており、鉢は池田編年Ⅱ－１期からⅡ－２期、埦は神出Ⅱ期第２段階の可能性がある。

なお、AI85 は器壁が比較的薄く、底部内面には「＋」のかたちのヘラ記号が認められる。

⑤８トレンチ出土遺物

８トレンチでは、水田床土から AI11・AI15 の須恵器鉢、水田嵩上げ盛土層からは AI10・AI12 ～ AI14 の須恵器鉢、包含層から AI16 の須恵器埦が出土した。埦は底部を欠失するが、体部の形態から池田編年Ⅱ－１期の可能性が高い。水田嵩上げ層出土の AI13 はやや新しい傾向があり、森田編年神出Ⅲ期第１段階まで降る可能性があるものの、その他の水田嵩上げ層出土鉢は森田編年神出Ⅱ期第２段階におさまるものと思われる。

なお全体的には、時期的に水田嵩上げ盛土層出土土器は森田編年神出Ⅱ期第１段階に含まれるものが多く、時期的にも限定され、それ以外の出土土器が示す年代よりも短期でやや古い時期にまとまる傾向があることから、水田嵩上げ層として持ち込まれた層は、別の窯跡の灰原であった可能性が高い。

第２節　本発掘調査の概要

本調査地区は、神出丘陵一帯の谷地形に展開する東播系須恵器生産を代表する神出古窯跡群にあって、段丘上に位置する遺跡である。また、本調査区の北側の谷地形上には、神戸市教育委員会によって調査された７基の窯跡（釜ノ口支群）が知られており、本調査区との関連も考えられる。

本調査区は、調査区壁の断面状況から、現耕作面も含めて数度に亘る田畑耕作が繰り返し行われていたことが窺え、遺構検出面においても、旧耕地の段や南北方向に若干向きを異にする鋤溝跡等が明確に残る事から、近世以降の削平が相当行われた事を物語っている。また、床土を含めた現耕土下の盛土、整地土には、多量の遺物が混入している事から、整地段階において、近隣遺跡への何らかの影響があった可能性も考えられる。

以上のように本調査区は、遺構検出面において近世以降の削平をはじめ、盛土等の状況に見られるような後世の影響が色濃く窺えるものの、神出古窯跡群の操業時期に係る、当該時期の遺構についても、比較的良好な形で検出した。各遺構、及び遺物については、次項に記述する。

第３節　遺構

本調査区で検出した遺構は、掘立柱建物４棟（SB01 ～ 04）、炭窯跡とした多量の遺物が廃棄された遺構２基（炭窯 01・02）、SB01 内のロクロピット３基（P02・03・39）、ピット、土坑、溝を検出した。掘立柱建物に伴う以外の個別のピット、土坑、溝については、主に遺物を図化したものを中心に掲載する。

１．掘立柱建物

① SB01（図版 15　写真図版 14）

調査区北側に位置する。規模は、２間（約 4.3 m）×３間（約 7.0 m）を基本としているが、東側の梁間については、明確な柱穴の検出までには至らなかった。建物内部には、西側１箇所のみ柱を持ち、その柱穴の東側において、円礫詰めのロクロピット大小３基を検出した。また、本遺構からの遺物は図化に至らなかったが、ロクロピット（P03）から焼台（A145）が出土している。

② SB02（図版 15　写真図版 16）

調査区北西隅付近に位置する。規模は２間（約 4.8 m）×３間（約 6.9 m）であるが、東側の梁間が不明確で、桁行が調査区外に更に延びる可能性もある。建物内部には柱穴、及びその他の付帯施設は検出しなかった。また、本遺構からの遺物は図化に至らなかった。

③ SB03（図版 17 ～ 20　写真図版 17 ～ 20）

調査区中央に位置する。規模は、４間（約 9.0 m）×４間（約 10.0 m）を測るやや東西に長い正方形状を呈する総柱建物であり、周囲には雨落ち溝を巡らす。本建物を構成している柱穴跡内は、その断ち割り状況から、a：底場付近に柱材を残すもの（PB02）、b：柱痕の際に瓦等を詰めるもの（PE04）、c：柱痕の底場に（柱の沈下防止の為か）礎盤状に土器片を敷き詰めたもの（PC03）、d：柱痕内に土器等が混入するもの（PC01・PC02・PD02・PE02・PB03）が確認でき、建物創建時、及び廃絶時の状況を色濃く残している。

雨落ち溝（SD03）は、幅約 30 ～ 80㎝、深さ約 15㎝の浅い溝で、建物本体を囲う様にほぼ方形状に巡っている。溝の南東側の掘方は、不定形土坑（SK03）と交差しており、形状が若干不定形である。溝の北側は溝本体を中心に楕円形状に張り出す土坑（SK07）が付設している。SK07 は切り合い関

係が認められず、埋土もほぼ同一であることから、溝に伴うものであることは間違いない。遺構の位置が谷地形側に向いていることを考慮すると、戸口側に当たるとも考えられる。また、溝の南辺は、西側角に当たる部分から、溝が建物の西外へ向かって延びていることが確認されている。

建物の南東隅にある不定形土坑（SK03）は、雨落ち溝（SD03）の掘方を半ば踏襲する様に存在するが、建物本体の柱穴が土坑埋土を部分的に切り込んでいる事から、土坑の埋没過程の中で、本建物が時期的にもほぼ同時併行で存在したものと考えられる。

出土遺物では、建物本体の柱穴 PB02 から須恵器片口鉢（A05）、PB03 から土師器甕（A02）、PC01 から須恵器椀（A08）、平瓦（A19）、PC02 から須恵器鉢（A04）、須恵器（A11）、平瓦（A20）、須恵器椀（A09・A10）、棒状鉄製品（AM01）、PC03 から須恵器鉢（A07）、須恵器椀（A13）、PC04 から土師器杯（A14）、PD02 から土師器鍋（A01）、土師器小皿（A16）、須恵器鉢（A03）、須恵器椀（A12）、PD03 から青磁碗（A144）、PE01 から須恵器小皿（A17）、PE02 から須恵器片口鉢（A06）、PE04 から丸瓦（A21・A22）、平瓦（A23）、PE05 から須恵器椀（A15）、須恵器小皿（A18）が出土している。

雨落ち溝 SD03 からは、須恵器鉢（A32）、須恵器椀（A33）が出土している。

SD03 に伴う楕円形土坑（SK07）からは、須恵器鉢（A24）、須恵器片口鉢（A25・A26）、須恵器椀（A27）、土師器小皿（A28）、須恵器小皿（A29・A30・A31）が出土している。

④ SB04（図版 21　写真図版 21）

調査区中央部やや東側に位置し、SB03 の南東側とそれに付随する SK03 に重複する形で検出した。規模は、３間（約 6.6 m）×４間（約 8.2 m）を測る長方形状を呈する。基本的には総柱建物と判断されるが、柱穴の検出が困難な部分もあり、本質的に無かった可能性も考えられる。また、東側３間の柱穴には、１基ずつの柱穴が隣接しており、他に伴う柱穴が存在しないため、相互に共伴しているものと考えられる。その機能としては、建物の上部構造を補完するものとも考えられるが、不明である。

時期的には、SB03 と同様に、建物に伴う柱穴が SK03 の埋土を部分的に切り込んでいる事から、若干の時期差が見受けられるものの、大きく時期を異としないと考えられる。

出土遺物では、柱穴 PA03 から須恵器鉢（A36）、PB02 から須恵器鉢（A34･A35）が出土している。

２．ピット

その他、上記の掘立柱建物に伴わないピットの内、特に出土遺物を図化し、報告書に掲載したものについて、遺構配置図（図版 13）上で遺構名のみ明記している。また、遺構写真については、P11・P31 のみ写真図版 21 で掲載している。

出土遺物は、P11 から土師器小皿（A39）、須恵器鉢（A37・A38）、P24 から須恵器椀（A40）、P31 から須恵器椀（A41・A42）、P36 から須恵器鉢（A43・A44）、P40 から須恵器椀（A45）、P45 から須恵器椀（A46）、P47 から須恵器鉢（A47）、P51 から土師器羽釜（A48）、須恵器片口鉢（A49･A50）、須恵器椀（A51）が出土している。

３．ロクロピット

① P02（図版 16　写真図版 15）

SB01 内に位置し、P39 と南北方向に並列する。掘方の直径約 32㎝、柱痕と考えられる穴の直径約 17㎝、深さ約 34㎝を測り、平面形が円形状を呈する。柱痕と考えられる穴の周囲の埋土内には多量の円礫が詰められ、床面付近に粘土がブロック状に堆積しており、柱状部材を固定するための手法と考えられる。また、柱痕と考えられる穴の埋土には、円礫等が混入しており、柱状部材を引き

抜いた等の後、混入したものと考えられる。

出土遺物は、図化可能なものがなかった。

② P03（図版 16　写真図版 15）

SB01 内の南東隅付近に位置する。掘方の直径約 45㎝、柱痕と考えられる穴の直径約 19㎝、深さ約 32㎝を測り、平面形が円形状を呈する。柱痕と考えられる穴の周囲の埋土内には多量の円礫が詰められ、地山と同様の土がブロック状に堆積しており、柱状部材を固定するための手法と考えられる。また、柱痕と考えられる穴の埋土には、土器片及び円礫等が混入しており、柱状部材を引き抜いた等の後、混入したものと考えられる。

出土遺物は、焼台（A145）が出土している。

③ P39（図版 16　写真図版 15）

SB01 内に位置し、P02 と南北方向に並列する。掘方の直径約 34㎝、柱痕と考えられる穴の直径約 11㎝、深さ約 33㎝を測り、平面形が円形状を呈する。柱痕と考えられる穴の周囲の埋土内には多量の円礫が詰められ、床面付近に粘土がブロック状に堆積しており、柱状部材を固定するための手法と考えられる。また、柱痕と考えられる穴の埋土には、円礫等が混入しており、柱状部材を引き抜いた等の後、混入したものと考えられる。

出土遺物は、図化可能なものがなかった。

以上３基の遺構については、上部構造の復元が困難だが、柱状部材の固定のためと考えられる円礫の、人為的な埋設状況から、蹴り轆轤の設置に伴う遺構の可能性が高く、神出窯跡群内における調査でも同様の遺構が検出されていることから、ロクロピットとして分類した。

４．炭窯

①炭窯 01（図版 22　写真図版 22）

調査区中央部やや東側で SB03 の北東側に位置する。長軸約 2.5 m、短軸約 1.5 m を測る長方形状を呈し、長軸西側に煙出しと考えられる半円形の突出部を持つ炭窯土坑である。両長軸側面の壁の一部は、燃焼時に強く被熱した事が窺え、硬く赤褐色に変色している。土坑内は、多量の灰が混入した埋土が堆積している他、その上層には遺構検出面であるベース層と類似する土が、須恵器、及び土師器を含みながら堆積している。土層断面の状況からは、時期差を窺わせる堆積が認められない事から、炭窯を放棄する時に一括投棄したものと考えられる。

出土遺物は、土師器小皿（A52･A53）、土師器片口小皿（A54）、土師器椀（A55）、土師器甕（A56）、須恵器片口鉢（A57 ～ A60）、須恵器椀（A61 ～ A64）、須恵器甕（A65）、丸瓦（A66）、砥石（AS01）が出土している。

②炭窯 02（図版 23　写真図版 23）

調査区東北端で SB02 の北側に位置する。長軸約 2.5 m、短軸約 1.5 m を測る長方形状を呈するが、炭窯 01 の様な突出部は認められない。土坑内は、多量の須恵器、土師器が出土すうものの、焼けた窯壁や灰層の堆積が全く認められない事から、炭窯自体を改築する、若しくは別の遺構を築造する等、何らかの目的で炭窯を掘り直し、その後、新たに使用する事なく、須恵器、土師器を一括投棄したものと考えられる。

出土遺物は、土師器小皿（A67）、須恵器鉢（A68･A70･A71･A73･A78 ～ A80）、須恵器片口鉢（A69･A72・A74 ～ A77・A87 ～ A89）、須恵器椀（A81 ～ A86・A90 ～ A100）、須恵器小皿（A101）、須

恵器土錘（A102）、引掛け付き平瓦（A103・A107）、平瓦（A104 ～ A106）が出土している。

５．土坑

① SK02

SB04 の東側に位置し、楕円形状を呈する浅い土坑である。遺構の北側が確認トレンチによって失われているため全体の規模は不明であり、遺構配置図（図版 13）上で遺構名のみ明記している。

出土遺物は、須恵器片口鉢（A108）が出土している。

② SK03（図版 24　写真図版 20）

調査区中央に位置し、SB03 の南東隅で検出した。南北長約 3.2 m、東西長約 3.5 m、深さ約 15㎝を測る、不定台形状を呈する浅い土坑である。SB03 に伴う雨落ち溝（SD03）の掘方と同化した様に検出されたが、建物本体の柱穴が土坑埋土を部分的に切り込んでおり、遺構が埋没していく過程で、SB03 の築造が開始されたものと考えられ、時期的にやや後出しつつも、ほぼ同時併存したと考えられる。また、遺構の東側に存在する SB04 についても同様に、建物に伴う柱穴が埋土を部分的に切り込んでいる事から、若干の時期差が見受けられるものの、大きく時期を異としないと考えられる。

遺構内には多量の土器の集積が認められるが、確認調査のトレンチ（３Tr）の調査時に取り上げており、当該トレンチの出土遺物（AI17 ～ AI84・AI90）の殆ど当該遺構の出土遺物と考えられる。

出土遺物は、土師器甕（A109）、土師器羽釜（A110 ～ A112）、須恵器鉢（A113 ～ A115）、須恵器片口鉢（A116･A117）、須恵器椀（A118 ～ A120）、須恵器土錘（A121･A122）、引掛け付き瓦（A123）、丸瓦（A124）、平瓦（A125）が出土している。

６．小結

以上、遺構について述べた。当該地区で検出した遺構で特出すべきは、大小４棟の掘立柱建物である。小型の掘立柱建物 SB01・02 は、２間×３間の側柱建物であるが、この内、SB01 は、遺構内で（蹴り轆轤に伴う施設と考えられる）ロクロピット３基が検出されている。出土遺物での検証ができる程の遺物が出土していないが、ロクロピットが SB01 に伴うものであれば、須恵器製作を行う施設であったことが窺える。また、SB01 の西側では、内側に１本柱穴を伴っており、一部床張りであったとも考えられる。これに対して、ロクロピットを伴わない SB02 は、倉庫的な性格をもっていたのではないかと考えられる。

大型の掘立柱建物 SB03・04 は、それぞれ４間×４間、３間×４間の総柱建物である。特に、SB03 は建物の周囲に雨落ち溝が巡っており、排水等にも配慮したものである。ただし、規模の大きさに比して、柱穴がやや貧弱で、柱間も若干不揃いな点で、専門性の高い技術集団による建物とは、言い難いものである。従って、所謂、「屋敷」といったものではなく、大規模な屋内作業場としての位置づけが考えられる。それは、窯業生産の規模に呼応して、それに相応しい規模の空間をその都度設けていくといった非恒久的な建物が想定されるのである。この事は、SB04 との時期差があまり無い事からも窺え、最終的に SB03 に移行するのである。大型作業施設の操業時期は、建物に伴う柱穴（PD02）の柱痕内出土の土師器鍋（A01）から 13 世紀後半と考えられる。

また、次項の出土遺物において、（包含層等から）青・白磁等の輸入陶磁器が認められる。そのような輸入陶磁器の入手は、窯業生産、及び流通の拠点として一時期を担ったこの地域であればこそ、可能であったと考えられ、遺構外出土である事も考慮すると、窯業生産の工房跡的な施設であった当該地区に隣接して、工人を中心とする居住域が営まれていたと考えられる。

第４節　遺物

１．掘立柱建物

① SB03（図版 25・26・34　写真図版 24・28・29・35 ～ 38）

A01 は土師器鍋の上半部である。口縁部は、内側にくの字に屈曲し、受け口状を成す。

A02 は、土師器甕の口縁部である。短く開く、くの字状を呈する。

A04・A06・A07 は、須恵器鉢 B1 類である。A03・A05 は、須恵器鉢 B2 類である。

A12・A13 は、須恵器椀 A である。A08 ～ A11・A15 は、須恵器椀 B 類である。

A14 は、土師器の杯である。

A16 は、土師器小皿である。A17・A18 は、須恵器小皿 C 類である。

A21・22 は、丸瓦である。凹部に布目が残る。

A19・A20・A23 は、平瓦である。凹部に布目、凸部に無段叩きが残る。

A144 は、龍泉窯系青磁碗である。内面に劃花文を施す。

・(SB03 内 SK07)

A24 ～ A26 は、須恵器鉢 B1 類である。

A27 は、須恵器椀 B 類である。

A28 は、土師器小皿である。須恵器小皿 C 類に類似する。　A29 は、須恵器小皿 B 類である。

A30・A31 は、須恵器小皿 C 類である。

・(SB03 内 SD03)

A32 は、須恵器小鉢である。

A33 は、須恵器椀 B 類である。

④ SB04（図版 27　写真図版 29）

A36 ～ A35 は、須恵器鉢 B2 類である。A34・A36 は、口縁部のみである。

２．ピット

① P11（図版 27　写真図版 34）

A39 は、土師器小皿である。須恵器小皿 C 類に類似する。

A37 は、須恵器鉢 A1 である。A38 は、須恵器鉢 B3 類の口縁部である。

② P24（図版 27　写真図版 34）

A40 は、須恵器椀の口縁部である。

③ P31（図版 27　写真図版 25・34）

A41 は、須恵器椀 A1 類である。A42 は、須恵器椀 B 類である。

④ P36（図版 28　写真図版 34）

A43・A44 は、須恵器鉢 B2 類である。A43 は、口縁部のみである。

⑤ P40（図版 28　写真図版 25）

A45 は、須恵器椀 B 類である。

⑥ P45（図版 28　写真図版 34）

A46 は、須恵器椀 A2 類である。

⑦ P47（図版 28　写真図版 34）

A47 は、須恵器鉢 B2 類である。

⑧ P51（図版 28　写真図版 25・34）

A48 は、土師器羽釜である。下半部が欠損している。やや短い鍔部から端部にかけて内湾しながら立ち上がる口縁部を持つ。

A49・A50 は、須恵器鉢 B2 類である。

A51 は、須恵器椀 B 類である。

３．ロクロピット

① P03（写真図版 34）

A145 は、焼台である。

４．炭窯

①炭窯 01（図版 28・29　写真図版 25・29・30・37）

A52・A53 は、土師器小皿である。須恵器小皿 C 類に類似する。A54 は、土師器片口小皿である。形態は、須恵器小皿 C 類に類似する。

A55 は、土師器椀の底部である。

A56 は、土師器甕の上半部である。緩やかに屈曲し、端部にかけてやや外反する、くの字状口縁部を持つ。

A57 ～ A60 は、須恵器鉢 B2 類である。

A61 ～ A64 は、須恵器椀 A2 類である。

A65 は、須恵器甕 A2 類の口縁部である。

A66 は、丸瓦である。凹部に布目が残る。

AS01 は、大型の円礫だが、一面が良く磨かれており、砥石と考えられる。

②炭窯 02（図版 29 ～ 32　写真図版 26・27・29 ～ 32・37）

A67 は、土師器小皿である。須恵器小皿 C 類に類似する。

A68 は、須恵器鉢 B1 類である。A69・A70・A76 ～ A78・A87 ～ A89 は、須恵器鉢 B2 類である。A73 ～ A75 は、須恵器鉢 B3 類である。A71・A72・A79 は、須恵器鉢 B4 である。A80 は、鉢 D 類である。

A81 ～ A84・A86・A95 は、須恵器椀 B 類である。A85・A90 ～ A94・A96 ～ A100 は、須恵器椀 A2 類である。

A101 須恵器小皿 C 類である。

A102 は、須恵器管状土錘である。

A103 は、瓦の滑り止め用の鰭状突起である。平瓦の凸部に貼付したものが剥離したものと考えられる。

A104 ～ A107 は、平瓦である。A104・A105 は、凹部に布目、凸部に格子叩きが残り、A105 は、釘穴を有している。A106 は、凹部に布目が残り、凸部は叩き後縦方向ナデている。また、A107 は、狭端部に滑り止め用の突起を持つ。

５．土坑

① SK02（図版 32　写真図版 34）

A108 は、須恵器鉢 B2 類である。

② SK03（図版 32・33　写真図版 27・32・33・34・36・37）

A109 は、土師器甕の口縁部である。

A110 ～ A112 は、土師器羽釜である。何れも上半部、或いは口縁部のみである。やや短い鍔部から内湾しながら立ち上がる口縁部を持つ。

A113 ～ A115 は、須恵器鉢 B2 類である。A116 は、須恵器鉢 B4 類である。A117 は、須恵器鉢 B3 類である。

A118・A120 は、須恵器椀 B 類である。A119 は、須恵器椀 A2 類である。

A121・A122 は、須恵器管状土錘である。

A123 は瓦の滑り止め用突起である。

A124 は、丸瓦である。凹部に布目が残る。

A125 は、平瓦である。凹部に布目が残り、凸部は叩き後縦方向にナデている。

6．包含層　（図版 34　写真図版 27・34・35・36・38）

A126・A127 は、須恵器鉢 B2 類である。

A128 は、須恵器椀 A2 類である。　A129 は、須恵器椀 B 類である。

A130 ～ A132 は、須恵器小皿 B 類である。

A133 は、須恵器甕である。口縁部の形態は、須恵器 C 類に近いものである。

A134 ～ A136 は、龍泉窯系青磁碗である。内面に劃花文を施すが、A135（12 世紀後半）より A134 の方が、若干後出するようである。また、A136 は、外面に、剣頭も鎬も持たず、縦方向の線描きのみの退化した蓮弁文を施す。15 世紀後半と考えられる。

A137 は、同安窯系青磁皿である。見込み部分に雷光状の細い櫛描きと、ヘラ描きによる交叉するＳ字形文を施す。12 世紀後半と考えられる

A138・A139 は、龍泉窯系青磁輪花皿である。A138 の口縁部内面には、横方向の櫛描き文が施される。15 世紀後半と考えられる。

A140 は、白磁碗の底部である。高台は、削り出しで、内面に釉を施す。11 世紀後半以降と考えられる。

A141 は、軒丸瓦である。瓦当文様は、残りが悪く、不明瞭だが、単弁の蓮華文の内側、及び外側に圏線が巡っている。

A142・A143 は、平瓦である。凹部に布目が残り、凸部は叩き後縦方向にナデている。

AS02 は、用途不明の石製品である。比較的大きい円礫の一部と考えられ、激しく被熱している。

AM02 は、用途不明の棒状鉄製品である。

第４章　Ｂ地区の調査

本章については、当初発掘調査担当者が執筆する予定であったが、原稿締切日を担当者に初めて伝えたのが２日前であったため、発掘調査中で多忙な担当者には執筆が不可能となった。したがって、担当者による調査時の所見やその後の検討を反映することができず、遺構に対する事実・認識および数値について担当者の検討を無視して執筆するかたちとなり、誤って報告する部分も多いと思われる。

執筆予定者に深く詫びるとともに、今後このようなことが起こらないようにしてゆく所存である。

第１節　概要

本調査地区は、Ａ地区の約 30 ｍ北側に位置する。Ａ地区の標高が 106.8 ｍ～ 107.1 ｍに対して、Ｂ地区は 103.4 ｍ～ 106.9 ｍと、北側の谷地形に向かって傾斜している。

調査区は、東西方向に横断する農道下の調査のため、農道の南側の調査を先行実施し、迂回路を設置後、道路下以北を調査する二段階の調査となった。

調査では、農道北側において窯跡が存在することが、想定されていた。しかし、非常に多量の土器を包含する黒褐色土層が認められたものの、直下の地山（黄褐色土層）から、窯跡の痕跡は検出できなかった。また、農道南側では、破壊された窯跡の痕跡を連想させる土坑２基（SK01・SK02）を検出した。この土坑２基は、やや窪んだ窯形の遺構内に、破壊された窯壁片が集中して存在していたが、土坑床部分に被熱痕跡が認められない事から、近隣に存在していた窯跡を破壊し、その破片を集中的に廃棄した事が想定される。

道路北側で灰層より出土した多量の土器は、その大半が片口鉢で、若干量の小皿・瓦等である。この灰層は、土器の出土状況から、窯跡に伴う灰原の二次的堆積層と考えられ、灰層から窯壁片や焼け歪んだ土器が出土したことや、調査区東部において、この灰層が埋め立て層となっていたことからも看取される。

遺構は、主として調査区北部で検出した。それらは、窯跡と同時期と考えられる幅約１ｍの溝１条と、幅約４ｍの近世の溝１条、及びその近世溝により半壊した井戸（SE01）、（多量の炭が入った）土坑（SK03）の他、柱穴状のピット数基である。井戸には、神出古窯跡で焼成された片口鉢が 20 個体以上充満していた。また、土坑内部下半には、炭・灰が充満しており、床部は部分的に被熱により赤変していた事から、炭窯の可能性が考えられる。

以下、各遺構、及び各遺物について記述する。

第２節　遺構

本調査区で検出した遺構は、上記の通り、土坑３基、井戸１基、溝２条、ピット数基である。各遺構の詳細は以下の通りである。

１．土坑

① SK01（図版 36・38　写真図版 44 ～ 46）

調査区南半部東側に位置する。検出長約 4.3 ｍ、最大幅約 2.7 ｍ、深さ約 20㎝を測り、平面形が細長い不定釣鐘形を呈する。土坑内は、炭、焼土が混入する粗粒砂、及びシルト混極粗粒砂が堆積し、多量に廃棄された窯壁、及び土器を検出した。

出土遺物は、須恵器片口鉢（B01）、須恵器鉢（B02・B03・B06・B08）、須恵器椀（B05・B09・B10）、須恵器小皿（B04）、その他窯壁（B07）が出土している。

② SK02（図版 36・39　写真図版 44 ～ 46）

調査区南半部中央よりに位置する。検出長約 2.2 m、最大幅約 2.5 m、深さ約 15 ～ 20㎝を測り、平面形が不定の釣鐘形を呈するものと考えられる。土坑内は、炭、焼土を含む粗粒砂が堆積し、多量廃棄された窯壁を検出した。

出土遺物は、須恵器小皿（B12）が出土している。

③ SK03（図版 36・39　写真図版 49）

調査区北西隅に位置し、SD02 に切られる。検出東西長約 1.6 m、検出南北長約 1.5 m、深さ約 30㎝を測り、検出状況からは平面形が方形を呈するものと考えられる。土坑内は、多量の炭、灰、焼土が混入する極細粒砂が堆積し、床部は一部被熱により赤変している。

出土遺物は、図化に至ったものが無かった。

２．井戸

① SE01（図版 36・40　写真図版 47 ～ 49）

調査区北西隅に位置し、SK03 の東側にあって、同様に SD02 に切られる。遺構の北側の掘方は撹乱を受けているが、直径約 1.8 m を測る不定円形を呈するものと考えられる。深さは、約 1 m を測り、遺構内には、多量の須恵器片口鉢が一括廃棄された状況で検出した。

出土遺物は、須恵器片口鉢（B17 ～ B29・B37・B39・B41 ～ B45）、須恵器鉢（B30 ～ B36・B38・B40）、平瓦（B46）が出土している。

３．溝

① SD01（図版 36・41　写真図版 49）

調査区北半部に位置し、北側の SD02 に隣接する。検出長は調査区幅の約 32 m、幅約 1 m、深さ約 50㎝を測り、僅かに蛇行しながら東西に伸びる。遺構内は、土器、マンガンを含むシルト、及び極細粒砂が堆積する。土器の出土状況等から、神出古窯跡操業時期の溝と考えられる。

出土遺物は、須恵器鉢（B135 ～ B139）、須恵器椀（B140）、丸瓦（B141）、平瓦（B142 ～ B144）が出土している。

② SD02（図版 36・41　写真図版 46）

調査区北端に位置し、遺構の南西隅で SK03、及び SE01 を切る。検出長は調査区幅の約 32 m、幅約 4 m、深さ約 70㎝を測り、東西に伸びる。土器の出土状況から、時期的には近世の範疇に入る溝と考えられる。

出土遺物は、土師器小皿（B94）、須恵器片口鉢（B52・B58・B60・B64 ～ B67・B76 ～ B82・B84・B85・B87・B88・B96・B99 ～ B103）、須恵器鉢（B47 ～ B51・B53 ～ B57・B59・B61 ～ B63・B72・B73・B83・B86・B97・B98）、須恵器椀（B74・B89 ～ B93）、須恵器甕（B104・B105）、鬼瓦（B71）、軒丸瓦（B116 ～ B118）、丸瓦（B68・B111 ～ B115）、平瓦（B69・B70・B119 ～ B134）、須恵質土錘（B95）、陶器擂鉢（B106・B107）、陶器植木鉢（B110）、染付磁器碗（B108・B109）が出土している。

４．ピット（図版 36・42）

調査区北半部中央よりやや西側に集中するピット群である。不揃いな検出状況で、建物等が復元出来る状況ではない。

出土遺物は、図化に至ったものが無かった。

５．小結

以上、当該地区の遺構について記述した。調査では、事前に想定された窯跡そのものについては、後世の削平等により遺存していなかったものの、多量の窯壁片が集中廃棄された土坑や、灰層の二次的堆積等、その痕跡を検出した。また、検出した井戸、溝、炭窯跡の可能性が考えられる土坑等は、窯跡周辺施設を想定する上で重要な遺構である。

第３節　遺物

出土遺物については、各遺構別、及び包含層等でまとめる。また、個々の法量等については、文末の遺物観察表（第４表　出土遺物一覧表）に掲載している。

１．土坑

① SK01（図版 43　写真図版 57）

B01 は、須恵器片口鉢である。

B02・B03・B06・B08 は、須恵器鉢である。この内、B02・B08 は、口縁部のみ、B03・B06 は、底部のみである。

B05・B09・B10 は、須恵器椀である。この内、B09・B10 は、底部が欠損している。

B04 は、須恵器小皿である。

B07 は、窯壁片である。

② SK02（図版 43　写真図版 50）

B12 は、須恵器小皿である。

２．井戸

① SE01（図版 44 ～ 48　写真図版 50 ～ 52・58）

B17 ～ B29・B37・B39・B41 ～ B45 は、須恵器片口鉢である。

B30 ～ B36・B38・B40 は、須恵器鉢である。

B46 は、平瓦である。

３．溝

① SD01（図版 36・41　写真図版 49）

B135 ～ B139 は、須恵器鉢である。この内、B135･B136 は、底部が欠損し、B138 は、口縁部のみ、B139 は、底部のみである。

B140 は、須恵器椀である。

B141 は、丸瓦である。凹面には、布目が残る。

B142 ～ B144 は、平瓦である。凹面には、布目が残る。

② SD02（図版 36・41）

B94 は、土師器小皿である。

B52・B58・B60・B64・B65・B76 ～ B79・B81・B85・B87・B88・B96・B99 ～ B101・B103 は、須恵器片口鉢である。この内、B88 は、残存状況が悪く、片口部から底部付近までの破片である。

B47 ～ B51・B53 ～ B57・B59・B61 ～ B63・B66・B72・B73・B80・B82 ～ B84・B86・B97・B98・B102 は、須恵器鉢である。

B74・B89 ～ B93 は、須恵器椀である。この内、B90 ～ B93 は底部が欠損している。

B104･B105 は、須恵器甕である。共に口縁部のみで、口縁端部が垂下して、面を成すものである。

B71 は、鬼瓦である。目の部分に当たる。

B116 ～ B118 は、軒丸瓦である。この内、B116 は、外縁部分のみで瓦当文様は不明である。B117 の瓦当文様は、唐草文である。B118 の瓦当文様は、巴文である。

B68・B111 ～ B115 は、丸瓦である。この内、B68・B111・B112 は、玉縁部が残り、B68 は釘穴を持つ。共に凹面には、布目が残る。

B69・B70・B119 ～ B134 は、平瓦である。B69・B70・B119 ～ B133 の凹面には、布目が残る。B123 の凸面には、格子タタキが残る。B127・B133 の凸面は、タタキ後タテナデ調整を施す。B134 の凸面は、波状のヘラ描きを施す。

B95 は、須恵器管状土錘である。残存状況が悪く、縦半截の状態である。

B106・B107 は、備前焼擂鉢である。内面には、擂り目が残る。

B108・B109 は、染付磁器碗である。B108 は、内湾しながら立ち上がるもので、B109 は、直に立ち上がるものである。

B110 は、陶器植木鉢である。

３．包含層等

①土器集中部（図版 43　写真図版 50・61・74）

B13・B14・B194 は、須恵器鉢である。この内、B194 は、写真のみの掲載である。

B15 は、須恵器椀である。

B16･B196 は､平瓦である。この内､B16 の凹面には､布目が残る。B196 は､写真のみの掲載である。

②包含層（図版 61 ～ 66　写真図版 56・57・59・61 ～ 63・69 ～ 75）

B145・B149 は、須恵器片口鉢である。

B11・B150 ～ B155・B195 は、須恵器鉢である。この内、B11 は、底部が欠損している。B151・B154 は、口縁部のみで、B154 は口縁端部が外側へ鍵状に屈曲するものである。B155 は、高台付の底部である。B195 は、写真のみの掲載である。

B146・B158・B159 は、須恵器小皿である。

B157・B188 は、須恵器甕である。この内、B157 は、胴部片である。外面にタタキ調整が顕著に残る。B188 は、綾の緩い屈曲から、短く外反しながら開く口縁部である。外面は、ヨコ方向のタタキ調整である。

B189 は、須恵器盤であろうか。口縁部のみの残存で、詳細が不明だが、浅く開く口縁部を持つ大型器種である。

B160・B190 は、軒丸瓦である。B160 は、小片で残存状況が悪いが、瓦当文様は唐草文と考えられる。B190 の瓦当文様は、巴文と考えられる。

B147・B161 ～ B163・B191 は、軒平瓦である。B147 は、小片で残存状況が悪いが、瓦当文様は均整唐草文と考えられる。また、外縁部との間に珠文帯を巡らすようである。B161 も小片だが、均整唐草文と考えられる。B162 も小片だが、連巴文と考えられる。B163 は、均整唐草文である。体部凹面には、布目が残る。B191 は、瓦当部分が欠損しており、詳細は不明である。体部凹面には、布目が残る。

B164 は、平瓦である。端部に滑り止めの、鰭状突起をもつものである。凹面には、布目が残る。

B148・B165 ～ B170 は、丸瓦である。共に凹面には、布目が残る。B148 は、玉縁部で、釘穴を持つ。B165･B166 は、完形及びほぼ完形のものである。B167 ～ B169 は、玉縁部のみで、B169 は、釘穴を持つ。

B171 ～ B187・B192・B193 は、平瓦である。共に凹面には、布目が残る。B171 は、凹凸面を縦方向のナデで仕上げる。B172 ～ B187・B192・B193 の凸面は、基本的にはタタキ後ナデで仕上げているが、摩滅により調整が不明なものも認められる。

第５章　Ｃ地区の調査

第１節　概要

Ｃ地区は、南で調査されたＢ地区や神出窯跡群田井支群中の釜ノ口小支群（神出古窯址群第２支群）からは約 100 ｍの距離で離れており、雄岡山、雌岡山の南を通って北東から南西へと向かう大きな開析谷地形の北岸部にあたる。Ｃ地区の東隅で検出された流路（ＳＲ 01）や溝（ＳＤ 01）は主要地方道神戸加古川姫路線下を抜けて、この谷に沿って南西方向へ流れていることが推測できる。

確認調査（遺跡調査番号 970212）の際に、焼土を多く含む包含層や多量の遺物を出土する流路が確認されたことから、本発掘調査を実施することとなった。県道を挟んだ南側でも確認調査（遺跡調査番号 950399）が実施されたが、遺構や遺物包含層は確認できなかった。また、Ｃ地区の北側に隣接する地区は確認調査（遺跡調査番号 950399・970212）の際に柱穴や土坑状の遺構が確認されたことから、Ｄ地区として本発掘調査（遺跡調査番号 980128）を実施している。

Ｃ地区の調査範囲は主要地方道との交差点となるため三角形状を呈しており、北側は約 1.5 ｍ高くなった崖上を含んでいる。開析谷北岸にあたるこの崖状の段差は、調査区外東側で一旦南にクランクした後さらに東へと続いている。この崖に沿って神戸市教育委員会が圃場整備の際に確認した神出窯跡群田井支群中の堂ノ前小支群（神出古窯址群第３支群）が存在しており、森田編年Ⅰ -1 期、Ⅰ -2 期の須恵器や瓦を焼成していることが知られている。さらに上流には神出窯跡群田井支群中の田井裏小支群（神出古窯址群第５支群）が存在しており、Ⅰ -2 期の須恵器が出土している。

Ｃ地区では谷地形に沿って走る流路・溝や、大きく削平を受けている灰原とそれに伴う土坑などが検出され、神出窯跡群田井支群中の芝垣内支群と呼称されるようになった。

第２節　遺構

１．灰原　（図版 70・71　写真図版 79 ～ 81）

調査区の中央部の東西 25 ｍ、南北 16 ｍの範囲で半月状に検出された灰層には炭や焼土、窯壁片、須恵器が多量に含まれており、須恵器窯本体は検出できなかったが、その灰原を検出したと判断できた。確認調査の際に焼土を多く含む包含層を検出したのはこの灰原にあたる。検出できた灰層は、最も厚く堆積した地点でも 25㎝の深さしかなく非常に薄いものである。後世に大きく削平されたものと考えられるが、灰原底面の傾斜は南北方向 15 ｍで 0.6 ｍ下がる緩やかなものである。

灰原の北半部、崖裾から 4 ～ 11 ｍの範囲では帯状に約 12 ｍにわたって多くの須恵器、焼土、窯壁片が集中して検出された。さらにその範囲の東半部には窯壁片が集中して検出される範囲が認められた。

調査区東端部の灰層には焼土が多く含まれ、その下層で検出された土坑や溝状の落ち込み内にも焼土が多く含まれている。窯壁片が多く分布する灰層の下層では明瞭な土坑などは検出されなかったが、その西側では灰層下で土坑群が錯綜して検出された。灰原の南半部では灰層下から柱穴状の遺構が帯状に分布して検出されたが、掘立柱建物を復元するには至らなかった。柱穴の多くは規模が小さく杭状のものと思われる。埋土からは灰層と同時期の須恵器小片が出土したため、灰原形成期或いはそれ以降のものと思われる。また、灰原はさらに東側の調査区外へ続く様相を示すが、調査区東端では焼土などが多くみられ、約 0.5 ｍで崖裾となることから、この崖面を利用して構築された窯本体が直近に存在していたと考えることが妥

当であろう。出土須恵器の分析から３～４時期の時期差が看取されるが、最も新しい時期のものはこの窯に伴うものではない。この時期にはこの平坦地が作業スペースとして利用されていた可能性がある。

２．土坑　（図版 73・74　写真図版 82 ～ 85）

灰原を除去した下層からは土坑や柱穴が検出された。調査区内で検出された土坑のほとんどが灰原に埋もれた状態でみつかっており、埋土は灰原と同様の窯壁や焼土ブロックを含んだ黒色や黒褐色の灰・炭層である。

灰層下以外からも土坑・柱穴・小溝が検出されたが、時期を確定できる出土遺物はない。埋土は上層のものに近い。

① SK01・02・03・07・08・09・13・14・15・16

検出された灰原の北端部中央付近では、灰層の下面で土坑群が錯綜して検出された。灰層上からの撹乱も周辺に集中しており、各々の切りあいは不詳である。いずれの土坑も不定形で、深さも 25 ㎝から 10㎝の皿状の窪みである。埋土も上を覆っていた灰層と同様の黒色で、炭や焼土ブロック、窯壁片を含んでいる。

SK01 は南北 0.8 m、東西 1.1 m、深さ 0.15 m を測る。SK02 は南北 1.25 m、東西 0.75 m、深さ 0.25 m を測る。SK03 では南北 1.2 m、東西 0.9 m、深さ 0.1 m を測る。SK07 は南北 0.8 m、東西 0.75 m、深さ 0.13 m を測る。C28 の須恵器が出土した。SK08 は SK01 と SK02 に挟まれて検出された小型の土坑で長径 0.55 m、短径 0.35 m、深さ 0.06 m を測る。C24・C25 の須恵器が出土している。SK09 は南北 1.25 m、東西 0.9 m、深さ 0.13 m を測る。C29・C30 の須恵器が出土した。SK13 は南北 1.1 m、東西 0.45 m を測る。C33 の須恵器が出土した。SK14 は南北 0.9 m、東西 0.75 m を測る。C34 ～ C37 の須恵器が出土した。SK15 は南北 0.6 m、東西 0.35 m を測る。SK16 は南北 1.25 m、東西 0.75 m、深さ 0.25 m を測る。

② SK04

SK04・05 は調査区の東端で部分的に検出された。埋土下層では SK04 が SK05 を切っている様子が観察できたが、部分的なもので埋土上層は共有する。おそらく SK04・05 は短期間に掘られた一連の性格をもつ土坑であろう。

SK04 は南北 2.45 m、深さ 0.45 m を測る土坑で、埋土中には焼土塊・窯壁片・炭を多量に含んでいる。南半部が最終的に埋没し、部分的に高温の熱を受けて赤変したように観察された。その最上層の堆積物内には多くの須恵器が含まれていた。以上の状況から SK04 は窯本体に非常に近い位置に存在していた可能性が高い。C01 ～ C23 の須恵器が出土した。

③ SK05

SK05 は SK04 の南側で検出され、SK04 と同様に窯本体に近い位置に設けられた土坑である。0.4m の深さを測り、SK04 と同様の埋土を有するが、出土遺物は少ない。C26 の須恵器が出土した。

④ SK06

SK06 は他の土坑群とは離れて灰原の西端部で検出された。直径 1.5 m、深さ 0.2 m の円形を呈する土坑である。他の土坑より埋土の堆積状況は複雑であるが、炭や焼土が含まれるなど共通点が多く、やはり灰原下面に構築され、後世に上面を削平されたものであろう。C27 の杯が出土した。

⑤ SK10

SK10 は窯壁片が集中して堆積する層に一部覆われて検出された。東西 0.45 m、南北 0.35 m、深さ 0.06 mを測り、C31・C32 の須恵器が出土した。

⑥ SK11・12

SK11・12 は、調査区東端部から溝状に延びる SD05 が屈曲して取り付き、東西に並んで検出されたが、一連の遺構の可能性が高い。SD05 は炭を多く含んだ黒色の灰層を埋土とし、拡張した部分では上面を須恵器片で覆われていたが、SK11・12 は焼土がやや多く含まれる埋土をもつ。C38 ～ C52 の須恵器が出土しているが、一部混入のものも含まれる。

３．溝（SD01）（図版 72　写真図版 86・87）

調査区の東端部は県道との取り付き部となるため非常に狭小となるが、この部分で大きく落ち込む地形を確認した。その中央部では粘土やシルトが堆積しており、平面的には検出し得なかったが、東肩部で検出された杭列とその上に渡された木材を護岸あるいは足場状の施設と捉えて、杭列以西の粘土・シルト層の落ち込みを溝とした。上幅約５ m、深さ１ m弱の溝であり、杭列や横木の方向は下層の流路（SR01）の西肩とほぼ一致することから、流路が埋没する最終段階で溝として利用したものと判断され、溝自身は流れがあった状況ではなく、湿地状の堆積物で埋没している。

東岸に打たれた杭列は当初、２列に打ち込んだ杭列の間に横木を渡し込んだ護岸的な性格を考えていたが、２ヶ所で杭ではなく、U字形に湾曲した丸太材を置いた上に横木を乗せている状況が観察でき、横木の沈み込みを防ぐ意図がある施設であることがわかった。また、杭も溝の内側から外側へと斜めに打たれており、護岸とするより、横木を支える役目とするのが妥当であろう。以上の状況から溝に沿った足場として丸太材を渡していたものと考えられる。

溝埋土からは土師器小皿・杯・鍋・甕や、須恵器鉢・椀・甕・燭台・土錘、木製品が出土しているが、下層の流路との時期差はあまり認められない。

４．流路（SR01）（図版 72　写真図版 86・88）

SD01 の下層には幅、深度が２倍ほどの流路 SR01 があり、埋土は中砂とシルトの互層となることから自然流路とした。但し、下層近くには炭層が存在することから、人工的に開削され、灰原の末端が広がったものの可能性がある。但し、炭層からの遺物の出土はほとんどない。

SR01 の東岸は、南端部でわずかに検出されたものであるが、流路としての幅は８ m弱、深さは約 1.1m と大きなものではない。

埋土中から多くの須恵器鉢・椀・皿・壺・甕・燭台や瓦が出土し、鉢や椀・皿には多くの完形品がみられる。また、椀や鉢では数点が重ねられた状態で出土している。壺・甕・燭台・瓦はすべてが破片の状態で出土した。その他、土師器の皿・杯・椀・甕・羽釜や青磁碗、木製品も出土している。

当初、溝とした SD01 とその下層の流路とした SR01 は堆積物の差から区別したが、出土する遺物の状況や全体的な規模の小ささからみて、同質の性格であることが推測できる。完形の須恵器鉢や椀が重ねられて出土している状況から、製品の集積・出荷が近辺でおこなわれ、出荷に際して舟などに載せ、水路を使って運び出したものであろう。その際に誤って水中に落としてしまったもの

かもしれない。

この水路は主要地方道の南側では検出できなかったことから、道路下を南西方向へと抜けていることが推測でき、大きな谷地形の北側裾を走る幅の狭い水路が想定できる。水路として利用された時期は、今回の調査で検出された灰原の時期ではなく、さらに上流の約 200 m東に位置する神出窯跡群田井支群中の堂ノ前小支群（神出古窯址群第３支群）や約 400 m東に位置する田井裏小支群（神出古窯址群第５支群）に伴うものの可能性が高い。

５．小結

Ｃ地区の調査では須恵器窯本体は検出されなかったが、灰原やその下層で検出された土坑から多くの須恵器が出土した。それらの須恵器はそれまでに神出窯跡群で確認されていた時期を遡る最古形式のものであった。小字名を採って芝垣内小支群と呼称されるこの窯跡は、堂ノ前小支群や田井裏小支群と同様、南西方向へ走る谷地形の北岸側に立地するが、この谷地形に沿って作られた水路を利用した流通は、堂ノ前小支群などの時期まで下るようである。

「神出窯跡群Ⅲ」ですでに報告されているように、平成 14 年度に調査された老ノ口支群の鴨谷小支群や梟谷小支群からは、芝垣内小支群と同時期あるいはさらに遡る時期の須恵器窯が検出された。これらの窯跡は加古川の支流である草谷川の谷から派生した谷内に立地する。芝垣内小支群からは約 400 mの距離でこの谷頭が切りこんでいる。

今回の調査で、神出窯跡群で生産された製品を出荷する流通経路として水路が活用されていたことが明らかとなった。最も古い段階では北西方向へ抜ける谷を利用して加古川を下る経路が推定でき、次の段階では南西方向へ抜ける谷を利用して瀬戸川や喜瀬川を下る経路、さらに次の段階では「神出窯跡群」で報告された南支群などのように南東方向へ抜ける谷を利用して明石川を下る経路が想定できる。これらの経路の先には大動脈である山陽道や河口津を通じた瀬戸内海があり、陸路・海路を利用した流通が広範囲な製品の広がりを生み出した要因のひとつと言えよう。

参考文献

森田　稔 1986「東播系中世須恵器生産の成立と展開」『神戸市立博物館研究紀要』第 3 号

森田　稔 1988「神出古窯址群の発掘成果」『神戸の歴史』第 19 号

神戸市教育委員会 1985「昭和 57 年度神戸市埋蔵文化財年報」

兵庫県教育委員会 1997「神出窯跡群」兵庫県文化財調査報告第 171 冊

兵庫県教育委員会 2010「神出窯跡群Ⅲ」兵庫県文化財調査報告第 407 冊

第３節　遺物

１．Ｃ地区における出土須恵器の分類名称

Ｃ地区出土須恵器は『神出窯跡群Ⅲ』（兵庫県文化財調査報告第 407 冊）で報告した鴨谷支群・梟谷支群と同じ土器様相を示しているので、「神出Ⅲ」で使用した分類名称を用いる。分類の詳細は『神出窯跡群Ⅲ』を参照されたいが、説明の都合上、主な器種分類名称について簡単に説明しておきたい。

杯Ａ

底部が平底の小型供膳器種である。底部の切り離しはヘラ切りと糸切りがあり、ヘラ切りのものを杯Ａhとし、糸切りの杯Ａiとして区分する。

杯Ｂ・椀Ａ

杯Ｂは８世紀以来の伝統的器種であり、椀Ａは瓷器の形態を模した輪高台をもつ椀の１つである。杯Ｂは時代が新しくなるにしたがって器高が高くなるとともに口径に対して底径が小さくなり、高台が底部周縁に付く傾向をもつ。従って、杯Ｂの最終形態と椀Ａ形態の識別が難しいものもあるが、椀Ａは口縁部が外反し、体部が丸みを有するとともに高台が高く外側に踏ん張る特徴を有しており、この特徴をもって杯Ｂと区分している。杯Ｂの底部切り離しはヘラ切りによるが、椀Ａにはヘラ切りのものと糸切りのものがあり、それぞれを椀Ａh、椀Ａiとして区分した。さらに、椀Ａh、椀Ａiの双方に沈線をもつ１類ともたない２類があり、椀Ａh1・椀Ａh2・椀Ａi1・椀Ａi2の４種に分類した。

椀Ｃ

平高台をもつ椀を椀Ｃとし、底部の切り離しがヘラ切りのものと糸切りのものがある。ヘラ切りの平高台をもつものを椀Ｃh、糸切りの平高台をもつものを椀Ｃiとする。また、糸切りの椀Ｃiには、椀Ａと同様、沈線をもつ１類ともたない２類があり、椀Ｃi1・椀Ｃi2の２種に細分した。

小皿Ａi

口径 10㎝前後、器高２㎝～３㎝の糸切りの小型皿である。

台付皿

皿に輪高台または平高台を付すものを台付皿とする。輪高台をもつものを台付皿Ａとし、ヘラ切りの底部に輪高台をもつものを台付皿Ａh、糸切りの底部に輪高台を付すものを台付皿Ａiとした。

鉢Ｄ

口縁部が「く」の字状に屈曲する鉢である。輪高台をもつ原形の鉢ＤをⅠ類とし、底部形態が糸切りの平高台に変化した鉢ＤをⅡ類とした。そのうえで、ＤⅡ類のうち、体部がⅠ類の形態を受け継ぐ初期段階のものをＤⅡ１、ＤⅡ１形態の口径が拡大化したものをＤⅡ２、片口をもたない段階のものをＤⅡ２Ａ、片口をもつものをＤⅡ２Ｂとした。また、鉢ＤⅡ２形態は口縁部が外反するのが特徴であるが、時代が下り、定型化した神出窯の片口鉢は外反がなくなる。この段階のものを今回新たに鉢ＤⅢとして分類名称を与えた。『神出窯跡群』（兵庫県文化財調査報告第171冊）ではこの鉢ＤⅢについて、体部内面と口縁端部がほぼ直角をなすものを「鉢Ａ」、口縁端面が外側に傾斜するものを「鉢Ｂ」、口縁端部に円みをもつものを「鉢Ｃ」、体部が内湾するものを「鉢Ｄ」としており、このような特徴をもつものを、例えば鉢ＤⅢ-Ａというように枝記号を付して便宜的区分を行った。

甕

既報告の『神出窯跡群』と『神出窯跡群Ⅲ』との間では鉢と同様に分類名称の統一を行っていないので、必要がある場合は『神出窯跡群』あるいは『神出窯跡群Ⅲ』の甕Ａというように区分して記述した。

第２表　Ｃ地区出土須恵器分類表

グループ		ＳＫ群		灰原	ＳＲ01	備考
第１グループ	甲群	SK05 SK07 SK09 SK11～14	杯Ａh(26・28・29・33～45) 椀Ａh１・２(48・51) 杯Ｂ(49)	杯Ａh(112～122) 椀Ａh１・２(138・139～141・144) 椀Ch(146) 台付皿Ah(148～150)・杯B(154) 鉢(100) 甕(173・177・181・185)		鴨谷３号窯 第１次
	乙群	SK04	椀Ａi１(01～09) 椀Ｃi１・２(10～19) 鉢ＤⅡ１(21)	鉢ＤⅡ１(89～98) 椀Ｃi１・２(127・128) 椀Ａi１(142) 甕(178・180・186)		鴨谷３号窯 第２次
第２グループ		SK02 SK06 SK10	椀Ｃi１・２ 甲群(25・32) 乙群(27)	鉢ＤⅡ２(69～86) 椀Ｃi１・２ 甲群(129・130・132～135・137・152) 乙群(125・126・131・136・145・147・151・153) 甕(174・176・178・179)	鉢ＤⅡ２(202～205・237～238・243～246・248～251)	梟谷１号窯
第３グループ				鉢ＤⅢ-Ａ(55～68) 椀Ｃi１(123・124) 甕(172・175・182～184) 小皿Ａi・耳皿(102～111)	鉢ＤⅢ-Ａ(252～254)	神出Ⅰ
第４グループ					鉢ＤⅢ-Ｂ(239～242) 片口椀(255) 椀Ｃi(206～210・256～283) 小皿Ａi(284～288) 甕(291・293・296・293)	神出Ⅱ-1
					土師器 小皿(196・197・222・223) 杯(198～201・225～228) 椀(224・229) 甕・羽釜(230～235)	

２．出土遺物の概要

①ＳＫ群出土遺物

SK04

椀Ａil（C01～C09）

糸切り椀Ｃi1の底部に外方に踏ん張る輪高台を貼り付ける。輪高台の端部は丸く仕上げられている。体部は直線的なものが多い。口径14.8～16.7㎝。口縁部を上にして焼成しており、内面に自然釉、および重ね焼きの痕跡を残す。C03の輪高台部と体部は別粘土を使用しており、色の発色が異なる。C06は輪高台の接合がきわめて雑である。C09は底部外面に火襷痕を残す。

椀Ｃi1（C10～C16）

糸切りの平高台をもつ椀である。体部はやや直線的に立ち上がる。口径5.6㎝～7.5㎝、底径5.6㎝～7.5㎝である。高台の高さは５㎜前後で、高台側面はナデ調整のみで、ヘラによる整形は行われていない。

椀Ｃi2（C17～C19）

椀Ｃi1に沈線を巡らした椀である。体部は椀Ｃi1よりも全体的に丸みを帯びている。沈線は体部下半細く引かれている。口径は17㎝前後、器高6.5㎝で、椀Ｃi1（C10～C16）の一群よりひとまわり大きい。高台側面はヘラによる整形が行われている。C19は体部を欠くが、高台側面がヘラで整形されているために高台断面は台形状を呈しており、この特徴から椀Ｃi2と判断しておく。

杯Ａi（C20）

口縁部を欠く。底径 7.0㎝。底部は平底で回転糸切り痕を残し、内外面に火襷痕が顕著に残る。

鉢ＤⅡ１（C21）

「く」の字状に外反する口縁部をもつ。口縁端面は平坦で外側に突出する。体部は丸みをもち、外面は板状工具で調整が行われている。底部を欠くが、糸切りの平高台を有するものと思われる。

壺ＮⅡ２（C22・C23）

C22 と C23 は降灰と焼成の状況から判断して同一個体の可能性が高い。C22 は口縁部内面を強くナデて端部を上方につまみ上げる。C23 は耳と底部を欠く。体部内面には粘土紐の継ぎ目の痕が残るが、外面は板状工具による横方向の調整痕が残る。

SK02

鉢（Ｃ24）と椀Ｃiの底部（C25）が出土している。Ｃ24は口縁部のみで底部を欠く。口縁端部は丸くおさめる。C25は回転糸切りの平高台をもつ。平高台は径5.4㎝、高さ0.5㎝で、側面はナデによる調整のみでヘラによる調整は行われておらず、糸切り時の粘土のはみ出し痕が残る。

SK05

ヘラ切りの平底の杯Ａh（C26）が出土しているが、歪みが大きいので、掲載図は正確さを欠く。

SK06

糸切りの平高台をもつ椀Ｃi（C27）が出土している。口径15.3㎝、底径5.5㎝。平高台の高さは0.3㎝程度で、側面はナデによる調整のみで、糸切り時の粘土のはみ出し痕が残る。

SK07

ヘラ切りの平底の杯Ａh（C28）が出土している。体部は直線的に斜め上方に立ち上がり、口縁はわずかに屈曲する。内面に火襷の痕が顕著に残る。

SK09

椀Ａh2（C30）と杯Ａh（C29）が出土している。C30はヘラ切りの底部に輪高台を付す。高台は高く、外側に踏ん張る。口径は19.8㎝台で、他の椀の一群より一回り大きい。体部は直線的に立ち上がり、外面中央部に削り出しの段をもつ。C29は小片である。

SK10

ヘラ切りの平底の杯Ａh（C31）と糸切りの平高台をもつ椀Ｃi（C32）が出土している。C31の体部には火襷の痕が残る。C32の平高台は径5.7㎝、高さは0.5㎝で、側面はナデによる調整のみでヘラによる調整は行われておらず、糸切り時の粘土のはみ出し痕が残る。

SK11・SK12

ヘラ切りの平底の杯Ａh（C38～C45）、底部糸切りの小ⅢＡi（C46～C47）、杯Ｂ（C49）および椀Ａh1（C48・C51）、底部片（C50・C52）が出土している。

杯Ａhの一群はいずれも小片である。杯ＢのC49は体部が直線的で、ヘラ切りの底部に輪高台を付す。輪高台は高さが低く断面形状が角形を呈する。割れ口断面に釉が掛かっており、窯内で再焼成を受けたことがわかる。椀Ａh1のC48・C51は体部が湾曲し、ヘラ切りの底部に輪高台を付す。輪高台は外方に踏ん張り、端部を丸く仕上げる。鉢ＤⅡのC50は平高台の底部に輪高台を付すが、平高台の切り離しは不明である。形状から鉢に分類したが、短頸壺の可能性もある。C51は口縁部外面を強くなでて、口縁端部をわずかに突出させる。口縁端面は平坦である。

SK13

ヘラ切りの平底の杯Ａh（C33・C36）が出土している。Ｃ36は体部が湾曲し、口縁端部が外反する。

SK14

ヘラ切りの平底の杯Ａh（C34・C35・C37）が出土している。C35は体部が湾曲し、口縁端部が外反する。C34・C35ともに内外面に火襷痕を残す。

②ＳＤ出土遺物

SD05

壺口縁（C53）と器種不明の土器（C54）が出土している。C53 は壺Ｄか壺Ｌのいずれになろう。C54 は鉢として実測図を掲載しているが、自然釉が外面のみにかかっているので、蓋的な器種と見なした方がよいかもしれない。

③灰原出土遺物

Ａ．土器

鉢ＤⅢ-Ａ（C55～C68）

体部内面と口縁端面がほぼ直角をなす一群で、『神出窯跡群』分類のＡ類に該当する。口縁部の断面が方形のもの（C55・C56・C58 ～ C60・C63・C64・C67）と口縁部が外側に突出するもの（C57・C62・C65・C66・C68）がある。片口の幅は約６㎝ある。底部はわずかに平高台状の厚みを残して、回転糸切りを行っている。体部内外面に横方向の回転ナデを施して、粘土紐の積み上げの痕跡を消している。また、底部内面に仕上げナデを施すものもある。

鉢ＤⅡ2（C69～C86）

鉢ＤⅡのうち口縁が大きく開く２型の一群である。口縁部周縁をなでてわずかに屈曲させる。口縁部端面は平坦で、端部を丸く収める。いずれも小片で底部まで復元できたものはなかったが、底部は回転糸切りの平高台をもつものと思われる。C72・C75・C76 は体部が丸みをもつ厚手の一群である。

底部（C87・C88）

C87 は鉢の底部で、底部外面に回転糸切り痕に３方向から差し込まれたヘラの痕跡が残されており、糸切り後にヘラを差し入れてロクロ台から製品を起した痕跡を示している。C88 は回転糸切りの底部に輪高台を付したもので、内面はナデ調整が行われており、全体に降灰が認められる。鉢の可能性が高い。

鉢ＤⅡ1（C89～C98）

口縁部が「く」の字状に屈曲する鉢ＤⅠを原形とし、次の鉢ＤⅡ２への過渡的形態の鉢である。口径に対して器高が高く、口縁端面が平坦で外側に突出する。また、器壁が厚く、外面には板状工具での調整痕が残る。C97 は高さ 0.7㎝の平高台をもち、底部外面に静止糸切り状の切り離し痕跡を残す。

鉢Ａ（C99）

口縁部を短く内傾させる。底部を欠いており、底部の形態については不明である。体部内面にヘラの調整痕跡が残る。

鉢（C100）

口径18.4㎝、器高10.4㎝、底径8.7㎝の小型の鉢である。体部は直線的で、底部の切り離しはヘラ切りである。

不明器種（C101）

小片である。口縁端部が内側に屈曲し、器壁が薄い。掲載図では口径が広いが、もう少し径が小さく、口縁部が内傾する可能性が高い。この場合は壺Ｅ（奈文研分類）の器形になる。

小皿Ａi（C102～C109）

底部糸切りの小皿である。体部は直線的に立ち上がり、底部と体部の境は比較的明瞭である。口径は 10㎝前後が中心で、器高は 2㎝前後の低いものが大半であるが、C102 ～ C103 のように 2.5㎝前後のやや高いものも存在する。

耳皿（C110～C111）

長径約９㎝、短径約７㎝、底径 3.7㎝。底部は糸切りの平底である。

杯Ａh（C112～C122）

口径 13㎝～ 14㎝台、器高３㎝台、底径７㎝～８㎝台の平底の杯で、底部の切り離しはヘラ切りによる。体部は直線的に立ち上がるが、C113・C115・C118・C120 のように体部がやや丸みをもち口縁部が外反するものもある。

椀Ｃi1（C123～C130・C132～C135・C143・C145・C147・C151～C153）

底部糸切り底の一群で、平高台を有するもの（C125 ～ C130・C132 ～ C135・C143・C145・C147・C151 ～ C153）と平高台を消失しているもの（C123・C124）がある。

平高台を有する一群では、器高に比して高台径が広く高さが高いものと器高に比して高台径が小さく高さがやや低いものに分かれる。前者のタイプには C127・C128・C151 がある。C127 の平高台は径 6.7㎝とやや広く、底部内面の段がない。平高台の高さは約 0.5㎝あるが、側面の調整はなでのみである。C151 は口径 9.0㎝、底径 4.2㎝の小型の椀で、底部内面に明瞭な段をもつ。

後者の一群には C125・C126・C129・C132 ～ C135・C145・C147・C151・C153 がある。この

うちC129・C130・C132～C135は平高台の高さは約0.5㎝あるが、高台径が5.9㎝前後で、側面の調整はなでのみである。底部外周に糸切り離し時の粘土のはみ出し痕が顕著に残り、底部内面に成形時の段が明瞭に残るのが特徴である。また、C125・C126・C145・C147・C151・C153は高台径がC129他の一群よりも一回り小さく、高さも低い。C125・C126は口径13.4㎝・14.1㎝、底径は4.6㎝・5.1㎝、C151・C153は口径9.0㎝、底径4.2㎝、4.4㎝であり、口径の大小にかかわらず、底径はほぼ同じである。底部内面には小さな段をもつ。

椀Ｃi2（C131・C136・C137）

椀Ｃi1の体部に沈線を巡らす。C137は椀Ｃi1のC129タイプに沈線を施したもので、高台は高く、体部は丸みをもつ。C131・C136の体部の沈線は浅く引かれているために、溝の浅い部分は沈線が消えている。ともに平高台の高さは低く、胎土に白い石を多く含み、器壁も厚い。C131は１㎝台の大きな石が３～４個含まれている。

椀Ａh2（C138・C141）

ヘラ切りの底部に輪高台を付す。体部外面に削り出しの段をもつ。高台は高く、外側に踏ん張る。C141は口径が17.6㎝で、杯Ｂより一回り大きい。体部は直線的に立ち上がり、外面中央部に削り出しの段をもつ。口縁部はわずかに外反する。C138は小片であり、実際の復元径はもう少し大きくなる可能性が高い。

椀Ａh1（C139・C140・C144）

ヘラ切りの底部に外側に踏ん張る輪高台をもつ。輪高台の端部は丸くおさめる。C144は焼成時の歪が大きいが、体部が丸みを帯び、口縁部は外反する。

杯Ｂ（C154）

ヘラ切りの底部に低い輪高台を付す。輪高台はわずかに外方に踏ん張り、体部はやや直上方方向に直線的に立ち上がる。器壁は内外面ともていねいな仕上げを施している。

椀Ａi1（C142）

糸切りの椀Ｃi1の底部に輪高台を付したものである。高台の高さは1.5㎝と高く外方に踏ん張る。口縁部は外反する。

椀Ｃh（C146）

底径8.4㎝のヘラ切りの平高台をもつ椀である。高台側面はヘラで整形されている。底部内面には段がある。

台付皿Ａh（C148～C150）

口径11.7㎝の小型の台付皿である。ヘラ切り底に高さ１㎝の輪高台を貼り付ける。

壺蓋（Ｃ155・156）

壺Ａの蓋と思われる。２つのタイプがある。Ｃ155は天井部と口縁部の境が丸く、口縁端部を外方に屈曲させている。天井部はヘラ削りを行っている。Ｃ156は天井部と口縁部の境が角張り、口縁端面は平坦である。天井部はヘラ削りを行っている。

壺Ａ（C158）

直立する短い口縁を有する。口縁端面は内側に傾く。肩部には共蓋をして焼成した痕跡を有しない。

壺（C157・C159・C160・C161）

C157・C161は体部が倒卵形の壺Ｌになろう。C159は口縁部が「ハ」の字状に開くもので、器形

については不明である。C160は底部に輪高台を付した小型の壺Mである。外面は丁寧な調整が行われている。

壺NⅡ・NⅢ（C162～C167）

C164は口径25.6㎝で、口縁端部は外方に開く。C165は口径19.5㎝で口縁下端部を下方に引き出す。耳の形状は板状にした粘土紐の下半部を絞り込んで貼り付けている。肩部には突帯の貼り付け時の爪形圧痕が残されている。

壺底部（C168～C171）

C168は底部の切り離しが糸切りによるもので、壺Nの底部と見なすならば、時期的に下る１本突帯段階の壺NⅢとなる。C169・C170はヘラ切りの平底の底部をもつ。鉢C100と共通する形態的であるが、内面に調整が行われていない点から壺の底部と見なした。C171糸切り底に輪高台を貼り付けた底部である。内面にナデ調整が行われており、広口系の壺か鉢の底部と考えられる。

甕（C172～C186）

以下の３種類のタイプに分かれる

① C173・C177・C181・C185

格子状の平行叩き目を施す一群である。大きく「く」の字状に外反する長い口頸部をもつ。口縁端部を上方につまみ上げるタイプのものと口縁下端部を下方に引き出すタイプがある。

② C178・C179・C180・C186

大きく外反する口縁部をもち、端部を上方につまみ上げる大型の甕である。口縁部は横方向、体部には斜めのタタキを施す。

③ C172 ～ C175・C176・C182 ～ C184

短く外反する口頸部をもつ小型もしくは中型甕の一群である。口縁端部を上方につまみ上げるが、つまみ上げは小さく、端部は丸くおさめる。叩きは左斜め方向と右斜め方向の叩きにより矢羽状的な叩き文様を呈する。

Ｂ．瓦

軒丸瓦

C187　瓦当文様は複弁８葉蓮華文で、中房の蓮子は１＋８と思われる。蓮華文の周りには圏線が廻っている。瓦当側面はヘラケズリ、瓦当裏面はナデが施されている。神出･釜ノ口支群、尊勝寺（46型式）などの同文例がある。

C188　瓦当文様は圏線部しか残存していない。瓦当側面は横方向ナデが施されている。

丸瓦

C189　丸瓦部凸面は無文タタキ、丸瓦部凹面は横方向ナデ後縦方向ナデ、丸瓦部側面は縦方向ナデが施されている。

C190　丸瓦部凸面はナデ、丸瓦部側面はヘラケズリ後縦方向ナデ、玉縁部内外面は回転ナデが施されている。丸瓦部凹面はナデが施され、部分的に調整台の木目の痕跡が残存する。

C191　丸瓦部凸面は無文タタキ、丸瓦部側面はヘラケズリが施されている。丸瓦部凹面は縦方向ナデが施され、部分的に調整台の木目の痕跡が残存する。

平瓦

C192　凸面は無文タタキが施され、凹面は粗いナデが施され、部分的に調整台の木目の痕跡が残

存する。端面は横方向ナデ、側面はヘラケズリが施されている。

C193　凸面は無文タタキ、凹面は縦方向ナデが施されている。部分的に調整台の木目の痕跡が残存する。端面は丸味をもち、回転ナデが施されている。側面はヘラケズリが施されている。

④ SD01（ＳＲ上層）出土遺物

Ａ．土師器

甕（C194・C195）

C194 は瓦質で、口縁部は受け口状を呈し、端面は平坦である。体部は外面をヘラで調整し、内面は横方向のナデによる仕上げを行う。C195 は頸部が「く」の字状に外反する。体部外面に粗い叩きを施し、頸部外面は横ナデによる仕上げを行う。

小皿Ａi（C196・C197）

口径 7.3㎝・7.5㎝で底部外面は糸切りの平底である。C196・C197 はともに完形品であるが、C196 は底部内面中央に亀裂痕があり、亀裂痕は外面まで達する。C197 の底部内面にも弧状のひびが認められるが、外面まで及んでいない。

杯Ａi（C198～C201）

口径 13.0㎝～ 13.4㎝、底径 2.8 ～ 3.6㎝で、口径に対して底径が広い。体部は斜め上方に直線的に立ち上がる。底部外面には回転糸切り痕を残す。内外面ともに横ナデ調整を行う。器壁は厚く、重量感がある。C200・C201 はほぼ完形で、C198・C199 も割れ口が新しいので本来完形品であった可能性が高い。

Ｂ．須恵器

鉢ＤⅢ-Ａ（C202～C205）

C202 は完形品。口縁端面は平坦で、端部は内側に突出する。硬く焼きしまっており、内面には降灰が認められる。底部外面に回転糸切り痕を残す。C203 の残存率は２分の１程度で、口縁端部は外方に突出する。底部は糸切りで、わずかに平高台の形態を呈する。C204・C205 は小片である。

椀Ｃi（C206～C210）

いずれも完形品ないしはほぼ完形品である。口径 15㎝前後、底径 5.6㎝～ 6.0㎝。底部は糸切り底で、平高台を消失している。C207・C208 のように口径に対して底径が小さいく体部は逆台形状を呈するものと C206・C209・C210 のように、底径がやや広いものがある。

甕（Ｃ211）

短い頸部にやや直上につまみ上げる口縁部をもつ。体部外面は左斜め方向の叩きを施した後に右斜め方向の叩きを施す。頸部の叩きはナデにより消されている。

水瓶（C212）

長い頸部と受け口状の口縁部をもつ。黒色に発色し、硬く焼きしまっている。

管状土錘（C213・C214）

C213 は完形である。軸状の材に板状の粘土を巻きつけた痕跡が残る。小口の一方に製作時の切断痕が残る。C240 は一部が破損しているが、完形品である。両端が窄まった形状を呈する。

C．瓦

軒丸瓦

C215　単弁13葉蓮華文で、蓮子は1＋6である。外区には珠文帯が廻り、珠文帯の内外に圏線が廻っている。珠文は20個である。珠文帯部で笵キズが多く認められる。瓦当裏面は周縁側が包み状に盛り上がり、ヘラケズリが施され、その他は粗いナデが施されている。瓦当側面・丸瓦部凸面は縦方向ヘラケズリ、丸瓦部凹面は横方向ナデが施されている。興福寺、円宗寺などに類似する文様のものがあるが、珠文数や蓮子の数が異なっている。

軒平瓦

C216　瓦当文様は均整唐草文である。唐草は内側へ2転、外側へ2転するものが左右対称に配置されている。周縁部に笵の痕跡が認められる。凹面は横方向ナデ、瓦当部凸面は横方向ナデ及び横方向ヘラケズリ、平瓦部凸面は横方向ナデが施されている。C303と同笵と思われる。円宗寺と出土例と酷似している。

C217　周縁はなく、瓦当面の縁辺付近に界線が廻るようである。均整唐草文の可能性が高い。凹面・瓦当部凸面は横方向ナデ、平瓦部凸面は無文タタキが施されている。神出・堂ノ前支群、尊勝寺（236型式）、東寺に同文例がある。

丸瓦

C218　丸瓦部凸面は縦方向の板ナデ、丸瓦部凹面は横方向ナデ後縦方向ナデ、玉縁部は回転ナデが施されている。

C219　丸瓦部凸面は無文タタキ、丸瓦部凹面は縦方向ナデ、玉縁部は回転ナデが施されている。

平瓦

C220　凸面は一字タタキが施されている。凹面は横方向ナデが施され、部分的に調整台の痕跡が認められる。

C211　凸面は無文タタキ後ナデ、凹面は縦方向ナデが施されている。

⑤ＳＲその他

A．土師器

小皿Ai（C222・C223）

C222・C223ともに完形品である。口径7.5㎝・7.7㎝。底部外面には回転糸切り痕を残す。

椀（C224・C229）

C224は体部を欠くが、糸切りの底部に高さ1.8㎝の高い輪高台を付しており、椀と思われる。C229も体部を欠くが、朝顔形に開く体部をもつ椀か杯と思われる。底部は回転糸切り痕を残す。

杯Ai（C225～228）

いずれも完形ないしは完形に近い。口径13.6㎝～14.3㎝に対して底径は7.0㎝～8.2㎝で、口径に対して底径が広い。体部は斜め上方に直線的に立ち上がる。底部外面には回転糸切り痕を残す。内外面ともに横ナデ調整を行う。器壁は厚く、重量感がある。

甕（C230～C232）

C231・C232は口縁部内面がわずかに肥厚し、体部外面に叩きを施す。外面にススが付着している。胎土・調整法から見て同一個体の可能性が高い。C230は「く」字状に外反する口縁部をもつ。外面

には縦方向の粗いハケ調整を施す。胎土に砂粒を多く含む。外面にススが付着している。

羽釜（C233～C235）

C233・234 は内外面にハケ目調整が行われている。体部外面にススが付着している。C234 は口縁部外面に「×」のヘラ記号が施されている。C235 は C233・C234 に比べて鍔の厚みが薄く、外面に叩きを施し、内面はナデ調整が行われている。体部外面にススが付着している。

Ｂ．磁器

磁器（236）

C236 は、青磁碗の底部である。高台は断面が低い台形状を呈し、底部の器壁は比較的厚い。体部は内彎気味に外上方に立ち上がる。外面にはヘラ描きの広形の連弁文を施文する。内外面とも青磁釉を施釉し暗緑灰色に発色する。高台畳付、高台裏は露胎である。底部内面にはヘラ描きで「利」字を施文する。龍泉窯系青磁蓮弁文碗で 13 世紀代の製品である。

Ｃ．須恵器

鉢ＤⅡ２（C237・C238・C243～C246・C248～C251）

鉢ＤⅡのうち口縁が大きく開く２型の一群で、口縁部は外面の強いナデにより外反し、端面は平坦で端部は外側に突出する。底部の切り離しは回転糸切りで、わずかに平高台の形態を残す。C244 は静止糸切り痕を残す。器壁は厚く、粘土紐巻上げによる成形時の凹凸が激しい。内外面は板状工具で最終調整を行うが、内面は横ナデ調整の後、底面からナデ上げもしくは斜め方向の仕上げナデを施す。C251 は小型で体部が湾曲するのが特徴である。

鉢ＤⅢ底部（C247）

内面はヘラ状工具で底から上に調整する。底部外面に多数のヘラの痕が残るが、製品の下にヘラを指し入れてロクロ台から製品を取り上げた際の痕跡と思われる。

鉢ＤⅢ-B（C239～C242）

口径 30㎝前後でいずれも完形品である。口縁端面が外側に傾斜する一群で、『神出窯跡群』分類のＢ類に該当する。体部内外面に比較的粗い回転ナデを施し、口縁端部のみに回転ナデを施す。最後に粘土紐の積み上げによって生じた内面の凹凸をなくすために、体部内面に横方向の仕上げナデを施すが、成形時の段が残り、器面の凹凸が激しい。底部内面仕上げナデを施す。底部はすべて糸切りの平底である。砂粒も多く含まれている。

鉢ＤⅢ-A（C252～C254）

体部内面と口縁端面がほぼ直角をなす一群で、『神出窯跡群』分類のＡ類に該当する。口径 19㎝～ 21㎝の小型品である。いずれも完形品で、底部は糸切りの平底である。大粒の石を含む。体部内外面に横方向の回転ナデを施して、成形時の段を消しており、底部内面は仕上げナデを施されている。C39 ～ C242 よりもていねいな調整を大なっている。

片口碗（C255）

椀Ｃi1に片口を設けたものである。

椀Ｃi1（C256～C283）

いずれも完形品である。口径は 15.1㎝～ 17.0㎝である。高台はなく、体部は直線的に立ち上がる。

調整は内外面とも回転ナデを施す。底部は糸切りで、明瞭な平高台は認めらない。C255 ～ C258・C260 ～ C267・C271 ～ C276・C280 ～ C283 のように器高の高い一群と C259・C268 ～ C270・C277 ～ C279 のように低い一群がある。

小皿Ａi（C284～C288）

口径 10㎝弱の小型の皿である。調整は内外面とも回転ナデを施す。底部は糸切りの平底である。C286 ～ C287 のように器高が高く体部がやや内湾しながら開くものと C284 のように器高が低く体部がやや内湾するか、直線的に開くものがある。C285 は成形が稚掘であり、専門工人の製作品ではない。

壺底部（C289）

底部外面に回転糸切り痕を残す。上部を欠くので、器形は不明であるが、水瓶の体部の可能性もある。

水瓶（C290）

やや受け口状の口縁部をもつ。

甕（C291～C298）

以下の 3 種類のタイプに分かれる

① C292

口縁下端部を下方に引き出す。体部外面は格子状の平行叩き目を施し、内面は横方向のナデ調整を行っている。硬質である。

② C293 ～ C295・C297

大きく外反する口縁部をもち、端部を上方につまみ上げる。口縁部は横方向、体部には斜めの叩きを施す。頸部は叩きの後、ナデもしくは板状工具による調整を行う。C 297 の内面は横方向の削りを行っている。

③ C291・C296・C297

短く外反する口頸部をもつ小型もしくは中型甕の一群である。口縁端部を上方につまみ上げるが、つまみ上げは小さく、端部は丸くおさめる。叩きは左斜め方向と右斜め方向の叩きにより矢羽状的な叩き文様を呈する。

Ｄ．瓦

軒丸瓦

C299　瓦当文様は端弁 12 葉蓮華文で、中房の蓮子は 1＋ 5＋10 である。瓦当裏面は周縁側が包み状に盛り上がり、ヘラケズリが施され、その他は粗いナデが施されている。瓦当側面は横方向ナデが施されている。

C300　瓦当文様は C215 と類似する単弁蓮華文である。瓦当部側面はヘラケズリが施されている。

C301　瓦当文様は中房の周りに圏線が 1 重に廻るのみである。中房と圏線間に笵キズが認められる。

軒平瓦

C302　瓦当文様は均整唐草文である。中心飾りはＣ字背向きで、唐草が 3 転している。周囲に界線をもち珠文帯が廻っている。瓦当部凹凸面はヨコナデ、平瓦部凸面はナデが施され、平瓦部凹面には布目が認められる。

C303　瓦当文様は均整唐草文である。唐草は内側へ 2 転、外側へ 2 転するものが左右対称に配置されている。周囲に界線をもち珠文帯が廻っている。凹凸面とも横方向ナデが施されている。C

216 と同笵と思われる。

C304　瓦当文様は均整唐草文である。中心飾りはC字背向で、周囲に界線をもち珠文帯が廻っている、大型のものである。凸面は横方向ナデ、凹面はナデが施されている。神出・田井裏支群に同文例がある。

C 305　瓦当文様は宝相華文と思われる。周囲に界線をもっている。瓦当部が板状に大きいものと思われる。凹面は横方向ナデ、平瓦部凸面は縦方向ナデが施されている。平瓦部凸面の瓦当顎部の剥離面には２条の凹線が認められる。顎部の補充粘土を接合しやすくするためのものと思われる。神出・田井裏支群に類例がある。

C306・C307　瓦当文様は均整唐草文である。中心飾りはC字上向けが２つ横に並び、唐草が中心から２転している。周囲に界線をもっている。凹面は横方向ナデ、瓦当部下端面はヘラケズリ、瓦当裏面は横方向ナデ、平瓦部凸面は無文タタキが施されている。神出･垣内支群、神出遺跡南下地区、尊勝寺（242 C型式）に同文例がある。

C308・C309　瓦当文様は均整唐草文と考えられる。両者は同一文様の瓦と思われる。C308 は左端の文様が切断されている。周囲に界線をもっている。凹面は横方向ナデ、瓦当部凸面はナデが施されている。

丸瓦

C310･C315　丸瓦部凸面は無文タタキ、丸瓦部凹面は縦方向ナデ、玉縁内外面は回転ナデが施されている。丸瓦部凹面に調整台の痕跡が明瞭に認められる。

C311　丸瓦部凸面は平行タタキ、丸瓦部凹面は縦方向ナデ、玉縁内外面は回転ナデが施されている。丸瓦部凹面に調整台の痕跡がわずかに認められる。

C313・C314　丸瓦部凸面は縦方向板ナデ、丸瓦部凹面は縦方向ナデ、玉縁内外面は回転ナデが施されている。

C312　丸瓦部凸面は回転ナデが施され、丸瓦部凹面は布目が認められる。

平瓦

C316・C317・C326・C327　凸面は一文字タタキが施され、凹面には布目が残る。C317 は焼成時のひび割れが多い。

C318　凸面は一文字タタキが施されている。凹面は縦方向ナデが施され、調整台の痕跡が部分的に残っている。

C319　凸面は縦方向のヘラケズリが施されている。凹面は横方向ナデが施された後に付いた調整台の痕跡が部分的に残っている。

C320　凸面はナデ、凹面は縦方向ナデが施されている。

C321　凸面はＸ字文タタキ後ナデが施され、その後縄目による×字の痕跡が付いている。凹面は縦方向のナデが施され、調整台の痕跡が部分的に残っている

C322　凸面は無文タタキ後粗いナデ、凹面は近世の丸瓦の内タタキのような細かいタタキが施されている。

C323　凸面は平行タタキが施された後、離砂が付着している。凹面は布目が付着した後無文タタキが施されているようである。

C324　凸面はカキ目が施された後、離砂が付着している。凹面はカキ目が施されている。

C325　凸面はＸ字文タタキ後ナデが施され、凹面は縦方向ナデが施され、調整台の痕跡が部分的

に残っている。

C328　凸面は文様が不鮮明なタタキが施され、凹面は調整台の痕跡が付いている。

C329　凸面は斜格子タタキ、凹面は布目が施されている。

C330　凸面は布目の転写痕が付いている。平瓦の凹面を調整台として利用したものと思われる。凹面は布目後無文タタキが施されている。

C331　凸面は無文タタキ、凹面は縦方向ナデが施されている。

C332　凸面は無文タタキが施されている。凹面はナデが施され、調整台の痕跡が付いている。

⑥包含層

土師器・須恵器・輸入磁器が出土しているが、ここでは軒丸瓦・軒平瓦のみを取り上げる。

軒丸瓦

C361　単弁蓮華文と思われる。瓦当裏面の縁部が堤状に盛り上がり、ナデが施されている。

C362　周縁のみの破片である。

C363　文様は圏線のみしか残存していない。

C364　瓦当文様は不明である。周縁はないようである。瓦当裏面の縁部が堤状に盛り上がり、ナデが施されている。

軒平瓦

C365　瓦当文様は均整唐草文である。C307と同文であるが、異笵である。平瓦部凸面は無文タタキが施されている。平瓦部凹面はナデが施され、成形台の痕跡が付いている。C307とは同文異笵である。

C366　瓦当文様は均整唐草文である。唐草が左右に２転している。平瓦部凸面は無文タタキ、平瓦部凹面は布目後ナデが施されている。

C367　瓦当文様は中心飾りが縦方向の直線で、中心上部から左右に開く波状文である。周囲に界線が廻っている。平瓦部凸面は無文タタキ、平瓦部凹面は横方向ナデが施されている。神出・釜ノ口支群、神出・万保池支群、尊勝寺（231型式）、鳥羽離宮跡北殿に同文例がある。

C368　瓦当文様は均整唐草文である。中心飾りが縦方向の直線で、中心下部から左右に唐草が開いている。平瓦部は横方向ナデが施されている。瓦当面の横方向に笵キズが認められる。神出梟谷１号窯、神出・田井裏支群、神出・池の下支群、土御門烏丸内裏などに同笵例がある。

３．土器の小結

土器群の様相

検出された遺構は灰原・ＳＫ群・ＳＲ01の３つからなるが、これらの遺構から出土している土器群の様相は同一ではなく、下記の大きく４グループ５群に分けることができる。

第１グループ土器群

ヘラ切りの杯Ａ類・椀Ａh類、糸切り導入初期段階の椀Ａi類・椀Ｃiおよび鉢ＤⅡ１類を主体とするグループである。ヘラ切りの杯・椀を主体とする甲群と糸切りの椀を主体とする乙群の２つに分かれる。

甲群

該当する資料が出土している遺構としてはSK05・07・09・11～14がある。いずれのSKからもヘ

ラ切りの杯Ａhが出土している。ＳＫ09からは杯Ａh（Ｃ29）とともに削り出し段を有する椀Ａh2（C30）、SK11～12からは杯Ａh（C31～C45）とともに椀Ａh（C48～C51）・杯Ｂ（C49）が出土している。SK11～12ではやや時期の下る小皿C46・C47、鉢C50・C52が出土しているが、混入と見なした方が良い。器種様相としては鴨谷３号窯第1次操業の器種様相と共通する。灰原での該当資料は第２表に示した通りである。このうち甕は大きく「く」の字状に屈曲する口頸部をもつが、口縁端部を斜め上方につまみ上げるタイプのもと口縁下端部を下方に引き出すタイプがある。叩きは格子目叩きを普通とする。

乙群

該当する遺構としてはSK04がある。SK04出土遺物には椀Ａi1（C01～C09）・椀Ｃi1（C10～C16）・椀Ｃi2（C17・C18）・鉢ＤⅡ（C21）があるが、ヘラ切りの器種が見当たらない。椀Ａi1は糸切りの平高台に輪高台を貼り付けた椀であり、比較的数多く出土している。灰原での該当資料としては第２表に示した通り、椀Ｃi1（C127・C128）椀Ｃi2（C142）、壺（C160）、甕（C178・C203・C186）がある。甕は大きく外反する口頸部をもち、口縁端部を上方につまみ上げる大型の甕で、横方向の叩きが特徴である。

第２グループの土器群

ヘラ切りの器種はなく、糸切りの平高台の径が縮小化した段階の椀Ｃi類と初現期の片口鉢（鉢ＤⅡ2）を主体とするグループである。該当資料が出土している遺構にはSK02・SK06・SK10がある。鉢ＤⅡ2の口縁部は外反し、端部は外側に突出する。口縁部端面は平坦である。なお、小皿Ａiおよび耳皿は第２グループか第３グループのどちらかに属するが、どちらのグループに属するかは判断できない。

なお、椀Ｃiについては平高台の高さが約0.5㎝で、高台径が６㎝前後のものと平高台の高さが約0.3㎝で、高台径が５㎝前後のものがあり、前者を甲群とし、後者を乙群とする。

甲群

該当資料としてはSK02のC25、SK10のC32がある。灰原ではC129・C130・C132～C135・C137・C152がある。平高台の高さは約0.5㎝あるが、高台径が5.9㎝前後で、側面の調整はなでのみである。底部外周に糸切り離し時の粘土のはみ出し痕が顕著に残り、底部内面に成形時の段が明瞭に残るのが特徴である。

乙群

該当資料としてはSK06のC27がある。灰原ではC125・C126・C131・C136・C145・C147・C151・C153があり、高台径が乙群よりも一回り小さく、高さも低く、高台が形骸化している。

第３グループの土器群

糸切りの椀Ｃi類と体部内面と口縁端部がほぼ直角をなす鉢ＤⅢ-Ａ類を主体とするグループである。該当資料は灰原とSR01から出土している。甕は短く外反する口頸部をもつ小型もしくは中型甕の一群で、口縁端部を上方につまみ上げる。体部には斜め方向の叩きの痕跡を残す。

第４グループの土器群

高台を消失した糸切りの椀Ｃi類と口縁端面が外側に傾斜する鉢ＤⅢ-Ｂ類を主体とするグループである。該当資料は灰原からの出土はC124・C125のみで、大半はSR01からの出土である。完形もしくは完形に近いのが特徴であり、一括資料として重要である。甕は短く外反する口頸部をもつ小型もしくは中型甕の一群で、口縁端部を上方につまみ上げるが、つまみ上げは小さく、端部は丸くお

さめる。叩きは左斜め方向と右斜め方向の叩きにより矢羽状的な叩き文様を呈する。

なお、SR01からは須恵器だけではなく、杯、小皿、椀、羽釜類の土師器が出土しており、杯・小皿は大半が完形品若しくは完形に近い。また、羽釜は煤が付着しており、生活用品として使用されたものである。土師器の様相は第４グループの須恵器様相と共通しており、同じ時期の土器群と判断されるが、土師器は煙管状窯で須恵器とは別に生産されたものと見なしてよい。

以上の通り、大きくは４グループに分かれる。グルーピングは、形態や技法的特徴から識別して行ったものであり、グルーピングがそのままストレートに年代決定に適用できるものではないが、グルーピングに基づいて出土遺物の年代について検討加えておきたい。なお、平安後期以降の資料群の編年案については『神出窯跡群』で、その後に発見された平安期中後期の資料群の編年案については『神出窯跡群Ⅲ』でそれぞれ提示されている。全期間を通しての統一編年案についてはまだ行われていないが、当該資料の年代について、この２つの既報告書で示した編年案を参考にする。

まず、第１グループのヘラ切り主体の甲群の様相は鴨谷３号窯第１次操業、糸切り主体の乙群の様相は同３号窯第２次操業もしくは同2号窯の出土資料とそれぞれ共通する。鴨谷３号窯１次操業と同第２次操業はヘラ切り主体と糸切り主体との大きな相違はあるが、ヘラ切り主体から糸切りへと大きく転換する時期の窯である。この状況は当該遺跡においても看取でき、第１グループの時期は鴨谷３号窯の想定年代を参考にすれば10世紀半ば前後となる。第２グループは椀Ｃi1に甲群と乙群があり、甲群の方がやや古い要素を有している。鉢は東播型鉢の初現段階の様相（鉢ＤⅡ2）を示しており、鉢と椀Ｃi1乙群は12世紀初頭の梟谷１号窯段階の様相を示しているが、椀Ｃi1甲群の存在からもう少し時期が遡る可能性もある。第３グループの鉢は東播型鉢の定型化初段階の様相（鉢ＤⅢ-Ａ）を示しており、『神出窯跡群』神出Ⅰ期（12世紀前半代）に該当する。第４グループの鉢は東播型鉢の定型化した段階のもの（鉢ＤⅢ-Ｂ）で、『神出窯跡群』神出Ⅱ-１期（12世紀後半代）に該当する。但し、椀Ｃi類に器高の高い一群と低い一群の混在が見られ、高い一群は神出Ⅰ期の特徴を示すものであることから神出Ⅰ期からⅡ-1期への過渡的段階に位置する資料群の可能性もある。

参考文献

『神出窯跡群』（兵庫県文化財調査報告第 171 冊）　1998 年（平成 10 年）兵庫県教育委員会
『神出窯跡群Ⅲ』（兵庫県文化財調査報告第 407 冊）2011 年（平成 23 年）兵庫県教育委員会

４．木製品（図版 106　写真図版 147・148）

神出遺跡からは何点かの木製品が出土しており、それらは検出された集落や窯にかかわった人々の生活を表すものであるが、出土点数は非常に少ない。Ｃ地区の流路（SR01）やその上層の杭列を伴った溝（SD01）から出土した以外では、Ａ地区（PB02）の柱穴内から検出された柱根（コウヤマキ）や、Ｄ地区の SK56 出土の板材（ヒノキ）が報告できた。

①溝（ＳＤ０１）出土木製品

CW01 ～ CW03 は、Ｃ地区東端の流路 SR01 の上面で検出された SD01 から出土した。CW01 と CW03 は溝埋土である黒色粘土層から出土しており、CW02 は下層の SR01 埋土である砂礫層の上面から出土している。

CW01 は、針葉樹板目材を用いた曲物の底板の破片である。直径約15㎝の円形のものが復元できる。

厚さは0.55㎝を測る。外周の１ヶ所に１対の長方形の穿孔が穿たれ、桜の樹皮と思われる樺紐が残存している。長辺側の面にも１ヶ所穿孔がみられ、目釘によって底板を接合したものと思われるが、１ヶ所であることから補修したものかもしれない。器表面には表裏面とも非常に細い直線的な刃物傷が無数に残っている。作業台として再利用されたものであろう。また、表裏面とも黒褐色に変色しており、柿渋などを塗布したものかもしれない。

CW02は、コナラ節の丸太材を用いたもので、両端は粗く切断している。側面は全周のうち一部の面にのみ、４面にわたって面取りを施しており、直線的な刃を８回程度当てて削っている。全長15.1㎝、直径4.55㎝を測る。

CW03は、ヒノキを用いた棒状の木製品で、両端部を欠損している。上半部は断面を方形に成形し、徐々に細くなる。１ヶ所に釘孔と思われる方形の貫通していない穿孔がみられる。下半部は断面が楕円形になるように成形し、側面の一方に一段低い繰り込みを設けている。この部分の断面も楕円形であることから、握部とすれば、別部材と組み合わせた把手として使われたものの可能性がある。また、繰り込み部や打ちこんだ釘に縄を掛けて用いたものかもしれない。残存長37.25㎝、幅3.75㎝、厚さ1.5㎝を測る。

②流路（ＳＲ01）出土木製品

SD01の下層には幅、深度が２倍ほどの流路SR01があり、埋土は中砂とシルトの互層となる。CW04・CW05・CW10は上層から、CW06・CW07は中層から、CW08・CW09・CW11は下層から出土した。

CW04は、針葉樹の板目材を用いた薄板材で、一隅部が残存する。裏面側が平滑に仕上げられているが、成形痕は不詳である。折敷底板であろう。残存長11.6㎝、残存幅4.45㎝、厚さ0.55㎝を測る。

CW05は、針葉樹ミカン割り材の板材で、厚さは一定ではない。上端部が尖っているが、明瞭な加工痕は観察できない。矢板などに用いられたものであろう。全長21.5㎝、幅4.3㎝、厚さ1.15㎝を測る。

CW06・CW07は漆器椀である。この他に須恵器椀と重なるように出土したヒサカキを用いた椀状の木製品が出土したが、漆膜等は観察できなかった。腐食が著しく図化できなかった。

CW06は、クリの横木取り材から挽き出しており、低い高台裏面はわずかに窪む。高台から緩やかに内湾しながら開き、口縁部へと続く。底部内面には轆轤目状に削った痕跡が顕著に残る。内外面には黒漆が塗られ、外面には赤色の漆で紋様が描かれる。口縁部に布着せの痕跡は認められない。口径16.0㎝、器高5.1㎝、底径8.5㎝を測る。

CW07は、シイノキ属を用いており、口縁部から体部の破片で高台は残存しない。内湾しながら口縁部へと続く体部をもつ。内外面には黒漆が塗られ、外面には赤色の漆で紋様が描かれる。口縁部に布着せの痕跡は認められない。口径16.5㎝、残存高4.8㎝を復元する。

CW08は、針葉樹柾目材を加工した薄板材で、一端部を欠損するが、残存する端部は角を斜めに削って面取りしている。一長側面には小段が通っているが、加工されたものか確認できない。表面には縦横斜めに無数の直線的な細線が刻まれているが、作業台として再利用された際のものかもしれない。小口端部に近い位置に別部材が当たった痕跡が横断するようにみられる。折敷底板あるいは箱物と考えられる。残存長11.45㎝、幅2.1㎝、厚さ0.35㎝を測る。

CW09 は、ヒノキを用いた箸で、断面を五角形に削っており、一端は使用のためか丸くなっている。他端は折損している。先端部の幅・厚さは 0.6㎝を測る。

CW10 は、ヒノキの板目材を用いた板材で、隅丸長方形に加工するが、一長側を欠損する。長さ 31.3㎝、残存幅 6.2㎝、厚さ 0.5㎝を測る。残存部の表面は三列にわたって 2 ～ 5 回削って平滑にする。裏面には加工痕は観察できない。残存する長側のほぼ中央に表裏に貫通する楕円形の穿孔が一対と側面が窪む部分にも穿孔がみられ、側板との樺紐綴じ接合に備えたものであろう。折敷底板である。

CW11 は、ヒノキ板目材を加工した薄板材で、扇子の骨である。残存長は 34.9㎝、最大幅は最下部で 1.85㎝を測る。上方に向かって徐々に幅を減じ 0.9㎝とし、上端部は 0.95㎝とわずかに幅を広げている。下端部は欠損するが、復元直径約 1㎝の円形の要孔が穿たれている。表裏面とも斜め方向に刃が当たる工具痕が残されているが、面取りは施されていないことから親骨ではなかろう。

広島県草戸千軒町遺跡からは多くの扇が出土しているが、13 世紀後半から 14 世紀初頭にかけてのものは、本製品と同様に先細りの形状を呈しており、14 世紀中頃から 16 世紀初頭にかけてのものはあまり幅を減じないものとなる傾向があり、本製品も前者の時期と一致するものと考えられる。

参考文献

奈良国立文化財研究所　1975「木器集成―古代編―」

広島県草戸千軒町遺跡調査研究所　1993「草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅱ」

第６章　Ｄ地区の調査

第１節　概要

本調査地区は、谷間を東西に走る主要県道神戸加古川姫路線の北側に位置し、県道沿いのＣ地区より北側の一段高い微高地上にある。

調査区は、東西に存在する農道の確保のため、南北に分割し、それぞれ南区・北区と呼称している。両区を合わせた調査区では、全体的に中央部分が低く、南端及び北端に向かって高くなっていくといった微地形の状況を示している。両地区に跨る低地と南北端との境には、主要なもので南区に２条、北区に４条の溝が北東から南西方向に延びており、溝を境とした中央部では水田やその関連遺構として素堀の素掘りの井戸、水溜め坑等と考えられる土坑を検出し、南北側では集落の存在を窺わせるピット群や土坑を検出した。

出土遺物は、神出窯産の須恵器鉢、甕類が大部分を占めるが、その他に、土師器羽釜・鍋・皿、白磁碗・皿等の輸入陶磁器類も出土しており、窯業生産地内における集落遺跡の様相を色濃くしている。

各遺構、及び遺物については、次項に記述する。

第２節　遺構

本調査区で検出した遺構は、ピット、土坑、溝である。この内、出土遺物が図面、或いは写真等で掲載に至った遺構を中心に、主要遺構として報告することとする。その内訳は、ピット（P02・09・40・P123）、土坑（SK01 ～ 07・09・12・14・17・22・57・58・62）、溝（SD04 ～ 06・51・52・57 ～ 60・62・68）である。各遺構の詳細は以下の通りである。

１．ピット

上記に挙げたピットの内、個別図での掲載がない P40 については、南区平面図（図版 107）において遺構名のみ明記した。

① **P02**（図版 111）

南区北西側に位置する。直径約 29㎝、深さ約 30㎝を測り、平面円形を呈する。

出土遺物は、須恵器椀（D01）が出土している。

② **P09**（図版 111）

南区北西側、SK16 の西に位置する。直径約 50㎝、深さ約 42㎝を測り、平面円形を呈する。底部直上には、須恵器椀が廃棄されていた。

出土遺物は、その須恵器椀（D02）である。

③ **P40**（図版 107）

南区南東側、SD05 の東側のピット群の中に位置する。

出土遺物は、須恵器小皿（D03）が出土している。

④ **P123**（図版 111　写真図版 157）

北区北側のピット群の中に位置する。直径約 28㎝、深さ約 22㎝を測り、平面円形を呈する。遺構の上面には、10㎝程の円礫を掘方に沿うように巡らせているが、その性格については不明である。

出土遺物は、埋土中に土器片が存在するものの、図化には至らなかった。

２．土坑

上記に挙げた土坑の内、遺物の出土状況を図化している土坑（SK09・16・57・62）以外は、全て断面図のみとし、平面図は南区平面図（図版 107）に遺構名を明記し、断面図は図版 111 に掲載した。

① **SK01**（図版 107・111　写真図版 153）

南区北東隅の土坑群の内、最も東に位置する。直径約 4.1 m、深さ約 90㎝を測る、平面不定円形を呈する大型の土坑である。断面形は、浅い擂鉢状を呈しており、水溜用に掘削されたものと考えられる。

出土遺物は、土師器小皿（D04）、土師器碗（D05）、須恵器壷（D06）、須恵器鉢（D07・D08）が出土している。

② **SK02**（図版 107・111）

南区北東側の SK01 の西側に位置する。直径約 1.3 m、深さ約 40㎝を測る、平面隅丸方形気味の不定円形を呈する。断面形は、西側の掘方がほぼ直に掘削されており、半擂鉢状を呈する。

出土遺物は、須恵器鉢（D09）、須恵器椀（D10）が出土している。

③ **SK03**（図版 107・111）

南区北東側の SK02 の西側に位置する。最大幅約 1.2m、深さ約 20㎝を測る、釣り針状の不定形状を呈する。断面形は三角形状を呈するが、床面が凸凹している。

出土遺物は、須恵器鉢（D11）が出土している。

④ **SK04**（図版 107・111）

南区北東側の SK03 北側に位置する。東西長約 2.6 m、南北長約 1.0 m、深さ 10㎝を測る、平面隅丸長方形状を呈する。断面形は、浅い逆台形状を呈する。

出土遺物は、須恵器鉢（D12・D13）、須恵器椀（D14）が出土している。

⑤ **SK05**（図版 107・111）

南区北東側の SK03 の西側に位置する。長軸約 2.2 m、短軸約 90㎝、深さ約 10㎝を測る、平面不定楕円形状を呈する土坑と、長軸約 1.3 m、短軸約 70㎝、深さ約 10㎝を測る平面楕円形状を呈する土坑の２基からなる。断面形は、浅い逆台形状を呈する。

出土遺物は、須恵器鉢（D15）が出土している。

⑥ **SK06**（図版 107・111）

南区北東側の SK05 の西側に位置する。長軸約 1.2 m、短軸約 80㎝を、深さ約６㎝測る、平面不定楕円形状を呈する。断面形は、極浅い擂鉢状を呈する。

出土遺物は、須恵器鉢（D16）、須恵器片口鉢（D17）が出土している。

⑦ **SK07**（図版 107・111）

南区北東側の SK06 の南側に位置する。底辺約 1.6 m、高さ約 2.4 m、深さ約 10㎝を測る、平面不定五角形状を呈する。断面形は、浅い半楕円形状を呈する。

出土遺物は、須恵器鉢（D18）、須恵器椀（D19）が出土している。

⑧ **SK09**（図版 107・112　写真図版 154）

南区北東側の SK01 の南西側に位置する。長軸約 4.0 m、短軸約 3.1 m、深さ約 1.3 m を測る、平面楕円形状を呈する。断面形は、中途で若干の段を有する擂鉢状を呈する。遺構の北半部には、土器の多量廃棄が認められる。

出土遺物は、土師器甕（D20 ～ D23）、土師器羽釜（D24･D25）、土師器托状皿（D26）、土師器小皿（D27 ～ D34）、土師器杯（D35 ～ D38）、須恵器鉢（D39 ～ D50・D52・D53）、須恵器片口鉢（D51・D54 ～ D56）、須恵器椀（D57 ～ D68）、須恵器小皿（D70 ～ D76）、須恵器甕（D77）、白磁碗（D69）、鬼瓦（D78）、軒丸瓦（D79）、平瓦（D80・D81）が出土した。

⑨ SK12（図版 107・111）

南区北東側に位置し、SK07 西側の掘方の一部を切っている。直径約 70㎝、深さ約 10㎝を測る、平面円形状を呈する。断面形は、浅い逆台形状を呈する。

出土遺物は、須恵器鉢（D82）、須恵器椀（D83）が出土した。

⑩ SK14（図版 107）

南区北西側の SK16 の南側に位置する。直径約 80㎝を測る、平面円形を呈する。

出土遺物は、土師器杯（D84）、須恵器椀（D85）である。

⑪ SK16（図版 107・112　写真図版 155）

南区北西部の SK14 の北側に位置する。直径約 2.5 m、深さ約 35㎝を測る、ほぼ平面円形状を呈する。断面形は、浅い擂鉢状を呈する。遺構の中央部分より北側では、多量の土器の廃棄が認められた。

出土遺物は、土師器椀（D86）、須恵器鉢（D87 ～ D90）、須恵器片口鉢（D91）、須恵器椀（D92 ～ D108）、軒丸瓦（D109）が出土した。

⑫ SK17（図版 107）

南区中央部よりやや南東側で、SD04 と SD05 に囲まれる様に位置する。南北長約８ m、東西長約６ m を測る、平面不定形の極浅い窪み状土坑である。

出土遺物は、須恵器椀（D110 ～ D112）が出土している。

⑬ SK22（図版 107・111）

南区南東部に位置し、L 字形に屈曲する SD05 の丁度屈曲部分を切っている。直径約 1.9 m、深さ約 25㎝を測る、平面ほぼ円形状を呈する。断面形は、浅い擂鉢状を呈する。

出土遺物は、須恵器椀（D113）が出土している。

⑭ SK56（図版 108）

北区北東側に位置する。直径約 1.8 m の平面円形状を呈する。

出土遺物は、板状木製品（DW01）、籾の塊と考えられる炭化物（DC01）が出土している。

⑮ SK57（図版 108・113　写真図版 155）

北区北西隅に位置する。長軸（東西長）約 2.4 m、短軸（南北長）約 1.7 m、深さ 10 ～ 17㎝を測る、平面達磨形の楕円形状を呈する。断面形は、極浅い半楕円形を呈する。

出土遺物は、土師器甕（D114）、土師器小皿（D115 ～ D117）、須恵器鉢（D118・D119・D121 ～ D124・D128・D311）、須恵器片口鉢（D125 ～ D127）、須恵器椀（D129 ～ D138）、須恵器壷（D120）、軒平瓦（D139・D140）、丸瓦（D141・D142）、平瓦（D143・D144）が出土した。

⑯ SK58（図版 108・113）

北区北西部に位置する。長軸約 1.5 m、短軸約 80㎝、深さ約 20㎝を測る、平面楕円形状を呈する。断面形は、擂鉢状を呈する。

出土遺物は、須恵器鉢（D145・D146）、須恵器椀（D147・D148）が出土した。

⑰ SK59（図版 108）

北区北西部やや中央よりに位置する。東西長約 1.3 m、南北長約 70㎝を測る、平面やや不定長方形状を呈する。

出土遺物は、須恵器椀（D149・D150）が出土した。

⑱ **SK62**（図版 108・113　写真図版 156）

北区北東隅に位置する。直径約 1.0 m、深さ約 50㎝を測る、平面円形状を呈し、土坑内に甕を埋設している他、須恵器椀、小皿等も出土している。調査区北東側のピット群に隣接していることから、地鎮等の性格も考えられる。

出土遺物は、須恵器椀（D151）、須恵器小皿（D152）、須恵器甕（D153・D154）が出土している。

2．溝

南北両区で検出した溝遺構については、居住域と水田域とを画すような働きを有している。本項では、遺物の多量廃棄が認められた SD05 の一部を除き、平面図は両区平面図（図版 107･108）で一括し、遺構名のみ明記し、個々については断面図を記載した。

① **SD04**（図版 107・115）

南区中央部東よりに位置する。検出長約 29 m、幅約 1 m、深さ約 10㎝を測る。一部暗渠（SD03）と掘方を共有し、南西から北東方向に伸びている。

出土遺物は、須恵器鉢（D155）、須恵器椀（D156・D157）が出土している。

② **SD05**（図版 107・114　写真図版 157）

南区南東側に位置する。南北方向の溝（長さ約 9 m、幅約 1 m）と、東西方向の溝（長さ約 17 m、幅約 60㎝～ 2.2 m、西端の水溜部東西幅約 5.8 m）とが屈曲して平面形「L」字状を呈し、屈曲部は SK22 に切られる。断面形は、深さ約 7 ㎝～ 12㎝の極浅い半楕円形状を呈する。遺構の西端は、南北長約 5.8 m、東西長 5.7 m、深さ 30 ～ 35㎝の不定形土坑状に拡張していて、水溜状の土坑となっており、中央部から南側にかけて多量の土器群の集積が認められた。

出土遺物は、土師器甕（D158 ～ D165）、土師器杯（D166・D167）、土師器小皿（D168・D169）、土師器壷（D170）、須恵器鉢（D171・D172・D175 ～ D177）、須恵器片口鉢（D173・D174・D178・D179）、須恵器椀（D180･D197）、須恵器小皿（D198 ～ D206）、須恵器甕（D207 ～ D209）、白磁碗（D210）、軒丸瓦（D211）、丸瓦（D212）、平瓦（D213 ～ D215）が出土している。

③ **SD06**（図版 107・115）

南区中央部やや東よりに位置する。検出長約 8 m、幅約 1.4 m、深さ約 10㎝を測り、東側の SD04 とほぼ並行に伸びている。北側の掘方は、削平によるものか、不明瞭である。

出土遺物は、図化に至るものがなかった。

④ **SD51**（図版 108・115）

北区北西側に位置する。検出長約 3.2 m、幅約 50㎝、深さ約 5 ㎝を測る、南北方向に伸びる細い溝である。

出土遺物は、土師器杯（D216）、土師器托状皿（D217）、須恵器鉢（D218 ～ D220）、須恵器椀（D221 ～ D228）、須恵器小皿（D229）、丸瓦（D230）が出土している。

⑤ **SD52**（図版 108・115）

北区北側やや中央よりに位置する。長軸約 1.8 m、短軸約 60㎝、深さ約 12㎝を測る、細長い楕円形

状を呈する。断面形は、浅い擂鉢状を呈する。

出土遺物は、須恵器鉢（D231･D233）、須恵器片口鉢（D232）、須恵器椀（D234 ～ D236）、平瓦（D237）が出土している。

⑥ **SD57**（図版 108・115　写真図版 157）

北区中央部やや北よりに位置し、調査区を東西方向に横断している。検出長約 30 m、幅約２m（西端部で約 4.4 mに拡張）、深さ約 20 ～ 40㎝を測る。断面形は、概ね擂鉢状を呈する。

出土遺物は、軒平瓦（D238）が出土している。

⑦ **SD58**（図版 108・115）

北区中央部やや北よりの、調査区東側に位置する。検出長約 13 m、検出幅約３m、深さ約 20㎝を測る。北側の掘方は隣接する SD57 と共有しているため、同一遺構の可能性も考えられる。また、南側では SD70 を切っている。

出土遺物は、土師器羽釜（D239）、備前焼擂鉢（D240）、鬼瓦（D241）が出土している。

⑧ **SD59**（図版 108・116）

北区中央部に位置し、SD57 と約４mの距離を以て、ほぼ並列しながら伸びるが、途中で北側（SD62）、南側（SD68）と、二股に分かれる。検出長約 10 m、幅約１m、深さ約 20㎝を測る。

出土遺物は、図化に至ったものがなかった。

⑨ **SD60**（図版 108・116）

北区中央部から南側に位置し、流れの方向を SD57 ～ 59 よりも南北方向に振って伸びている。北側の掘方は SD59 に切られる。検出長約 25 m、幅約 70㎝、深さ約６～ 17㎝を測る。

出土遺物は、須恵器鉢（D242）が出土している。

⑩ **SD62**（図版 108・116）

北区中央部に位置し、SD57 と約４mの距離を以て、ほぼ並列しながら伸びる。東側では、SD59 から分岐し、SD68 ともほぼ並列しながら伸びる。検出長約 23 m、幅約１m、深さ約 15㎝を測る。

出土遺物は、土師器皿（D243）、須恵器鉢（D244･D245）、須恵器椀（D246･D247）、須恵器小皿（D248 ～ D252）、軒平瓦（D253）が出土している。

⑪ **SD68**（図版 108・116）

北区中央部に位置し、SD57 と約４mの距離を以て、ほぼ並列しながら伸びる。東側では、SD59 から分岐し、SD62 ともほぼ並列しながら伸びる。検出長約 23 m、幅約 70㎝、深さ約 12㎝を測る。

出土遺物は、須恵器鉢（D254 ～ D257）、須恵器椀（D258 ～ D262）、須恵器小皿（D263）が出土している。

⑫ **SD70**（図版 108・116）

北区中央部から南側に位置し、流れの方向を SD57 ～ 59 よりも南北方向に振って伸びている。隣接する SD60 とは、ほぼ並列して同一方向に伸びており、北側の掘方は SD58 に切られる。検出長約 23 m、幅約 40㎝～１m、深さ約５～ 17㎝を測る。

出土遺物は、須恵器片口鉢（D264・D265）、須恵器椀（D266 ～ D280）、須恵器片口椀（D281・D282）、須恵器小皿（D284・D285）が出土している。

３．小結

以上、当該地区の遺構について記述した。当該地区の南区と北区に見られる南北方向、及び東西方向の溝は、両区の南端、及び北端のピット群と水田域を画す溝であることは、先にも述べた。特に北区の溝については、比較的南北方向よりに振って伸びる SD60・SD70 に対して、その掘方を一部切りながら方向を違えて伸びる SD58・SD59 が存在し、更にその北側に同一方向の溝 SD57・SD58 が存在するが、これらの溝の検出状況からは、時期が下がるに従って、溝の付け替えが行われ、水田が北側へ拡張していった事が考えられる。これは、集落規模の拡大に呼応するものと考えられ、両区端で検出されたピット群を境とした居住域の様相が窺える。また、北区ピット群の境まで拡張した溝（SD57 ～ SD59）からは、その出土遺物から集落の存続時期も想定されよう。

第３節　遺物

当該地区の出土遺物は、窯本体から出土したものではないが、ほぼ同時期の須恵器及び瓦等が出土した窯跡の資料として、既刊の『神出窯跡群Ⅰ』での器種分類が成されている。そこで、須恵器及び瓦の記述については、『神出窯跡群Ⅰ』の分類を参考にして、遺構及び包含層等別に、器種毎にまとめて記述する。なお、詳細については、『神出窯跡群Ⅰ』を参照されたい。また、遺物の法量等の内容については、本文末尾に掲載する遺物観察表（第 4 表　出土遺物一覧表）の通りである。

１．ピット

① **P02**（図版 117　写真図版 158）

D01 は、須恵器椀 A1 類の底部である。

② **P09**（図版 117　写真図版 158）

D02 は、須恵器椀 A1 類である。

③ **P40**（図版 117　写真図版 158）

D03 は、須恵器小皿 B 類である。

２．土坑

① **SK01**（図版 117　写真図版 158・172）

D04 は、土師器小皿である。

D05 は、土師器杯である。

D06 は、須恵器壷 D 類の体部である。

D07・08 は、須恵器鉢 B1 類の口縁部である。

② **SK02**（図版 117　写真図版 172）

D09 は、須恵器鉢 B2 類の口縁部である。

D10 は、須恵器椀の口縁部である

③ **SK03**（図版 117　写真図版 172）

D11 は、須恵器鉢 B2 類である。

④ **SK04**（図版 117　写真図版 172）

D12 は、須恵器鉢 A1 類である。D13 は、須恵器鉢 A3 類である。

D14 は、須恵器椀の口縁部である。

⑤ SK05（図版 117　写真図版 172）

D15 は、須恵器鉢の底部である。

⑥ SK06（図版 117　写真図版 172）

D16・D17 は、須恵器鉢 A1 類である。

⑦ SK07（図版 117　写真図版 172）

D18 は、須恵器鉢 A4 類である。

D19 は、須恵器椀の口縁部である。

⑧ SK09（図版 117 ～ 121　写真図版 158 ～ 162・172 ～ 174・183・185）

D20 ～ D23 は土師器甕の上半部である。D20・D23 は、口縁部が僅かに内湾し、D21・D22 は、僅かに外反する。

D24･D25 は､土師器羽釜である。D24 は､口縁部のみで､口縁端部が内側に若干突出する。D25 は、底部が欠損している。口縁部は丸身をもつ。

D26 は、土師器托状皿の底部である。

D27 ～ D34 は、土師器小皿である。この内、D28 は、体部が僅かに内湾し、その他は、開きながら立ち上がるものである。

D35 ～ D38 は、土師器椀である。形態は、須恵器椀 A 類に類似している。

D43 は、須恵器鉢 A2 類である。

D42 は、須恵器鉢 A3 類である。

D41・D45・D47・D52 は、須恵器鉢 B1 類である。

D39・D40・D44・D46・D50・D53 ～ D56 は、須恵器鉢 B2 類である。

D61・D66 は、須恵器椀 A2 類である。

D57 ～ D60・D62 ～ D65・D68 は、須恵器椀 B 類である。

D72 は、須恵器小皿 B 類である。

D70・D71・D73 ～ D76 は、須恵器小皿 C 類である。

D77 は、須恵器甕の口縁部である。甕 A3 類に類似すると思われる。

D69 は、白磁碗の口縁部である。口縁端部が屈曲し、上端部で面を成す。

D78 は、鬼瓦の一部である。

D79 は軒丸瓦の一部である。残りが悪いため、文様等は不明だが、珠文帯は認められない。

D80・D81 は平瓦である。D80 は、凹部に布目、凸部に斜行叩きが残る。また、D81 は、凹部に布目が残り、凸部は無段叩きである。

⑨ SK12（図版 121　写真図版番号 162）

D82 は、須恵器鉢 A1 類である。

D83 は、須恵器輪高台付椀の底部である。

⑩ SK14（図版 121　写真図版番号 162）

D84 は、土師器椀である。須恵器椀 A2 類に同じである。

D85 は、須恵器椀 A1 類である。

⑪ SK16（図版 122・123　写真図版 162・164 ～ 183）

D86 は、土師器杯である。底部が欠損している。

D87・D91 は、須恵器小鉢である。口縁部の形状は、須恵器鉢 A1 類に類似する。更に D91 は、片口鉢となっている。

D88 は、須恵器鉢の底部である。

D90・D91 は須恵器鉢 A1 類である。

D94・D95・D97・D100・D101・D103・D104・D107・D108 は、須恵器椀 A1 類である。

D92・D96・D98・D99・D102・D105・D106 は、須恵器椀 A2 類である。

D93 は、須恵器椀 B 類である。

D109 は、軒丸瓦である。瓦当文様は、単弁蓮華文である。

⑫ **SK17**（図版 123・137　写真図版 165・172・192）

D110 ～ D112 は、須恵器椀 A2 類である。この内、D122 は、底部が欠損している。

DS01 は、磨製の石製品である。片半部が欠損しており、全体の形状は不明である。１箇所に紐通しのためか、小穴が穿たれている。

⑬ **SK22**（図版 123　写真図版 172）

D113 は、須恵器椀 A2 類である。

⑭ **SK56**（第３図　写真図版 192）

DW01 は、ヒノキ柾目材を用いた板材である。一端部を表面側からのみ削って斜めに薄く作っており、端部付近の不規則な位置に釘孔と思われる穿孔が３ヶ所みられる。一長側に沿ってやや薄く作られており、側面中央部が窪んでいるが、加工痕は確認できない。田下駄などの部材の可能性がある。残存長 24.8㎝、幅 8.45㎝、厚さ 0.95㎝を測る。

DC01 は、炭化物の塊である。籾の塊と考えられる。

⑮ **SK57**（図版 123 ～ 127　写真図版 165・174・175・184 ～ 186）

D114 は、土師器甕の口縁部付近である。緩い屈曲から僅かに外反する。

D115 ～ D117 は、土師器 C 類である。

D121 は、須恵器鉢 A3 類である。

D119・D125・D127 は、須恵器鉢 B1 類である。

D118・D126 は、須恵器鉢 B2 類である。

D122・D124 は、須恵器鉢 B4 類である。

D123 は、須恵器鉢の底部である。

D128 は、須恵器小鉢である。口縁部の形状は、須恵器鉢 B 類に類似する。

D130・D134・D136・D138 は、須恵器椀 A2 類である。

D129・D131 ～ D133・D137 は、須恵器椀 B 類である。

D135 は、須恵器椀の口縁部である。

D120 は、須恵器壷の底部と考えられる。

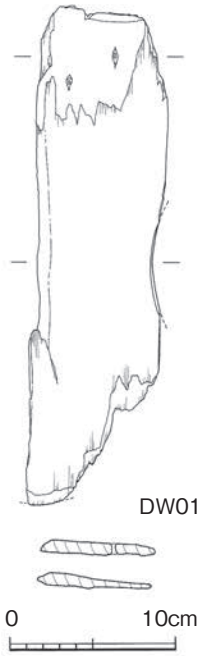
D139 は、軒平瓦である。瓦当文様は、連珠文である。

D140 は、軒平瓦である。瓦当文様は、半截華文である。

D141・D142 は、丸瓦である。凹部には布目が残る。

D143・D144 は、平瓦である。凹部には布目、凸部には格子叩きが残る。

⑯ **SK58**（図版 127　写真図版 176）



第３図　SK56
出土木器（1/4）

D145 は、須恵器鉢 B 類である。

D146 は、須恵器鉢の底部である。

D147・D148 は、須恵器椀 B 類である。

⑰ SK59（図版 127　写真図版 176）

出土遺物は、須恵器椀 D149・D150 は、須恵器椀である。共に底部が欠損している。D149 は、口縁端部にかけてやや外反する。

⑱ SK62（図版 127　写真図版 166・176）

D151 は、須恵器椀 B 類である。

D152 は、須恵器小皿 C 類である。

D153 は須恵器甕 A2 類と考えられる甕の口縁部である。また、D154 は、須恵器甕の体部下半部である。接合はしないが、同一個体の可能性が高い。

2．溝

① SD04（図版 127　写真図版 177・166）

D155 は、須恵器鉢 B1 類である。

D156・D157 は、須恵器椀 B 類である。

② SD05（図版 128 ～ 131　写真図版 166 ～ 168・178 ～ 179・183・186・189・190）

D158 ～ D165 は、土師器甕である。D158・D159・D163 ～ D165 は、くの字から短く外反しながら立ち上がる口縁部を持ち、D160 は、やや内湾しながら立ち上がるくの字状口縁部である。D161 は、直線的に開く、くの字状口縁部である。D162 は、緩い屈曲から上方に立ち上がり、端部で外反する口縁部を持つ、比較的小型の甕である。

D166 は、土師器椀である。須恵器椀 A2 類に類似する。D167 は、土師器椀の底部である。

D168・D169 土師器小皿である。須恵器小皿 C に類似する。

D170 土師器壷の底部と考えられる。

D171・D172・D176・D178・D179 は、須恵器鉢 A1 類である。

D175 は、須恵器鉢 A4 類である。

D173 は須恵器鉢 B1 類である。

D177 は、須恵器鉢 B2 類である。

D174 は、須恵器小鉢である。口縁部の形状は須恵器鉢 A1 類に類似する。

D191 は、須恵器椀 A1 類である。

D182・D184・D185・D194 ～ D196 は、須恵器椀 A2 類である。

D180・D181・D183・D186 ～ D190・D192・D193・D197 は、須恵器椀 B 類である。

D198・～ D205 は、須恵器小皿 B 類である。

D206 は、須恵器小皿 C 類である。

D207 ～ D209 は、須恵器甕の口縁部である。D207 は、甕 A1 類、D208・D209 は甕 A2 類に近いと考えられる。

D210 は、白磁碗の底部である。内面には施釉が認められる。

D211 は、軒丸瓦である。瓦当文様は一部が欠損しており、不明瞭な部分もあるが、複弁八葉蓮

華文と考えられる。

D212 は丸瓦である。凹部には布目が残る。

D213 ～ D215 は、平瓦である。D213・D214 は、凹部に布目、凸部に格子叩きが残る。また、D215 も不明瞭ながら、凹部に布目、凸部に格子叩きが残る。

③ **SD51**（図版 131・132　写真図版 169・179・180・190）

D216 は、土師器椀である。僅かに内湾気味に立ち上がる体部をもつ。

D217 は、土師器托状皿の底部である。

D218 ～ D220 は、須恵器鉢 B2 類である。

D228 は、須恵器椀 A2 類である。

D221 ～ D227 は、須恵器椀 B 類である。

D229 は、須恵器小皿 B 類である。

D230 は、丸瓦である。凹部に布目が残る。）

④ **SD52**（図版 132・133　写真図版 169・180・186）

D232 は、須恵器鉢 A1 類である。

D231 は、須恵器鉢 B4 類である。

D233 は、須恵器鉢の底部であるが、僅かに輪高台を付すものである。

D232 は、須恵器椀（D234・D235 は、須恵器椀 A2 類である。

D236 は、須恵器椀の底部である。

D237 は、平瓦である。凹部に布目が残り、凸部は叩き後撫でるようである。

⑤ **SD57**（図版 133　写真図版 185）

D238 は、軒平瓦である。瓦当文様は、縦方向直線の中心飾りに中心上部から左右に開く波状文の周囲に界線を巡らすものである。

⑥ **SD58**（図版 133　写真図版 181・183）

D239 は、土師器羽釜の鍔部である。

D240 は、備前焼擂鉢の底部である。内面に若干擂り目が残る。

D241 は、鬼瓦の一部である。

⑦ **SD60**（図版 133　写真図版 181）

D242 は、須恵器鉢 B2 類である。

⑧ **SD62**（図版 133　写真図版 169・170・181・187）

D243 は、土師器杯である。浅く、直線的に開く体部を持つ。

D244 は、須恵器鉢 A3 類である。

D245 は、須恵器輪高台付鉢の底部である。

D246・D247 は、須恵器椀 A2 類である。

D248 は、須恵器小皿 A である。

D249 ～ D252 は、須恵器小皿 B 類である。

D253 は、軒平瓦である。瓦当文様は、均整唐草文の一部で、周囲に界線が巡る。

⑨ **SD68**（図版 134　写真図版 170・182）

D255 ～ D257 は、須恵器鉢 A1 類である。

D254 は、須恵器鉢 A3 類である。

D259 は、須恵器椀 A2 類である。

D258・D260 ～ D262 は、須恵器椀 B 類である。

D263 は須恵器小皿 B 類である。

⑫ **SD70**（図版 134・135　写真図版 170・171・182）

D264 は、須恵器鉢 A1 類である。

D265 は、須恵器鉢 A3 類である。

D267・D268・D27 1 ～ D273・D277 ～ D279 は、須恵器椀 A2 類である。

D266・D269・D270・D274D ～ D276・D280 は、須恵器椀 B 類である。

D281・D282 は、須恵器片口椀である。

D284・D285 は須恵器小皿 B 類である。

3. 包含層他　（図版 135 ～ 137　写真図版 187・191・192）

D285・D286 は、鬼瓦の一部である。

D287 は、軒丸瓦である。瓦当文様は、蓮華文を配さず、中房に１＋８の蓮子を持ち、更に中房を囲む様に２重の圏線が巡っている。

D288 は、軒平瓦である。瓦当文様は均整唐草文である。

D289 は、軒平瓦である。瓦当文様は、状態が悪く、不明である。

D290 は、丸瓦である。凹部に布目が残る。玉縁部に、釘穴を有する。

D291 は、平瓦である。凹部に布目、凸部に無段叩きが残る。

D292 は、須恵器鉢 A1 類の口縁部である。

D293 ～ D296 は、須恵器小皿 B 類である。

D297 は、須恵器小皿 C 類である。

D298 は、須恵器の小壷である。浅く、やや拉げた体部から、短く上方に立ち上がる口縁部を持つ。

D299 は、鬼瓦の一部である。小片であり、全体の文様構成は不明である。

D300 は、軒丸瓦である。瓦当文様は、複弁八葉蓮華文である。

D301・D302 は、軒丸瓦である。瓦当文様は、残りが悪く不明瞭だが、単弁の蓮華文であろう。

D303 は、軒丸瓦である。瓦当文様は、残りが悪く不明瞭だが、珠文帯と圏線の内側に細く尖った線が見える事から、巴文と考えられる。

D304 ～ D307 は、軒平瓦である。瓦当文様は、小片であり、詳細は不明瞭だが、均整唐草文である。

D308 は、完形の丸瓦である。凹部に布目が残る。

D309 は、丸瓦である。凹部に布目が残る。

D310 は軒丸瓦である。瓦当文様は、小片であり、不明だが、巴文と考えられる。

DS02 は、石製の打製剥片である。

DM01 は、古銭である。銭貨名は、「景徳元寳」（初鋳造年代西暦 1004 年の北宋銭）である。

DM01

第４図　出土金属器（1/1）

第７章　総括

第１節　神出遺跡・神出窯跡群出土木製品の樹種同定

植田弥生（パレオ・ラボ）

１．はじめに

ここでは、窯業生産地の中世集落跡 (12 世紀前半～ 13 世紀前半) から出土した木製品 11 点の樹種同定結果を報告する。

２．試料と方法

木製品から材の 3 方向 (横断面・接線断面・放射断面) を見定めて、剃刀を用い各方向の薄い切片を剥ぎ取り、スライドガラスに並べ、ガムクロラールで封入し、永久プレパラート (材組織標本) を作成した。この材組織標本を、光学顕微鏡で 40 ～ 400 倍に拡大し観察した。

材組織標本は、兵庫県埋蔵文化財調査事務所に保管されている。

３．結果

同定結果を表１に示した。検出分類群は、コウヤマキ (2 点)･ ヒノキ (5 点) の針葉樹 2 分類群、コナラ節 (1 点)･ クリ (1 点) の落葉広葉樹 2 分類群、シイノキ属 (1 点)･ ヒサカキ (1 点) の常緑広葉樹 2 分類群であった。

以下に同定根拠とした材組織の特徴を記載し、材の３方向の組織写真を提示した。

(1) コウヤマキ　Sciadopitys　verticillata　Sieb.　et　Zucc.　コウヤマキ科　図５　1a-1c(95023-01: 柱根)

仮道管・放射柔細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかである。分野壁孔は窓状である。樹脂道、放射仮道管は無い。

コウヤマキは日本特産の１属１種の常緑高木である。本州の福島県以南・四国・九州の宮崎県の暖帯上部から温帯の山地に分布し、特に長野県の木曽、和歌山県の高野山に多い。材は耐久性・耐水性・耐蟻性に優れる。

(2) ヒノキ　Chamaecyparis obtusa Endl.　ヒノキ科　図５　2a-2c(970409-38: 刀形 ?)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量は少ない。分野壁孔の孔口はやや斜めに細く開いたヒノキ型、１分野におもに２個が水平に整然と配列する。

ヒノキは本州の福島県以南・四国・九州のやや乾燥した尾根や岩上に生育し、材は耐久性・切削性・割裂性にすぐれる。

(3) コナラ属コナラ亜属コナラ節　Quercus subgen. Quercus sect. Prinus　ブナ科　図５　3a-3c(970409-34: 棒状)

年輪の始めに中型の管孔が配列し急に径を減じ、晩材部では薄壁で多角形の非常に小型の管孔が火炎状・放射方向に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、内腔にチロースがある。放射組織は単列のものと広放射組織がある。

コナラ節は暖帯から温帯に生育する落葉高木でカシワ・ミズナラ・コナラ・ナラガシワがあり、特に人里近くに普通の樹種で入手しやすい。

(4) クリ　Castanea-crenata Sieb. et Zucc.　ブナ科　図６　4a-4c(970409-01: 漆器椀)

年輪の始めに大型の管孔が密に配列し除々に径を減じてゆき、晩材では非常に小型の管孔が火炎状

に配列する環孔材。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単穿孔、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性、道管との壁孔は孔口が大きく交互状である。

クリは北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に普通の落葉高木である。材は粘りがあり耐朽性にすぐれている。

(5) シイノキ属 Castanopsis　ブナ科　図６　5a-5c(970409-02: 漆器椀)

年輪の始めに中型の管孔が間隔を開けて配列し除々に径を減じ、晩材では非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性である。年輪始めの管孔が間隔を開けて配置していることからクリとは異なりシイノキ属である。

シイノキ属は暖帯に生育する常緑高木で、関東以西に分布するツブラジイと福島県と新潟県佐渡以南に分布するスダジイがある。

(6) ヒサカキ　Eurya japonica Thunb.　ツバキ科　図６　6a-6c(970409-03: 椀 (容器))

非常に小型で多角形の管孔が密に分布する散孔材。道管の壁孔は交互状から階段状、穿孔は横棒数が非常に多い階段穿孔である。放射組織は異性、１～２細胞幅、道管との壁孔は交互状･階段状である。

ヒサカキは暖帯の林下にきわめて普通の常緑の小高木である。

４．考察

柱根２点はコウヤマキで、柱材として有用材が利用されていた。ヒノキも柱材として有用材であり、今回の調査では最も多く利用されていた樹種である。しかし、柱根はコウヤマキが使われていたことから、中世の窯業生産地の集落でもコウヤマキが入手容易であったようである。

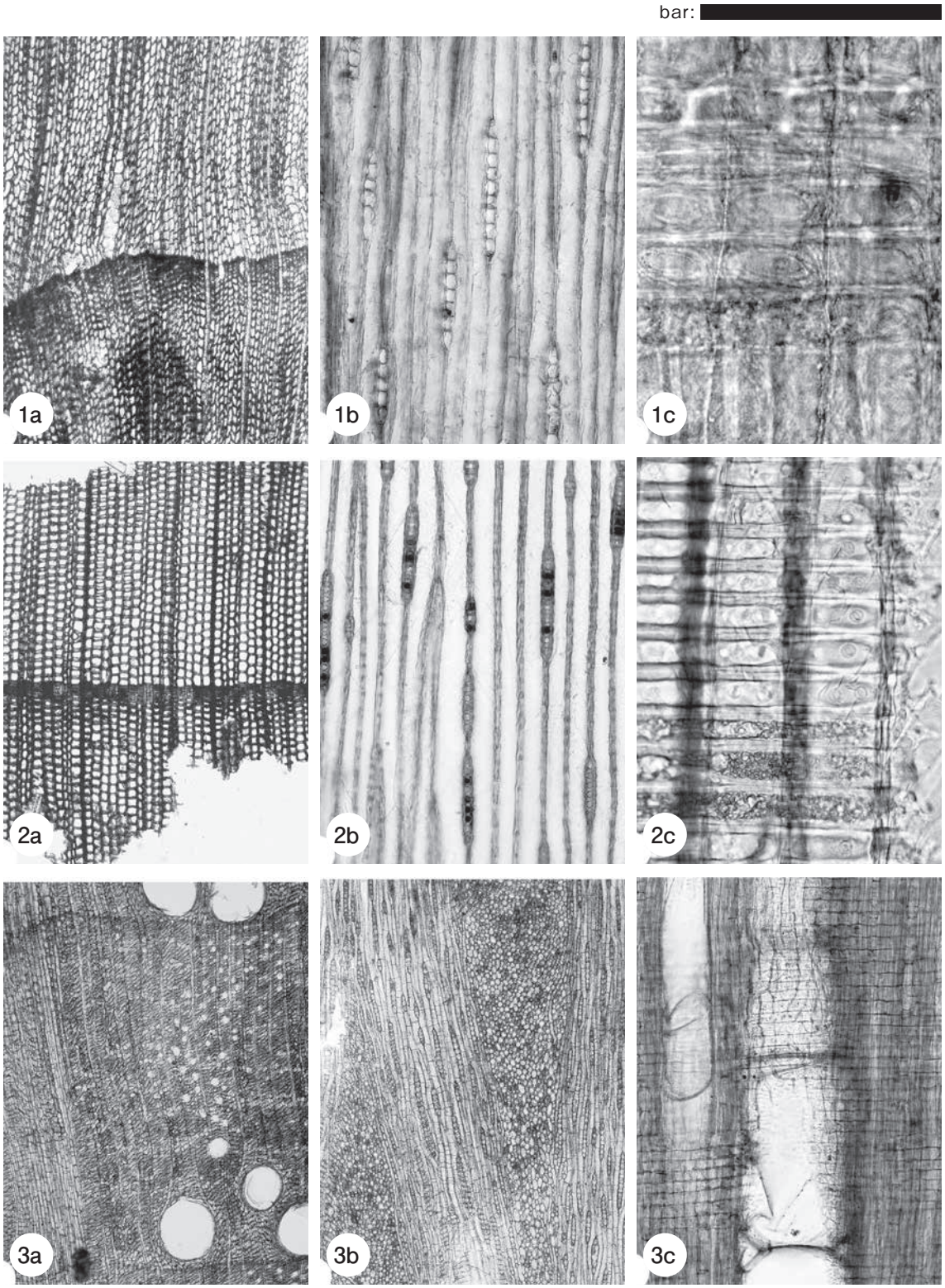
漆器椀はクリとシイノキ属、椀はヒサカキであった。容器木胎には、針葉樹と広葉樹の様々な樹種が利用されているが、シイノキ属とヒサカキの事例は多くないと思われる。

棒状はコナラ節で、芯持ち丸木材であったことからも、遺跡周辺で入手利用したものと思われる。

折敷底・刀形?･ 檜扇・箸・板材は、ヒノキであったが、当地域ではこのような木製品にはヒノキが多く利用されているので、当遺跡においても同様な樹種利用が確認された。

第３表　神出遺跡・神出窯跡群出土木器樹種同定一覧

登録番号	報告番号	品名	樹種	時期
950230-01		柱根	コウヤマキ	(平安時代～) 中世
950230-02		柱根	コウヤマキ	(平安時代～) 中世
970409-01	CW06	漆器椀	クリ	(平安時代～) 中世
970409-02	CW07	漆器椀	シイノキ属	(平安時代～) 中世
970409-03	CW01	椀 (容器)	ヒサカキ	(平安時代～) 中世
970409-14	CW10	折敷底	ヒノキ	(平安時代～) 中世
970409-34	CW02	棒状	コナラ節	(平安時代～) 中世
970409-38	CW03	刀形？	ヒノキ	(平安時代～) 中世
970409-44	CW11	檜扇	ヒノキ	(平安時代～) 中世
970409-56	CW09	箸	ヒノキ	(平安時代～) 中世
980128-02	DW01	板材	ヒノキ	(平安時代～) 中世

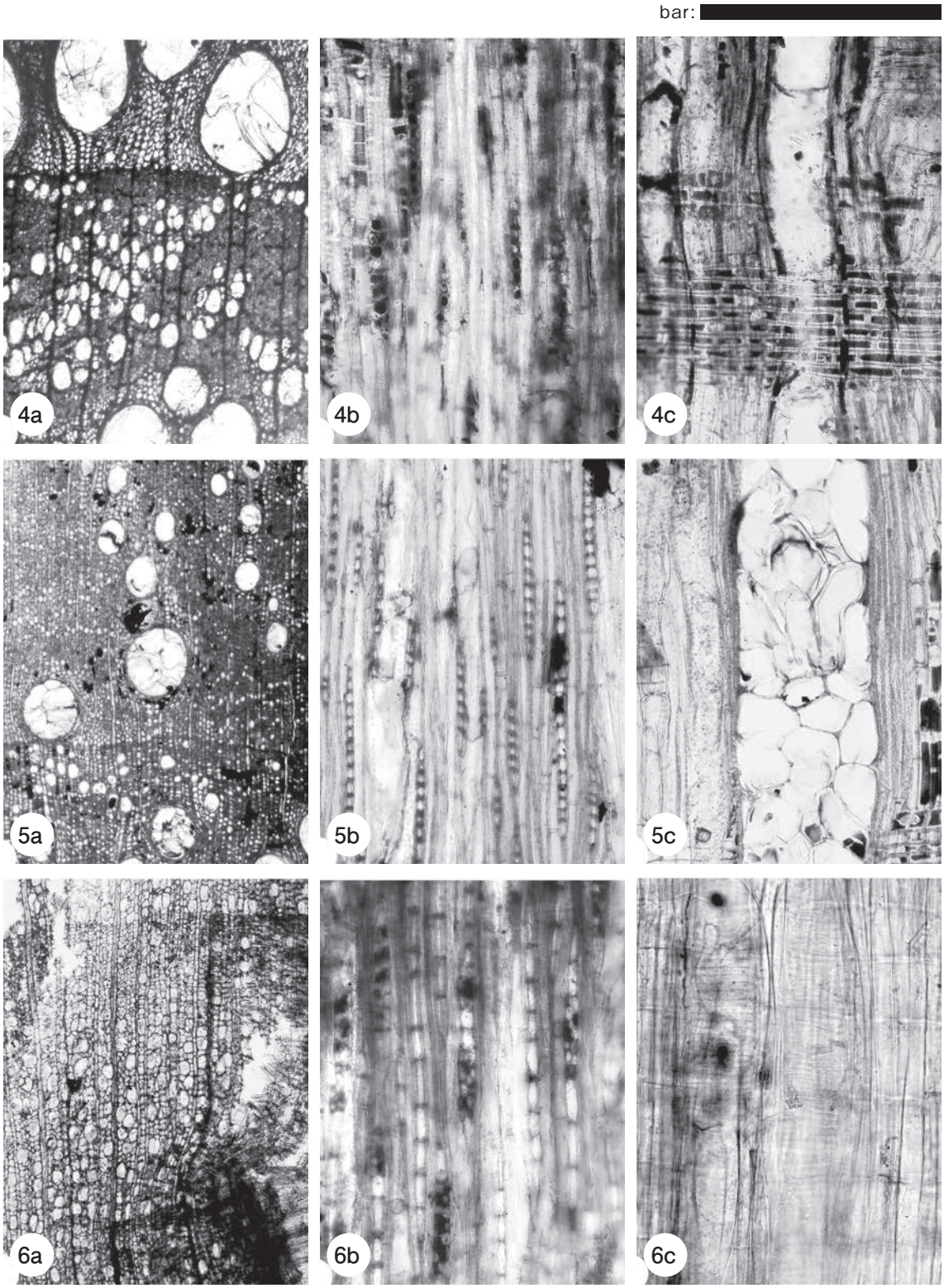


第５図　神出遺跡・神出窯跡群出土木製品材組織の光学顕微鏡写真

1a-1c: コウヤマキ (950230-01: 柱根)　2a-2c: ヒノキ (970409-38: 刀形 ?)

3a-3c: コナラ節 (970409-34: 棒状)

a: 横断面　b: 接線断面　c: 放射断面　bar:a･3b=1.0mm, 1b･2b･3c=0.4mm, 1c･2c=0.1mm.



第６図　神出遺跡・神出窯跡群出土木製品材組織の光学顕微鏡写真

4a-4c: クリ (970409-01: 漆器椀)　5a-5c: シイノキ属 (970409-02: 漆器椀)

6a-6c: ヒサカキ (970409-03: 椀 (容器))

a: 横断面　b: 接線断面　c: 放射断面　bar:a=1.0mm, b･4c･5c =0.4mm, 6c=0.2mm.

第２節　まとめ

第３章～第６章において、各調査地区の遺構・遺物について記述した。本報告の調査地区は、道路事業路線内にあって、地理的立地状況等により、窯跡の存在を窺わせる、或いは須恵器生産の工房跡の様相を窺わせる等、それぞれ異なる遺構・遺物の状況を示している。

本項では、各調査地区の調査結果で認められた点を踏まえて、当該地周辺の様相を述べ、本報告のまとめとしたい。

①操業時期のこと

当該調査地区は、西から東に大きく入り込んだ谷部（またそれから派生する小谷）と、それを中心とする南北の台地上とに分かれる。窯本体は、この谷（またその小谷）に沿って、台地上に向かって築造される。本報告における谷部の調査では、Ｃ地区で灰原の堆積を検出した他、Ｂ地区で窯跡の残骸土坑（窯壁塊等が集積した土坑であるが、最終的には窯跡ではないと判断された）を検出したが、窯本体は検出できなかった。ただし、Ｂ地区と同一地形上の西側で窯本体が確認されており、Ｃ地区で灰原が存在する事も考慮すると近隣に窯本体が存在する事は間違いない。では、当該調査範囲において、窯業生産がどのように開始し、どのように終焉を迎えるのだろうか。

Ａ～Ｄ地区の内、Ａ・Ｂ・Ｄ地区については、（近世等神出窯以外の時期を除いて）出土土器から、（12世紀後半～ 13 世紀後半といった）ほぼ同時期、或いはあまり大差がない。Ｃ地区については、第１から第４の時期に分類される土器群の中で、最も古い時期を示す第１グループは、10 世紀半ば前後であり、主に土坑等から出土している。続いて第２グループは、12 世紀初頭頃であり、これも主に土坑からの出土となっている。窯本体との関連が強い主に灰原、及び流路（SR01）から出土の第３グループは、12 世紀前半頃である。また、第４グループは、12 世紀後半代であり、主に流路（SR01）内から多量に出土している。

上記において、①最も古い土器群示す第１グループの土器が出土した SK04 は、削平され窯体が失われている窯本体に伴う遺構であり、②続く灰原下の土坑群出土の第２グループと、灰原出土の土器を中心とした土器群である第３グループ、③最も新しい流路出土の第４グループと、大きく３つに分類され、当該地区に隣接して３基程の窯の存在が窺える。従って、当該地区の操業開始時期は、10 世紀半ば前後であり、その後に若干の空白時期経て、12 世紀初頭頃に再開される。また、第３グループと、最も新しい第４グループの時期では、近隣のＤ地区の水田拡張前後の土器群と対応すると考えられるため、当該時期の両地区周辺での土地利用の変化が窺える。そして、第４グループの時期には、その他の地区においても同時期の土器が集中的に認められ、神出窯として最盛期を迎える。

さて、その後の操業終焉時期についてであるが、工房跡に伴う施設と考えられるＡ地区の大型掘立柱建物（SB03）において、主柱穴の柱痕埋土から 13 世紀後半の土器が出土している。これを遺構の下限時期と考えてよいならば、当該時期を操業終焉と捉えることができよう。

②Ａ地区出土の輸入陶磁器とＣ地区出土の檜扇のこと

工房跡と考えられる遺構を検出したＡ地区からは、図化したもの（及び写真のみのもの）で青磁が７点、白磁が１点出土しており、Ａ～Ｄ地区を通しても出土量が突出している。この内、SB03 の柱穴（柱痕）内で出土した１点（A144）を除くと、全て包含層、及び盛土層からの出土である。その出土状況から、近隣地からの流入、或いは近隣地の削平による混入が考えられ、遺構内の出土が僅少であることも踏まえ

ると、近隣地における集落跡の存在が想定される。出土した青磁及び白磁は、ほぼ３つの時期のまとまりで捉えられ、①白磁（A140：底部片のみだが）が 11 世紀代、②同安窯系青磁皿（A137）・龍泉窯系青磁碗（A134・A135・A144）が 12 世紀後半～ 13 世紀前半、③龍泉窯系青磁碗（A136）・龍泉窯系青磁輪花皿（A138・A139）が 15 世紀後半以降と考えられる。この内、②については、片口鉢生産を中心とした神出窯最盛期に重なっており、これら輸入陶磁器が、製品の流通過程において、消費地から持ち込まれたものと考えられる。

Ｃ地区の流路（SR01）からは、檜扇（CW11）が出土している。檜扇は、柾目の檜の薄板を重ね、下端の穴に糸を通して要とし、上端を糸で綴った扇で、衣冠、または直衣において、笏にかえて用いるものである。即ち、皇族や貴族、（受領、国司クラスも？）等、高い身分を象徴するものと言える。遺跡からの出土例としては、平城京左京三条二坊の長屋王邸跡（奈良時代）、美作国府跡（奈良時代）、平安京跡・鳥羽離宮跡（平安時代：12 ～ 13 世紀）等がある。

森田　稔氏によれば、「神出古窯址群をはじめとする東播系諸窯は、その成立のはじめは多かれ少なかれ受領または国衙機構の影響を受けて発展」し、その後、「受領や国衙機構の支配力行使の衰退化」に伴い「当初から基礎的な経営部分を担っていた在庁官人層に代表される在地勢力」が、「日常雑器生産およびその交易、または流通に積極的に介入して来た」としている。

檜扇といった、当時の身分の高さを象徴するとも言えるものが出土したことは、この様なものを持ち得る階層、入手し得る階層の存在を考えるに難はない。それが、受領や国司、または在庁官人層に代表される在地勢力であるかは定かでないが、窯業生産に係る直接的･間接的、且つ積極的介入を背景とした、様々な交流の中で、入手に至ったものと思われる。

さて、檜扇が SR01 に廃棄？されたのは、出土土器の時期から、神出窯最盛期に当る上記②の時期と考えられる。これが、前述の在地勢力の積極的な経営介入が行われたのと同時期と考えてよければ、１枚の檜扇が須恵器（瓦）生産工人集団に対する、在庁官人層の経営介入の度合いを象徴するものと言えるのではなかろうか。また、こういった事を背景に、輸入陶磁器の入手等にもつながったとも言えよう。

神出古窯址群は、重源による魚住泊の改修を契機に、13 世紀前半頃を画期とする、工人集団の魚住赤根川への再編を境に、急速に衰退・消滅するということで、これは、Ａ地区の SB03 の埋没時期が 13 世紀後半と考えられる事、これを以て当該地における窯業生産の終焉を迎えると想定される事を、補完するものと言える。

参考文献

森田　稔「東播系中世須恵器生産の成立と展開－神出古窯跡群を中心に－」『神戸市立博物館研究紀要』３ 1986

森田　稔「東播系中世須恵器の生産と流通」『中近世土器の基礎研究』Ⅲ　日本中世土器研究会　1987

第４表　出土遺物一覧表

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
A地区確認調査												
AI01	7	7	須恵器	片口鉢	(28.3)	9.35	(9.3)				№2トレンチ	土器溜
AI02	7	5	須恵器	鉢	(29.6)	(9.5)					№2トレンチ	土器溜
AI03	7	5	須恵器	鉢	(30.4)	(8.8)	-				№2トレンチ	土器溜
AI04	7	5	須恵器	鉢	(27.6)	(9.15)	-				№2トレンチ	
AI05	7	5	須恵器	鉢	(31.2)	10.25	(9.4)				№2トレンチ	土器溜
AI06	7	5	土師器	杯	(14.3)	2.95	(9.0)				№2トレンチ	土器溜
AI07	7	5	土師器	小皿	(7.7)	1.1	(6.7)				№2トレンチ	土器溜
AI08	7	5	須恵器	杯	(15.0)	(2.2)	-				№2トレンチ	土器溜
AI09	7	5	須恵器	小皿	(9.85)	1.65	(5.55)				№2トレンチ	土器溜
AI10	7	5	須恵器	鉢	(31.9)	(10.25)	-				№8トレンチ	
AI11	7	5	須恵器	鉢	(27.7)	(8.4)	-				№8トレンチ	
AI12	7	5	須恵器	鉢	(29.1)	8.25	(9.9)				№8トレンチ	
AI13	7	5	須恵器	鉢	(29.8)	(9.35)	-				№8トレンチ	
AI14	7	5	須恵器	片口鉢	(30.0)	(8.85)	-				№8トレンチ	
AI15	7	5	須恵器	鉢	-	(7.35)	8.1				№8トレンチ	
AI16	7	5	須恵器	椀	(15.4)	(4.15)	-				№8トレンチ	
AI17	8	6	須恵器	鉢	(29.8)	(6.5)	-				№3トレンチ	SP04
AI18	8	6	須恵器	椀	(15.2)	(3.95)	-				№3トレンチ	SP07
AI19	8	3	須恵器	甕	(24.55)	(6.5)	-				№3トレンチ 中央	
AI20	8	3	須恵器	椀	(15.6)	4.0	5.1				№3トレンチ	雨落溝
AI21	8	6	須恵器	椀	(16.2)	3.7	(8.1)				№3トレンチ	雨落溝
AI22	8	6	須恵器	椀	(16.3)	(3.8)	-				№3トレンチ	雨落溝
AI23	8	6	須恵器	小皿	(8.4)	1.4	(5.0)				№3トレンチ	
AI24	8	6	須恵器	小皿	(8.0)	1.3	(4.9)				№3トレンチ	雨落溝
AI25	8	7	須恵器	鉢	(29.6)	10.45	(10.0)				№3トレンチ 中央	
AI26	8	6	須恵器	鉢	(28.4)	(8.25)	-				№3トレンチ 中央部落ち込み	
AI27	8	3	須恵器	椀	(15.2)	4.65	6.0				№3トレンチ	土坑 (土器溜)
AI28	8	8	須恵器	椀	(15.6)	4.5	6.5				№3トレンチ 中央	
AI29	8	3	須恵器	椀	15.1	4.45	7.5				№3トレンチ 中央部	
AI30	8	8	須恵器	椀	(15.7)	4.85	6.2				№3トレンチ 中央部	
AI31	8	3	須恵器	椀	(14.8)	4.1	(5.7)				№3トレンチ 中央部	

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
AI32	8	8	須恵器	椀	(19.4)	(4.6)	-				№3トレンチ中央部	
AI33	8	6	須恵器	椀	(15.4)	3.85	(6.7)				№3トレンチ中央部落ち込み	
AI34	8	8	須恵質	土錘				9.85	5.65		№3トレンチ中央部	
AI35	8	4	須恵器	蓋	5.65	2.6					№3トレンチ中央部	
AI36	9	3	須恵器	鉢	(29.55)	10.7	8.0				№3トレンチ中央部	
AI37	9	7	須恵器	鉢	(27.4)	10.0	(10.1)				№3トレンチ中央・西部	
AI38	9	4	須恵器	鉢	(28.8)	9.8	(7.6)				№3トレンチ	
AI39	9	3	須恵器	鉢	(28.4)	10.7	9.05				№3トレンチ中央・西部	
AI40	9	6	須恵器	鉢	(27.7)	(7.0)	-				№3トレンチ西部	
AI41	9	6	須恵器	鉢	(27.5)	(7.1)	-				№3トレンチ西部	
AI42	9	7	須恵器	鉢	-	(7.3)	(9.9)				№3トレンチ	
AI43	9	7	須恵器	鉢	-	(5.2)	11.35				№3トレンチ	
AI44	9	3	須恵器	小皿	(7.7)	1.65	(4.1)				№3トレンチ中央	
AI45	9	8	須恵器	小皿	(8.8)	1.1	(5.4)				№3トレンチ中央部	
AI46	9	8	須恵器	椀	(18.9)	5.1	(7.7)				№3トレンチ	
AI47	9	3	須恵器	椀	(18.2)	4.8	(8.0)				№3トレンチ中央部	
AI48	9	8	須恵器	椀	(16.8)	(4.25)	-				№3トレンチ	
AI49	9	3	須恵器	椀	(14.4)	4.6	(4.55)				№3トレンチ中央	
AI50	9	3	須恵器	椀	(15.0)	4.55	(5.3)				№3トレンチ中央	
AI51	9	8	須恵器	椀	(14.7)	4.0	(5.9)				№3トレンチ中央・西部	
AI52	9	8	須恵器	椀	(15.4)	(3.95)	-				№3トレンチ中央・西部	
AI53	9	6	須恵器	椀	(14.6)	(3.8)	-				№3トレンチ西部	
AI54	9	8	須恵器	椀	(15.6)	3.3	(6.6)				№3トレンチ中央・西部	
AI55	9		須恵器	椀	(14.6)	(4.3)	(6.5)				№3トレンチ中央部	
AI56	9	8	青磁	合子	(4.05)	2.05	(4.2)				№3トレンチ	
AI57	9	7	土師器	鍋	(31.7)	(13.0)	-				№3トレンチ中央・西部	
AI58	9	8	土師器	羽釜	(22.4)	(4.9)	-				№3トレンチ中央・西部	
AI59	9	3	土師器	羽釜	(23.2)	(6.8)	-				№3トレンチ中央	
AI60	10	8	土師器	羽釜	(30.6)	(5.5)	-				№3トレンチ中央部	

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
AI61	10	6	須恵器	鉢	(26.8)	10.85	(9.65)				№3トレンチ中央部	
AI62	10	6	須恵器	片口鉢	(30.3)	(8.25)	-				№3トレンチ	
AI63	10	6	須恵器	鉢	(28.8)	(9.2)	-				№3トレンチ中央部	
AI64	10	6	須恵器	片口鉢	(30.2)	11.85	(10.1)				№3トレンチ中央部	
AI65	10	6	須恵器	片口鉢	(29.8)	(8.95)	-				№3トレンチ	
AI66	10	6	須恵器	鉢	(28.3)	(10.0)	-				№3トレンチ中央部	
AI67	10	6	須恵器	片口鉢	(27.9)	(9.1)	-				№3トレンチ中央部	
AI68	10	6	須恵器	鉢	-	(10.55)	(12.0)				№3トレンチ中央部	
AI69	10	6	須恵器	鉢	-	(9.0)	(8.45)				№3トレンチ	
AI70	10	6	須恵器	鉢	-	(9.4)	(8.5)				№3トレンチ	
AI71	10	7	須恵器	椀	(15.1)	4.4	(5.8)				№3トレンチ	
AI72	10	7	須恵器	椀	(16.6)	4.9	(7.7)				№3トレンチ中央部	
AI73	10	4	須恵器	椀	(16.9)	4.8	6.8				№3トレンチ	
AI74	10	7	須恵器	椀	(16.4)	(4.0)	-				№3トレンチ	
AI75	10	6	須恵器	椀又は鉢	(15.3)	(5.9)	-				№3トレンチ中央部	
AI76	10	7	須恵器	小皿	(8.4)	1.35	(6.1)				№3トレンチ中央部	
AI77	11	9	瓦	丸瓦				(12.0)	(9.75)	2.75	№3トレンチ中央部	
AI78	11	9	瓦	丸瓦				(18.95)	(8.3)	1.6	№3トレンチ中央部(西)	
AI79①	11	4	瓦	平瓦				(17.8)	19.6	2.15	№3トレンチ中央部	
AI79②	11	4	瓦	平瓦				(8.1)	19.6	2.15	№3トレンチ中央	
AI80	11	10	瓦	平瓦				(15.8)	(9.45)	1.8	№3トレンチ中央	
AI81	11		瓦	平瓦				(5.7)	(9.9)	2.5	№3トレンチ中央部	
AI82	11	62	瓦	軒丸瓦				(7.4)	瓦当径(4.6)	-	№3トレンチ	
AI83	12	10	瓦	平瓦				(18.85)	(12.35)	2.0	№3トレンチ	
AI84	12	10	瓦	平瓦				(17.35)	20.2	2.4	№3トレンチ	
AI85	12	4	須恵器	鉢	(29.2)	11.65	10.7				№6トレンチ西部	
AI86	12		須恵器	鉢	(29.6)	(10.75)	-				№6トレンチ中央部	
AI87	12	4	須恵器	鉢	(28.0)	10.5	8.7				№6トレンチ西部	
AI88	12	5	須恵器	片口鉢	(19.4)	(6.3)	-				№6トレンチ東半	
AI89	12	4	須恵器	小皿	7.2	1.2	4.4				№6トレンチ東半	

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
AI90		9	瓦	丸瓦				(12.4)	(8.1)	2.2	№3トレンチ中央	
AIM1	8	56	鉄器	釘				6.5	0.55	0.5	№3トレンチ	雨落溝
A地区												
A01	25	28	土師器	鍋	(33.2)	(12.8)	-					SB03 PD02
A02	25	28	土師器	甕	(23.9)	(5.1)	-					SB03 PB03
A03	25	29	須恵器	鉢B2	(30.7)	9.8	(10.0)					SB03 PD02
A04	25	28	須恵器	鉢B1	(30.9)	(9.7)	-					SB03 PC02
A05	25	29	須恵器	鉢B2	(29.6)	(8.2)	-					SB03 PB02
A06	25	28	須恵器	鉢B1	(27.6)	11.1	(9.9)					SB03 PE02
A07	25	28	須恵器	鉢B1	(33.0)	(6.0)	-					SB03 PC03
A08	25	28	須恵器	椀B	(15.4)	(4.85)	-					SB03 PC01
A09	25	28	須恵器	椀B	(15.7)	4.7	(6.9)					SB03 PB02
A10	25	28	須恵器	椀B	(16.5)	4.7	7.1					SB03 PB02
A11	25	28	須恵器	椀B	(15.1)	4.5	6.45					SB03 PC02
A12	25	28	須恵器	椀A	-	(3.25)	(6.0)					SB03 PD02
A13	25	24	須恵器	椀A2	(16.0)	4.3	(6.6)					SB03 PC03
A14	25	28	土師器	杯	(12.8)	3.1	(7.7)					SB03 PC04
A15	25	28	須恵器	椀B	(1.57)	4.7	(7.3)					SB03 PE05
A16	25	28	土師器	小皿	(6.9)	1.05	(4.6)					SB03 PD02
A17	25	24	須恵器	小皿C	8.65	1.45	(5.65)					SB03 PE01
A18	25	24	須恵器	小皿C	8.45	1.45	5.15					SB03 PE05
A19	26	37	瓦	平瓦				(14.2)	(18.1)	1.85		SB03 PC01
A20	26	37	瓦	平瓦				(15.4)	(10.15)	2.3		SB03 PC02
A21	26	36	瓦	丸瓦				(22.7)	16.5	1.4		SB03 PE04
A22	26	36	瓦	丸瓦				(19.55)	16.45	1.7		SB03 PE04
A23	26	37	瓦	平瓦				(21.6)	(18.35)	1.8		SB03 PE04
A24	27	24	須恵器	鉢B1	(28.85)	10.6	10.7					SK07
A25	27	24	須恵器	鉢B1	(29.15)	11.6	(10.3)					SK07
A26	27	24	須恵器	鉢B1	27.6	10.3	9.7					SK07
A27	27	24	須恵器	椀B	16.0	5.3	5.7					SK07
A28	27	24	土師器	小皿	6.7	1.2	3.6					SK07
A29	27	24	須恵器	小皿B	(8.8)	1.75	4.45					SK07
A30	27	24	須恵器	小皿C	7.85	1.3	5.05					SK07
A31	27	24	須恵器	小皿C	(7.4)	1.1	4.9					SK07
A32	27	28	須恵器	小鉢	(21.8)	4.4	-					SD03
A33	27	28	須恵器	椀B	(15.7)	3.9	(7.3)					SD03
A34	27	29	須恵器	鉢B2	(27.8)	(7.15)	-					SB04 PB02
A35	27	29	須恵器	鉢B2	(29.6)	10.8	10.45					SB04 PB02
A36	27	29	須恵器	鉢B2	(29.7)	(3.8)	-					SB04 PA03
A37	27	24	須恵器	鉢B2	27.5	8.9	8.7					P11
A38	27	34	須恵器	鉢B3	(31.4)	(4.85)	-					P11

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
A39	27	34	土師器	小皿	(7.1)	0.8	(5.1)					P11
A40	27	34	須恵器	椀	(16.3)	(3.1)	-					P24
A41	27	25	須恵器	椀A2	(15.3)	4.5	(8.0)					P31
A42	27	34	須恵器	椀B	(15.9)	3.95	(5.9)					P31
A43	28	34	須恵器	鉢B2	(29.6)	(6.75)	-					P36
A44	28	34	須恵器	鉢B2	(27.2)	10.0	(8.0)					P36
A45	28	25	須恵器	椀B	15.4	4.0	6.05					P40
A46	28	34	須恵器	椀A2	(15.6)	4.5	(6.1)					P45
A47	28	34	須恵器	鉢B2	(28.65)	10.95	10.5					P47
A48	28	34	土師器	羽釜	(27.55)	(15.1)						P51
A49	28	25	須恵器	鉢B2	28.95	10.5	9.8					P51
A50	28	25	須恵器	鉢B2	28.05	10.3	10.35					P51
A51	28	25	須恵器	椀B	15.3	4.45	7.45					P51
A52	28	30	土師器	小皿	(7.4)	1.15	(5.35)					炭窯01
A53	28	30	土師器	小皿	(6.8)	1.05	(5.4)					炭窯01
A54	28	30	土師器	片口小皿	(7.4)	1.15	(4.6)					炭窯01
A55	28		土師器	椀	-	(1.1)	(5.9)					炭窯01
A56	28	25	土師器	甕	22.85	(9.6)	-					炭窯01
A57	28	29	須恵器	鉢B2	(27.3)	11.1	9.6					炭窯01
A58	29	25	須恵器	鉢B2	28.2	11.4	8.7					炭窯01
A59	29	25	須恵器	鉢B2	28.2	11.7	9.85					炭窯01
A60	29	25	須恵器	鉢B2	28.25	10.8	9.95					炭窯01
A61	29	30	須恵器	椀A2	(16.8)	5.25	(6.35)					炭窯01
A62	29	30	須恵器	椀A2	(16.2)	5.0	6.0					炭窯01
A63	29	30	須恵器	椀A2	(15.6)	6.1	(5.2)					炭窯01
A64	29	25	須恵器	椀A2	16.45	5.0	6.25					炭窯01
A65	29	30	須恵器	甕A2	(29.3)	(5.7)	-					炭窯01
A66	29	37	瓦	丸瓦				(13.0)	(6.1)	1.3		炭窯01
A67	29	30	土師器	小皿	(7.3)	1.2	4.3					炭窯02
A68	29	31	須恵器	鉢B1	(31.8)	12.1	10.6					炭窯02
A69	29	26	須恵器	鉢B2	(27.2)	11.0	9.05					炭窯02
A70	29	30	須恵器	鉢B2	(28.0)	10.4	11.1					炭窯02
A71	29	31	須恵器	鉢B4	(29.5)	9.8	(9.4)					炭窯02
A72	30	29	須恵器	鉢B4	(28.3)	9.95	(8.8)					炭窯02
A73	30	30	須恵器	鉢B3	(26.1)	9.35	9.6					炭窯02
A74	30	26	須恵器	鉢B3	(26.55)	11.05	8.55					炭窯02
A75	30	26	須恵器	鉢B3	28.2	10.6	8.7					炭窯02
A76	30	29	須恵器	鉢B2	(28.7)	9.65	(8.7)					炭窯02
A77	30	31	須恵器	鉢B2	(29.0)	9.35	9.5					炭窯02
A78	30	31	須恵器	鉢B2	(27.2)	9.6	9.7					炭窯02
A79	30	32	須恵器	鉢B2	(28.45)	8.55	8.8					炭窯02
A80	30	26	須恵器	鉢D	(17.1)	7.35	9.05					炭窯02
A81	30	26	須恵器	椀B	(14.95)	5.4	7.7					炭窯02
A82	30	32	須恵器	椀B	14.7	4.25	6.6					炭窯02
A83	30	26	須恵器	椀B	15.6	4.45	6.45					炭窯02
A84	30	26	須恵器	椀B	14.85	4.75	6.4					炭窯02
A85	30	26	須恵器	椀A2	14.2	4.6	5.55					炭窯02
A86	30	26	須恵器	椀B	(15.3)	4.4	(5.8)					炭窯02
A87	31	26	須恵器	鉢B2	(30.5)	11.6	10.05					炭窯02
A88	31	30	須恵器	鉢B2	(29.35)	9.75	(11.15)					炭窯02
A89	31	26	須恵器	鉢B2	26.5	9.15	8.9					炭窯02
A90	31	32	須恵器	椀A2	(13.3)	3.9	(4.9)					炭窯02
A91	31	32	須恵器	椀A2	(15.3)	4.05	6.0					炭窯02
A92	31	32	須恵器	椀A2	(15.3)	3.8	8.05					炭窯02
A93	31	32	須恵器	椀A2	(16.15)	3.75	7.05					炭窯02
A94	31	32	須恵器	椀A2	(15.6)	4.25	(6.1)					炭窯02
A95	31	27	須恵器	椀B	(15.05)	3.8	5.4					炭窯02
A96	31	27	須恵器	椀A2	15.6	4.4	6.1					炭窯02

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
A97	31	32	須恵器	椀A2	(14.7)	3.65	(6.65)					炭窯02
A98	31	27	須恵器	椀A2	(15.6)	4.3	(6.55)					炭窯02
A99	31	32	須恵器	椀A2	(15.8)	4.65	(5.35)					炭窯02
A100	31	27	須恵器	椀A2	14.25	5.6	6.15					炭窯02
A101	31	27	須恵器	小皿C	8.1	1.4	5.6					炭窯02
A102	31	30	須恵器	管状土錘				9.9	5.65			炭窯02
A103	31	37	瓦	滑り止め突起				(8.2)	2.6	2.0		炭窯02
A104	31	37	瓦	平瓦				(9.05)	(9.35)	2.4		炭窯02
A105	31	37	瓦	平瓦				(8.7)	(11.15)	1.95		炭窯02
A106	32	37	瓦	平瓦				(15.75)	20.05	2.4		炭窯02
A107	32	37	瓦	平瓦				(13.45)	(12.6)	2.4		炭窯02
A108	32	34	須恵器	鉢B2	(27.4)	(9.5)	-					SK02
A109	32	33	土師器	甕	(21.1)	(5.1)	-					SK03
A110	32	33	土師器	羽釜	-	(4.85)	-					SK03
A111	32	33	土師器	羽釜	(25.4)	(6.0)	-					SK03
A112	32	33	土師器	羽釜	(23.2)	(9.2)	-					SK03
A113	32	32	須恵器	鉢B2	(28.2)	10.85	9.7					SK03
A114	33	33	須恵器	鉢B2	(27.9)	10.85	9.15					SK03
A115	33	27	須恵器	鉢B2	(29.85)	11.05	9.75					SK03
A116	33	27	須恵器	鉢B4	29.4	11.05	8.05					SK03
A117	33	33	須恵器	鉢B3	(29.0)	10.1	10.05					SK03
A118	33	34	須恵器	椀B	(15.8)	5.05	6.6					SK03
A119	33	27	須恵器	椀A2	14.7	4.64	6.25					SK03
A120	33	27	須恵器	椀B	(16.2)	4.05	(7.4)					SK03
A121	33	34	須恵質	管状土錘				9.65	6.35			SK03
A122	33	34	須恵質	管状土錘				8.5	6.7			SK03
A123	33	36	瓦	滑り止め突起				8.75	2.3	1.8		SK03
A124	33	36	瓦	丸瓦				(21.9)	15.2	2.6		SK03
A125	33	37	瓦	平瓦				(15.55)	(11.0)	1.9		SK03
A126	34	35	須恵器	鉢B2	(25.75)	(9.3)	-					包含層
A127	34	35	須恵器	鉢B2	(28.4)	(9.45)	-					包含層
A128	34	35	須恵器	椀A2	(15.4)	4.0	(5.9)					包含層
A129	34	35	須恵器	椀B	(17.2)	4.3	(7.4)					包含層
A130	34	27	須恵器	小皿B	(9.1)	1.55	(5.2)					包含層
A131	34		須恵器	小皿B	(8.9)	1.8	(5.6)					包含層
A132	34	27	須恵器	小皿B	(8.55)	1.75	5.3					包含層
A133	34	35	須恵器	甕C	(33.3)	(5.05)	-					包含層
A134	34	35	青磁	碗	(13.7)	(3.3)	-					包含層
A135	34	35	青磁	碗	(15.8)	(4.15)	-					包含層
A136	34	35	青磁	碗	(14.6)	(2.5)	-					包含層
A137①	34	35	青磁	皿	(9.8)	(1.9)	-					包含層
A137②	34	35	青磁	皿	(9.8)	2.15	(5.25)					包含層
A138	34	35	青磁	輪花皿	(13.4)	(2.65)	-					包含層
A139①	34	35	青磁	輪花皿								包含層
A139②	34	35	青磁	輪花皿	(12.3)	(1.6)	-					包含層
A140	34	35	白磁	底部	-	(1.6)	(6.8)					包含層
A141	34	36	瓦	軒丸瓦				(7.65)	瓦当径-	瓦当厚-		包含層
A142	34	36	瓦	平瓦				(10.5)	(7.9)	2.5		包含層
A143	34	36	瓦	平瓦				(4.9)	(5.75)	1.25		包含層
A144		35	青磁	碗								SB03 PD03
A145		34		焼台								P03
AM01	34	38	鉄器	釘				(2.65)	0.6	0.3		CB03 PC02
AM02	34	38	鉄器	?				10.5	0.5	0.5		包含層
AS01	34	38	磨製石器	砥石				(7.35)㎜	(11.2)㎜	(3.0)㎜		炭窯01

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
AS02	34	38	石製品	?				26.45	22.5	12.05		包含層
B地区												
B01	43	57	須恵器	片口鉢	(30.3)	(10.45)	-					SK01
B02	43	57	須恵器	鉢	(28.9)	(5.65)	-					SK01
B03	43	57	須恵器	鉢(底部)	-	(6.3)	11.05				上段	SK01
B04	43	57	須恵器	小皿	(7.65)	1.1	(5.55)				上段	SK01
B05	43	57	須恵器	椀	(14.8)	4.45	(6.0)					SK01
B06	43	57	須恵器	鉢	-	(1.8)	-				上段	SK01
B07	43	57	-	窯壁	-	-	-				上段	SK01
B08	43	57	須恵器	鉢	(25.2)	(4.3)	-				H-6	SK01
B09	43	57	須恵器	椀	(16.6)	(4.2)	-				H-6	SK01
B10	43	57	須恵器	椀	(14.6)	(2.8)	-				H-6	SK01
B11	43	57	須恵器	鉢	(29.75)	(7.8)	-				G･H-4区	包含層
B12	43	50	須恵器	小皿	7.95	1.35	5.9				G･4区	SK02
B13	43	50	須恵器	鉢	(26.85)	10.4	8.95				H-3区	土器集中部
B14	43	61	須恵器	鉢	(26.35)	9.5	8.7				H-3	土器集中部
B15	43	61	須恵器	椀	(15.5)	5.85	(4.4)				H-3	土器集中部
B16	43	74	瓦	平瓦				(12.3)	(10.05)	1.9	H-3区	土器集中部
B17	44	50	須恵器	片口鉢	(28.5)	11.45	11.85				下段	SE01
B18	44	50	須恵器	片口鉢	27.6	10.35	11.5				下段	SE01
B19	44	50	須恵器	片口鉢	28.05	10.75	9.05				下段	SE01
B20	44	50	須恵器	片口鉢	28.55	10.55	9.95				下段	SE01
B21	44	50	須恵器	片口鉢	28.15	10.9	9.05				下段	SE01
B22	44	50	須恵器	片口鉢	29.0	10.8	10.5				下段	SE01
B23	45	50	須恵器	片口鉢	(28.1)	9.9	(10.15)				下段	SE01
B24	45	50	須恵器	片口鉢	(27.65)	10.35	10.3				下段	SE01
B25	45	51	須恵器	片口鉢	28.0	10.35	9.6				下段	SE01
B26	45	51	須恵器	片口鉢	28.5	10.35	9.9				下段	SE01
B27	45	51	須恵器	片口鉢	28.0	10.05	9.8				下段	SE01
B28	45	51	須恵器	片口鉢	29.2	11.65	9.9				下段	SE01
B29	46	51	須恵器	片口鉢	28.95	10.15	10.4				下段	SE01
B30	46	58	須恵器	鉢	(29.6)	9.45	(11.2)				下段	SE01
B31	46	51	須恵器	鉢	(29.0)	9.95	9.7				下段	SE01
B32	46	51	須恵器	鉢	(28.55)	10.45	9.85				下段	SE01
B33	46	51	須恵器	鉢	(28.1)	10.6	10.05				下段	SE01
B34	46	58	須恵器	鉢	(29.6)	9.35	(10.0)				下段	SE01
B35	46	51	須恵器	鉢	28.8	10.1	10.4				下段	SE01
B36	47	51	須恵器	鉢	29.25	10.55	9.05				下段	SE01
B37	47	52	須恵器	片口鉢	29.4	11.25	9.1				下段	SE01
B38	47	58	須恵器	鉢	(28.8)	10.55	(10.9)				下段	SE01
B39	47	58	須恵器	片口鉢	(27.6)	10.95	(9.55)				下段	SE01
B40	47	52	須恵器	鉢	(28.6)	10.75	10.0				下段	SE01
B41	47	52	須恵器	片口鉢	28.25	10.6	9.05				下段	SE01
B42	48	52	須恵器	片口鉢	29.9	10.25	9.95				下段	SE01
B43	48	52	須恵器	片口鉢	28.4	11.3	9.9				下段	SE01
B44	48	52	須恵器	片口鉢	28.1	10.7	9.75				下段	SE01
B45	48	52	須恵器	片口鉢	(31.5)	11.1	10.0				下段	SE01
B46	48	65	瓦	平瓦				(13.45)	(14.55)	1.75	下段	SE01
B47	49	53	須恵器	鉢	(27.95)	10.6	(9.2)				下段東部	SD02北岸土器群
B48	49	53	須恵器	鉢	28.75	11.5	9.8				下段東部	SD02北岸土器群
B49	49	58	須恵器	鉢	(28.5)	12.5	(8.9)				下段東部	SD02北岸土器群
B50	49	53	須恵器	鉢	(28.5)	11.05	9.9				下段東部	SD02北岸土器群
B51	49	53	須恵器	鉢	(26.0)	10.1	7.9				下段東部	SD02北岸

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
B52	49	53	須恵器	片口鉢	(28.3)	9.8	(9.25)				下段東部	SD02北岸土器群
B53	49	58	須恵器	鉢	(29.45)	10.8	(9.5)				下段東部	SD02北岸土器群
B54	49	53	須恵器	鉢	(25.4)	11.0	10.1				下段東部	SD02北岸土器群
B55	49	53	須恵器	鉢	(27.85)	10.15	8.9				下段東部	SD02北岸土器群
B56	49	53	須恵器	鉢	(28.9)	10.05	9.9				下段東部	SD02北岸土器群
B57	50	58	須恵器	鉢	(28.1)	11.25	9.2				下段東部	SD02北岸土器群
B58	50	58	須恵器	片口鉢	(26.8)	10.8	10.05				下段東部	SD02北岸土器群
B59	50	53	須恵器	鉢	28.2	10.95	9.6				下段東部	SD02北岸土器群
B60	50	53	須恵器	片口鉢	(29.6)	12.1	10.0				下段東部	SD02北岸土器群
B61	50	54	須恵器	鉢	(28.55)	10.95	9.45				下段東部	SD02北岸土器群
B62	50	58	須恵器	鉢	(27.3)	12.1	9.0				下段東部	SD02北岸土器群
B63	51	54	須恵器	鉢	(26.4)	10.5	9.95				下段東部	SD02北岸土器群
B64	51	59	須恵器	片口鉢	(29.6)	12.45	(9.6)				下段東部	SD02北岸土器群
B65	51	54	須恵器	片口鉢	29.5	(10.4)	-				下段東部	SD02北岸土器群
B66	51	58	須恵器	鉢	(27.35)	11.55	10.4				下段東部	SD02北岸土器群
B67	51	54	須恵器	片口鉢	(27.4)	11.1	8.85				下段東部	SD02北岸土器群
B68	52	64	瓦	丸瓦				(11.45)	(6.6)	1.45	下段東部	SD02北岸
B69	52	66	瓦	平瓦				(10.05)	20.45	1.9	下段東部	SD02北岸
B70	52	66	瓦	平瓦				(18.0)	(17.85)	1.7	下段東部	SD02北岸
B71	52	62	瓦	鬼瓦				(12.4)	(13.6)	高(6.65)	下段東部	SD02北岸土器群
B72	52	59	須恵器	鉢	(28.9)	12.65	8.05				下段 F-7	SD02(土器溜)(東北隅)
B73	52	59	須恵器	鉢	(29.15)	11.5	(7.8)				下段 F-7	SD02(土器溜)(東北隅)
B74	52	59	須恵器	椀	(15.4)	5.2	(5.85)				下段 F-7	SD02(土器溜)(東北隅)
B75	52	66	瓦	平瓦				(15.4)	18.95	1.6	下段 F-7	SD02(土器溜)(東北隅)
B76	53	54	須恵器	片口鉢	(27.9)	10.85	9.1				下段北端	SD02西部南岸一括
B77	53	54	須恵器	片口鉢	28.45	9.45	9.65				下段北端	SD02西部南岸一括
B78	53	54	須恵器	片口鉢	27.95	10.0	9.4				下段北端	SD02西部南岸一括
B79	53	54	須恵器	片口鉢	(26.2)	11.1	(9.65)				下段北端	SD02西部南岸一括
B80	53	54	須恵器	鉢	28.1	10.0	9.9				下段北端	SD02西部南岸一括
B81	53	54	須恵器	片口鉢	28.6	9.15	9.7				下段北端	SD02西部南岸一括
B82	54	55	須恵器	鉢	(28.15)	9.5	9.8				下段北端	SD02西部南岸一括
B83	54	55	須恵器	鉢	28.6	9.0	10.05				下段北端	SD02西部南岸一括
B84	54	59	須恵器	鉢	(30.2)	9.8	(10.0)				下段北端	SD02西部南岸一括

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
B85	54	55	須恵器	片口鉢	27.7	9.25	9.5				下段北端	SD02西部南岸一括
B86	54	59	須恵器	鉢	(31.6)	9.0	8.9				下段北端	SD02西部南岸一括
B87	54	55	須恵器	片口鉢	28.15	11.3	9.9				下段 B-7	SD02(土器溜)
B88	54	59	須恵器	片口鉢	-	(11.3)	9.7				下段 B-7	SD02(土器溜)
B89	54	55	須恵器	椀	16.45	4.45	7.7				下段 B-7	SD02(土器溜)
B90	55	60	須恵器	椀	(15.6)	(4.65)	-				下段北端	SD02
B91	55	60	須恵器	椀	(15.7)	(3.95)	-				下段	SD02
B92	55	60	須恵器	椀	(13.4)	(3.4)	-				下段	SD02
B93	55	60	須恵器	椀	(15.6)	(3.2)	-				下段	SD02
B94	55	55	土師器	小皿	7.85	1.35	5.7				下段	SD02
B95	55	60	須恵質	土錘				(9.35)	(5.4)		下段	SD02
B96	55	55	須恵器	片口鉢	(28.9)	10.95	9.4				下段北端	SD02
B97	55	59	須恵器	鉢	(31.8)	10.7	(14.0)				下段	SD02
B98	55	59	須恵器	鉢	(29.9)	9.9	(9.9)				下段 B-6	SD02
B99	55	55	須恵器	片口鉢	(30.8)	9.4	11.5				下段北端	SD02
B100	55	55	須恵器	片口鉢	28.6	10.0	10.4				下段北端	SD02
B101	56	55	須恵器	片口鉢	28.25	9.6	10.1				下段北端	SD02
B102	56	56	須恵器	鉢	28.45	10.15	9.6				下段北端	SD02
B103	56	56	須恵器	片口鉢	(29.6)	10.1	(8.9)				下段北端	SD02
B104	56	60	須恵器	甕	(29.7)	(6.85)	-				下段	SD02
B105	56	60	須恵器	甕	(33.2)	(7.6)	-				下段	SD02
B106	56	60	無釉陶器	すり鉢	(28.6)	(10.6)	(11.55)				下段	SD02
B107	56	60	無釉陶器	擂鉢	(33.0)	(6.35)	-				下段 東部レキ層	SD02 東部
B108	56	60	染付磁器	碗	(11.0)	5.05	(4.2)				下段	SD02
B109	56	60	染付磁器	杯	(7.4)	(4.65)	-				下段	SD02
B110	56	60	無釉陶器	植木鉢	(16.4)	(11.25)	-				下段	SD02
B111	57	64	瓦	丸瓦				(25.3)	(9.2)	1.6	下段地区 B-7	SD02
B112	57	64	瓦	丸瓦				(10.05)	(6.1)	1.65	下段	SD02
B113	57	64	瓦	丸瓦				(10.0)	(5.6)	1.95	下段	SD02
B114	57	64	瓦	丸瓦				(8.15)	(8.7)	1.95	下段	SD02
B115	57	64	瓦	丸瓦				(9.8)	(6.9)	1.75	下段	SD02
B116	57	56・63	瓦	軒丸瓦				(14.95)	瓦当径-	瓦当厚 2.3	下段	SD02
B117	57	62	瓦	軒丸瓦				(3.25)	瓦当径-	瓦当厚 0.95	下段	SD02
B118	57	62	瓦	軒丸瓦				(3.25)	瓦当径-	瓦当厚 2.5	下段地区 B-7	SD02
B119	58	67	瓦	平瓦				(16.1)	(10.6)	1.1	下段	SD02
B120	58	67	瓦	平瓦				(10.0)	(10.15)	1.45	下段	SD02
B121	58	66	瓦	平瓦				(20.25)	(8.7)	1.6	下段	SD02
B122	58	68	瓦	平瓦				(12.05)	(10.4)	1.85	下段北端	SD02
B123	58	68	瓦	平瓦				(13.25)	(11.8)	1.5	下段	SD02
B124	58	67	瓦	平瓦				(18.95)	(7.35)	1.65	下段	SD02
B125	58	68	瓦	平瓦				(7.95)	(11.65)	1.5	下段地区 B-6	SD02
B126	58	67	瓦	平瓦				(13.65)	(12.45)	1.85	下段	SD02
B127	59	67	瓦	平瓦				(16.7)	(10.9)	2.05	下段 B-6	SD02
B128	59	66	瓦	平瓦				(14.4)	(15.1)	1.5	下段北端	SD02
B129	59	67	瓦	平瓦				(12.25)	(11.55)	1.2	下段	SD02
B130	59	68	瓦	平瓦				(12.75)	(10.0)	1.85	下段	SD02
B131	59	67	瓦	平瓦				(5.0)	(10.75)	1.85	下段 東部レキ層	SD02 東部
B132	59	68	瓦	平瓦				(7.95)	(11.95)	1.6	下段北端	SD02
B133	59	68	瓦	平瓦				(9.95)	(7.9)	1.6	下段北端	SD02

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
B134	59	68	瓦	平瓦				(8.55)	(6.4)	1.5	下段地区 B-6	SD02
B135	60	60	須恵器	鉢	(30.55)	(10.4)	-				下段	SD01
B136	60	60	須恵器	鉢	(27.3)	(9.1)	-				C-5	SD01
B137	60	60	須恵器	鉢	(28.2)	9.45	(10.0)				C-5	SD01
B138	60	57	須恵器	鉢	(29.4)	(4.7)	-				下段	SD01
B139	60	60	須恵器	鉢(底部)	-	(7.2)	10.05				C-5	SD01
B140	60	60	須恵器	椀	(13.8)	3.7	(6.8)				C-6	SD01
B141	60	65	瓦	丸瓦				(8.65)	(9.55)	1.5	C-5	SD01
B142	60	65	瓦	平瓦				(11.35)	(11.05)	1.7	C-6	SD01
B143	60	65	瓦	平瓦				(9.6)	(7.3)	1.6	下段	SD01
B144	60	65	瓦	平瓦				(9.0)	(10.8)	1.4	下段	SD01
B145	61	59	須恵器	片口鉢	(25.9)	10.2	(8.0)				上段	包含層
B146	61	56	須恵器	小皿	(8.95)	1.7	5.45				I-3	包含層
B147	61	62	瓦	軒平瓦				(2.1)	瓦当厚 (3.95)	-	I-4	包含層
B148	61	65	瓦	丸瓦				(8.25)	(9.75)	1.5	G･H-4区	包含層
B149	61	61	須恵器	片口鉢	(27.1)	10.75	(8.8)				D-5	包含層
B150	61	56	須恵器	鉢	(28.75)	9.65	(9.8)				E-4	包含層
B151	61	61	須恵器	鉢	(27.6)	(5.85)	-				D-2･3区間 畦	包含層
B152	61	61	須恵器	鉢	(29.4)	11.1	(9.0)				E-4	包含層
B153	61	61	須恵器	鉢	(27.7)	10.5	(9.2)				E-4	包含層
B154	61	61	須恵器	鉢?	(27.1)	(4.4)	-				C-5	包含層
B155	61	61	須恵器	鉢	-	(4.4)	(12.0)				D-5	包含層
B156	61	61	無釉陶器 備前?	鉢	-	(7.0)	(14.1)				C-4	包含層
B157	61	61	須恵器	甕	-	-	-				E-4区	包含層
B158	61	56	須恵器	小皿	(8.2)	1.55	5.2				F-5	包含層
B159	61	61	須恵器	小皿	(7.0)	1.65	(5.1)				D-5区	包含層
B160	61	62	瓦	軒丸瓦				-	瓦当径 (5.9)	瓦当厚 (1.85)	D-4	包含層
B161	61	62	瓦	軒平瓦				(2.05)	上周縁 幅-	瓦当厚 (2.0)	DE-2区	包含層
B162	61	62	瓦	軒平瓦				(3.8)	瓦当厚 4.2	2.2	C-5区	包含層
B163	62	56・63	瓦	軒平瓦				(18.7)	(9.85)	2.4	D-5	包含層
B164	62	62	瓦	引掛付 平瓦				(6.5)	(9.8)	1.9	E-5	包含層
B165	62	69	瓦	丸瓦				35.5	15.5	1.95	D-5	包含層
B166	62	69	瓦	丸瓦				34.1	15.2	2.0	D-5区	包含層
B167	62		瓦	丸瓦				(14.7)	(9.25)	1.65	道路下 F-6	包含層
B168	62	70	瓦	丸瓦				(6.15)	(8.4)	1.25	下段 A-6	包含層
B169	62		瓦	丸瓦				(7.35)	(7.3)	1.65	C-5	包含層
B170	63	70	瓦	丸瓦				(15.35)	15.0	3.15	D-5	包含層
B171	63	71	瓦	平瓦				31.4	19.55	2.2	D-5	包含層
B172	63	72	瓦	平瓦				(13.05)	(12.9)	1.75	D-5区	包含層
B173	63	73	瓦	平瓦				(13.1)	(9.65)	1.4	E-4	包含層
B174	64	72	瓦	平瓦				(15.5)	(16.25)	1.75	D-5	包含層
B175	64		瓦	平瓦				(11.95)	(11.35)	1.2	E-4区	包含層
B176	64	74	瓦	平瓦				(19.55)	(13.2)	2.25	C-5	包含層
B177	64	71	瓦	平瓦				(10.2)	19.3	1.95	D-5	包含層
B178	64	71	瓦	平瓦				(11.4)	19.2	1.75	E-4区	包含層
B179	65	72	瓦	平瓦				(17.6)	(20.15)	1.8	D-5区 北端	包含層
B180	65	73	瓦	平瓦				(15.5)	(12.2)	1.55	D-2･3区間 畦	包含層
B181	65	74	瓦	平瓦				(17.65)	(12.15)	1.6	C-5	包含層
B182	65	73	瓦	平瓦				(11.2)	(11.7)	1.65	D-2･3区間 畦	包含層
B183	65	73	瓦	平瓦				(14.4)	(14.25)	2.3	E-4	包含層
B184	65	73	瓦	平瓦				(12.25)	(8.05)	1.75	E-4区	包含層

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
B185	65	74	瓦	平瓦				(15.5)	(9.05)	1.55	C-5	包含層
B186	65	73	瓦	平瓦				(15.95)	(10.4)	1.8	E-4	包含層
B187	66	70	瓦	平瓦				(13.8)	18.9	2.05	下段 A-6	包含層
B188	66	61	須恵器	甕	(23.6)	(6.75)	-				カードなし	包含層
B189	66	61	須恵器	盤?	(59.9)	(6.15)	-					包含層
B190	66	62	瓦	軒丸瓦				(6.4)	瓦当径-	瓦当厚 2.6	カードなし	包含層
B191	66	75	瓦	軒平瓦				(6.45)	(11.4)	1.8	カードなし	包含層
B192	66	75	瓦	平瓦				(18.0)	28.1	2.15	カードなし	包含層
B193	66	75	瓦	平瓦				(14.35)	(10.45)	1.7	カードなし	包含層
B194		61	須恵器	鉢	-	(3.9)	(7.4)				H-3区	土器集中部
B195		61	須恵器	鉢	-	(5.75)	(9.9)				H-3	包含層
B196		74	瓦	平瓦				(9.45)	(10.25)	1.3	H-3区	土器集中部
C地区												
C01	75	89	須恵器	椀Ai1	(14.8)	6.6	8.4					SK04
C02	75	89	須恵器	椀Ai1	(15.8)	6.0	8.6				NE-4	SK04
C03	75	89	須恵器	椀Ai1	(15.8)	5.8	8.65				NE-4	SK04
C04	75	89	須恵器	椀Ai1	15.95	6.6	7.4				NE-4	SK04
C05	75	89	須恵器	椀Ai1	(15.2)	6.75	(8.5)					SK04
C06	75	116	須恵器	椀Ai1	(16.5)	6.35	9.3					SK04
C07	75	89	須恵器	椀Ai1	15.75	6.3	8.45				NE-4	SK04
C08	75	89	須恵器	椀Ai1	(16.4)	6.6	8.4					SK04
C09	75	89	須恵器	椀Ai1	(16.7)	6.55	8.0				NE-4	SK04
C10	75	116	須恵器	椀Ci1	(12.8)	5.75	(6.8)					SK04
C11	75	89	須恵器	椀Ci1	(12.6)	5.3	5.6					SK04
C12	75	89	須恵器	椀Ci1	(13.9)	5.3	(6.7)				NE-4	SK04
C13	75	116	須恵器	椀Ci1	(15.0)	5.6	6.5				NE-4	SK04
C14	75	116	須恵器	椀Ci1	(14.6)	(6.1)	(7.1)					SK04
C15	75	116	須恵器	椀Ci1	(14.4)	5.7	(7.5)					SK04
C16	75	90	須恵器	椀Ci1	14.95	6.1	7.2				NE-4	SK04
C17	75	90	須恵器	椀Ci2	16.65	6.5	8.0				NE-4	SK04
C18	75	116	須恵器	椀Ci2	(17.0)	(6.3)	-					SK04
C19	75	117	須恵器	椀Ci	-	(2.45)	(7.6)				東拡張	SK04
C20	75	117	須恵器	椀Ai	-	(2.0)	(7.0)				NE-4	SK04
C21	75	125	須恵器	鉢DⅡ1	(20.9)	(10.1)	-					SK04
C22	75	117	須恵器	壺NⅡ2	(19.7)	(1.0)	-				NE-4	SK04
C23	75	131	須恵器	壺	-	(29.5)	-					SK04
C24	76	90	須恵器	鉢	(27.3)	(8.95)	-				NE-3	SK02
C25	76	117	須恵器	椀Ci	-	(2.05)	5.4				NE-3	SK02
C26	76	117	須恵器	杯Ah	-	(4.65)	-				東拡張	SK05
C27	76	90	須恵器	椀Ci	(15.3)	5.8	5.5					SK06
C28	76	117	須恵器	杯Ah	(13.65)	3.35	(7.0)				NE-3	SK07
C29	76	118	須恵器	杯Ah	-	(2.1)	(8.3)				NE-3	SK09
C30	76	118	須恵器	椀Ah	(19.8)	7.8	(9.2)				NE-3	SK09
C31	76	118	須恵器	杯Ah	-	(2.7)	(7.7)				NE-1	SK10
C32	76	118	須恵器	椀Ci	-	(3.45)	5.7				NE-1	SK10
C33	76	117	須恵器	杯Ah	-	(2.7)	(8.1)					SK13
C34	76	118	須恵器	杯Ah	(13.8)	3.7	(8.0)					SK14
C35	76	118	須恵器	杯Ah	(14.0)	3.1	(7.0)					SK14
C36	76	118	須恵器	杯Ah	(14.7)	3.55	(9.0)					SK14
C37	76	118	須恵器	杯Ah	(17.7)	3.7	(10.8)					SK14
C38	76	119	須恵器	杯Ah	(11.5)	3.3	(5.6)				NE-2	SK11・12
C39	76	119	須恵器	杯Ah	(14.3)	3.9	(8.0)				NE-2	SK11・12
C40	76	119	須恵器	杯Ah	(15.2)	3.1	(8.0)				NE-2	SK11・12

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
C41	76	119	須恵器	杯Ah	(13.3)	3.35	-				NE-2	SK11・12
C42	76	119	須恵器	杯Ah	(13.8)	3.1	(7.9)				NE-2	SK11・12
C43	76	119	須恵器	杯Ah	(14.2)	3.15	(7.8)				NE-2	SK11・12
C44	76	119	須恵器	杯Ah	(16.2)	3.1	(8.4)				NE-2	SK11・12
C45	76		須恵器	杯Ah	-	(2.3)	(8.0)				NE-2	SK11・12
C46	76	119	須恵器	小皿Ai	(8.0)	1.8	(5.0)				NE-2	SK11・12
C47	76	119	須恵器	小皿Ai	(8.7)	2.25	(5.0)				NE-2	SK11・12
C48	76	120	須恵器	椀Ah1	-	(2.35)	(8.4)				NE-2	SK11・12
C49	76	120	須恵器	椀B	-	(5.7)	(7.0)				NE-2	SK11・12
C50	76	120	須恵器	底部(鉢?)	-	(6.8)	(11.7)				NE-2	SK11・12
C51	76	120	須恵器	椀Ah1	-	(3.6)	(8.4)				NE-2	SK11・12
C52	76	120	須恵器	鉢	-	(11.2)	-				NE-2	SK11・12
C53	76	136	須恵器	壺	(12.1)	(3.3)	-				東拡張	SD05
C54	76	136	須恵器	鉢or壺	(39.5)	(3.95)	-				-	SD05
C55	77	121	須恵器	鉢DⅢ-A	(31.0)	9.75	(10.0)				東拡張	焼土より上
C56	77	90	須恵器	鉢DⅢ-A	30.3	11.6	10.85				NE-2	包含層
C57	77	90	須恵器	鉢DⅢ-A	(32.8)	10.2	(12.5)					包含層
C58	77	121	須恵器	鉢DⅢ-A	(31.1)	(9.3)	-				NE-2	包含層
C59	77	90	須恵器	鉢DⅢ-A	(30.8)	(10.5)	-				NE-2	包含層
C60	77	121	須恵器	鉢DⅢ-A	(31.15)	(9.7)	-				NW-1	包含層
C61	77	90	須恵器	鉢DⅢ-A	-	(9.8)	10.0				NE-2	包含層
C62	77	121	須恵器	鉢DⅢ-A	(26.0)	(8.4)	-				NE-2	包含層
C63	77	121	須恵器	鉢DⅢ-A	(27.3)	10.25	9.2				NE-2	包含層
C64	77	121	須恵器	鉢DⅢ-A	(26.0)	(8.3)	-				NE-2	包含層
C65	77	91	須恵器	鉢DⅢ-A	(22.0)	7.3	(8.4)				NE-1	包含層
C66	77	121	須恵器	鉢DⅢ-A	(26.0)	(7.4)	-				NE-1	包含層
C67	77	91	須恵器	鉢DⅢ-A	(27.9)	11.4	(8.8)				NE-1	包含層
C68	77	121	須恵器	鉢DⅢ	(23.9)	(4.3)	-				NE-2	包含層
C69	78	125	須恵器	鉢DⅡ2	(31.0)	(3.4)	-					包含層
C70	78	123	須恵器	鉢DⅡ2	(30.0)	(5.0)	-					包含層
C71	78	124	須恵器	鉢DⅡ2	(33.4)	(6.2)	-					包含層
C72	78	122	須恵器	鉢DⅡ2	(29.9)	(7.7)	-				NE-1	包含層
C73	78	122	須恵器	鉢DⅡ2	(26.6)	(4.8)	-					包含層
C74	78	124	須恵器	鉢DⅡ2	(26.4)	(4.4)	-					包含層
C75	78	122	須恵器	鉢DⅡ2	(39.1)	(7.95)	-				NE-3	包含層
C76	78	123	須恵器	鉢DⅡ2	(26.7)	(3.05)	-				NE-1	包含層
C77	78	122	須恵器	鉢DⅡ2	(27.6)	(4.5)	-				NW-1	包含層
C78	78	123	須恵器	鉢DⅡ2	(26.3)	(4.9)	-				NE-2	包含層
C79	78	123	須恵器	鉢DⅡ2	(26.8)	(5.25)	-				NE-2	包含層
C80	78	122	須恵器	鉢DⅡ2	(26.0)	(7.55)	-				NW-1	包含層
C81	78	122	須恵器	鉢DⅡ2	(24.6)	(5.0)	-				NW-2	包含層
C82	78	122	須恵器	鉢DⅡ2	(23.4)	(39.5)	-				SW-1	包含層
C83	78	122	須恵器	鉢DⅡ2	(19.9)	(3.2)	-				NE-2	包含層
C84	78	123	須恵器	鉢DⅡ2	-	(6.0)	-				NE-1	包含層
C85	78	124	須恵器	鉢DⅡ2	-	(2.2)	-				NE-2	包含層
C86	78	124	須恵器	鉢DⅡ2	(34.6)	(4.2)	-					包含層
C87	78	123	須恵器	鉢	-	(4.1)	(10.1)				NE-1	包含層
C88	78	123	須恵器	鉢	-	(2.9)	(10.4)				NE-2	包含層
C89	79	91	須恵器	鉢DⅡ1	(23.9)	(18.85)	-				東端 段の境	包含層
C90	79	124	須恵器	鉢DⅡ1	(18.05)	(3.6)	-				NE-2	包含層
C91	79	125	須恵器	鉢DⅡ1	(19.0)	(9.05)	-				NE-2	包含層
C92	79	125	須恵器	鉢DⅡ1	(26.8)	(10.0)	-				東拡張	包含層
C93	79	125	須恵器	鉢DⅡ1	(21.7)	(10.1)	-				東端 段の境	包含層
C94	79	125	須恵器	鉢DⅡ1	(23.8)	(5.25)	-				SE-1	包含層
C95	79	125	須恵器	鉢DⅡ1	(22.6)	(6.5)	-				東拡張	包含層
C96	79		須恵器	鉢DⅡ1	-	(6.4)					NE-2	包含層

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
C97	79	125	須恵器	鉢DⅡ1	-	(12.3)	(11.4)				東拡張	包含層
C98	79	124	須恵器	鉢DⅡ1	(15.0)	(2.15)	-				東拡張	包含層
C99	79	126	須恵器	鉢A	(18.8)	(6.3)	-				NE-1～NE-3	包含層
C100	79	91	須恵器	鉢	(18.4)	10.4	8.7				NE-2	包含層
C101	79	126	須恵器	鉢？	(18.5)	(3.15)	-				NE-2	包含層
C102	80	91	須恵器	小皿Ai	8.95	2.35	5.2				NE-3	包含層
C103	80	91	須恵器	小皿Ai	(8.9)	2.5	5.9				東拡張	焼土より上
C104	80	126	須恵器	小皿Ai	(7.5)	(2.1)	4.7				NW-1～NW-2	包含層
C105	80	91	須恵器	小皿Ai	(9.4)	1.4	(5.9)				NE-3	包含層
C106	80	91	須恵器	小皿Ai	8.65	2.3	6.05				NE-2	包含層
C107	80	91	須恵器	小皿Ai	(8.6)	3.2	5.1				NW-1～SW-1	包含層
C108	80	126	須恵器	小皿Ai	(9.9)	1.9	(6.4)				NE-3	包含層
C109	80	126	須恵器	小皿Ai	(10.3)	2.15	(7.4)				NW-3	包含層
C110	80	126	須恵器	耳皿	(8.0)	2.55	3.65				NE-2	包含層
C111	80	91	須恵器	耳皿	(6.2)	2.2	4.9				NW-1	包含層
C112	80	127	須恵器	杯Ah	(13.6)	3.5	(7.6)				NE-2～NE-4	包含層
C113	80	92	須恵器	杯Ah	(13.9)	3.8	(6.9)				NE-1～NE-3	包含層
C114	80	92	須恵器	杯Ah	13.9	3.4	7.8				NE-1～NE-3	包含層
C115	80	92	須恵器	杯Ah	(14.1)	3.5	(8.0)				NE-2～NE-4	包含層
C116	80	127	須恵器	杯Ah	(14.1)	3.2	(8.0)				NE-2～NE-4	包含層
C117	80	127	須恵器	杯Ah	(15.6)	3.5	(9.6)				NE-3～NE-4	包含層
C118	80	92	須恵器	杯Ah	14.3	3.9	7.7				NE-2	包含層
C119	80	92	須恵器	杯Ah	(13.5)	3.3	(8.2)				NE-2	包含層
C120	80		須恵器	杯Ah	(14.15)	3.4	(8.05)				NW-1	包含層
C121	80	92	須恵器	杯Ah	(14.55)	4.15	(8.4)				NW-1	包含層
C122	80	92	須恵器	杯Ah	(14.1)	4.0	(7.7)				NW-1	包含層
C123	80	127	須恵器	椀Ci1	(14.6)	4.8	(4.9)				NW-1～NW-2	包含層
C124	80	92	須恵器	椀Ci1	15.95	5.2	6.2				NE-2	包含層
C125	80	92	須恵器	椀Ci1	(13.35)	4.95	4.6				NE-3～NW-3	包含層
C126	80	92	須恵器	椀Ci1	(14.05)	5.3	(5.1)				NE-3～NW-3	包含層
C127	80	92	須恵器	椀Ci1	(14.4)	5.5	6.65				東拡張	包含層
C128	80	93	須恵器	椀Ci1	(12.9)	4.7	(6.1)				東拡張	包含層
C129	80	93	須恵器	椀Ci1	(15.0)	5.45	5.9				NE-1～NE-3	包含層
C130	80	93	須恵器	椀Ci1	(15.3)	5.55	5.5				NE-1～NE-3	包含層
C131	80	93	須恵器	椀Ci1	15.4	6.2	5.75					包含層
C132	80	93	須恵器	椀Ci1	(15.1)	5.75	5.5				NE-1	包含層
C133	80	93	須恵器	椀Ci1	14.4	5.5	5.85				NE-1～NE-3	包含層
C134	80	93	須恵器	椀Ci1	(13.4)	4.9	5.75				NE-3～NW-3	包含層
C135	80	93	須恵器	椀Ci1	(14.6)	5.3	5.9				NE-1～NE-3	包含層
C136	81	93	須恵器	椀Ci2	15.3	6.1	5.6				NW-3	包含層
C137	81	93	須恵器	椀Ci2	(15.4)	6.4	(6.6)				NE-3	包含層
C138	81	127	須恵器	椀Ah2	(16.1)	(7.0)	-				NE-4	包含層
C139	81	94	須恵器	椀Ah1	(14.9)	6.35	(7.3)				NE-1～NE-3	包含層
C140	81	94	須恵器	椀Ah1	15.15	5.8	7.75				NE-1～NE-3	包含層
C141	81	94	須恵器	椀Ah2	17.6	7.25	7.7				NE-1～NE-3	包含層

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
C142	81	94	須恵器	椀Ai1	(15.4)	7.1	7.65				東端 段の境	包含層
C143	81		須恵器	椀Ci1	(14.6)	(5.05)	-					包含層
C144	81	94	須恵器	椀Ah1	13.15	5.65	6.6				NE-2～NE-4	包含層
C145	81	94	須恵器	椀Ci	-	(2.25)	11.5				NE-1～NE-3	包含層
C146	81	127	須恵器	椀Ch	-	(2.9)	(8.4)				NE-1～NE-3	包含層
C147	81	127	須恵器	椀Ci	-	(2.75)	(5.7)				NE-1	包含層
C148	81	94	須恵器	台付皿Ah	(10.3)	1.8	(6.1)				NE-4	包含層
C149	81	128	須恵器	台付皿Ah	-	(2.1)	(6.6)				NE-2	包含層
C150	81	128	須恵器	台付皿Ah	-	(1.5)	(6.5)				NE-2	包含層
C151	81	128	須恵器	椀Ci1	(9.0)	4.45	(4.2)				NE-1	包含層
C152	81	94	須恵器	椀Ci1	(9.5)	4.7	3.9				NW-1～NE-1	包含層
C153	81	128	須恵器	椀Ci1	-	(1.9)	4.4				NE-1～NE-3	包含層
C154	81	129	須恵器	杯B	-	(2.6)	(7.45)				NE-3	包含層
C155	82	94	須恵器	壺蓋	(11.4)	2.25	-				NE-3～NW-3	包含層
C156	82	94	須恵器	壺蓋	(12.9)	3.4	-				NE-2	包含層
C157	82	124	須恵器	壷	(9.8)	(0.85)	-				東拡張	包含層
C158	82	129	須恵器	壺A	(9.4)	(4.1)	-				NW-3	包含層
C159	82	124	須恵器	壷	(12.8)	(2.05)	-				NE-2	包含層
C160	82	129	須恵器	壺M	-	(3.45)	(4.8)				NE-3～NE-4	包含層
C161	82	95	須恵器	壺L	(13.2)	(7.65)	-				NE-1	包含層
C162	82	130	須恵器	壺NⅡ	(17.7)	(2.15)	-				NE-1	包含層
C163	82	130	須恵器	壺NⅡ	(19.2)	(1.0)	-				NE-2	包含層
C164	82	130	須恵器	壺NⅡ	(25.6)	(4.0)	-				NW-1	包含層
C165	82	95	須恵器	壺NⅡ	(19.5)	(25.2)	-				SE-1	包含層
C166	82	131	須恵器	壺NⅡ	-	(17.1)	-				NE-2	包含層
C167	82		須恵器	壺NⅡ	-	(5.25)	-					包含層
C168	82	130	須恵器	壺	-	(2.4)	(13.0)				NE-1～NE-3	包含層
C169	82	130	須恵器	壺	-	(4.15)	8.4				NE-2	包含層
C170	82	130	須恵器	壺	-	(3.55)	8.8				NE-2～NE-4	包含層
C171	82	123	須恵器	壺	-	(2.2)	(9.0)					包含層
C172	83	95	須恵器	甕	(13.5)	(16.35)					NW1～NW-3	包含層
C173	83	95	須恵器	甕	(26.6)	(7.2)	-				NE-3～NE-4	包含層
C174	83	131	須恵器	甕	(23.9)	(6.15)	-				NE-1～NE-3	包含層
C175	83	131	須恵器	甕	(19.2)	(4.05)	-				NE-1	包含層
C176	83	131	須恵器	甕	(34.4)	(5.6)	-				NE-2	包含層
C177	83	95	須恵器	甕	29.5	(9.8)	-				NE-1	包含層
C178	83	132	須恵器	甕	(40.0)	(7.25)	-				NE-1	包含層
C179	84	132	須恵器	甕	(43.2)	(7.9)	-				NW-1	包含層
C180	84	132	須恵器	甕	(33.8)	(9.25)	-				NE-3	包含層
C181	84	95	須恵器	甕	(32.1)	(17.85)	-				SE-1	包含層
C182	85	95	須恵器	甕	(20.5)	(34.0)					NE-1	包含層
C183	84	96	須恵器	甕	(21.2)	(18.45)	-				NE-1	包含層
C184	85	96	須恵器	甕	(25.0)	(39.95)					NE-1	包含層
C185	86	95	須恵器	甕	(44.1)	(14.7)	-				NE-4	包含層
C186	86	96	須恵器	甕	(30.5)	(24.65)	-				東端 段の境	包含層
C187	87	104	瓦	軒丸瓦				(6.9)	瓦当径-	瓦当厚1.4	NE-1	包含層
C188	87	139	瓦	軒丸瓦				-	瓦当径(1.85)	瓦当厚-	SE-1	包含層
C189	87	139	瓦	丸瓦				(16.5)	15.5	2.0	NE-1	包含層
C190	87	139	瓦	丸瓦				(11.45)	14.0	1.45		包含層

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
C191	87	104	瓦	丸瓦				(19.9)	(17.15)	1.6	NE-1～NE-3	包含層
C192	87	141	瓦	平瓦				(11.4)	(9.8)	1.55	NE-3～NW-3	包含層
C193	87	141	瓦	平瓦				(9.6)	広端幅 (11.95)	1.2	NE-3	包含層
C194	88	133	土師器	甕	(26.7)	(8.15)	-				東端	SD01
C195	88	133	土師器	甕	(21.8)	(5.2)	-				東端	SD01
C196	88	96	土師器	小皿Ai	7.5	1.1	5.35				東端	SD01
C197	88	96	土師器	小皿Ai	7.25	1.4	5.3				東端	SD01
C198	88	96	土師器	杯Ai	12.95	2.85	6.15				東端	SD01
C199	88	96	土師器	杯Ai	13.0	2.8	7.95				東端	SD01
C200	88	96	土師器	杯Ai	13.5	3.35	7.9				東端	SD01
C201	88	96	土師器	杯Ai	13.35	3.6	7.5				東端	SD01
C202	88	97	須恵器	鉢DⅢ-A	28.0	11.75	10.5				東端	SD01
C203	88	97	須恵器	鉢DⅢ-A	(29.0)	12.9	(11.6)				東端	SD01
C204	88	133	須恵器	鉢DⅢ-A	(30.1)	(5.75)	-				東端	SD01
C205	88	133	須恵器	鉢DⅢ-A	(28.7)	(5.35)	-				東端	SD01
C206	88	97	須恵器	椀Ci1	16.6	4.7	6.0				東端	SD01
C207	88	97	須恵器	椀Ci1	15.0	4.85	5.6				東端	SD01
C208	88	97	須恵器	椀Ci1	15.1	4.55	6.0				東端	SD01
C209	88	97	須恵器	椀Ci1	16.05	4.7	7.75				東端	SD01
C210	88	97	須恵器	椀Ci1	15.65	4.6	7.5				東端	SD01
C211	88	97	須恵器	甕	(23.5)	(12.45)	-				東端	SD01
C212	88	134	須恵器	水瓶	(8.0)	(9.0)	-				東端	SD01
C213	88	134	土師器	管状土錘				8.4	4.85		東端	SD01
C214	88	134	須恵器	管状土錘				12.35	7.4	548.5	東端	SD01
C215	89	105	瓦	軒丸瓦				(8.9)	瓦当径 16.1	瓦当厚 3.2	東端	SD01
C216	89	105	瓦	軒平瓦				(7.95)	瓦当長 (15.8)	瓦当厚 7.4	東端	SD01
C217	89	105	瓦	軒平瓦				(9.15)	瓦当厚 (2.95)	1.5	東端	SD01
C218	89	106	瓦	丸瓦				(18.0)	16.35	1.95	東端	SD01
C219	89	145	瓦	丸瓦				(13.6)	(5.4)	1.4	東端	SD01
C220	90	106	瓦	平瓦				(26.1)	(13.95)	1.75	東端	SD01
C221	90	106	瓦	平瓦				(23.9)	(15.75)	1.75	東端	SD01
C222	91	97	土師器	小皿Ai	7.65	1.2	6.0				東端	SR01
C223	91	97	土師器	小皿Ai	7.5	1.3	5.65				東端	SR01
C224	91	135	土師器	椀	-	(2.6)	(9.8)				東端	SR01
C225	91	97	土師器	杯Ai	14.1	3.75	8.2				東端	SR01
C226	91	97	土師器	杯Ai	(13.7)	3.55	7.1				東端	SR01
C227	91	98	土師器	杯Ai	13.6	3.5	7.2				東端	SR01
C228	91	98	土師器	杯Ai	(14.3)	4.4	(7.0)				東端	SR01
C229	91	98	土師器	椀	-	(3.5)	(7.5)				東端	SR01
C230	91	133	土師器	甕	(22.9)	(9.4)	-				東端	SR01
C231	91	133	土師器	甕	(25.3)	(6.0)	-				東端	SR01
C232	91	133	土師器	甕	(27.0)	(5.15)	-				東端	SR01
C233	91	135	土師器	羽釜	(25.1)	(6.05)	-				東端	SR01
C234	91	135	土師器	羽釜	(25.8)	(5.65)	-				東端	SR01
C235	91	135	土師器	羽釜	(32.8)	(7.75)	-				東端	SR01
C236	91	98	青磁	碗	-	(3.7)	5.7				東端	SR01
C237	92	98	須恵器	鉢DⅡ2	(26.9)	11.1	9.75				東端	SR01
C238	92	98	須恵器	鉢DⅡ2	(28.7)	9.65	10.6					SR01
C239	92	99	須恵器	鉢DⅢ-B	30.65	10.7	9.85					SR01
C240	92	99	須恵器	鉢DⅢ-B	29.35	10.55	9.2				東端	SR01
C241	92	99	須恵器	鉢DⅢ-B	28.15	11.1	10.65					SR01
C242	92	99	須恵器	鉢DⅢ-B	31.0	11.8	10.6				東端	SR01
C243	92		須恵器	鉢DⅡ2	(29.8)	(7.0)	-				NW-1	包含層
C244	92	99	須恵器	鉢DⅡ2	(29.2)	11.6	(11.9)				東端	SR01

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
C245	92	99	須恵器	鉢DⅡ2	(27.4)	11.25	10.7					SR01
C246	92	99	須恵器	鉢DⅡ2	(30.9)	13.4	11.8					SR01
C247	92	99	須恵器	鉢DⅢ	-	(6.7)	10.0				東端	SR01
C248	93	100	須恵器	鉢DⅡ2	(29.9)	10.05	(10.5)				東端	SR01
C249	93		須恵器	鉢DⅡ2	(29.5)	11.45	(10.1)					SR01
C250	93	100	須恵器	鉢DⅡ2	(30.3)	11.3	(12.1)				東端	SR01
C251	93	100	須恵器	鉢DⅡ2	(19.6)	8.4	(8.7)					SR01
C252	93	100	須恵器	鉢DⅢ-A	21.05	7.9	9.5				東端	SR01
C253	93	100	須恵器	鉢DⅢ-A	19.95	7.2	8.15				東端	SR01
C254	93	100	須恵器	鉢DⅢ-A	19.1	6.3	7.2					SR01
C255	93	100	須恵器	片口椀	16.05	5.4	6.55				東端	SR01
C256	93	100	須恵器	椀Ci1	16.6	4.4	6.3				東端	SR01
C257	93	100	須恵器	椀Ci1	16.2	4.75	5.8					SR01
C258	93	100	須恵器	椀Ci1	16.4	4.95	5.5					SR01
C259	93	100	須恵器	椀Ci1	16.5	4.7	6.5					SR01
C260	93	101	須恵器	椀Ci1	16.6	4.8	5.5					SR01
C261	93	101	須恵器	椀Ci1	15.55	5.1	5.3					SR01
C262	93	101	須恵器	椀Ci1	15.8	5.55	6.5				東端	SR01
C263	93	101	須恵器	椀Ci1	(17.0)	6.2	5.7				東端	SR01
C264	93	101	須恵器	椀Ci1	15.85	5.35	6.15					SR01
C265	93	101	須恵器	椀Ci1	16.75	4.9	6.7					SR01
C266	93	101	須恵器	椀Ci1	15.65	5.1	5.95				東端	SR01
C267	93	101	須恵器	椀Ci1	15.15	5.0	5.75					SR01
C268	93	101	須恵器	椀Ci1	15.1	4.45	5.65				東端	SR01
C269	93	101	須恵器	椀Ci1	15.15	4.0	5.2				東端	SR01
C270	93	101	須恵器	椀Ci1	16.2	4.1	6.1				東端	SR01
C271	94	101	須恵器	椀Ci1	15.75	5.3	5.85				東端	SR01
C272	94	102	須恵器	椀Ci1	14.95	4.9	5.55				東端	SR01
C273	94	102	須恵器	椀Ci1	15.7	5.05	5.9				東端	SR01
C274	94	102	須恵器	椀Ci1	15.8	5.3	5.0				東端	SR01
C275	94	102	須恵器	椀Ci1	15.7	5.35	6.95				東端	SR01
C276	94	102	須恵器	椀Ci1	16.35	5.3	6.0				東端	SR01
C277	94	102	須恵器	椀Ci1	15.5	4.1	5.3				東端	SR01
C278	94	102	須恵器	椀Ci1	15.6	4.15	6.05				東端	SR01
C279	94	102	須恵器	椀Ci1	15.1	4.15	5.5				東端	SR01
C280	94	102	須恵器	椀Ci1	15.5	4.7	5.2				東端	SR01
C281	94	102	須恵器	椀Ci1	16.05	4.6	7.0				東端	SR01
C282	94	102	須恵器	椀Ci1	15.6	5.1	6.4				東端	SR01
C283	94	102	須恵器	椀Ci1	15.15	5.2	6.2				東端	SR01
C284	94	103	須恵器	小皿Ai	7.65	1.25	5.55				東端	SR01
C285	94	103	須恵器	小皿Ai	8.0	1.95	7.4				東端	SR01
C286	94	103	須恵器	小皿Ai	8.4	2.75	4.95				東端	SR01
C287	94	103	須恵器	小皿Ai	8.6	2.1	5.2					SR01
C288	94		須恵器	小皿Ai	-	2.95	-				東端	SR01
C289	94	138	須恵器	壺	-	(8.2)	(12.9)					SR01
C290	94	134	須恵器	水瓶	(4.7)	(7.9)	-				東端	SR01
C291	94	103	須恵器	甕	19.15	(7.25)	-				東端	SR01
C292	94	135	須恵器	甕	(35.0)	(22.9)	-					包含層
C293	95	135	須恵器	甕	(26.7)	(18.15)	-					SR01
C294	95	132	須恵器	甕	(41.3)	(8.35)	-				東端	SR01
C295	95	132	須恵器	甕	(48.0)	(9.0)	-					SR01
C296	95	131	須恵器	甕	(19.7)	(6.6)	-				東端	SR01
C297	95	131	須恵器	甕	(19.05)	(6.9)	-					SR01
C298	95	103	須恵器	甕	(23.6)	(23.4)	-					SR01
C299	96	107	瓦	軒丸瓦				(3.8)	瓦当径15.9	瓦当厚2.75		SR01
C300	96	107	瓦	軒丸瓦				(2.8)	瓦当径-	瓦当厚2.8	東端	SR01

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
C301	96	107	瓦	軒丸瓦				(6.9)	瓦当径-	瓦当厚3.1	東端	SR01
C302	96	108	瓦	軒平瓦				(8.3)	瓦当長(21.5)	瓦当厚6.7	東端	SR01
C303	96	109	瓦	軒平瓦				(11.6)	瓦当長(17.9)	瓦当厚7.35		SR01
C304	96	109	瓦	軒平瓦				(9.1)	瓦当長(14.2)	瓦当厚8.25	東端	SR01
C305	96	110	瓦	軒平瓦				(13.85)	瓦当厚(2.9)	1.55	東端	SR01
C306	96	107	瓦	軒平瓦				(2.7)	瓦当長(6.7)	瓦当厚4.9	東端	SR01
C307	96	108	瓦	軒平瓦				(5.25)	瓦当長(11.1)	瓦当厚4.5	東端	SR01
C308	96	107	瓦	軒平瓦				(6.1)	瓦当長(8.7)	瓦当厚4.5	東端	SR01
C309	96	108	瓦	軒平瓦				(4.55)	瓦当長(6.8)	瓦当厚(4.7)	東端	SR01
C310	97	145	瓦	丸瓦				(11.1)	(4.3)	1.3	東端	SR01
C311	97	145	瓦	丸瓦				(10.35)	(6.2)	1.4	東端	SR01
C312	97	110	瓦	丸瓦				(26.2)	12.75	1.25	東端	SR01
C313	97	144	瓦	丸瓦				(16.75)	14.8	1.5		SR01
C314	98	145	瓦	丸瓦				(12.4)	(8.3)	1.6		SR01
C315	98	144	瓦	丸瓦				(17.15)	13.5	1.3	東端	SR01
C316	99	111	瓦	平瓦				(28.9)	26.45	1.5		SR01
C317	99	111	瓦	平瓦				(24.9)	27.4	2.15		SR01
C318	100	111	瓦	平瓦				(25.7)	(16.55)	2.4		SR01
C319	100	112	瓦	平瓦				(16.1)	広端幅27.7	1.85	東端	SR01
C320	100	112	瓦	平瓦				(20.1)	(18.05)	1.55	東端	SR01
C321	101	113	瓦	平瓦				(24.1)	(16.95)	1.5	東端	SR01
C322	101	112	瓦	平瓦				(19.25)	1.75	広端幅24.9	東端	SR01
C323	101	112	瓦	平瓦				(12.4)	狭端幅(21.3)	(2.2)	東端	SR01
C324	102	114	瓦	平瓦				(15.25)	広端幅24.4	1.7	東端	SR01
C325	102	146	瓦	平瓦				(15.4)	(15.25)	1.45～1.5		SR01
C326	102	113	瓦	平瓦				(18.6)	2.2	狭端幅(15.55)		SR01
C327	103	114	瓦	平瓦				(15.55)	狭端幅(11.6)	2.5		SR01
C328	103	146	瓦	平瓦				(16.8)	狭端幅(10.4)	1.15	東端	SR01
C329	103	114	瓦	平瓦				(12.8)	(5.4)	1.85	東端	SR01
C330	103	114	瓦	平瓦				(11.3)	(8.8)	1.85	東端	SR01
C331	103	145	瓦	平瓦				(6.0)	(5.75)	1.1～1.2	東端	SR01
C332	103	145	瓦	平瓦				(8.0)	(9.15)	1.0	東端	SR01
C333	104	129	土師器	椀	-	(3.0)	(7.0)				NE-2	包含層
C334	104	137	土師器	甕	(19.9)	(4.7)	-				中央南端	包含層
C335	104	137	土師器	甕	(29.2)	(6.3)	-					包含層
C336	104	137	土師器	甕	(21.9)	(9.1)	-				SW-1	包含層
C337	104	128	須恵器	椀Ai	(8.5)	(3.25)	-					包含層
C338	104	103	須恵器	小皿Ai	9.3	1.95	5.35					包含層
C339	104	129	白磁	碗	(17.5)	(3.7)	-				NE-2～SE-2	包含層
C340	104		緑釉陶器	椀	-	(1.55)	4.5				西端	包含層
C341	104	127	須恵器	杯Ah	(14.7)	3.3	(6.4)					包含層
C342	104	127	須恵器	杯Ah	(14.3)	3.7	(9.9)				北東	包含層
C343	104	127	須恵器	椀Ci	(16.2)	5.2	(5.8)					包含層
C344	104	123	須恵器	鉢DⅡ2	(26.6)	(5.9)	-				北東	包含層
C345	104	124	須恵器	鉢DⅡ2	(30.6)	(5.45)	-				北東	包含層
C346	104	122	須恵器	鉢DⅢ-A	(35.6)	(7.55)	-					包含層
C347	104	136	須恵器	鉢DⅢ-B	(32.0)	(7.95)	-				北端段上	SD02

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
C348	104	136	須恵器	鉢DⅢ-A	(31.2)	(7.7)	-				北端段上	SD02
C349	104	136	須恵器	鉢DⅢ-A	-	(6.85)	(9.1)				北端段上	SD02
C350	104	136	須恵器	鉢DⅢ	-	(7.05)	(10.9)				北端段上	SD02
C351	104	103・137	須恵器	鉢DⅢ	-	(9.1)	(12.2)				北端段上	包含層
C352	104		須恵器	鉢DⅢ-A	(27.5)	(6.25)	-				北端段上	SD02
C353	105	124	須恵器	壺	(11.05)	(2.85)	-					包含層
C354	105	138	須恵器	壺	-	(6.1)	(10.0)				東	包含層
C355	105	130	須恵器	壺N	(22.3)	(3.25)	-					包含層
C356	105	130	須恵器	壺N	(21.4)	(2.75)	-				東端 段の境	包含層
C357	105	131	須恵器	甕	(17.2)	(3.8)	-				SW-2	包含層
C358	105	132	須恵器	甕	(18.9)	(6.15)	-				北東	包含層
C359	105	104	須恵器	甕	(24.8)	(16.25)						包含層
C360	105	132	須恵器	甕	(30.6)	(5.9)	-					包含層
C361	105	115	瓦	軒丸瓦				-	瓦当径(5.95)	瓦当厚3.05		包含層
C362	105	139	瓦	軒丸瓦				-	瓦当径(1.85)	瓦当厚(3.55)	中央	包含層
C363	105	115	瓦	軒丸瓦				(2.2)	瓦当径-	瓦当厚(2.2)		包含層
C364	105	139	瓦	軒丸瓦				(6.55)	瓦当径(3.45)	瓦当厚-	北端段上	包含層
C365	105	115	瓦	軒平瓦				(8.2)	瓦当長(9.55)	瓦当厚(4.55)		包含層
C366	105	115	瓦	軒平瓦				(9.8)	瓦当厚3.95	1.8		包含層
C367	105	116	瓦	軒平瓦				(4.25)	瓦当長(7.0)	瓦当厚4.95	中央	包含層
C368	105	115	瓦	軒平瓦				(5.1)	瓦当厚(3.1)	1.4		包含層
C369		104	須恵器	焼台							SE-1	包含層
C370		140	瓦	丸瓦				-	-	-	NE-2	包含層
C371		140	瓦	丸瓦				-	-	-		包含層
C372		142	瓦	丸瓦				-	-	-	中央南端	包含層
C373		143	瓦	丸瓦				-	-	-		包含層
C374		143	瓦	丸瓦				-	-	-	東端	SR01
C375		143	瓦	丸瓦				-	-	-	東端	SD01
C376		142	瓦	丸瓦				-	-	-		包含層
C377		142	瓦	丸瓦				-	-	-		包含層
C378		142	瓦	丸瓦				-	-	-		包含層
C379		142	瓦	丸瓦				-	-	-		包含層
C380		142	瓦	丸瓦				-	-	-	NE-1～NW-1	包含層
CM01	106	148	鉄器	?				(3.6)	(4.75)	0.35	北東	包含層
CW01	106	147	容器	曲物底板				15.0	4.6	0.55	東端	SD01
CW02	106	147	建築部材	棒状				15.1	5.0	4.55	東端	SD01
CW03	106	147	祭祀具?雑具?	刀形?				37.25	3.75	1.2～1.5	東端	SD01
CW04	106	147	建築部材	板材				11.8	4.45	0.6	東端	SR01
CW05	106	147	建築部材	板材				21.5	4.25	1.15	東端	SR01
CW06	106	147	容器	漆椀	(15.5)	5.05	8.4				東端	SR01
CW07	106	147	容器	漆椀	(16.1)	(4.8)	(-)				東端	SR01
CW08	106	148	建築部材?	板材				11.45	2.1	0.35	東端	SR01
CW09	106	148	食事具?雑具?	箸				12.65	0.6	0.65	東端	SR01
CW10	106	148	容器	折敷底				31.3	6.2	0.5	東端	SR01
CW11	106	148	雑具?	檜扇?				34.9	1.85	0.2～0.25	-	SR01
CW12	106	148										SR01
D地区												
D01	117	158	須恵器	椀A1	-	(3.2)	6.15				南	P002
D02	117	158	須恵器	椀A1	14.65	5.55	5.35				南	P009

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
D03	117	158	須恵器	小皿B	7.85	1.55	5.7				南	P040
D04	117	158	土師器	小皿	(8.0)	1.05	(5.0)				南	SK01
D05	117	158	土師器	杯	(11.8)	3.35	(6.35)				南	SK01
D06	117	158	須恵器	壺D	-	(4.9)	(8.6)				南	SK01
D07	117	172	須恵器	鉢B1	(29.7)	(4.95)	-				南	SK01
D08	117	172	須恵器	鉢B1	(27.8)	(4.3)	-				南	SK01
D09	117	172	須恵器	鉢B2	(27.7)	(4.15)	-				南	SK02
D10	117	172	須恵器	椀	(15.6)	(2.3)	-				南	SK02
D11	117	172	須恵器	鉢B2	(29.8)	(3.4)	-				南	SK03
D12	117	172	須恵器	鉢A1	(26.4)	(13.3)	-				南	SK04
D13	117	172	須恵器	鉢A3	(29.4)	(12.8)	-				南	SK04
D14	117	172	須恵器	椀	(12.55)	(2.8)	-				南	SK04
D15	117	172	須恵器	鉢	-	(5.9)	(10.0)				南	SK05
D16	117	158	須恵器	鉢A1	(26.9)	10.1	(8.05)				南	SK06
D17	117	172	須恵器	鉢A1	(21.0)	(5.4)	-				南	SK06
D18	117	172	須恵器	鉢A4	(28.8)	10.2	(10.4)				南	SK07
D19	117	172	須恵器	椀	(15.1)	3.8	-				南	SK07
D20	117	173	土師器	甕	(19.5)	(6.1)	-				南	SK09
D21	117	173	土師器	甕	(23.0)	(7.25)	-				南	SK09
D22	117	173	土師器	甕	(22.5)	(7.4)	-				南	SK09
D23	117	158	土師器	甕	(24.8)	(10.7)	-				南	SK09
D24	118	173	土師器	羽釜	(36.4)	(5.65)	-				南	SK09
D25	118	158	土師器	羽釜	30.1	(19.7)					南	SK09
D26	118	159	土師器	托状皿	-	(2.1)	7.3				南	SK09
D27	118	159	土師器	小皿	(7.6)	1.15	(5.8)				南	SK09
D28	118	159	土師器	小皿	8.25	1.5	5.8				南	SK09
D29	118	173	土師器	小皿	(8.6)	1.3	(5.2)				南	SK09
D30	118	173	土師器	小皿	(7.5)	1.25	(5.7)				南	SK09
D31	118	173	土師器	小皿	(7.7)	1.15	(5.0)				南	SK09
D32	118	159	土師器	小皿	(7.6)	1.1	(6.0)				南	SK09
D33	118	159	土師器	小皿	(7.5)	1.3	(6.65)				南	SK09
D34	118	159	土師器	小皿	7.6	1.3	4.25				南	SK09
D35	118	159	土師器	椀	14.2	4.0	7.2				南	SK09
D36	118	159	土師器	椀	13.25	3.05	7.35				南	SK09
D37	118	159	土師器	椀	(14.5)	3.9	(7.75)				南	SK09
D38	118	159	土師器	椀	(13.0)	3.55	7.7				南	SK09
D39	118	174	須恵器	鉢B2	(27.2)	9.7	(9.55)				南	SK09
D40	118	174	須恵器	鉢B2	(29.6)	10.25	(9.4)				南	SK09
D41	118	159	須恵器	鉢B1	(29.6)	10.55	(9.3)				南	SK09
D42	118	159	須恵器	鉢A3	(30.4)	10.6	(9.8)				南	SK09
D43	118	159	須恵器	鉢A2	(29.0)	10.45	(9.1)				南	SK09
D44	118	174	須恵器	鉢B2	(29.4)	9.75	(9.5)				南	SK09
D45	119	160	須恵器	鉢B1	(29.2)	11.1	9.7				南	SK09
D46	119	160	須恵器	鉢B2	(29.4)	10.75	(10.2)				南	SK09
D47	119	160	須恵器	鉢B1	(28.4)	10.7	8.5				南	SK09
D48	119	160	須恵器	鉢B4	(29.0)	10.5	8.9				南	SK09
D49	119	160	須恵器	鉢B4	29.2	11.7	10.3				南	SK09
D50	119	174	須恵器	鉢B2	(29.5)	10.15	(12.3)				南	SK09
D51	119	160	須恵器	鉢B4	(27.2)	10.3	(10.1)				南	SK09
D52	119	174	須恵器	鉢B1	(26.6)	10.2	(10.6)				南	SK09
D53	119	160	須恵器	鉢B2	(29.0)	11.5	7.7				南	SK09
D54	119	160	須恵器	鉢B2	(27.7)	11.0	9.85				南	SK09
D55	119	160	須恵器	鉢B2	(28.35)	11.0	(8.6)				南	SK09
D56	120	174	須恵器	鉢B2	(28.8)	8.6	(9.4)				南	SK09
D57	120	161	須恵器	椀B	(16.4)	4.9	(5.75)				南	SK09
D58	120	161	須恵器	椀B	16.0	4.8	6.0				南	SK09
D59	120	161	須恵器	椀B	16.4	5.05	6.2				南	SK09
D60	120	161	須恵器	椀B	15.7	5.25	6.55				南	SK09

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
D61	120	173	須恵器	椀A2	(15.5)	4.6	(5.2)				南	SK09
D62	120	161	須恵器	椀B	(15.6)	4.8	7.9				南	SK09
D63	120	161	須恵器	椀B	(15.3)	5.0	5.55				南	SK09
D64	120	161	須恵器	椀B	(15.4)	5.0	(7.2)				南	SK09
D65	120	161	須恵器	椀B	(16.0)	4.9	(6.65)				南	SK09
D66	120	161	須恵器	椀A2	(15.3)	5.1	(6.45)				南	SK09
D67	120	161	須恵器	椀B	(16.4)	5.0	5.85				南	SK09
D68	120	161	須恵器	椀B	15.65	4.2	5.8				南	SK09
D69	120	173	白磁	碗	(15.6)	(2.45)	-				南	SK09
D70	120	173	須恵器	小皿C	(7.55)	1.3	(5.6)				南	SK09
D71	120	162	須恵器	小皿C	7.9	1.55	5.3				南	SK09
D72	120	162	須恵器	小皿B	(8.0)	1.6	(6.3)				南	SK09
D73	120	162	須恵器	小皿C	(7.7)	1.4	4.95				南	SK09
D74	120	173	須恵器	小皿C	(7.6)	1.5	(5.6)				南	SK09
D75	120	162	須恵器	小皿C	7.3	1.35	5.8				南	SK09
D76	120	162	須恵器	小皿C	7.15	1.2	5.7				南	SK09
D77	120	173	須恵器	甕A3	(26.0)	(8.9)	-				南	SK09
D78	120	183	瓦	鬼瓦				(18.5)	(18.85)	(6.35)～2.7	南	SK09
D79	120		瓦	軒丸瓦				(6.2)	瓦当径-	瓦当厚(2.05)	南	SK09
D80	121	185	瓦	平瓦				33.6	(13.15)	2.0	南	SK09
D81	121	185	瓦	平瓦				33.65	22.55	1.5	南	SK09
D82	121	162	須恵器	鉢A1	(21.1)	7.3	(7.0)				南	SK12
D83	121	162	須恵器	輪高台付椀	-	(2.5)	5.0				南	SK12
D84	121	162	土師器	椀	(17.25)	4.6	6.15				南	SK14
D85	121	162	須恵器	椀A1	15.65	5.3	5.85				南	SK14
D86	122	162	土師器	杯	(12.7)	(2.85)	-				南	SK16
D87	122	162	須恵器	小鉢	21.25	7.15	10.6				南	SK16
D88	122	163	須恵器	鉢	-	(9.0)	10.7				南	SK16
D89	122	163	須恵器	鉢A1	(27.7)	11.8	9.9				南	SK16
D90	122	163	須恵器	鉢A1	(28.9)	12.15	9.9				南	SK16
D91	122	163	須恵器	小鉢	20.95	9.1	9.0				南	SK16
D92	122	163	須恵器	椀A2	15.95	5.4	5.8				南	SK16
D93	122	163	須恵器	椀B	15.35	4.95	5.3				南	SK16
D94	122	164	須恵器	椀A1	(15.4)	6.0	(5.5)				南	SK16
D95	122	163	須恵器	椀A1	16.05	5.2	5.8				南	SK16
D96	122	163	須恵器	椀A2	(15.15)	5.1	4.7				南	SK16
D97	122	164	須恵器	椀A1	15.45	5.35	5.3				南	SK16
D98	122	163	須恵器	椀A2	(16.15)	4.9	5.2				南	SK16
D99	122	163	須恵器	椀A2	15.7	5.25	5.6				南	SK16
D100	122	164	須恵器	椀A1	15.45	5.1	5.0				南	SK16
D101	122	163	須恵器	椀A1	(16.6)	4.9	(5.75)				南	SK16
D102	123	164	須恵器	椀A2	(15.35)	5.35	5.6				南	SK16
D103	123	164	須恵器	椀A1	15.4	4.95	5.05				南	SK16
D104	123	164	須恵器	椀A1	15.55	5.8	6.3				南	SK16
D105	123	164	須恵器	椀A2	16.6	5.4	5.95				南	SK16
D106	123	164	須恵器	椀A2	15.65	4.9	5.55				南	SK16
D107	123	164	須恵器	椀A1	(16.1)	5.65	5.7				南	SK16
D108	123	164	須恵器	椀A1	16.8	5.5	6.0				南	SK16
D109	123	183	瓦	軒丸瓦				(7.9)	瓦当径-	瓦当厚3.0	南	SK16
D110	123	172	須恵器	椀A2	(15.5)	5.25	(4.1)				南	SK17
D111	123	165	須恵器	椀A2	14.75	5.3	(4.6)				南	SK17
D112	123	172	須恵器	椀A2	(15.5)	(5.35)	-				南	SK17
D113	123	172	須恵器	椀A2	(15.7)	4.75	(7.0)				南	SK22
D114	123	174	土師器	甕	(21.3)	(7.95)	-				北	SK57
D115	123	175	土師器	小皿	(7.15)	9.5	(5.9)				北	SK57

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
D116	123	165	土師器	小皿	6.9	0.9	-				北	SK57
D117	123	165	土師器	小皿	7.5	1.0	5.2					SK57
D118	123	175	須恵器	鉢B2	(29.15)	(10.2)	-				北	SK57
D119	123	174	須恵器	鉢B1	(29.2)	(7.45)	-				北	SK57
D120	123	165	須恵器	壺	-	(10.2)	(11.4)					SK57
D121	124	175	須恵器	鉢A3	(32.0)	(4.4)	-				北	SK57
D122	124	175	須恵器	鉢B4	(31.0)	(11.15)	(15.0)				北	SK57
D123	124	174	須恵器	鉢	-	(6.4)	(12.15)				北	SK57
D124	124	165	須恵器	鉢B4	(28.75)	11.0	9.7				北	SK57
D125	124	175	須恵器	鉢B1	(31.5)	10.7	(13.05)				北	SK57
D126	124	165	須恵器	鉢B2	(29.6)	10.75	10.2				北	SK57
D127	124	165	須恵器	鉢B1	27.8	10.5	10.1				北	SK57
D128	124	175	須恵器	小鉢	(21.7)	5.6	(8.9)				北	SK57
D129	124	175	須恵器	椀B	(15.6)	4.1	(4.4)					SK57
D130	124	175	須恵器	椀A2	(17.0)	4.1	(5.6)				北	SK57
D131	124	165	須恵器	椀B	(15.6)	4.5	(5.5)				北	SK57
D132	124	175	須恵器	椀B	(16.5)	4.7	(6.5)				北	SK57
D133	124	175	須恵器	椀B	(15.6)	4.7	(4.9)				北	SK57
D134	124	175	須恵器	椀A2	(17.4)	4.1	(8.7)				北	SK57
D135	124	175	須恵器	椀	(16.8)	4.75	-				北	SK57
D136	125	175	須恵器	椀A2	(18.7)	(5.15)	-				北	SK57
D137	125	165	須恵器	椀B	(16.2)	4.5	6.9				北	SK57
D138	125	165	須恵器	椀A2	15.6	4.5	6.6				北	SK57
D139	125	184	瓦	軒平瓦				40.25	26.45	1.85	北	SK57
D140①	125	184	瓦	軒平瓦				(21.3)	瓦当厚5.3	2.55	北	SK57
D140②	125	184	瓦	軒平瓦				(19.7)	瓦当厚(3.85)	2.5	北	SK57
D141	126	188	瓦	丸瓦				(9.7)	(9.1)	1.9	北	SK57
D142	126	188	瓦	丸瓦				(18.5)	(12.5)	1.15	北	SK57
D143	126	186	瓦	平瓦				40.5	23.5	27.5	北	SK57
D144	127	185	瓦	平瓦				(14.9)	23.3	2.15	北	SK57
D145	127	176	須恵器	鉢B2	(23.2)	(4.45)	-				北	SK58
D146	127	176	須恵器	鉢	-	(6.2)	(10.4)				北	SK58
D147	127	176	須恵器	椀B	(15.5)	4.4	(5.9)				北	SK58
D148	127	176	須恵器	椀B	(16.6)	4.35	(6.9)				北	SK58
D149	127	176	須恵器	椀	(16.6)	(3.3)	-				北	SK59
D150	127	176	須恵器	椀	(16.9)	(4.15)	-				北	SK59
D151	127	176	須恵器	椀B	(15.6)	4.0	(5.8)				北	SK62
D152	127	166	須恵器	小皿C	(8.6)	1.4	5.3				北	SK62
D153	127		須恵器	甕A2	(31.6)	(6.25)	-				北	SK62
D154	127	165	須恵器	甕	-	(30.9)	-				北	SK62
D155	127	177	須恵器	鉢B1	(23.5)	(3.1)	-				南	SD04
D156	127	177	須恵器	椀B	(15.6)	5.05	(6.6)				南	SD04
D157	127	166	須恵器	椀B	(17.0)	4.9	6.0				南	SD04
D158	128	177	土師器	甕	(30.9)	(5.2)	-				南	SD05
D159	128	177	土師器	甕	(22.7)	(5.55)	-				南	SD05
D160	128	177	土師器	甕	(24.4)	(8.6)	-				南	SD05
D161	128	166	土師器	甕	24.1	(16.2)					南	SD05
D162	128	177	土師器	甕	(16.8)	(9.65)					南	SD05
D163	128	177	土師器	甕	(23.0)	(4.2)	-				南	SD05
D164	128	177	土師器	甕	(24.8)	(5.9)	-				南	SD05
D165	128	166	土師器	甕	(25.2)	(13.85)	-				南	SD05
D166	128	166	土師器	椀	(13.9)	3.95	(6.95)				南	SD05
D167	128		土師器	壺？	-	(2.9)	(7.8)				南	SD05
D168	128	166	土師器	小皿	7.8	1.3	5.9				南	SD05
D169	128	166	土師器	小皿	7.2	1.1	4.5				南	SD05
D170	128	166	土師器	壺?	(2.9)	-	(7.25)				南	SD05
D171	128	178	須恵器	鉢A1	(26.9)	10.55	(8.95)				南	SD05

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
D172	128	178	須恵器	鉢A1	(30.8)	10.45	(9.8)				南	SD05
D173	128	166	須恵器	鉢B1	29.5	10.4	10.0				南	SD05
D174	128	178	須恵器	小鉢	(20.9)	(7.3)	-				南	SD05
D175	128	178	須恵器	鉢A4	(33.0)	(7.15)	-				南	SD05
D176	129	166	須恵器	鉢A1	(29.0)	9.75	8.8				南	SD05
D177	129	166	須恵器	鉢B2	(28.6)	10.0	10.7				南	SD05
D178	129	167	須恵器	鉢A1	31.95	10.65	10.35				南	SD05
D179	129	167	須恵器	鉢A1	28.75	10.15	10.05				南	SD05
D180	129	167	須恵器	椀B	15.55	4.15	6.55				南	SD05
D181	129	167	須恵器	椀B	15.55	4.75	5.2				南	SD05
D182	129	167	須恵器	椀A2	16.4	4.25	7.35				南	SD05
D183	129	167	須恵器	椀B	16.2	4.45	6.2				南	SD05
D184	129	178	須恵器	椀A2	(16.7)	4.5	(5.9)				南	SD05
D185	129	167	須恵器	椀A2	(16.1)	3.85	(7.2)				南	SD05
D186	129	178	須恵器	椀B	(17.5)	4.25	(6.95)				南	SD05
D187	129	178	須恵器	椀B	(16.55)	4.8	5.8				南	SD05
D188	129	178	須恵器	椀B	(17.0)	4.65	(5.8)				南	SD05
D189	129	167	須恵器	椀B	16.0	4.3	6.9				南	SD05
D190	129	178	須恵器	椀B	(16.3)	4.95	5.05				南	SD05
D191	129	178	須恵器	椀A1	-	(3.45)	(6.0)				南	SD05
D192	130	167	須恵器	椀B	16.5	4.3	5.25				南	SD05
D193	130	167	須恵器	椀B	16.3	4.8	6.7				南	SD05
D194	130	167	須恵器	椀A2	16.5	4.6	7.05				南	SD05
D195	130	167	須恵器	椀A2	16.7	5.05	6.15				南	SD05
D196	130	168	須恵器	椀A2	17.15	4.6	6.6				南	SD05
D197	130	168	須恵器	椀B	15.5	4.3	6.2				南	SD05
D198	130	168	須恵器	小皿B	(7.65)	1.65	(5.1)				南	SD05
D199	130	168	須恵器	小皿B	7.95	1.75	5.45				南	SD05
D200	130	177	須恵器	小皿B	(8.1)	1.5	(4.4)				南	SD05
D201	130	168	須恵器	小皿B	7.7	2.0	4.6				南	SD05
D202	130	168	須恵器	小皿B	7.5	1.7	5.1				南	SD05
D203	130	168	須恵器	小皿B	(7.6)	1.65	(4.7)				南	SD05
D204	130	177	須恵器	小皿B	(8.5)	1.8	(5.7)				南	SD05
D205	130	168	須恵器	小皿B	8.25	1.8	5.2				南	SD05
D206	130	168	須恵器	小皿C	(7.85)	1.3	5.35				南	SD05
D207	130	179	須恵器	甕A1？	(29.2)	(5.65)	-				南	SD05
D208	130	179	須恵器	甕A2？	(36.6)	(5.9)	-				南	SD05
D209	130	179	須恵器	甕A2？	(39.8)	(5.45)	-				南	SD05
D210	130	168	白磁	碗	-	(3.1)	6.65				南	SD05
D211	130	183	瓦	軒丸瓦				(5.8)	瓦当径14.0	瓦当厚4.2	南	SD05
D212	130	190	瓦	丸瓦				(9.95)	(5.95)	2.2	南	SD05
D213	131	186	瓦	平瓦				(13.9)	22.8	2.35	南	SD05
D214	131	189	瓦	平瓦				(14.3)	(11.7)	2.2	南	SD05
D215	131	189	瓦	平瓦				(13.85)	(12.85)	2.3	南	SD05
D216	131	169	土師器	杯	(13.3)	3.55	(7.8)				北	SD51
D217	131	169	土師器	托状皿	-	(2.9)	(7.6)				北	SD51
D218	131	179	須恵器	鉢B2	(29.6)	10.9	(10.35)				北	SD51
D219	131	179	須恵器	鉢B2	(28.1)	10.4	(7.6)				北	SD51
D220	132	179	須恵器	鉢B2	(27.85)	10.75	9.5				北	SD51
D221	132	180	須恵器	椀B	(14.6)	4.1	(7.15)				北	SD51
D222	132	180	須恵器	椀B	(16.5)	4.05	(7.0)				北	SD51
D223	132	180	須恵器	椀B	(16.4)	3.85	(6.2)				北	SD51
D224	132	169	須恵器	椀B	(15.5)	4.0	(7.9)				北	SD51
D225	132	169	須恵器	椀B	(15.65)	4.5	6.9				北	SD51
D226	132	169	須恵器	椀B	(15.3)	5.15	6.1				北	SD51
D227	132	169	須恵器	椀B	(15.4)	3.7	6.6				北	SD51
D228	132	180	須恵器	椀A2	(13.4)	3.95	(7.1)				北	SD51

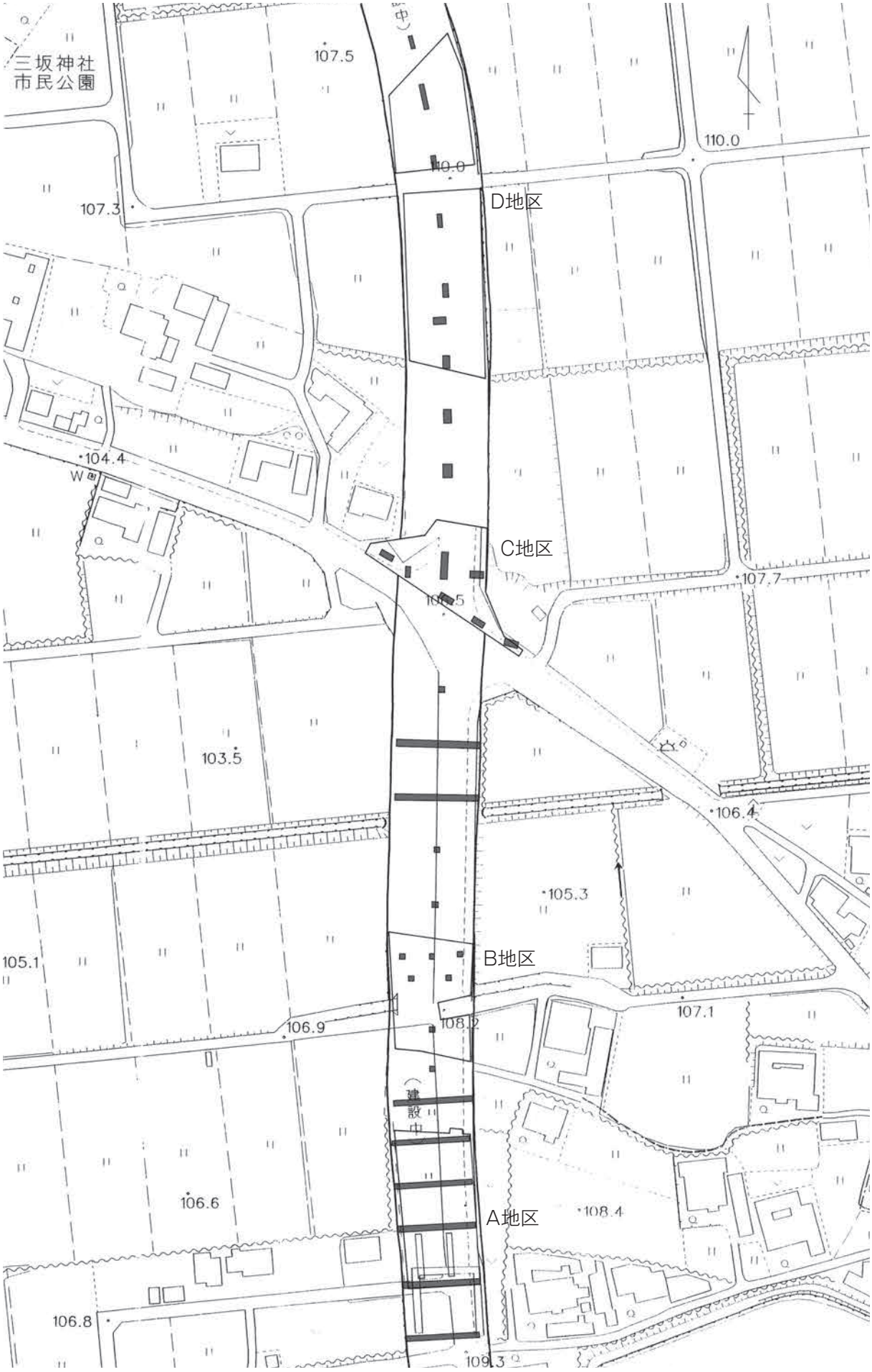
報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
D229	132	169	須恵器	小皿B	8.0	1.9	5.95				北	SD51
D230	132	190	瓦	丸瓦				(14.3)	13.55	1.65	北	SD51
D231	132	180	須恵器	鉢B4	(27.4)	(9.3)	-				北	SD52
D232	132	180	須恵器	鉢A1	(25.2)	(6.7)	-				北	SD52
D233	132	180	須恵器	輪高台付鉢?	-	(5.55)	(11.7)				北	SD52
D234	132	180	須恵器	椀A2	(16.3)	4.3	6.4				北	SD52
D235	132	169	須恵器	椀A2	(15.1)	4.75	6.8				北	SD52
D236	132	180	須恵器	椀	-	(2.75)	6.75				北	SD52
D237	133	186	瓦	平瓦				(20.85)	(11.05)	2.3	北	SD52
D238	133	185	瓦	軒平瓦				(8.65)	瓦当厚(4.7)	1.8	北	SD57
D239	133	181	土師器	羽釜	-	(3.6)					北	SD58
D240	133	181	備前	擂鉢	-	(4.9)	(13.7)				北	SD58
D241	133	183	瓦	鬼瓦				(10.4)	(10.5)	(3.7)	北	SD58
D242	133	181	須恵器	鉢B2	(25.6)	10.4	(7.8)				北	SD60
D243	133	181	土師器	杯	(13.55)	2.7	(9.4)				北	SD62
D244	133	169	須恵器	鉢A3	(28.9)	11.8	10.65				北	SD62
D245	133	181	須恵器	輪高台付鉢?	-	(3.7)	(11.8)				北	SD62
D246	133	169	須恵器	椀A2	(16.35)	5.0	6.3				北	SD62
D247	133	169	須恵器	椀A2	16.2	4.7	6.05				北	SD62
D248	133	169	須恵器	小皿A	8.75	2.3	4.85				北	SD62
D249	133	169	須恵器	小皿B	8.8	1.75	5.1				北	SD62
D250	133	170	須恵器	小皿B	(8.8)	1.9	(5.3)				北	SD62
D251	133	170	須恵器	小皿B	8.05	1.55	4.6				北	SD62
D252	133	170	須恵器	小皿B	8.0	1.65	4.7				北	SD62
D253	133	187	瓦	軒平瓦				(5.85)	瓦当厚5.25	2.2	北	SD62
D254	134	182	須恵器	鉢A3	(29.2)	10.3	(9.9)				北	SD68
D255	134	182	須恵器	鉢A1	(29.2)	11.35	(9.8)				北	SD68
D256	134	182	須恵器	鉢A1	(31.8)	9.85	(11.2)				北	SD68
D257	134	170	須恵器	鉢A1	29.5	10.35	10.5				北	SD68
D258	134	170	須恵器	椀B	16.2	4.4	5.7				北	SD68
D259	134	170	須恵器	椀A2	(17.4)	4.65	6.35				北	SD68
D260	134	170	須恵器	椀B	16.3	4.65	6.45				北	SD68
D261	134	170	須恵器	椀B	17.1	4.5	6.25				北	SD68
D262	134	170	須恵器	椀B	15.85	4.5	6.05				北	SD68
D263	134		須恵器	小皿B	(8.7)	1.75	4.5				北	SD68
D264	134	170	須恵器	鉢A1	29.35	10.65	9.7				北	SD70
D265	134	170	須恵器	鉢A3	28.9	10.3	10.75				北	SD70
D266	135	182	須恵器	椀B	16.55	4.5	6.3				北	SD70
D267	135	170	須恵器	椀A2	(16.7)	4.55	(5.9)				北	SD70
D268	135	170	須恵器	椀A2	16.35	4.7	5.95				北	SD70
D269	135	182	須恵器	椀B	(16.6)	4.7	6.15				北	SD70
D270	135	171	須恵器	椀B	15.9	4.4	6.2				北	SD70
D271	135	171	須恵器	椀A2	(15.75)	4.6	6.5				北	SD70
D272	135	171	須恵器	椀A2	(15.95)	4.4	6.3				北	SD70
D273	135	171	須恵器	椀A2	16.95	5.15	6.1				北	SD70
D274	135	171	須恵器	椀B	16.4	4.75	6.15				北	SD70
D275	135	171	須恵器	椀B	16.3	4.4	6.3				北	SD70
D276	135	182	須恵器	椀B	(16.45)	4.45	6.55				北	SD70
D277	135	171	須恵器	椀A2	15.9	4.2	(5.8)				北	SD70
D278	135	171	須恵器	椀A2	16.1	4.8	6.65				北	SD70
D279	135	171	須恵器	椀A2	15.45	5.1	6.6				北	SD70
D280	135	171	須恵器	椀B	(15.9)	4.75	6.6				北	SD70
D281	135	182	須恵器	片口椀	(16.7)	4.8	6.1				北	SD70
D282	135	171	須恵器	片口椀	(17.15)	5.05	7.1				北	SD70
D283	135	182	須恵器	小皿B	(8.6)	2.0	(5.35)				北	SD70

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）						地区	出土遺構
					口径	器高	底径	長さ	幅	厚み		
D284	135	171	須恵器	小皿B	8.6	1.8	5.65				北	SD70
D285	135		瓦	鬼瓦				(12.05)	(11.2)	3.25	南	段の境
D286	135		瓦	鬼瓦				(11.65)	(9.85)	2.7	南	段の境
D287	135		瓦	軒丸瓦				(7.5)	瓦当径13.45	瓦当厚3.55	南	段下西側
D288	135	187	瓦	軒平瓦				(2.3)	瓦当厚(5.25)	-	南	段境
D289	135	187	瓦	軒平瓦				(3.0)	瓦当厚4.65	-	南	包含層
D290	136	191	瓦	丸瓦				(23.0)	12.25	1.5	南	段下西側
D291	136		瓦	平瓦				(12.6)	(24.25)	1.9	南	段下西側
D292	136		須恵器	鉢A1	(30.8)	(5.85)	-				南	包含層
D293	136		須恵器	小皿B	(7.9)	2.05	5.0				南	包含層
D294	136		須恵器	小皿B	(7.6)	1.9	4.95				南	包含層
D295	136		須恵器	小皿B	(7.45)	2.1	(5.6)				南	包含層
D296	136		須恵器	小皿B	8.3	1.75	5.35				南	包含層
D297	136		須恵器	小皿C	6.55	1.35	4.7				南	包含層
D298	136		須恵器	小壺	(3.05)	2.7	3.7				南	包含層
D299	136		瓦	鬼瓦				(8.75)	(8.95)	(3.25)	南	包含層
D300	136	187	瓦	軒丸瓦				(2.35)	瓦当径13.65	瓦当厚2.1	南	包含層
D301	137	187	瓦	軒丸瓦				(6.4)	瓦当径-	瓦当厚(2.35)	南	包含層
D302	137	187	瓦	軒丸瓦				(3.55)	瓦当径-	瓦当厚(3.55)	南	包含層
D303	137	187	瓦	軒丸瓦				(5.8)	瓦当径-	瓦当厚1.2	南	包含層
D304	137	187	瓦	軒平瓦				(1.8)	瓦当厚5.5	-	南	包含層
D305	137	187	瓦	軒平瓦				(5.65)	瓦当厚3.95	-	南	包含層
D306	137	187	瓦	軒平瓦				(2.5)	瓦当厚5.15	-	南	包含層
D307	137	187	瓦	軒平瓦				(2.85)	瓦当厚(5.2)	-		包含層
D308	137		瓦	丸瓦				29.5	14.0	1.65	南	包含層
D309	137	191	瓦	丸瓦				(15.5)	(4.2)	1.8	南	包含層
D310	137	187	瓦	軒丸瓦				(4.7)	瓦当径-	瓦当厚(1.65)	南	包含層
D311		174	須恵器	鉢	-	-	-				北	SK57
DC01			-	籾	-	-	-				北	SK56
DS01	137	192	磨製石器	?				42.2㎜	31.5㎜	10.9㎜	南	SK17
DS02	137	192	打製石器	剥片				31.2㎜	20.6㎜	6.1㎜	南	包含層
DM01	図４	192		銭							北	包含層
DW01	図３	192	建築部材	板材				24.8	8.45	0.95	北	SK56

図　版

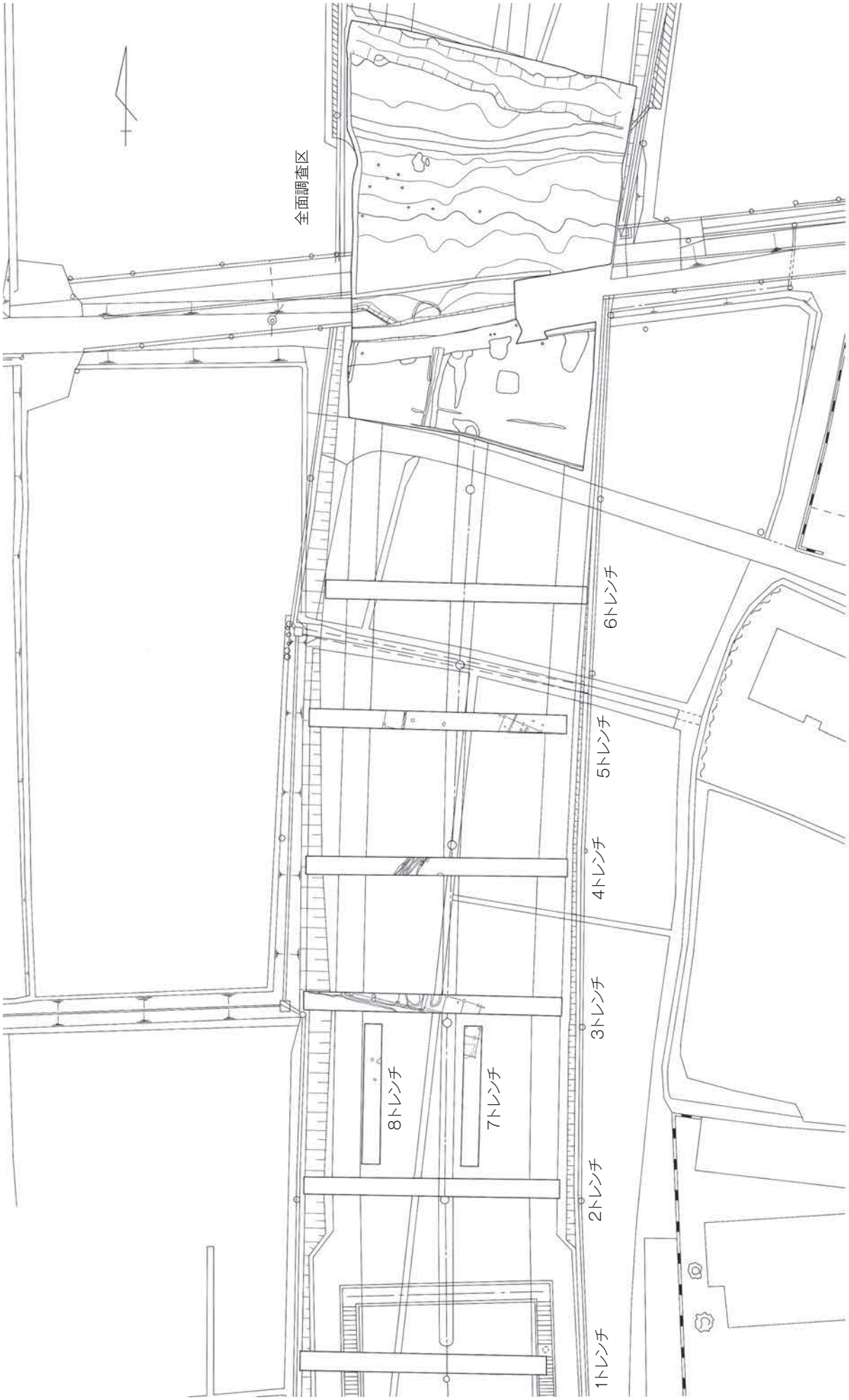
神出バイパス用地内発掘調査地区位置図（S=1：5,000）

図版２

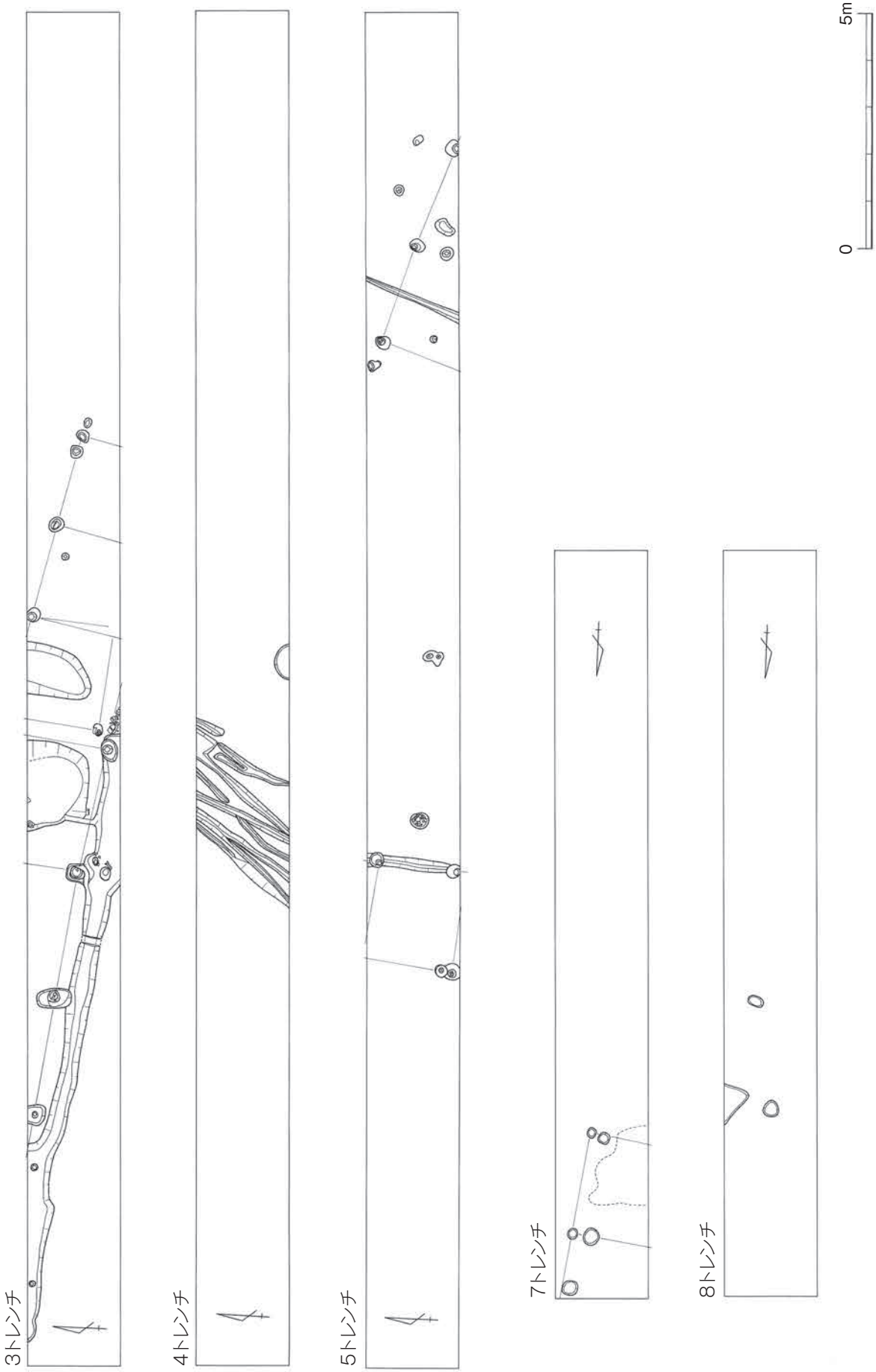


確認調査トレンチと各本発掘調査地区位置図（S=1：2,000）

A地区確認調査



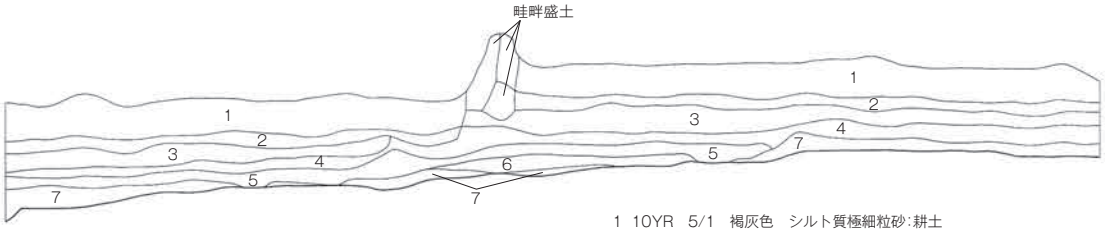
トレンチ及び B 地区本発掘調査位置図（S=1：600）



トレンチ平面図

2トレンチ 北側壁

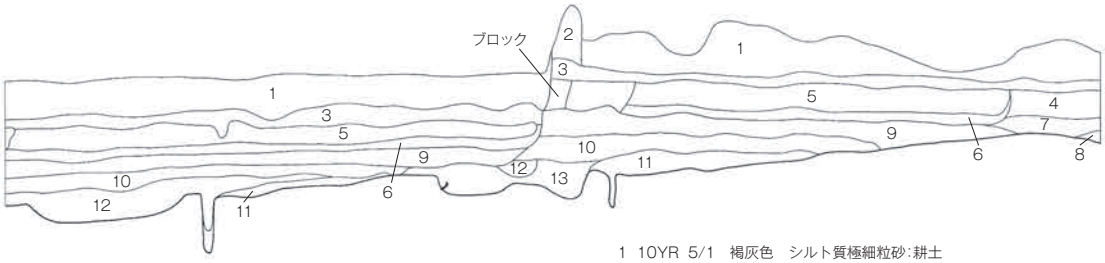
108.0m



1 10YR 5/1 褐灰色 シルト質極細粒砂:耕土
2 2.5Y 6/4 にぶい黄色 極細粒砂質シルト 鉄分含む:床土
3 10YR 6/8 明黄褐色 細粒砂混シルト
4 2.5Y 6/2 灰黄色 シルト質極細粒砂
5 2.5Y 6/3 にぶい黄色 細粒砂～極細粒砂質シルト
6 10YR 7/6 明黄褐色 極細粒砂質シルト
7 10YR 7/6 明黄褐色 極細粒砂質シルト

3トレンチ 北側壁

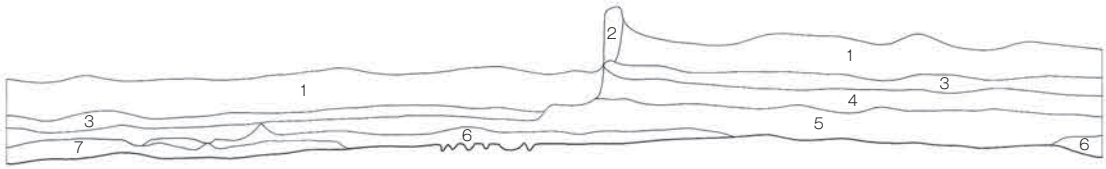
108.0m



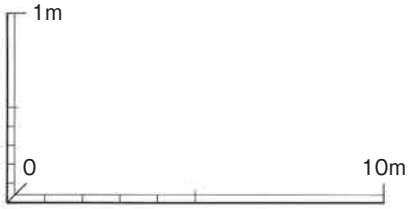
1 10YR 5/1 褐灰色 シルト質極細粒砂:耕土
2 2.5Y 6/6 明黄褐色 シルト混細粒砂～極細粒砂:畦畔盛土
3 2.5Y 6/4 にぶい黄色 極細粒砂質シルト 鉄分含む:床土
4 5Y 6/2 灰オリーブ色 シルト質極細粒砂
5 10YR 6/8 明黄褐色 極細粒砂混シルト 鉄分含む
6 2.5Y 6/2 灰黄色 シルト質極細粒砂
7 10YR 6/4 にぶい黄色 極細粒砂混シルト 鉄分含む
8 10YR 7/6 明黄褐色 極細粒砂混シルト
9 2.5Y 6/3 にぶい黄色 細粒砂～極細粒砂質シルト
10 2.5Y 6/3 明黄褐色 極細粒砂混シルト 鉄分含む
11 5Y 6/3 オリーブ黄色 極細粒砂混シルト 鉄分含む
12 遺構埋土
13 遺構埋土

4トレンチ 北側壁

108.0m



1 2.5Y 5/2 暗灰黄色 シルト質極細粒砂:耕土
2 2.5Y 6/6 明黄褐色 シルト混細粒砂～極細粒砂:畦畔盛土
3 2.5Y 6/6 明黄褐色 シルト混細粒砂～極細粒砂:床土
4 2.5Y 7/6 明黄褐色 極細粒砂混シルト 鉄分含む
5 2.5Y 6/2 灰黄色 細粒砂～極細粒砂質シルト 鉄分含む
6 10YR 7/6 明黄褐色 極細粒砂混シルト 鉄分含む
7 10YR 5/8 黄褐色 細粒砂混シルト 鉄分含む

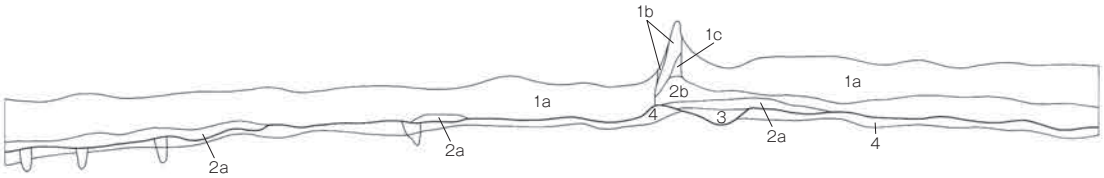


トレンチ平面図①

図版6

5トレンチ 北側壁

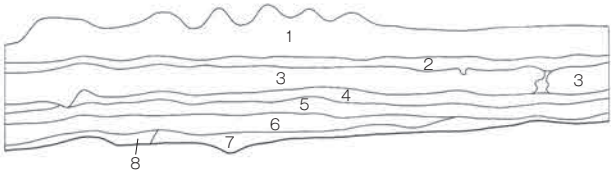
108.0m



1a　5Y　4/1　灰色　極細粒砂:耕土
1b　5Y　4/1　灰色　極細粒砂:耕土
1c　5Y　4/1　灰色　極細粒砂:耕土
2a　10YR　5/8　黄褐色　極細粒砂
2b　10YR　5/4　にぶい黄色　極細粒砂
3　2.5Y　6/6　明黄褐色　シルト質極細粒砂
4　10YR　6/8　明黄褐色　シルト～極細粒砂　鉄分含む:地山

7トレンチ 東側壁

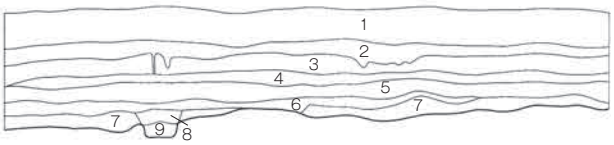
108.0m



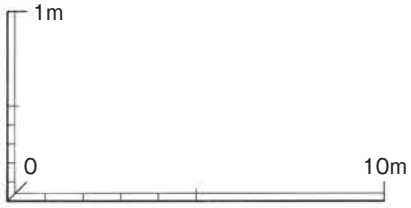
1　10YR　5/1　褐灰色　シルト質極細粒砂:耕土
2　2.5Y　6/4　にぶい黄色　極細粒砂質シルト　鉄分含む:床土
3　10YR　6/8　明黄褐色　細粒砂混シルト　鉄分含む
4　2.5Y　6/2　灰黄色　シルト質極細粒砂
5　2.5Y　6/3　にぶい黄色　細粒砂～極細粒砂質シルト　鉄分含む
6　2.5Y　6/6　明黄褐色　極細粒砂混シルト　鉄分含む
7　10YR　7/6　明黄褐色　極細粒砂混シルト
8　5Y　6/3　オリーブ黄色　極細粒砂混シルト　鉄分含む

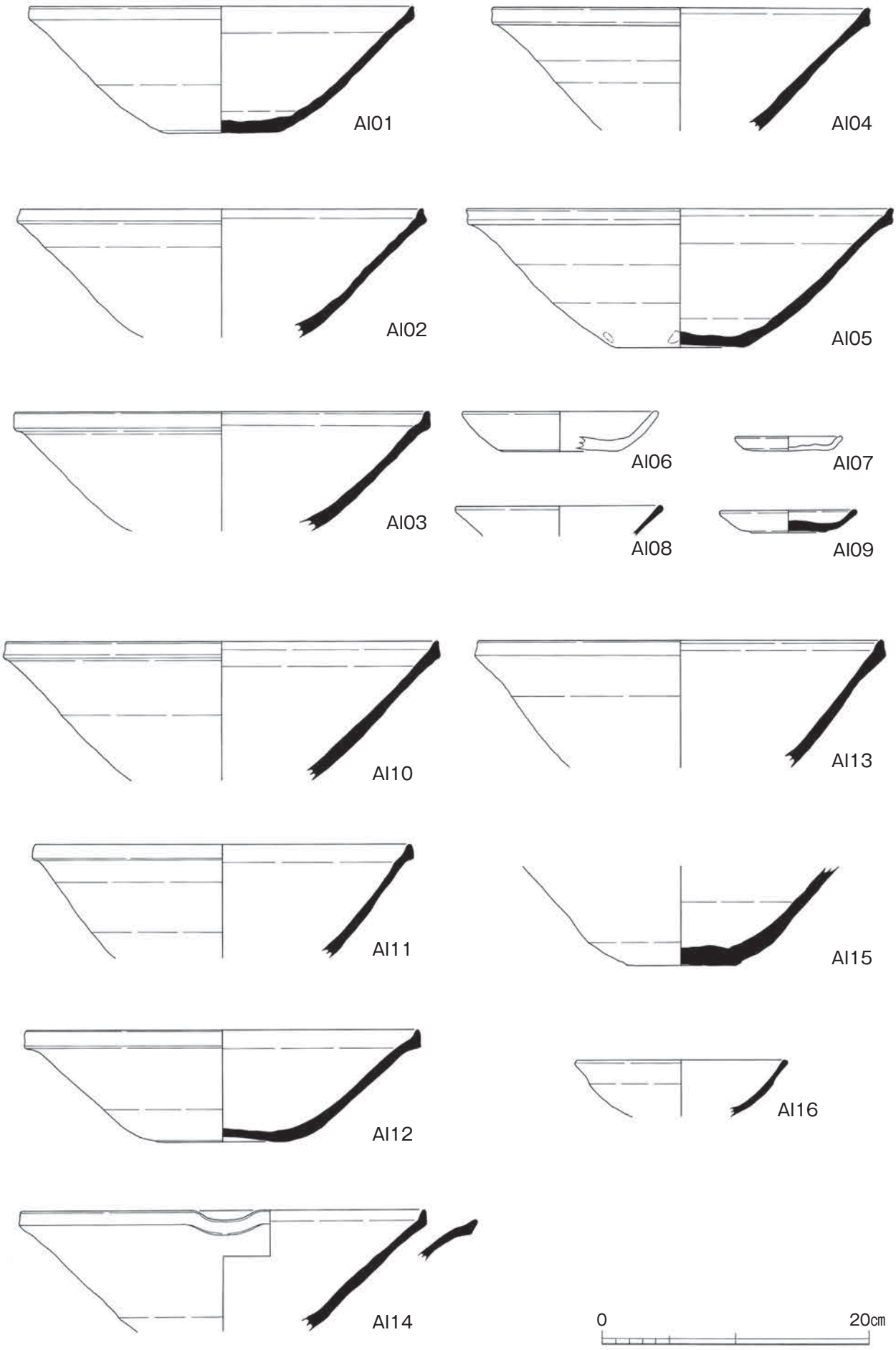
8トレンチ 東側壁

108.0m

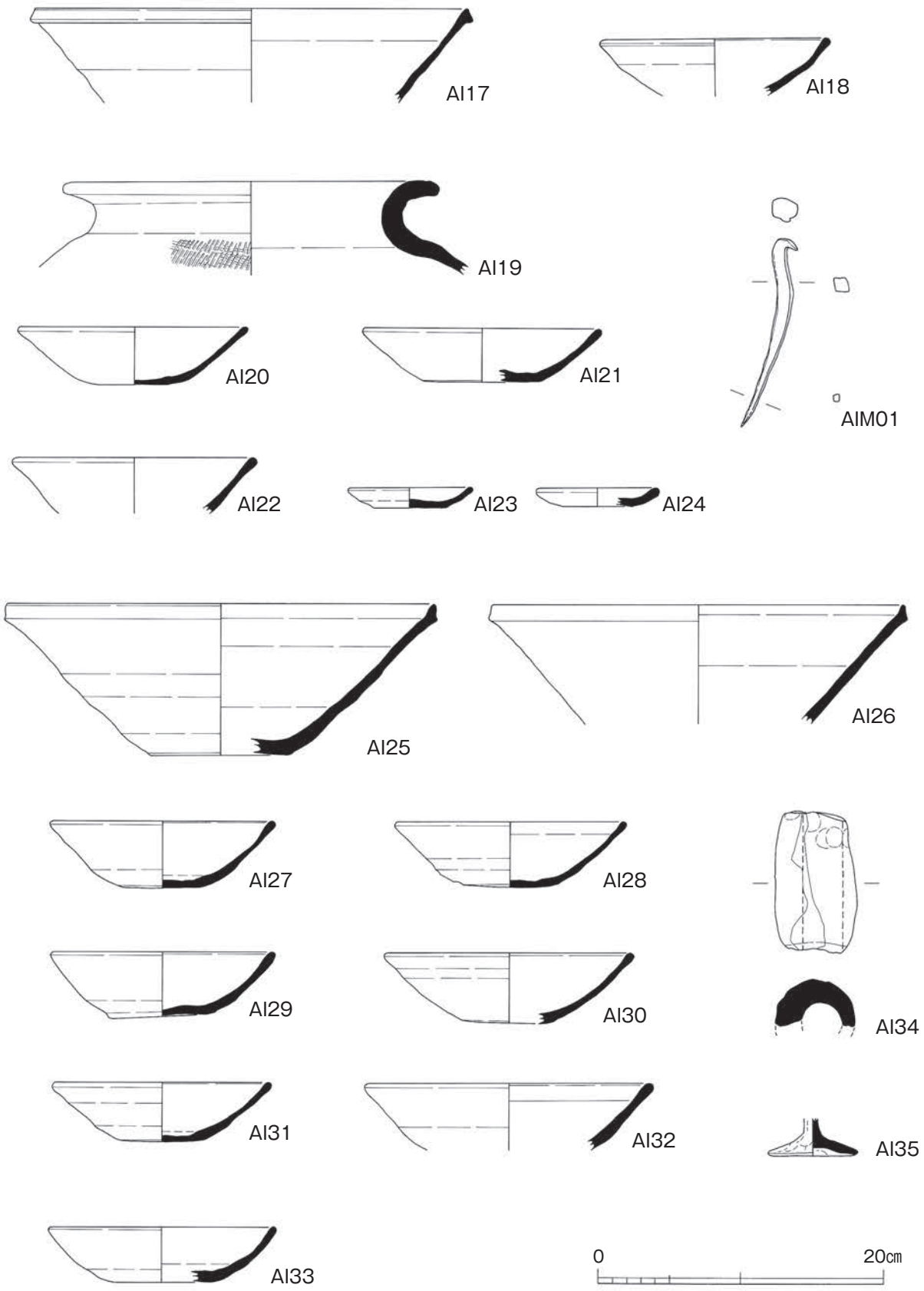


1　2.5Y　5/2　暗灰黄色　シルト混極細粒砂:耕土
2　2.5Y　6/1　灰黄色　極細粒砂質シルト　鉄分含む:床土
3　10YR　6/8　明黄褐色　細粒砂～極細粒砂混シルト　遺物多量に含む　炭、焼土をブロック状に含む
4　2.5Y　6/2　灰黄色　シルト質極細粒砂
5　2.5Y　6/3　にぶい黄色　細粒砂～極細粒砂質シルト　鉄分含む
6　2.5Y　6/6　明黄褐色　極細粒砂質シルト　鉄分含む
7　10YR　7/6　明黄褐色　極細粒砂混シルト
8　2.5Y　7/2　灰黄色　細粒砂～極細粒砂質シルト:遺構埋土
9　2.5Y　7/8　黄色　極細粒砂混シルト

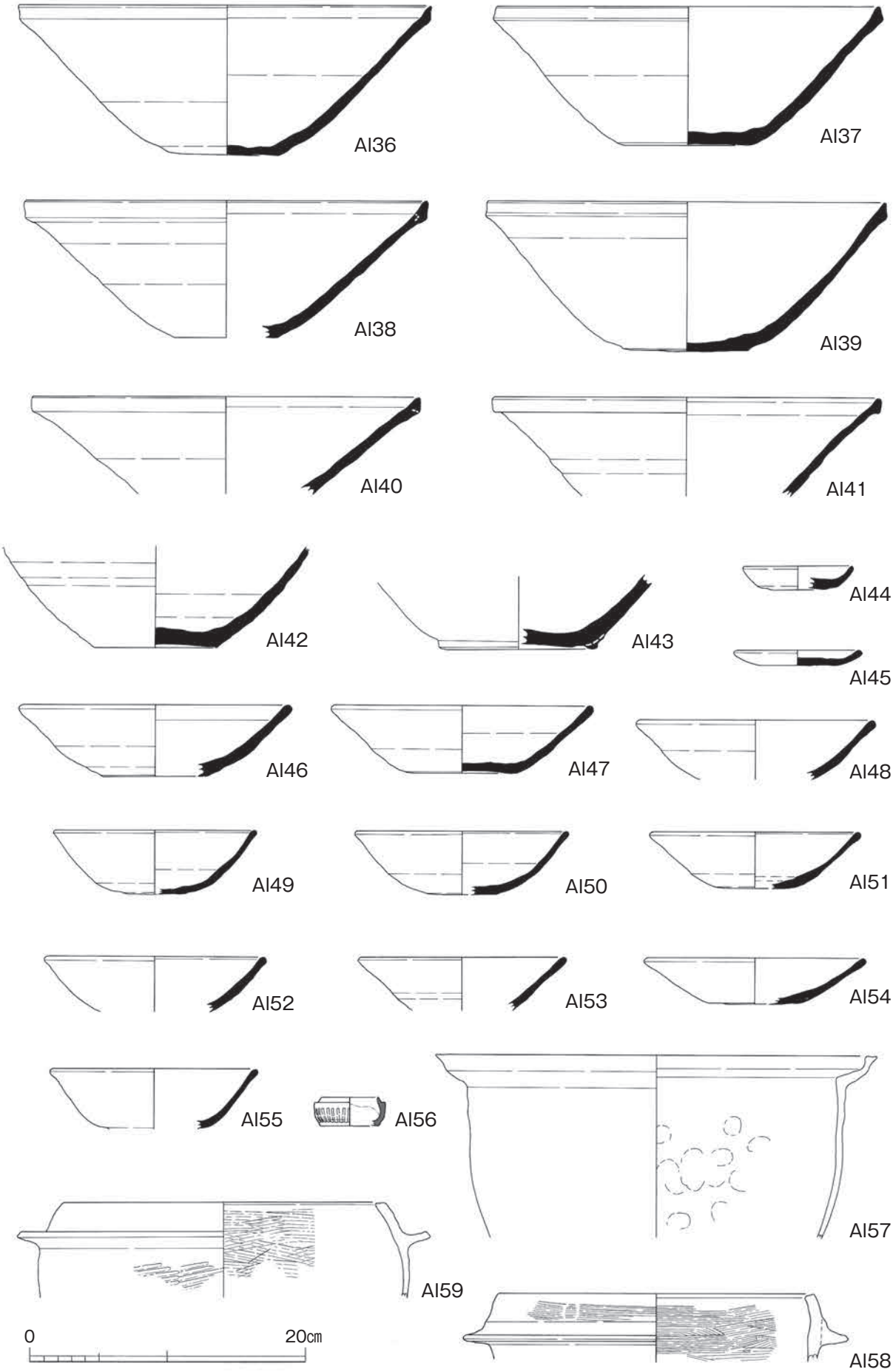




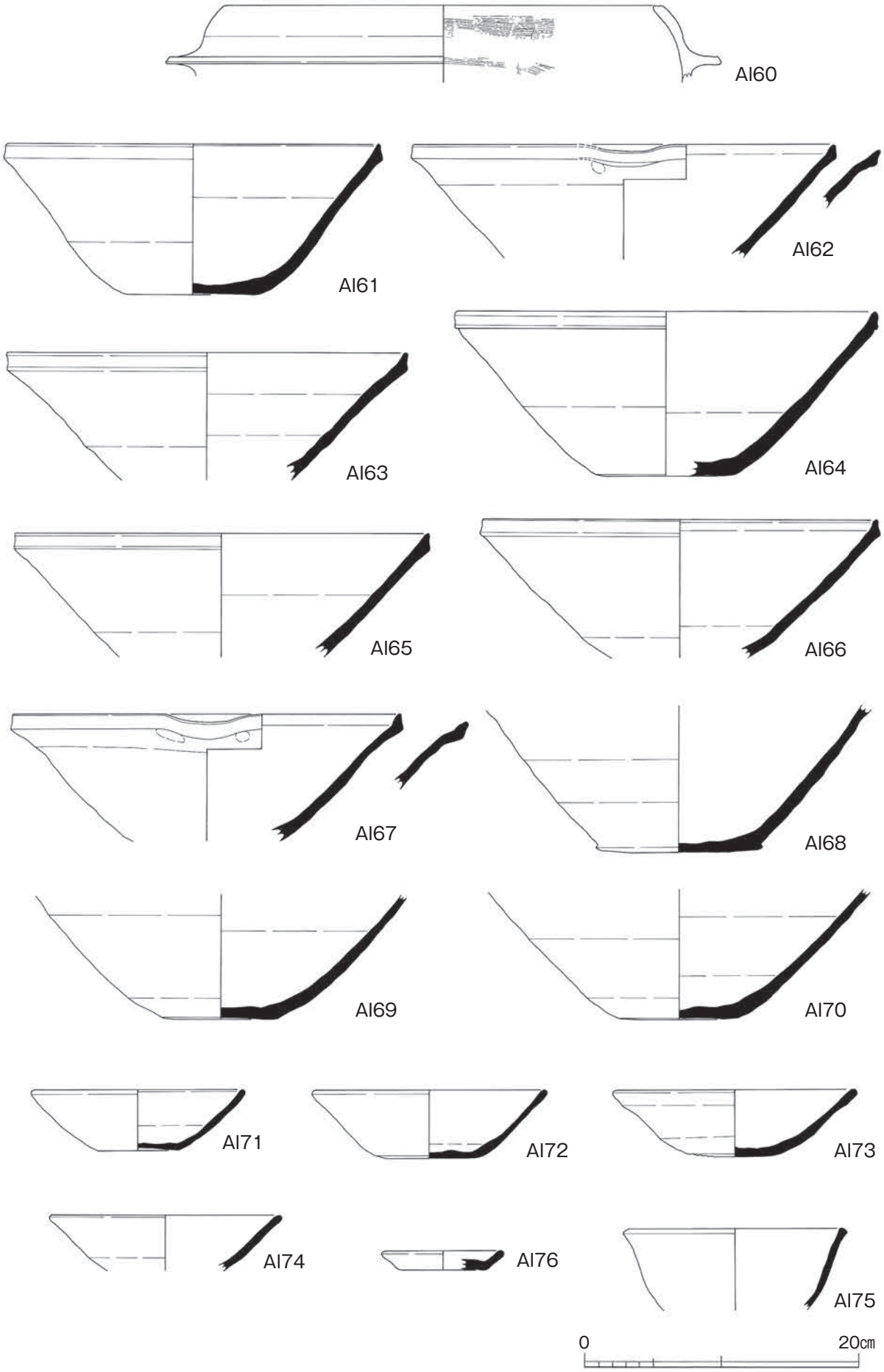
２トレンチ・８トレンチ出土土器



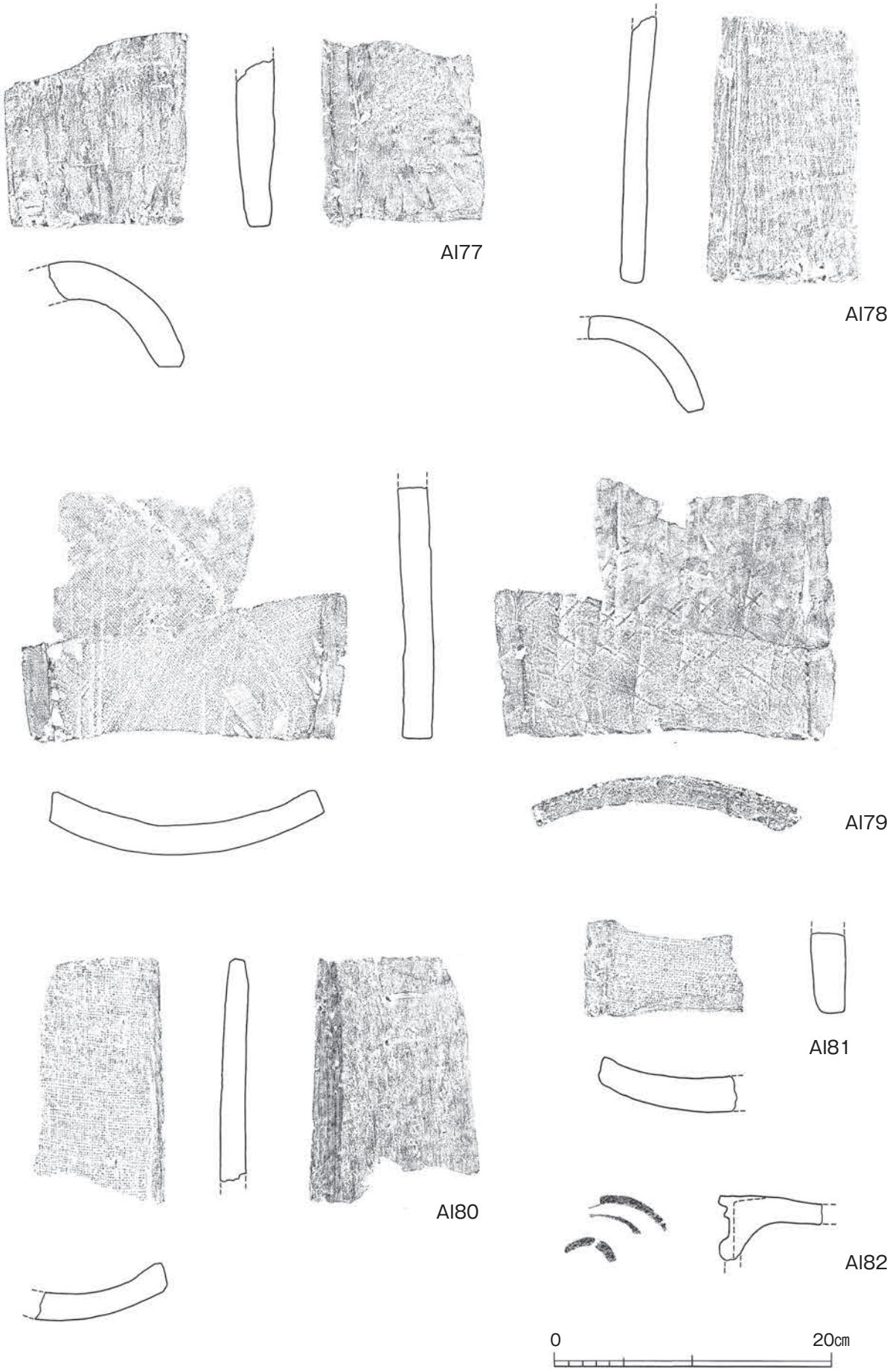
３トレンチ出土土器・出土金属器


AI36
AI37
AI38
AI39
AI40
AI41
AI42
AI43
AI44
AI45
AI46
AI47
AI48
AI49
AI50
AI51
AI52
AI53
AI54
AI55
AI56
AI57
AI59
AI58
0
20cm

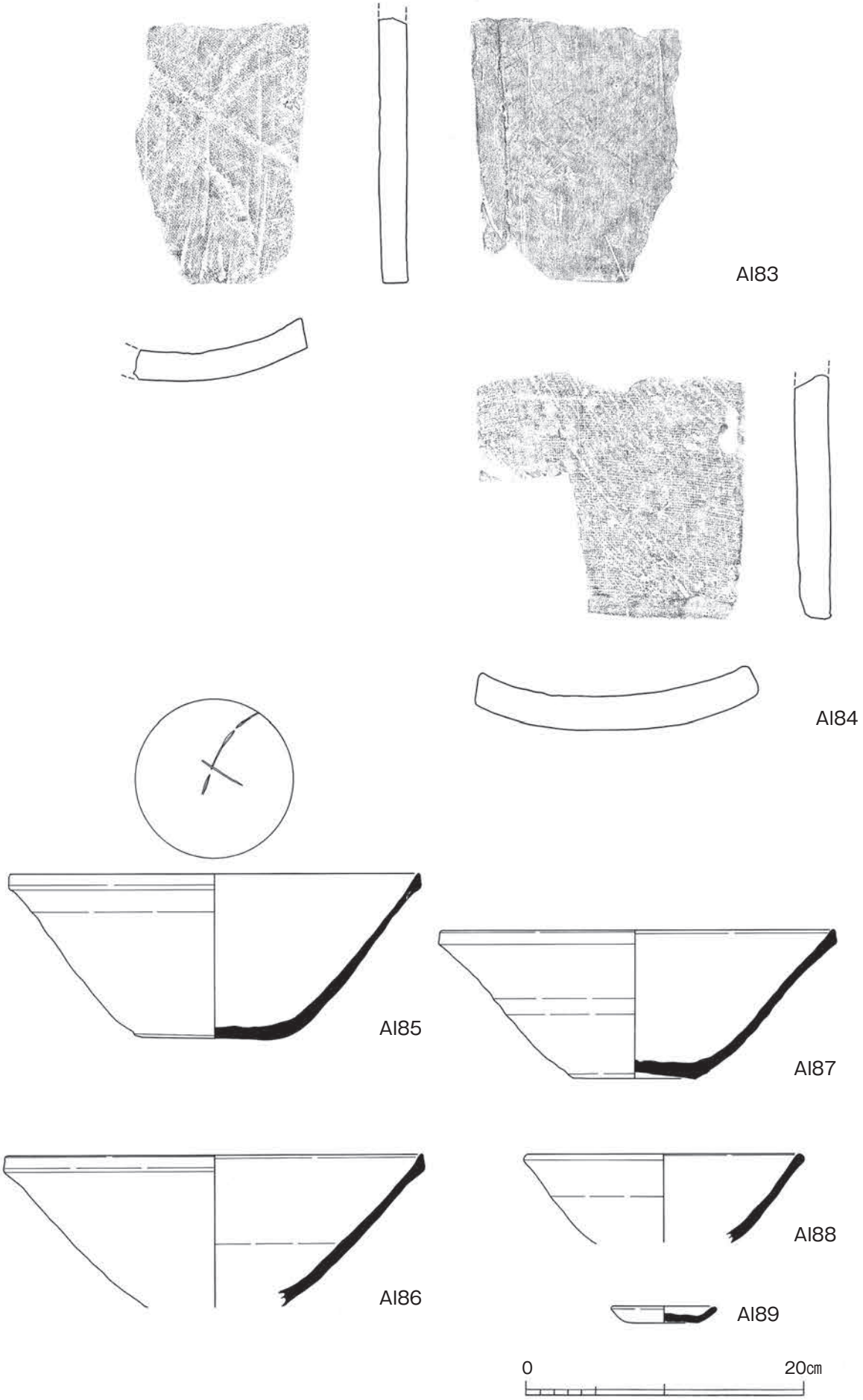
3トレンチ出土土器


AI60
AI61
AI62
AI63
AI64
AI65
AI66
AI67
AI68
AI69
AI70
AI71
AI72
AI73
AI74
AI76
AI75
0
20cm

3トレンチ出土土器



3トレンチ出土土器

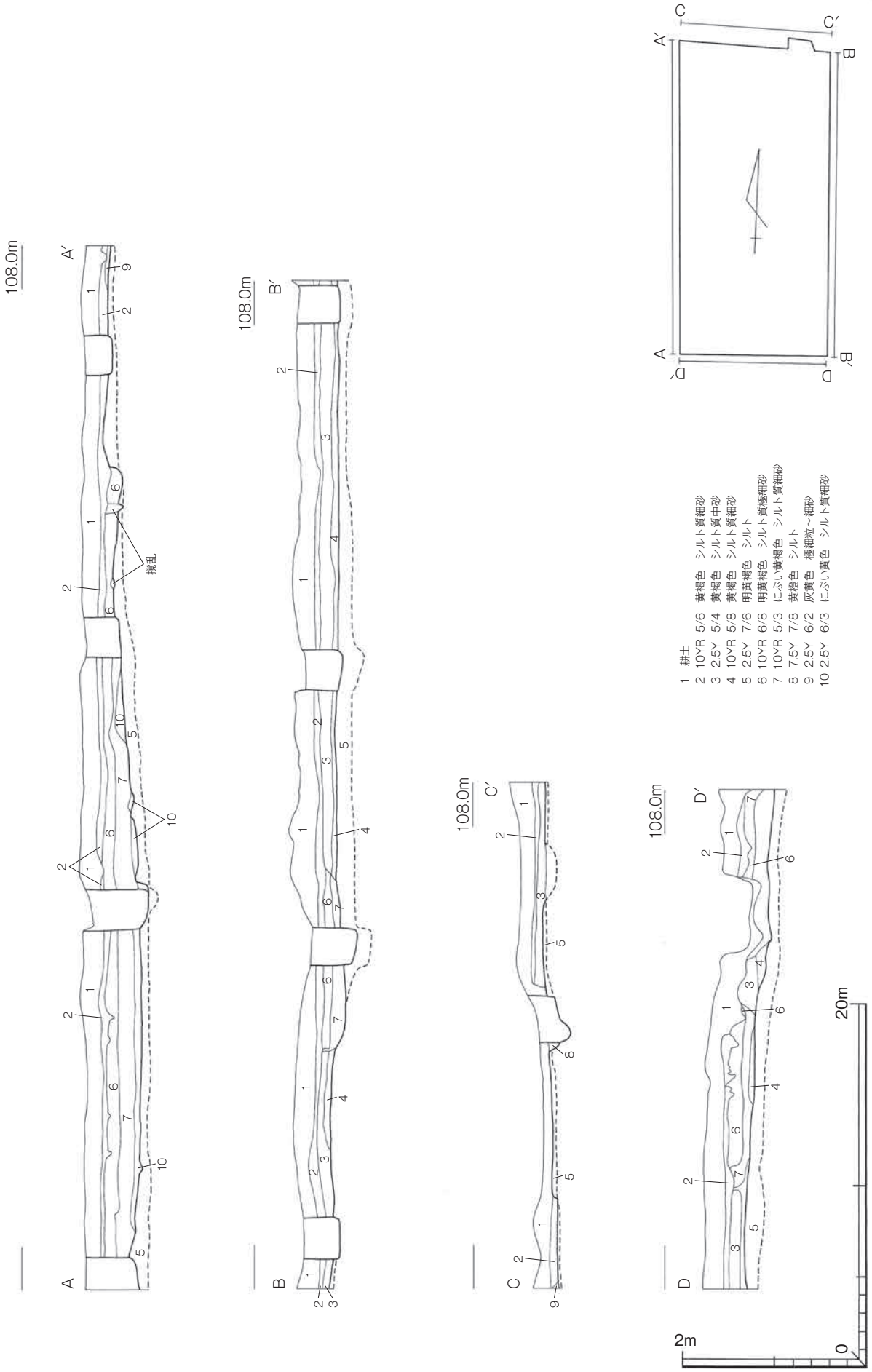


3トレンチ・6トレンチ出土土器

A地区

Y=59.730
Y=59.740
Y=59.750
X=−139.110
X=−139.120
X=−139.130
X=−139.140
X=−139.150
X=−139.160
炭窯02
P02
P39
SB01
P03
SB02
(SK07)
炭窯01
P47
P11
SB03
(SD03)
SK03
P45
P36
P24
SK02
P51
P31
SB04
0
10m

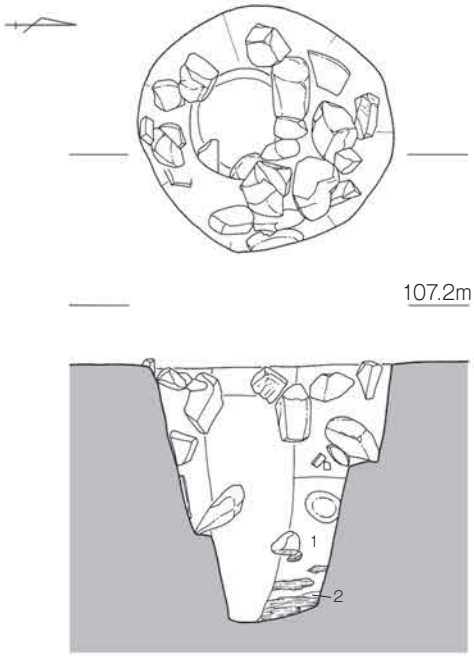
遺構配置図


A
A′
108.0m
撹乱
B
B′
108.0m
C
C′
108.0m
D
D′
108.0m
1 耕土
2 10YR 5/6 黄褐色 シルト質細砂
3 2.5Y 5/4 黄褐色 シルト質中砂
4 10YR 5/8 黄褐色 シルト質細砂
5 2.5Y 7/6 明黄褐色 シルト
6 10YR 6/8 明黄褐色 シルト質極細砂
7 10YR 5/3 にぶい黄褐色 シルト質細砂
8 7.5Y 7/8 黄橙色 シルト
9 2.5Y 6/2 灰黄色 極細粒～細砂
10 2.5Y 6/3 にぶい黄色 シルト質細砂
0
2m
20m

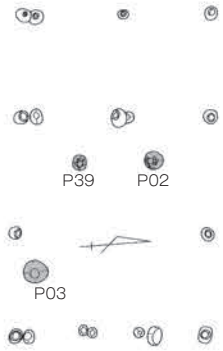
調査区壁断面図

SB01・02 平面図・断面図

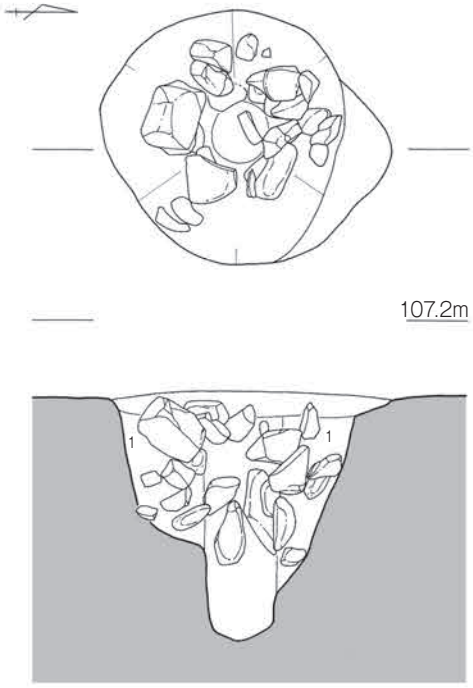
P02



1 10YR 5/2 灰黄褐色 細砂
2 10YR 4/6 褐色 粘土(床面付近のブロック堆積)

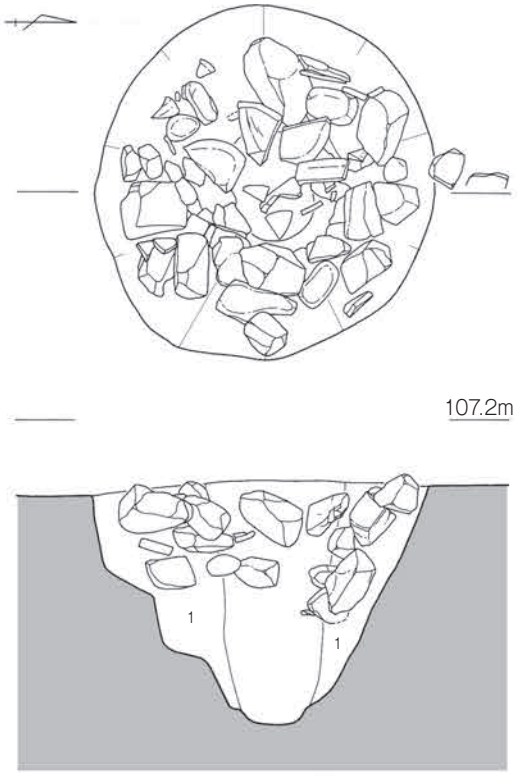


P39



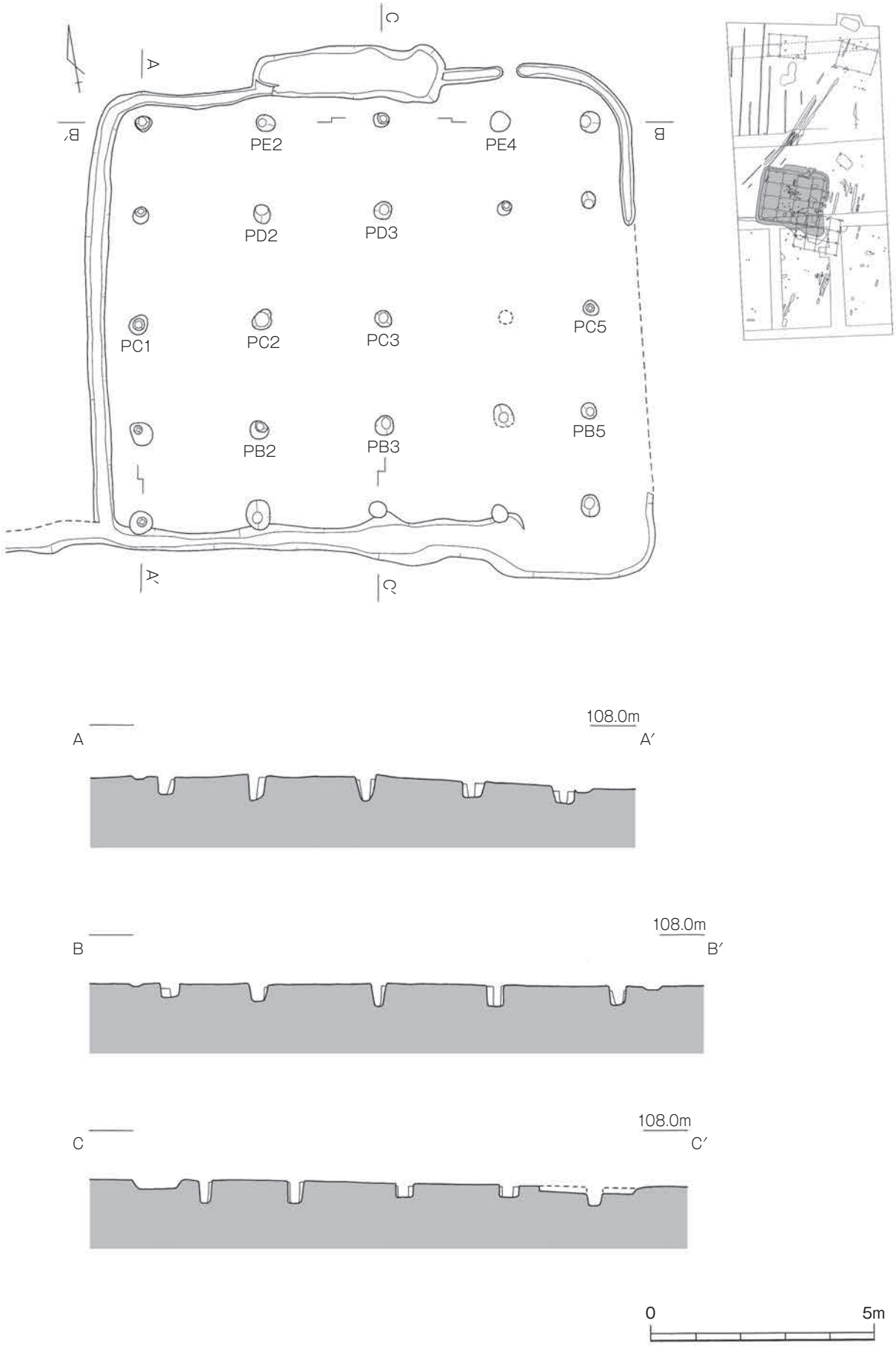
1 10YR 5/2 灰黄褐色 細砂

P03

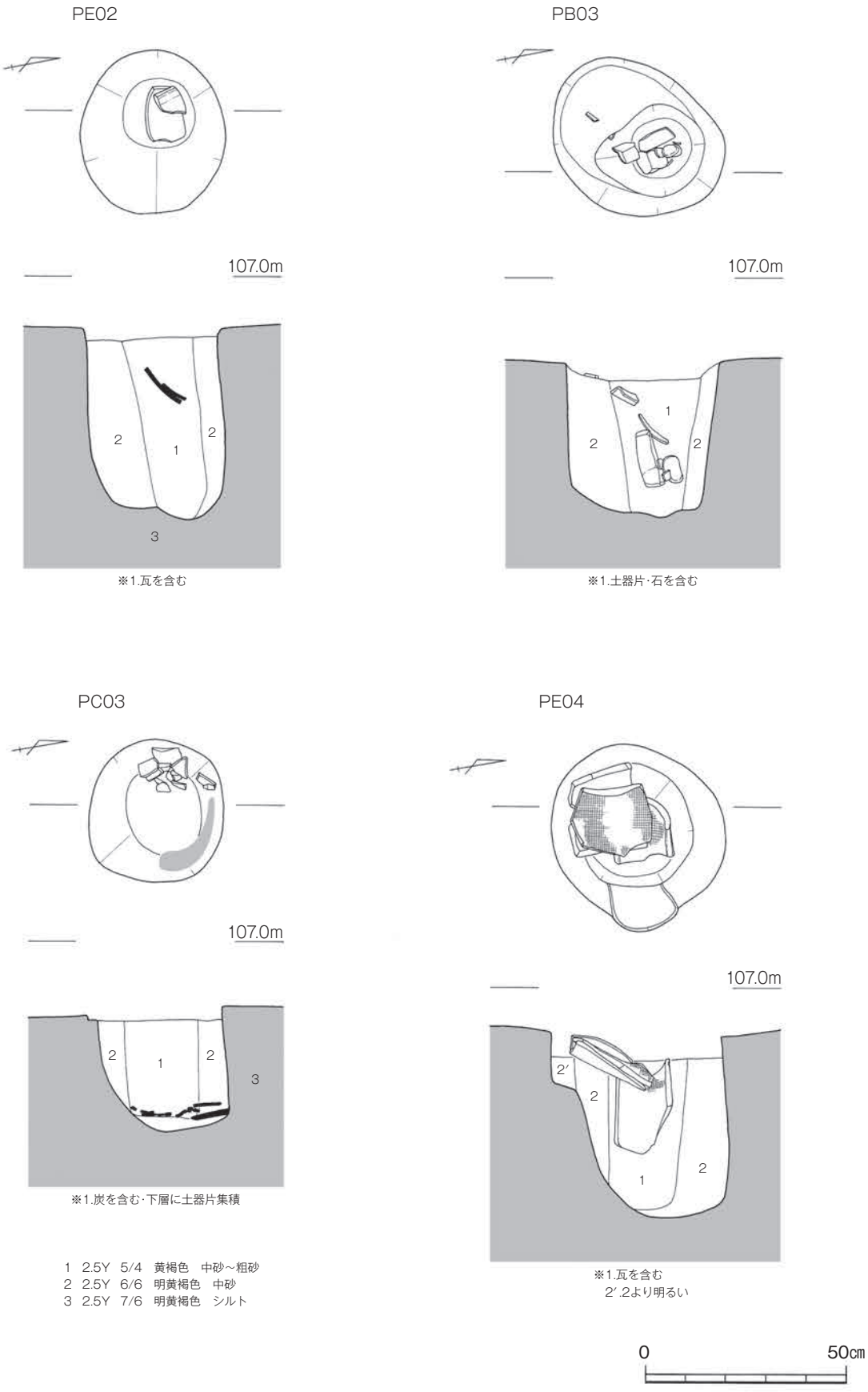


1 10YR 5/6 黄褐色 細砂(一部地山ブロック混入)土器含む

P02・03・39 平面図・断面図

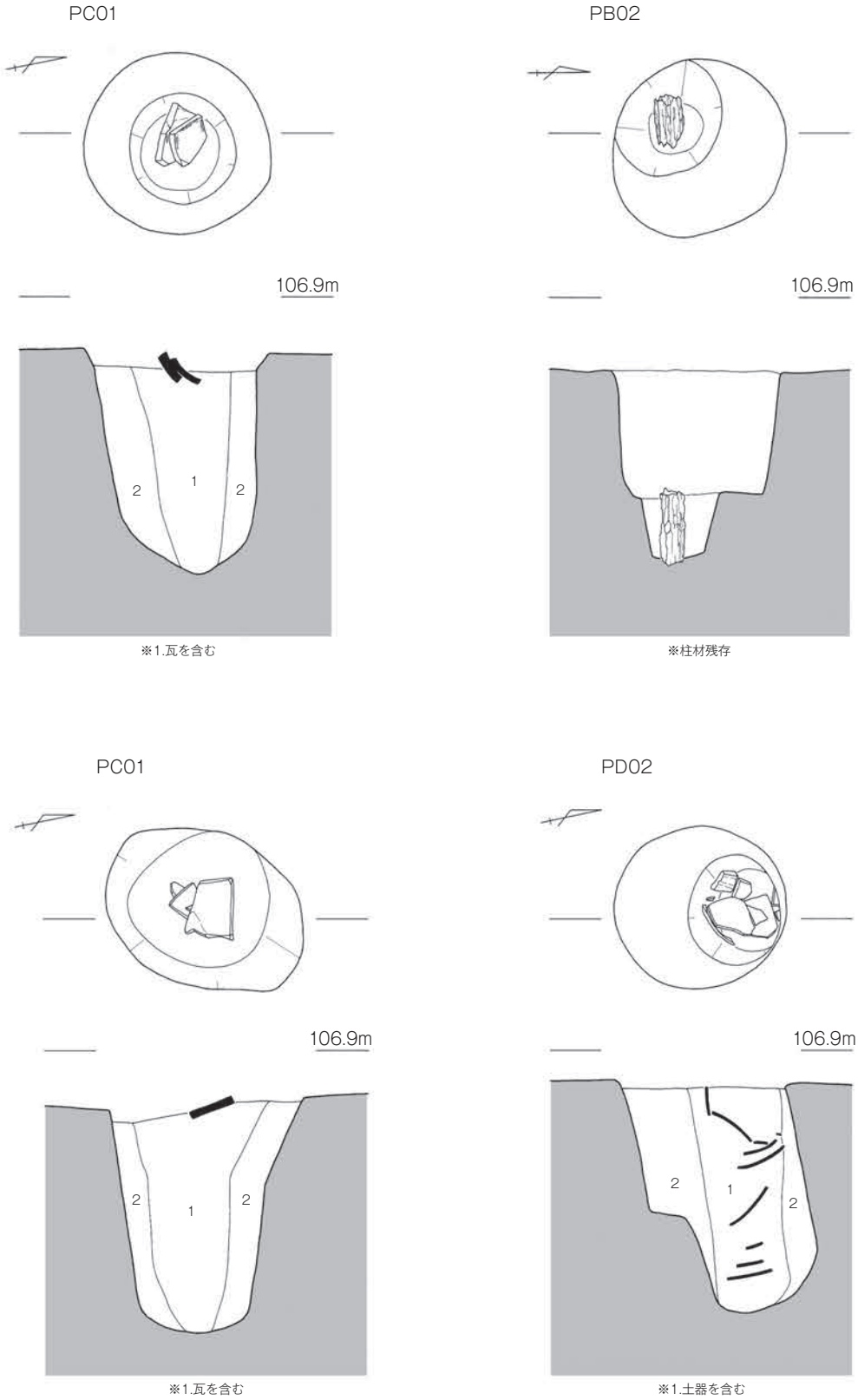


SB03 平面図・断面図



1 2.5Y 5/4 黄褐色 中砂～粗砂
2 2.5Y 6/6 明黄褐色 中砂
3 2.5Y 7/6 明黄褐色 シルト

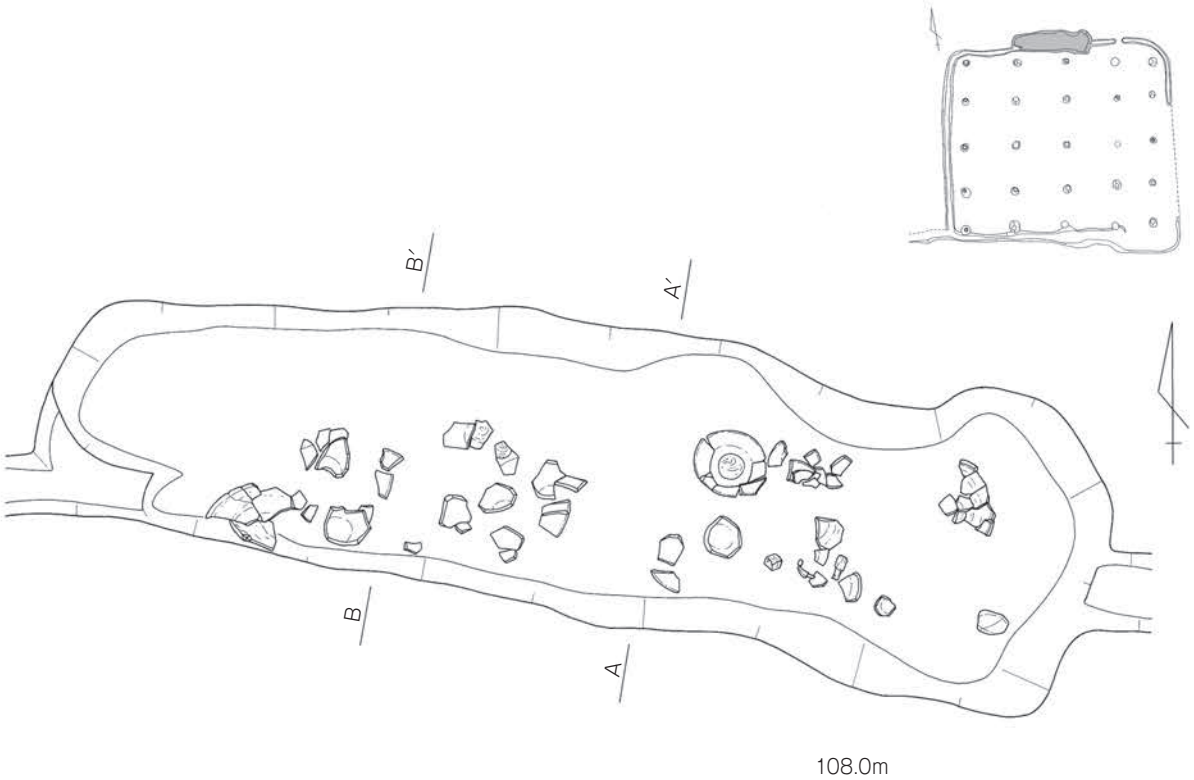
SB03 柱穴平面図・断面図①

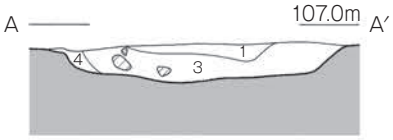


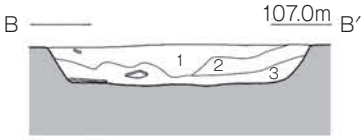
1 2.5Y 5/4 黄褐色 中砂～粗砂
2 2.5Y 6/6 明黄褐色 中砂
3 2.5Y 7/6 明黄褐色 シルト

0 50cm

SB03 柱穴平面図・断面図②



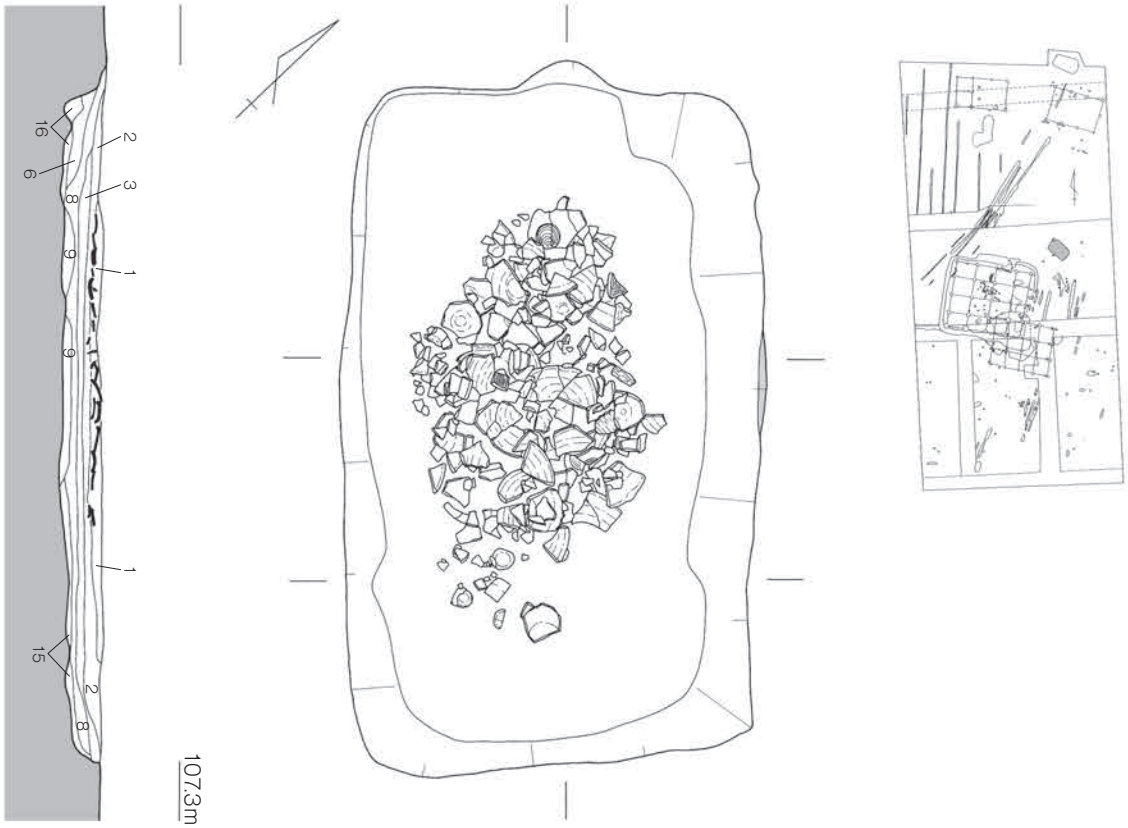


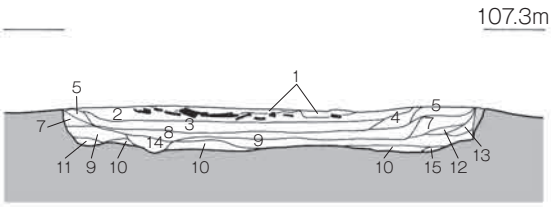


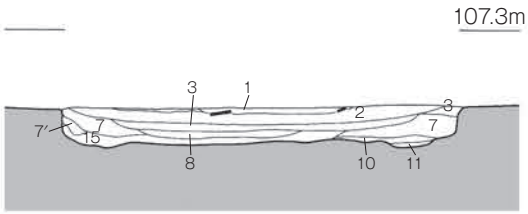
1　2.5Y　6/3　にぶい黄色　細砂(中砂含む)土器、鉄分、マンガン粒含む
2　2.5Y　5/4　黄褐色　細砂(中砂含む)鉄分、マンガン粒含む
3　2.5Y　7/3　浅黄色　極細砂～細砂(中粗砂含む)土器多量、小礫、炭粒含む
4　2.5Y　7/3　浅黄色　極細砂～細砂(中粗砂含む)　3 層に類似

SB03 内 SK07 平面図・断面図

SB04 平面図・断面図



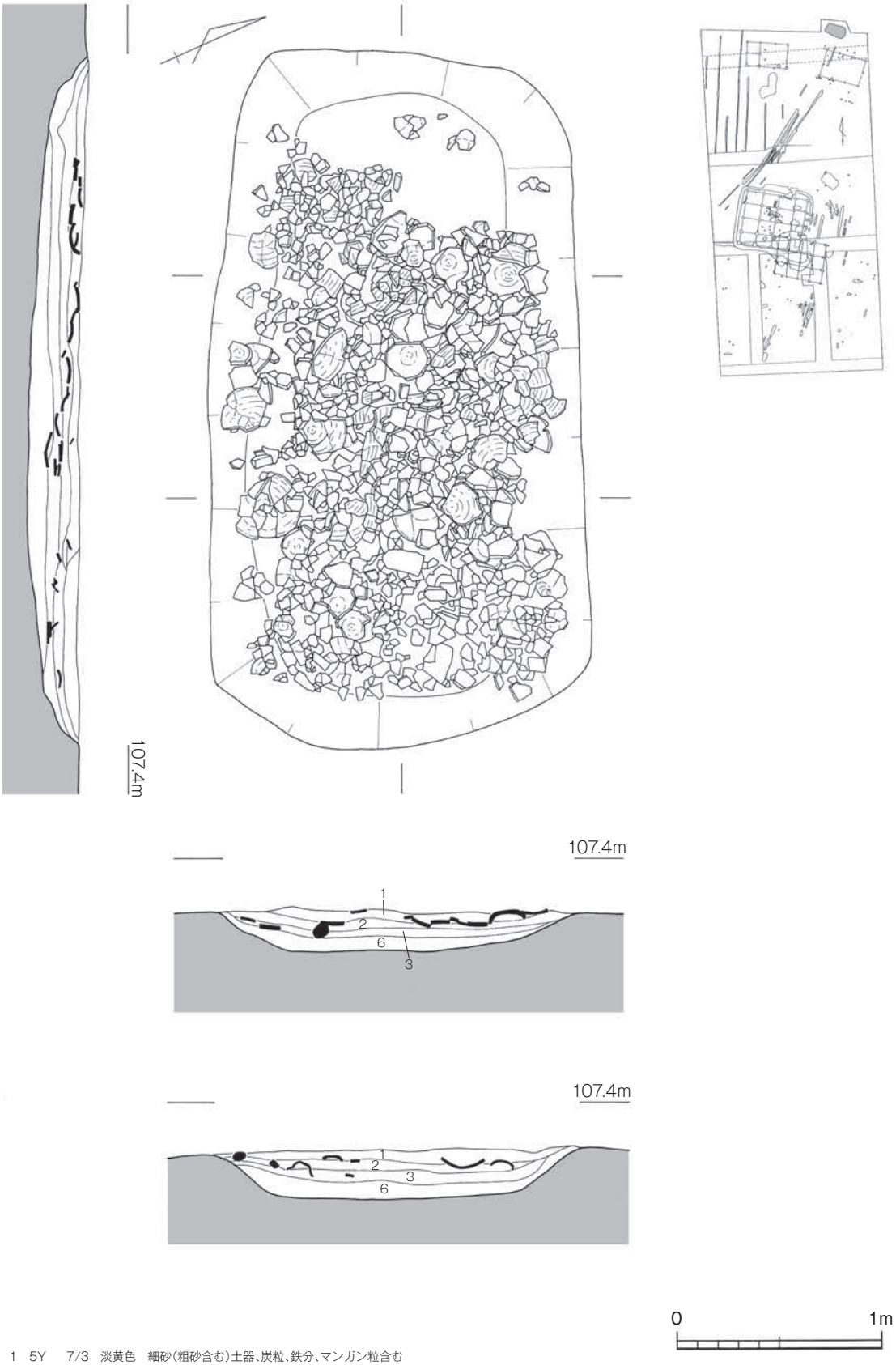




1 5Y 5/4 淡黄色 極細砂～細砂(中砂含む)土器、炭粒、鉄分、マンガン粒含む
2 2.5Y 5/3 黄褐色 極細砂(中砂含む)土器、炭粒、マンガン粒含む
3 5Y 5/3 灰オリーブ色 極細砂(中砂含む)土器、炭粒、マンガン粒含む
4 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 極細砂～細砂(中砂含む)炭粒、マンガン粒含む
5 2.5Y 5/4 にぶい黄色 細砂(中砂含む)炭粒、マンガン粒含む
6 2.5Y 3/2 黒褐色 極細砂～細砂(中砂含む)炭粒、焼土、マンガン粒含む
7 5Y 8/2 灰白色 極細砂(中粗砂含む)炭粒、焼土、マンガン粒含む
7′ 5Y 8/4 浅黄色 極細砂(中砂～粗砂含む)炭粒含む
8 2.5Y 5/2 暗灰黄色 極細砂～細砂(中砂含む)炭粒、マンガン粒含む
9 2.5Y 3/3 暗オリーブ褐色 中砂(粗砂含む)炭粒多量に含む
10 2.5YR 4/8 赤褐色 細砂～中砂 焼土堆積
11 2.5Y 6/3 にぶい黄色 極細砂～細砂(中砂含む)炭粒含む
12 2.5Y 5/2 暗灰黄色 細砂～中砂(粗砂含む)
13 2.5Y 7/6 明黄褐色 細砂～中砂(粗砂含む)炭粒、灰白色粘土粒混入
14 2.5Y 5/2 暗灰黄色 極細砂～細砂(中砂含む) 8 層に類似
15 2.5Y 6/3 にぶい黄色 極細砂(中砂含む)炭多量に含む
16 2.5Y 6/3 にぶい黄色 極細砂～細砂(中砂含む) 11 層に類似

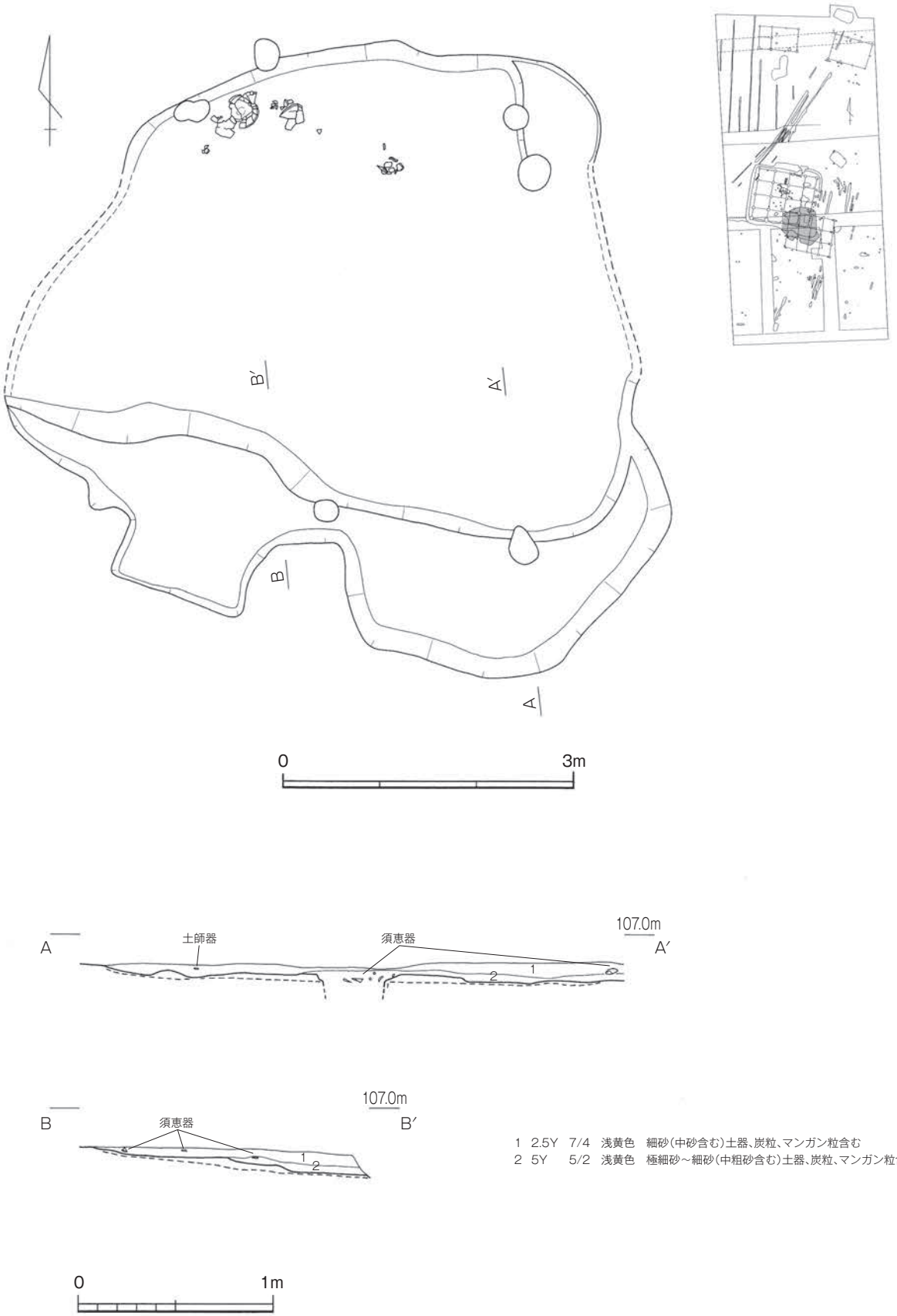
0 1m

炭窯 01 平面図・断面図



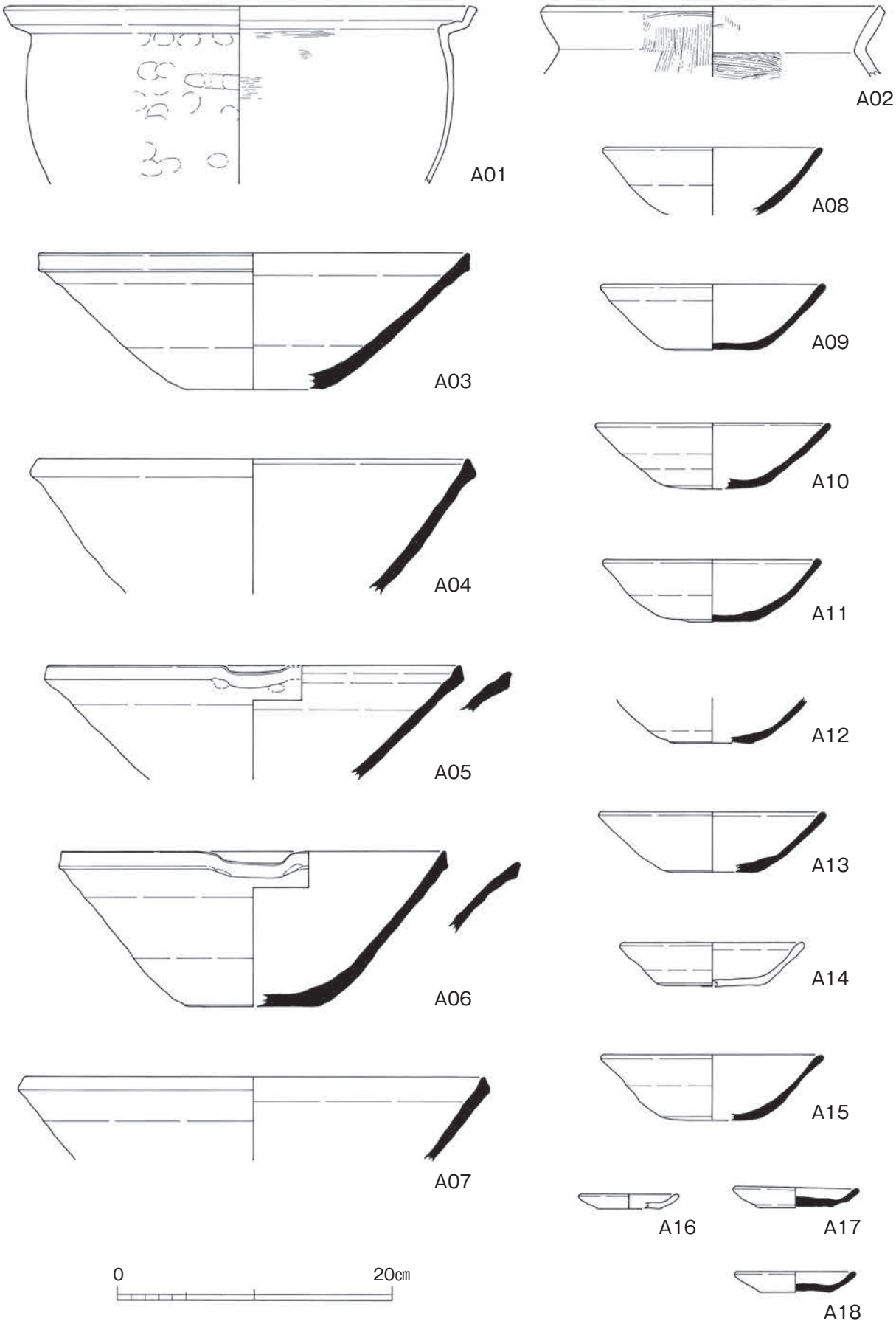
1　5Y　7/3　淡黄色　細砂(粗砂含む)土器、炭粒、鉄分、マンガン粒含む
2　2.5Y　5/2　暗灰黄色　極細砂～細砂(中砂含む)土器、炭粒、マンガン粒、小礫含む
3　5Y　6/2　灰オリーブ色　細砂(中粗砂含む)土器、鉄分、マンガン粒含む
4　2.5Y　3/2　黒褐色　シルト質細砂(中粗砂含む)マンガン粒含む
5　2.5Y　6/8　オリーブ褐色　シルト質細砂(中粗砂含む)マンガン粒含む
6　2.5Y　6/4　にぶい黄褐色　極細砂(中砂含む)土器、鉄分、マンガン粒含む

炭窯 02 平面図・断面図

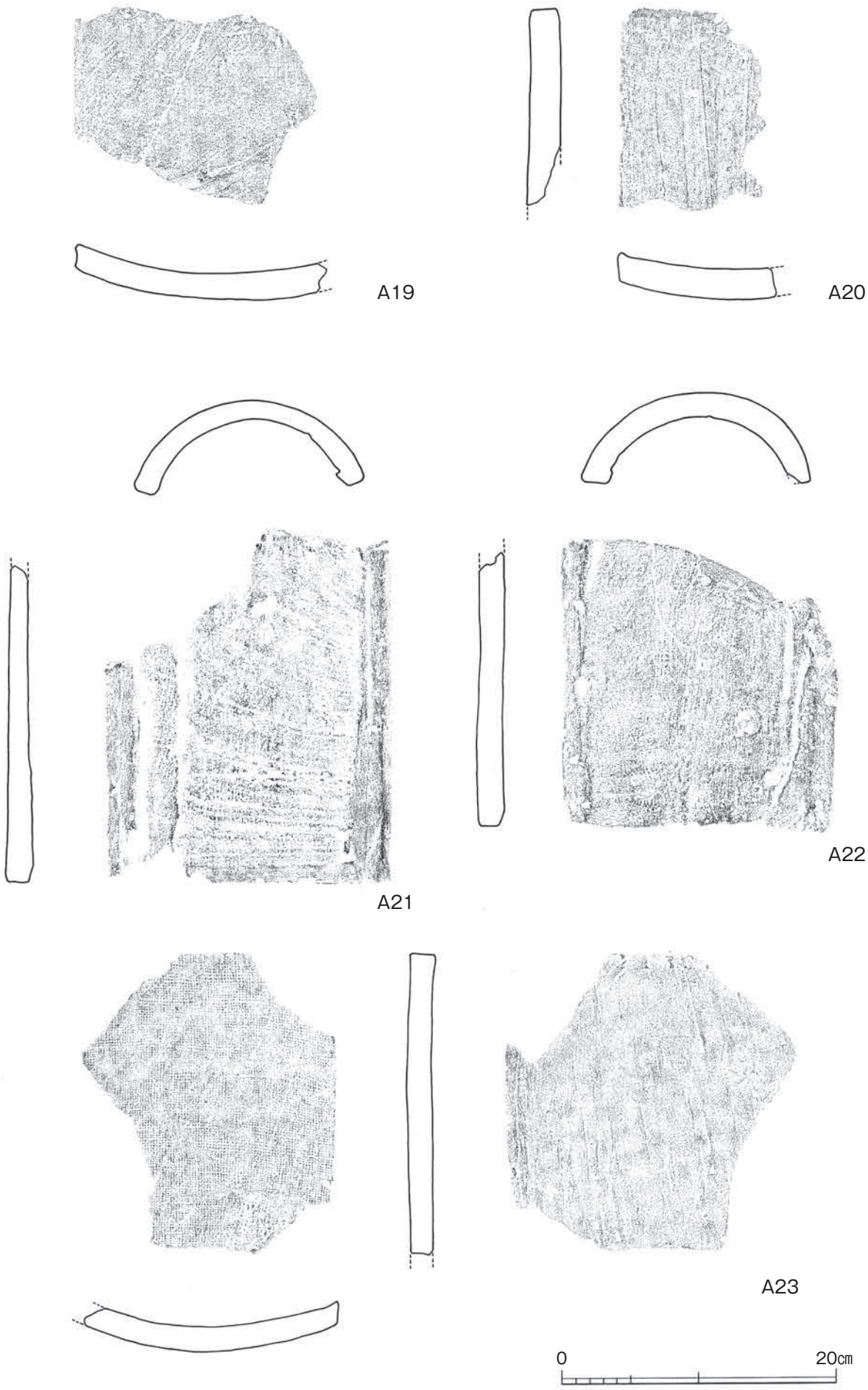


1 2.5Y 7/4 浅黄色 細砂(中砂含む)土器、炭粒、マンガン粒含む
2 5Y 5/2 浅黄色 極細砂～細砂(中粗砂含む)土器、炭粒、マンガン粒含む

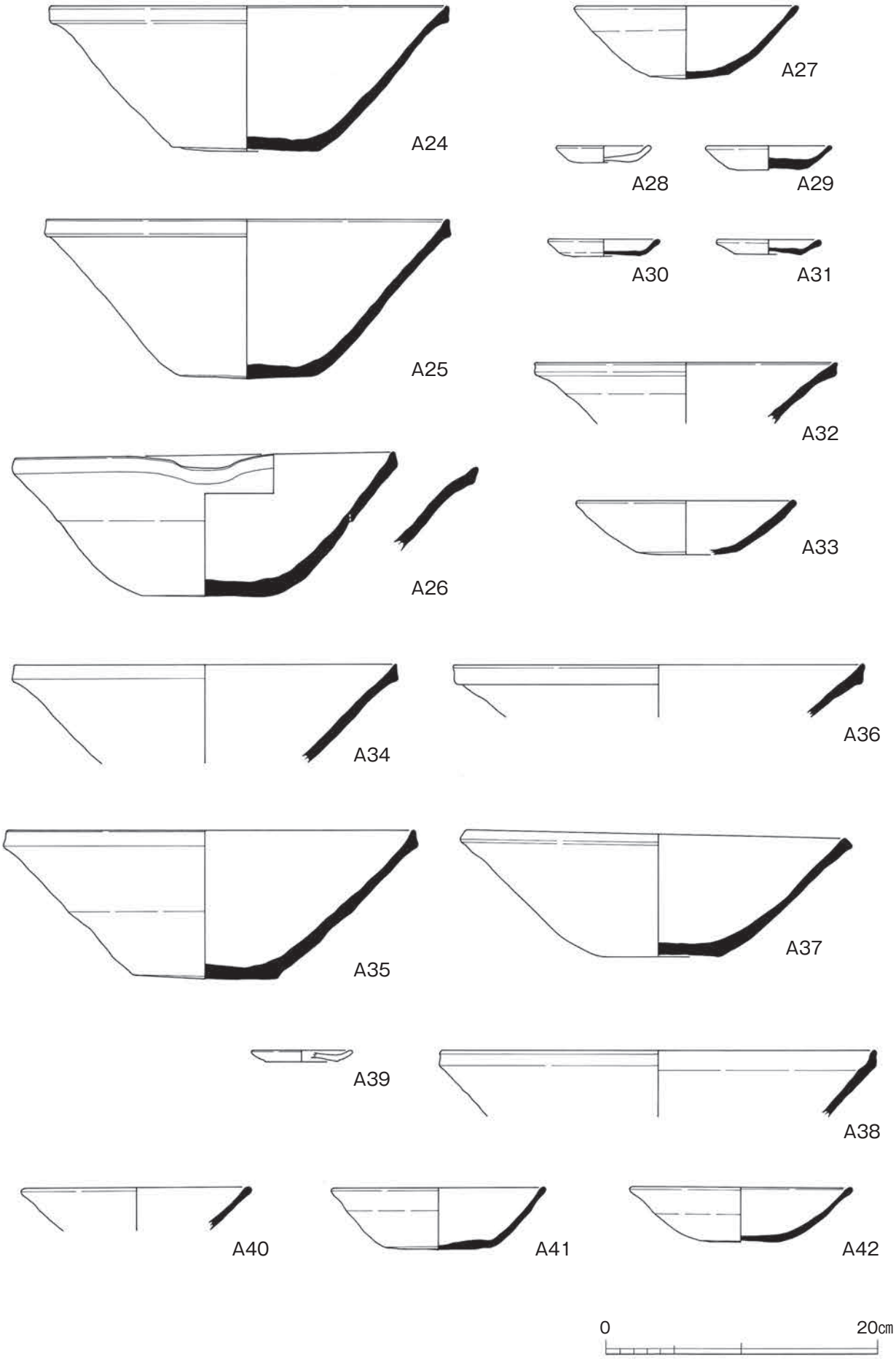
SK03 平面図・断面図


A01
A02
A03
A04
A05
A06
A07
A08
A09
A10
A11
A12
A13
A14
A15
A16
A17
A18
0
20㎝

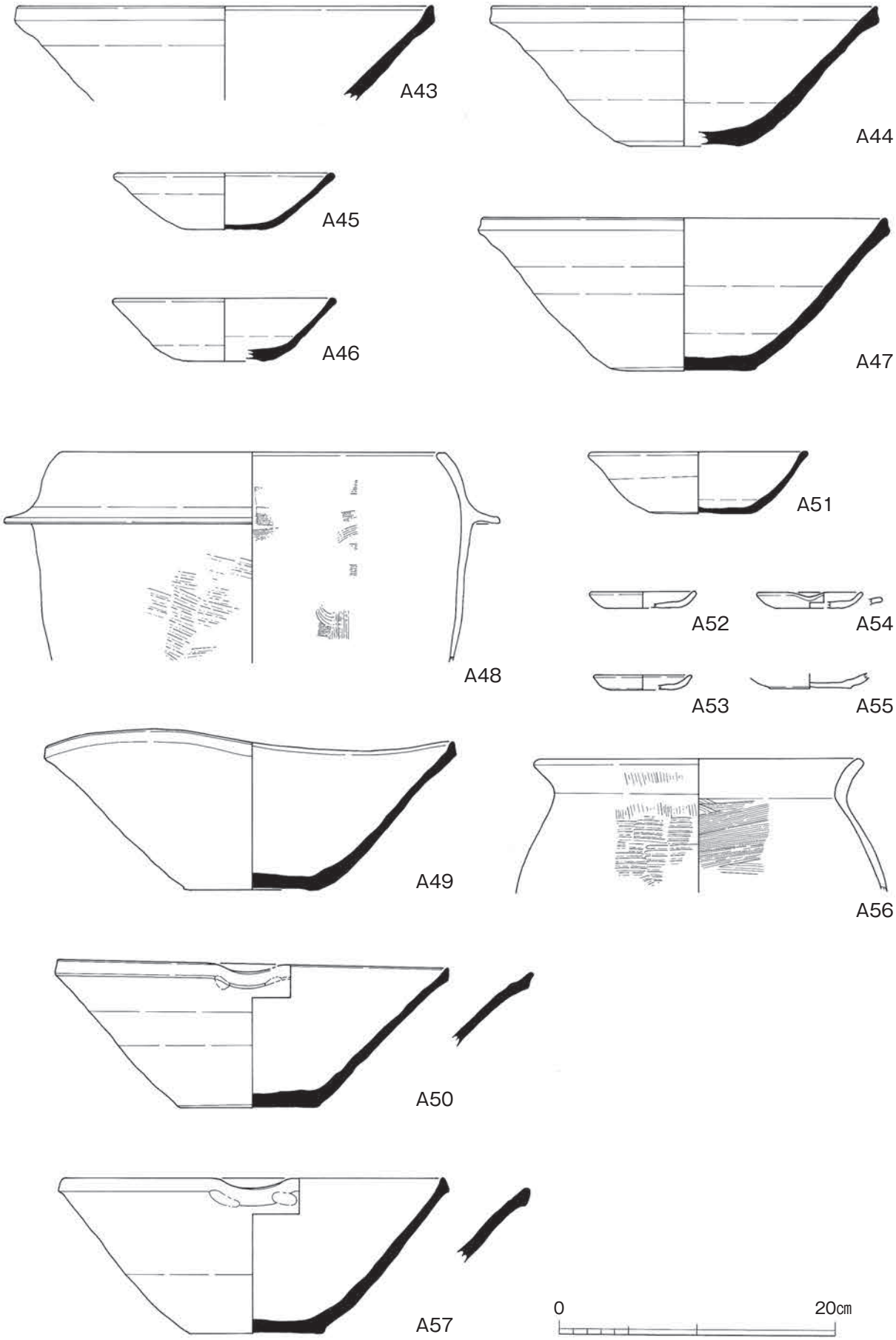
SB03 出土土器



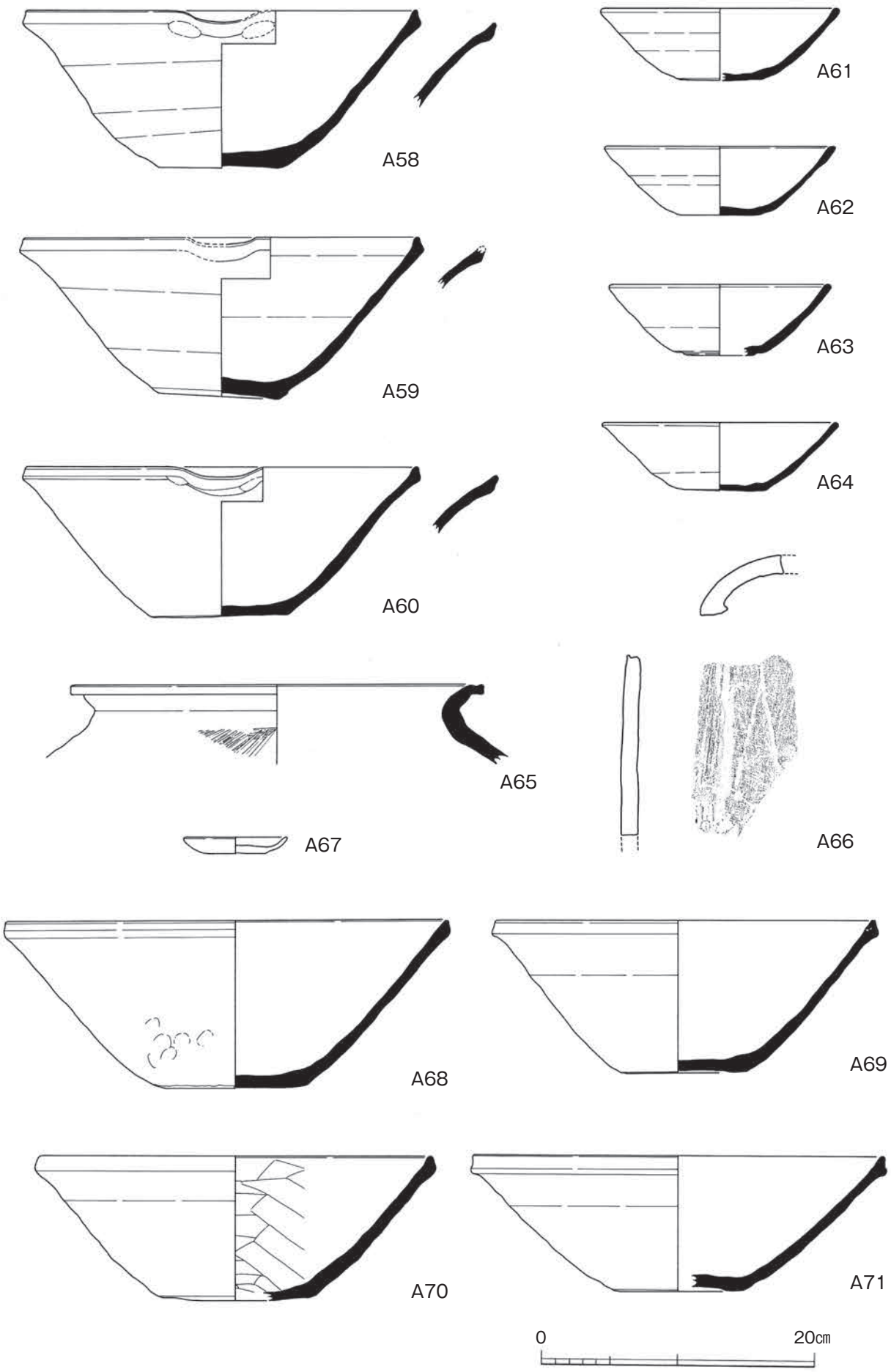
SB03 出土土器



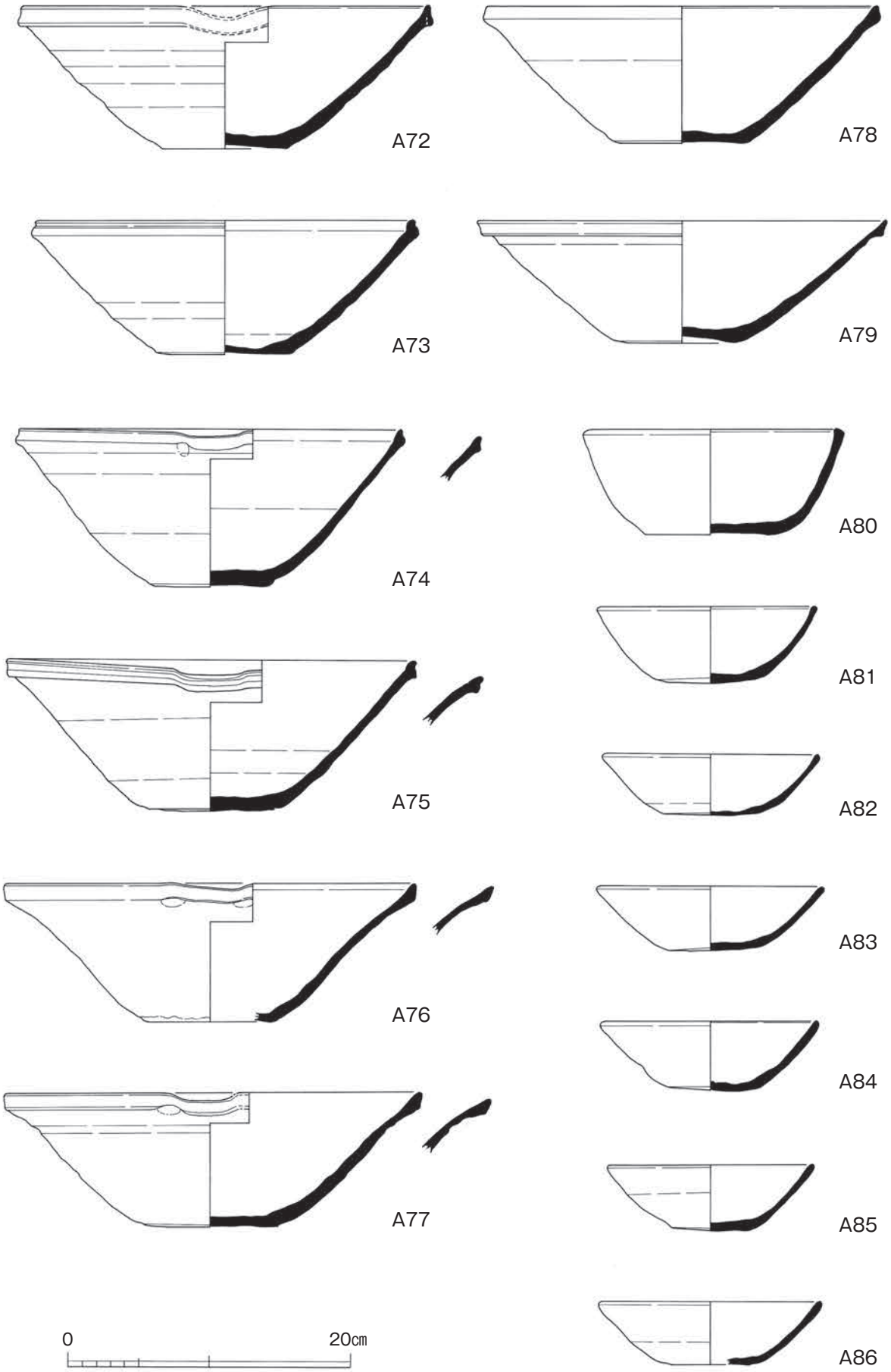
SB03（SD07・SD03）・SB04・ピット出土土器



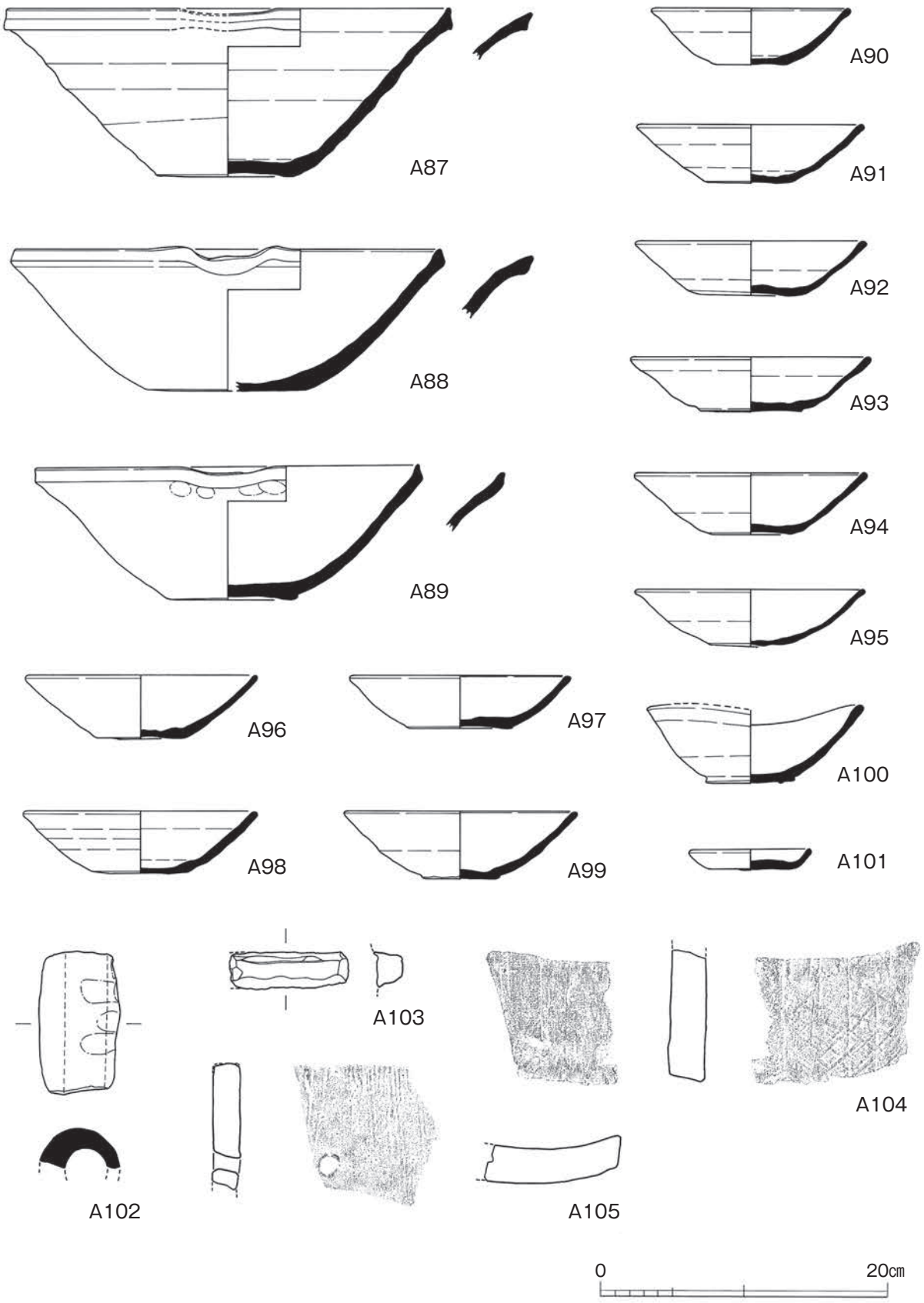
ピット・炭窯 01 出土土器



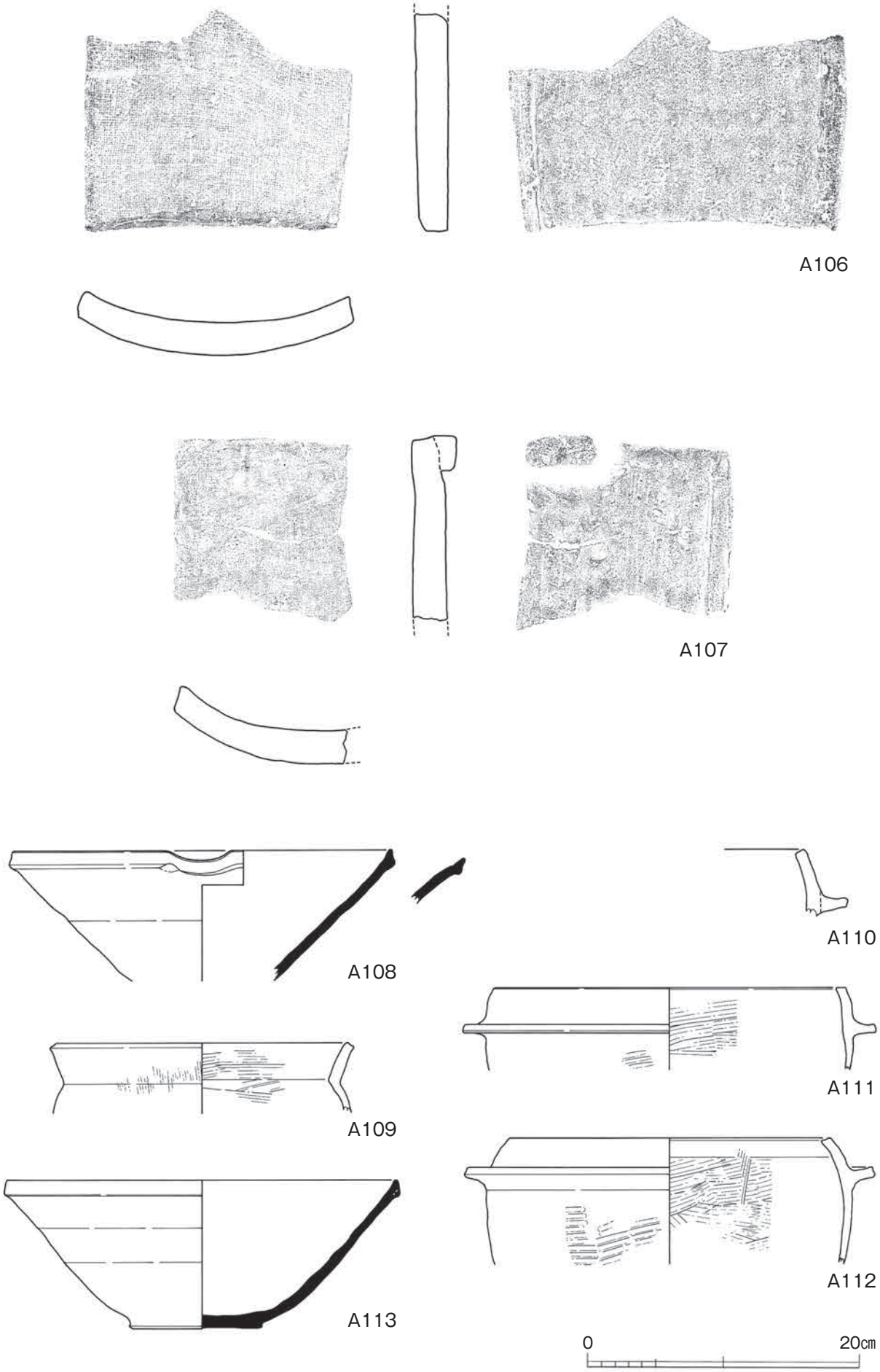
炭窯 01・炭窯 02 出土土器



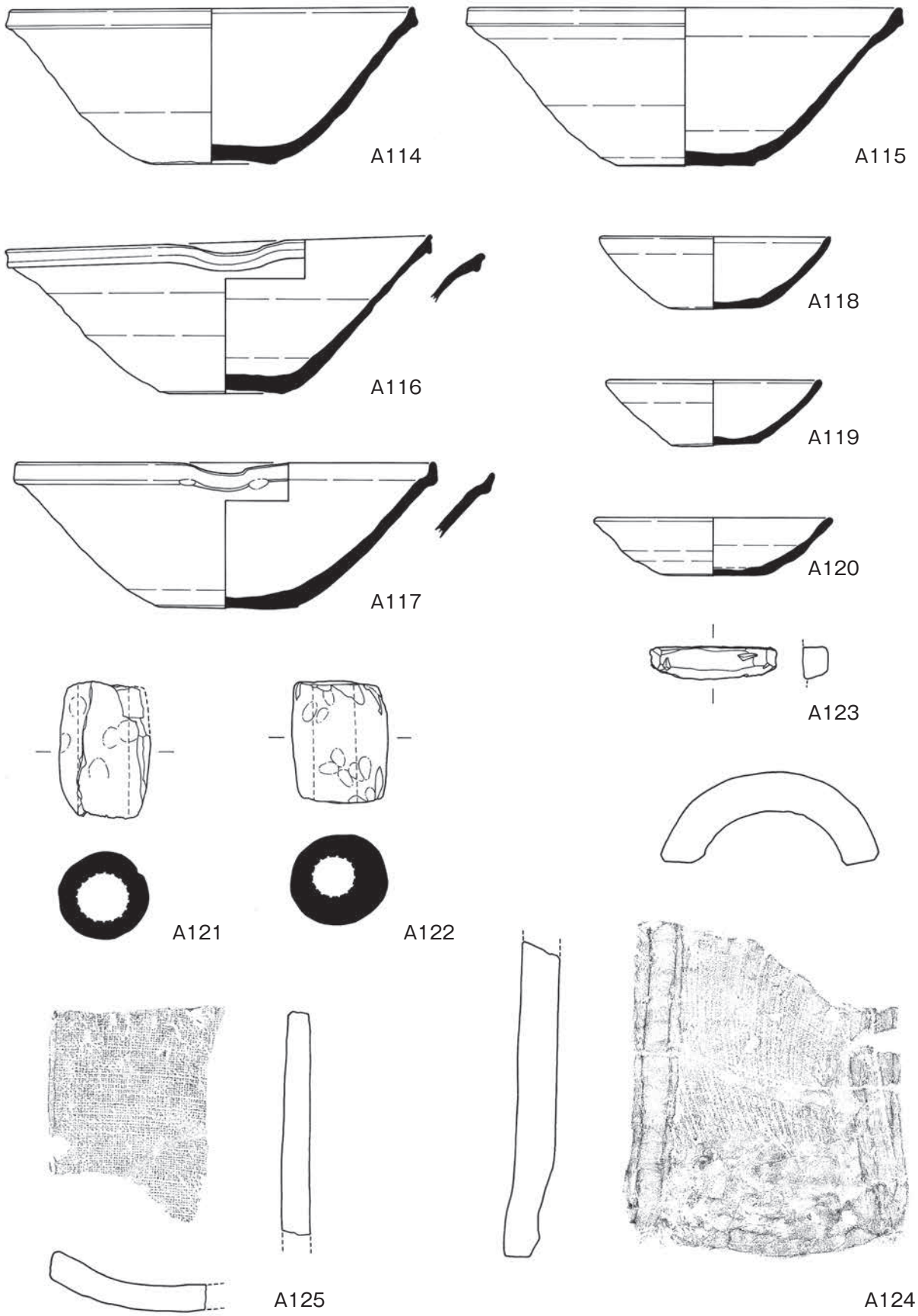
炭窯 02 出土土器


A87
A88
A89
A90
A91
A92
A93
A94
A95
A96
A97
A98
A99
A100
A101
A102
A103
A104
A105
0
20cm

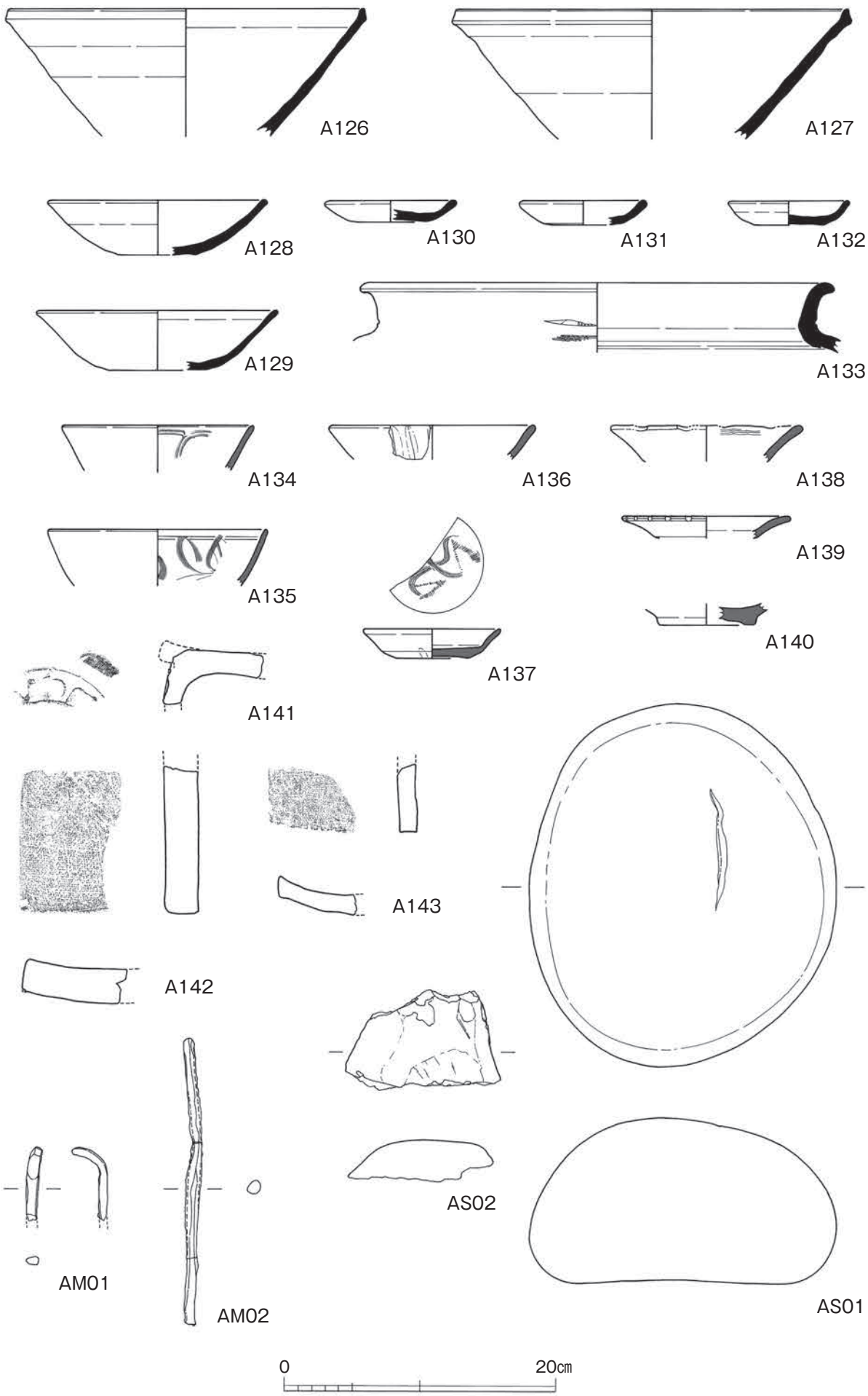
炭窯 02 出土土器



炭窯 02・SK02・SK03 出土土器


A114
A115
A116
A118
A119
A117
A120
A123
A121
A122
A125
A124
0
20㎝

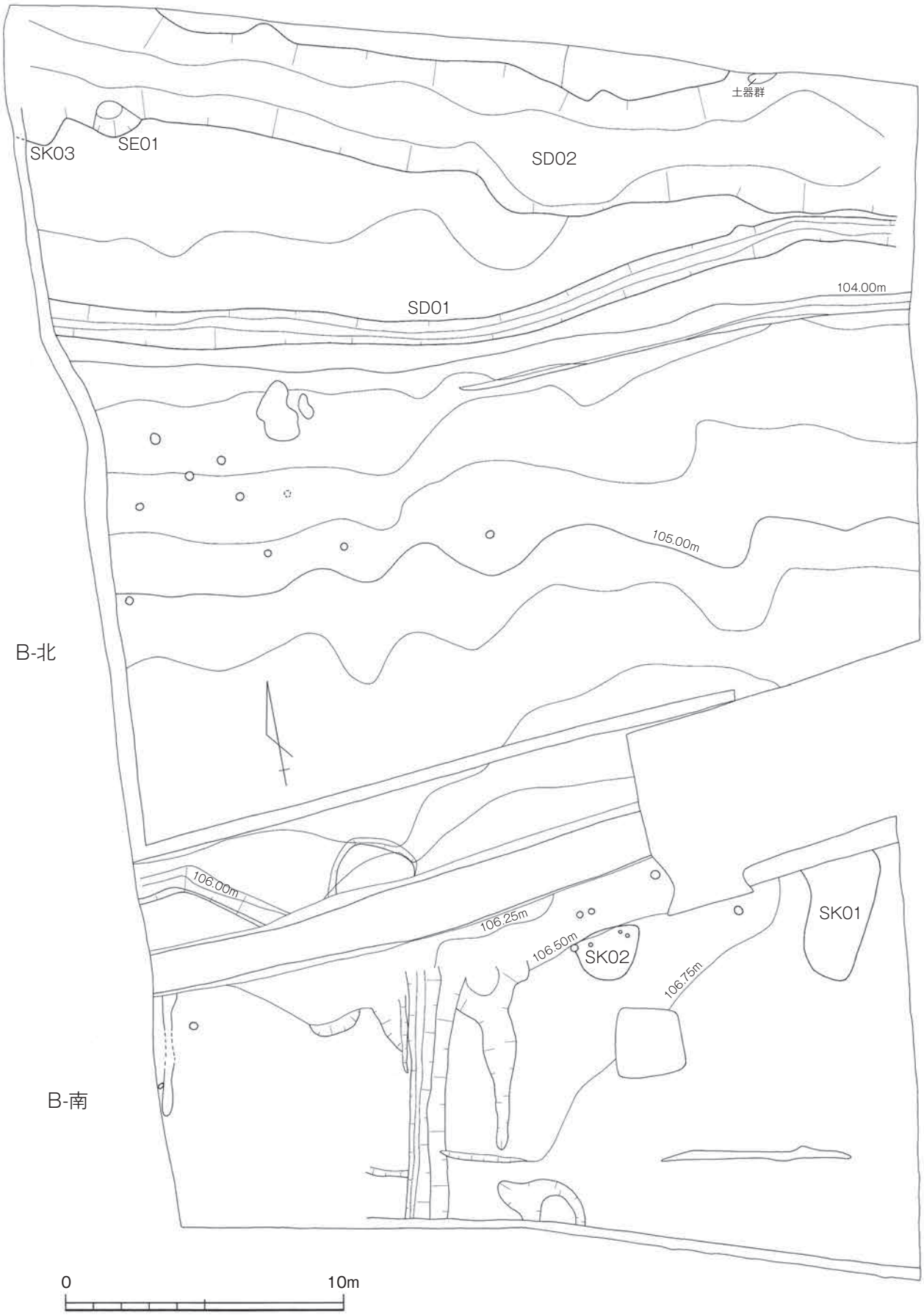
SK03 出土土器



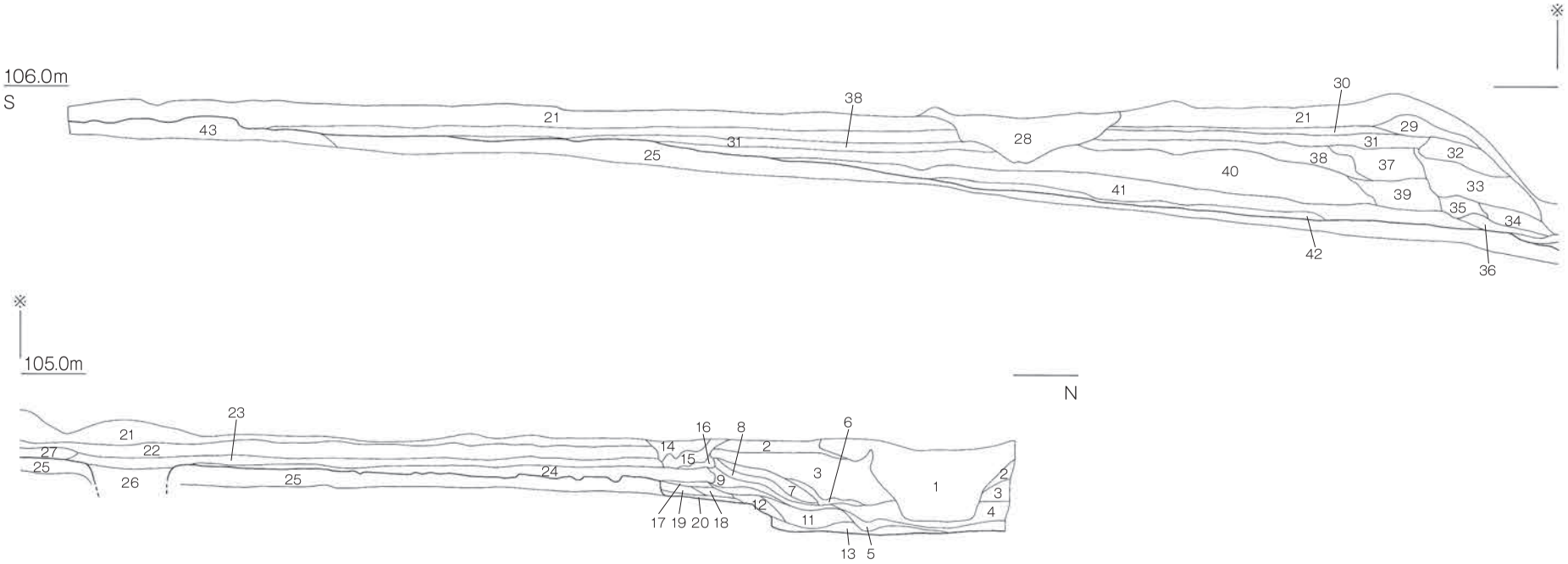
包含層出土土器・出土石器・出土金属器

B地区

調査位置図


土器群
SK03
SE01
SD02
SD01
104.00m
105.00m
B-北
106.00m
106.25m
106.50m
SK02
106.75m
SK01
B-南
0
10m

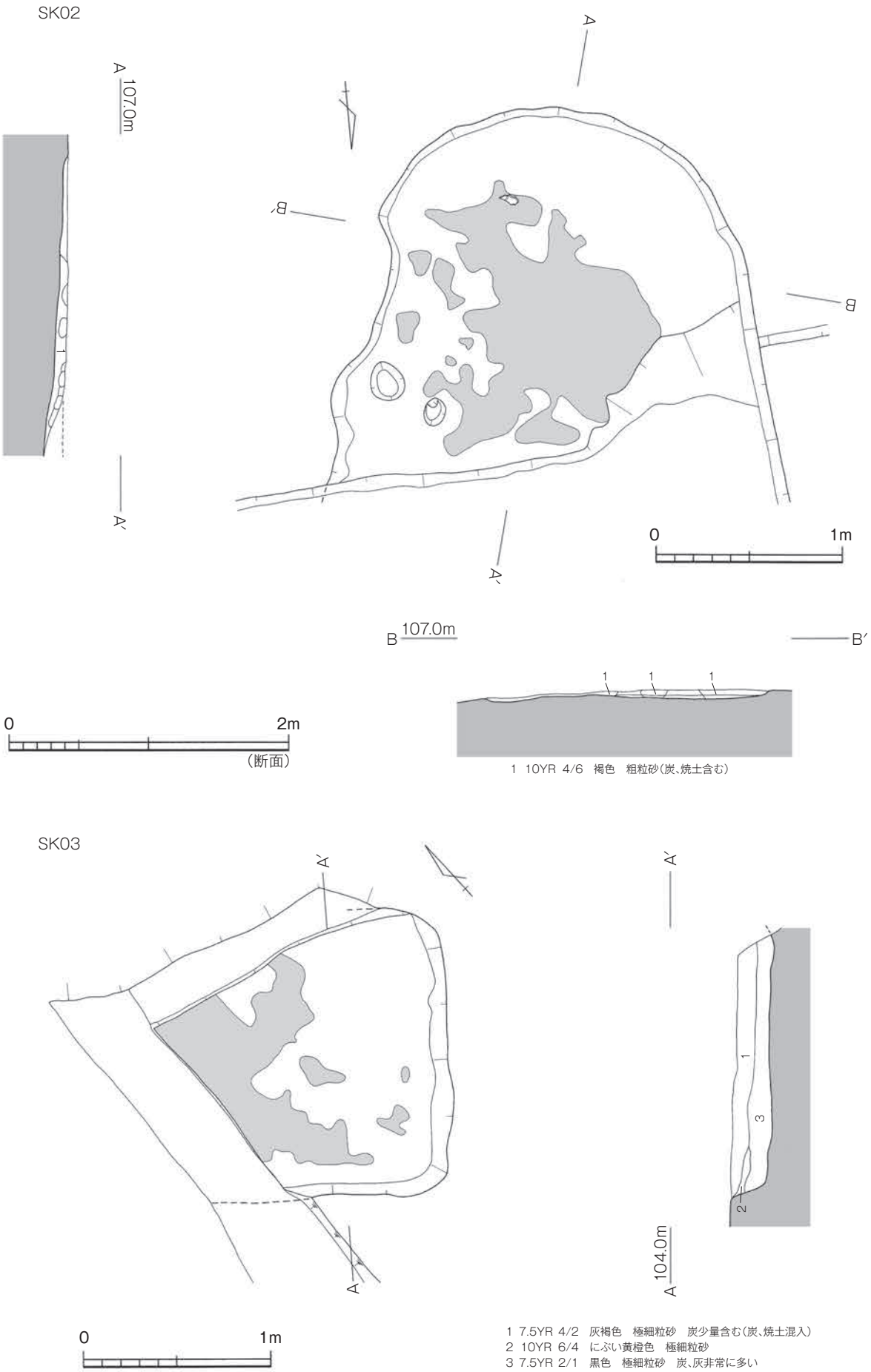
調査平面図



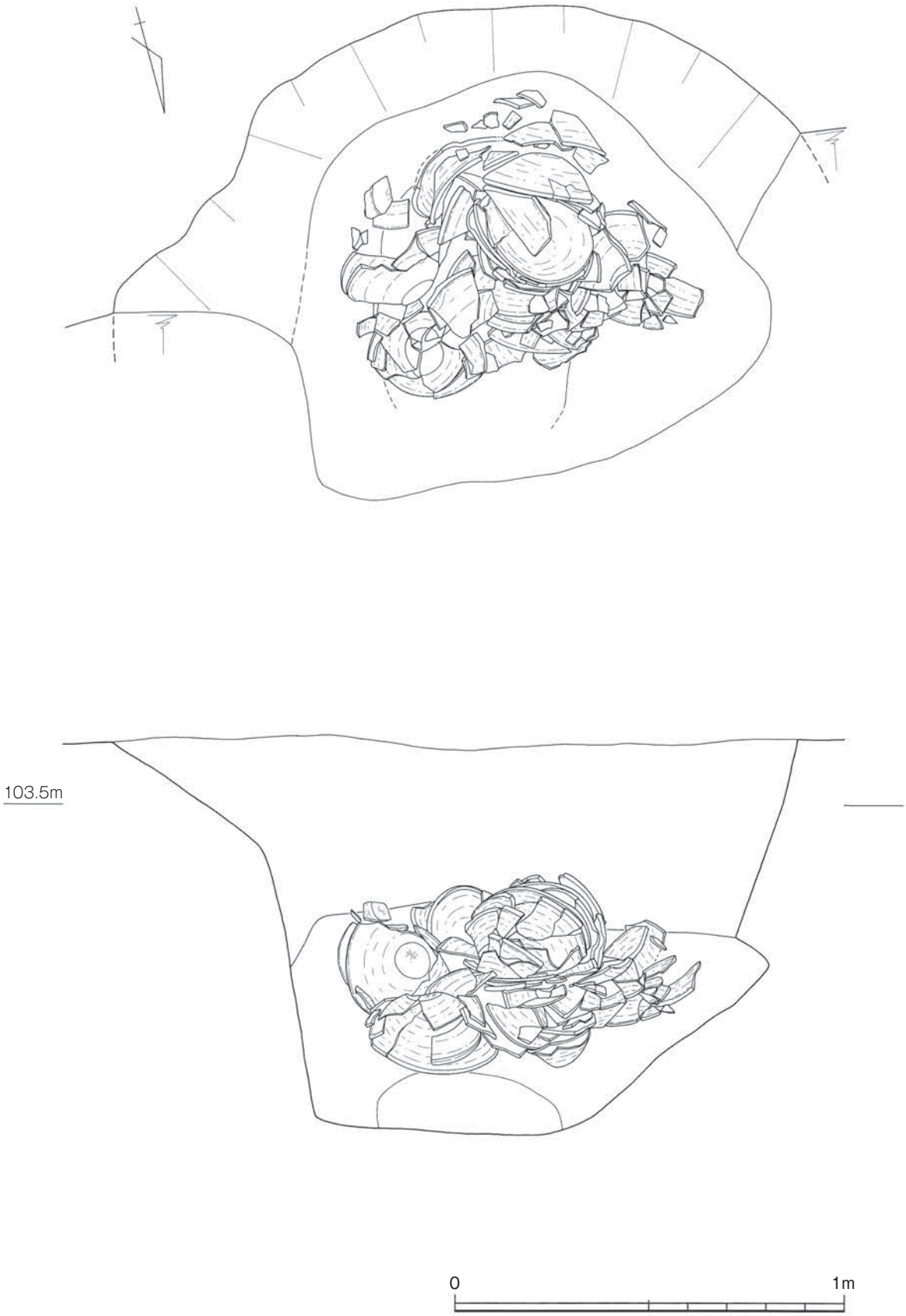
1　10YR 6/8　明黄褐色　極細粒砂　細礫～大礫含む(現行溝の埋立て)
2　10YR 4/1　褐灰色　極細粒砂:旧耕土
3　10YR 5/1　褐灰色　シルト質極細粒砂　中礫少量含む
4　7.5Y 4/1　灰色　シルト質極細粒砂
5　10Y 4/1　灰色　シルト(植物遺体含む)
6　2.5Y 5/1　黄灰色　シルト質極細粒砂　中礫含む
7　2.5Y 6/6　明黄褐色　シルト質極細粒砂　中礫少量含む
8　2.5Y 5/1　黄灰色　極細粒砂　鉄分含む
9　10YR 4/1　褐灰色　シルト質極細粒砂(粗粒砂～中礫ラミナ有り)
10　2.5Y 7/4　浅黄色　シルト質極細砂
11　7.5Y 4/1　灰色　シルト　粗粒砂少量含む　鉄分
12　2.5Y 4/1　黄灰色　シルト質極細砂　マンガン多く含む
13　5Y 4.5/1 灰色　シルト
14　1 層と同一層
15　2.5Y 4/1　黄灰色　シルト質極細粒砂　10層ブロック含む
16　10YR 5/3　にぶい黄褐色　極細粒砂　鉄分、マンガン少量含む
17　2.5Y 5/2　暗灰黄色　シルト質極細粒砂　マンガン、炭少量含む
18　2.5Y 4/1　黄灰色　シルト質極細粒砂　炭、灰、マンガン、焼土含む
19　2.5Y 7/3　浅黄色　シルト質極細砂　炭、マンガン少量含む
20　7.5Y 3/1　黒褐色　炭、灰、焼土層
21　2.5Y 3/1　黒褐色　極細粒砂:耕土
22　2.5Y 6/4　にぶい黄色　極細粒砂　鉄分含む
23　2.5Y 5/2　暗灰黄色　極細粒砂　マンガン、土器少量含む
24　10YR 3/2　黒褐色　極細粒砂(包含層、土器、炭、マンガン含む)
25　2.5Y 6/6　明黄褐色　シルト～極細粒砂:地山
26　10YR 3/1　黒褐色　シルト質極細粒砂　マンガン多く含む　土器含む
27　2.5Y 6/3　にぶい黄色　シルト質極細粒砂　鉄分、マンガン少量含む
28　2.5Y 6/4　にぶい黄色　シルト質極細粒砂　鉄分、マンガン含む　21 層のブロック含む:撹乱
29　2.5Y 5/3　黄褐色　極細粒砂　中礫含む
30　2.5Y 5/2　暗灰黄色　極細粒砂:床土
31　10YR 5/2　灰黄褐色　極細粒砂　鉄分、マンガン含む
32　10YR 6/6　明黄褐色　シルト質極細粒砂　窯壁少量含む
33　10YR 5/3　にぶい黄色　中礫含む　隙間多い
34　2.5Y 5/2　暗灰黄色　シルト質極細粒砂　中礫含む
35　2.5Y 4/2　暗灰黄色　シルト質極細粒砂　マンガン　土器少量含む
36　2.5Y 4/2　灰オリーブ色　シルト質極細粒砂　マンガン含む
37　10YR 5/6　黄褐色　中砂～中礫:ハガネ
38　2.5Y 5/3　黄褐色　極細粒砂　鉄分、マンガン少量含む
39　2.5Y 4/2　暗灰黄色　極細粒砂　マンガン、土器、中礫含む
40　10YR 4/2　にぶい黄色　シルト質極細粒砂　マンガン、土器、中礫含む
41　10YR 3/2　黒褐色　シルト質極細粒砂　土器、マンガン多く含む
42　10YR 4/4　褐色　シルト質極細粒砂　25 層のブロック含む
43　10YR 6/8　明黄褐色　シルト～大円礫(黄褐色礫層):地山

西側壁　土層断面図

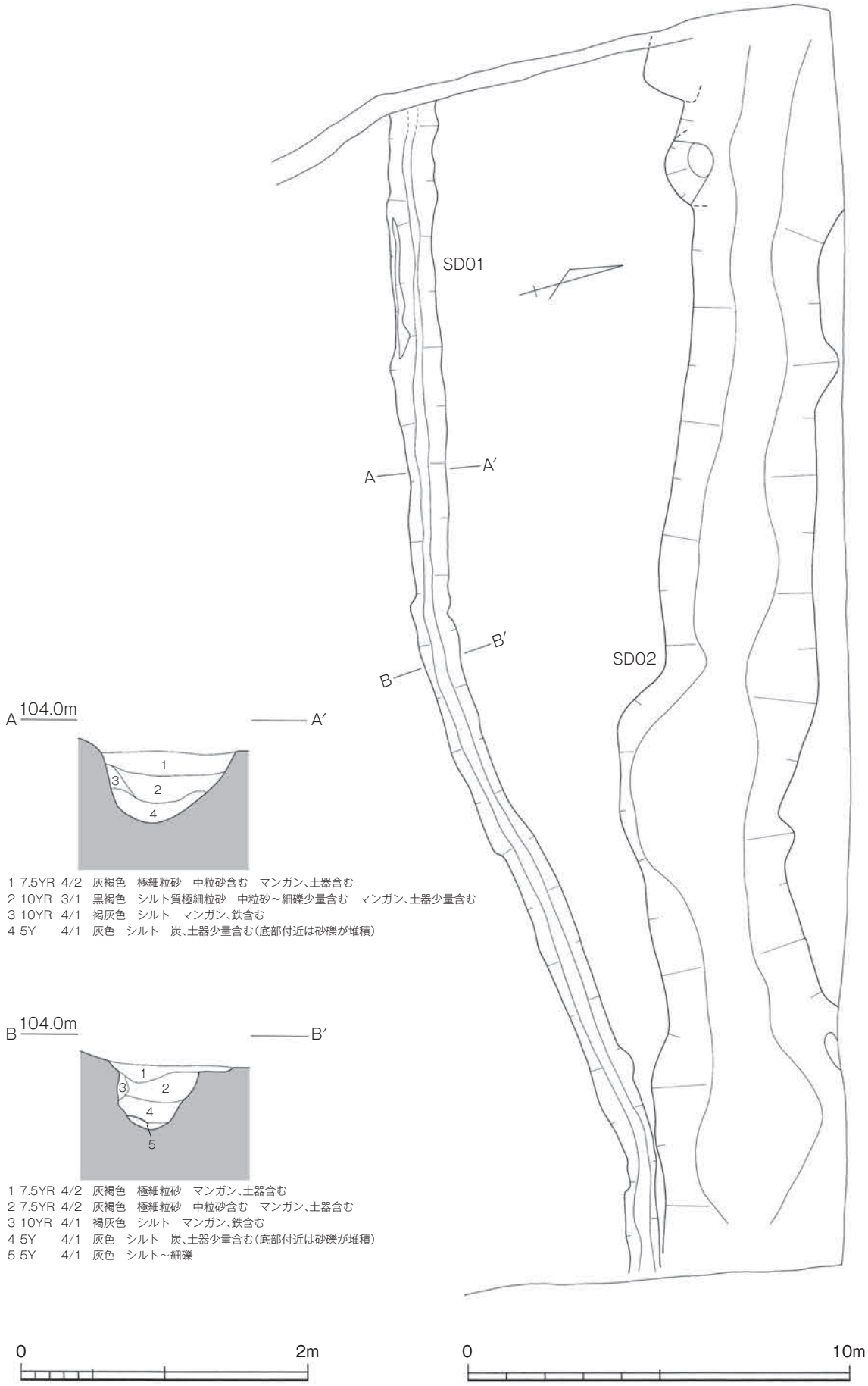
1 10YR 3/4 暗褐色 粗粒砂（炭、焼土混入）
2 10YR 4/6 褐色 シルト混極粗粒砂（炭、焼土混入）



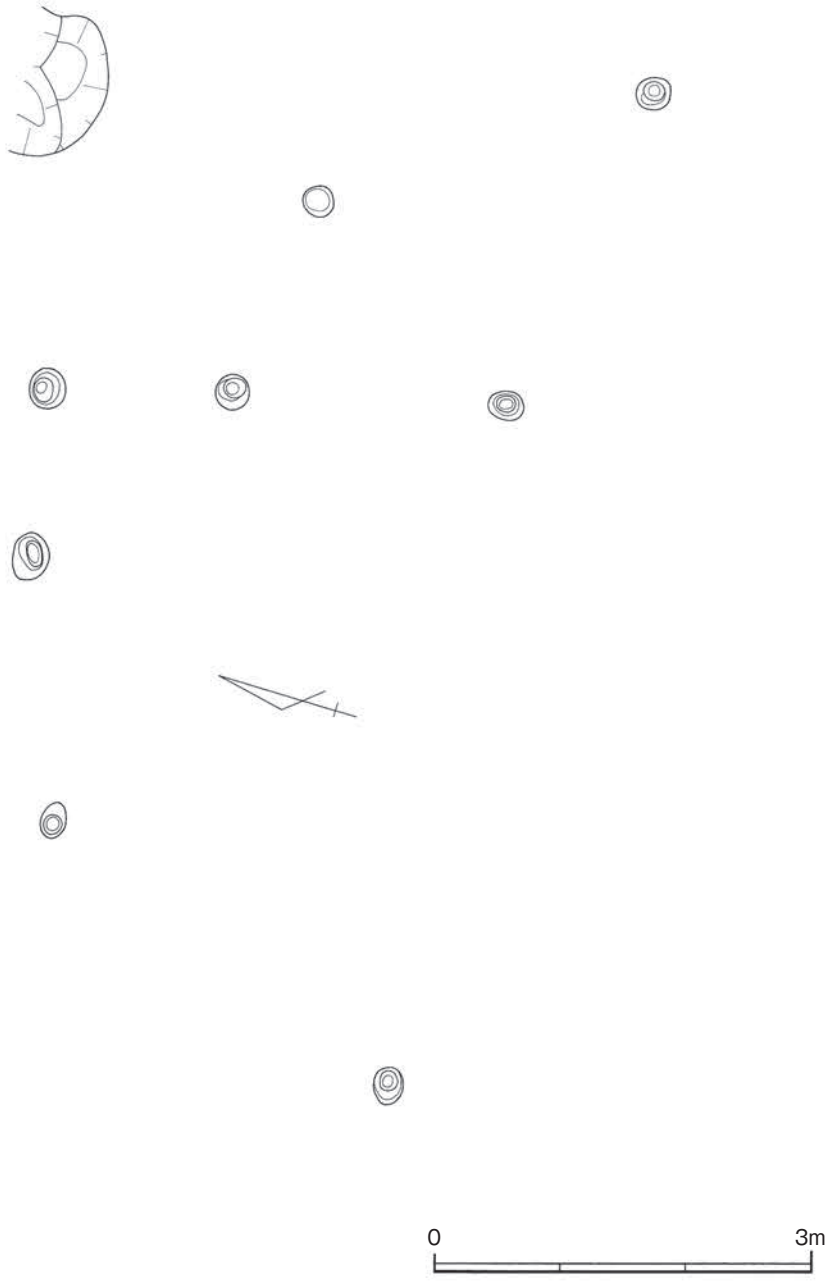
SK02・SK03 平面図・断面図



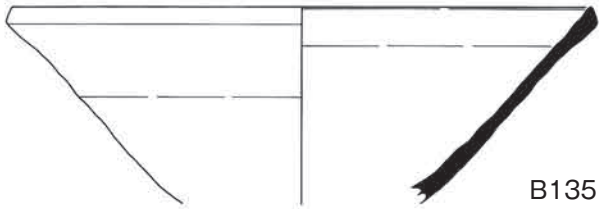
SE01 平面図・断面見通し図

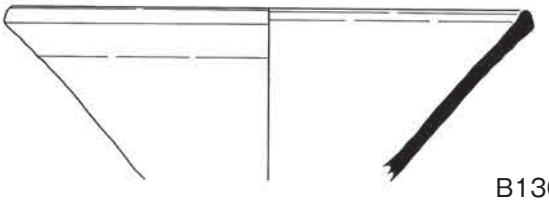


SD01・SD02 平面図・断面図

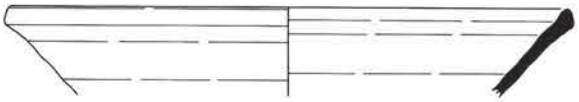


ピット群平面図


B135

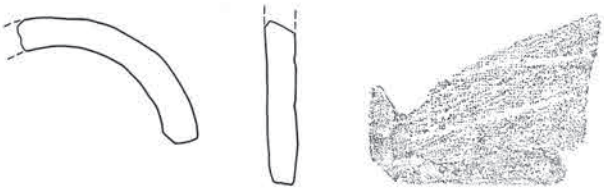

B136

B137


B138

B139

B140

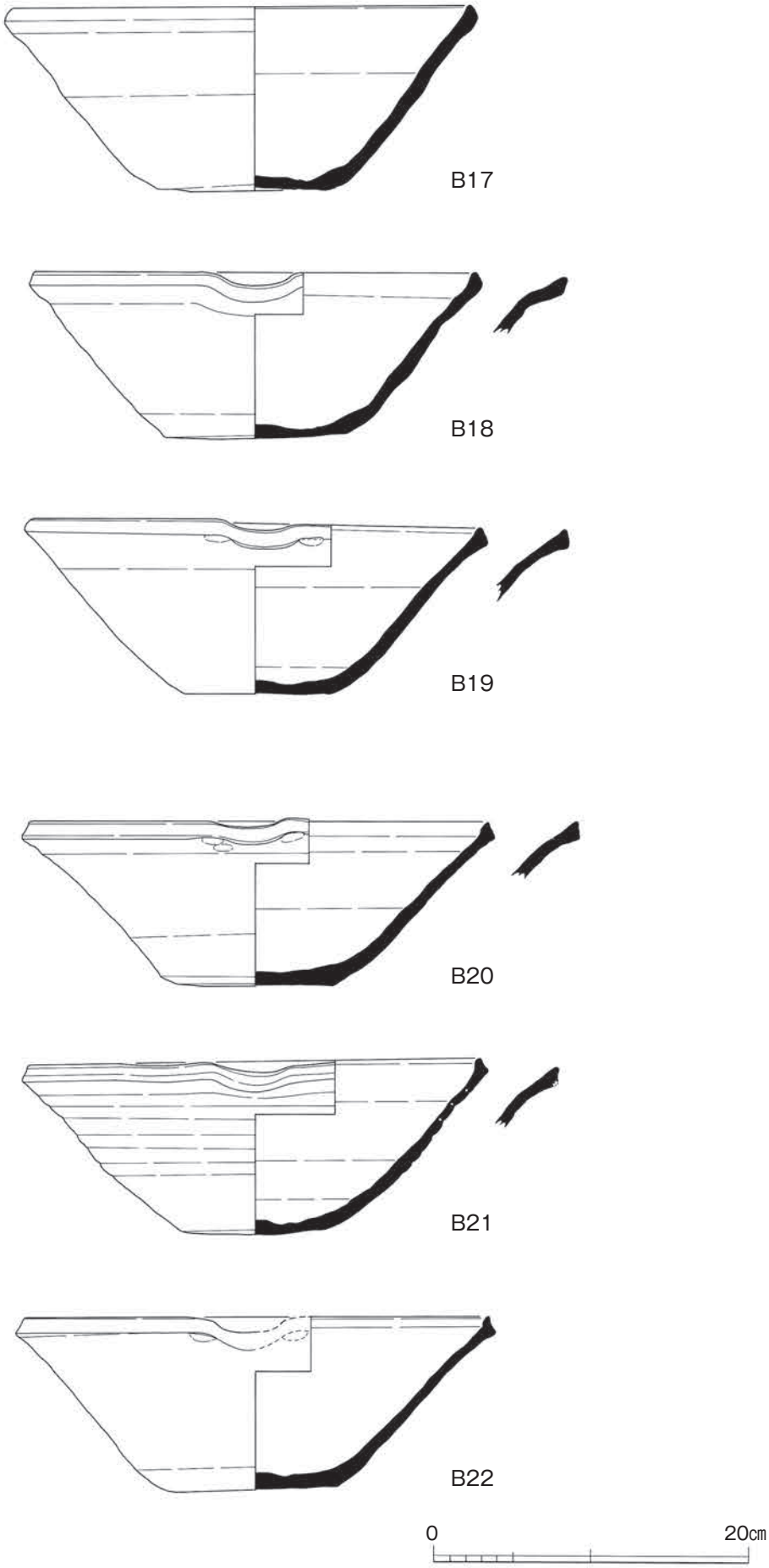

B141

B142

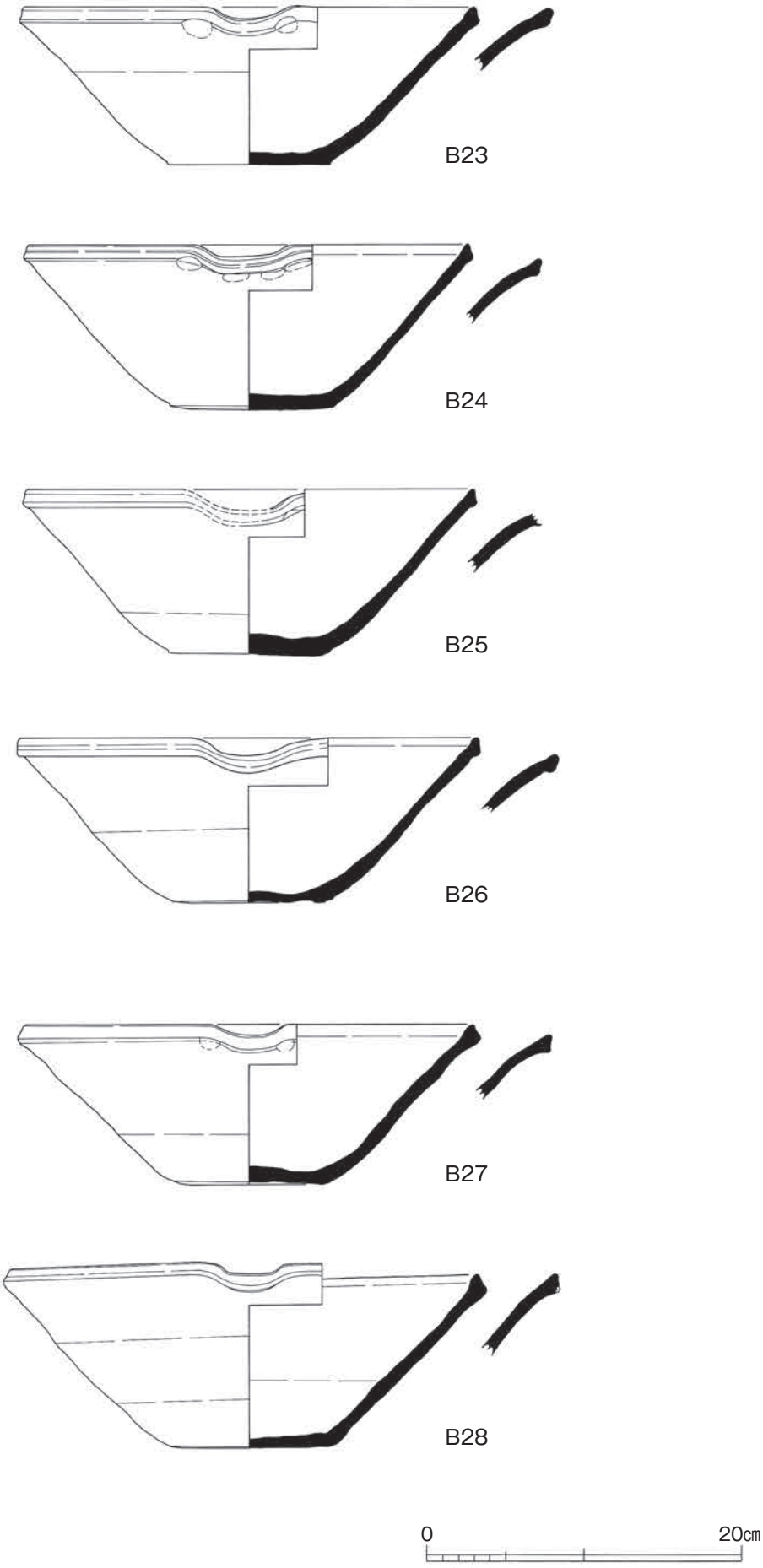
B143

B144

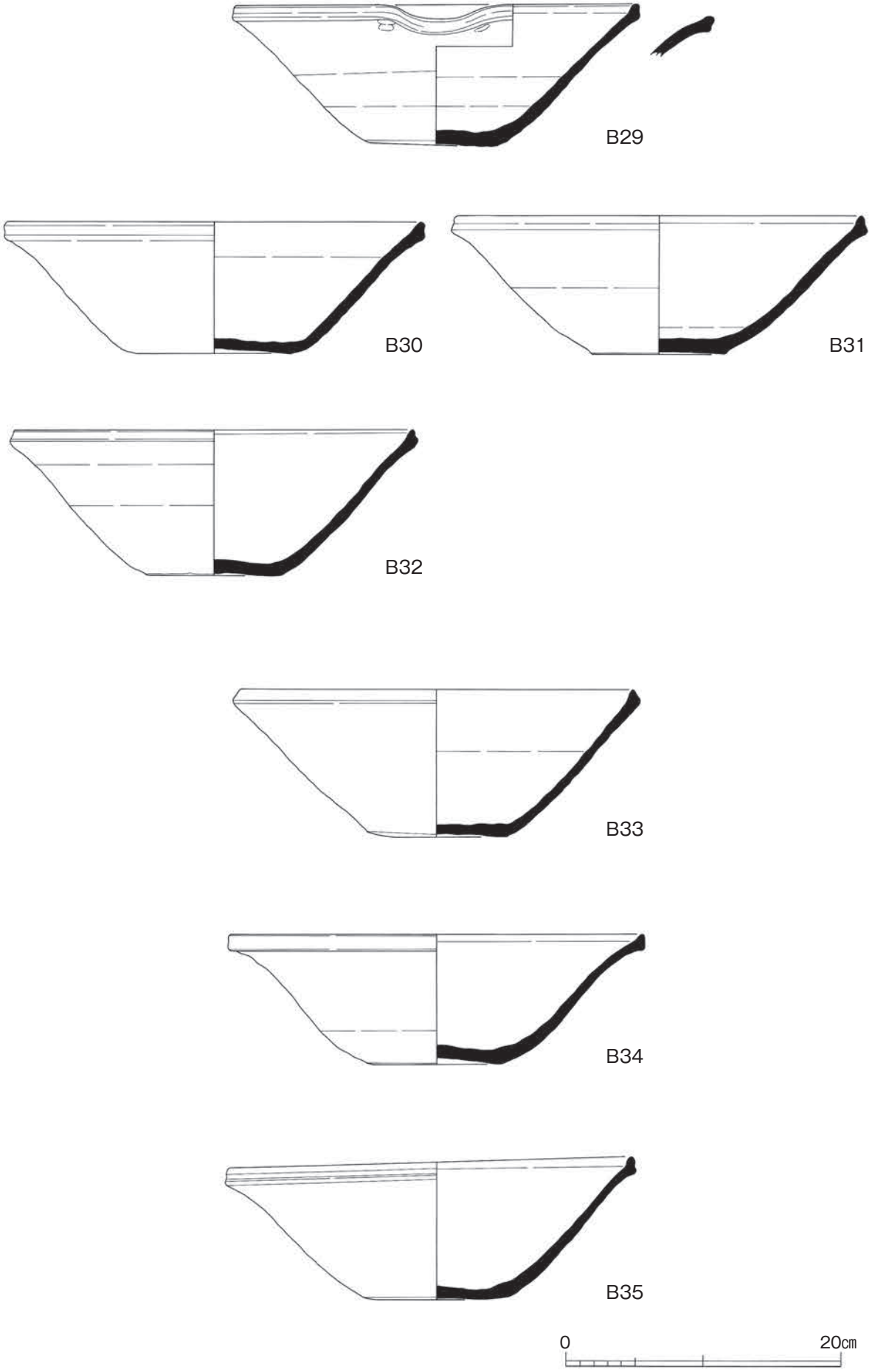
SK01・SK02・包含層出土土器



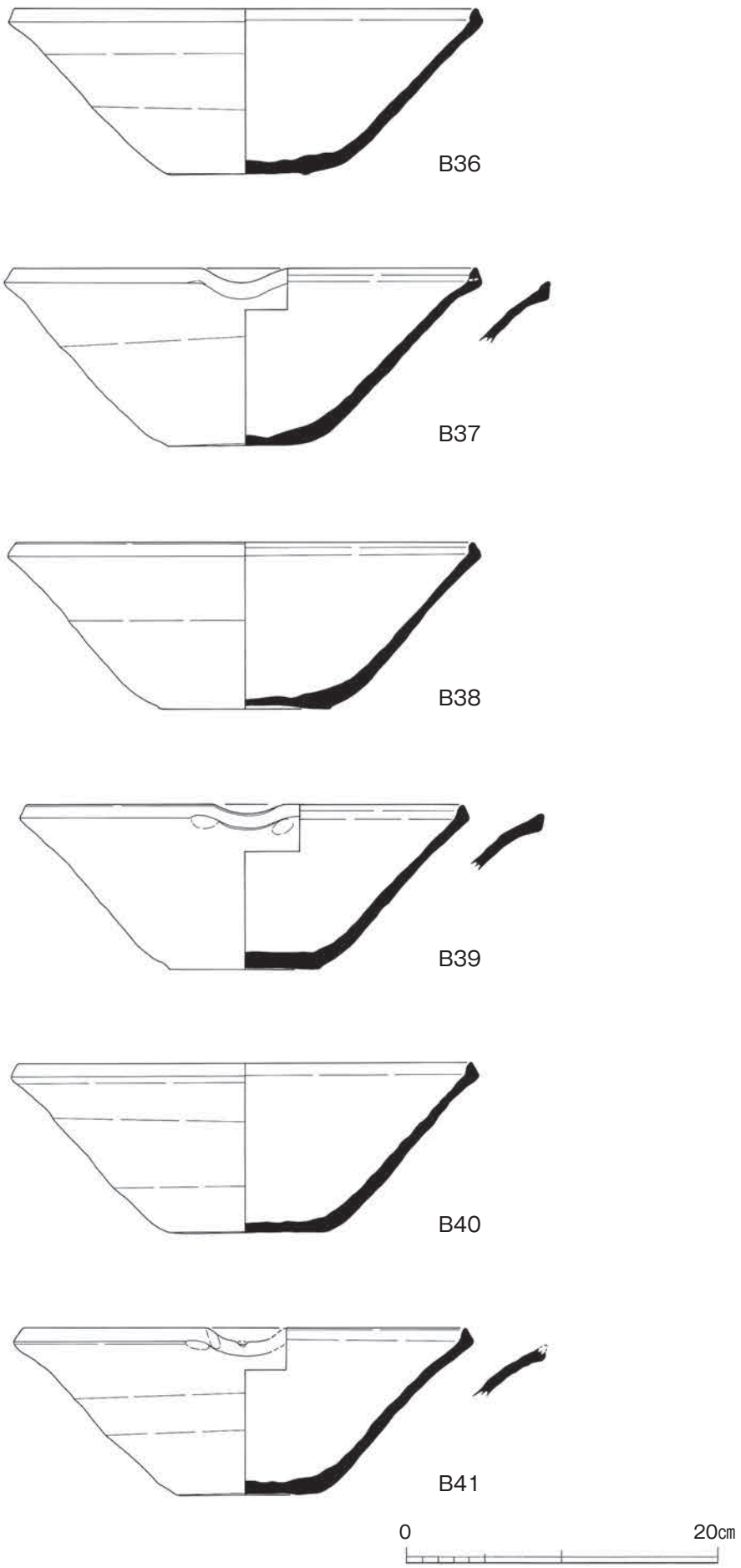
SE01 出土土器



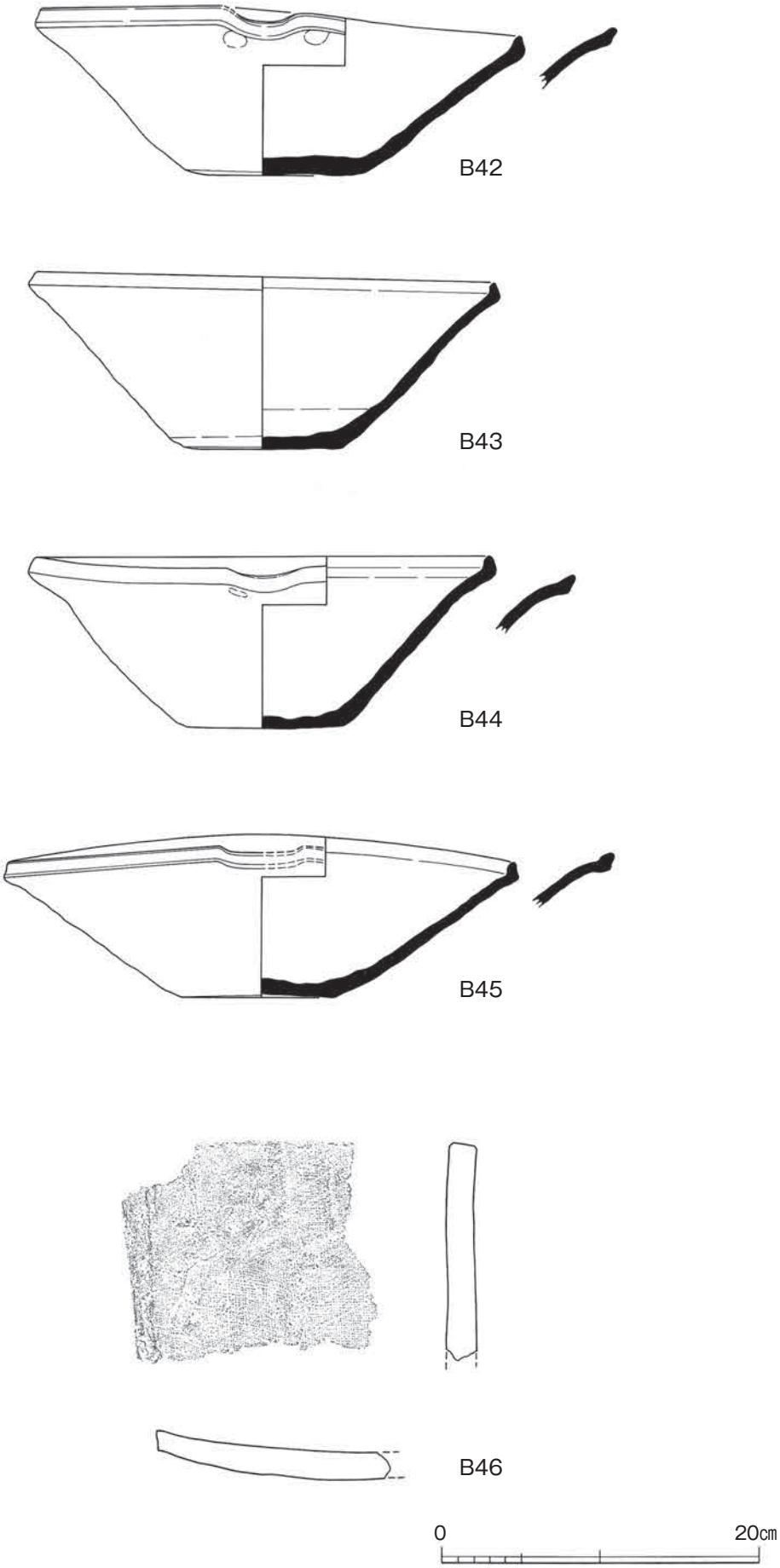
SE01 出土土器



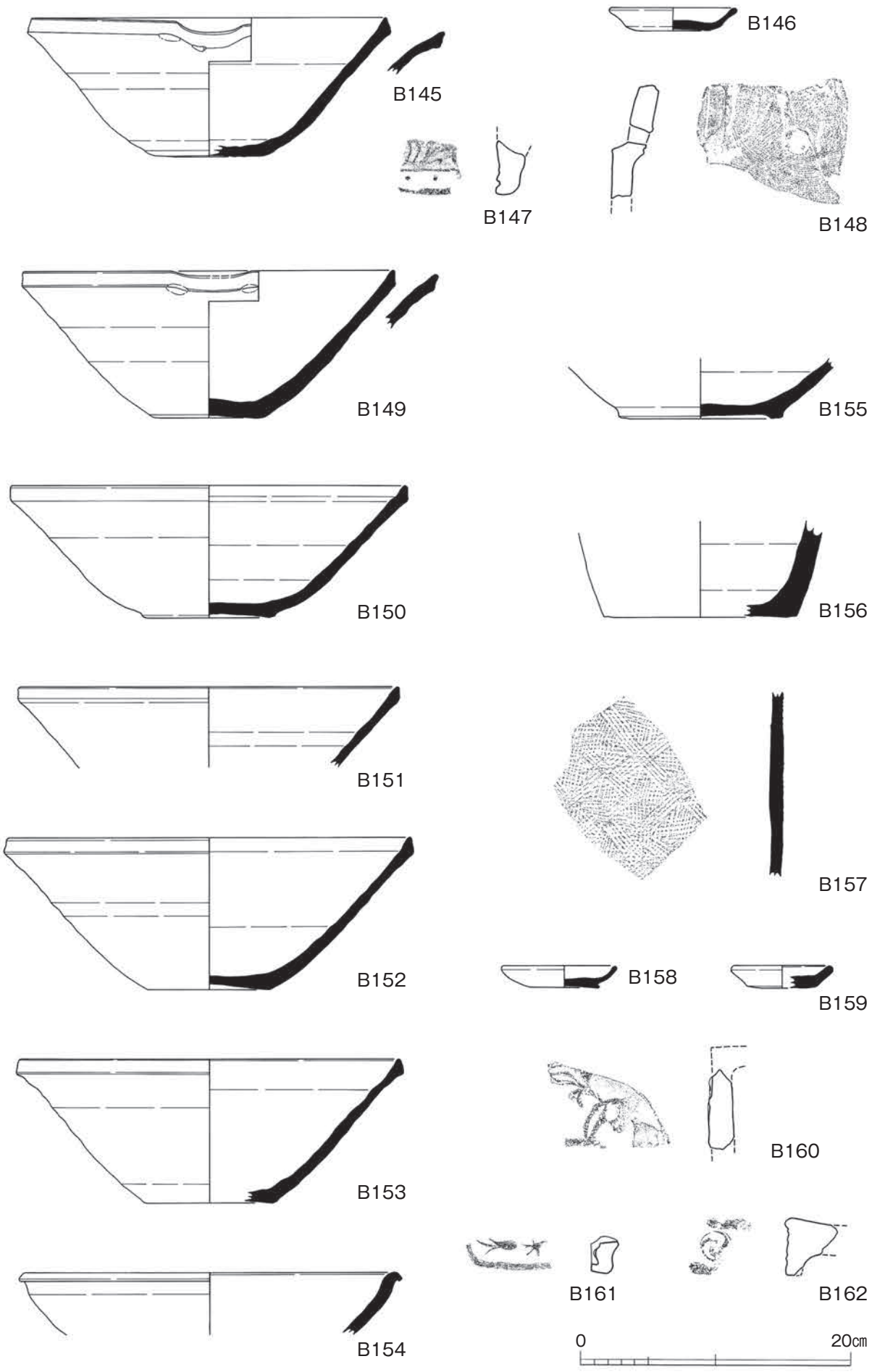
SE01 出土土器



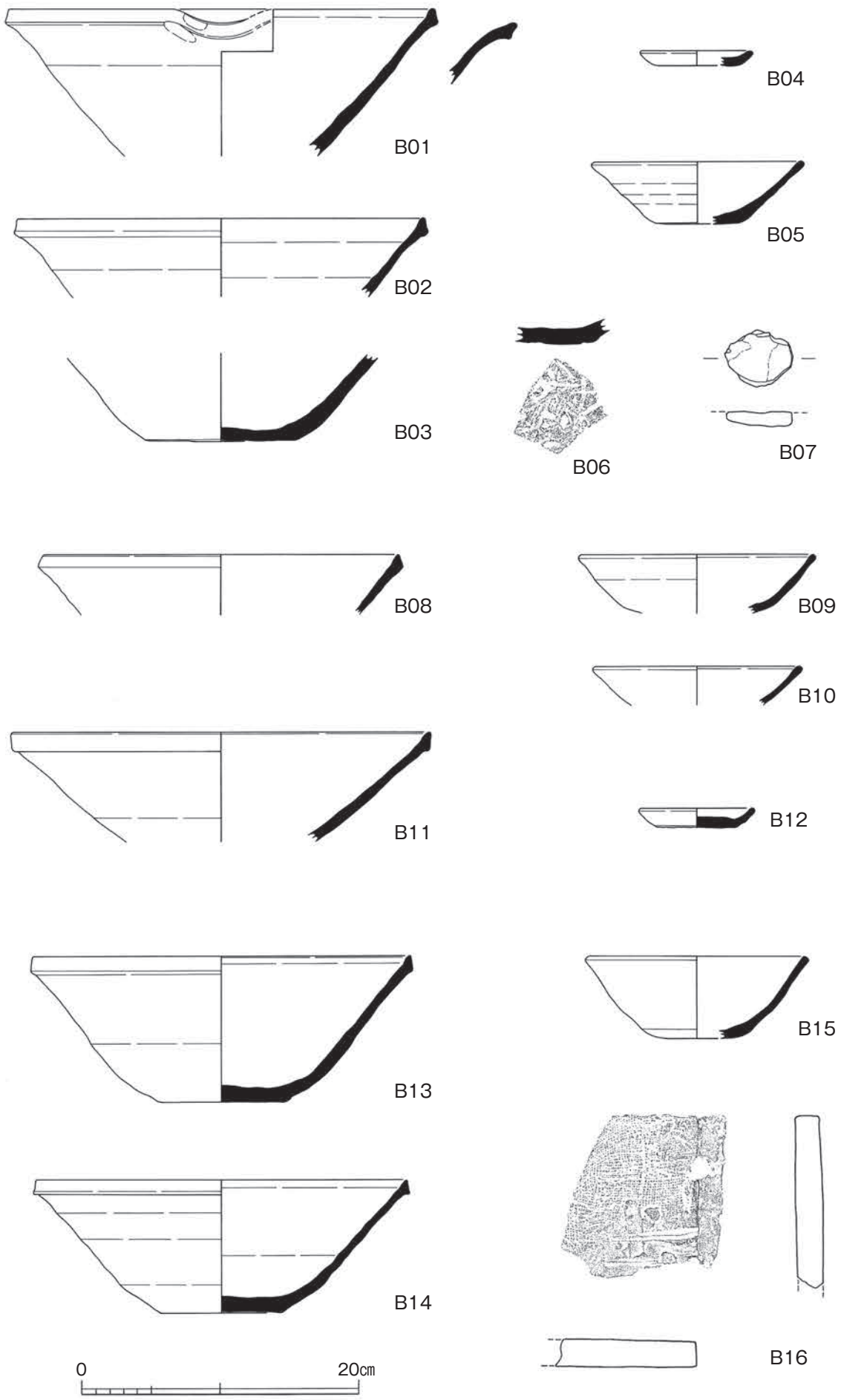
SE01 出土土器



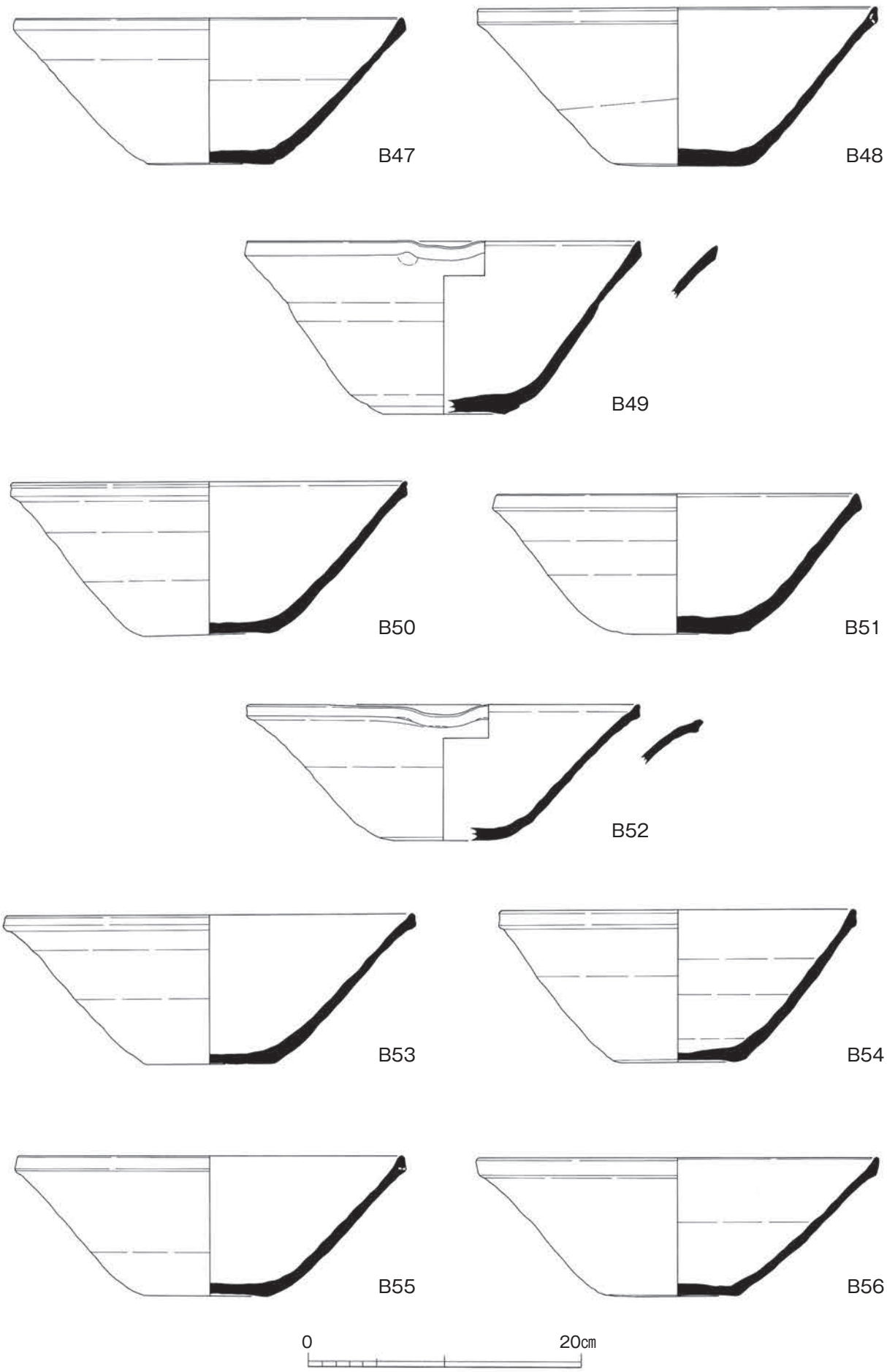
SE01 出土土器


B145
B146
B147
B148
B149
B150
B151
B152
B153
B154
B155
B156
B157
B158
B159
B160
B161
B162
0
20cm

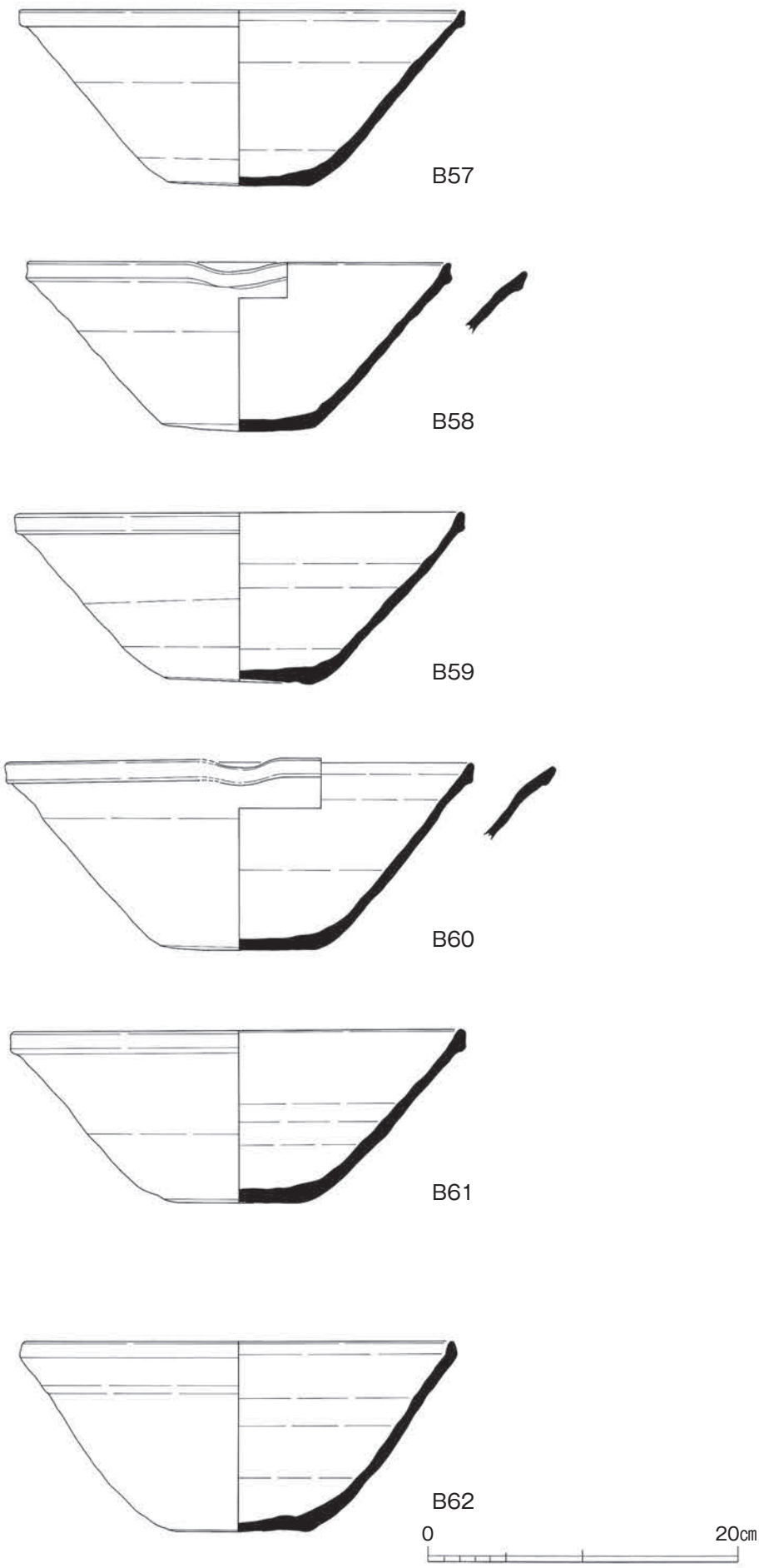
SD02 出土土器


B01
B02
B03
B04
B05
B06
B07
B08
B09
B10
B11
B12
B13
B14
B15
B16
0
20cm

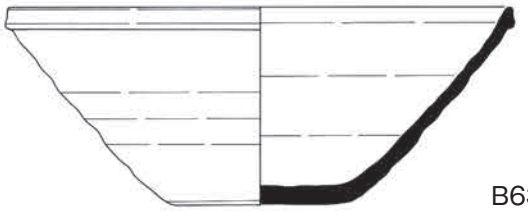
SD02 出土土器



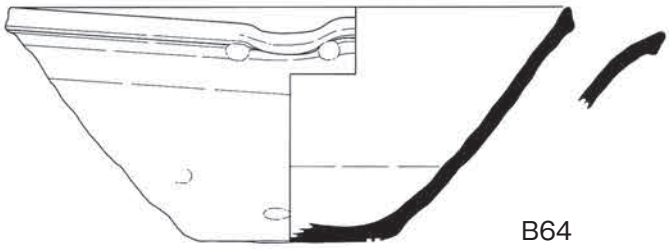
SD02 出土土器



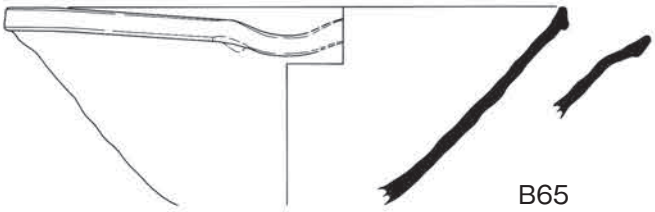
SD02 出土土器



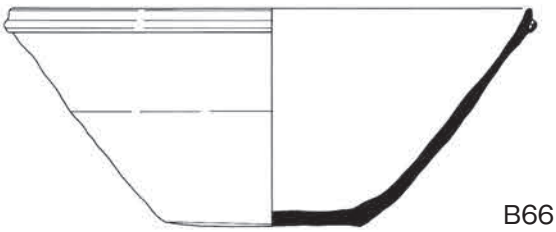
B63



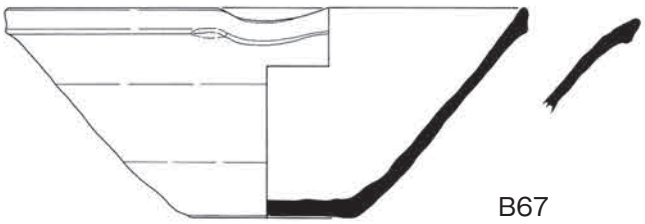
B64



B65

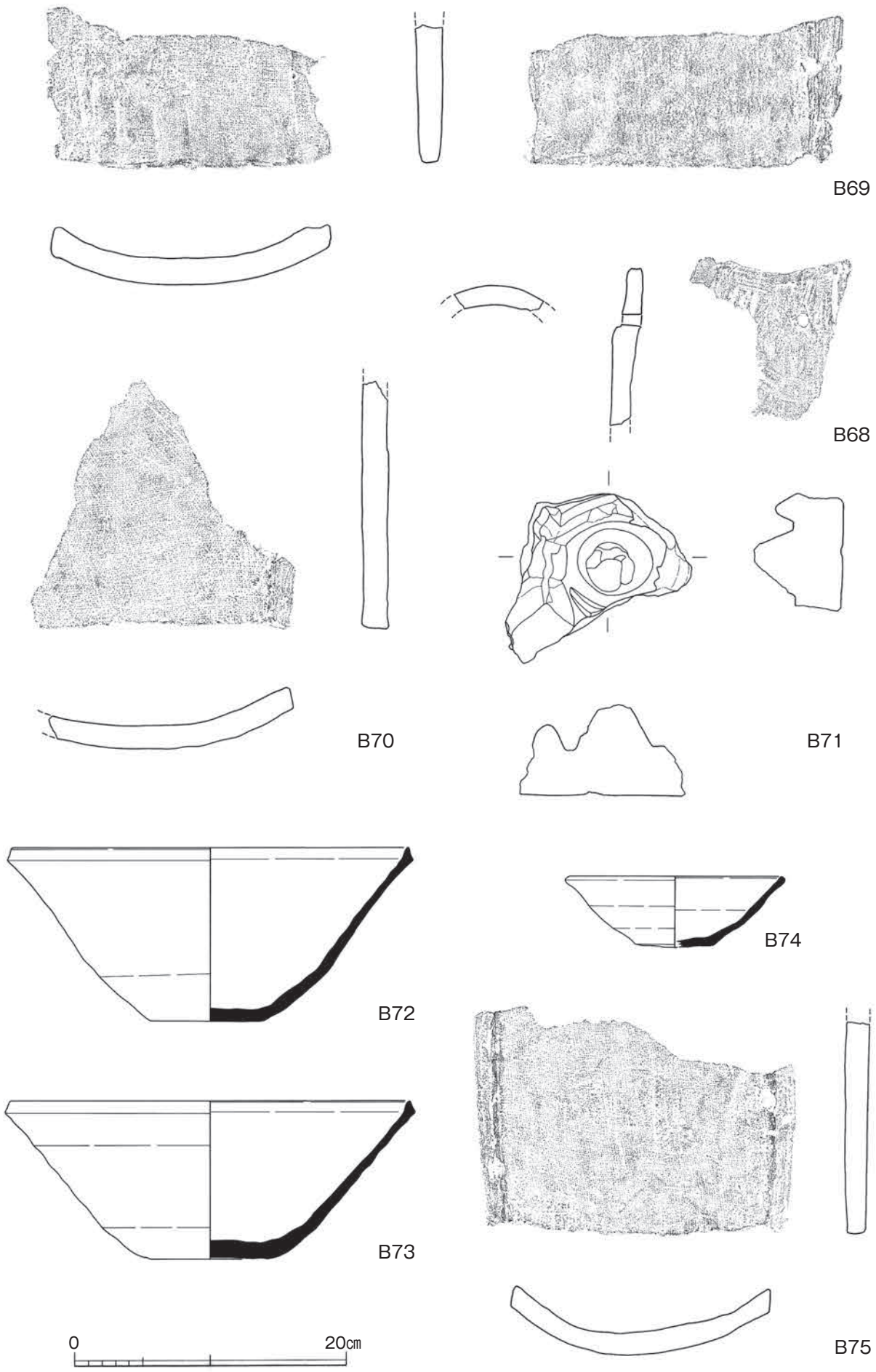


B66

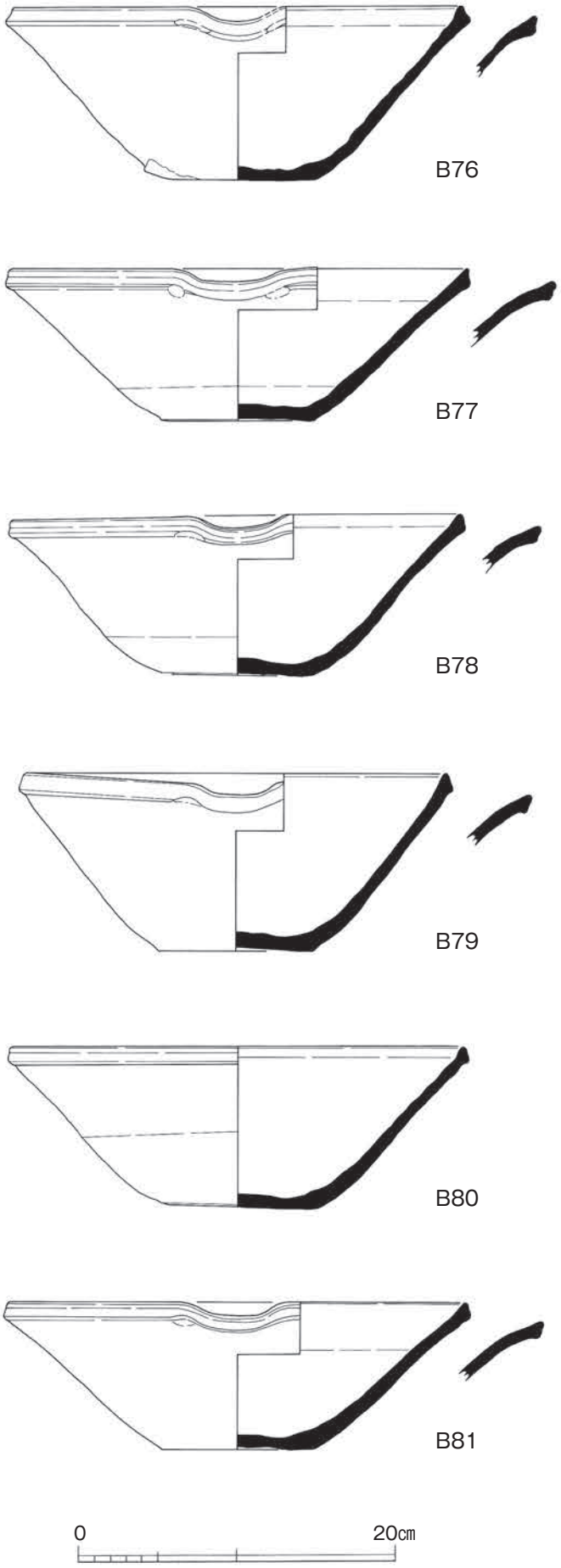


B67

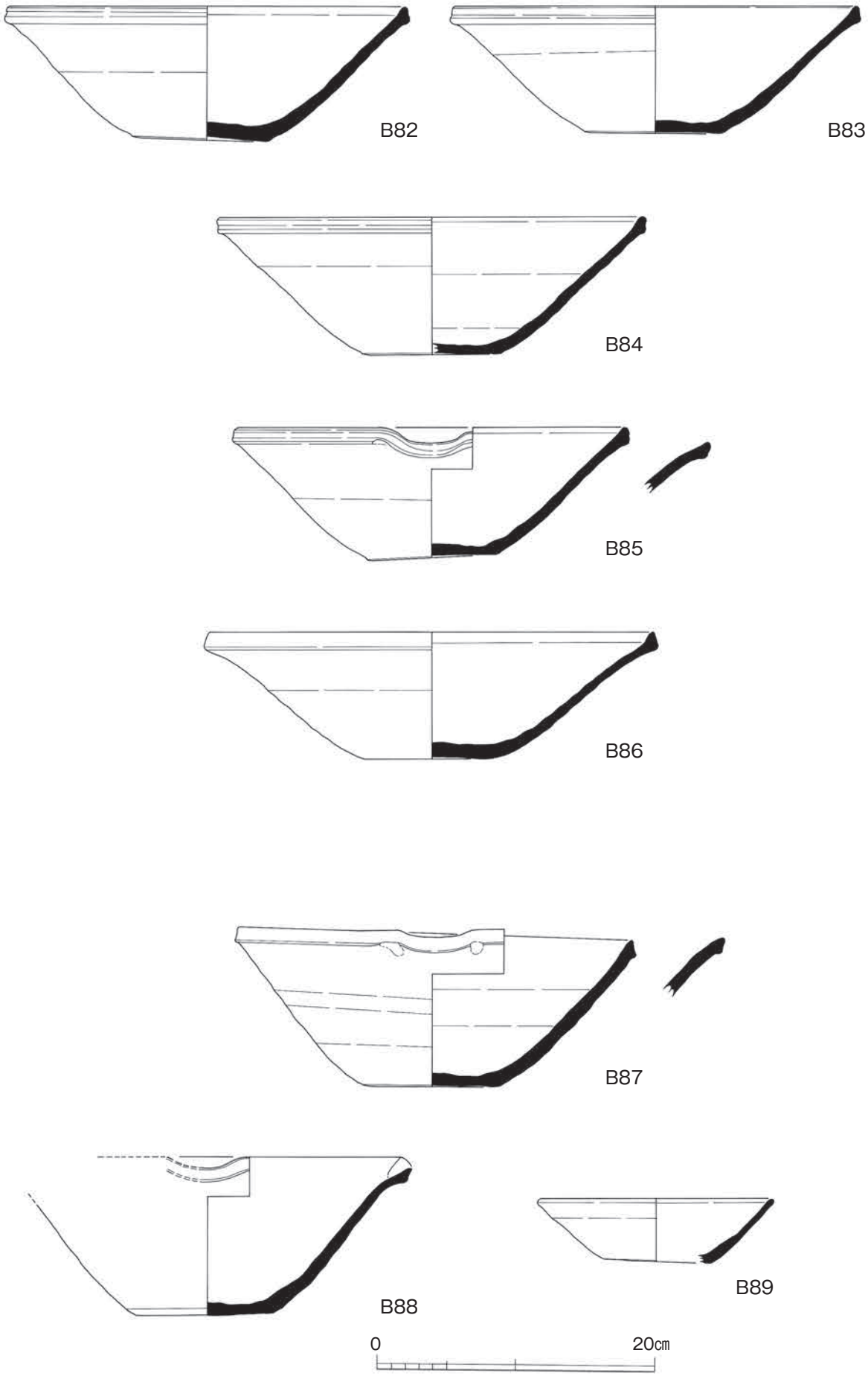
SD02 出土土器



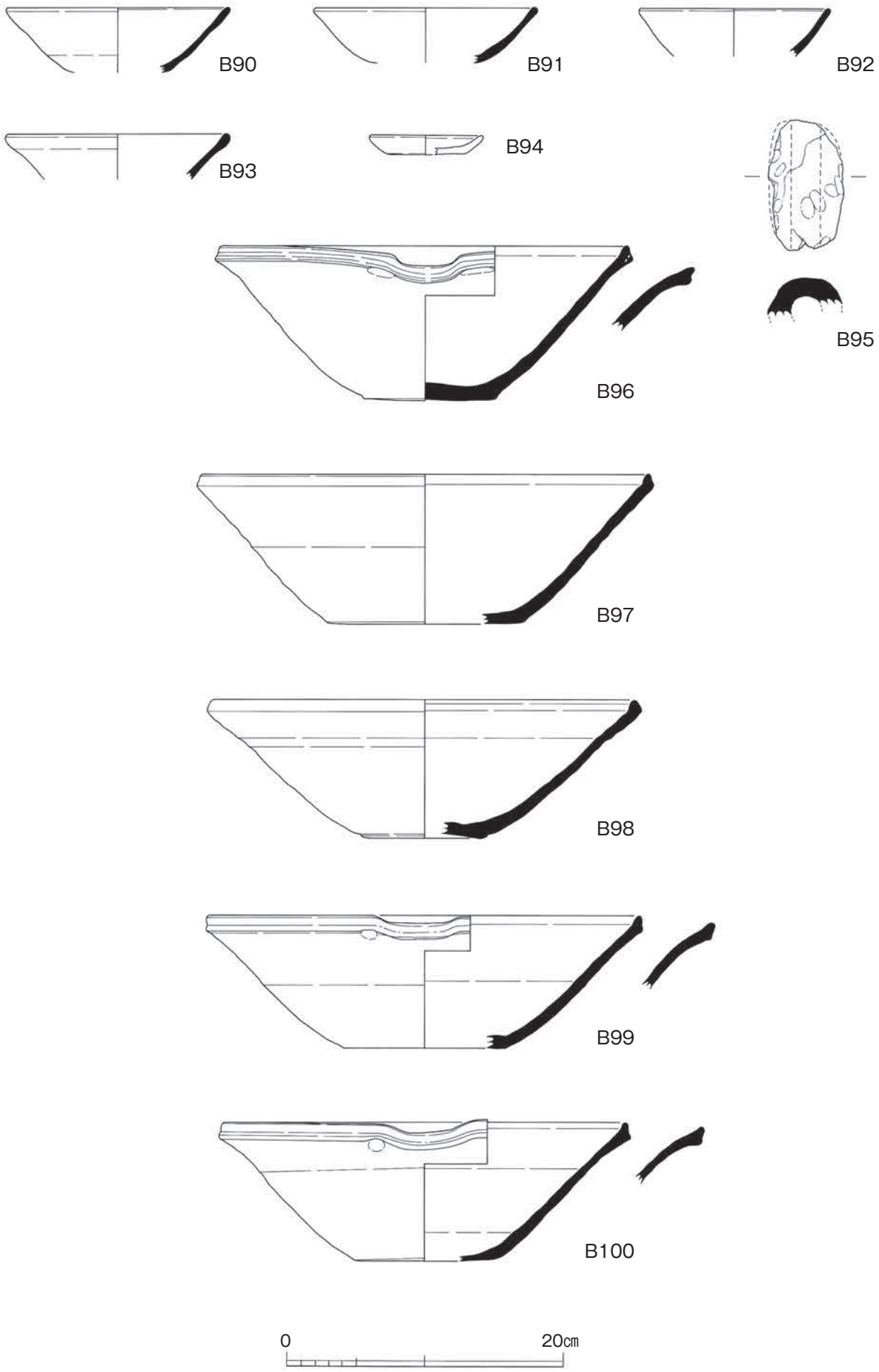
SD02 出土土器



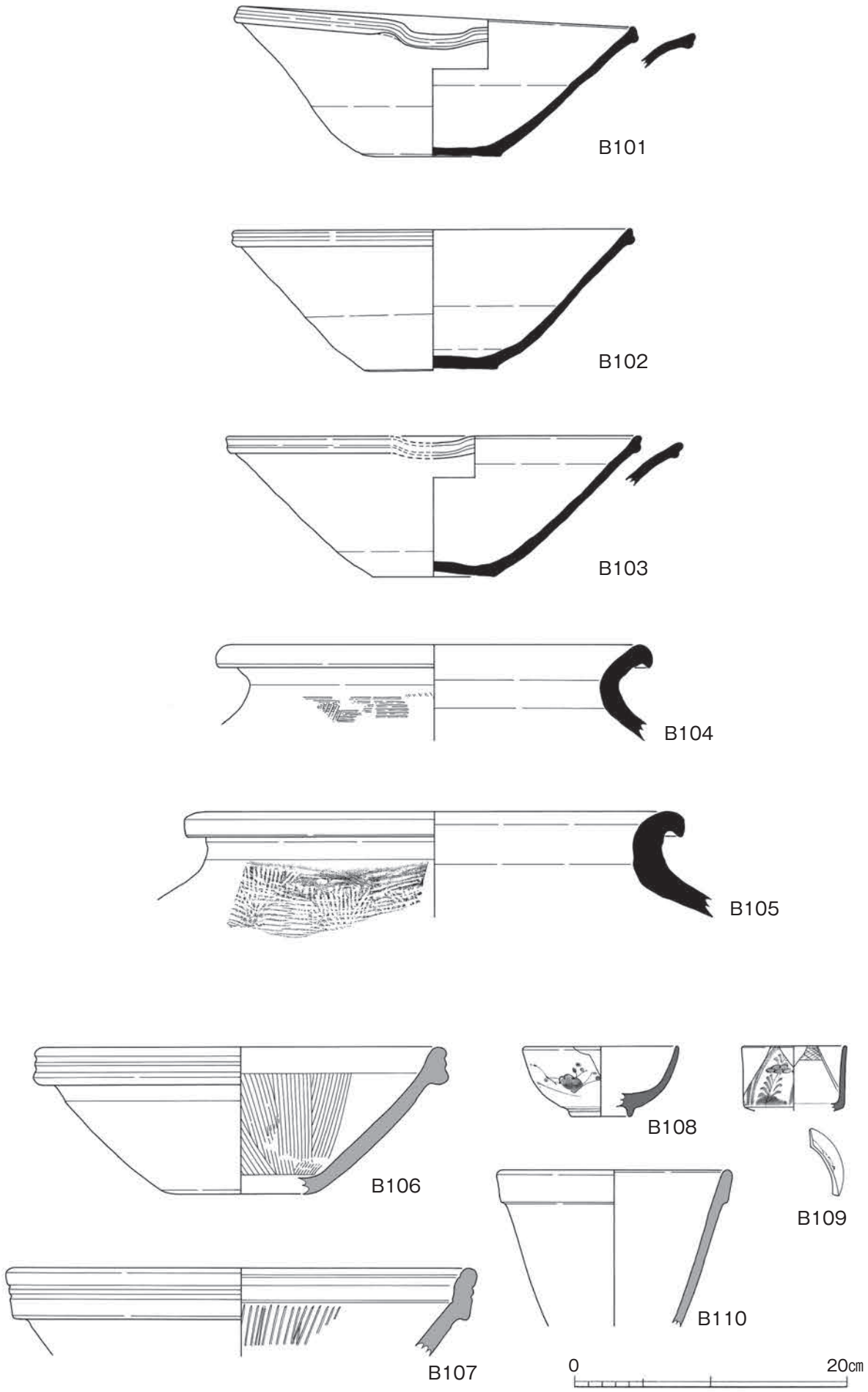
SD02 出土土器



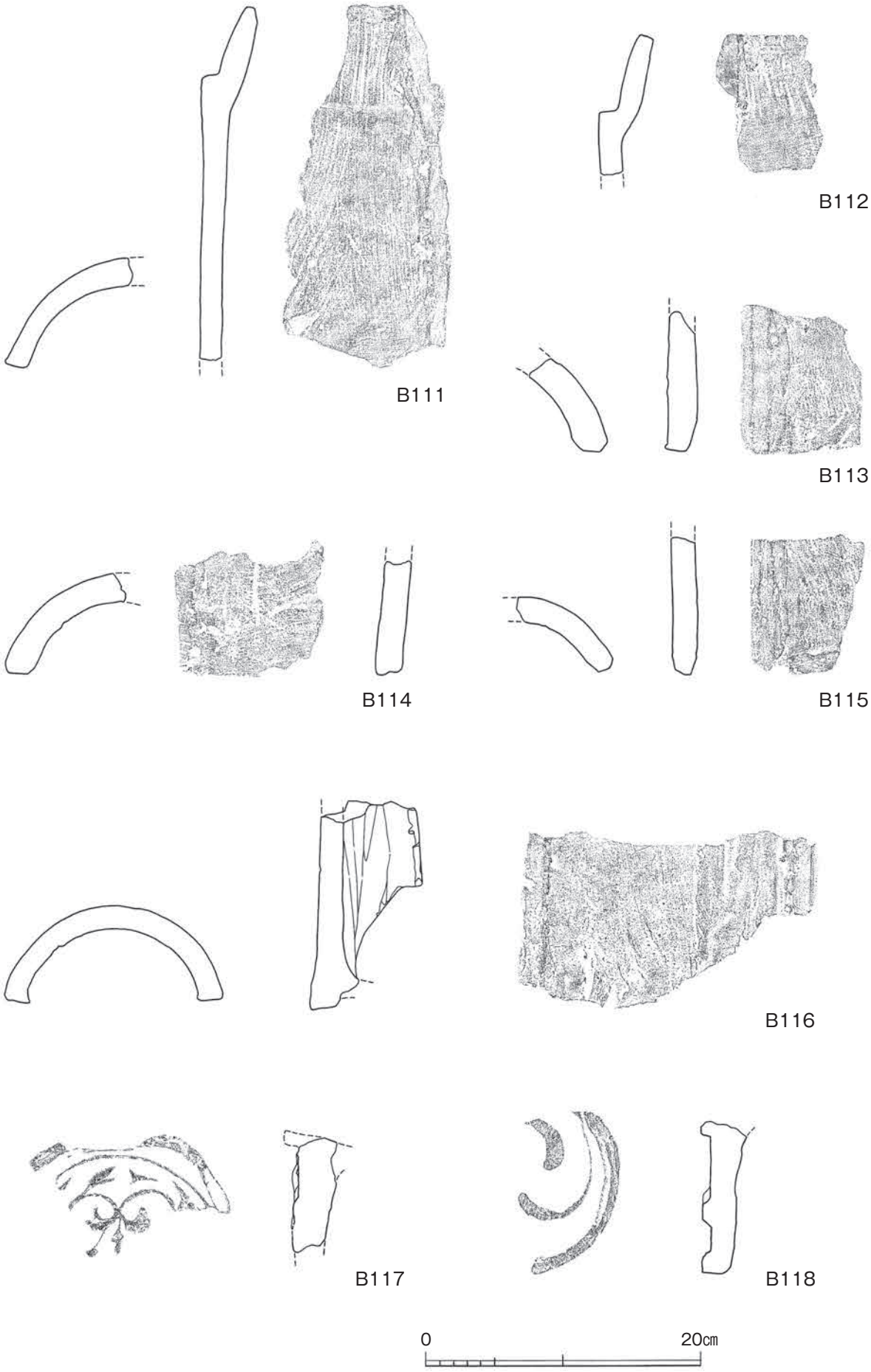
SD02 出土土器



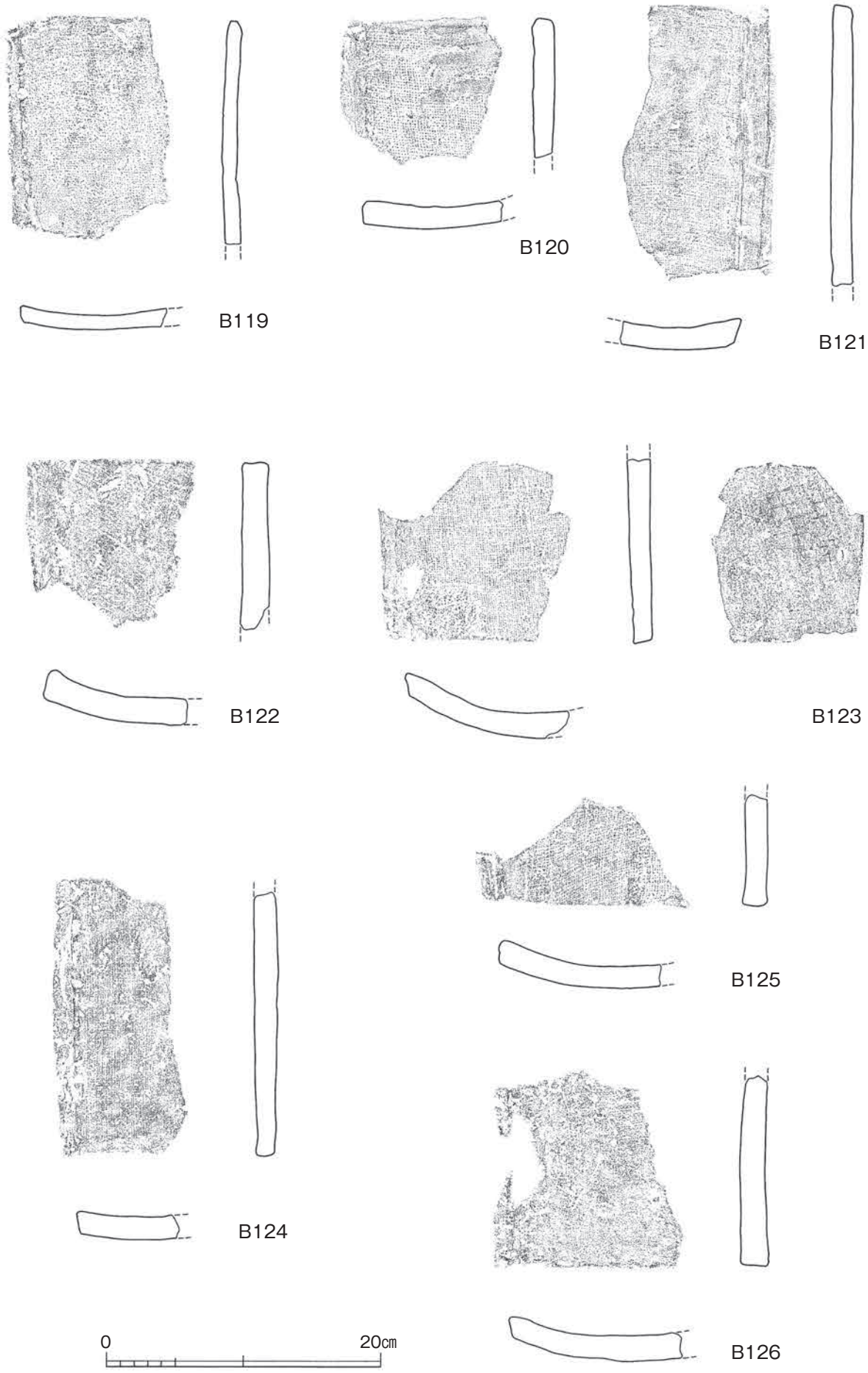
SD02 出土土器



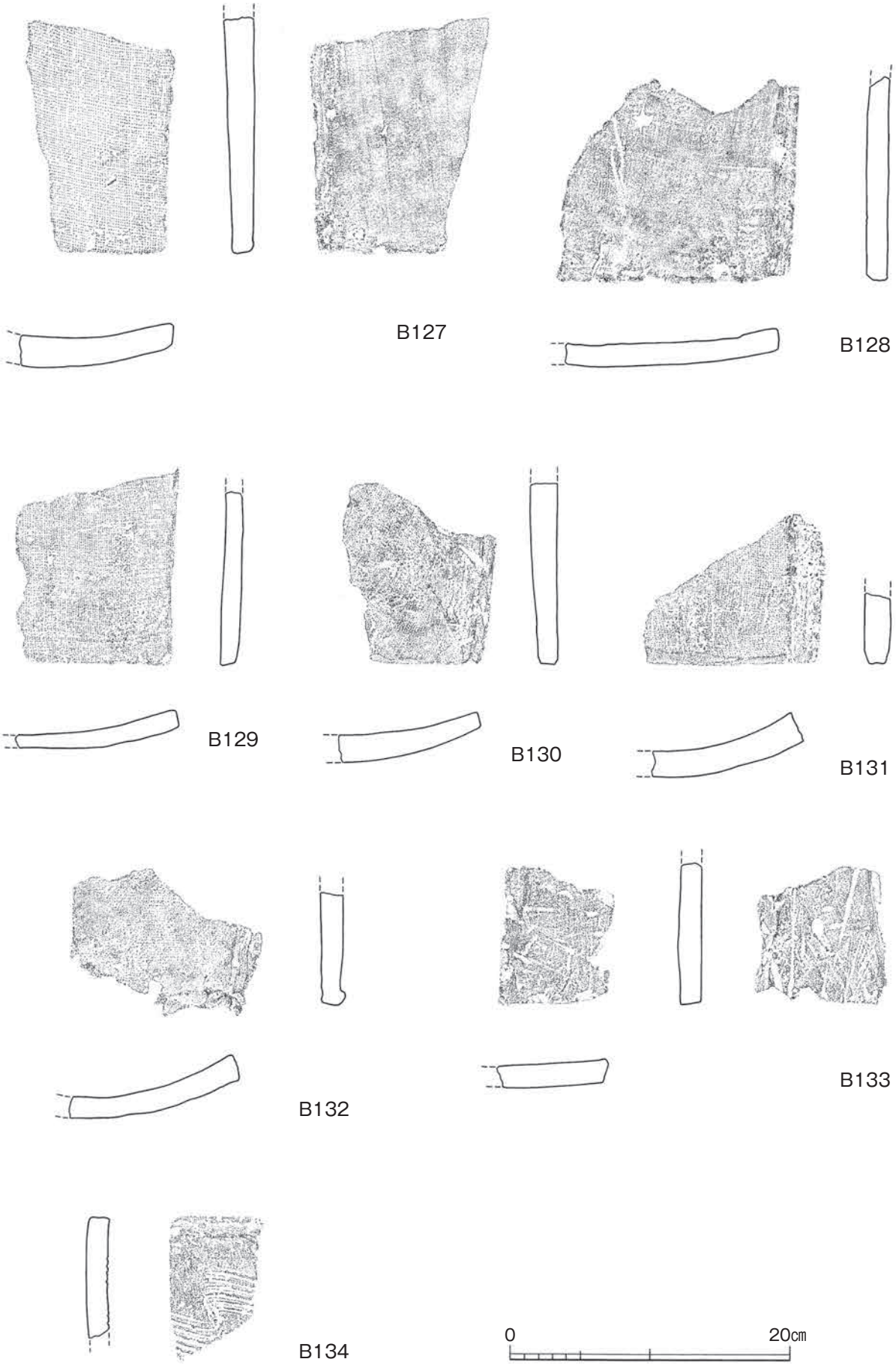
SD02 出土土器



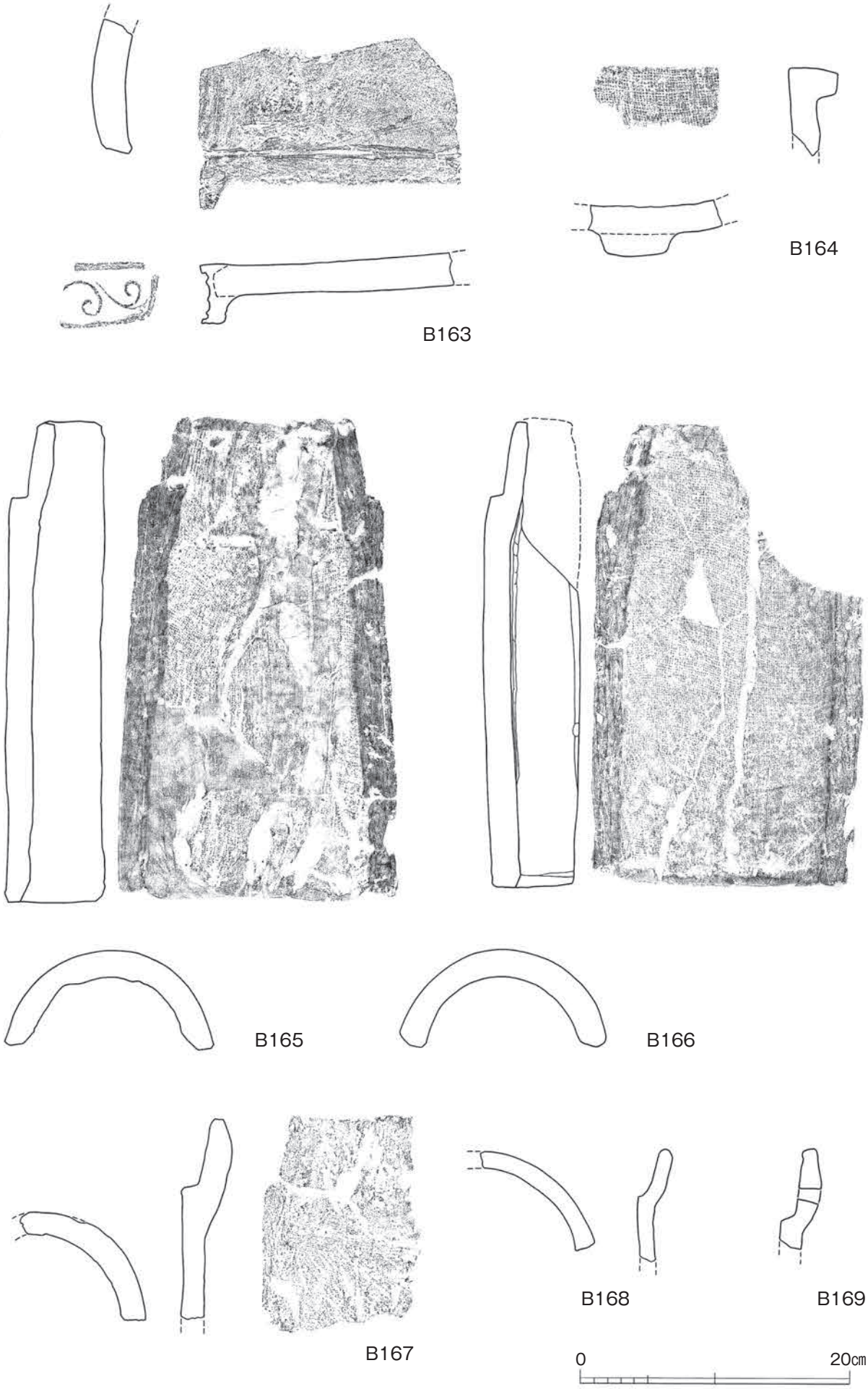
SD02 出土土器



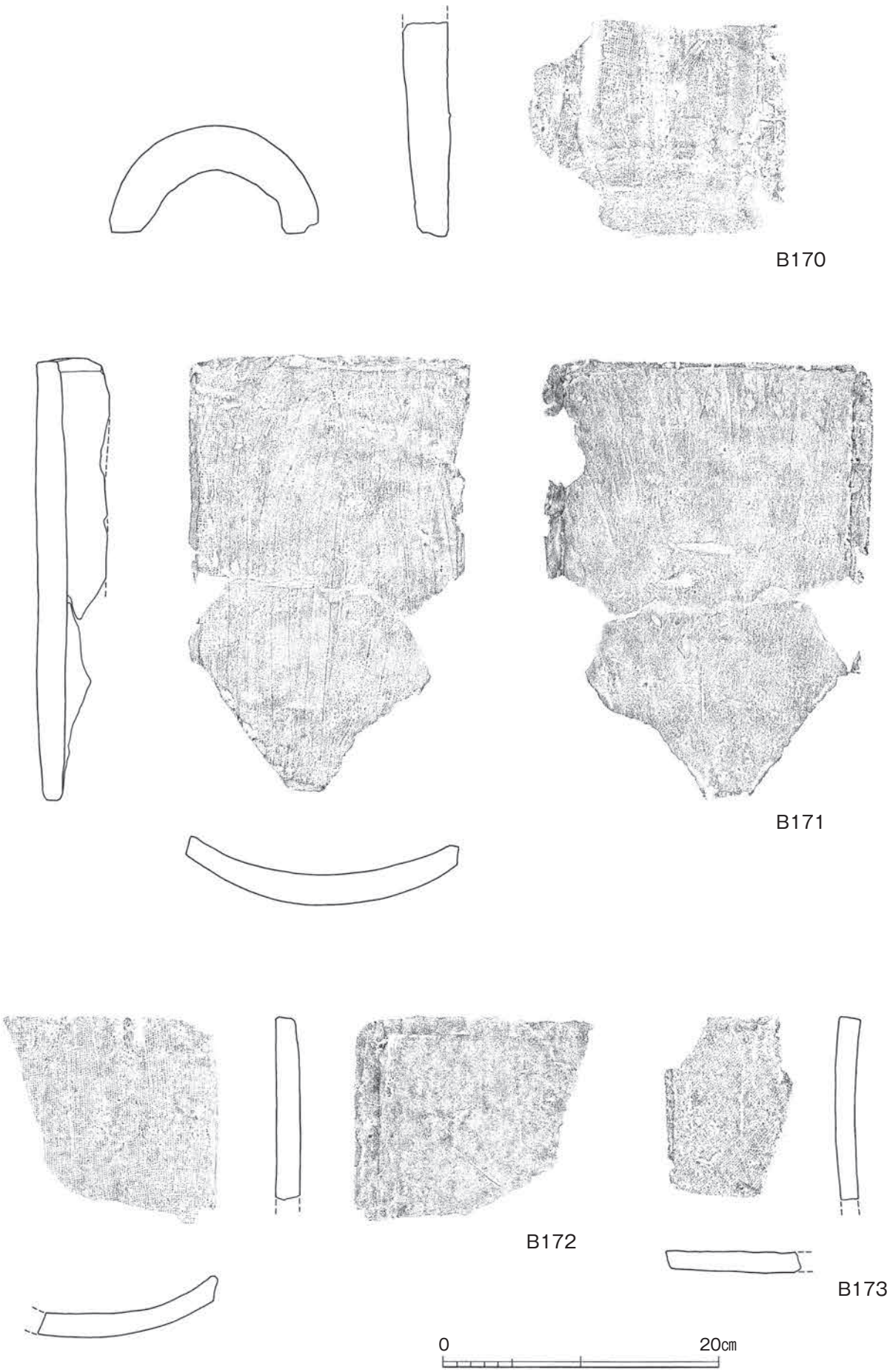
SD01 出土土器



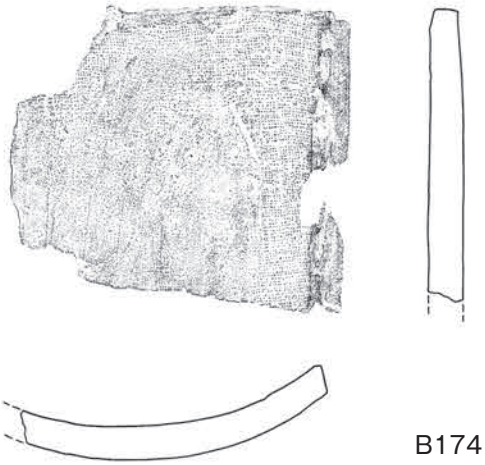
包含層出土土器



包含層出土土器



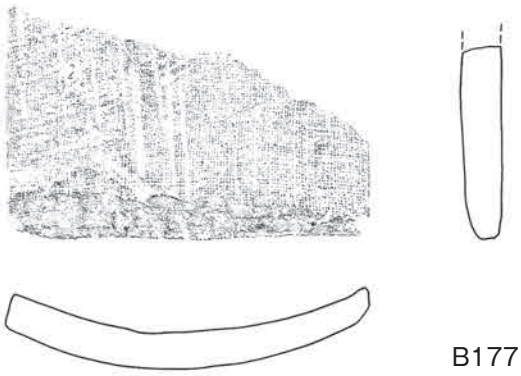
包含層出土土器



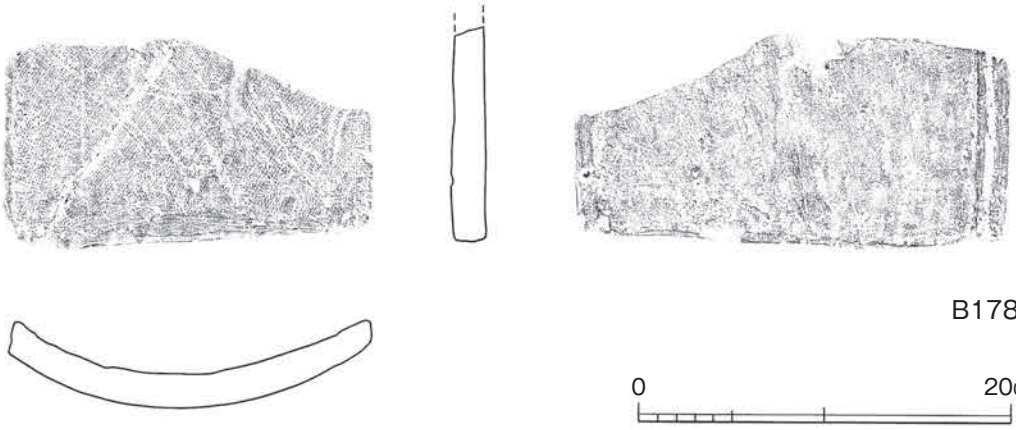
B174

B175

B176



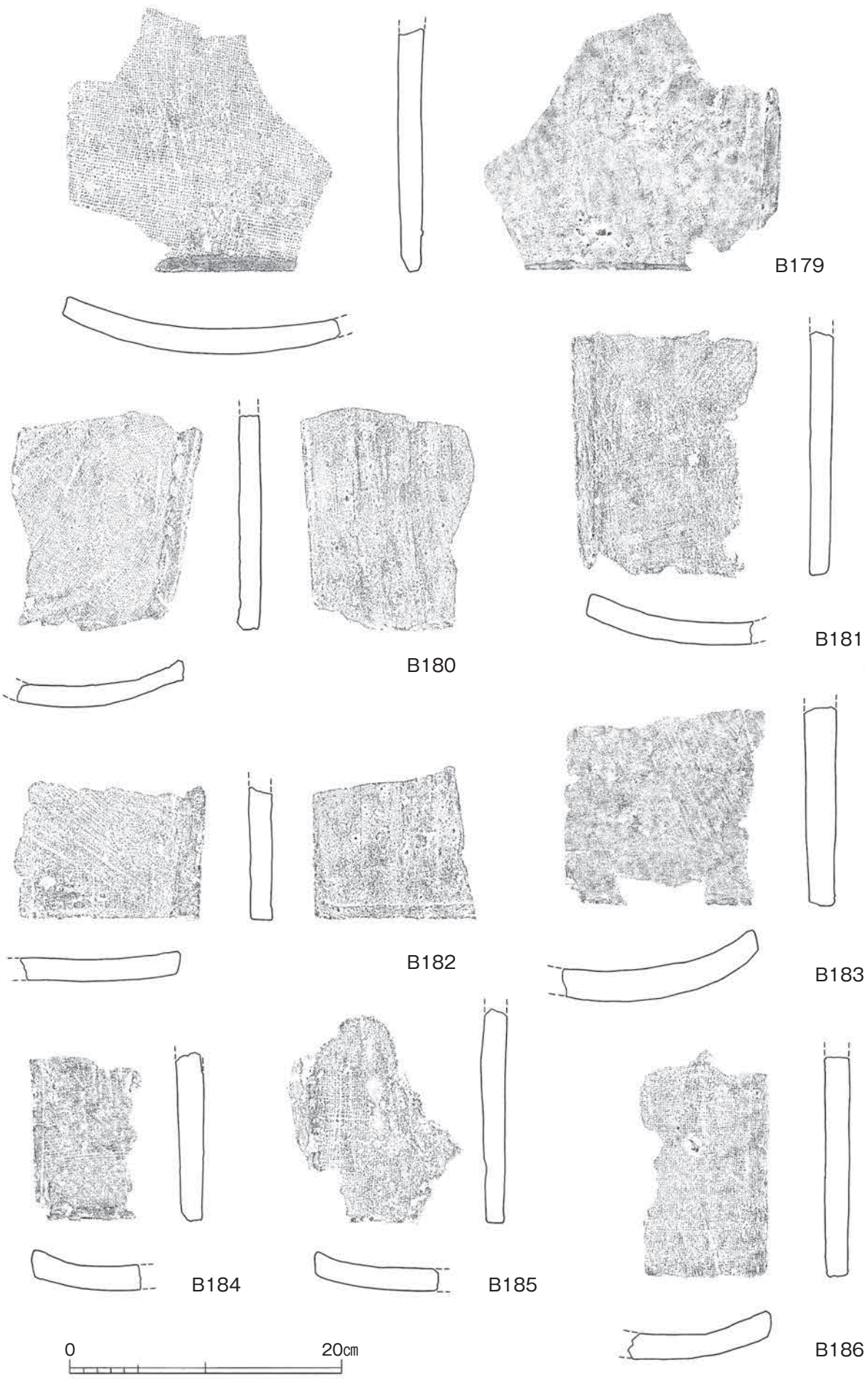
B177



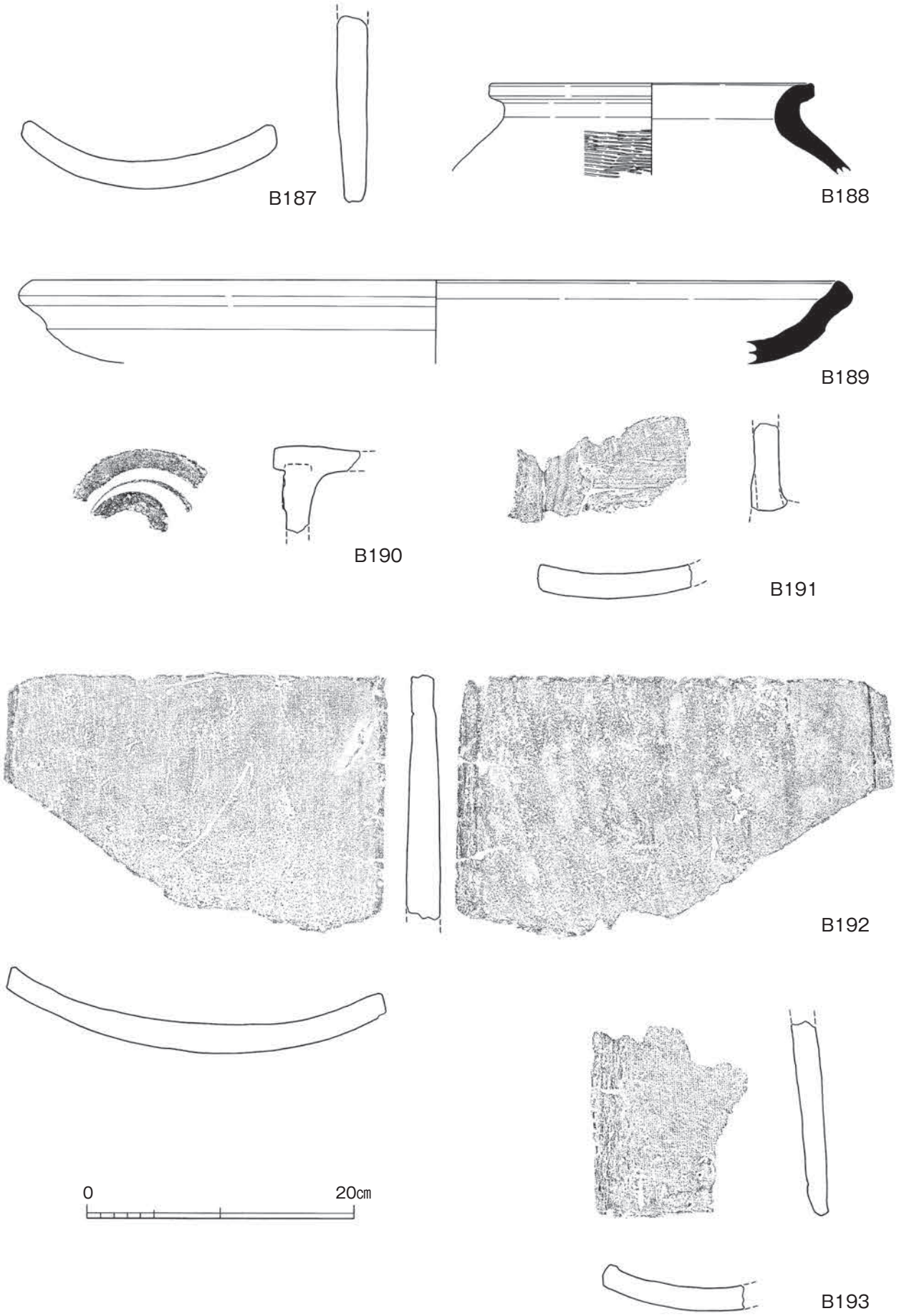
B178

0 20cm

包含層出土土器

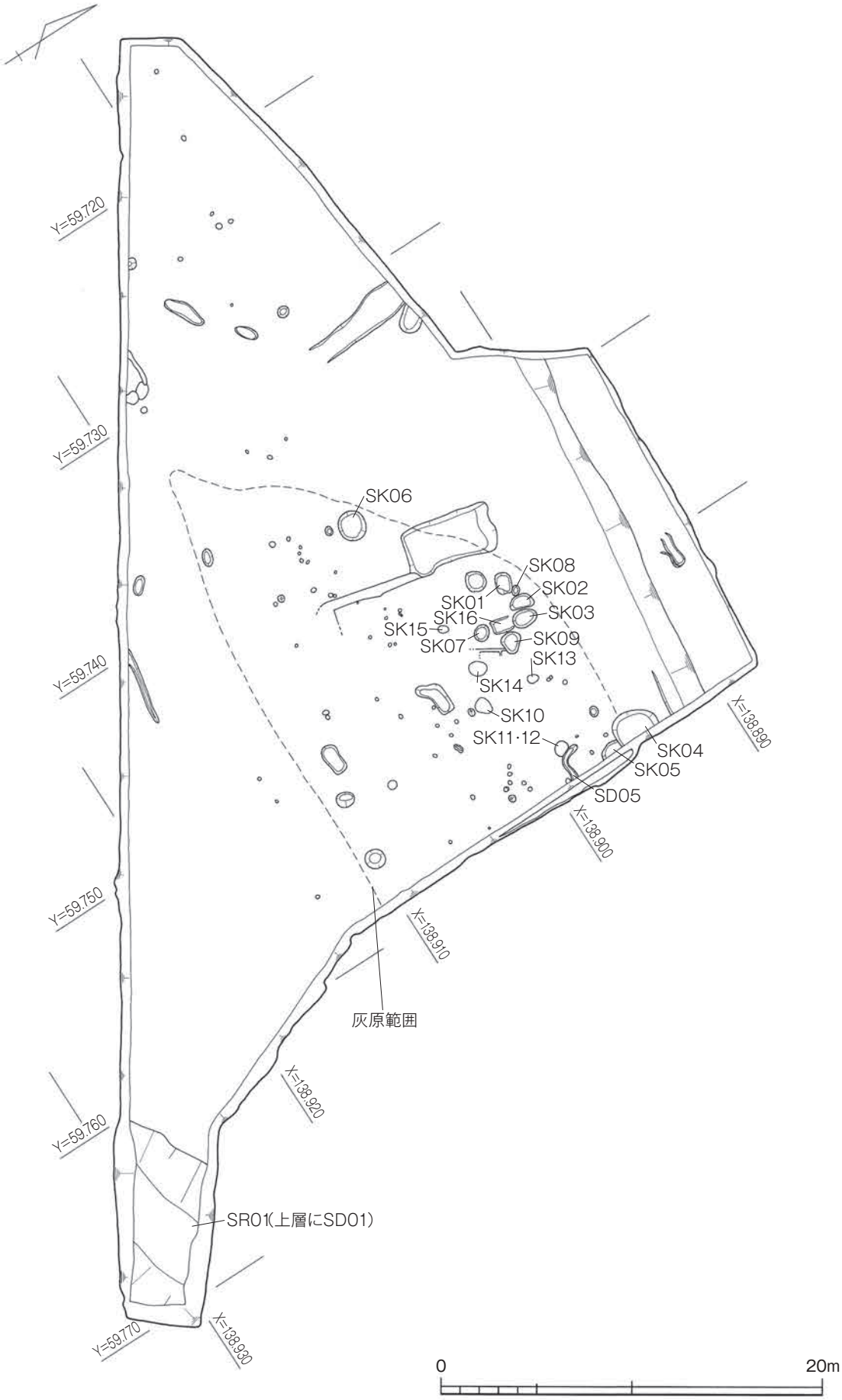


包含層出土土器

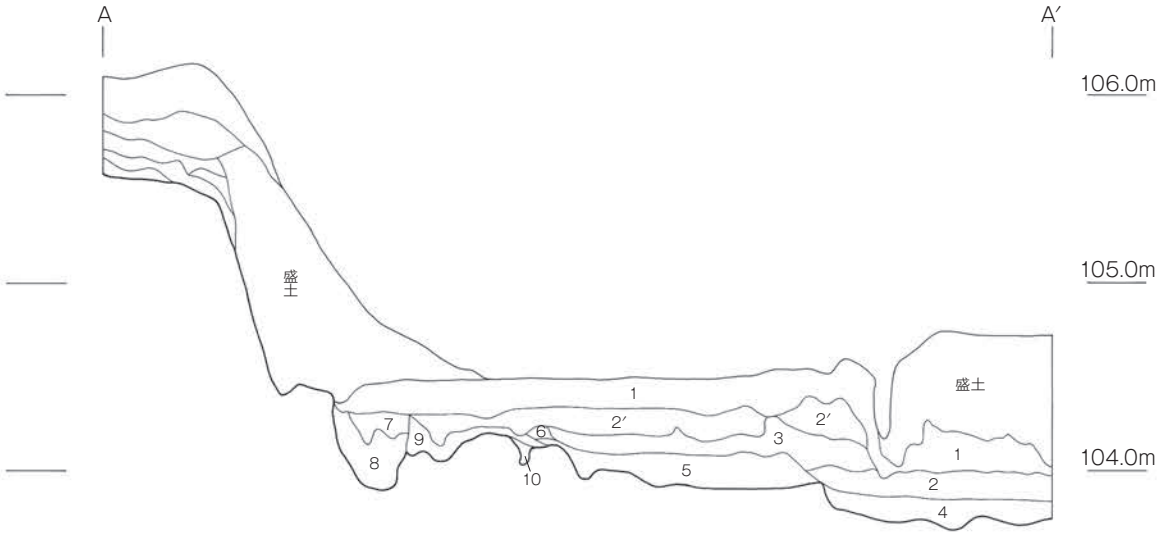


包含層出土土器

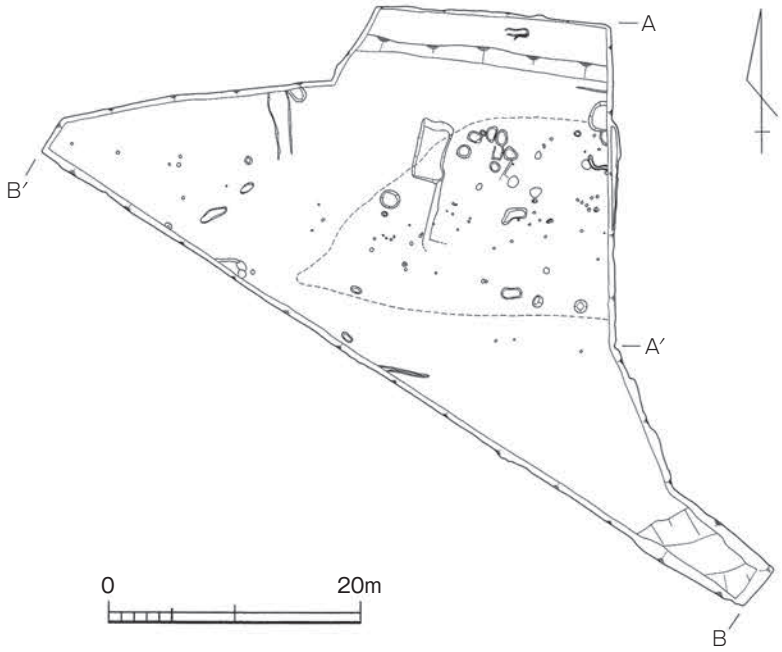
C地区


Y=59.720
Y=59.730
Y=59.740
Y=59.750
Y=59.760
Y=59.770
X=138.890
X=138.900
X=138.910
X=138.920
X=138.930
SK06
SK08
SK02
SK01
SK16
SK03
SK15
SK07
SK09
SK13
SK14
SK10
SK11·12
SK04
SK05
SD05
灰原範囲
SR01(上層にSD01)
0
20m

調査区平面図

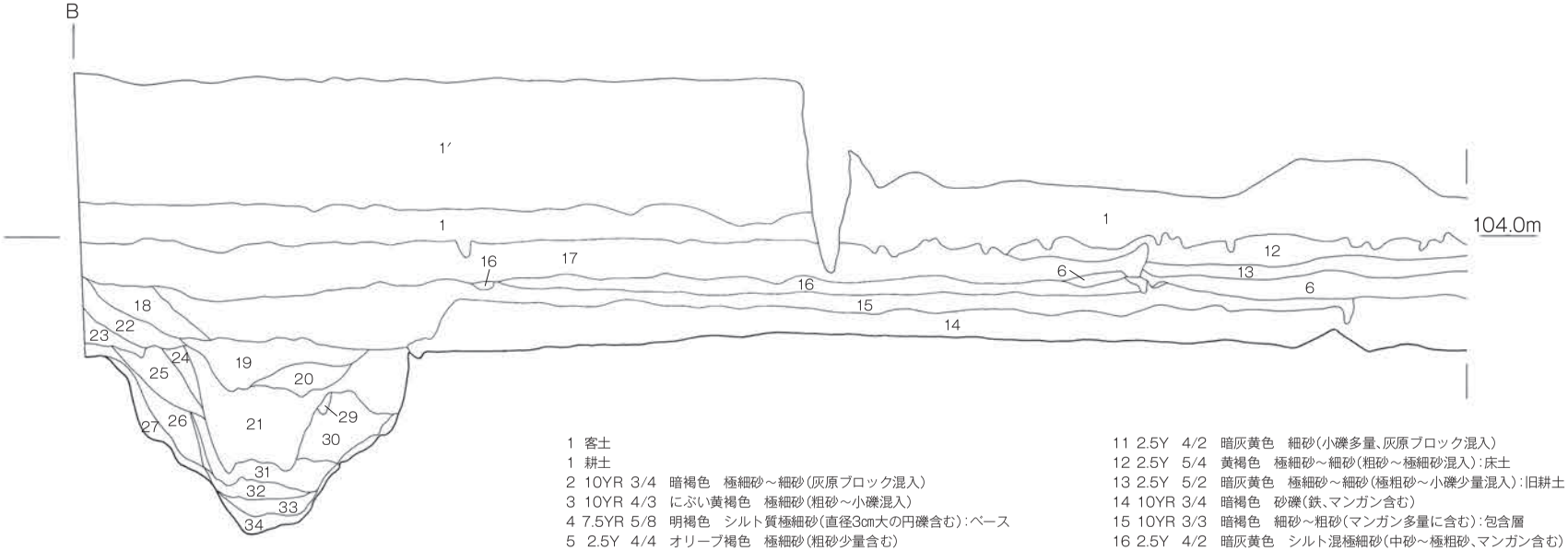


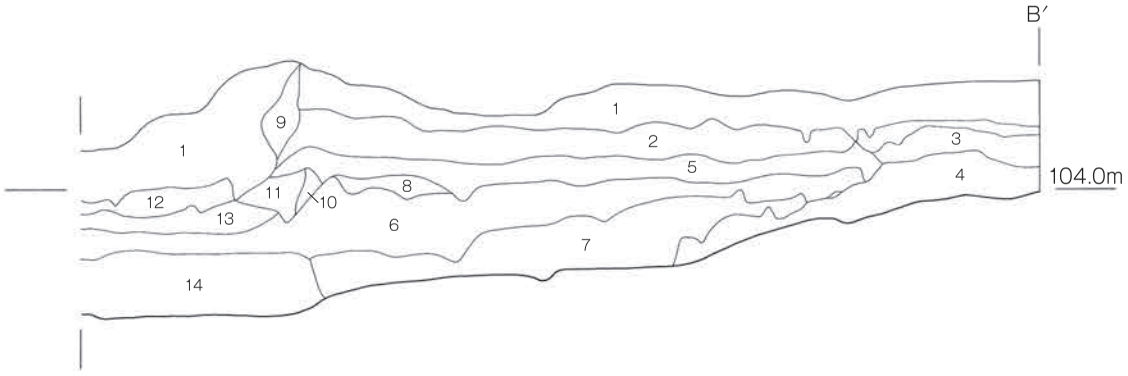
1 盛土
1 耕土
2 床土(2′ は灰原ブロック混入)
3 10YR 5/2 灰黄褐色 極細砂～細砂(小礫混入):旧耕土
4 7.5YR 2/2 黒褐色 極細砂(細砂～中砂多く含む 小礫含む)
5 10YR 2/3 黒褐色 極細砂(細砂多く含む 粗砂から小礫、焼土含む)
6 5YR 6/8 橙色 極細砂(焼土含む)
7 7.5YR 2/1 黒色 極細砂(焼土粒、窯体片等含む):SK04
8 7.5YR 2/1 黒色 極細砂(焼土粒、窯体片、粘土塊多く含む):SK04
9 10YR 3/2 黒褐色 極細砂(焼土粒、窯体片、粘土塊含む):SK05
10 10YR 2/1 黒色 極細砂～細砂:SK05



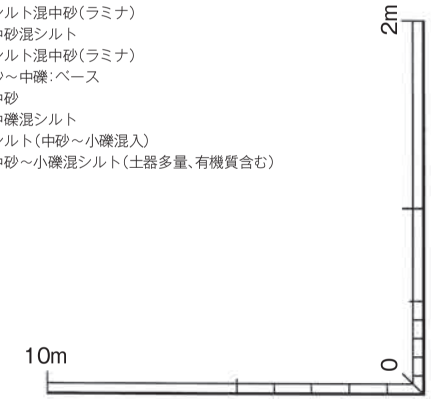
調査区東壁断面図

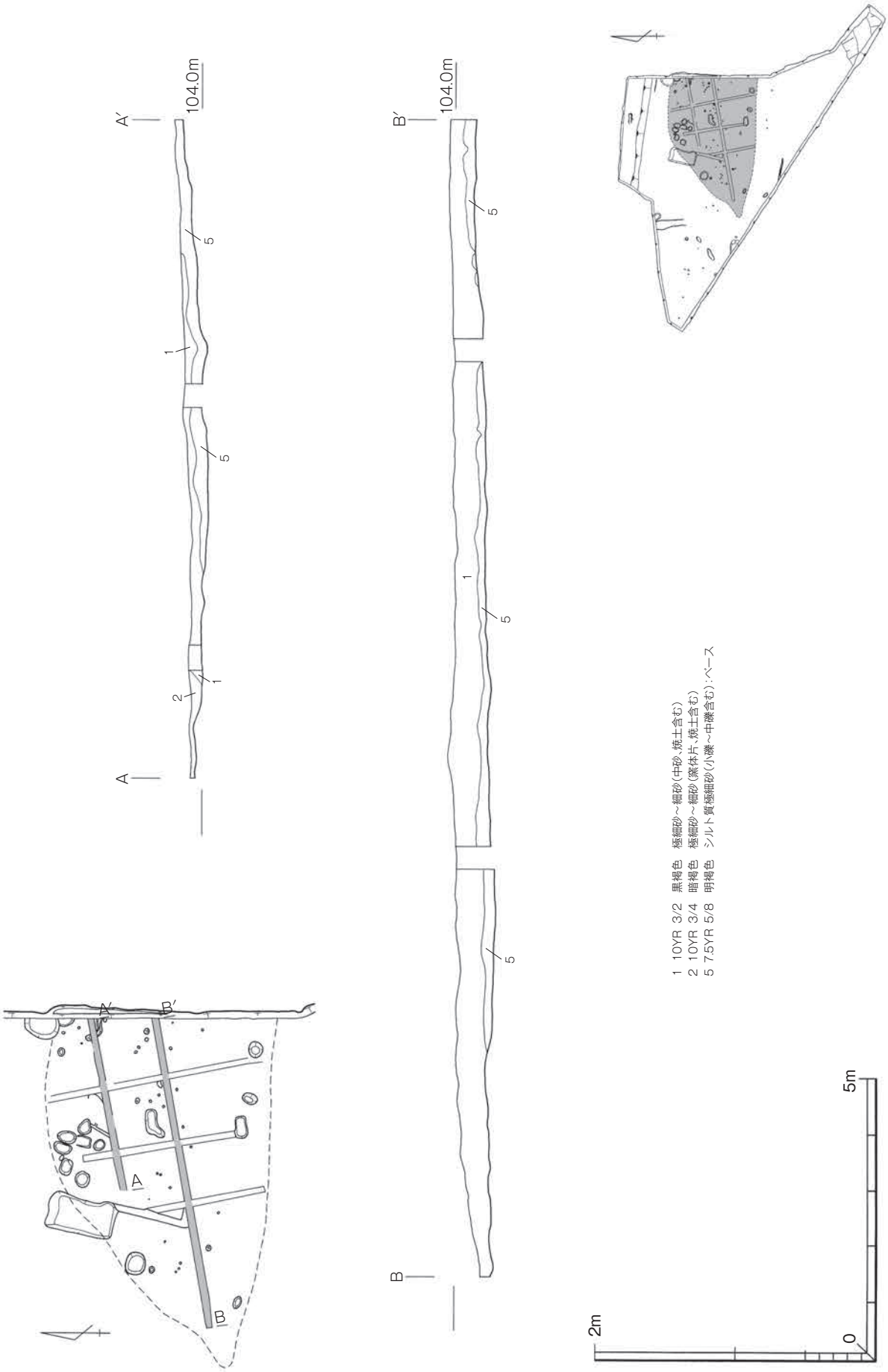
調査区南壁断面図



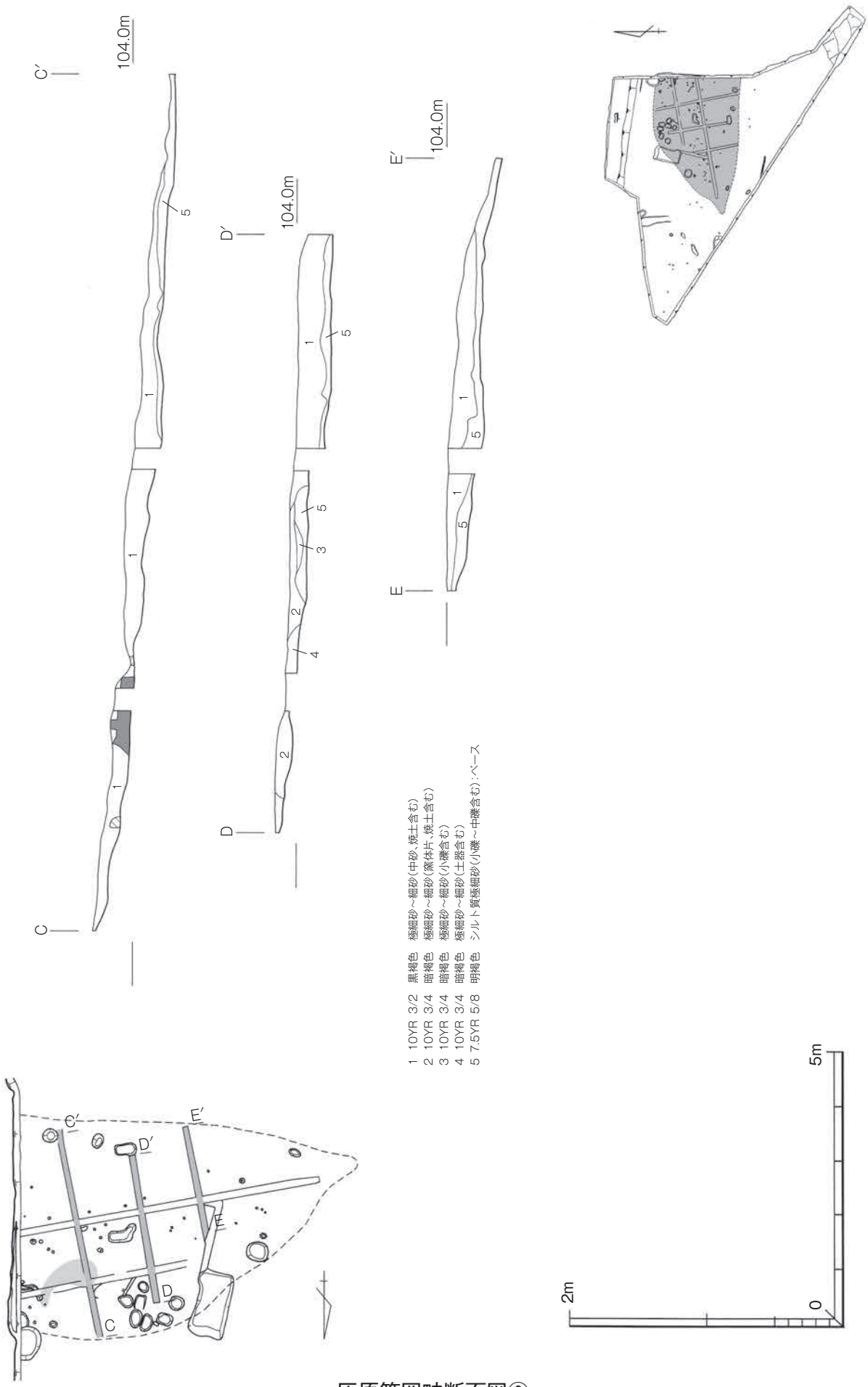


1 客土
1 耕土
2 10YR 3/4 暗褐色 極細砂～細砂(灰原ブロック混入)
3 10YR 4/3 にぶい黄褐色 極細砂(粗砂～小礫混入)
4 7.5YR 5/8 明褐色 シルト質極細砂(直径3cm大の円礫含む):ベース
5 2.5Y 4/4 オリーブ褐色 極細砂(粗砂少量含む)
6 10YR 5/3 にぶい黄褐色 シルト質極細砂(中砂～粗砂、小礫少量、マンガン含む)
7 10YR 4/4 褐色 シルト質極細砂(中礫多量に含む)
8 10YR 5/3 にぶい黄褐色 シルト混極細砂(細砂～粗砂多量に含む)
9 10YR 3/4 暗褐色 小礫～中礫多量に含む:近代の畦
10 10YR 5/2 灰黄褐色 細砂(小礫～中礫僅かに含む)
11 2.5Y 4/2 暗灰黄色 細砂(小礫多量、灰原ブロック混入)
12 2.5Y 5/4 黄褐色 極細砂～細砂(粗砂～極細砂混入):床土
13 2.5Y 5/2 暗灰黄色 極細砂～細砂(極粗砂～小礫少量混入):旧耕土
14 10YR 3/4 暗褐色 砂礫(鉄、マンガン含む)
15 10YR 3/3 暗褐色 細砂～粗砂(マンガン多量に含む):包含層
16 2.5Y 4/2 暗灰黄色 シルト混極細砂(中砂～極粗砂、マンガン含む)
17 2.5Y 5/2 暗灰黄色 極細砂～細砂(粗砂～極粗砂含む)
18 10YR 4/1 褐灰色 シルト質極細砂(中砂～中礫混入 土器多量に含む)
19 5Y 3/1 オリーブ黒色 クレイ(中砂～中礫含む):SD01埋土
20 5Y 2/2 オリーブ黒色 クレイ:SD01埋土
21 10YR 2/1 黒色 シルト質クレイ(有機質含む):SD01埋土
22 10YR 3/1 黒褐色 シルト混中砂(ラミナ)
23 10YR 2/2 黒褐色 中砂混シルト
24 10YR 2/2 黒褐色 シルト質クレイ(中砂～中礫混入)
25 10YR 2/2 黒褐色 シルト混中砂(ラミナ)
26 10YR 2/2 黒褐色 中砂混シルト
27 10YR 2/2 黒褐色 シルト混中砂(ラミナ)
28 7.5Y 5/1 灰色 中砂～中礫:ベース
29 10YR 5/1 褐灰色 中砂
30 10YR 5/1 褐灰色 中礫混シルト
31 10YR 3/2 黒褐色 シルト(中砂～小礫混入)
32 10YR 3/2 黒褐色 中砂～小礫混シルト(土器多量、有機質含む)
33 炭層
34 中砂

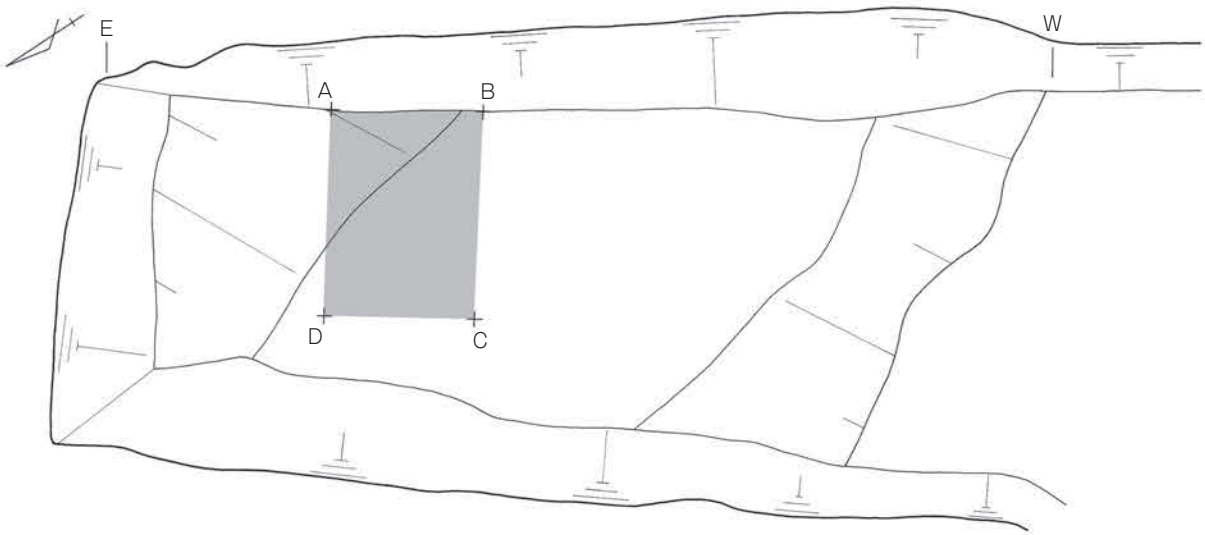


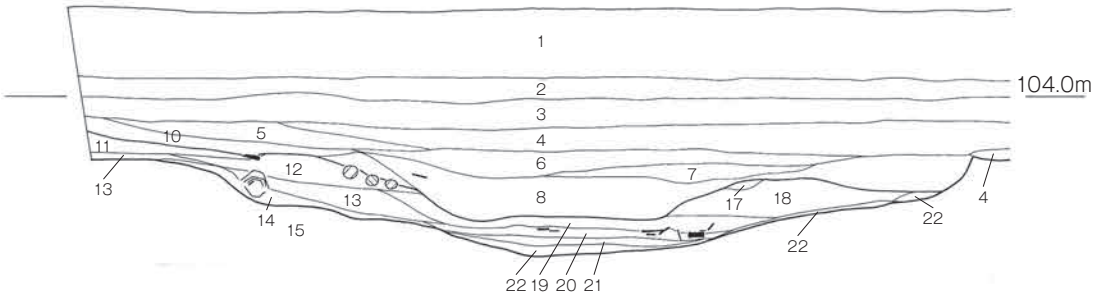

A
A′
104.0m
B
B′
104.0m
1
2
5
1 10YR 3/2 黒褐色 極細砂～細砂(中砂、焼土含む)
2 10YR 3/4 暗褐色 極細砂～細砂(黒曜片、焼土含む)
5 7.5YR 5/8 明褐色 シルト質極細砂(小礫～中礫含む):ベース
0
2m
5m

灰原範囲畦断面図①

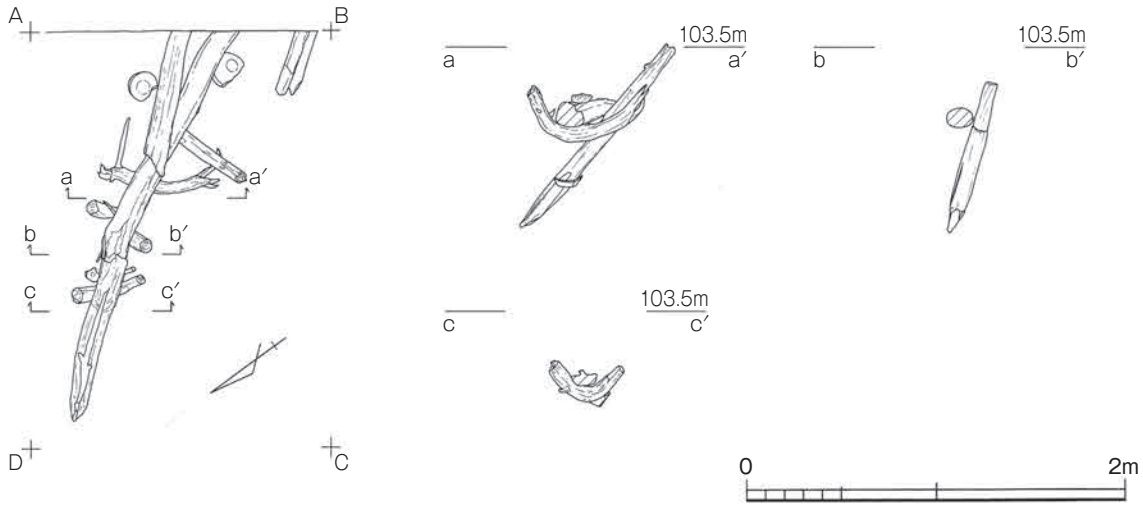

C
C′
104.0m
D
D′
104.0m
E
E′
104.0m
1 10YR 3/2 黒褐色 極細砂～細砂(中砂、焼土含む)
2 10YR 3/4 暗褐色 極細砂～細砂(黨体片、焼土含む)
3 10YR 3/4 暗褐色 極細砂～細砂(小礫含む)
4 10YR 3/4 暗褐色 極細砂～細砂(土器含む)
5 7.5YR 5/8 明褐色 シルト質極細砂(小礫～中礫含む)：ベース
2m
0
5m

灰原範囲畦断面図②

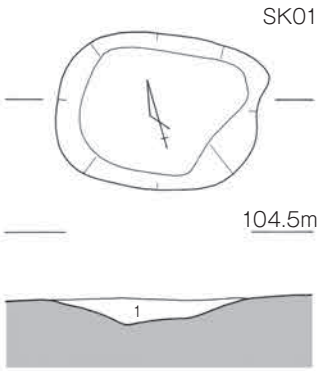




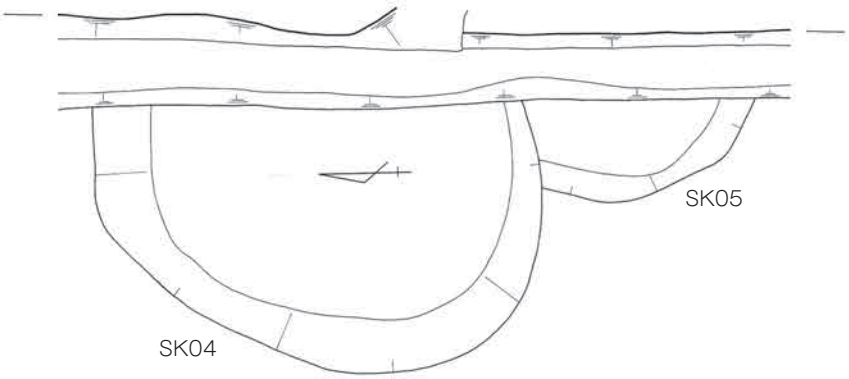
1 盛土
2 耕土
3 床土
4 10YR 3/4 暗褐色 シルト質極細砂(下半部鉄分含む)
5 10YR 4/1 褐灰色 シルト質極細砂(中砂～中礫混入、土器含む)
6 5Y 3/1 オリーブ黒色 クレイ(中砂～中礫含む):SD01埋土
7 5Y 2/2 オリーブ黒色 クレイ:SD01埋土
8 10YR 2/1 黒色 シルト質クレイ(有機質含む):SD01埋土
9 10YR 2/2 黒褐色 シルト質クレイ(中砂～中礫混入):SD01埋土
10 10YR 3/1 黒褐色 シルト混中砂(ラミナ)
11 10YR 2/2 黒褐色 中砂混シルト
12 10YR 2/2 黒褐色 シルト混中砂(ラミナ)
13 10YR 2/2 黒褐色 中砂混シルト
14 10YR 2/2 黒褐色 シルト混中砂(ラミナ)
15 7.5Y 5/1 灰色 中砂～中礫:ベース
16 10YR 3/4 暗褐色 砂礫(鉄、マンガン含む)
17 10YR 5/1 褐灰色 中砂
18 10YR 5/1 褐灰色 中礫混シルト
19 10YR 3/2 黒褐色 シルト(中砂～小礫混入)
20 10YR 3/2 黒褐色 シルト(中砂～小礫混入 土器多量、有機質含む)
21 炭層
22 中砂

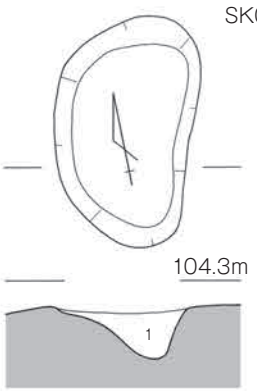


SR01・SD01 平面図・断面図

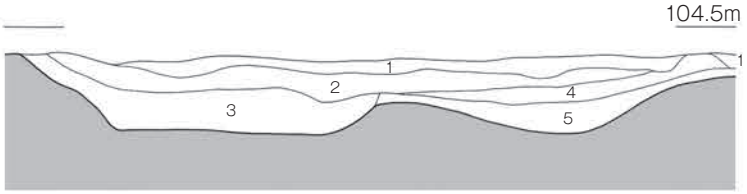


1 10YR 2/3 黒褐色 シルト混極細砂
（細砂、炭、焼土ブロック多量に含む）

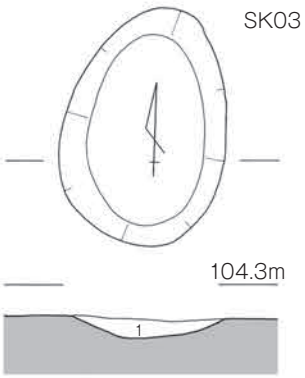




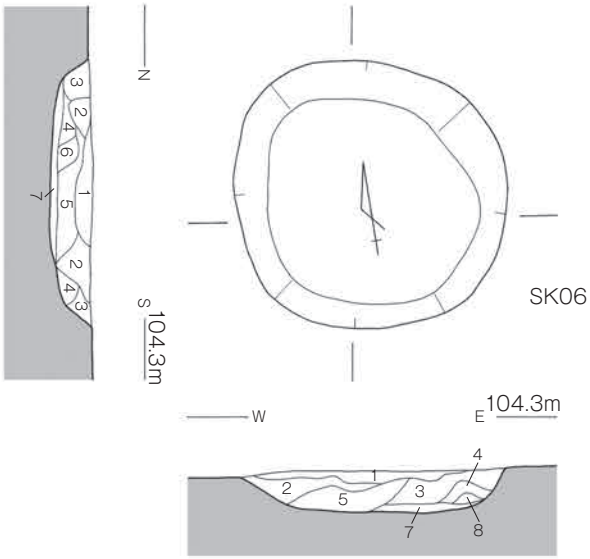
1 7.5YR 2/2 黒褐色 極細砂
（中砂～極粗砂、窯壁、焼土ブロック含む）



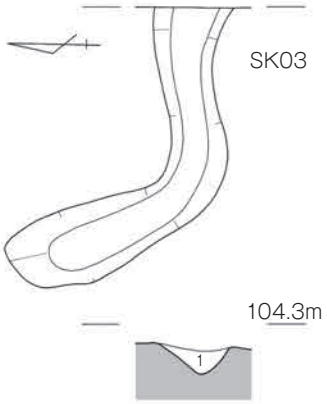
1 10YR 3/2 黒褐色 極細砂（粘土塊含む）：焼土・窯体
2 7.5YR 2/1 黒色 極細砂：焼土・窯体
3 5YR 6/8 橙色 極細砂：焼土（窯壁、粘土塊多量に含む）
4 5YR 6/8 橙色 極細砂：焼土
5 10YR 2/1 黒色 極細砂～細砂



1 10YR 1.7/1 黒色 炭層（焼土、窯壁含む）

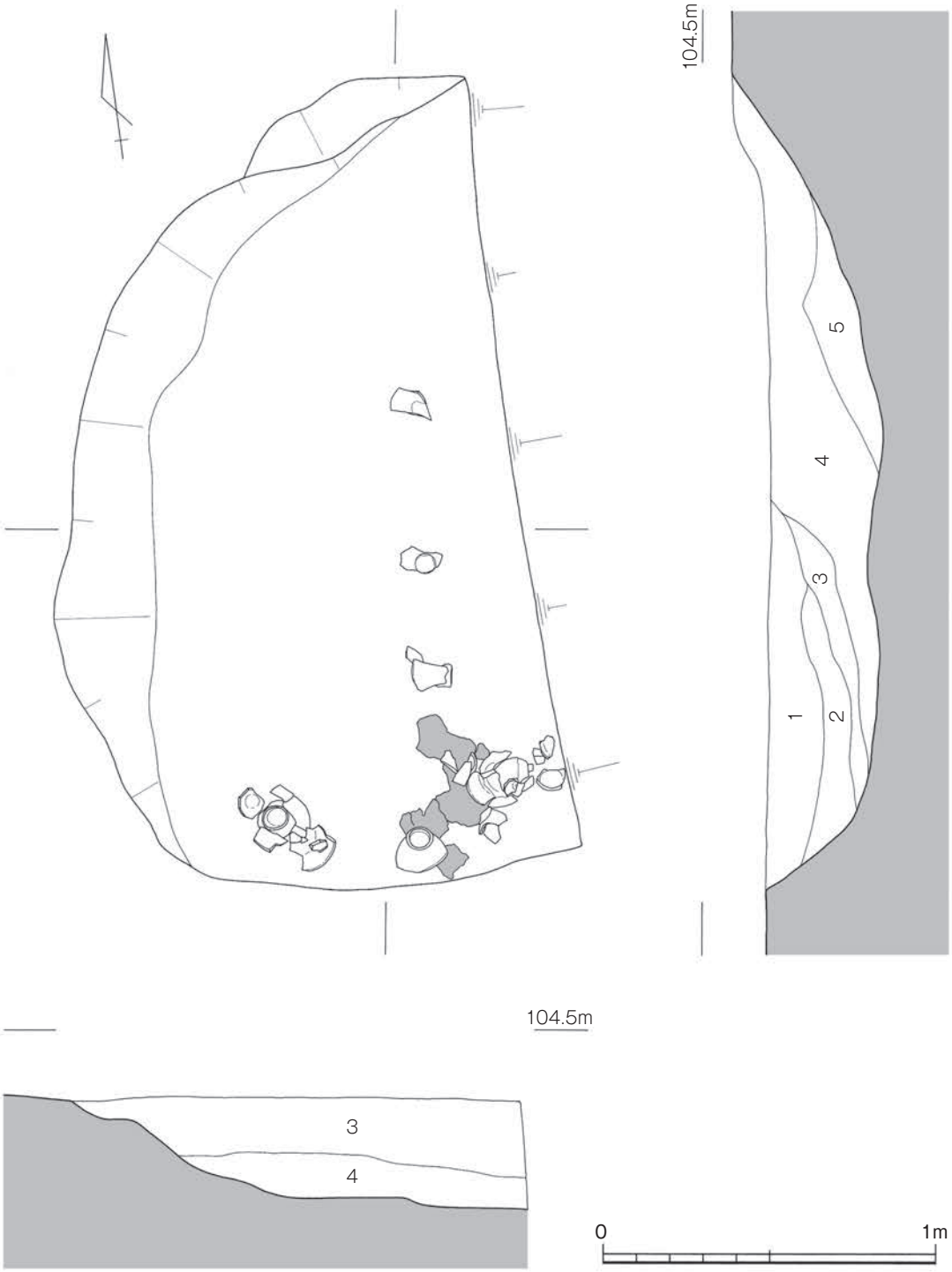


1 10YR 6/2 灰黄褐色 シルト混細砂～中砂（マンガン多量に含む）
2 10YR 5/4 にぶい黄褐色 極細砂～細砂（焼土、マンガン多量に含む）
3 10YR 5/4 にぶい黄褐色 極細砂～細砂
4 10YR 3/2 黒褐色 極細砂（細砂含む 焼土やや多く含む）
5 10YR 5/3 にぶい黄褐色 中砂～極粗砂（シルト混入）
6 10YR 5/4 にぶい黄褐色 極細砂～細砂
7 10YR 5/2 灰黄褐色 シルト質極細砂（中砂含む）
8 10YR 5/4 にぶい黄褐色 極細砂～細砂（焼土、マンガン多量に含む）



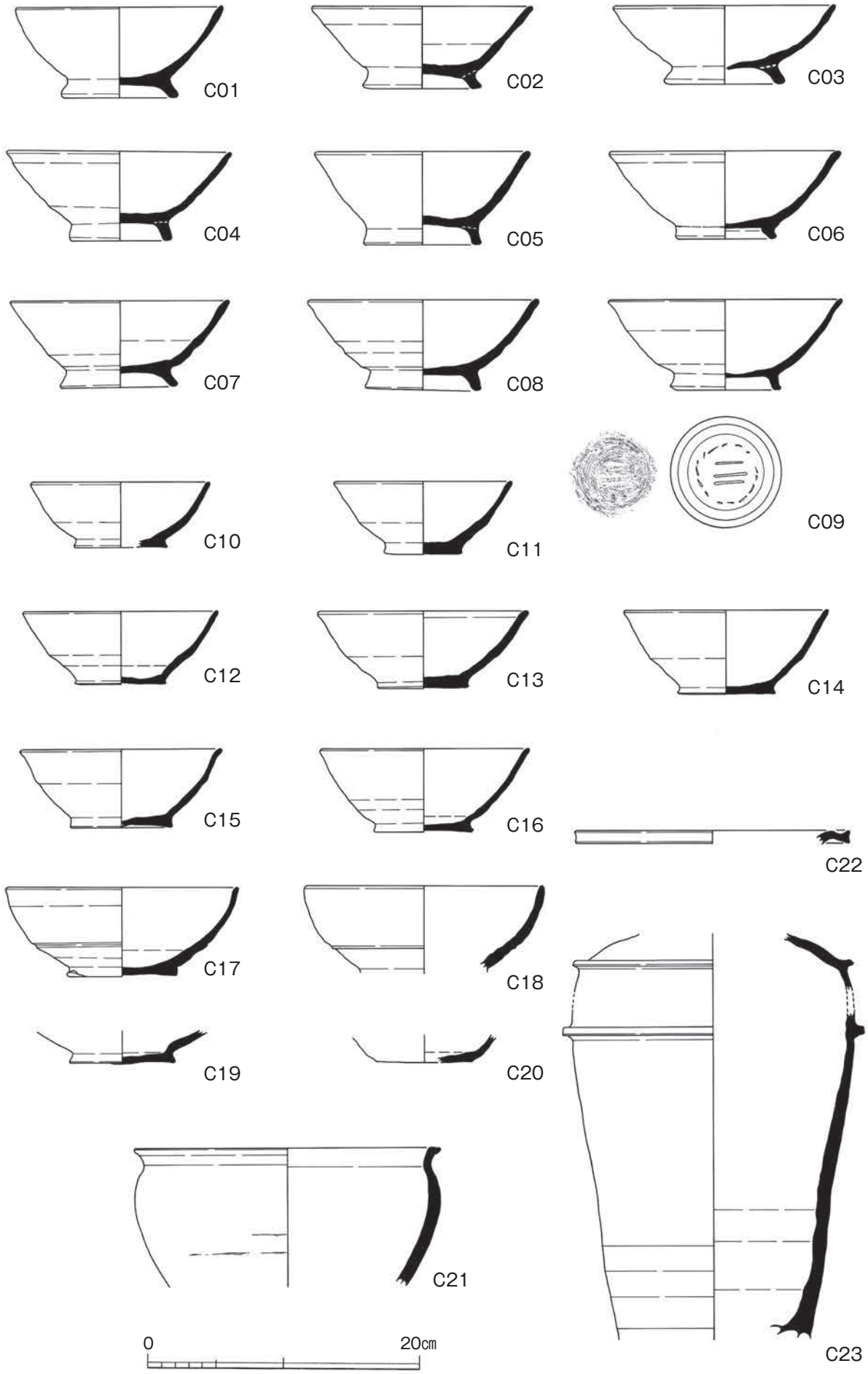
1 10YR 2/1 黒色 極細砂～細砂

SK01 ～ 06・SD05 平面図・断面図

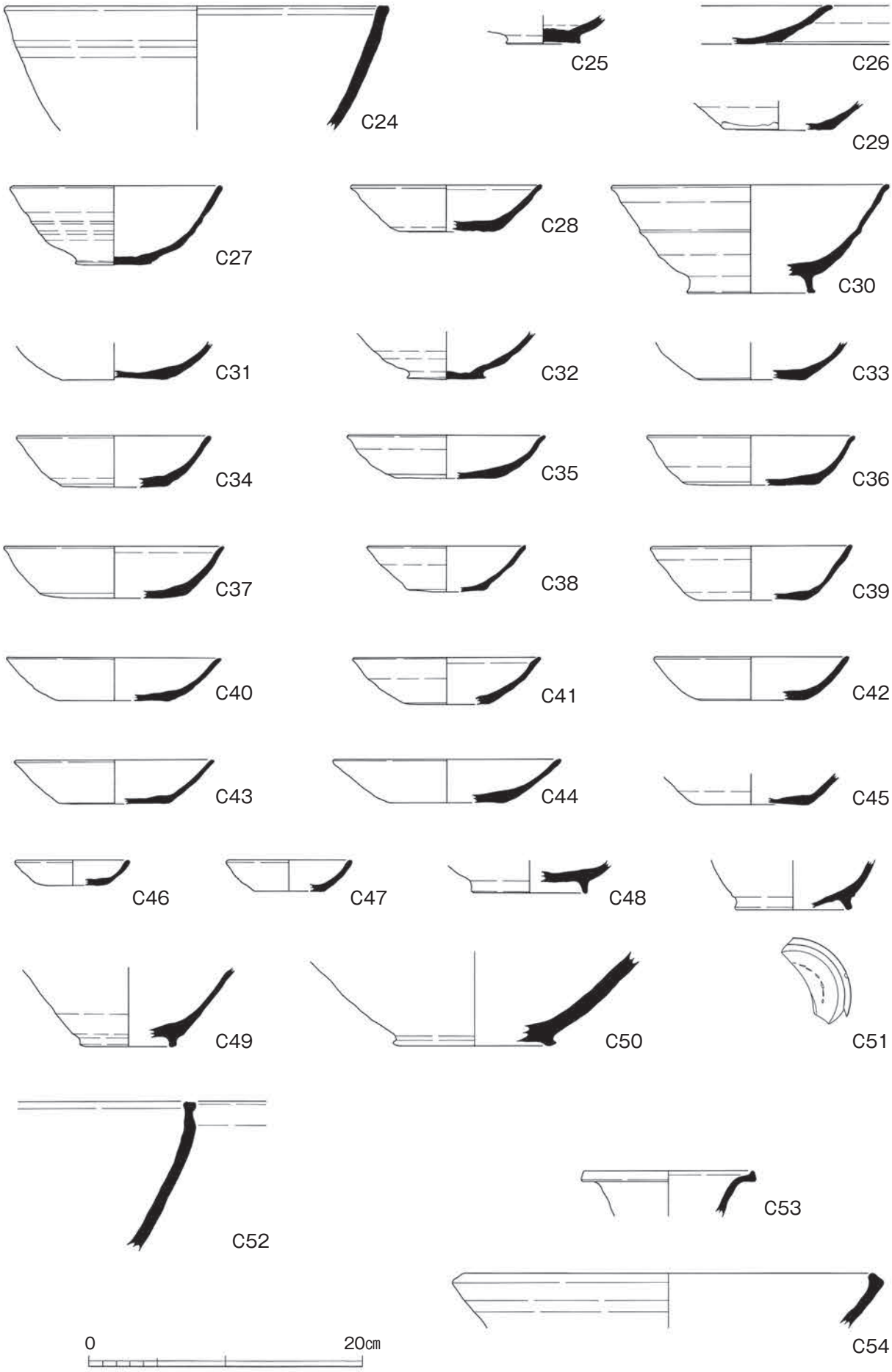


1 10YR 3/3 暗褐色 シルト混細砂（焼土、遺物多量に含む）
2 7.5YR 2/1 黒色 シルト質極細砂（窯壁、炭多量に含む）
3 10YR 4/6 褐色 シルト（2 層との境界、被熱のため赤変）
4 10YR 2/3 黒褐色 シルト質極細砂（細砂含む 焼土、炭混入）
5 10YR 3/2 黒褐色 シルト質極細砂（細砂～粗砂やや含む 焼土、炭混入）

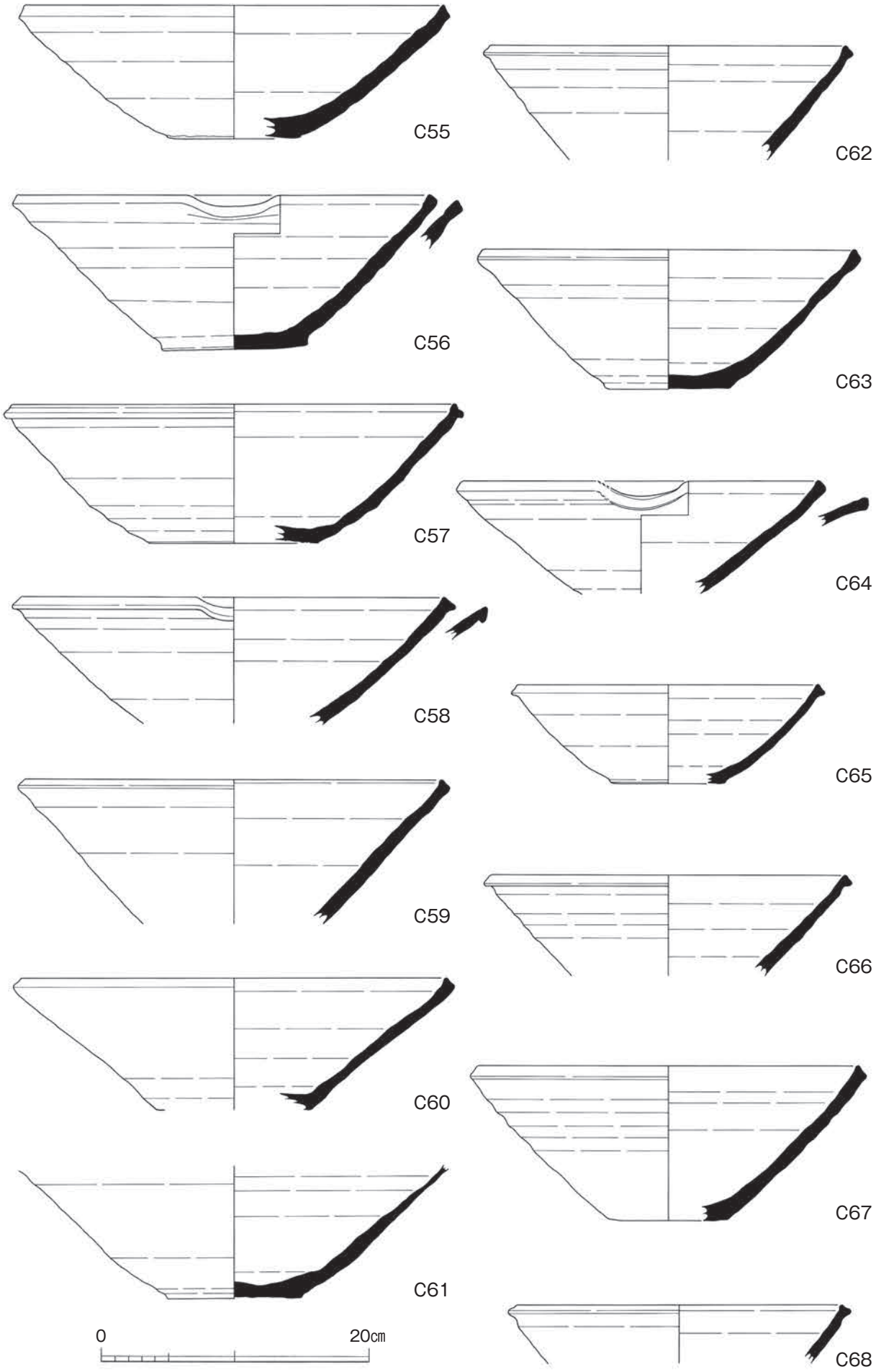
SK04 平面図・断面図


C01
C02
C03
C04
C05
C06
C07
C08
C09
C10
C11
C12
C13
C14
C15
C16
C22
C17
C18
C19
C20
C21
C23
0
20㎝

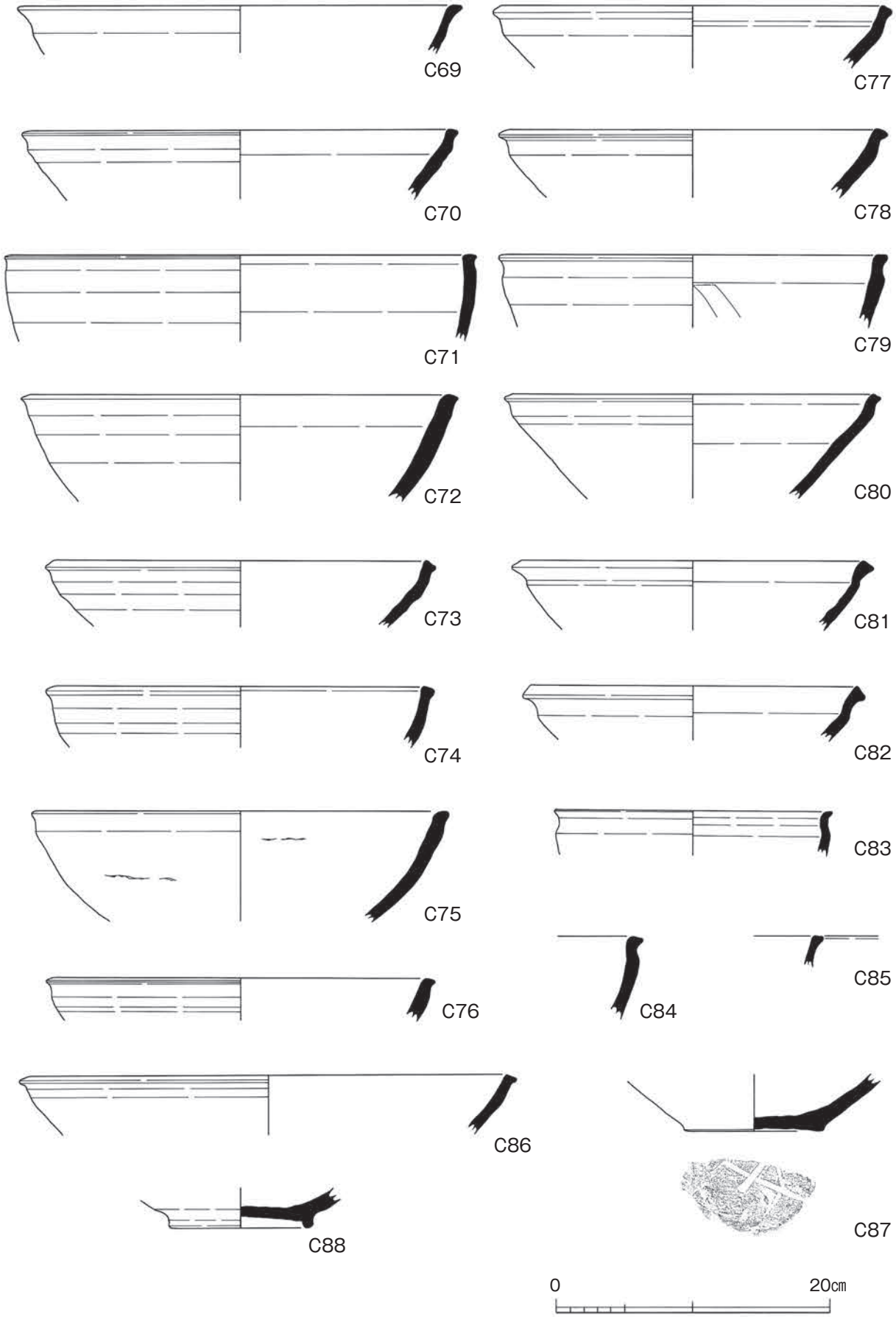
SK04 出土土器



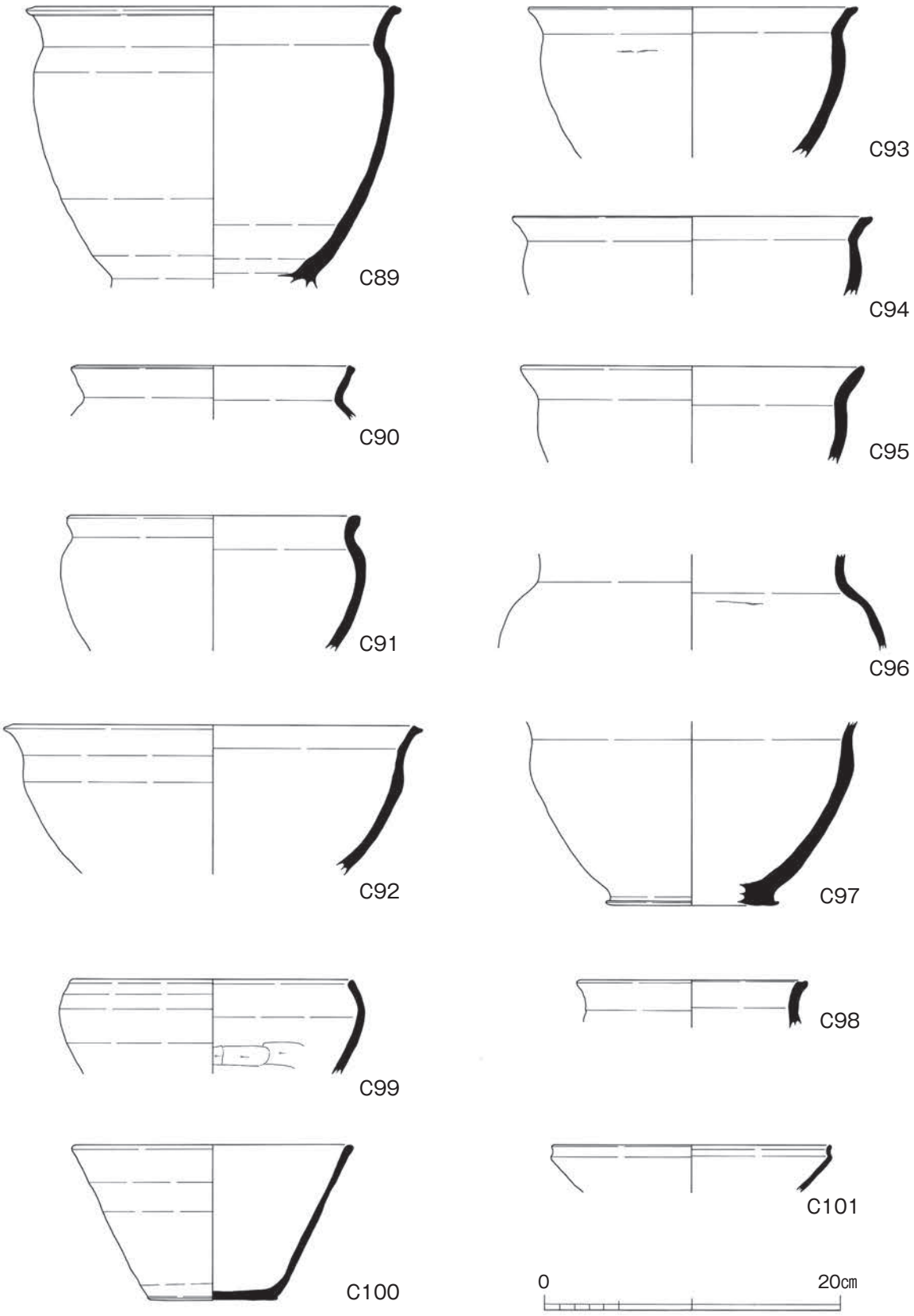
SK02・SK05 ～ SK07・SK09 ～ SK14・SD05 出土土器



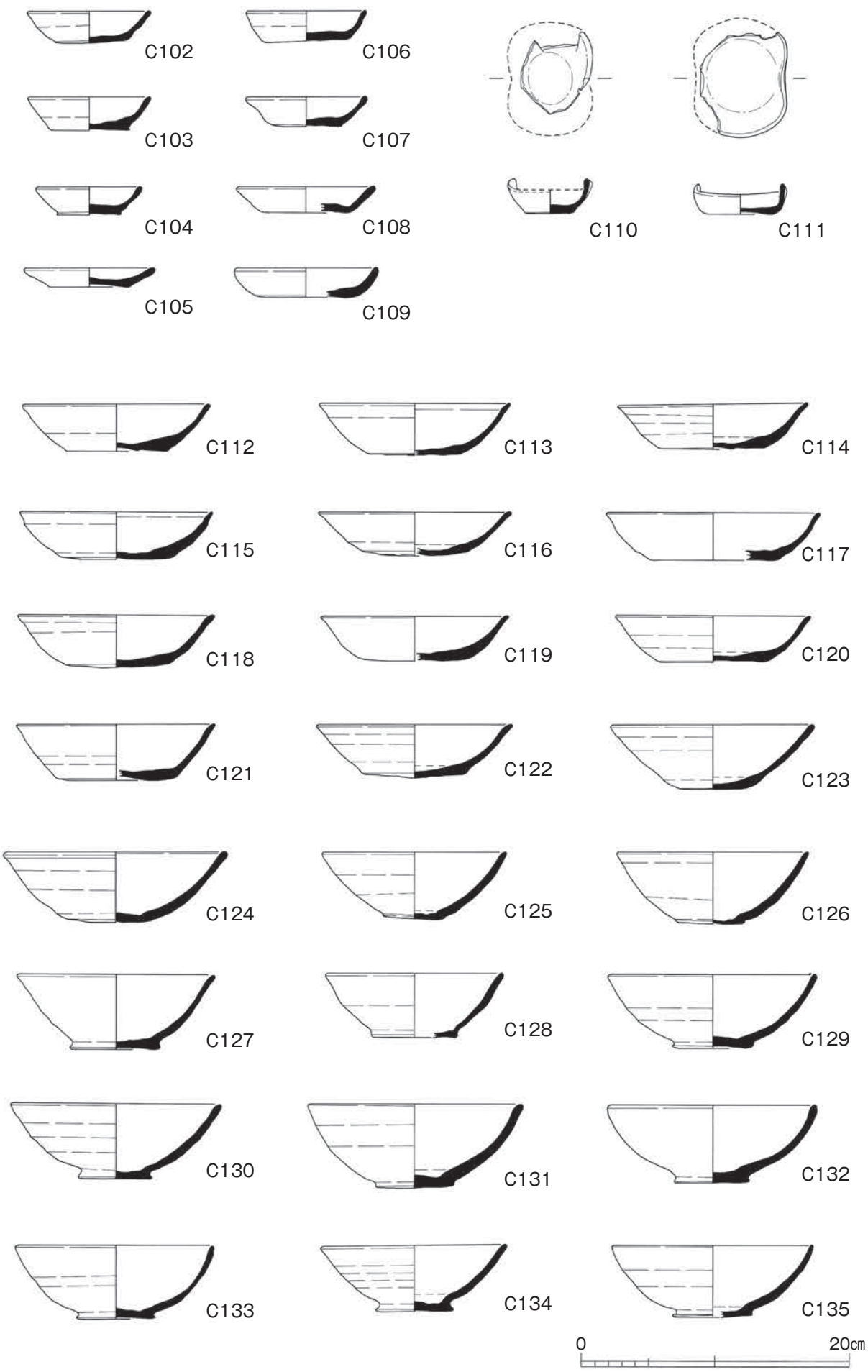
灰原出土土器


C69
C77
C70
C78
C71
C79
C72
C80
C73
C81
C74
C82
C75
C83
C76
C84
C85
C86
C87
C88
0
20cm

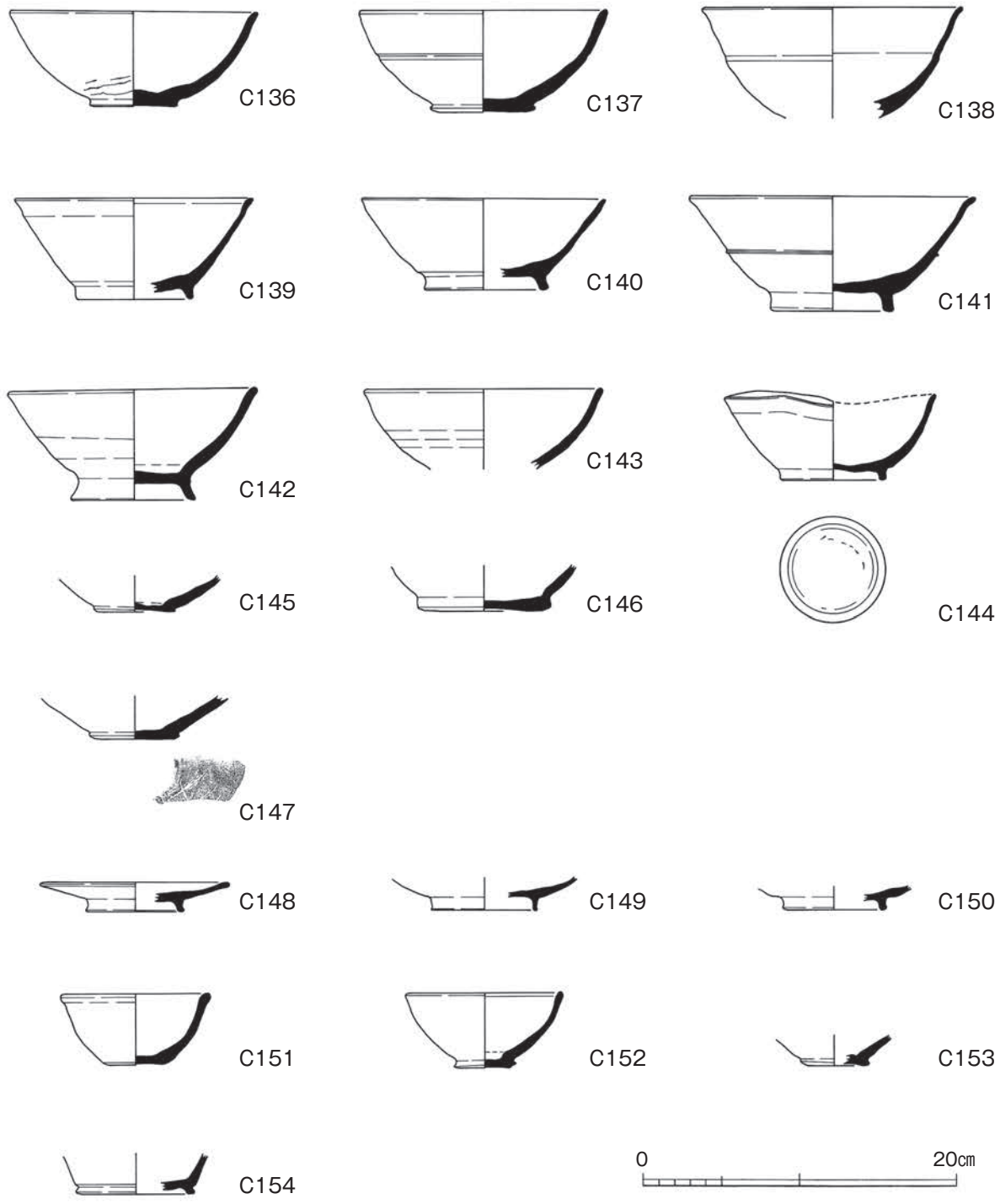
灰原出土土器



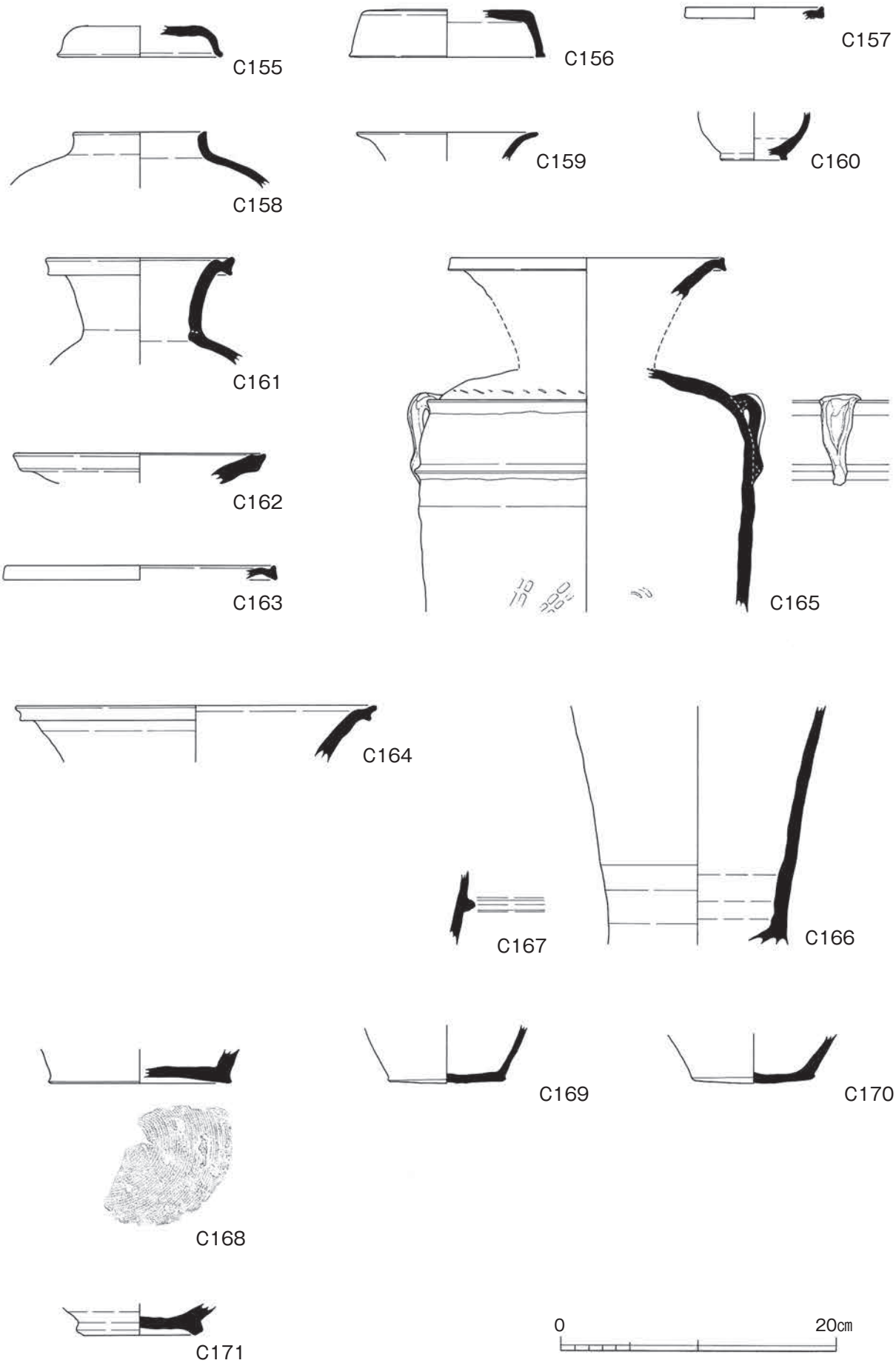
灰原出土土器


C102
C106
C103
C107
C104
C108
C110
C111
C105
C109
C112
C113
C114
C115
C116
C117
C118
C119
C120
C121
C122
C123
C124
C125
C126
C127
C128
C129
C130
C131
C132
C133
C134
C135
0
20cm

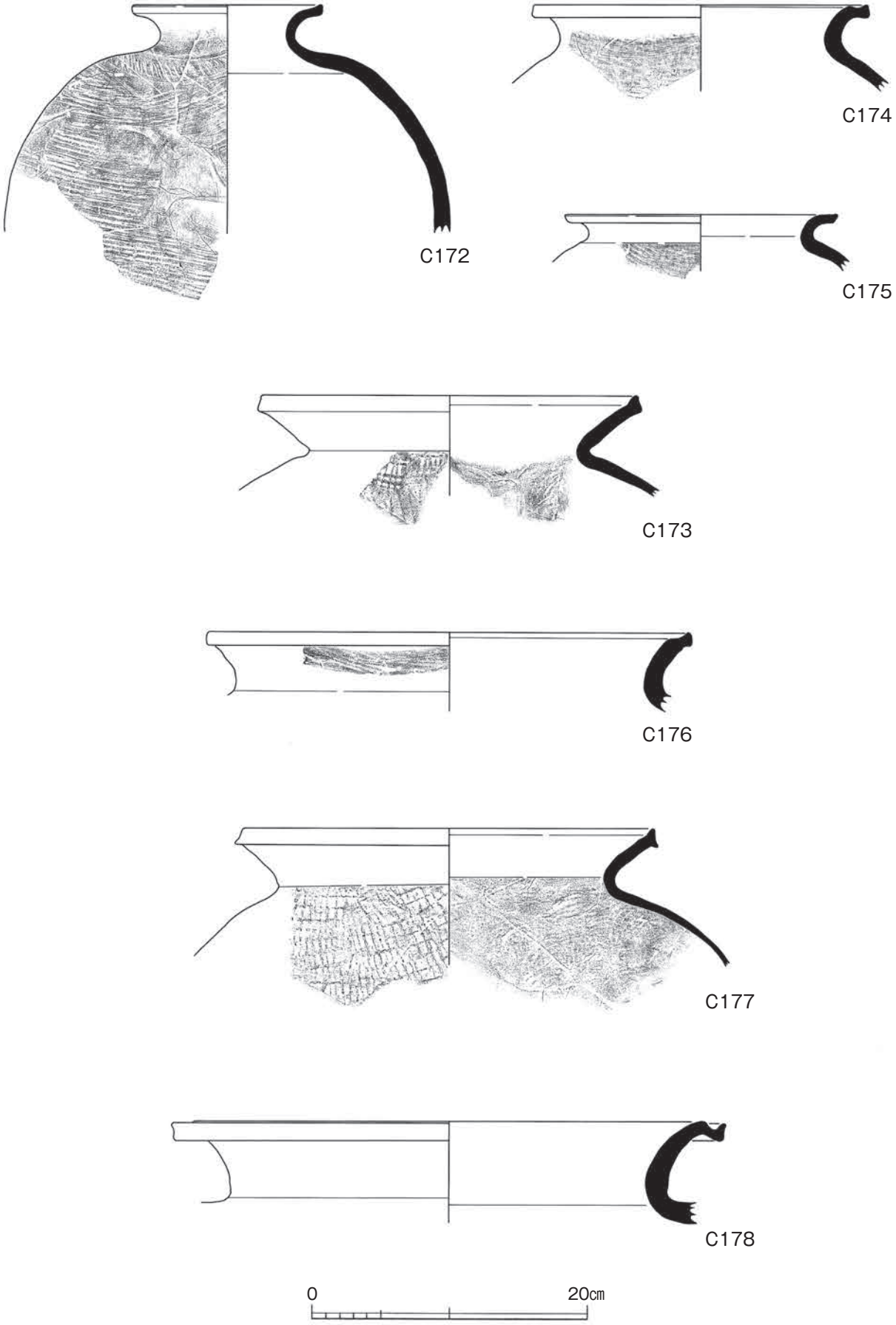
灰原出土土器


C136
C137
C138
C139
C140
C141
C142
C143
C144
C145
C146
C147
C148
C149
C150
C151
C152
C153
C154
0
20cm

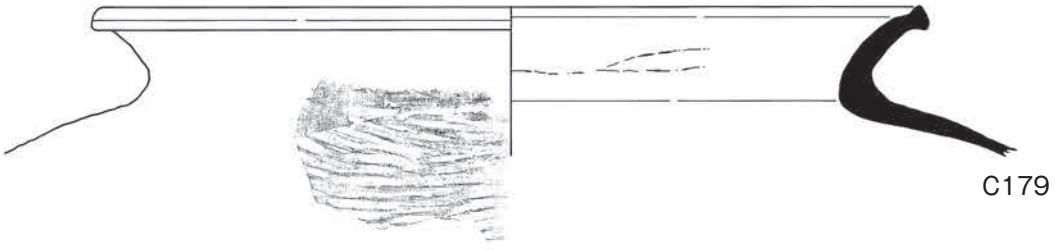
灰原出土土器

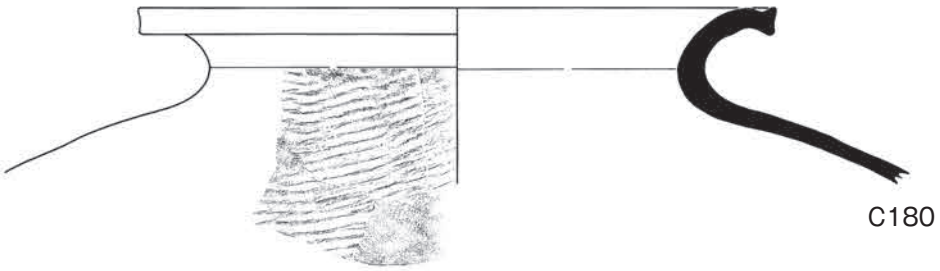

C155
C156
C157
C158
C159
C160
C161
C162
C163
C164
C165
C166
C167
C168
C169
C170
C171
0
20cm

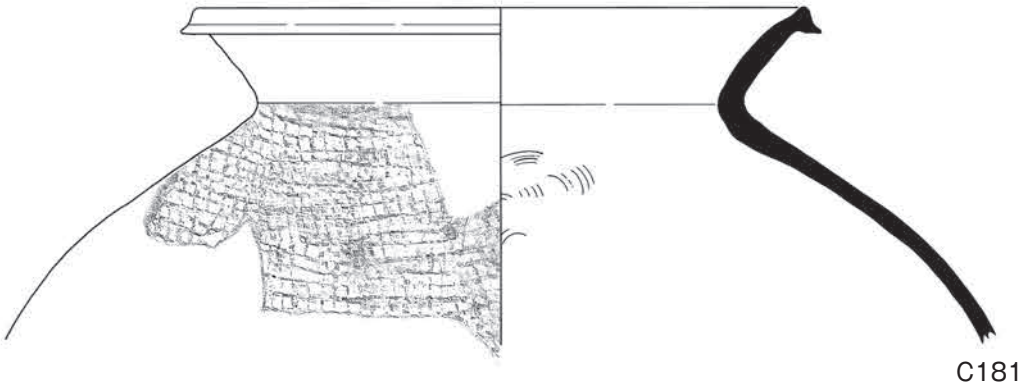
灰原出土土器

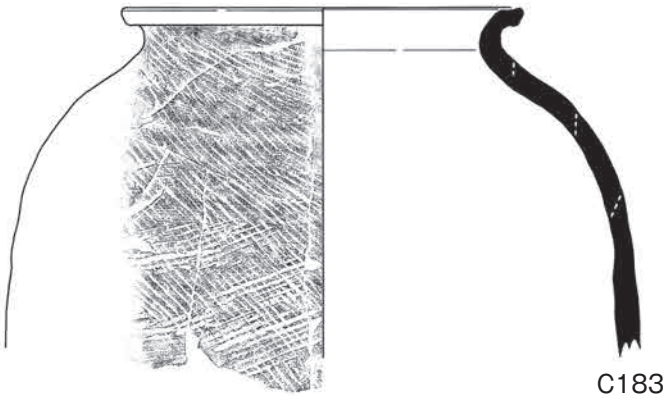


灰原出土土器



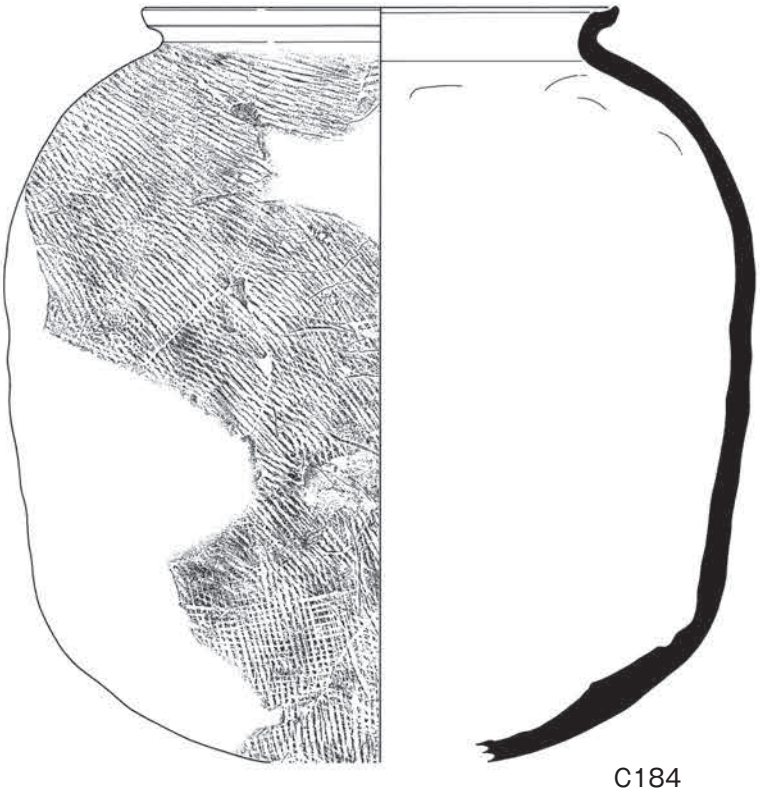






灰原出土土器

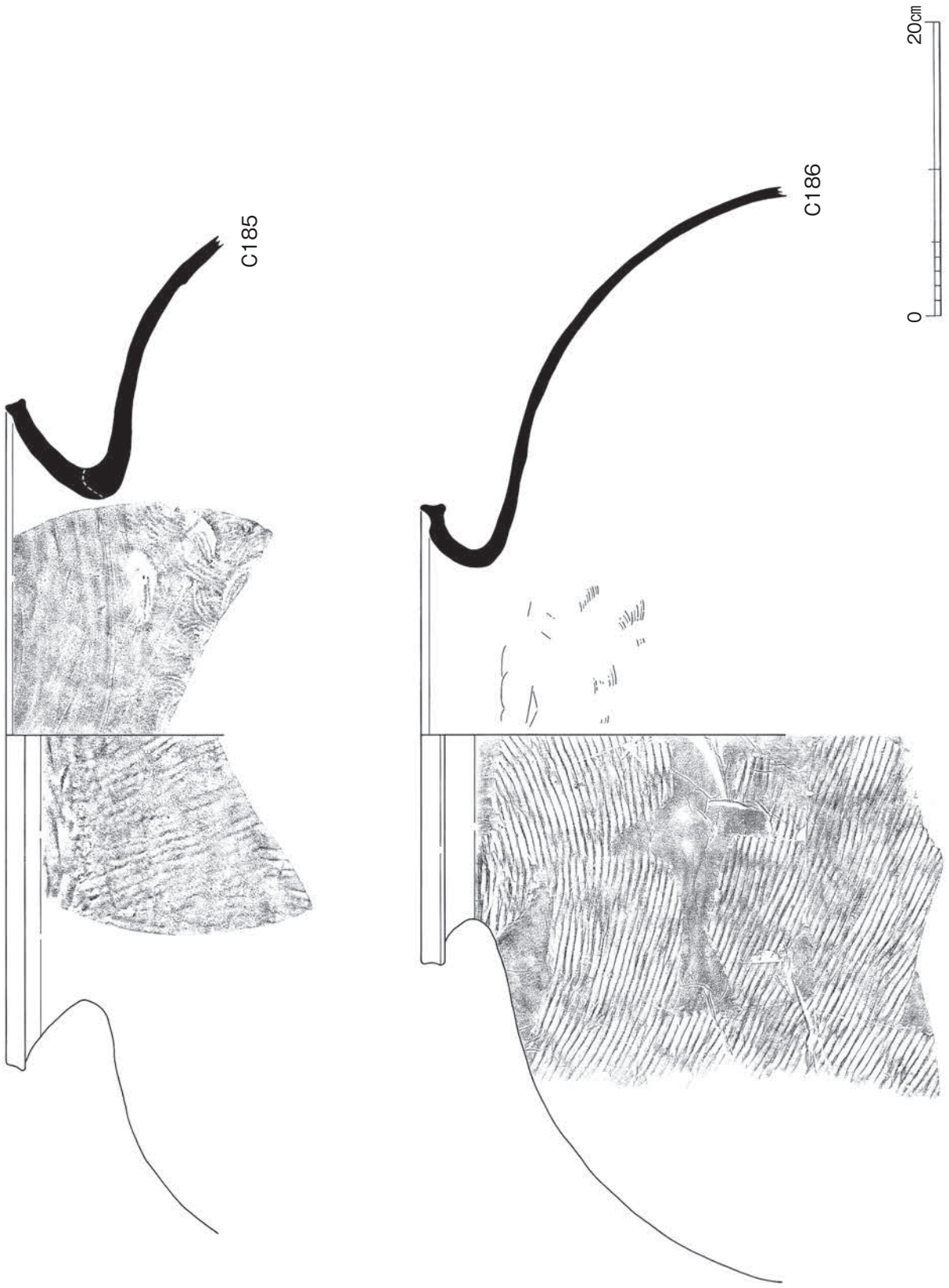
C182



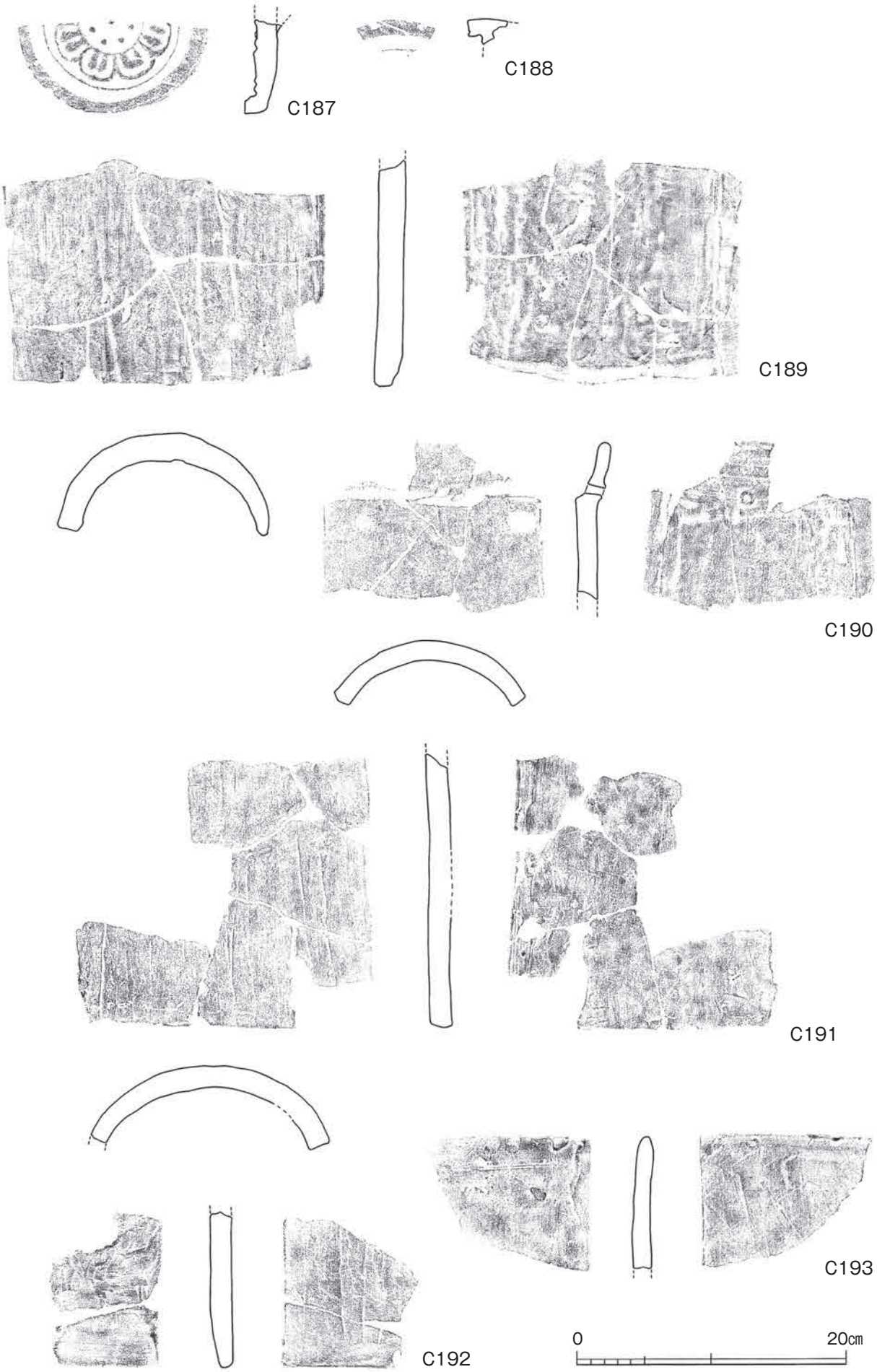
C184

0　20cm

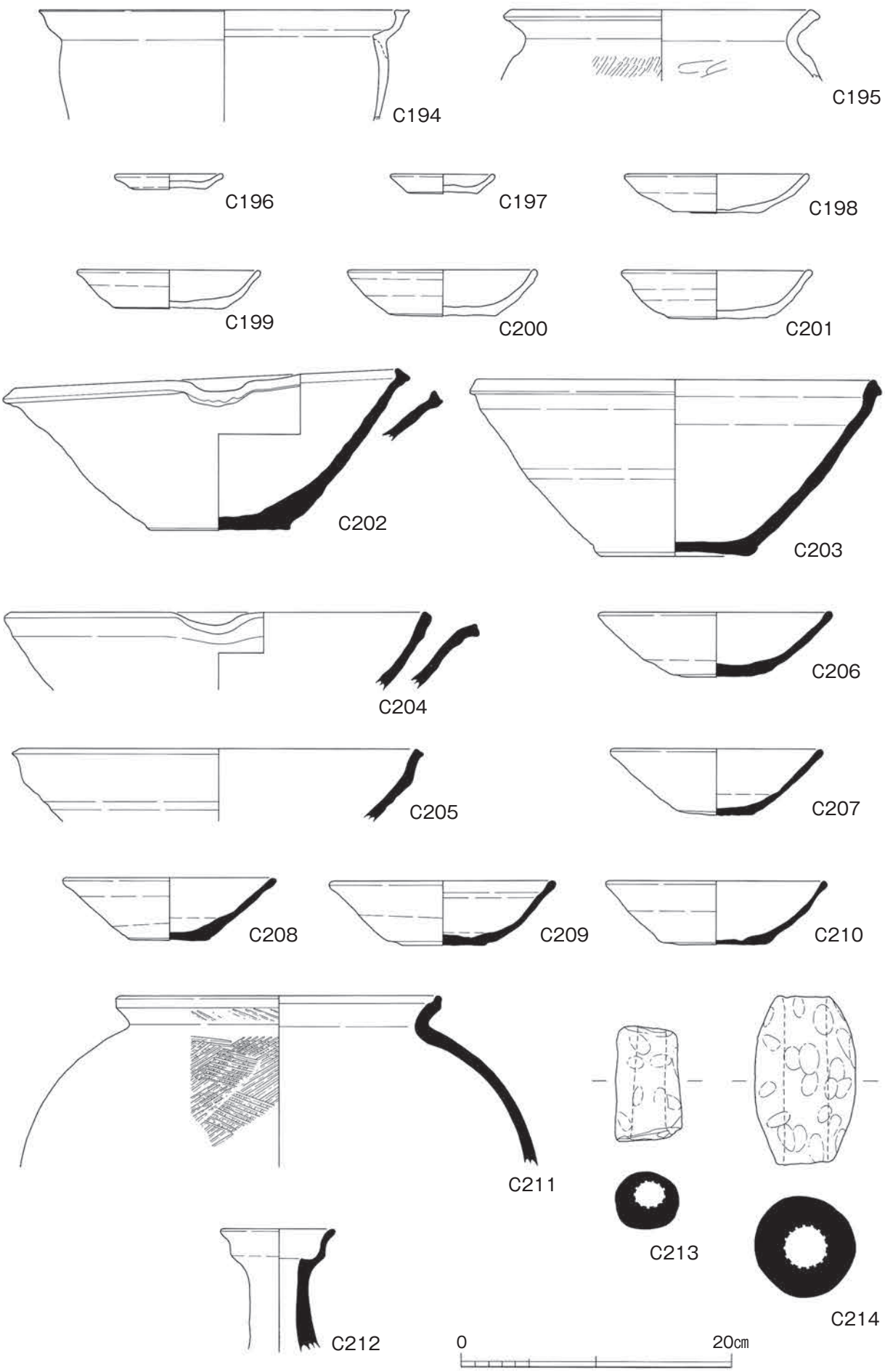
灰原出土土器



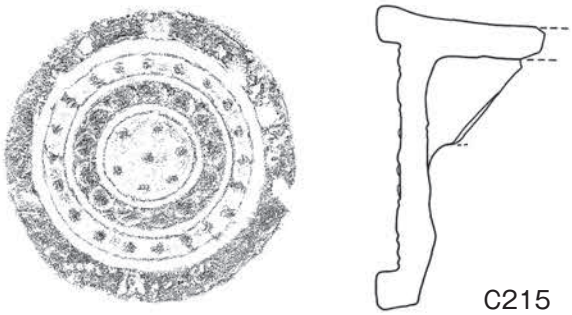
灰原出土土器

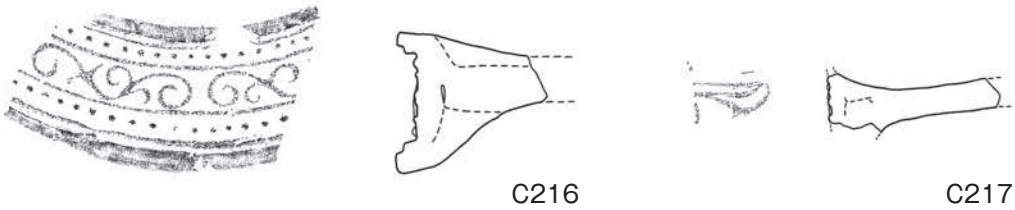


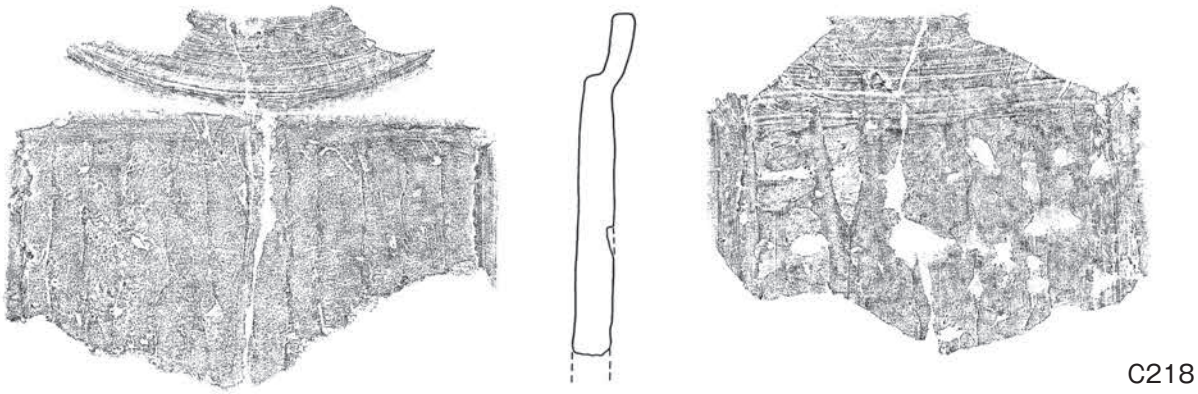
灰原出土土器

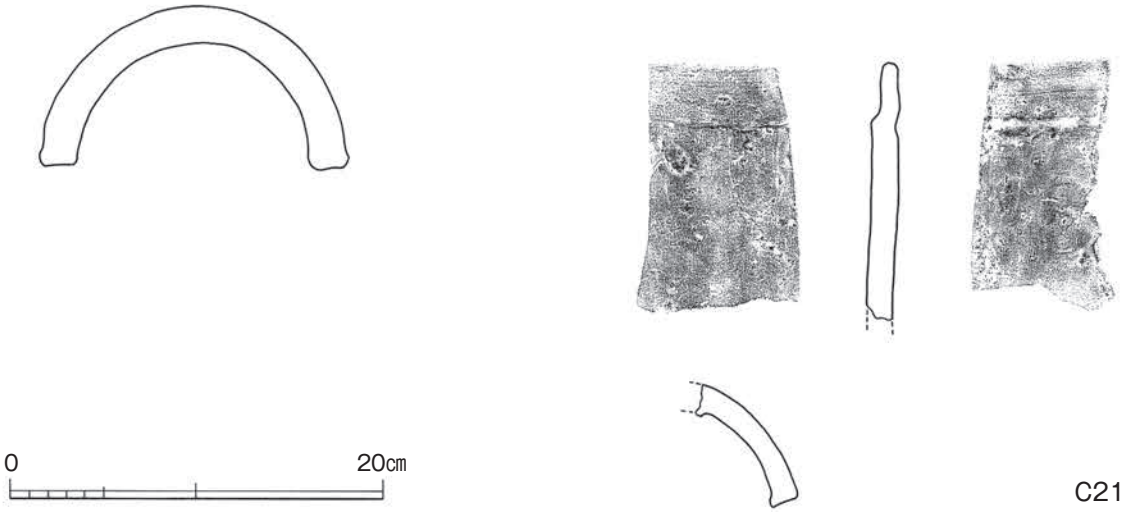

C194
C195
C196
C197
C198
C199
C200
C201
C202
C203
C204
C206
C205
C207
C208
C209
C210
C211
C213
C214
C212
0
20㎝

SD01 出土土器

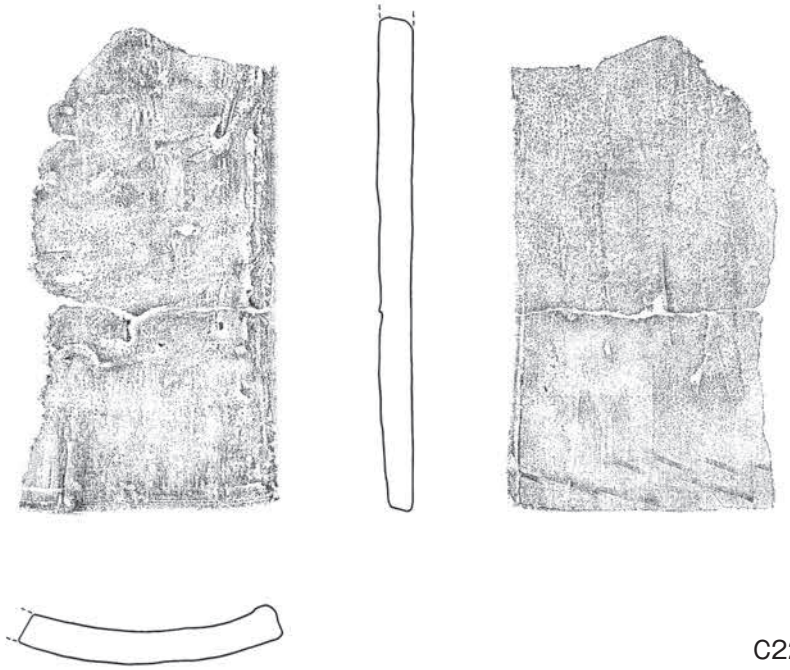




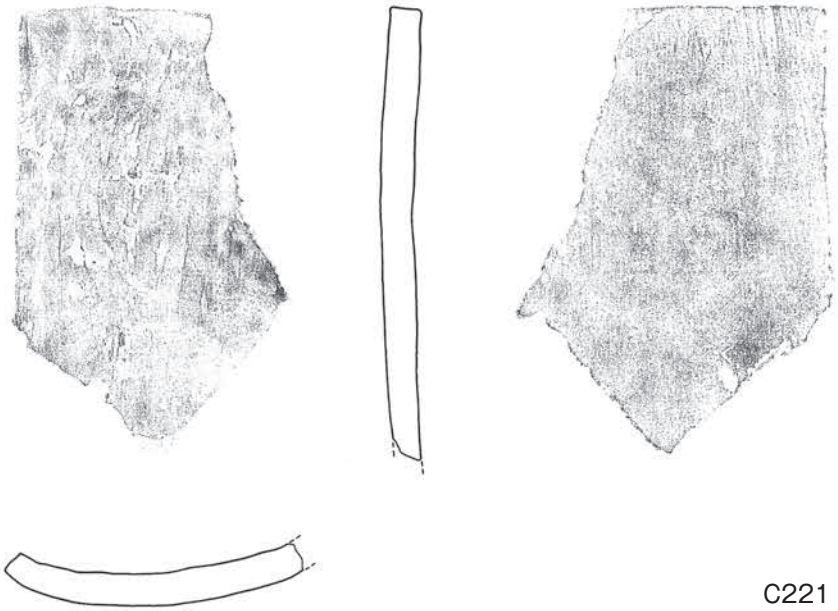




SD01 出土土器



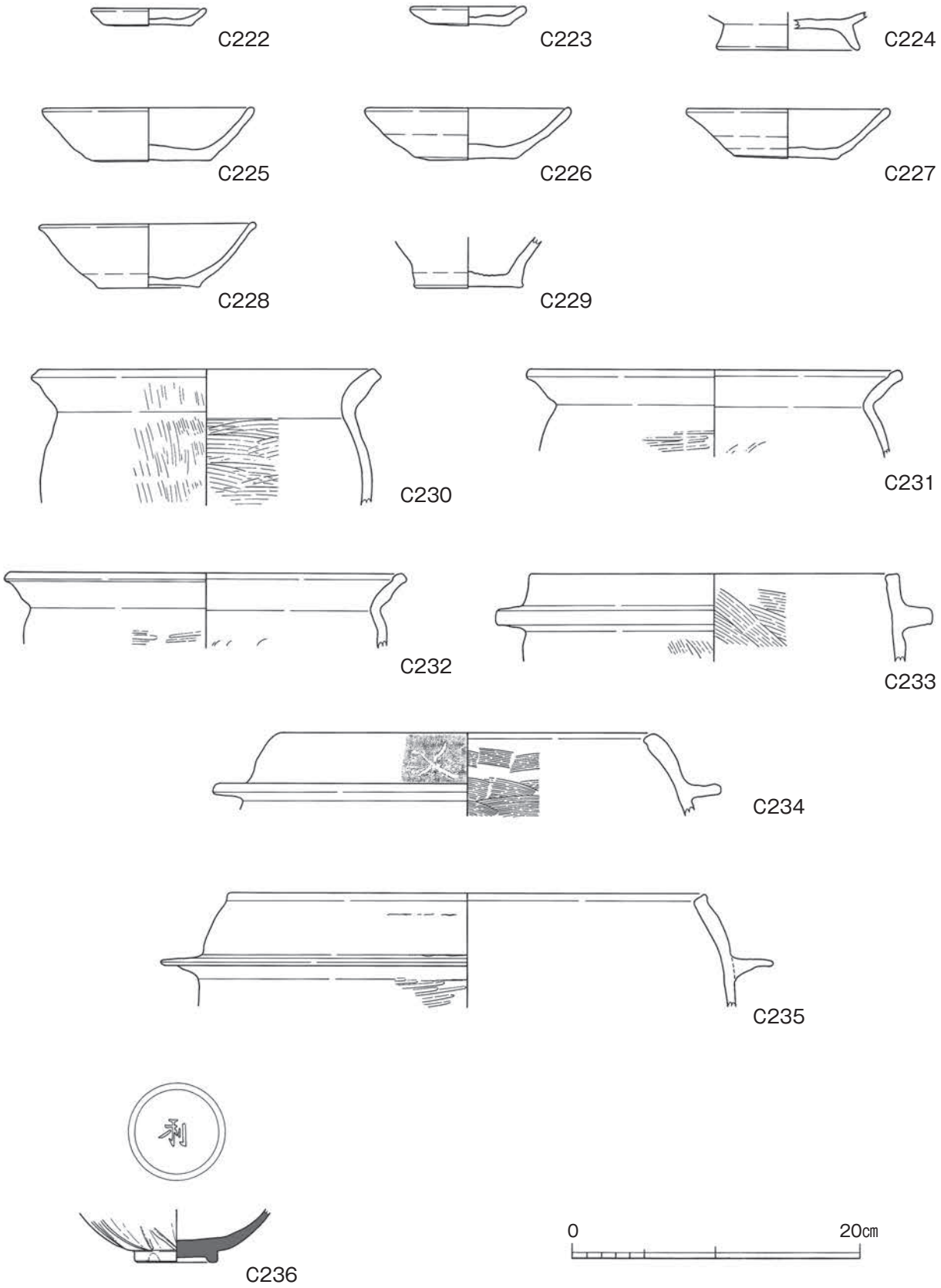
C220



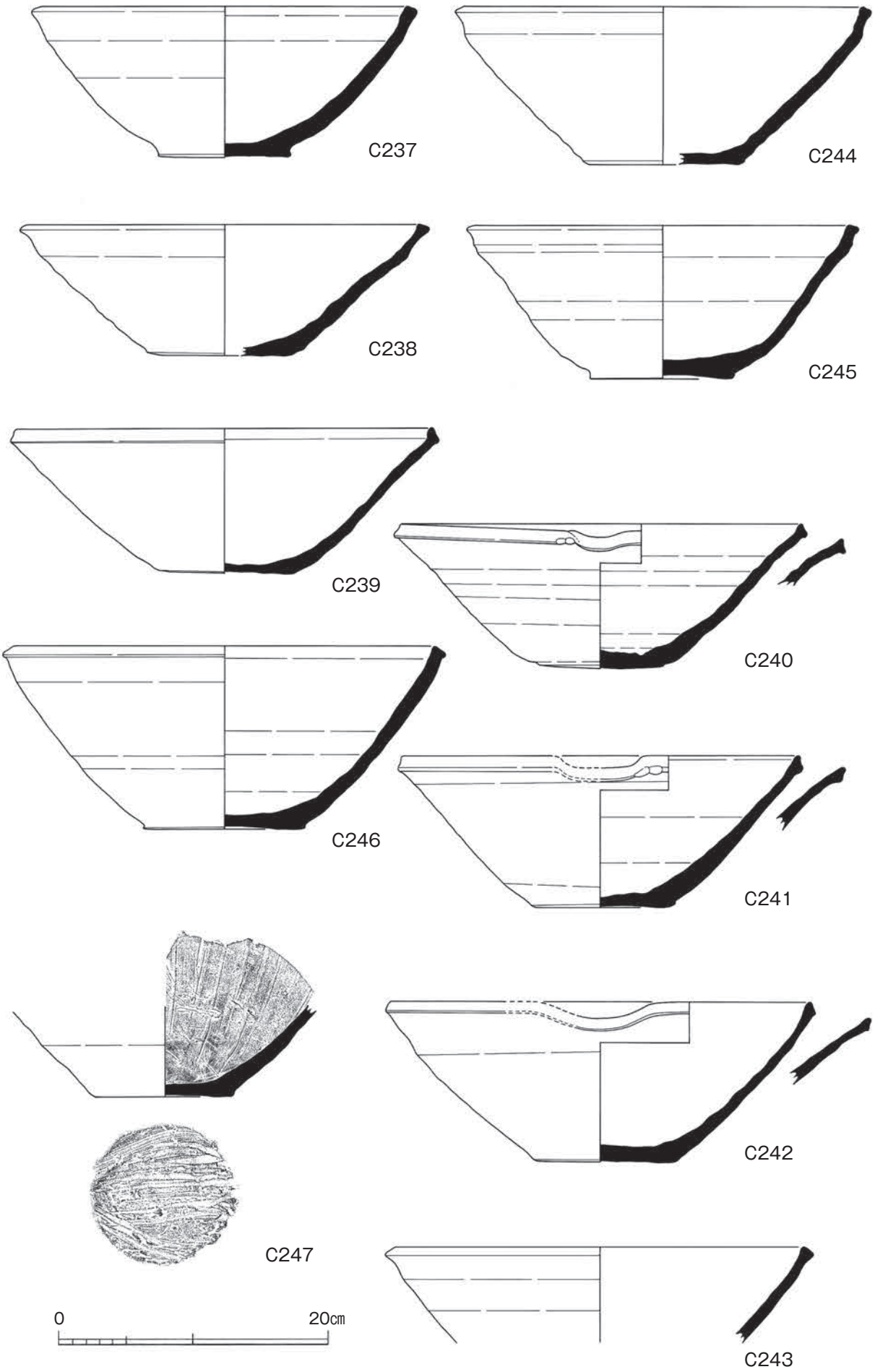
C221

0 20㎝

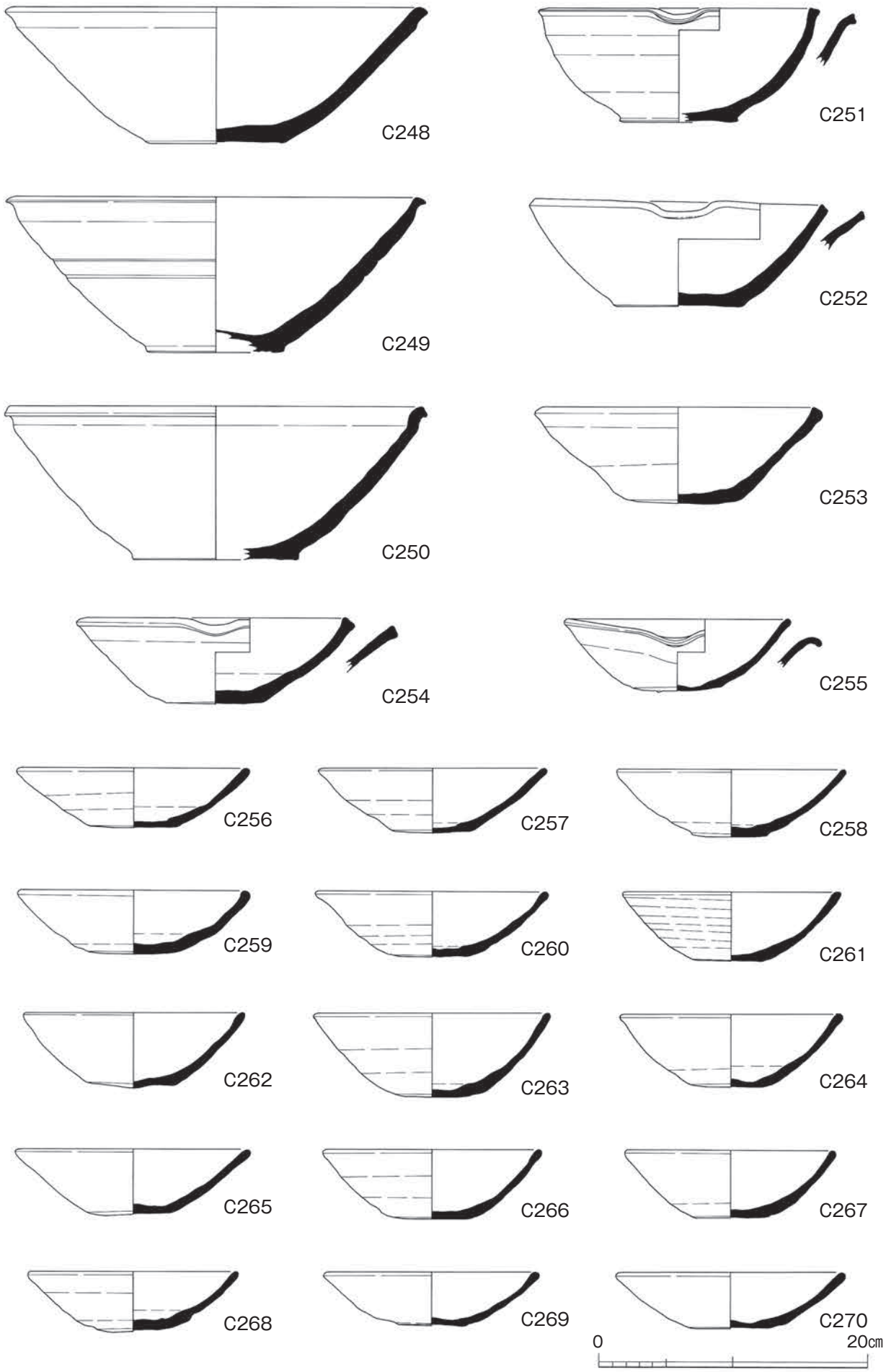
SD01 出土土器


C222
C223
C224
C225
C226
C227
C228
C229
C230
C231
C232
C233
C234
C235
C236
0
20cm

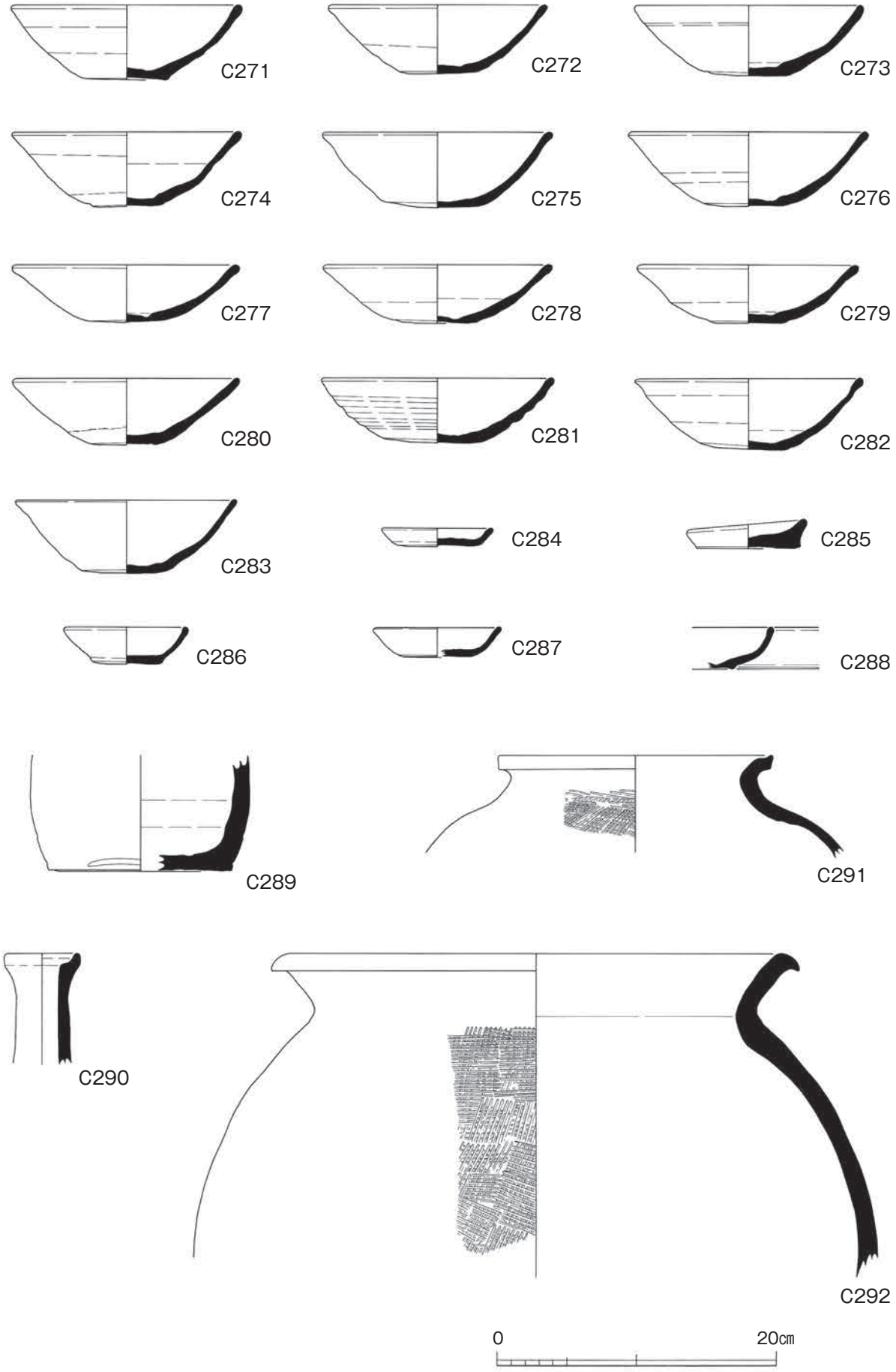
SR01 出土土器



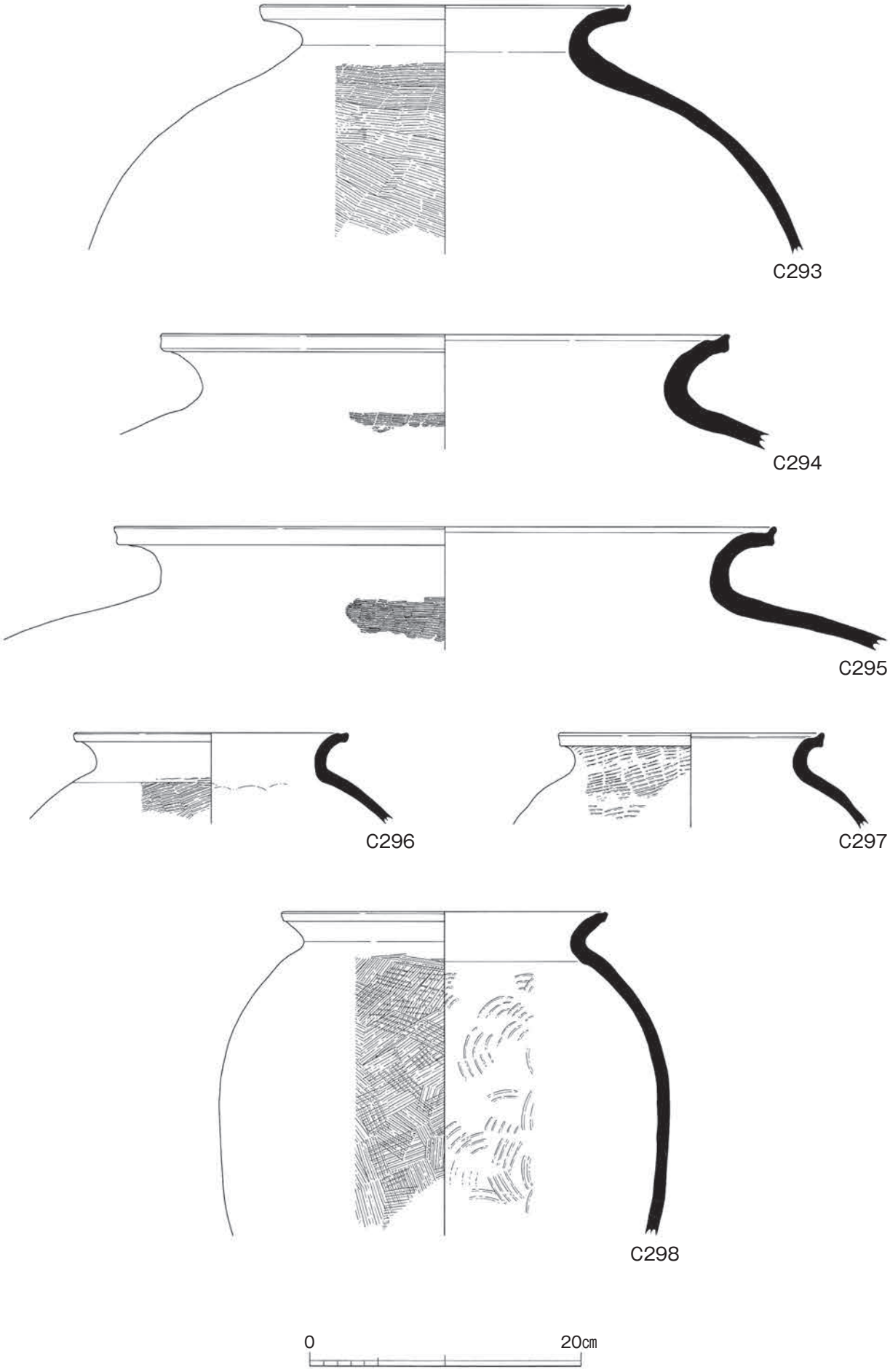
SR01 出土土器


C248
C251
C249
C252
C250
C253
C254
C255
C256
C257
C258
C259
C260
C261
C262
C263
C264
C265
C266
C267
C268
C269
C270
0
20㎝

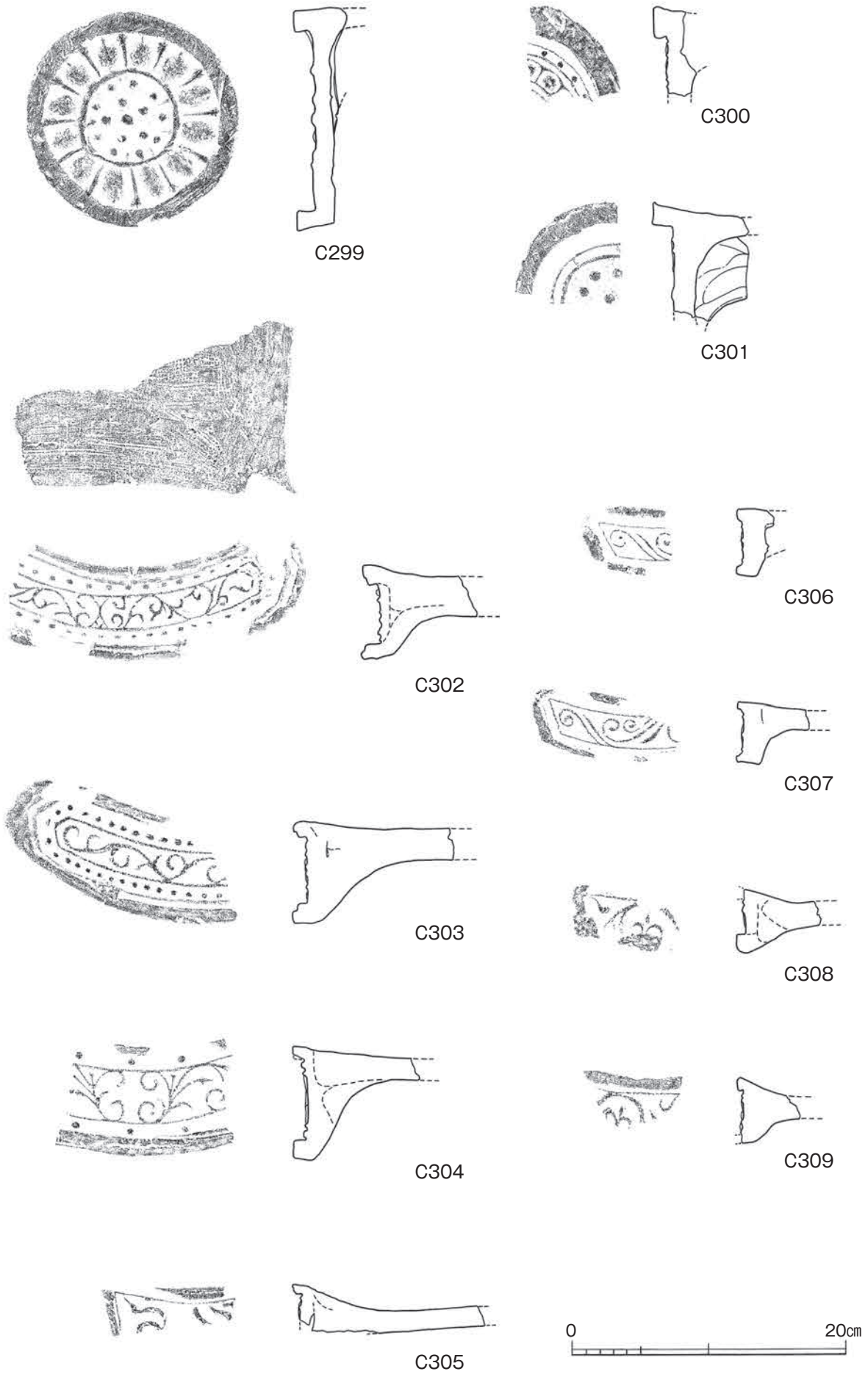
SR01 出土土器


C271
C272
C273
C274
C275
C276
C277
C278
C279
C280
C281
C282
C283
C284
C285
C286
C287
C288
C289
C291
C290
C292
0
20cm

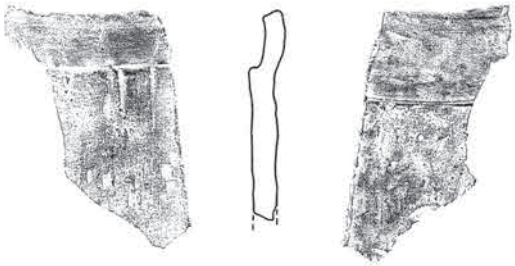
SR01 出土土器



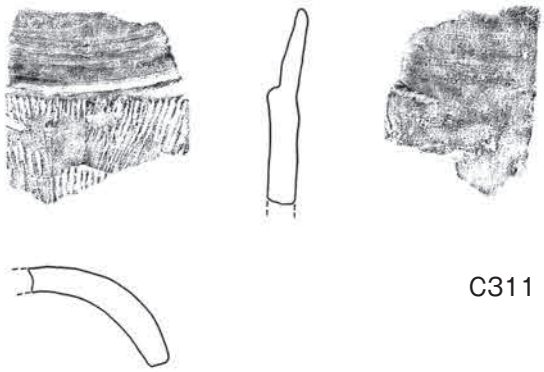
SR01 出土土器



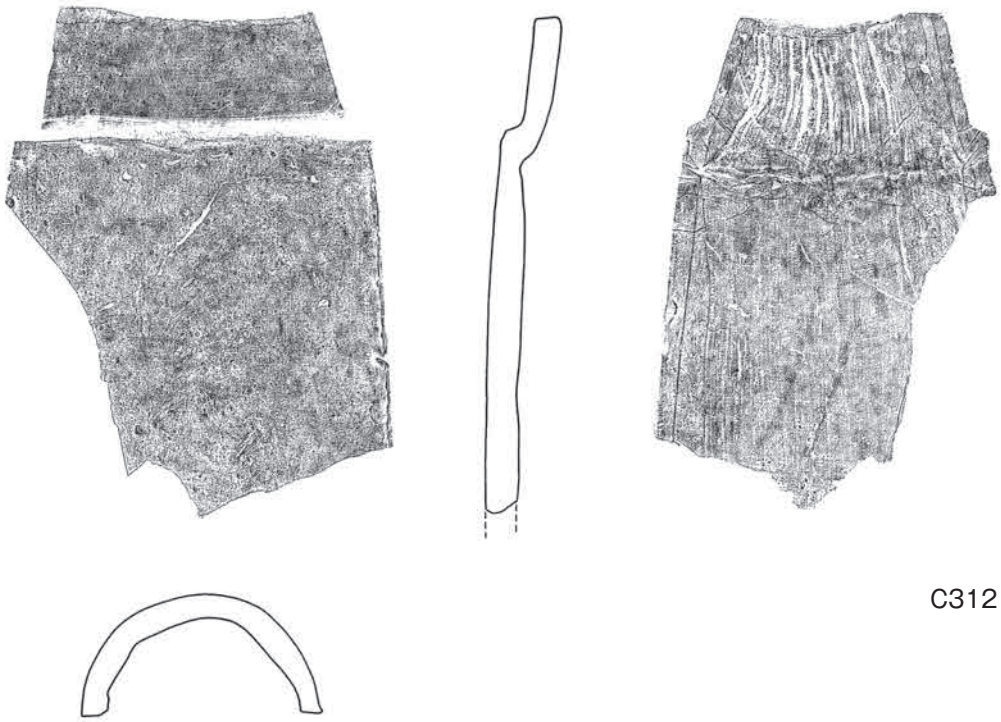
SR01 出土土器



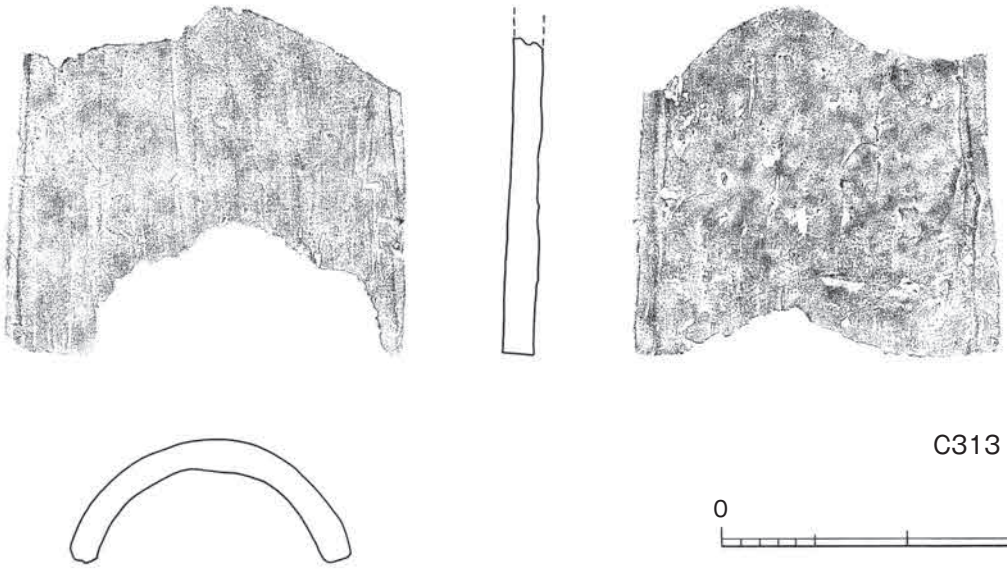
C310



C311



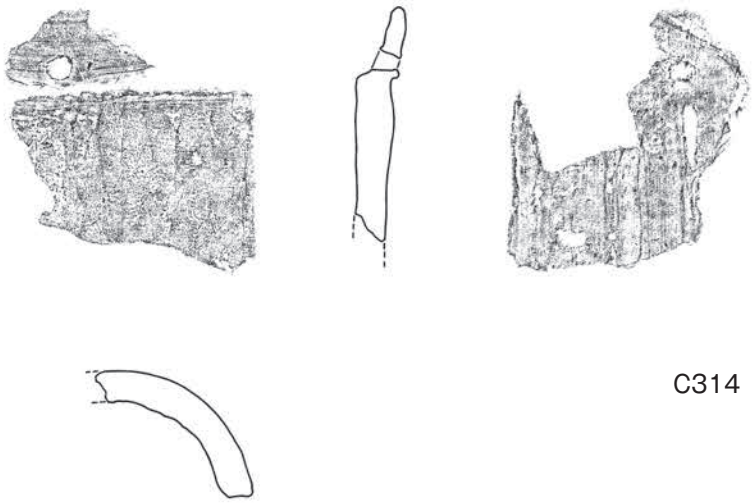
C312



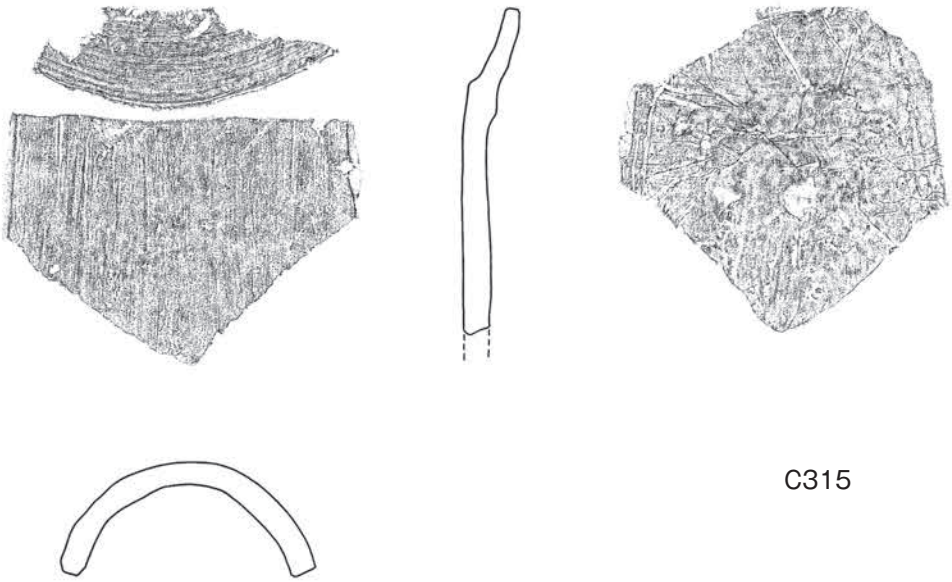
C313

0 20㎝

SR01 出土土器

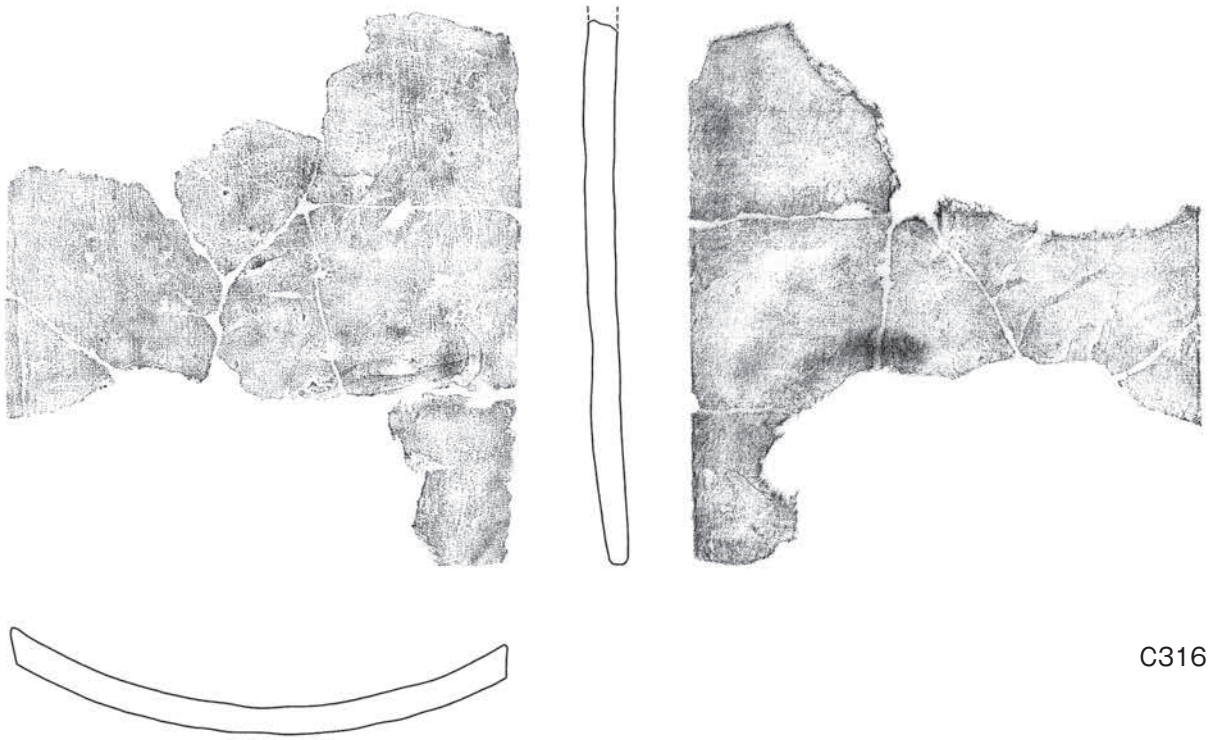


C314

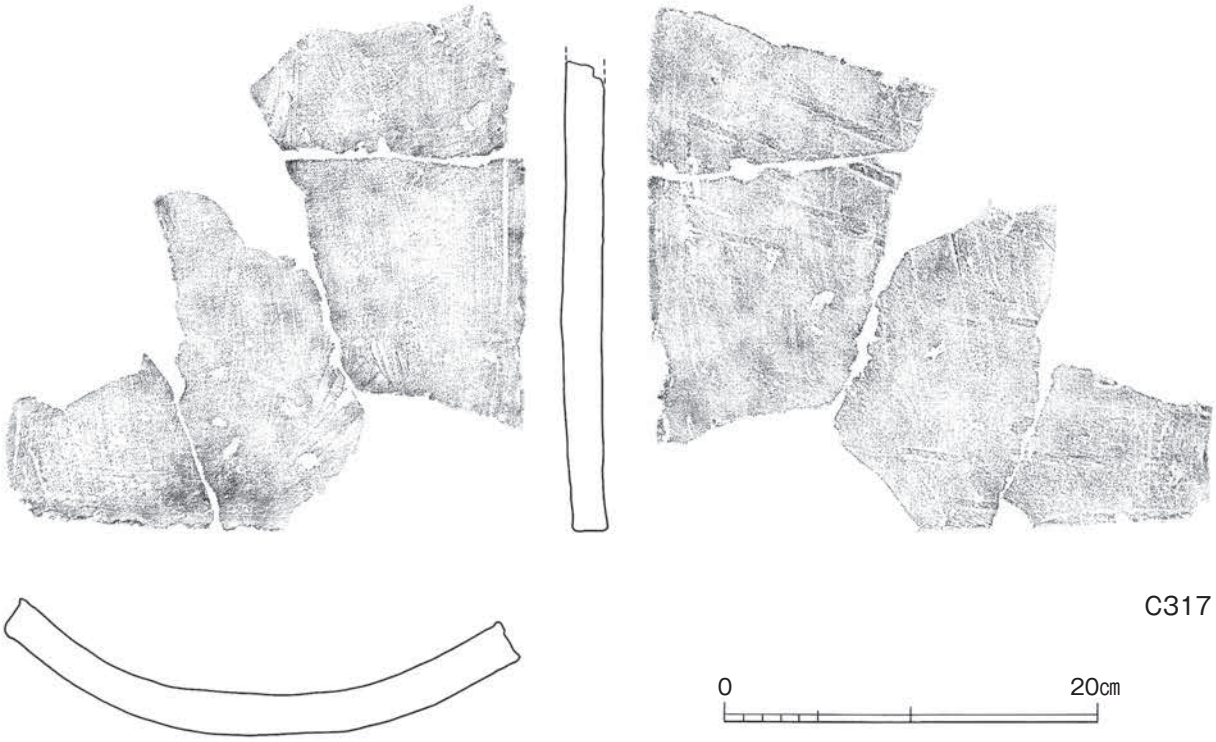


C315

SR01 出土土器

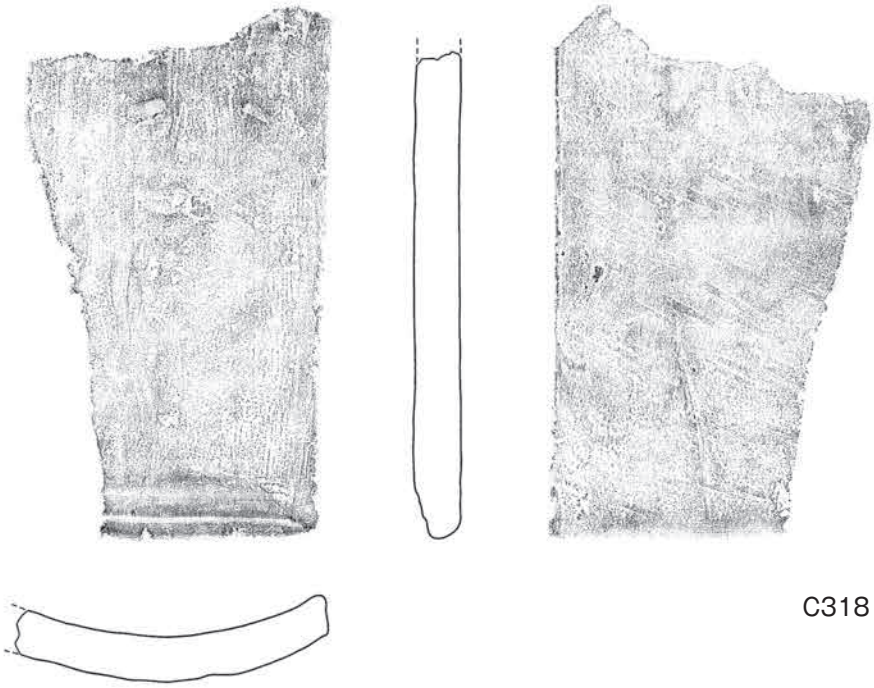


C316

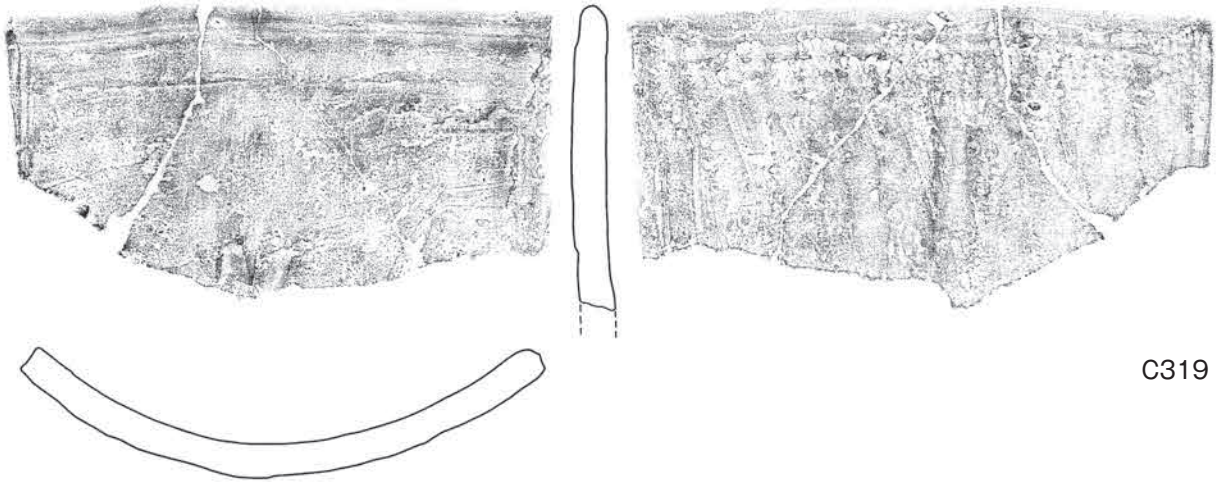


C317

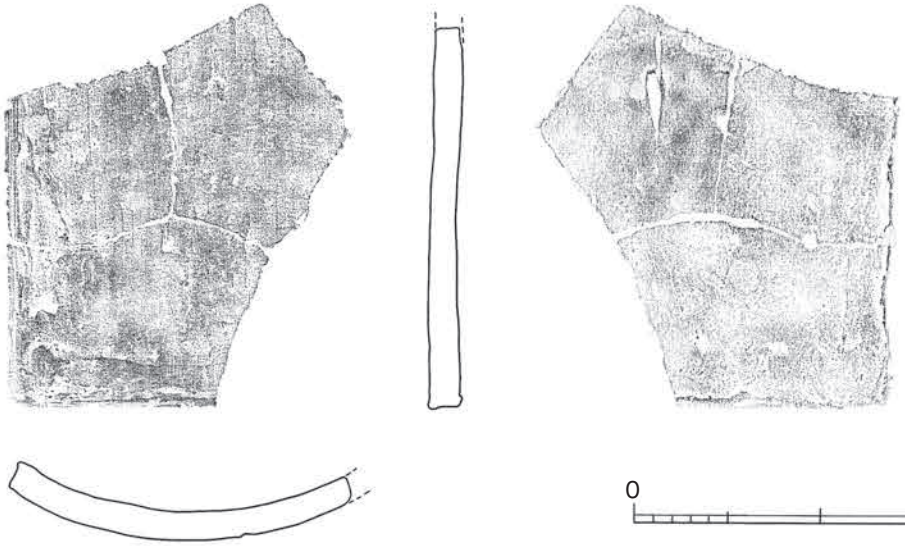
SR01 出土土器



C318



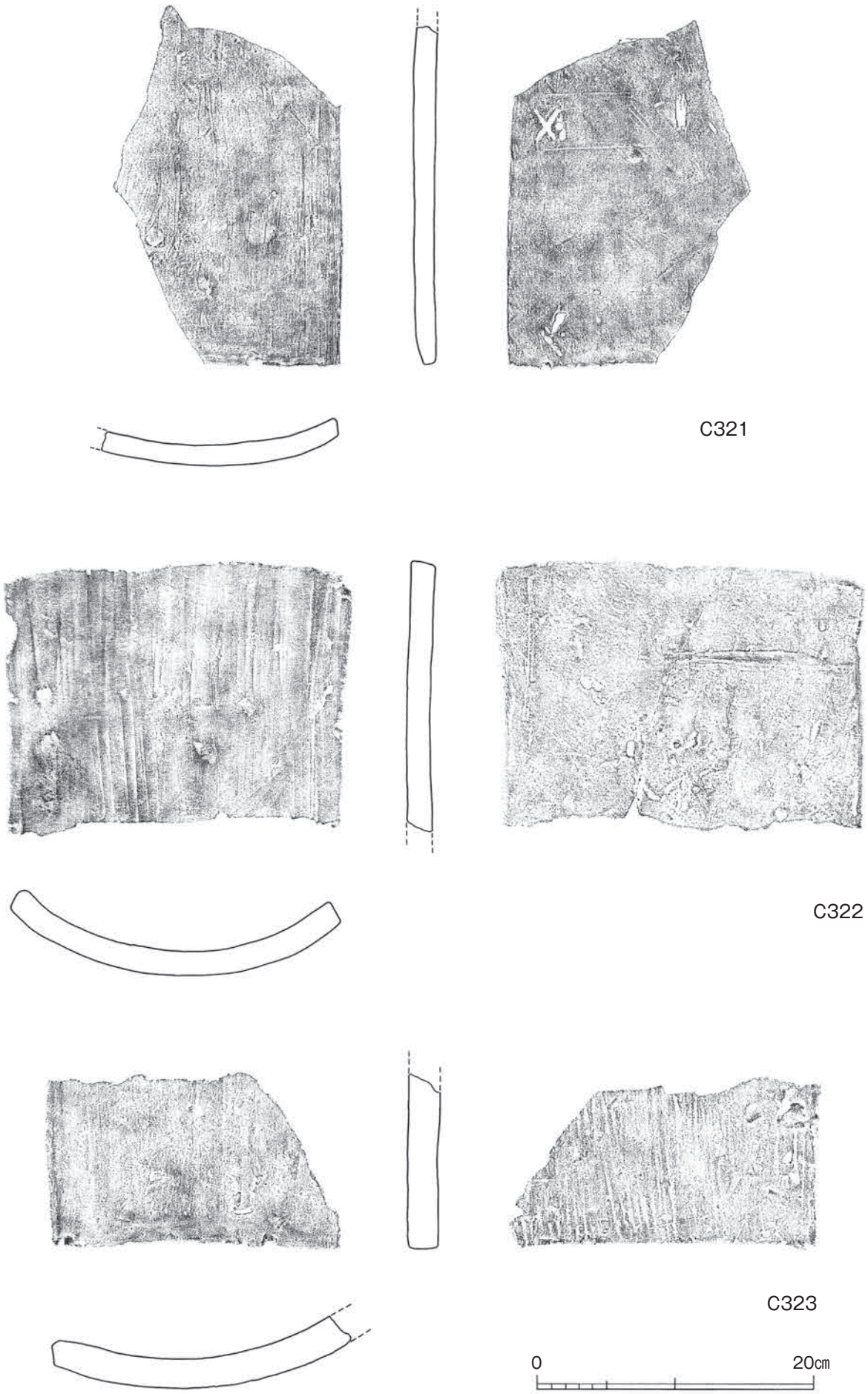
C319



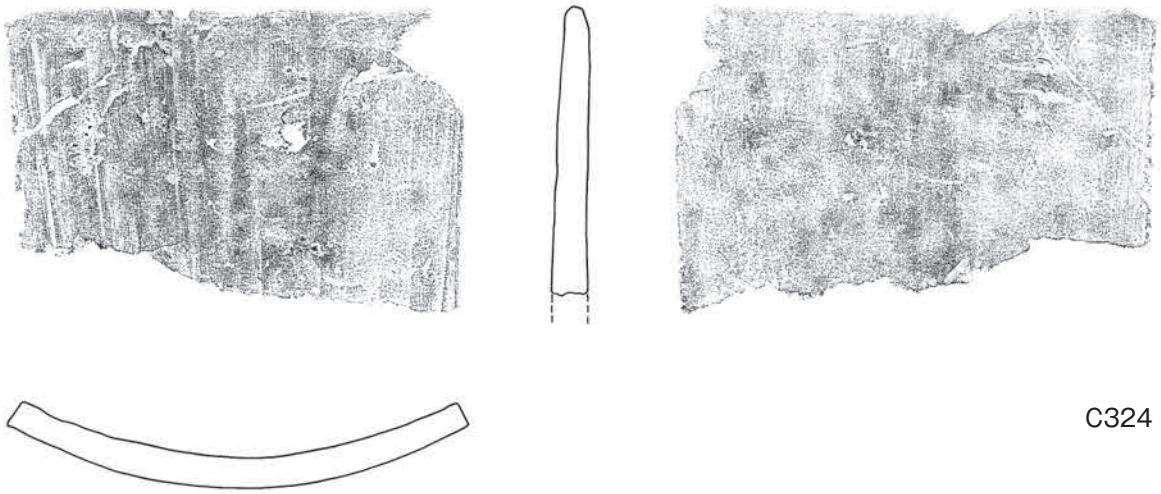
C320

0 20cm

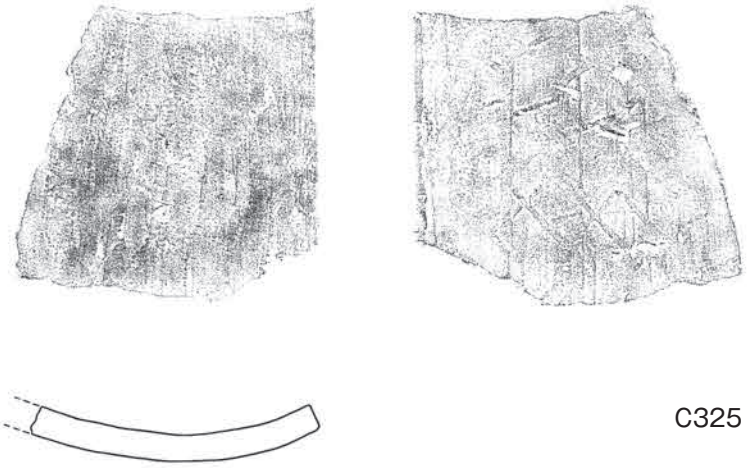
SR01 出土土器



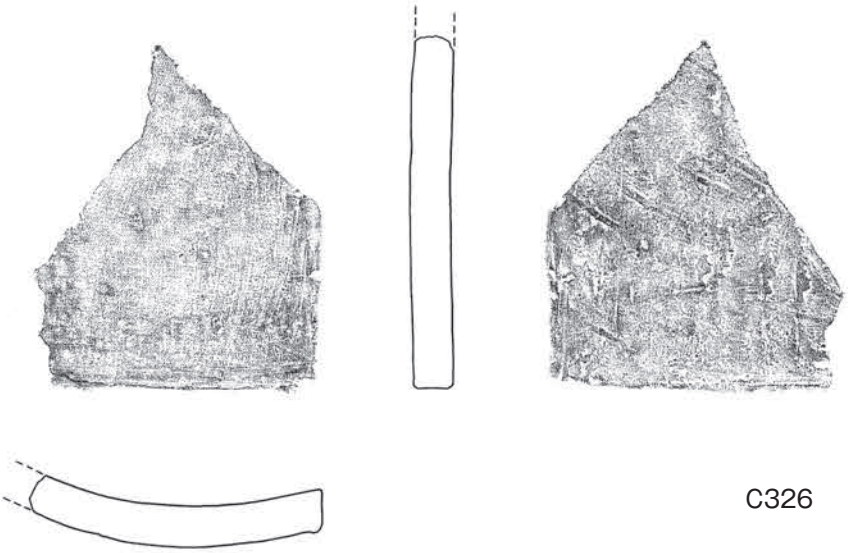
SR01 出土土器



C324

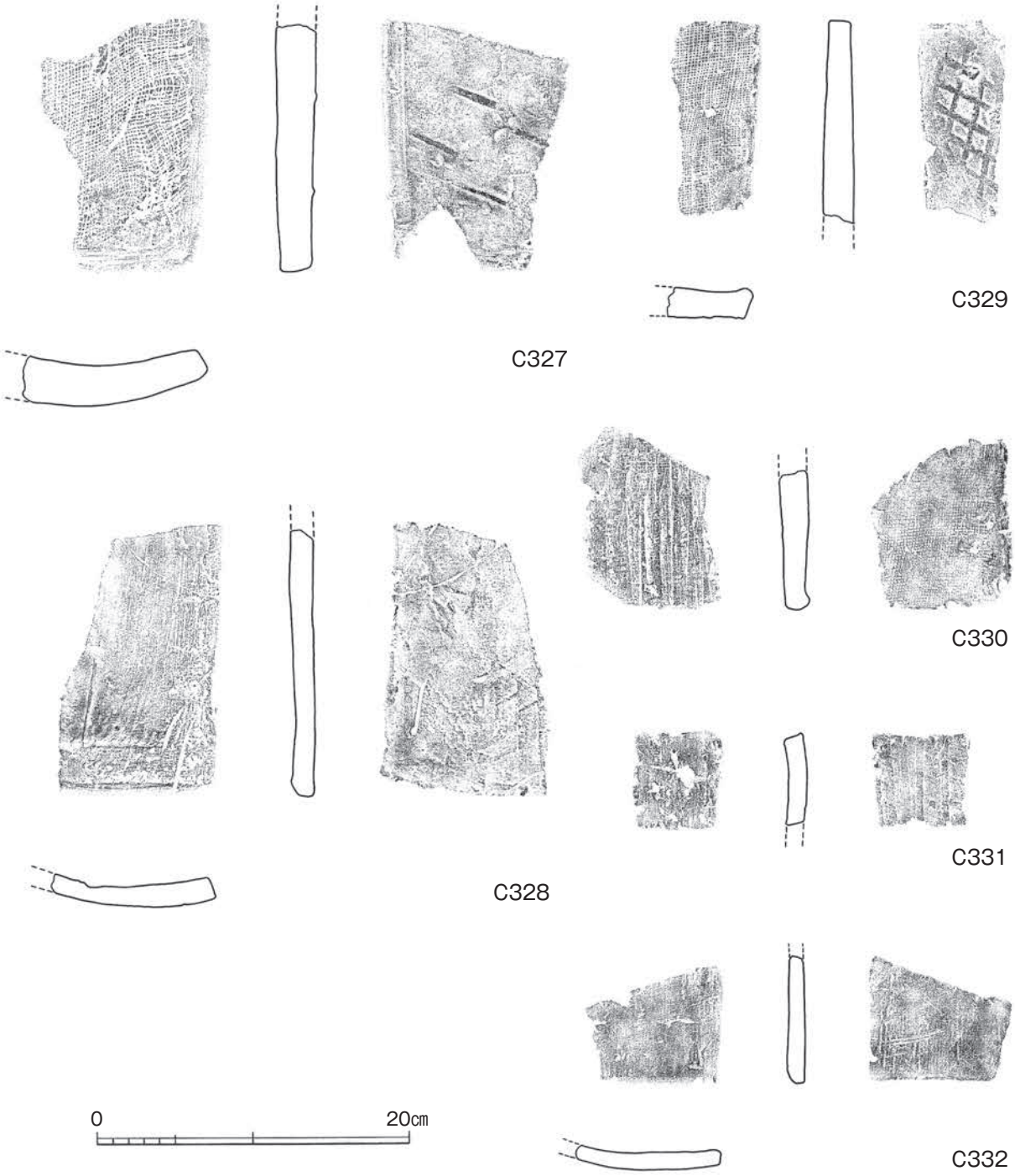


C325

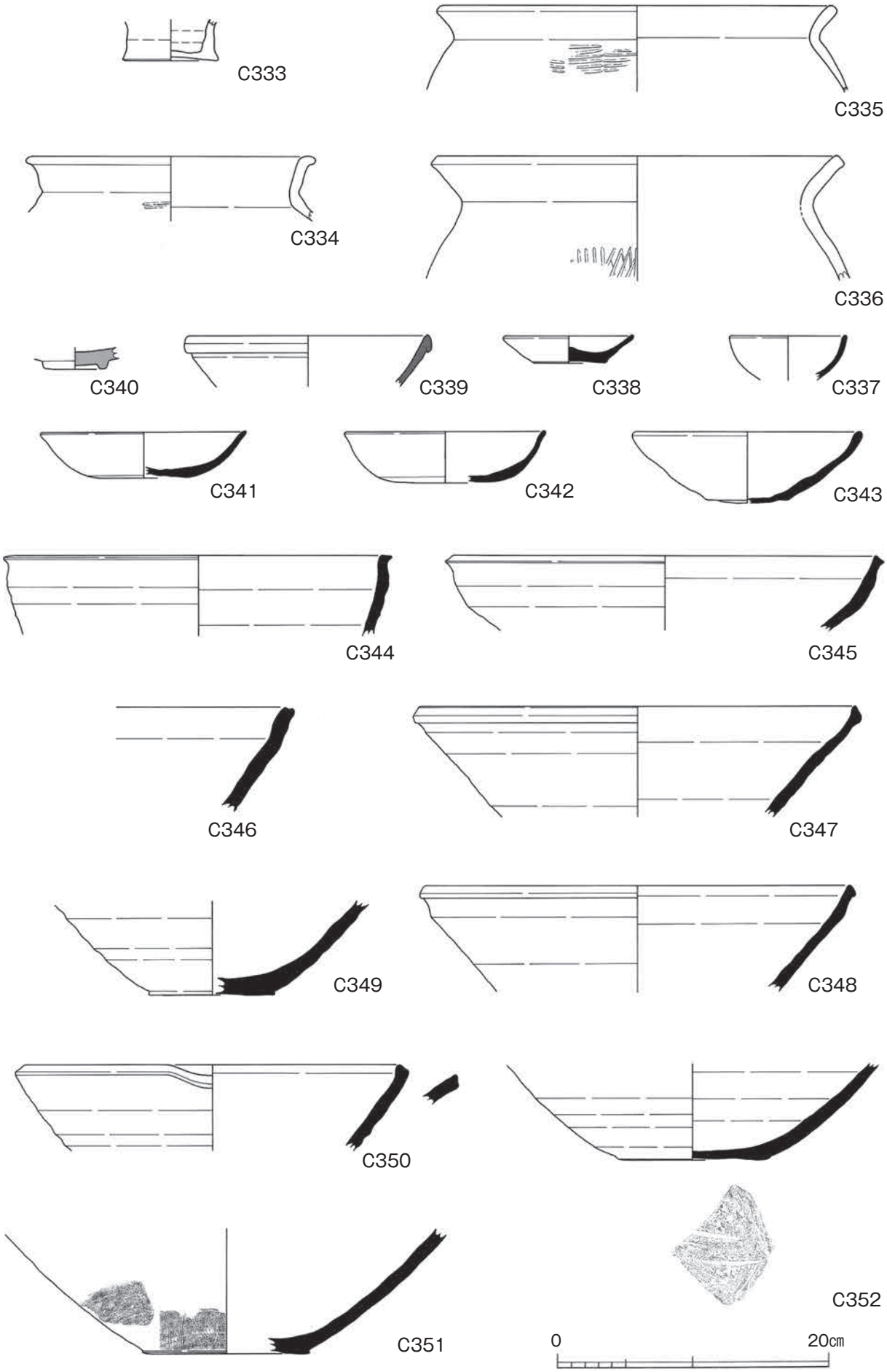


C326

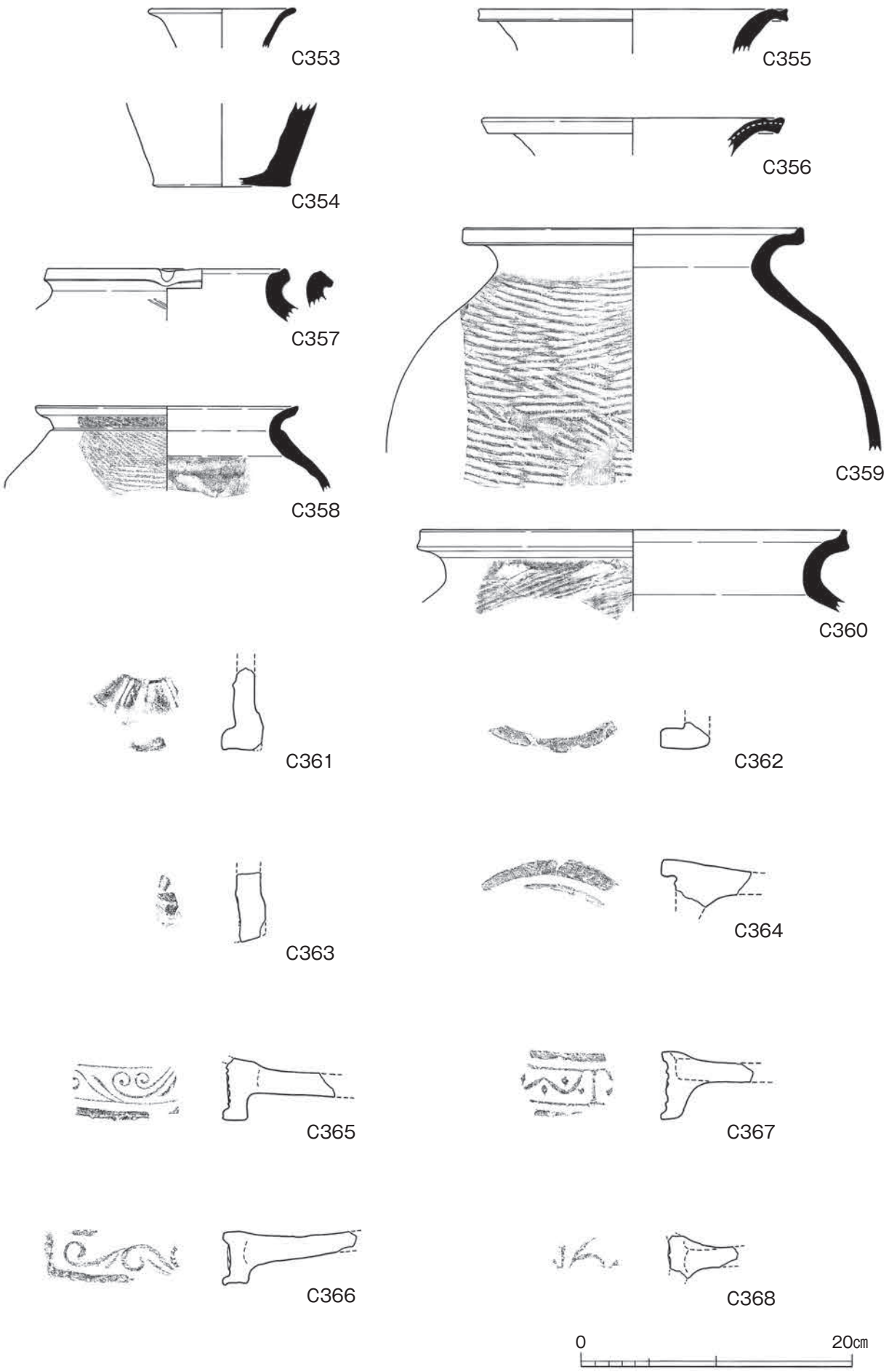
SR01 出土土器



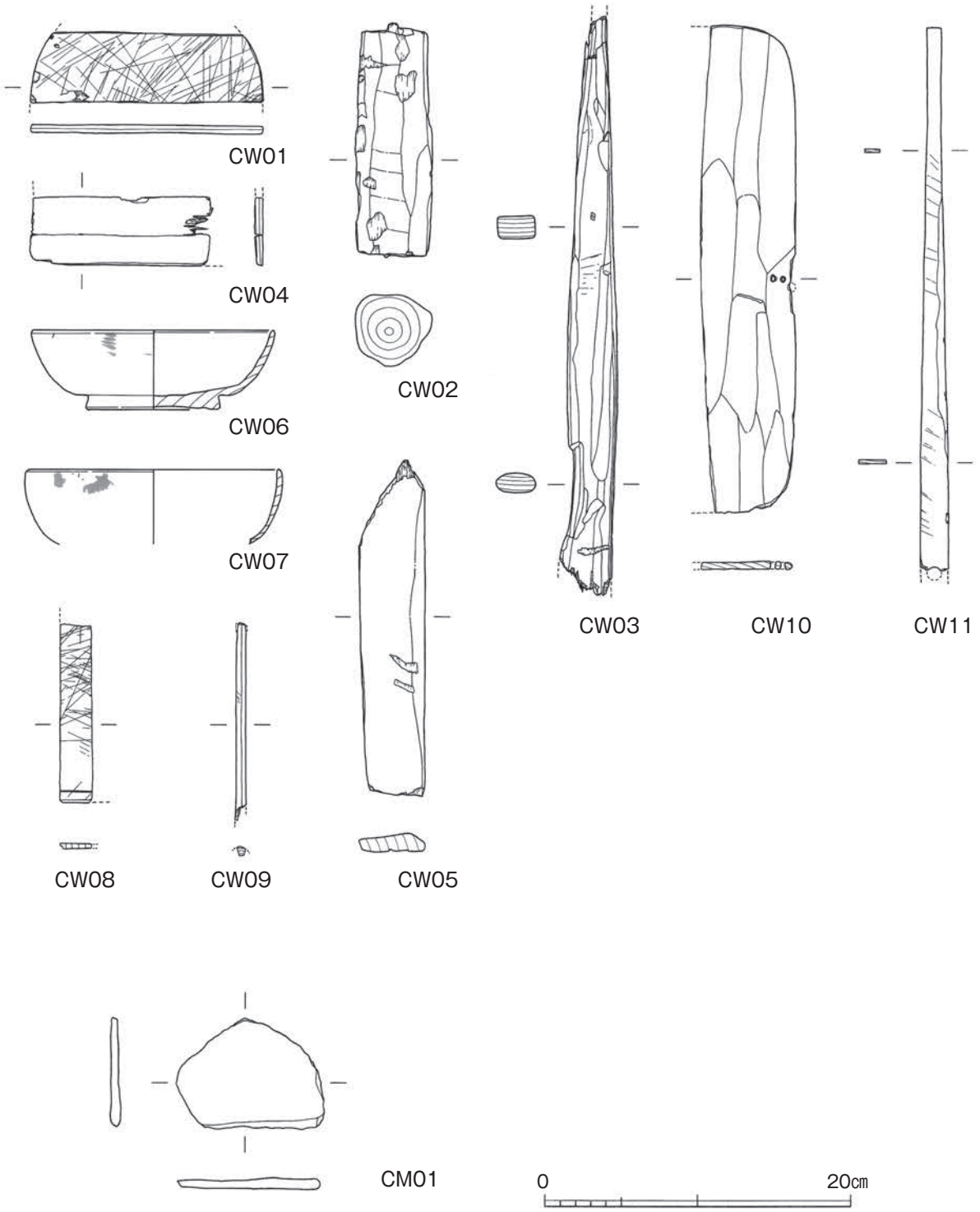
SR01 出土土器



SD02・包含層出土土器


C353
C355
C354
C356
C357
C359
C358
C360
C361
C362
C363
C364
C365
C367
C366
C368
0
20㎝

包含層出土土器


CW01
CW04
CW02
CW06
CW07
CW03
CW10
CW11
CW08
CW09
CW05
CM01
0
20cm

D地区

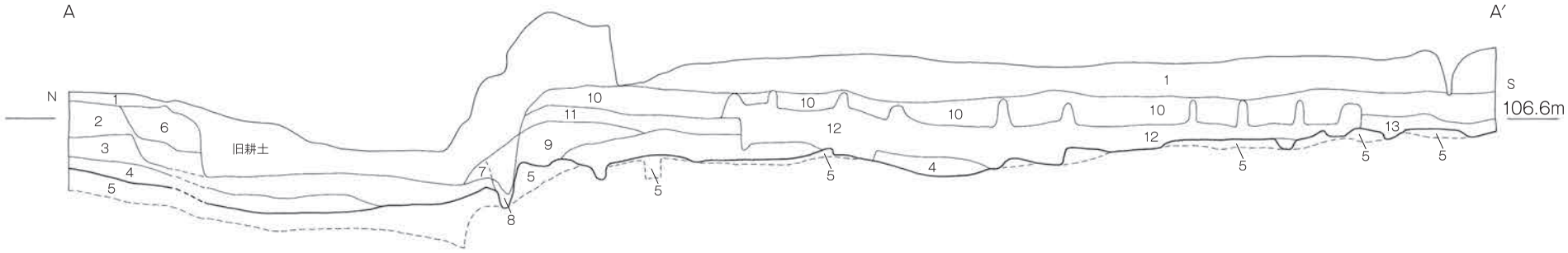
SK04
SK03
SK06
SK12
SK05
SK02
SK01
SK07
SK09
X=−137.700
X=−137.780
P02
SK16
P09
SK14
SD03
X=−137.790
SD04
SD06
X=−137.800
SK17
X=−137.810
SK22
SD05
P04
X=−138.200
X=−138.300
Y=59.730
Y=59.740
Y=59.750
0
10m

南区平面図

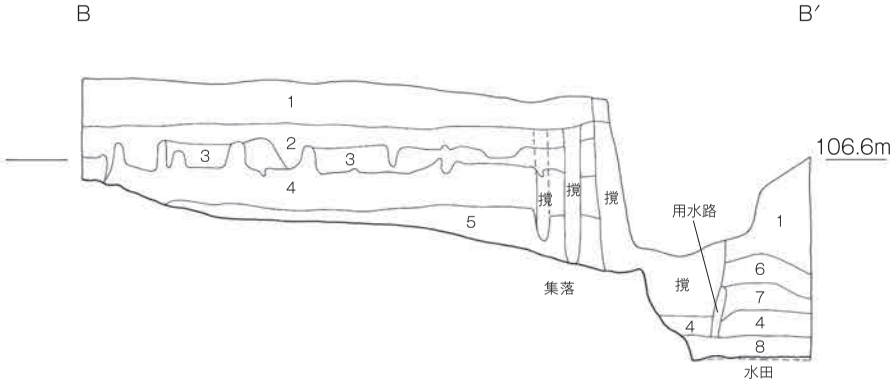
X=−138.710
X=−138.720
X=−138.730
X=−138.740
X=−138.750
X=−138.760
Y=59.720
Y=59.730
Y=59.740
Y=59.750
SK62
SD51
SD52
SK58
SK57
SD58
SD57
SD59
SD68
SD62
SD70
SD60
0
10m

北区平面図

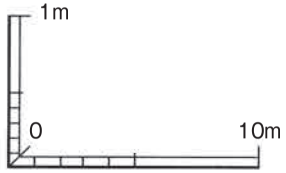
南区調査区壁断面図

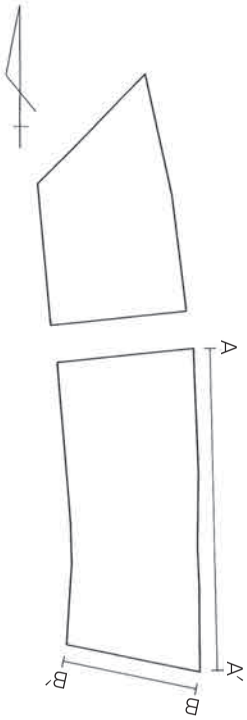


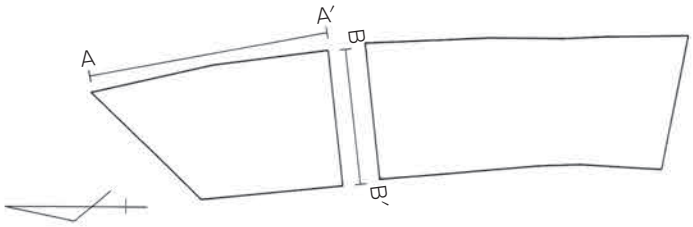
1 10YR 4/1 褐灰色 シルト(小礫含む):耕土
2 10YR 7/1 灰白色 極細砂～細砂(シルト混入):水田土壌層
3 10YR 6/6 明黄褐色 シルト～極細砂(小礫含む):未水田土壌層
4 10YR 5/2 灰黄褐色 シルト～極細砂(土器含む):包含層
5 10YR 6/8 明黄褐色 極細砂:地山
6 10YR 6/2 灰黄褐色 極細砂～細砂:水田土壌層
7 10YR 5/1 褐色 シルト:暗渠1(土管)
8 10YR 7/8 黄橙色 シルト:暗渠2(竹)
9 10YR 6/2 灰黄褐色 極細砂～細砂(小礫含む)
10 10YR 6/2 灰黄褐色 極細砂～細砂:水田土壌層(6 層と同層)
11 10YR 6/8 明黄褐色 極細砂:未土壌層
12 10YR 6/2 灰黄褐色 極細砂～細砂:水田土壌層(6 層と同層)
13 10YR 5/3 にぶい黄褐色 極細砂(マンガン含む):包含層

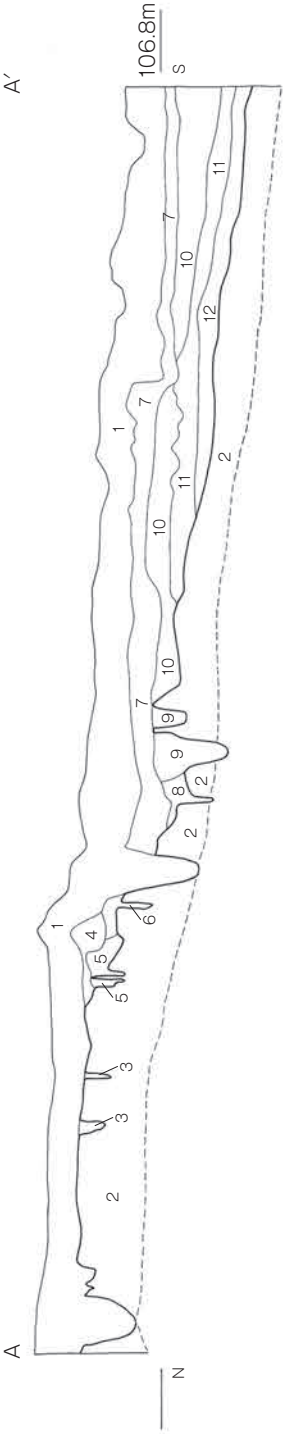


1 盛土
2 10YR 7/3 にぶい黄褐色 極細砂～細砂:水田土壌層
3 10YR 6/6 明黄褐色 細砂(小礫含む):水田土壌層
4 10YR 6/2 灰黄褐色 極細砂～細砂(小礫、土器含む):未土壌層
5 10YR 5/2 灰黄褐色 極細砂～細砂:平安末～鎌倉の包含層
6 盛土(旧耕土)
7 10YR 7/3 にぶい黄褐色 極細砂(小礫含む):未水田土壌層(3 層と同層)
8 10YR 5/2 灰黄褐色 極細砂:包含層(4 層と同層か)



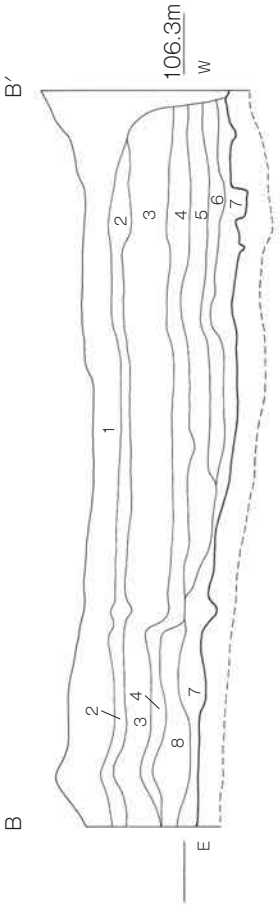


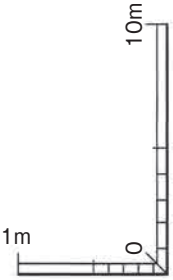




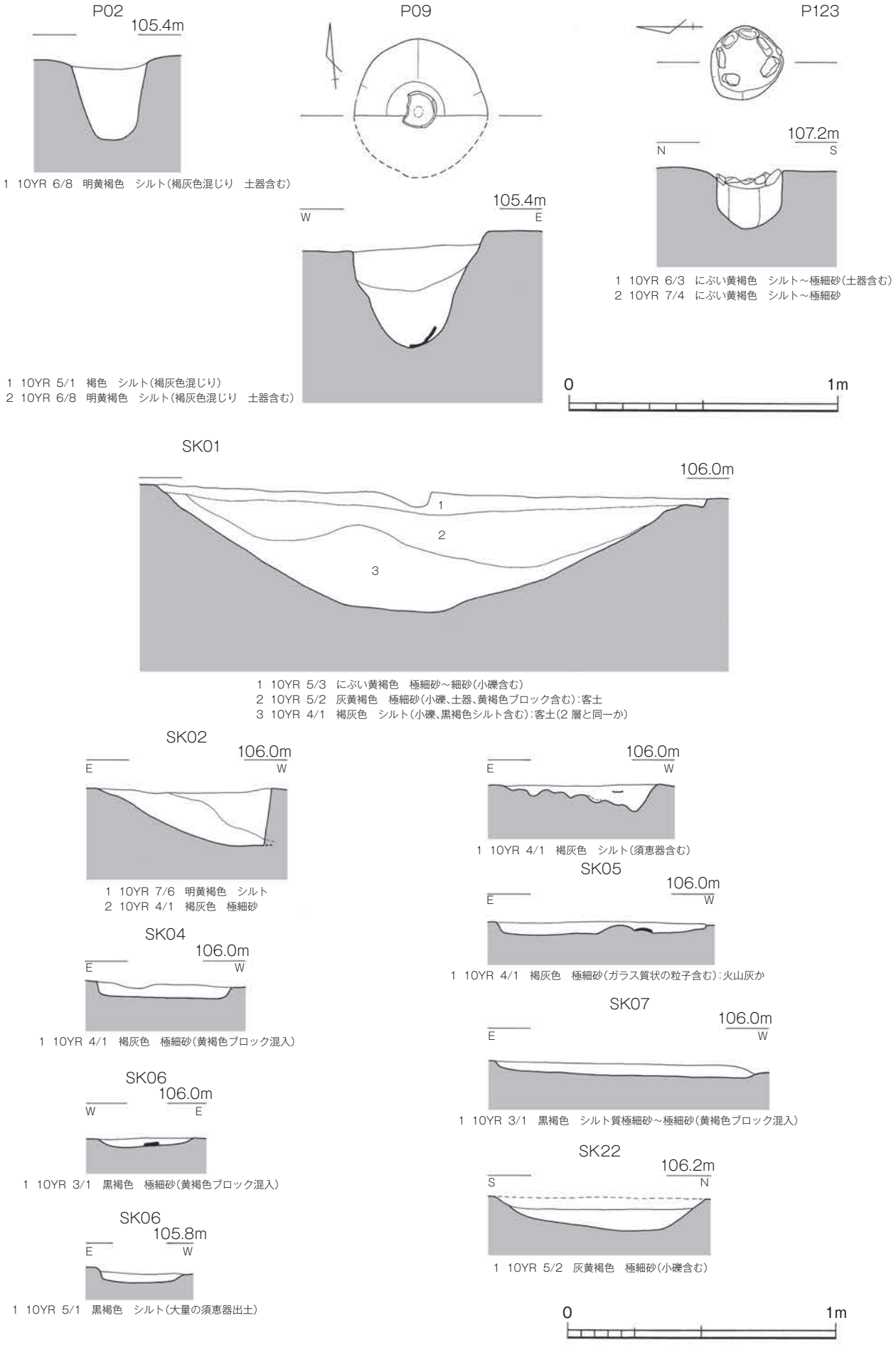
1 10YR 6/2 灰黄褐色 極細砂～細砂：耕土
2 10YR 7/8 黄橙色 シルト～極細砂：地山
3 10YR 5/3 にぶい黄褐色 極細砂：遺構埋土
4 10YR 7/6 明黄褐色 シルト～極細砂：床土
5 10YR 6/2 灰黄褐色 シルト～極細砂：遺構埋土
6 10YR 7/2 にぶい黄褐色 シルト～極細砂：遺構埋土
7 10YR 6/6 明黄褐色 極細砂：床土
8 10YR 7/2 にぶい黄褐色 極細砂：水田土壌層
9 10YR 6/2 灰黄褐色 極細砂：遺構埋土
10 10YR 7/2 にぶい黄褐色 極細砂：水田土壌層
11 10YR 6/8 にぶい黄褐色 極細砂：10 層の末土壌層
12 10YR 3/1 黒褐色 極細砂：包含層

1 10YR 6/1 褐灰色 極細砂～細砂：耕土
2 10YR 7/8 黄橙色 シルト～極細砂：床土
3 10YR 6/2 灰黄褐色 極細砂：水田土壌層
4 10YR 6/8 明黄褐色 シルト～極細砂：床土
5 10YR 7/2 にぶい黄褐色 シルト～極細砂：水田土壌層
6 10YR 5/3 にぶい黄褐色 シルト～極細砂：水田土壌層及び包含層
7 10YR 4/2 灰黄褐色 極細砂：包含層
8 10YR 6/2 灰黄褐色 極細砂：水田土壌層
9 10YR 6/8 明黄褐色 シルト～極細砂：地山



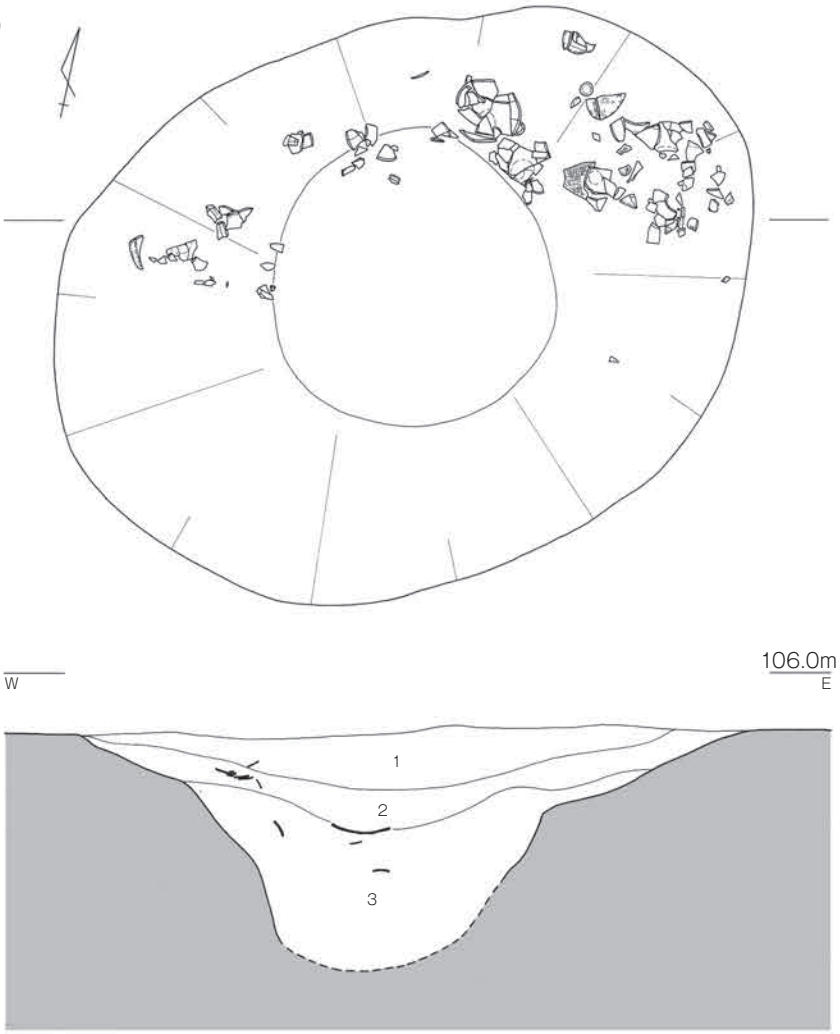


北区調査区壁断面図



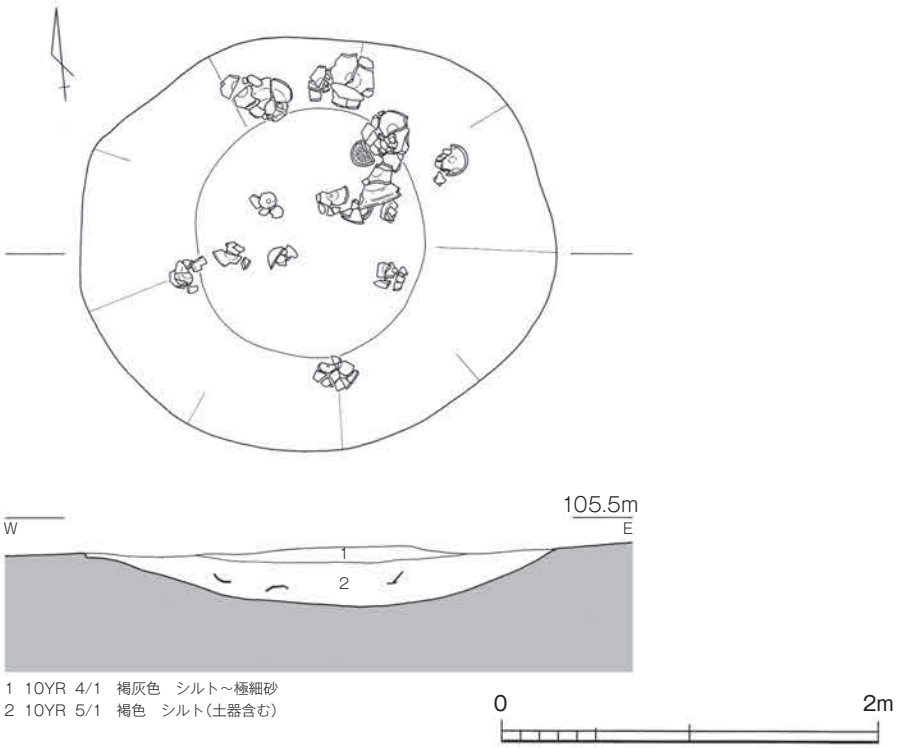
P02・09・123・SK01～07・12・22 平面図・断面図

SK09



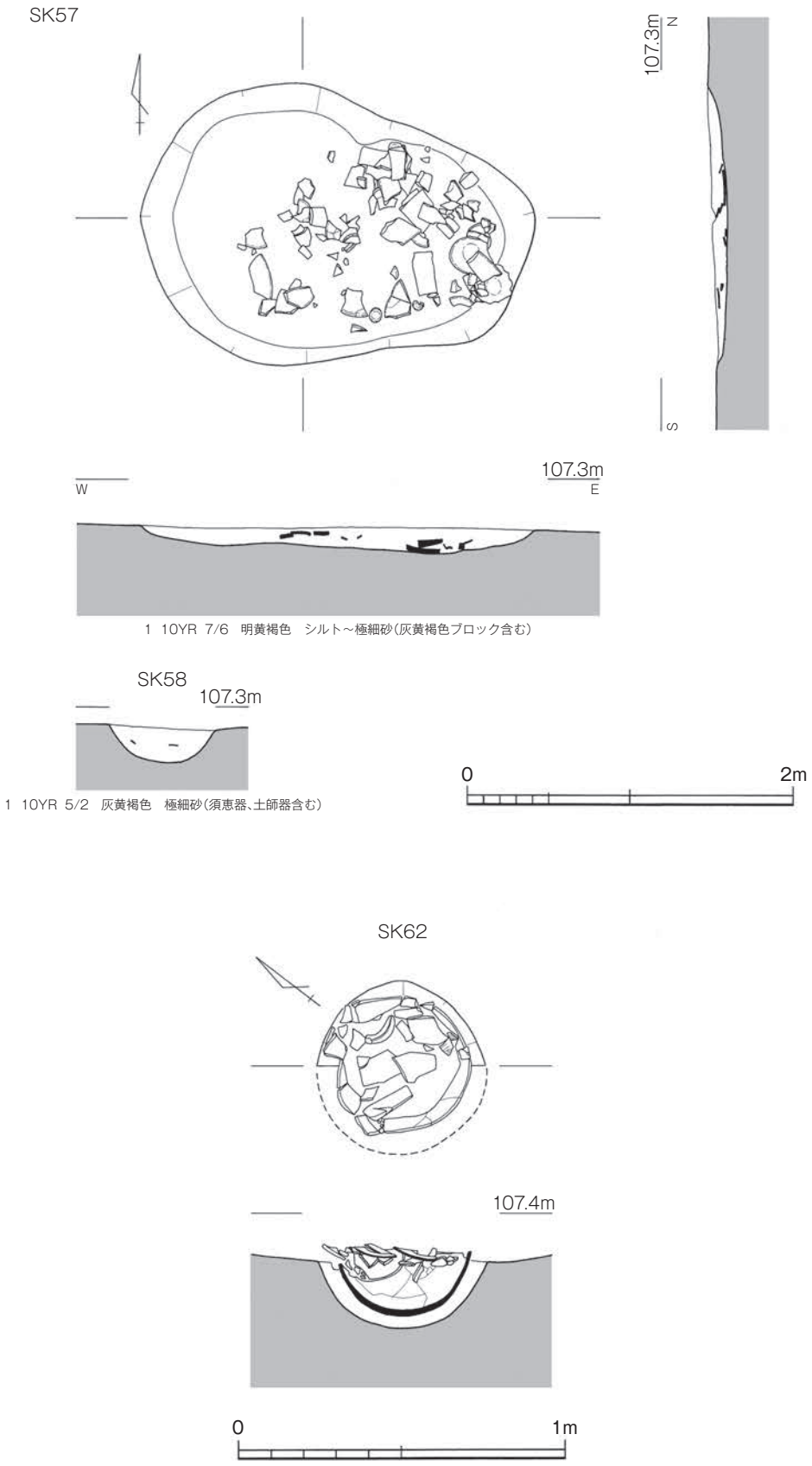
1 10YR 5/2 灰黄褐色 極細砂(土器含む)
2 2.5YR 6/2 灰黄色 シルト～極細砂(土器、黄褐色ブロック)
3 10YR 5/1 褐色 シルト(ヘドロ状)

SK16



1 10YR 4/1 褐灰色 シルト～極細砂
2 10YR 5/1 褐色 シルト(土器含む)

SK09・16 平面図・断面図



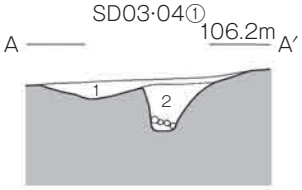
SK57・58・62 平面図・断面図

1 2.5Y 7/2 黄灰色 極細砂
2 10YR 6/3 にぶい黄橙色 シルト～極細砂(土器含む)
3 10YR 5/2 灰黄褐色 シルト～極細砂(小礫、土器含む)
4 10YR 4/2 灰黄褐色 シルト～極細砂(土器含む)
5 10YR 6/6 明黄褐色 シルト～極細砂

0 2m

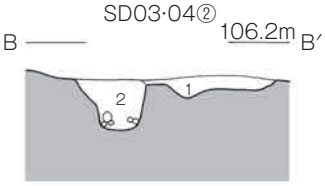
SD05 平面図・断面図

SD03·04①



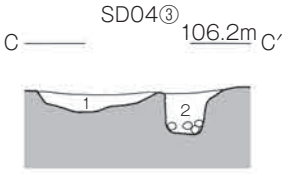
1 10YR 7/1 灰白色 極細砂
2 2.5YR 6/8 明黄褐色 シルト(灰白色ブロック混入):客土

SD03·04②



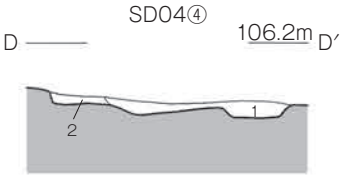
1 2.5Y 6/1 黄灰色 極細砂
2 10YR 7/8 黄橙色 シルト:竹入暗渠

SD04③



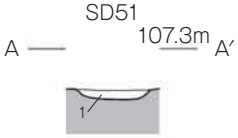
1 10YR 5/1 褐灰色 シルト～極細砂(小礫含む)
2 10YR 6/8 明黄褐色 シルト(褐色色シルトブロック含む):竹入暗渠

SD04④



1 10YR 5/2 灰黄褐色 極細砂(小礫含む)
2 10YR 6/8 灰黄褐色 極細砂

SD51

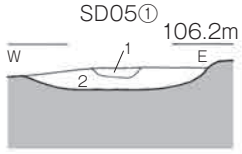


1 10YR 6/2 灰黄褐色 極細砂(小礫含む)

SD52

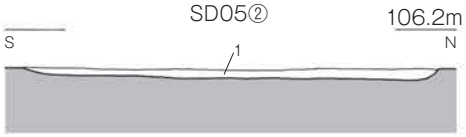
1 10YR 6/2 灰黄褐色 極細砂(土器含む)

SD05①



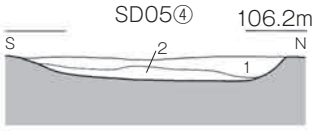
1 2.5YR 4/3 にぶい赤褐色 極細砂
2 2.5Y 5/2 暗灰黄色 極細砂

SD05②



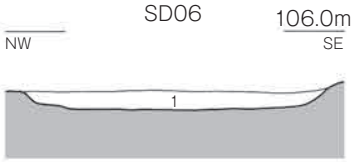
1 10YR 5/2 灰黄褐色 極細砂(小礫含む)

SD05④

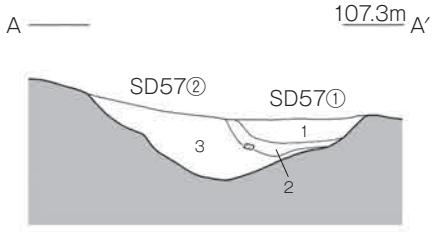


1 10YR 5/2 灰黄色 極細砂
2 2.5Y 6/4 にぶい黄色 シルト質極細砂(土器、炭含む)

SD06

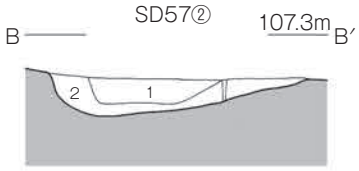


1 10YR 5/2 灰黄褐色 極細砂



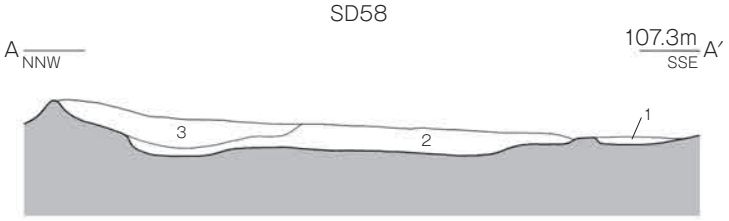
1 10YR 4/1 褐灰色 シルト～極細砂
2 10YR 6/2 灰黄褐色 細砂～粗砂
3 10YR 7/1 灰白色 シルト～極細砂

SD57②



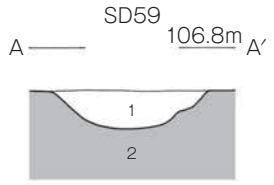
1 10YR 4/1 褐灰色 シルト～極細砂
2 10YR 7/1 灰白色 シルト～極細砂(一部炭含む)

SD58

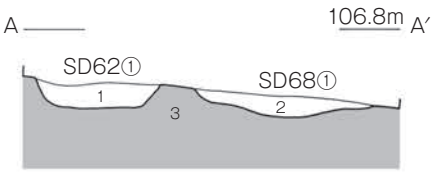


1 10YR 6/2 灰黄褐色 極細砂
2 10YR 6/1 褐灰色 極細砂
3 10YR 7/5 明黄褐色 極細砂～細砂

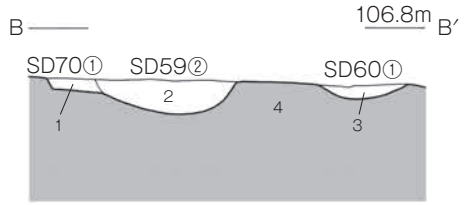
SD03 ～ 06・SD51・52・57・58 断面図



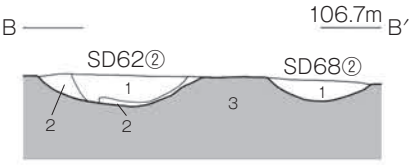
1 10YR 6/3 にぶい黄橙色 極細砂
2 10YR 7/1 灰白色 シルト～極細砂
（一部炭含む）



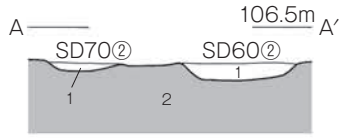
1 10YR 6/2 灰黄褐色 極細砂～細砂（小礫含む）
2 10YR 6/4 にぶい黄橙色 極細砂～細砂（小礫含む）



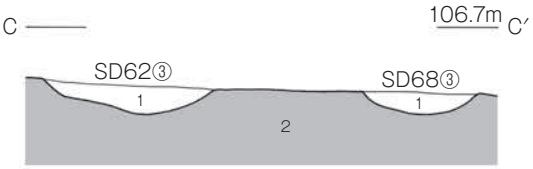
1 10YR 7/3 にぶい黄橙色 極細砂
2 10YR 6/2 灰黄褐色 極細砂～細砂（小礫含む）
3 10YR 6/1 明黄褐色 極細砂～細砂（小礫含む）



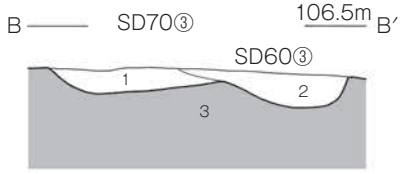
1 10YR 5/1 褐灰色 極細砂
2 10YR 7/8 黄橙色 極細砂（灰色ブロック含む）
3 10YR 6/4 にぶい黄橙色 極細砂



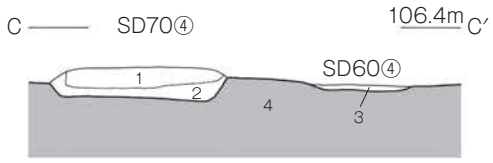
1 10YR 6/2 灰黄褐色 極細砂



1 10YR 6/2 灰黄褐色 極細砂
2 10YR 6/8 明黄褐色 シルト～極細砂

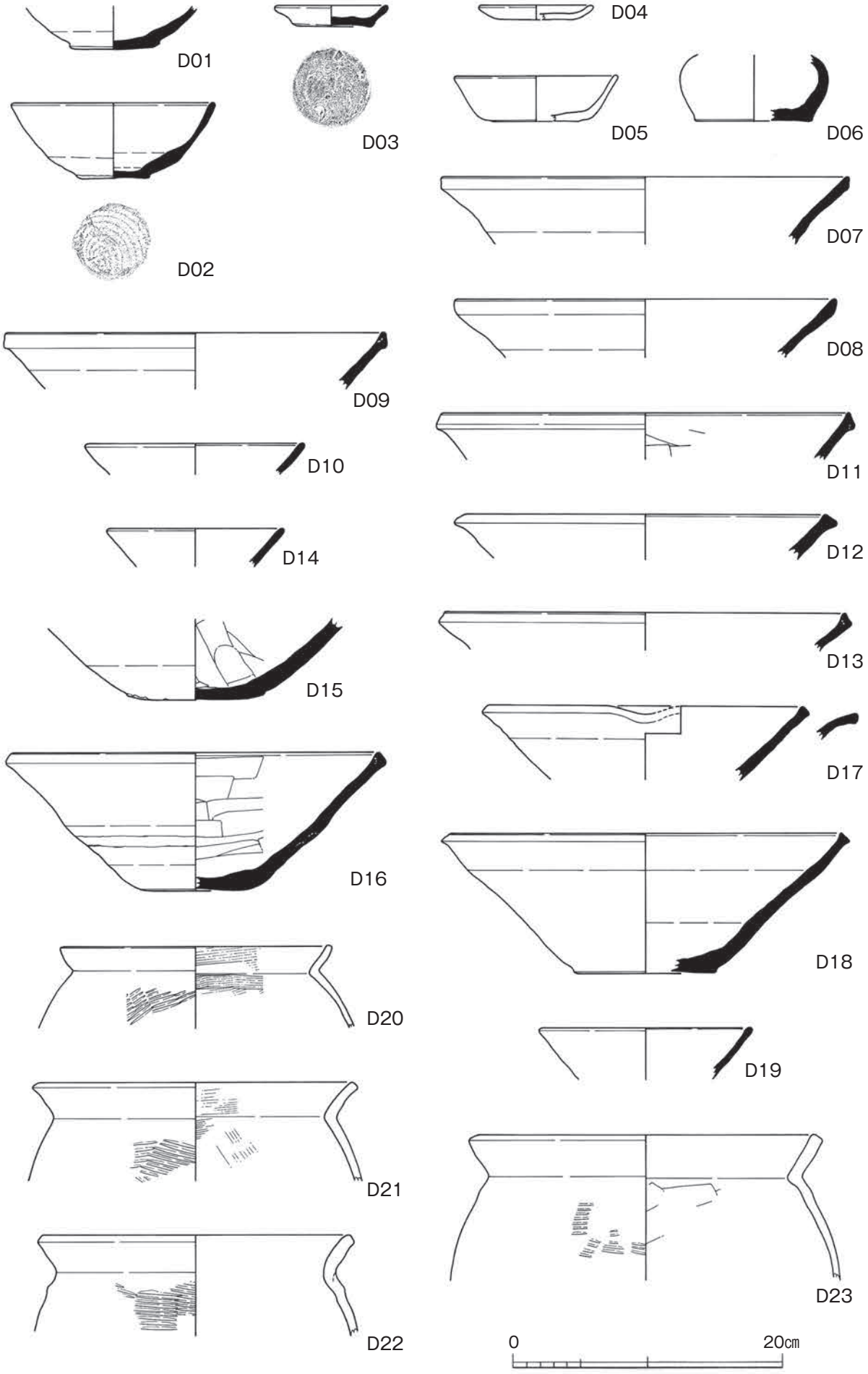


1 10YR 4/2 灰黄褐色 シルト～極細砂
2 10YR 6/2 灰黄褐色 シルト～極細砂

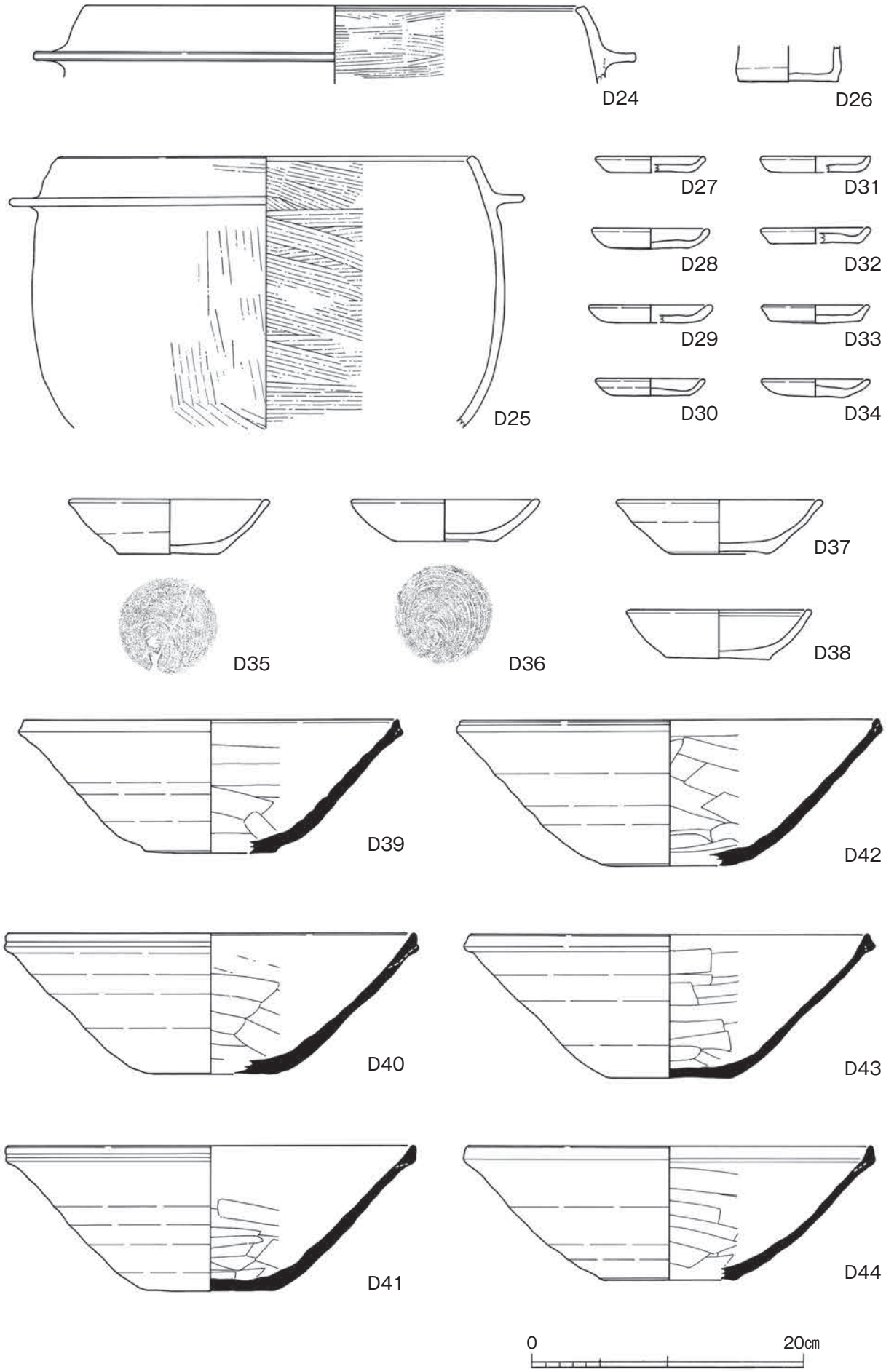


1 10YR 4/2 灰黄褐色 シルト～極細砂
2 10YR 6/4 明黄褐色 シルト～極細砂
3 10YR 6/2 灰黄褐色 極細砂

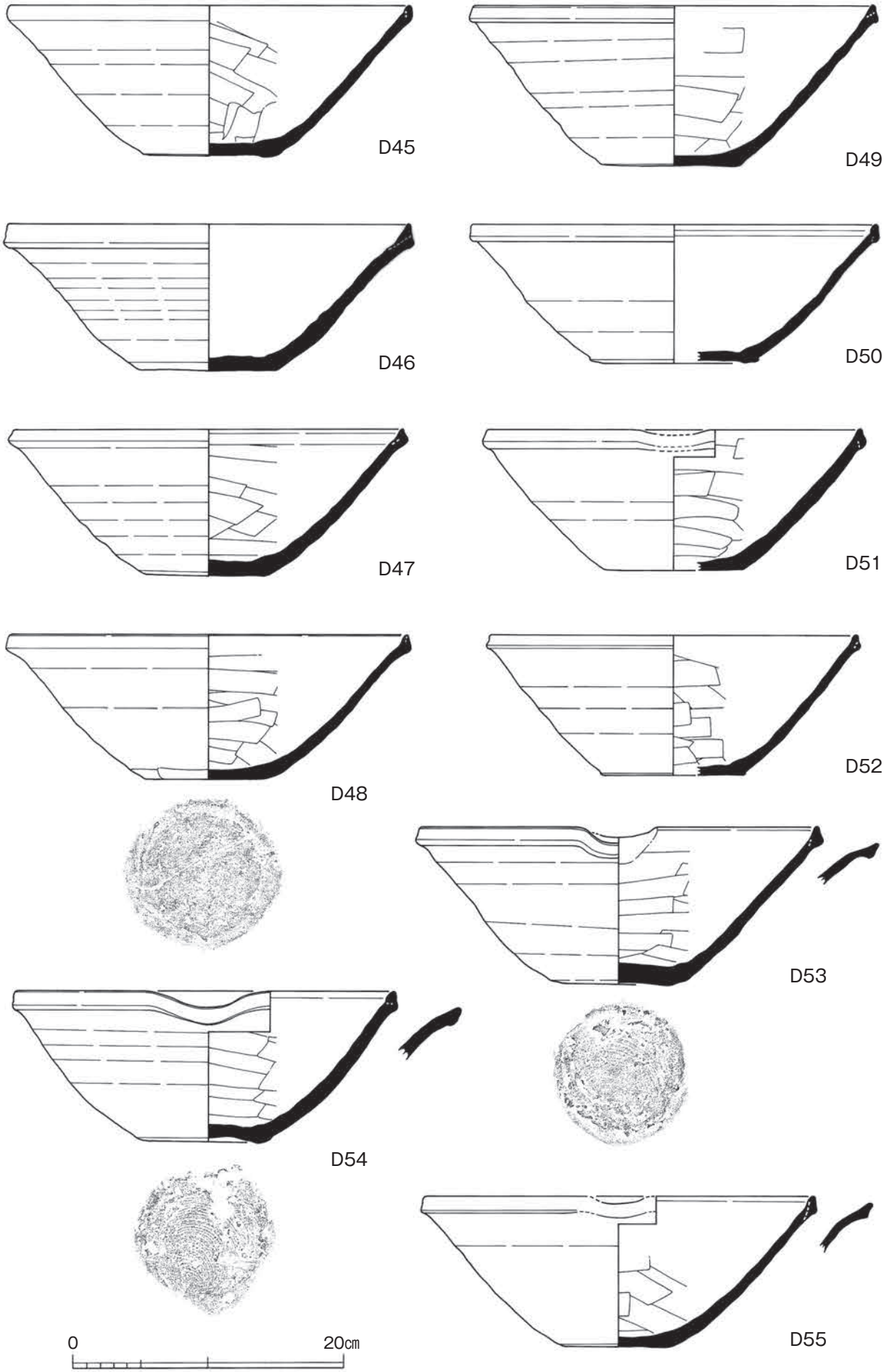
SD59・60・62・68・70 断面図



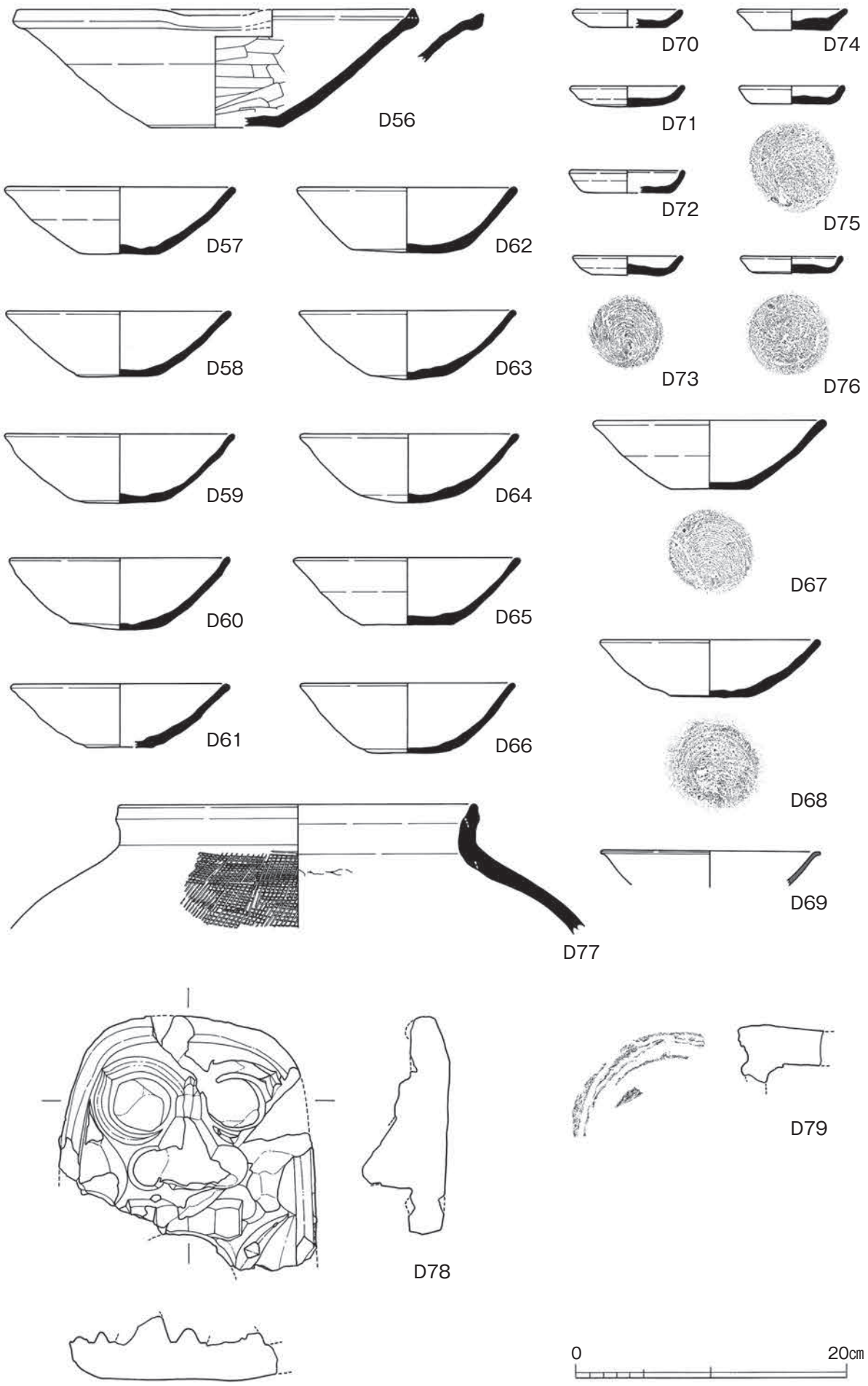
P02・P09・P40・SK01～SK07・SK09 出土土器


D24
D26
D25
D27
D31
D28
D32
D29
D33
D30
D34
D35
D36
D37
D38
D39
D42
D40
D43
D41
D44
0
20cm

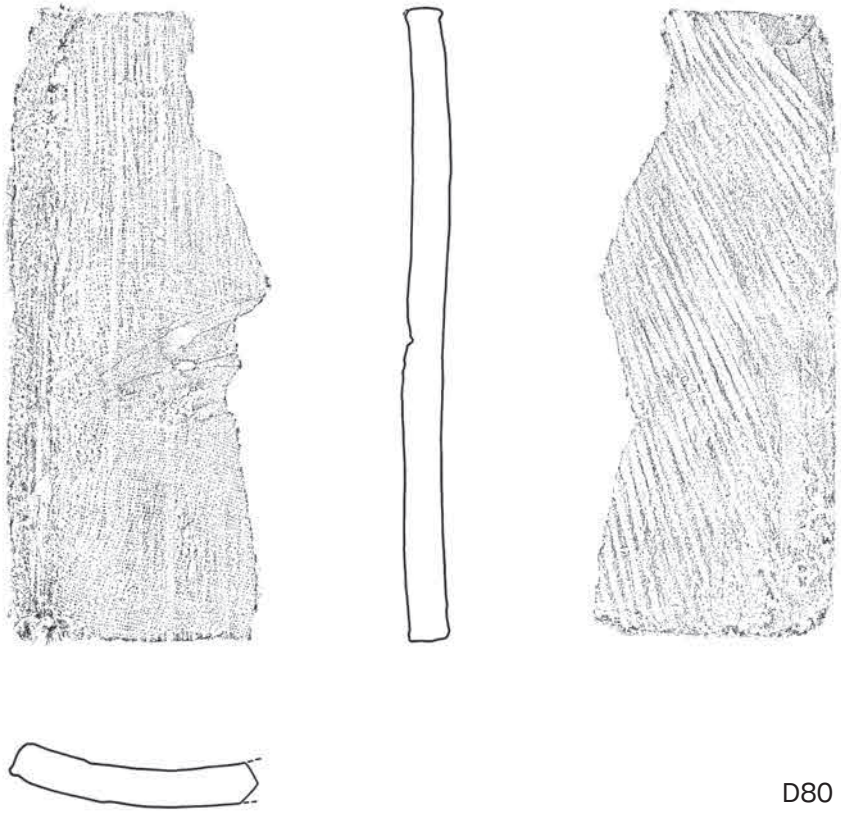
SK09 出土土器

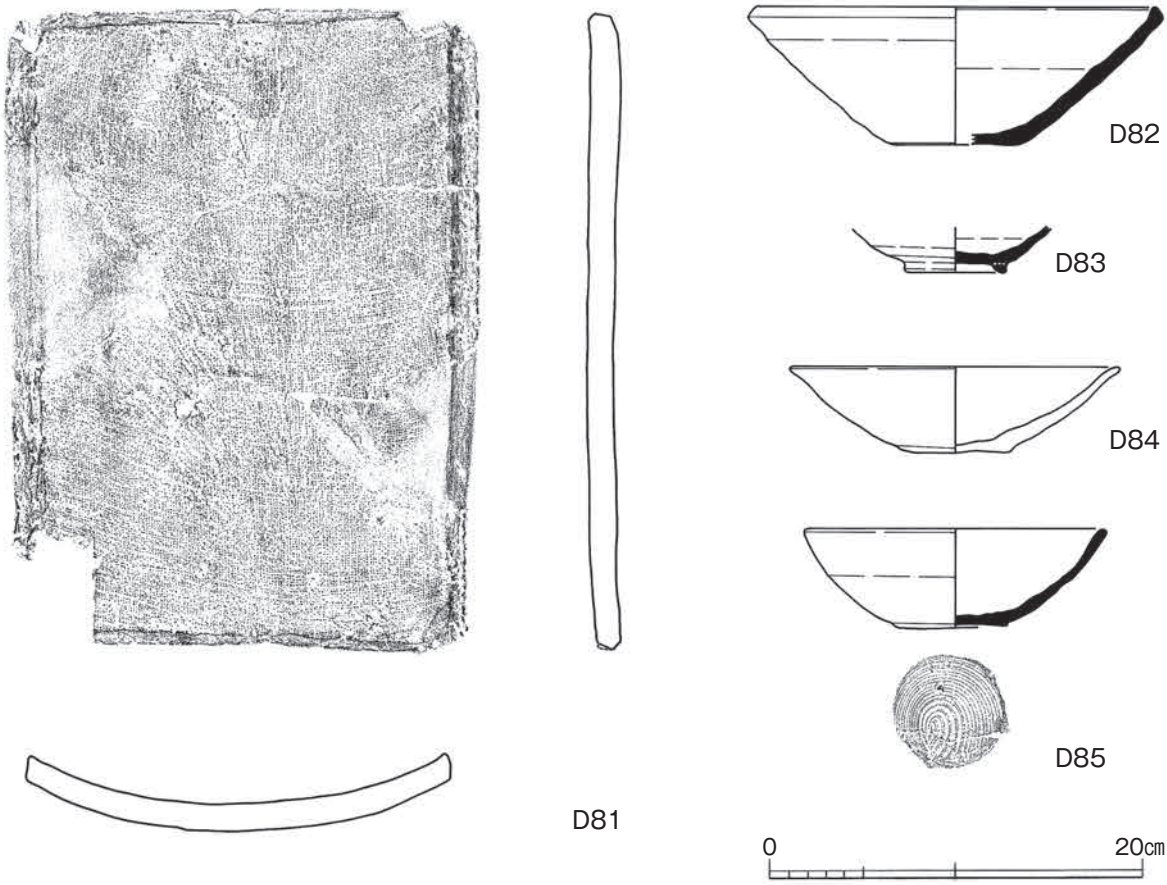


SK09 出土土器

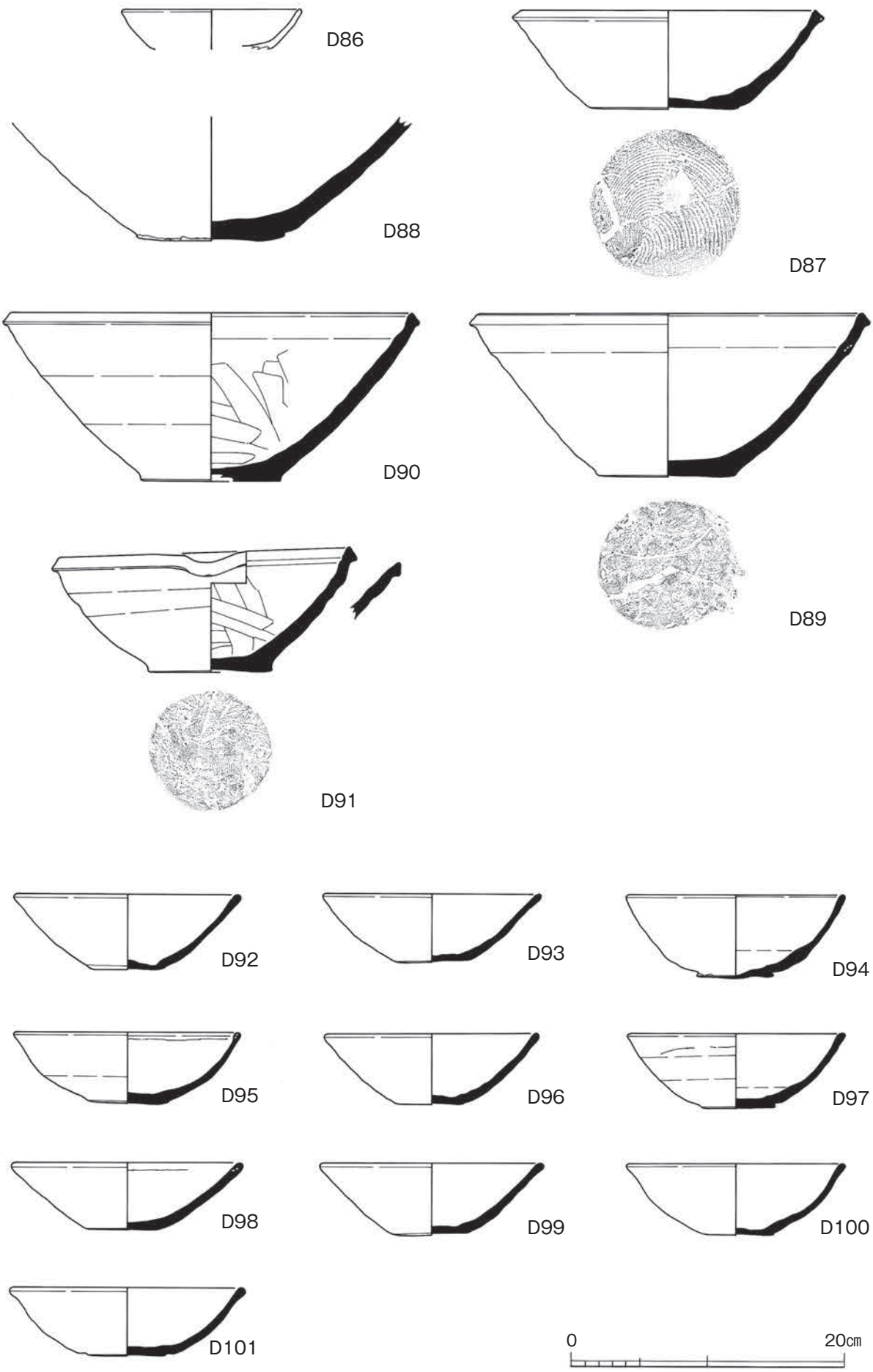

D56
D70
D74
D71
D72
D75
D57
D62
D58
D63
D73
D76
D59
D64
D67
D60
D65
D61
D66
D68
D69
D77
D79
D78
0
20cm

SK09 出土土器

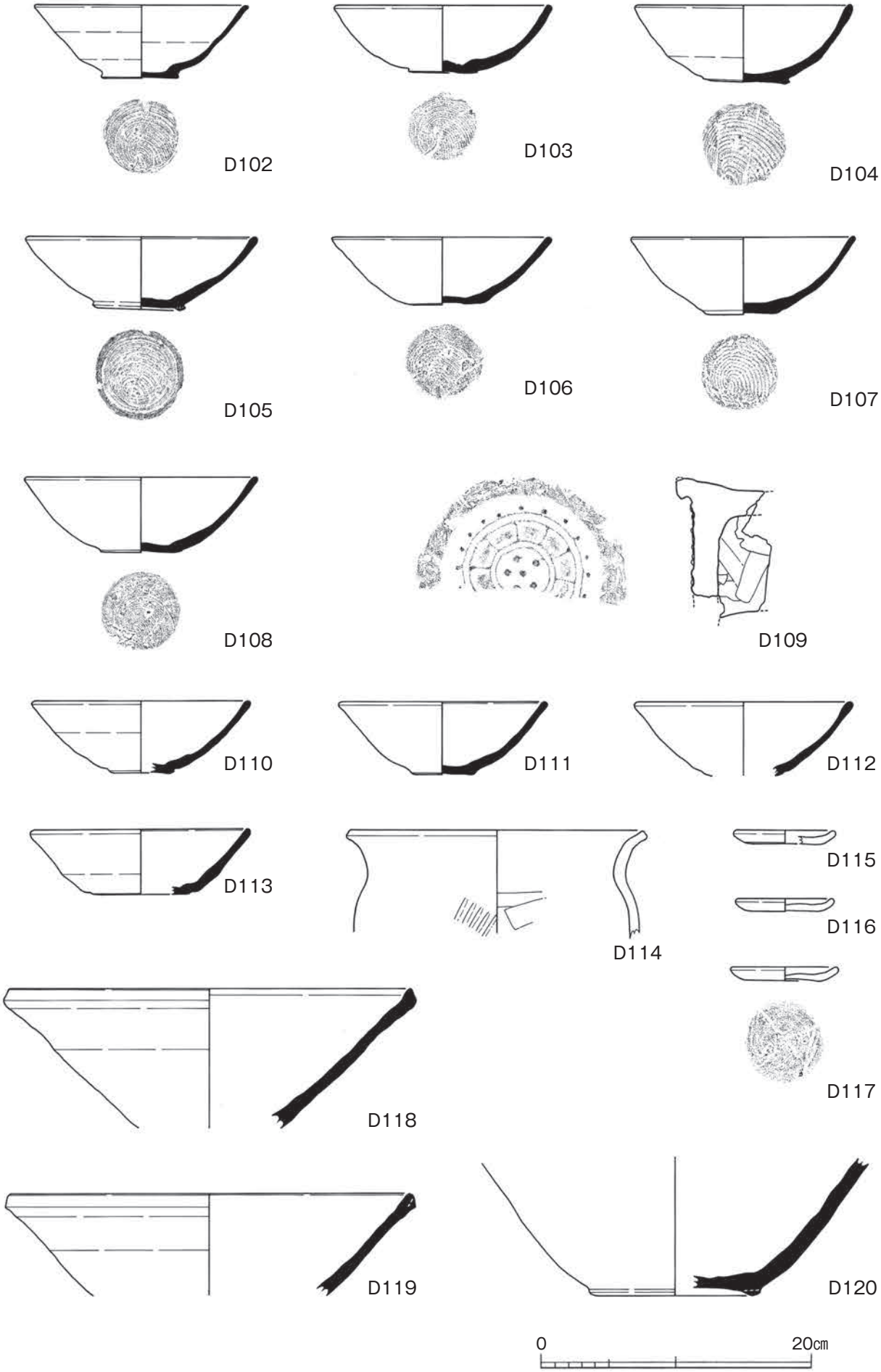




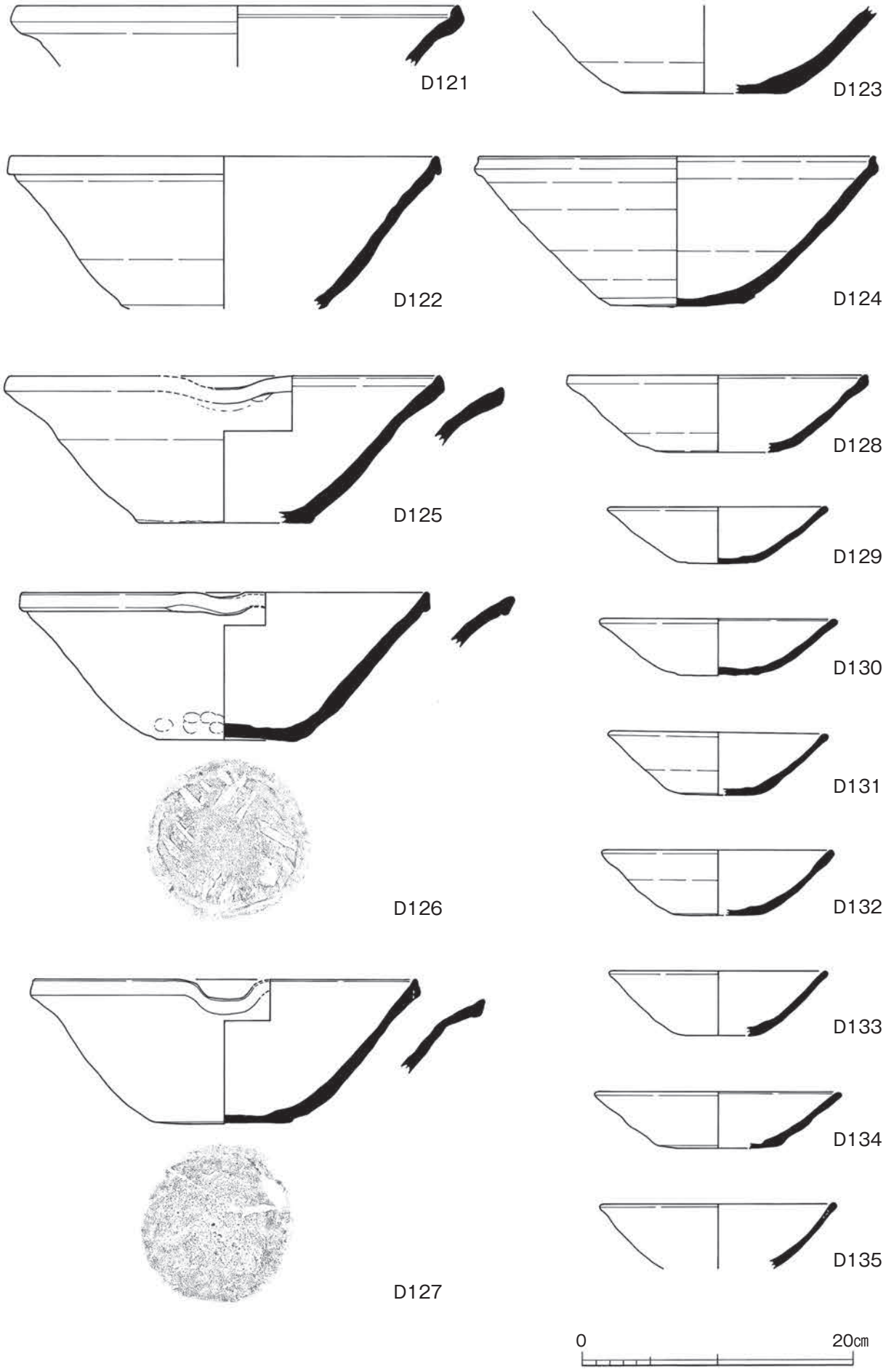
SK09・SK12・SK14 出土土器


D86
D88
D87
D90
D89
D91
D92
D93
D94
D95
D96
D97
D98
D99
D100
D101
0
20cm

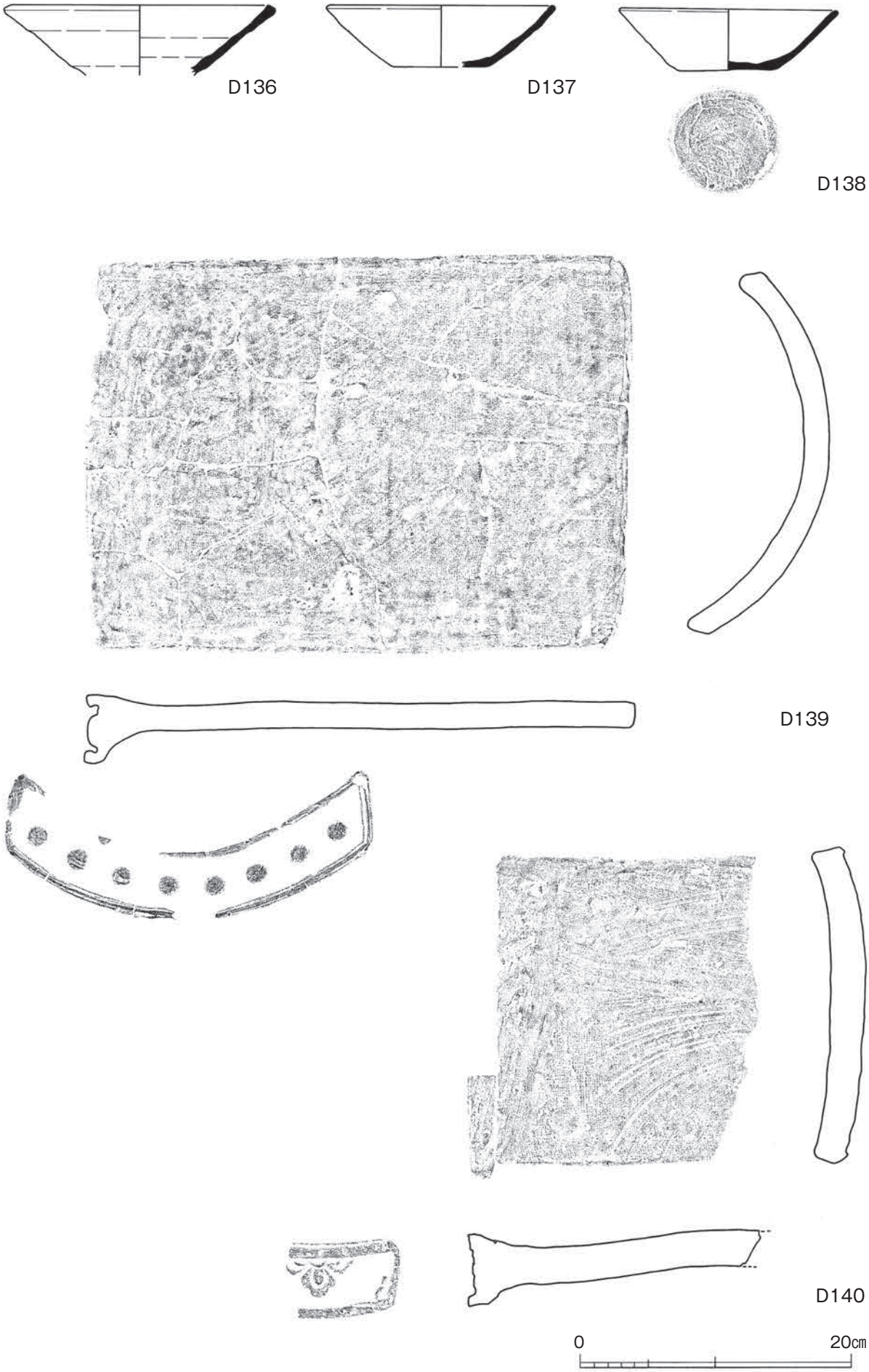
SK16 出土土器



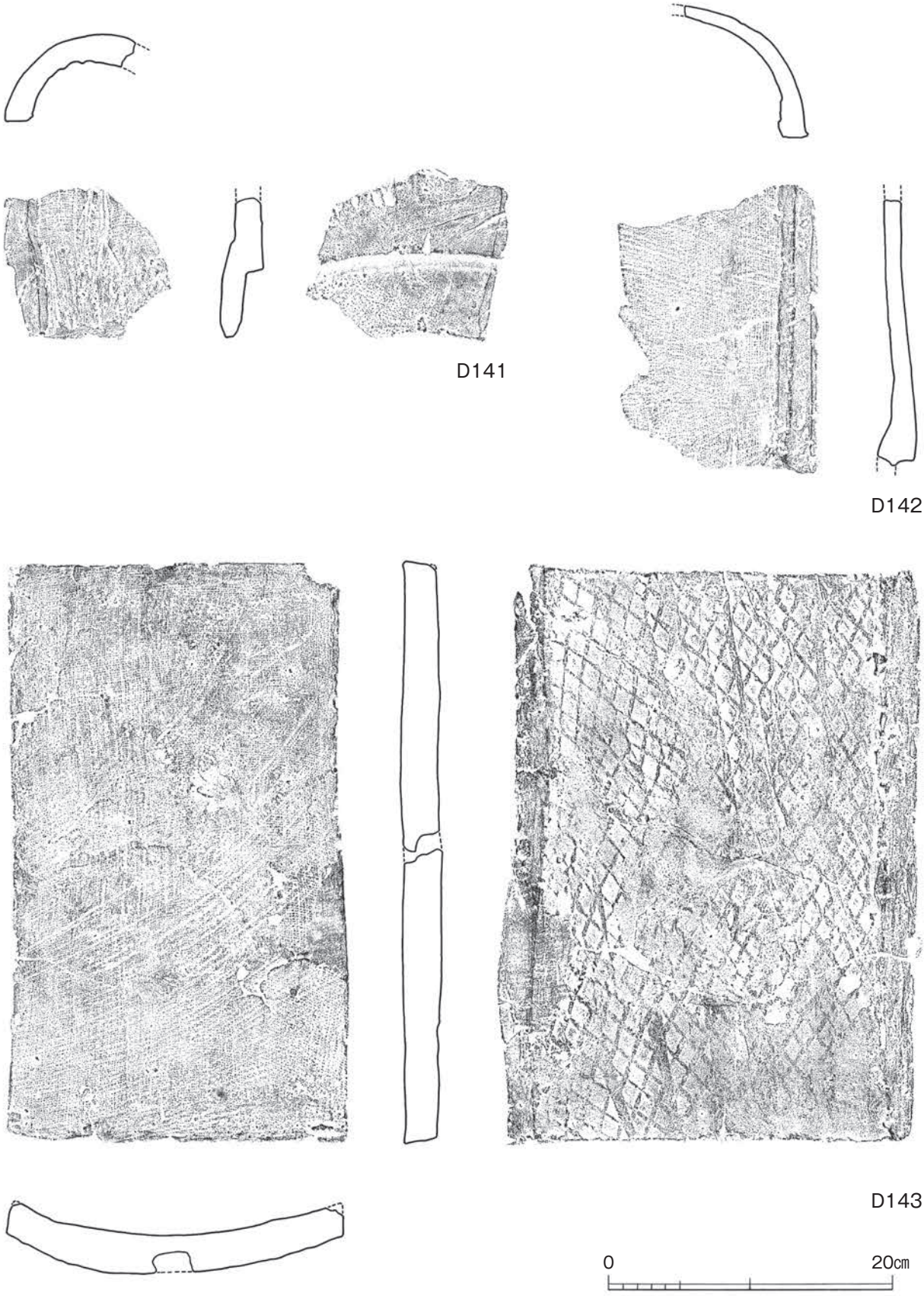
SK16・SK17・SK22・SK57 出土土器


D121
D123
D122
D124
D125
D128
D129
D130
D126
D131
D132
D133
D134
D135
D127
0
20cm

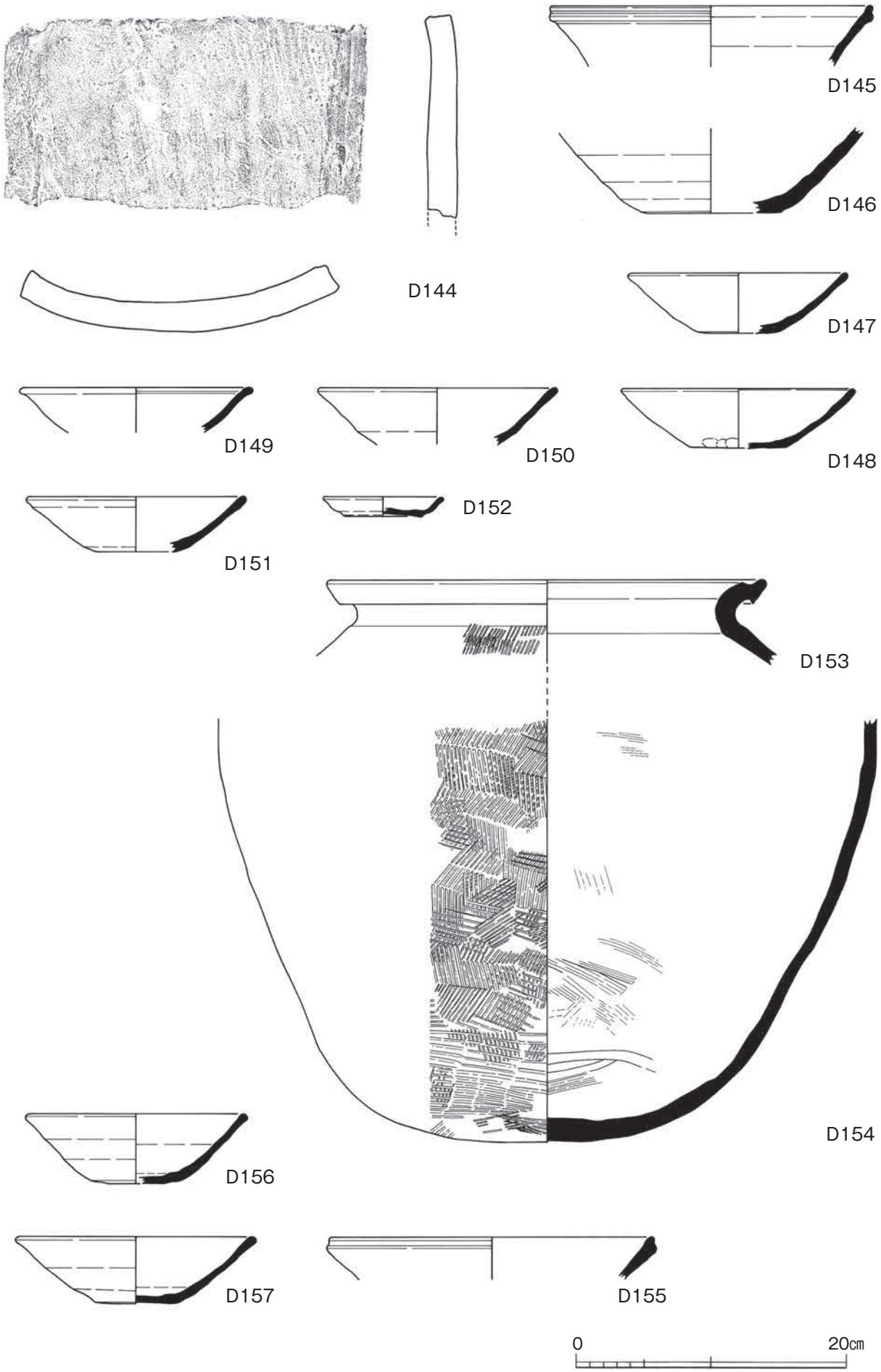
SK57 出土土器



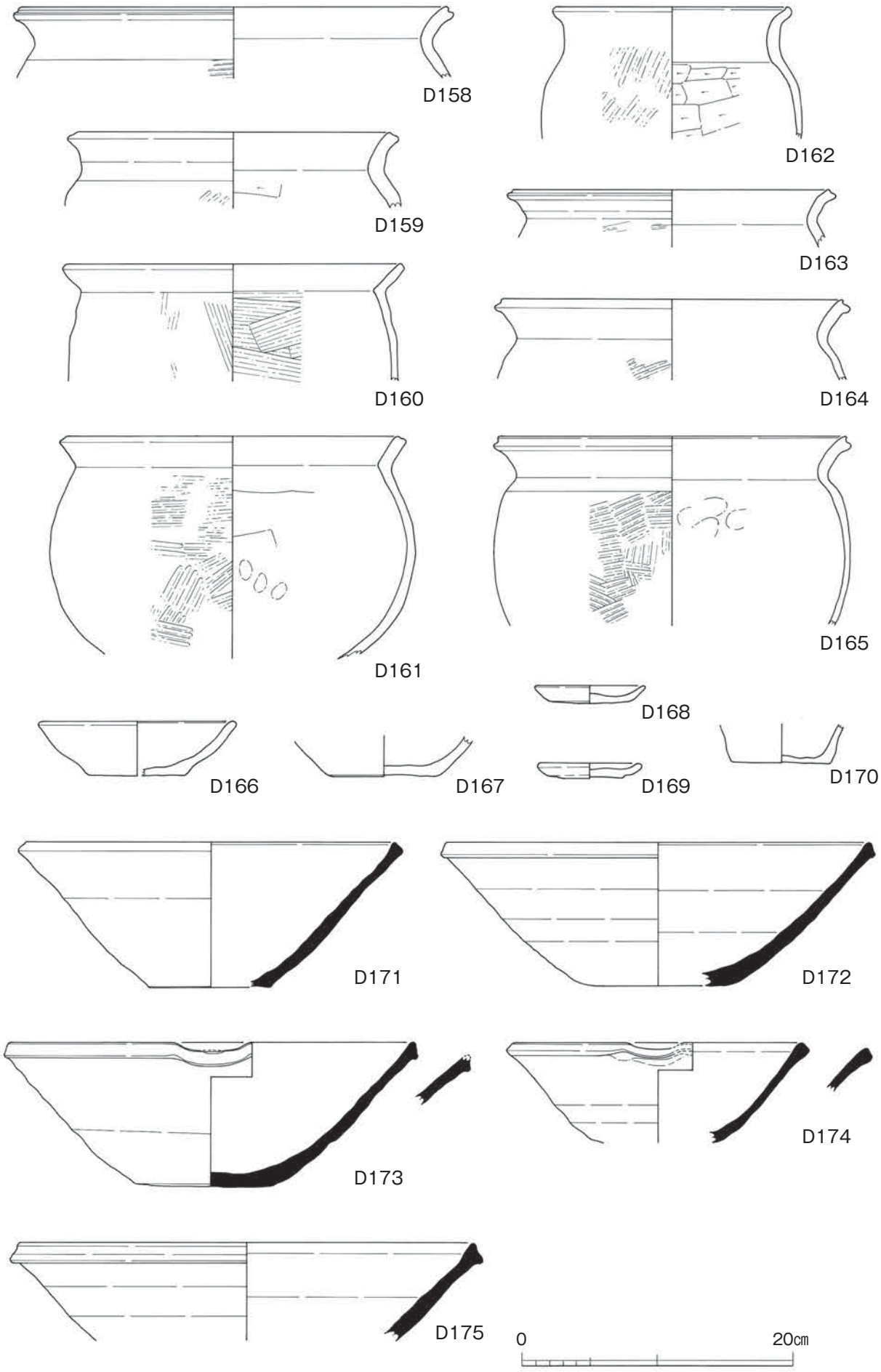
SK57 出土土器



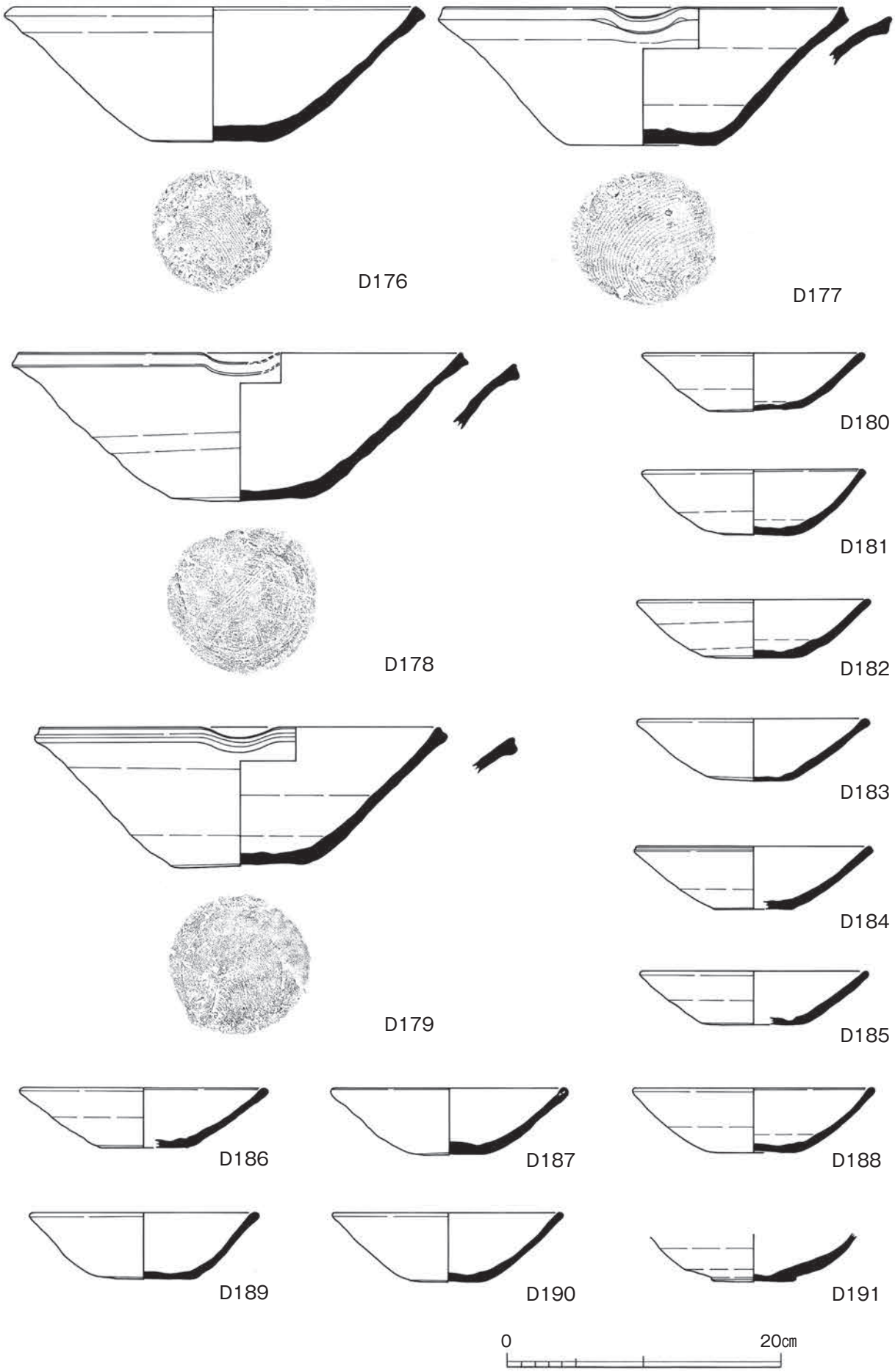
SK57 出土土器



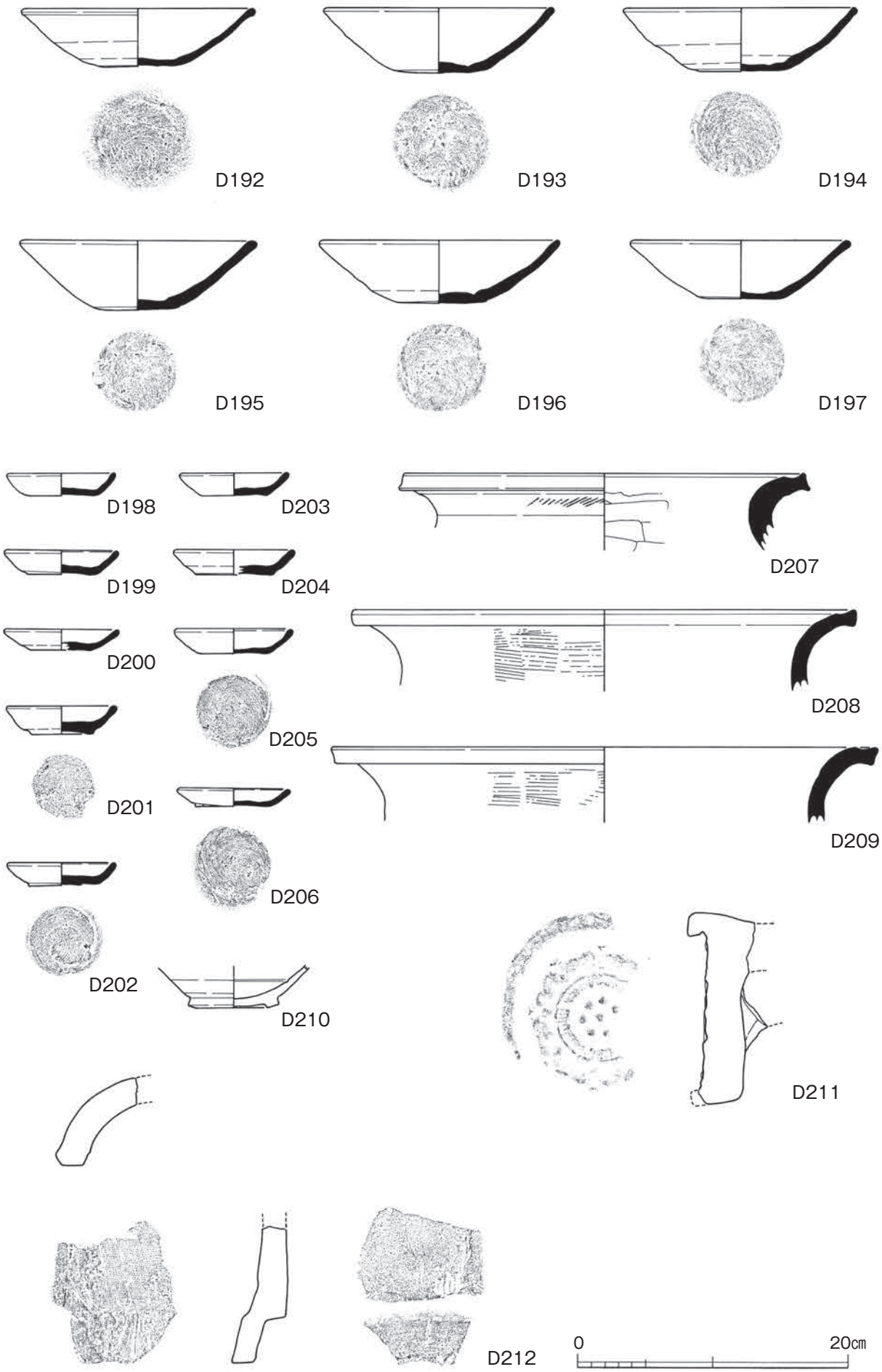
SK57・SK58・SK62・SD04 出土土器


D158
D159
D160
D161
D162
D163
D164
D165
D166
D167
D168
D169
D170
D171
D172
D173
D174
D175
0
20㎝

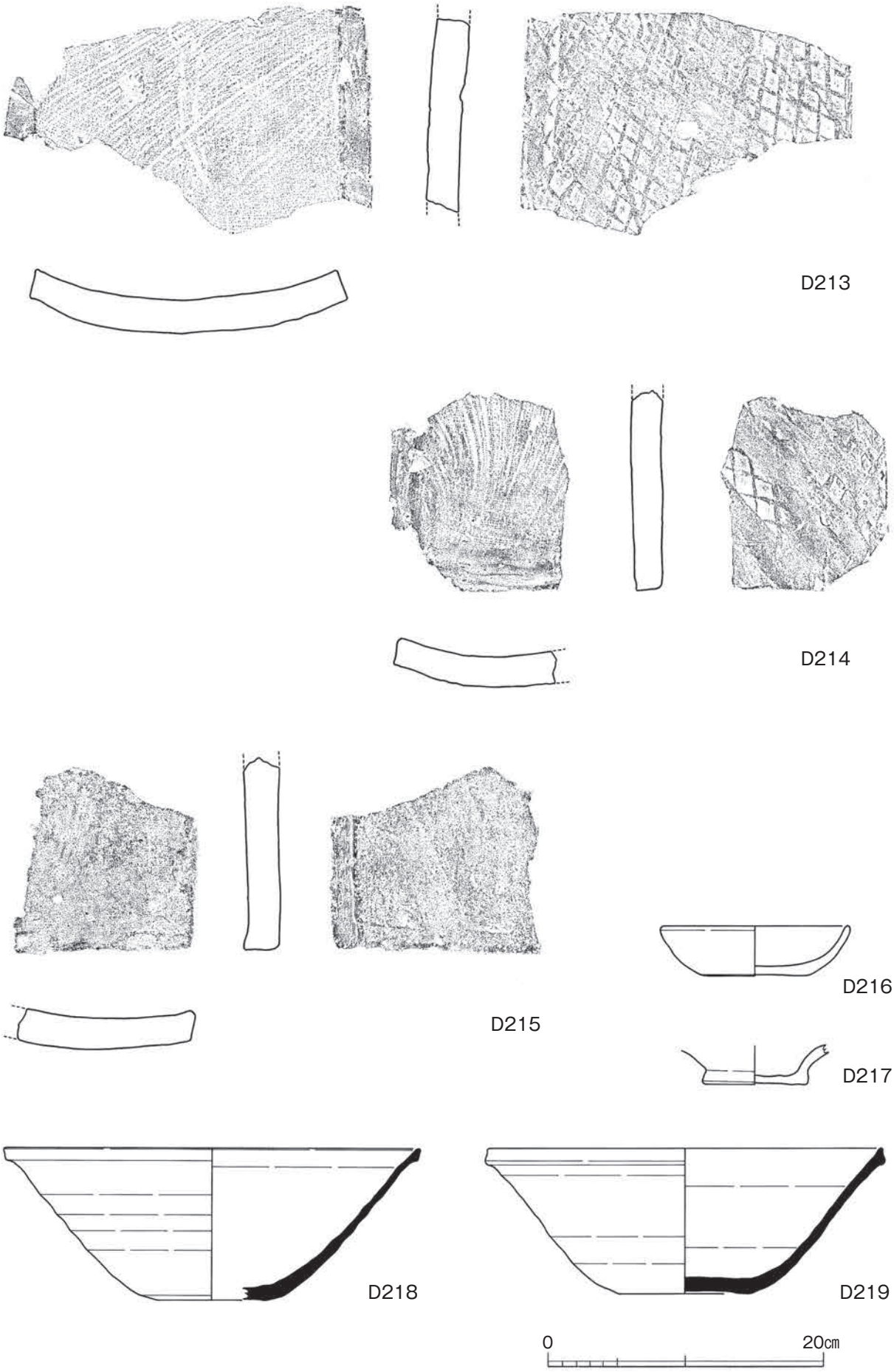
SD05 出土土器


D176
D177
D178
D179
D180
D181
D182
D183
D184
D185
D186
D187
D188
D189
D190
D191
0
20cm

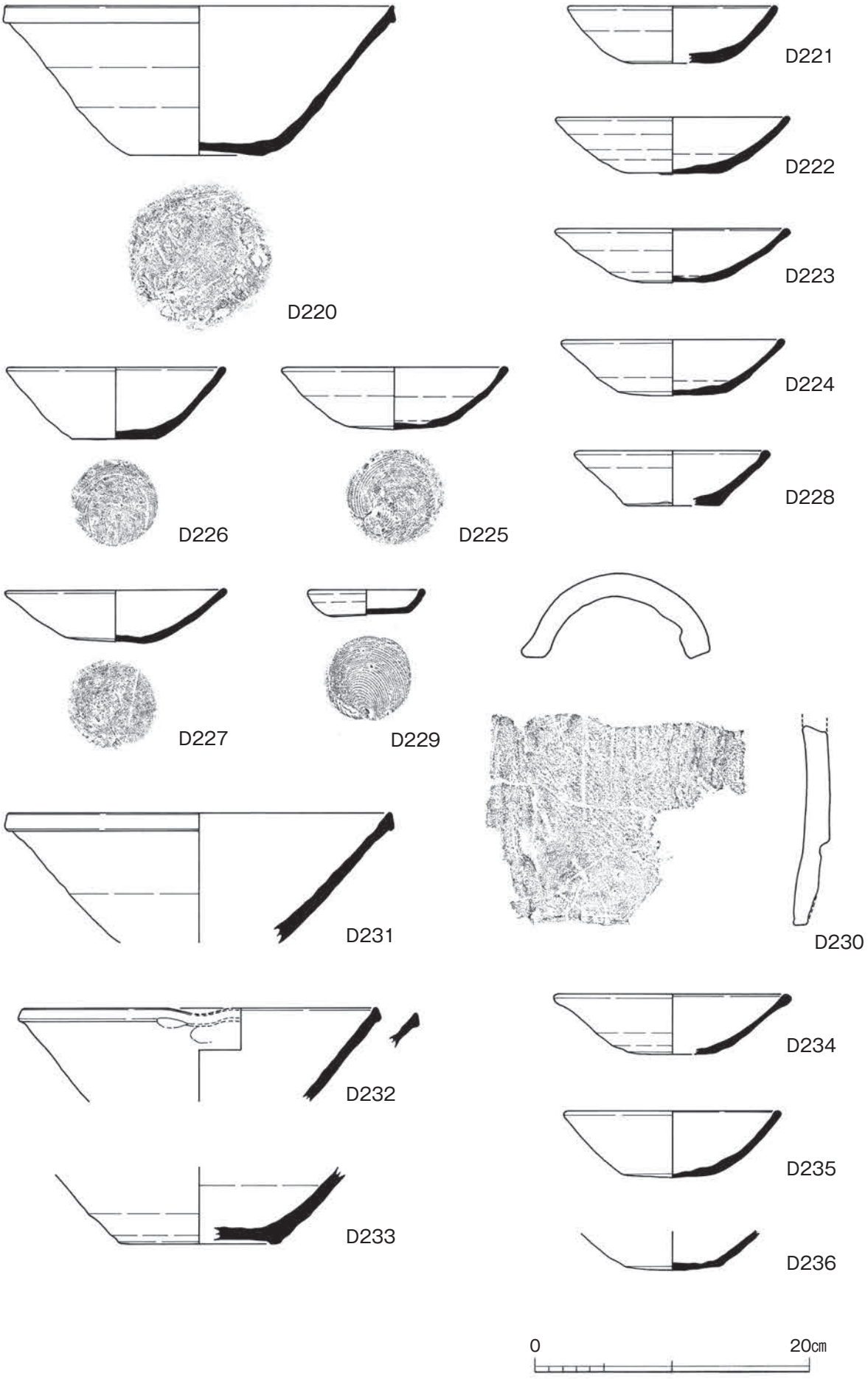
SD05 出土土器


D192
D193
D194
D195
D196
D197
D198
D203
D199
D204
D200
D205
D201
D206
D202
D210
D207
D208
D209
D211
D212
0
20cm

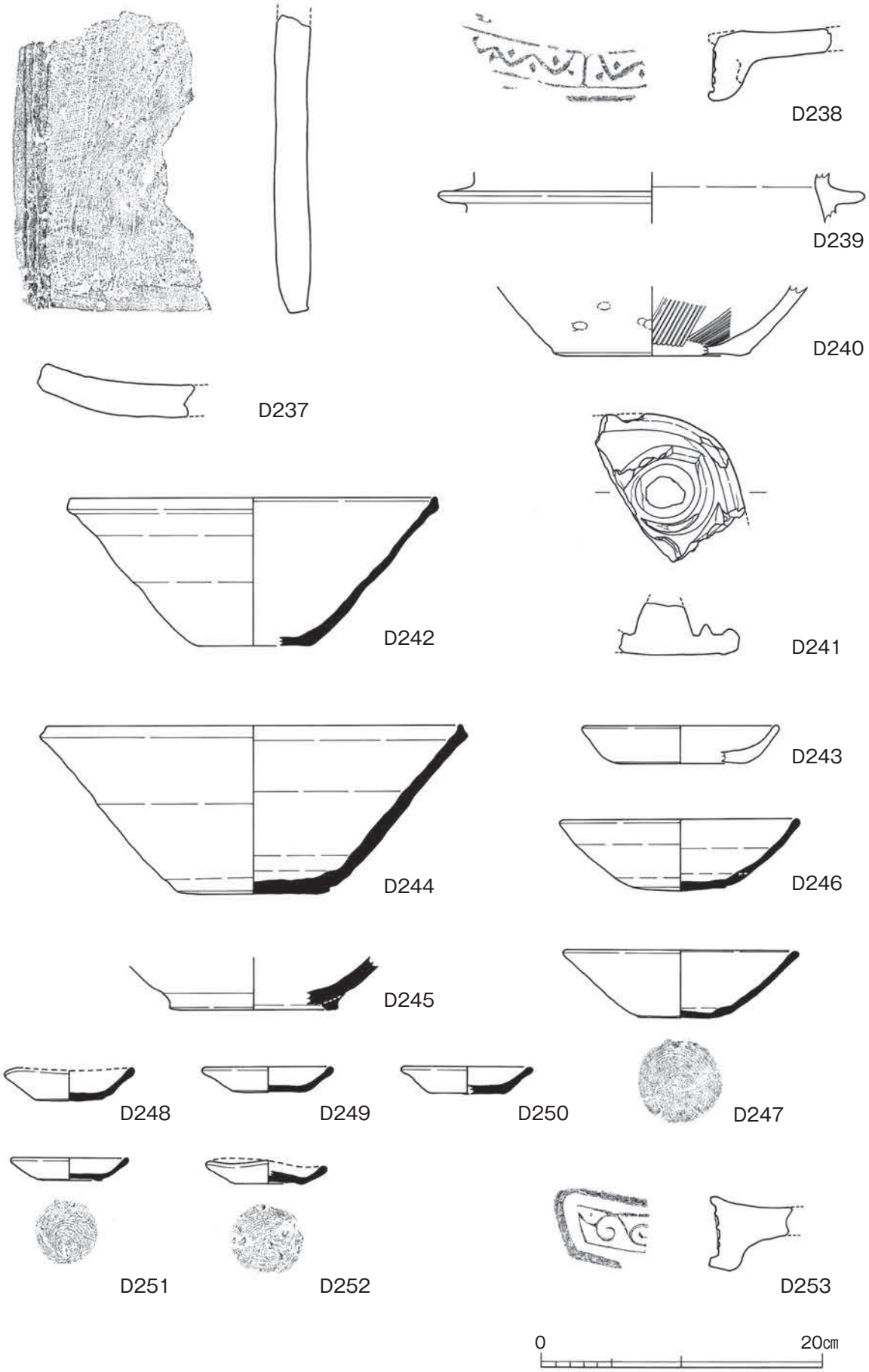
SD05 出土土器



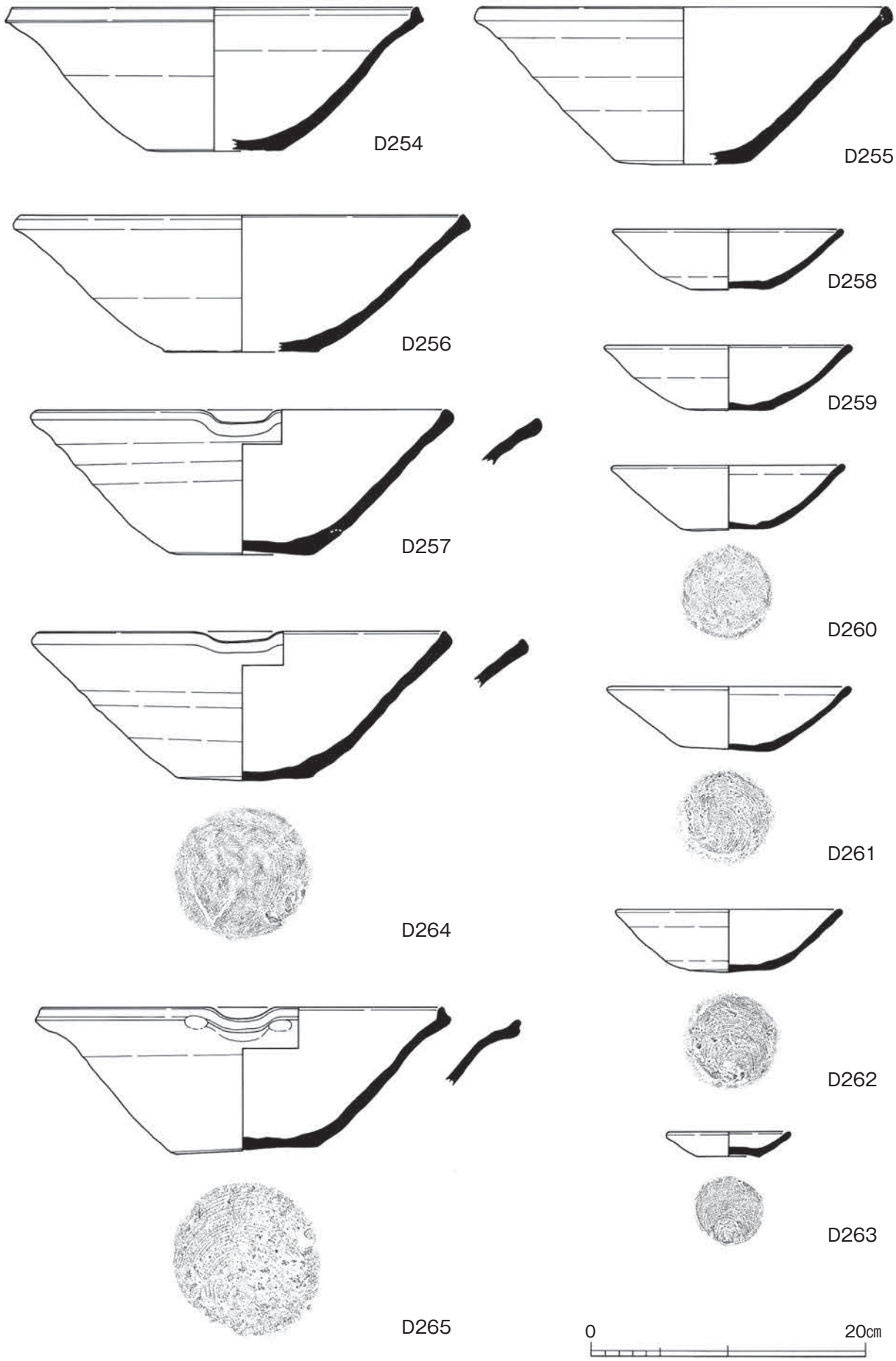
SD05・SD51 出土土器



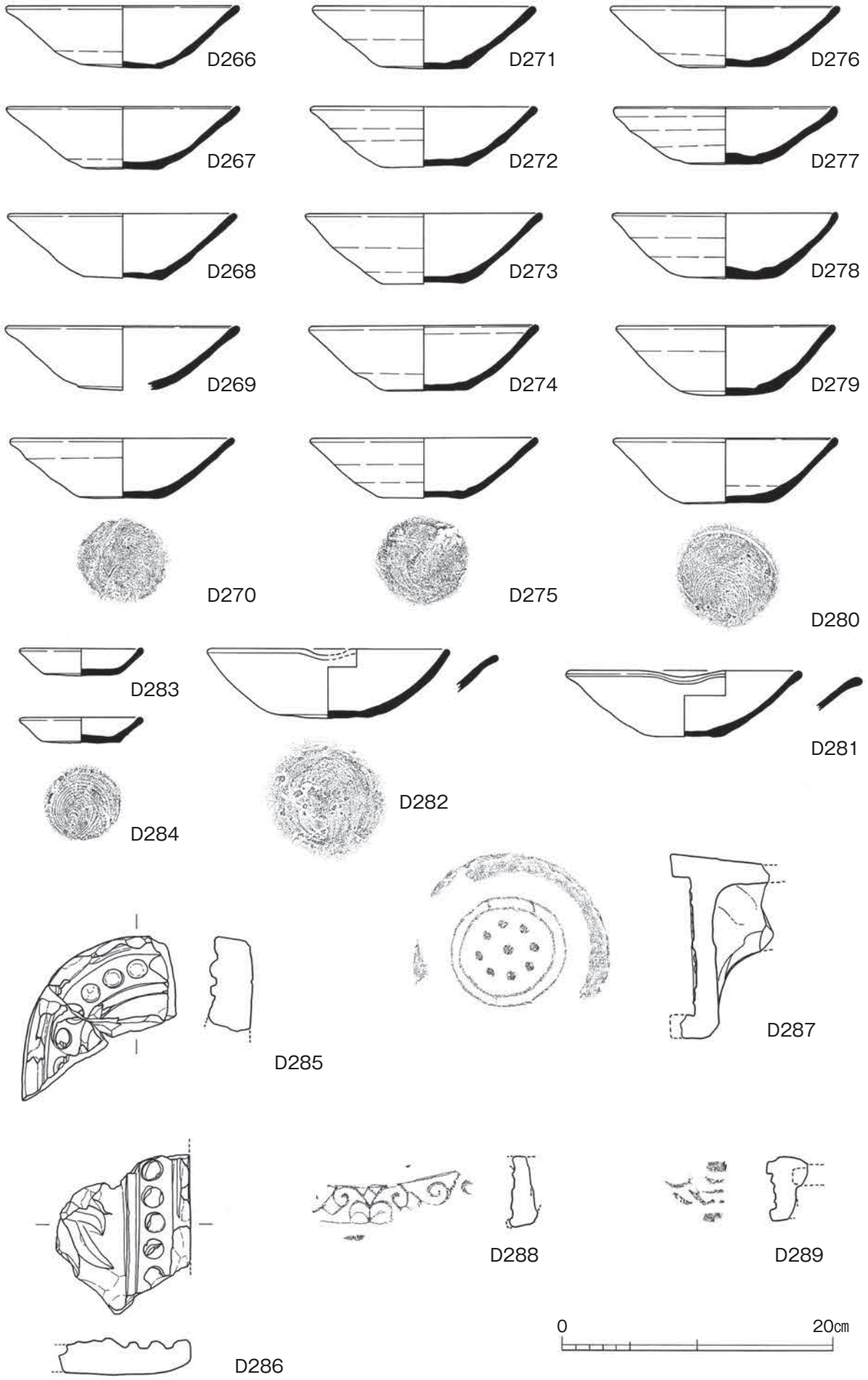
SD51・SD52 出土土器



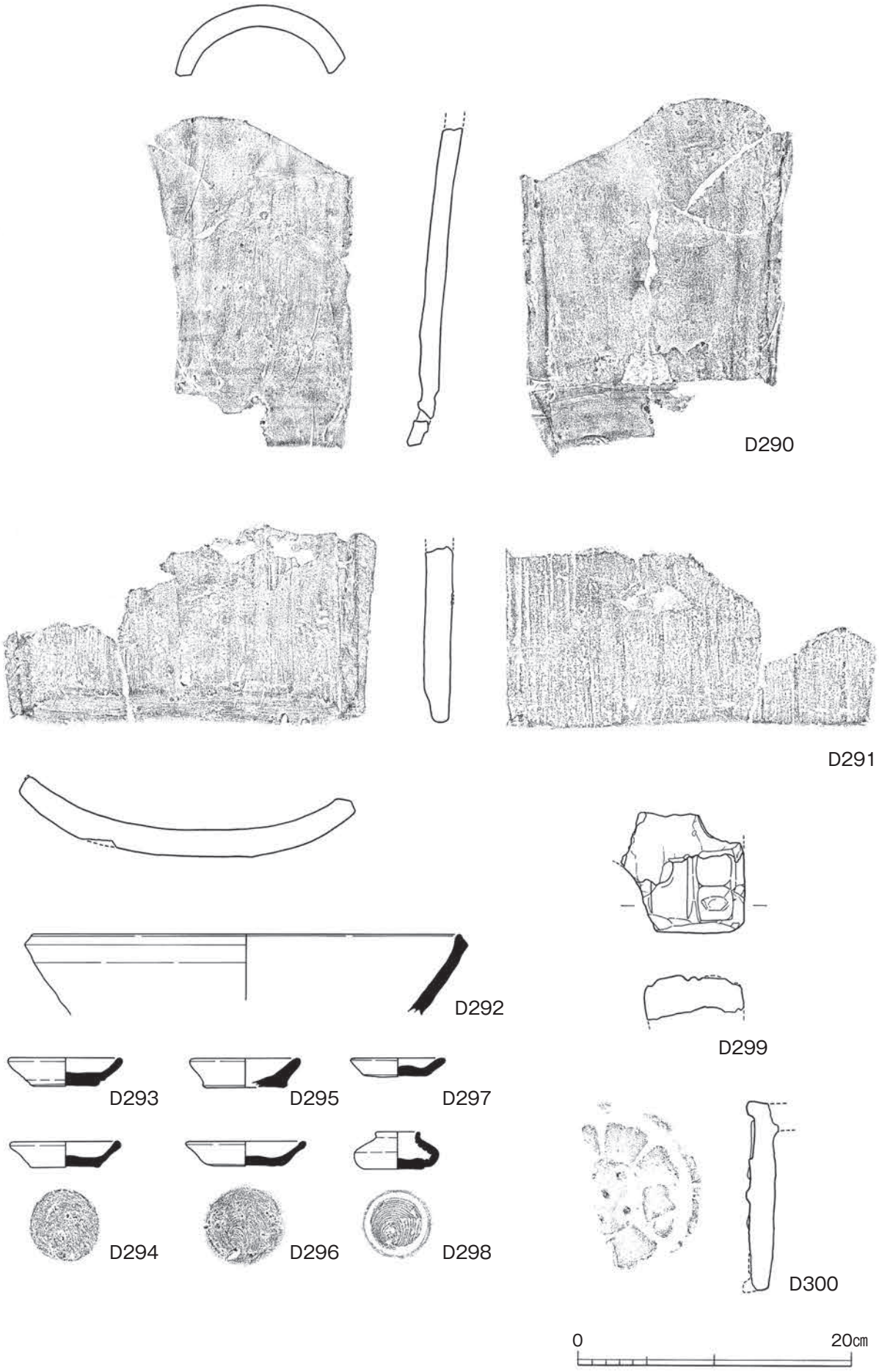
SD52・SD58・SD60・SD62 出土土器



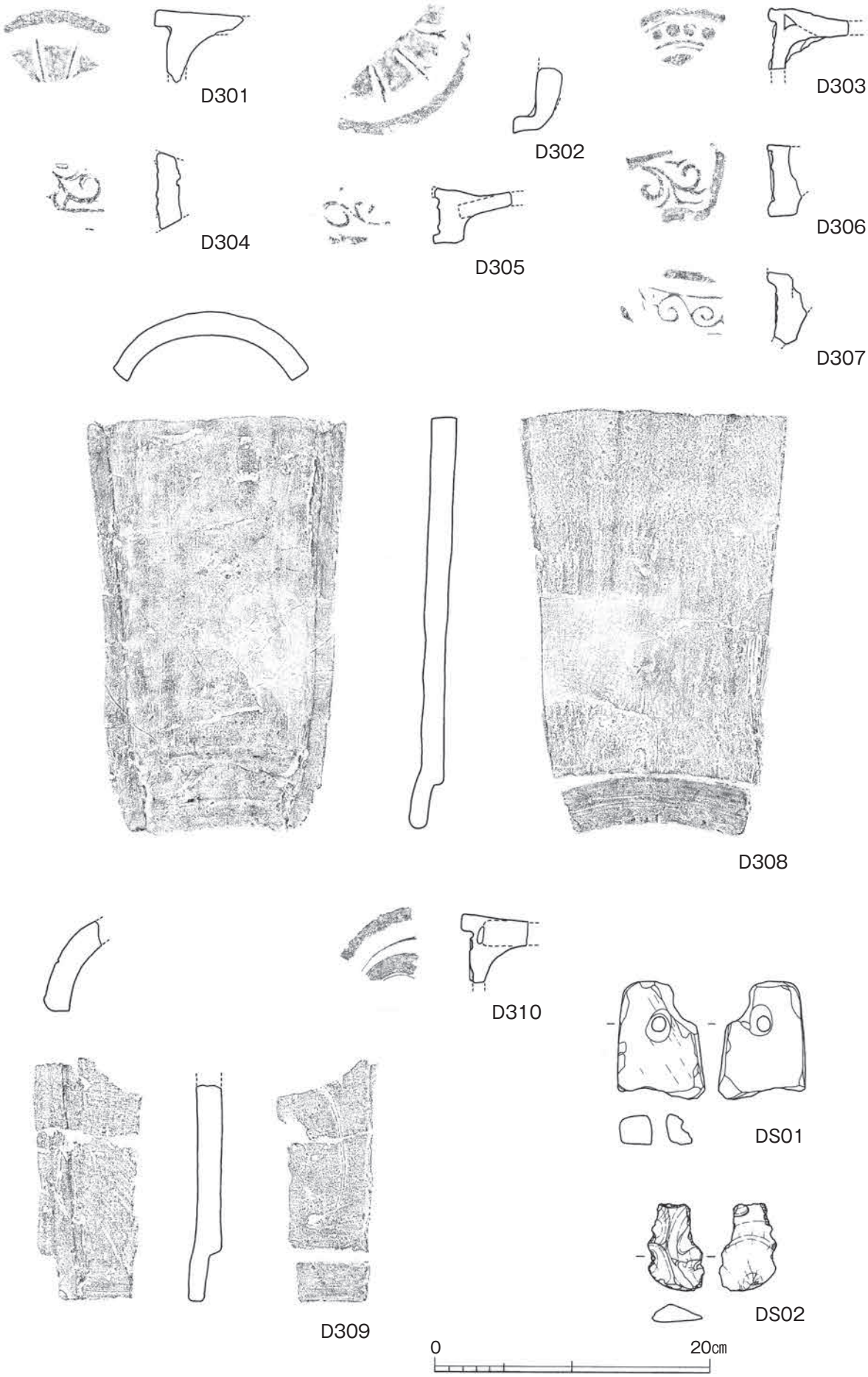
SD68・SD70 出土土器



SD70・包含層出土土器



包含層出土土器



包含層出土土器・出土石器

写真図版

A地区確認調査

①1トレンチ全景（西から）

②2トレンチ全景（東から）

③3トレンチ全景（東から）

④3トレンチ西半部（東から）

⑤3トレンチ中央部土層断面（南から）

⑥4トレンチ全景（西から）

⑦4トレンチ中央部（南から）

⑧5トレンチ全景（南西から）

写真図版 2
遺物

①5トレンチ東部柱穴群（東から）

②5トレンチ P01（東から）

③5トレンチ P03 鬼瓦出土状況（北から）

④6トレンチ全景（東から）

⑤7トレンチ北部（南から）

⑥8トレンチ全景（北西から）

⑦調査前全景（北西から）

⑧人力掘削状況（西から）

AI27

AI20

AI36

AI19

AI50

AI59

AI49

AI31

AI47

AI44

AI29

AI39

3トレンチ出土土器

AI35

AI38

AI73

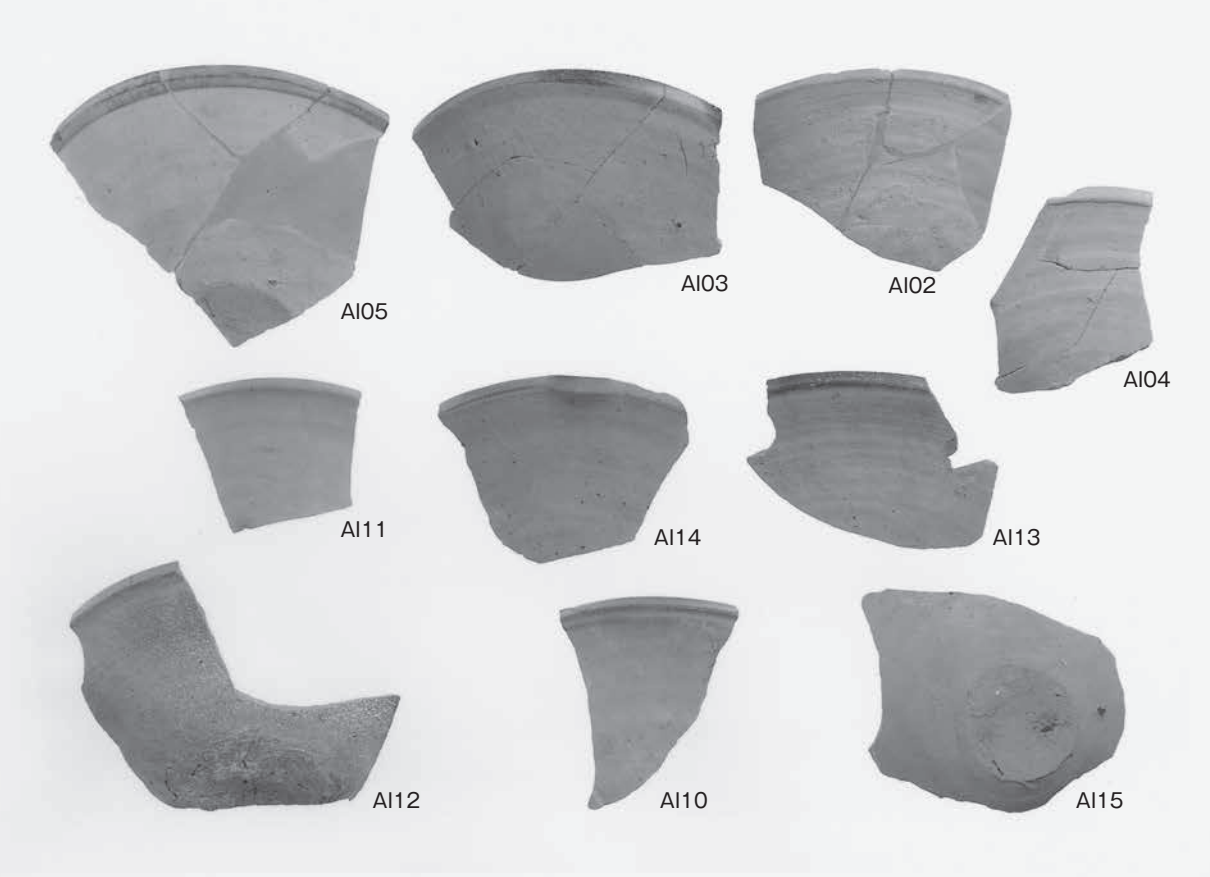
AI85

AI87

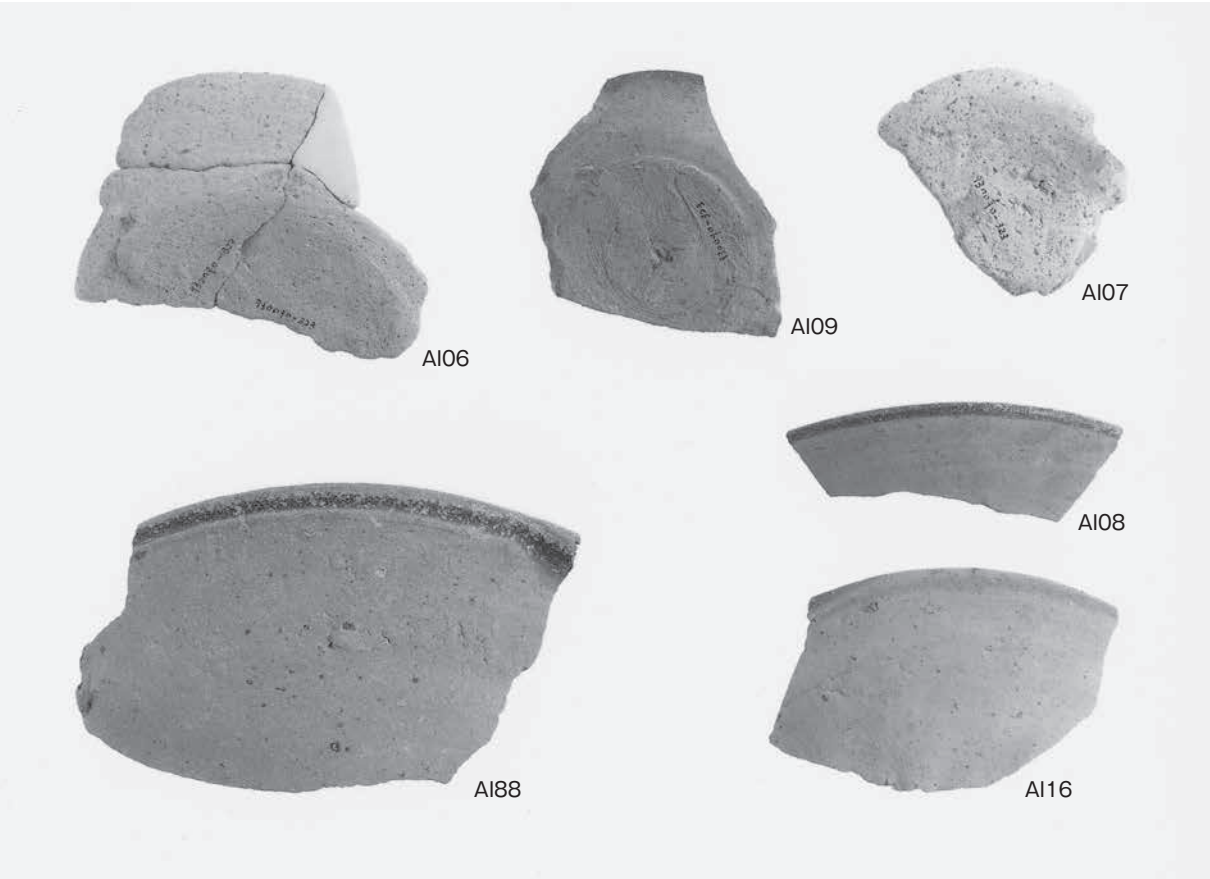
AI89

AI79

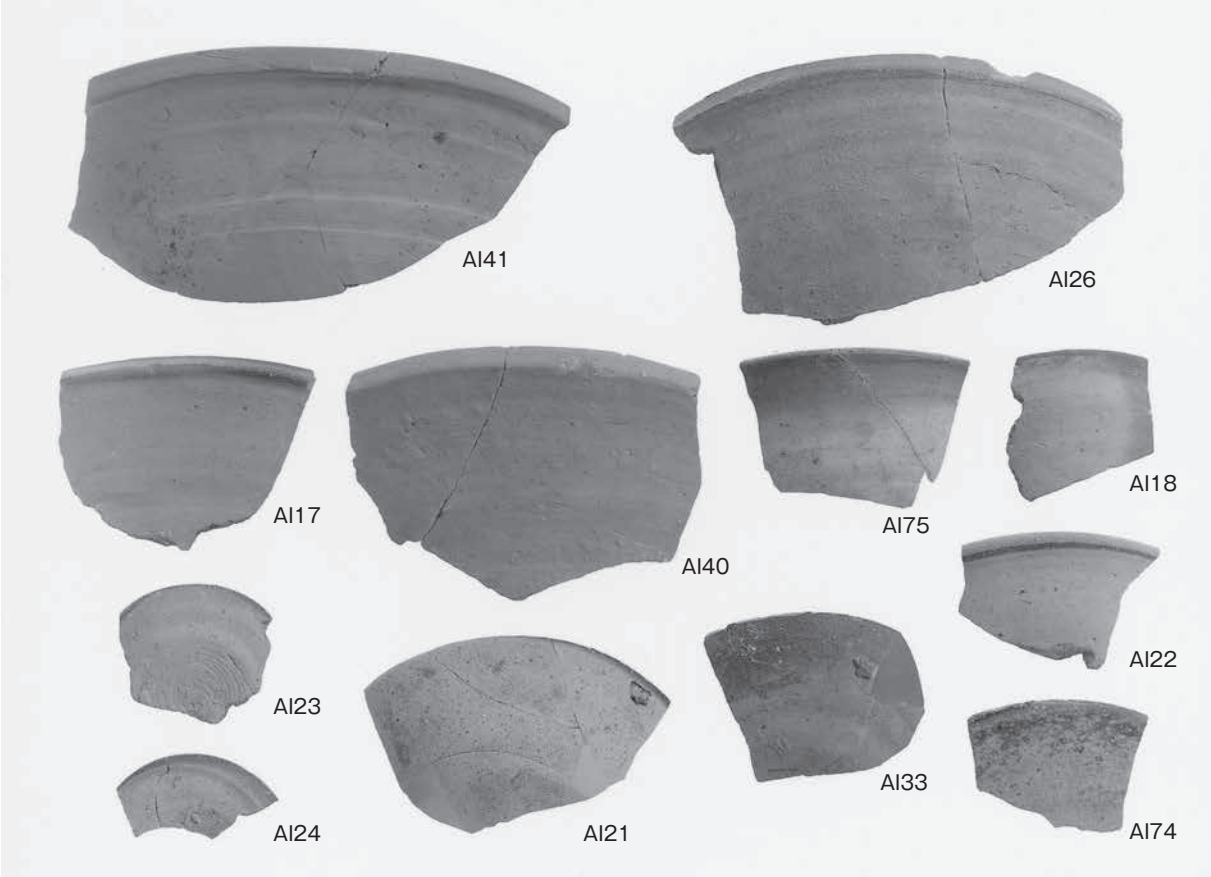
３・６トレンチ出土土器



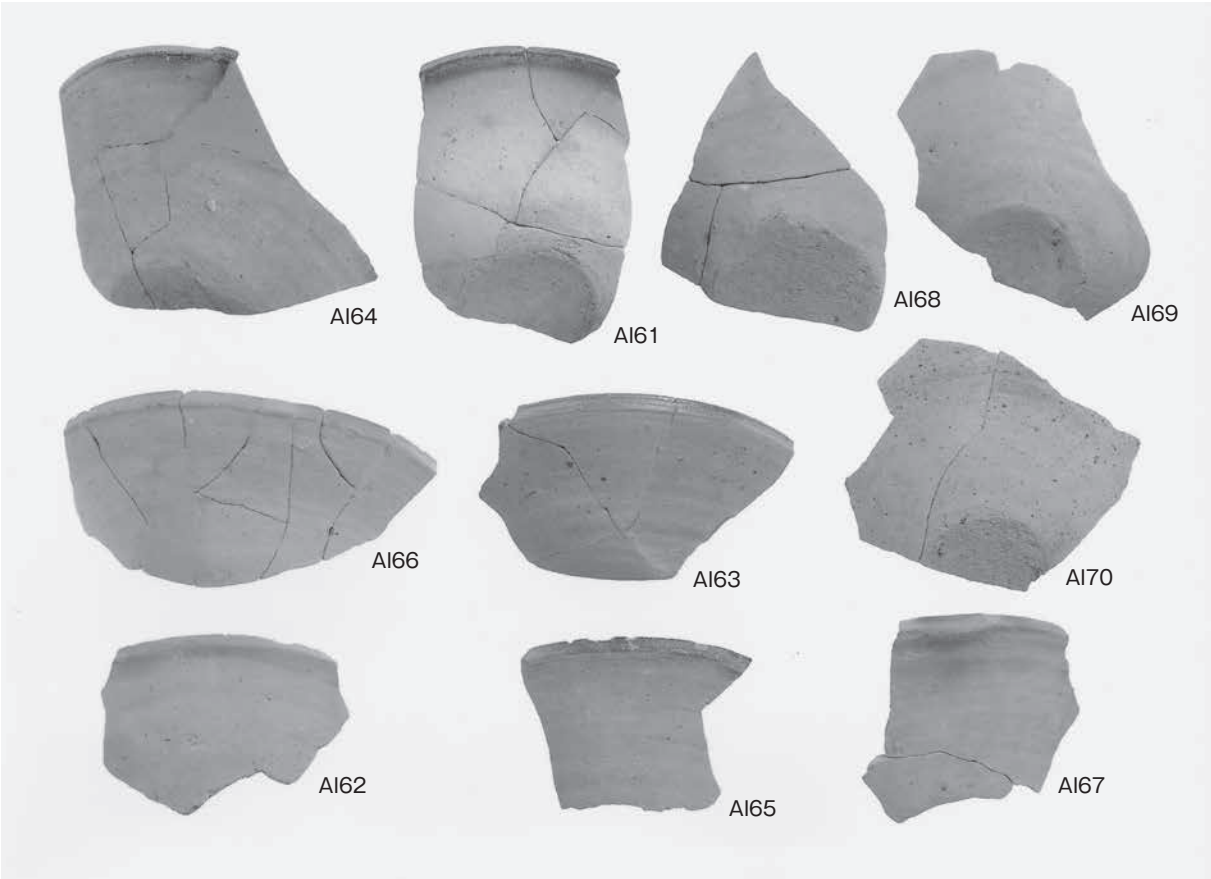
2・8トレンチ出土土器



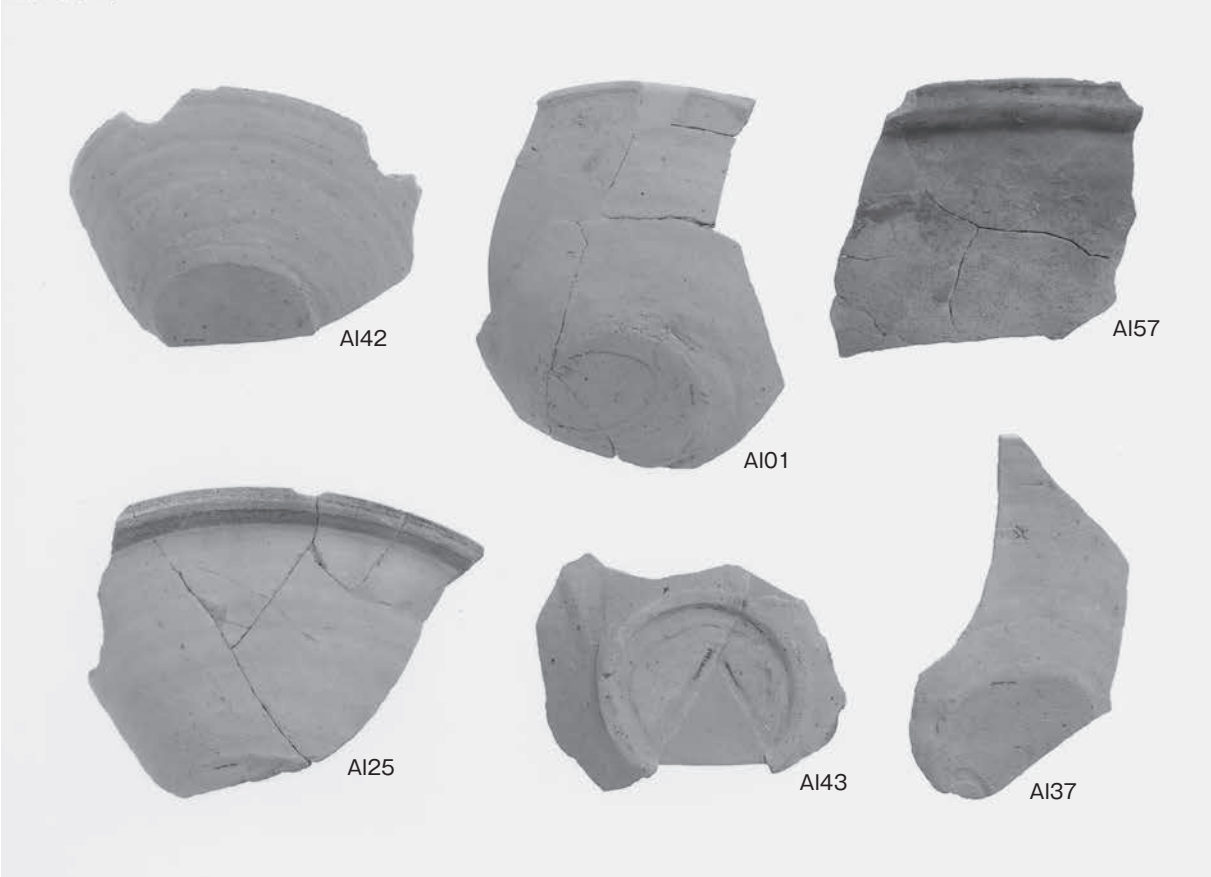
2・6・8トレンチ出土土器



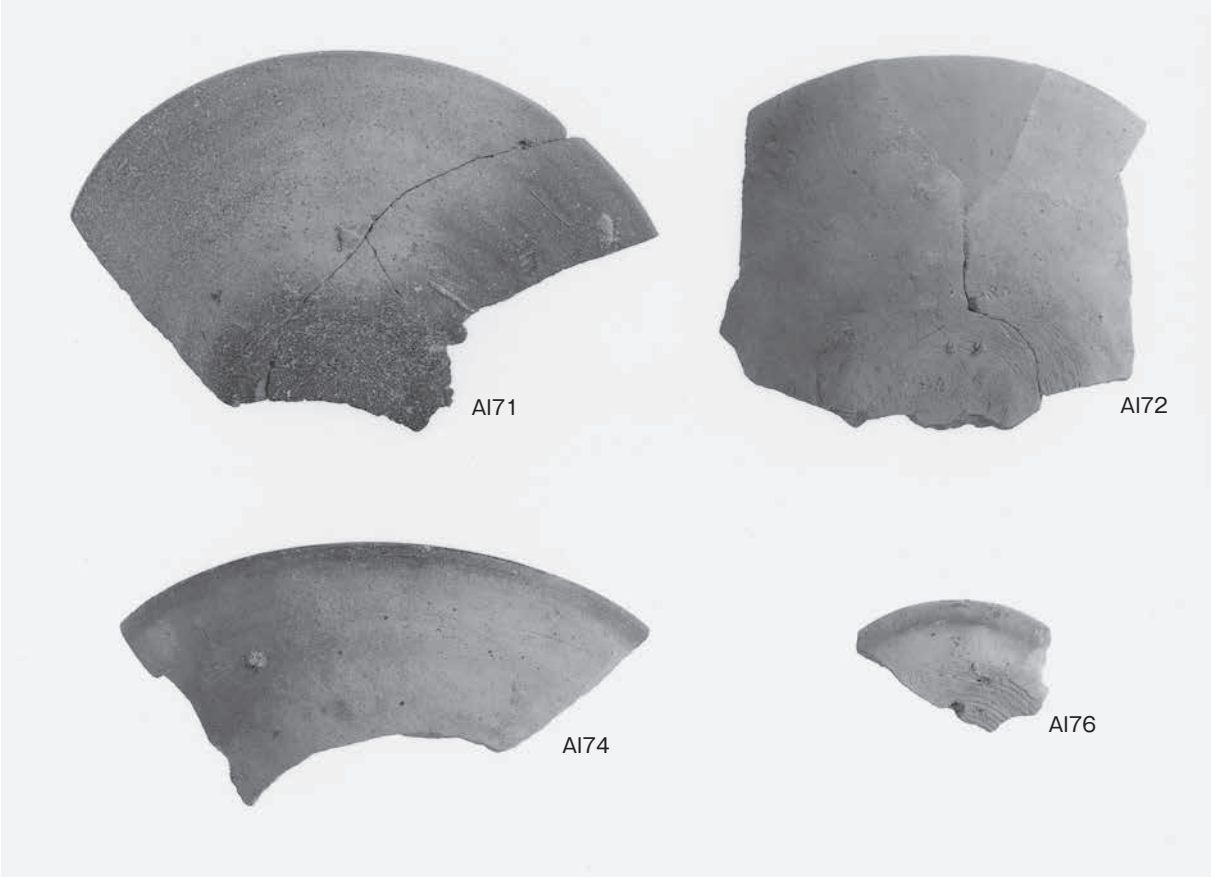
3トレンチ出土土器



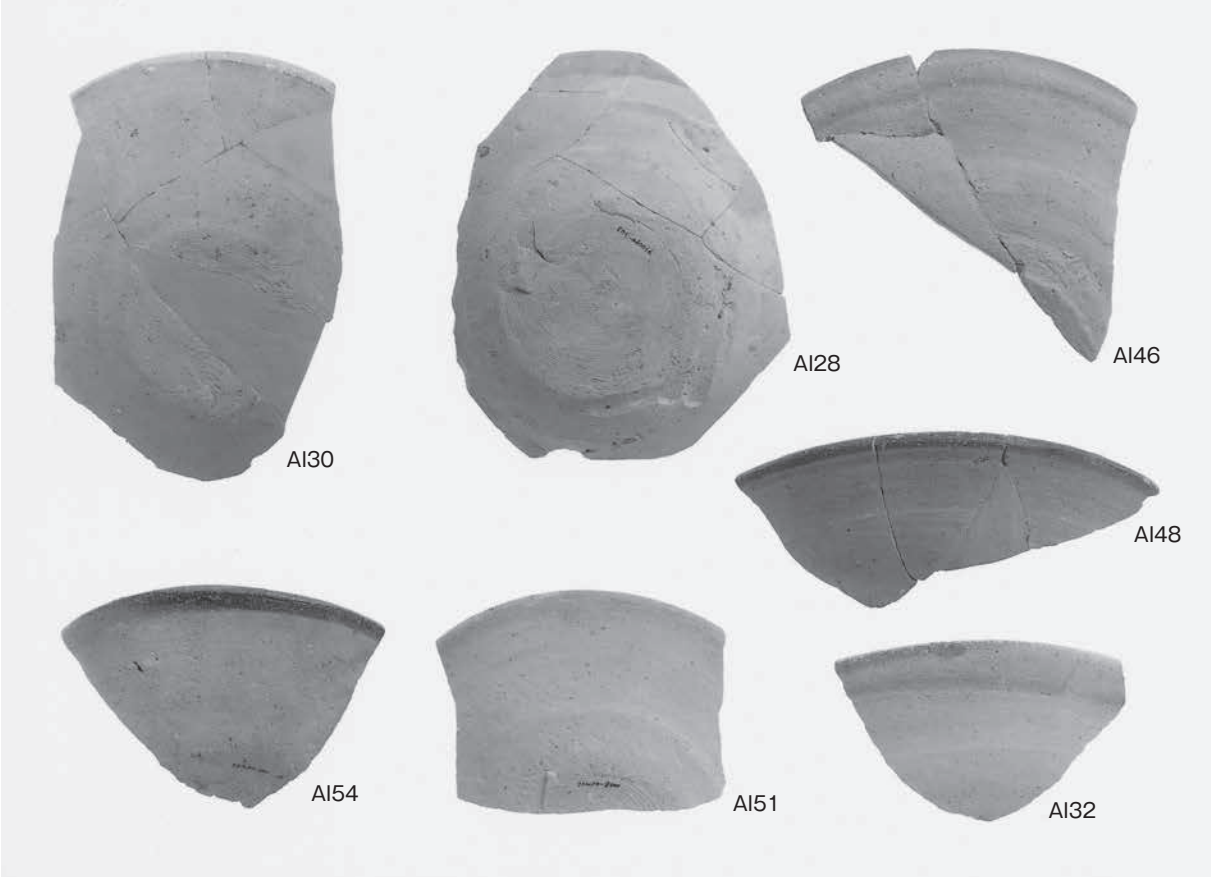
3トレンチ出土土器



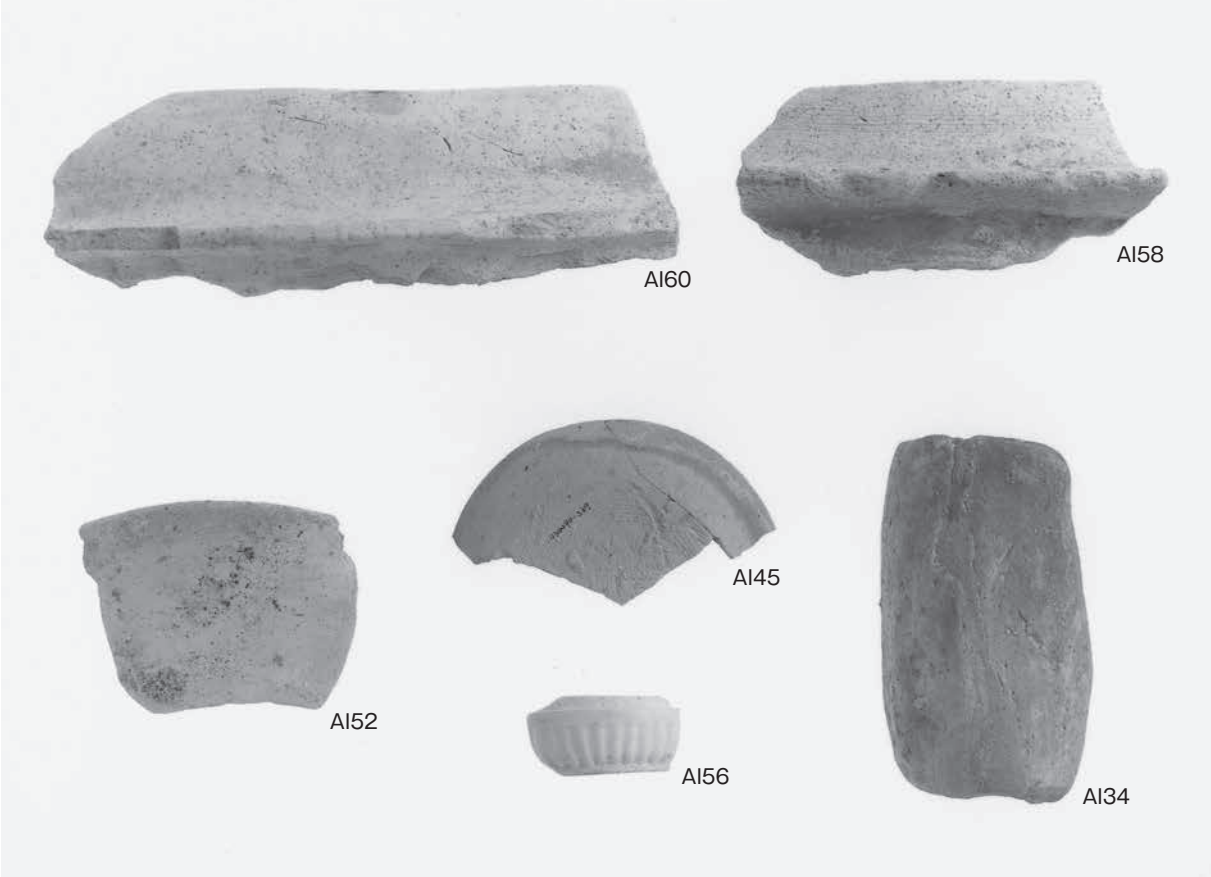
２・３トレンチ出土土器



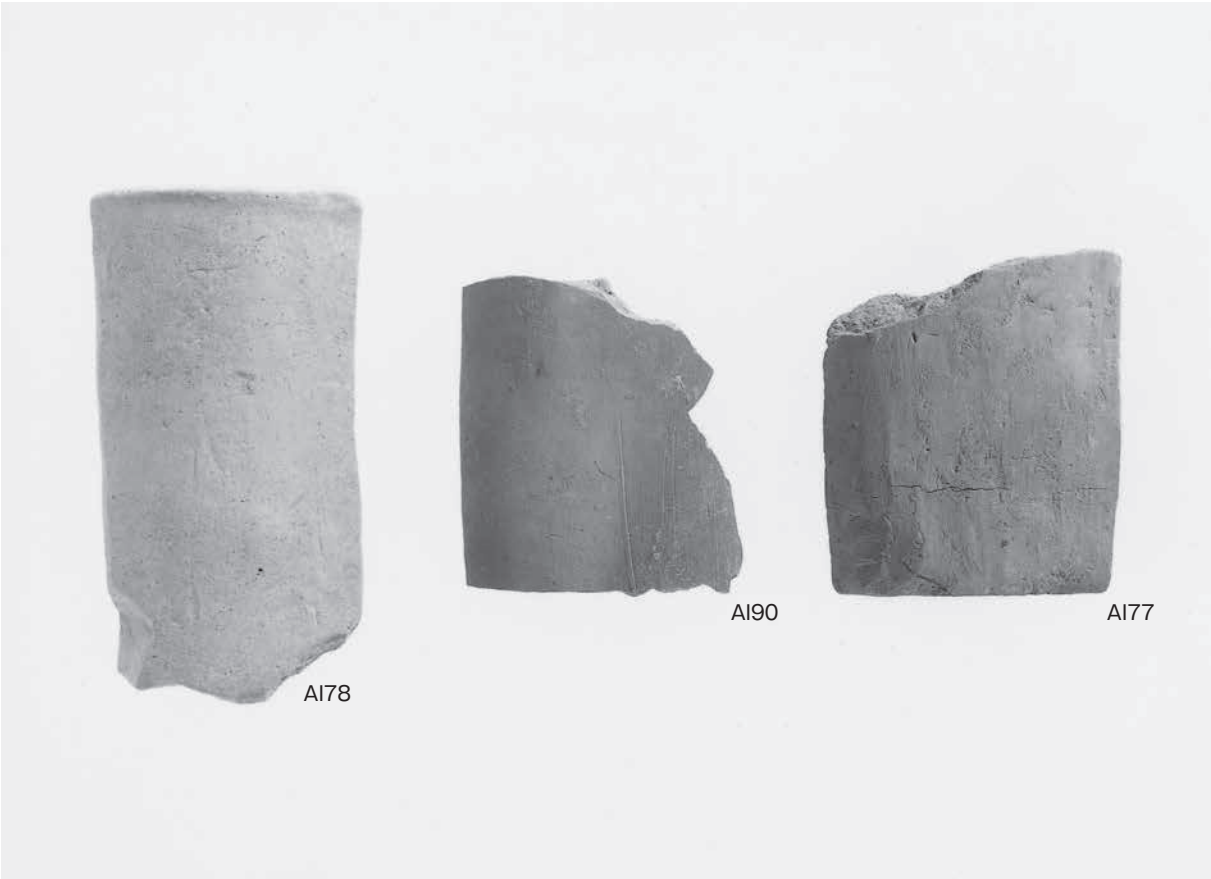
３トレンチ出土土器



3トレンチ出土土器

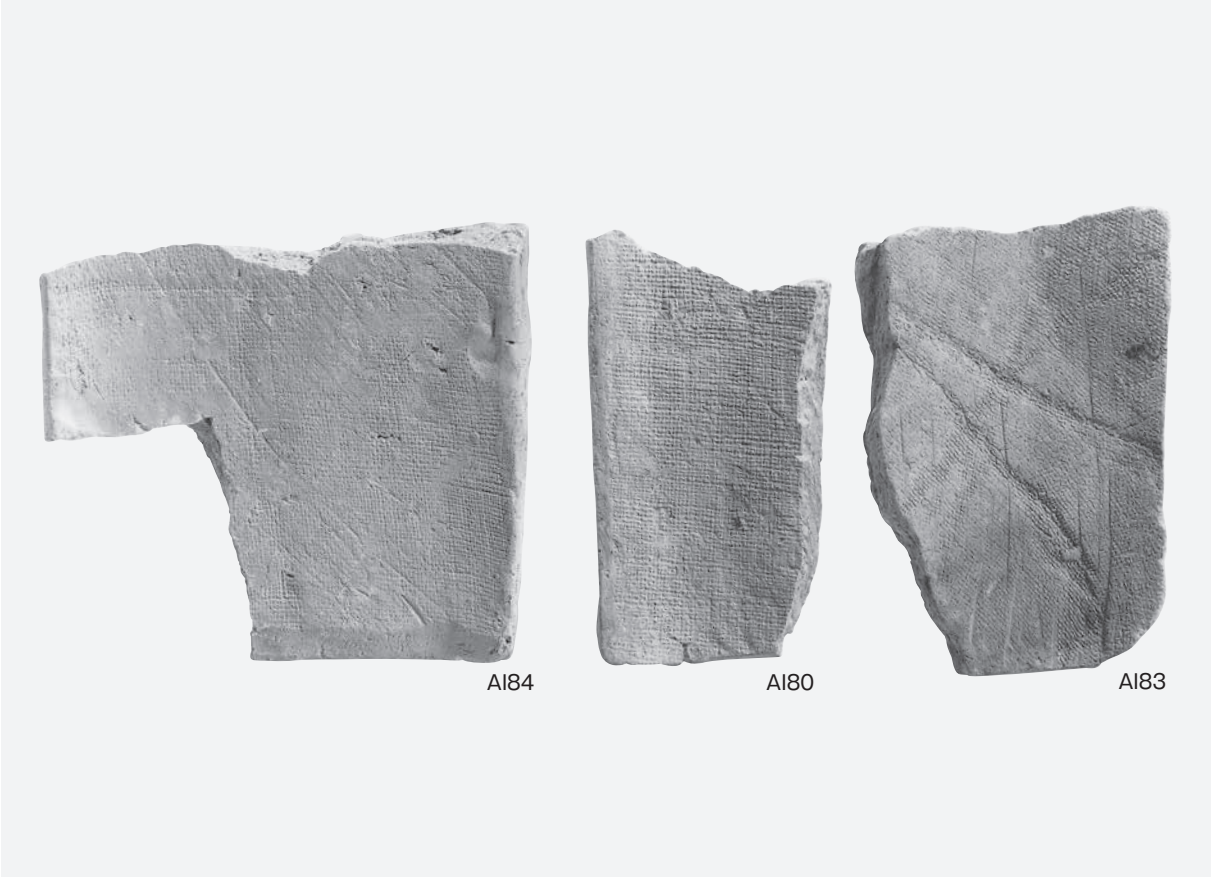


3トレンチ出土土器



3トレンチ出土丸瓦（凸面）

3トレンチ出土丸瓦（凹面）



3トレンチ出土平瓦（凹面）

3トレンチ出土平瓦（凸面）

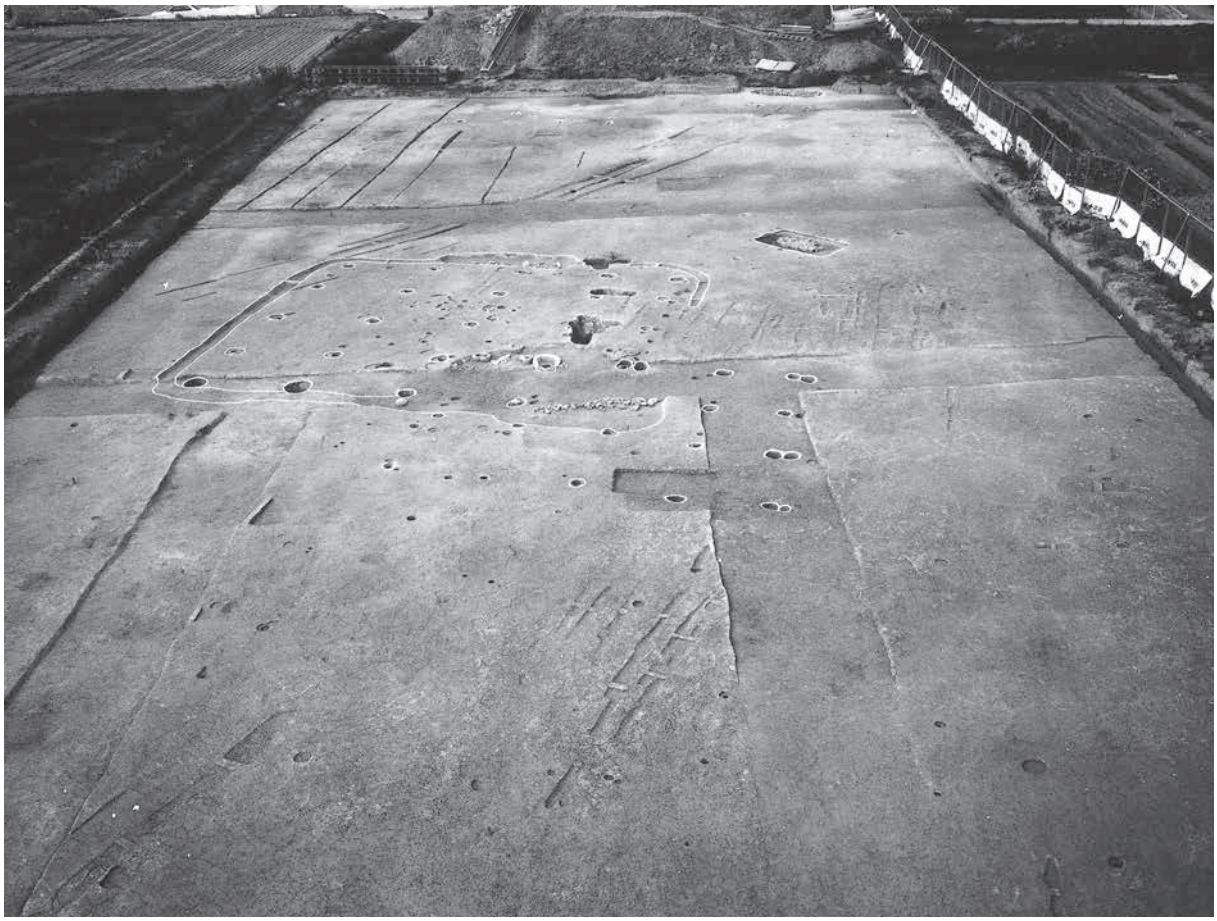
A地区

調査区全景（上空から）

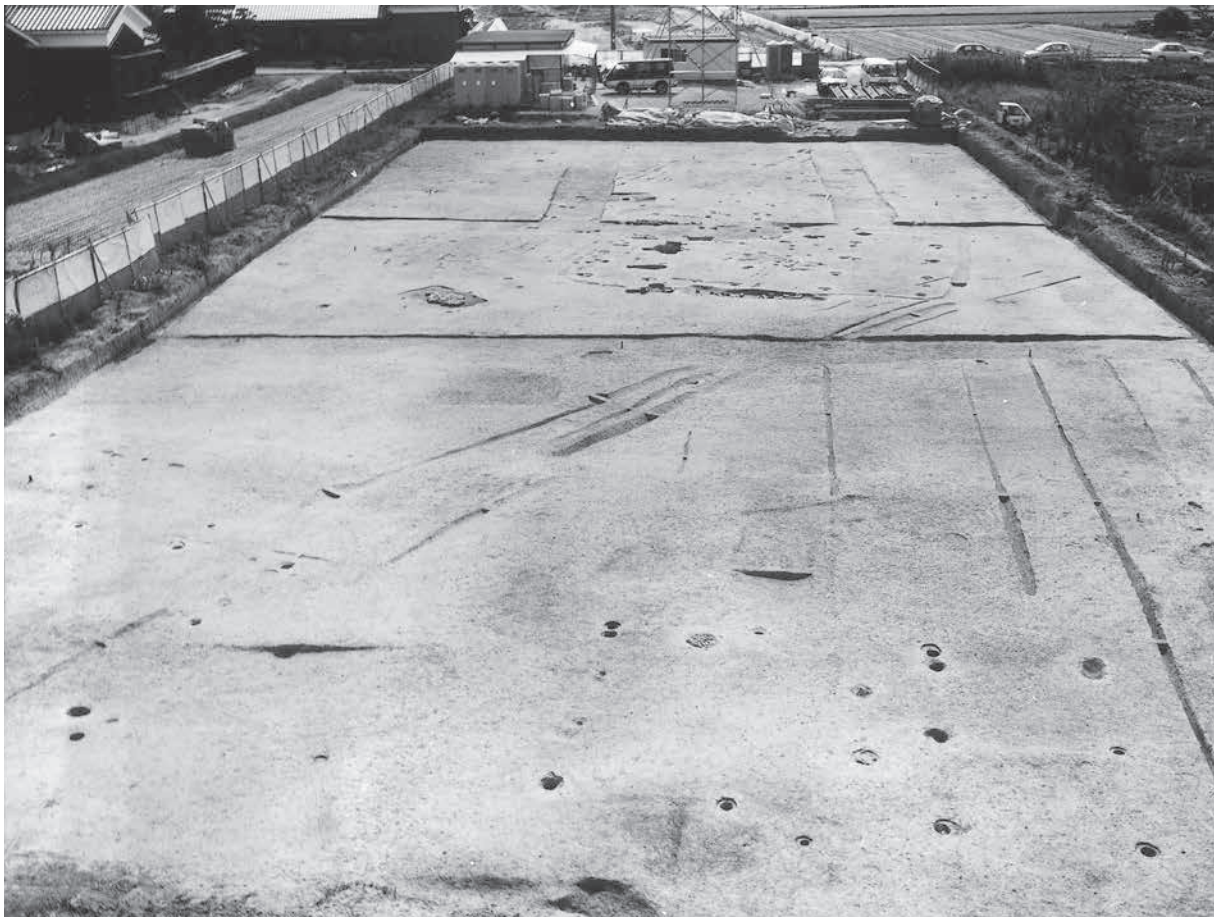
調査区東壁
（南西から）

調査区南壁
（北東から）

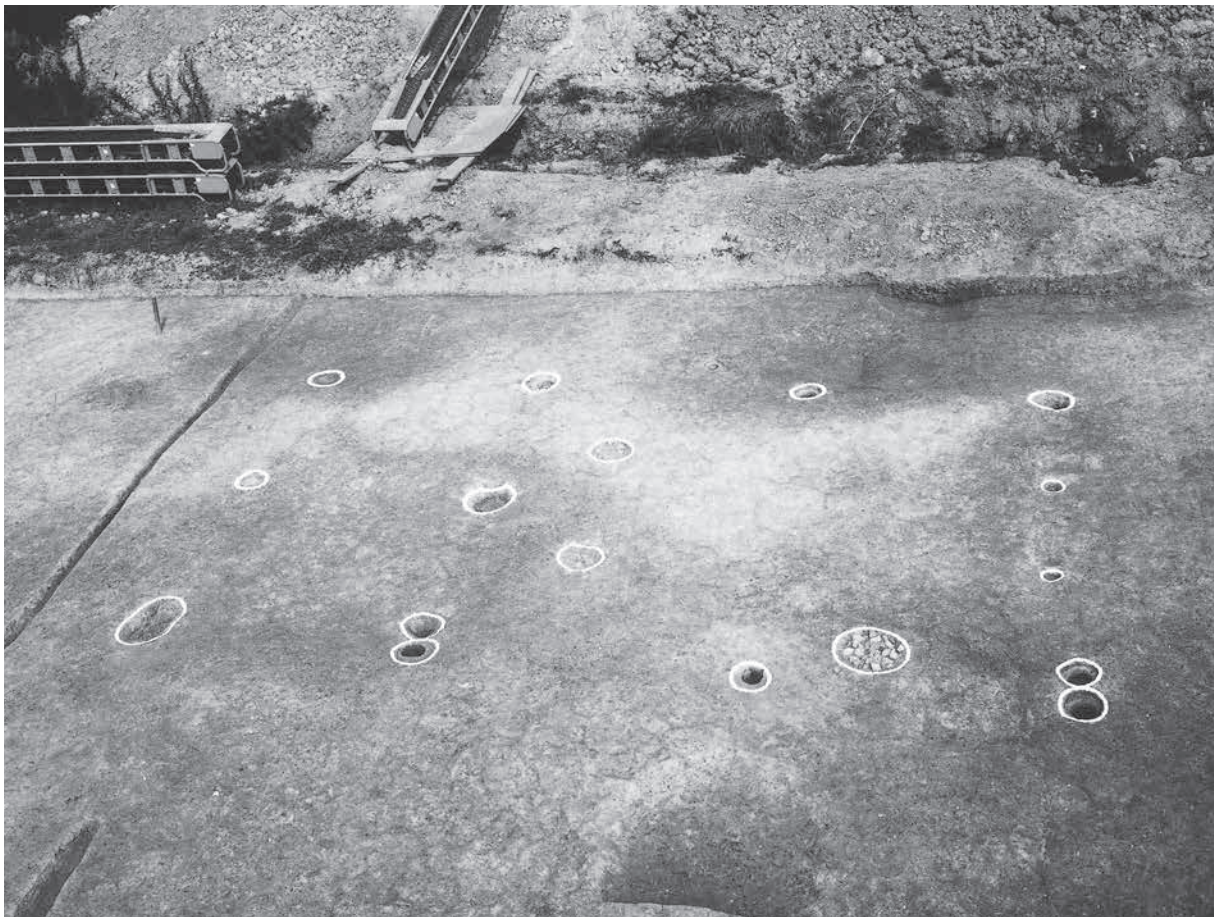
調査区西壁
（南東から）



全景（南から）



全景（北から）

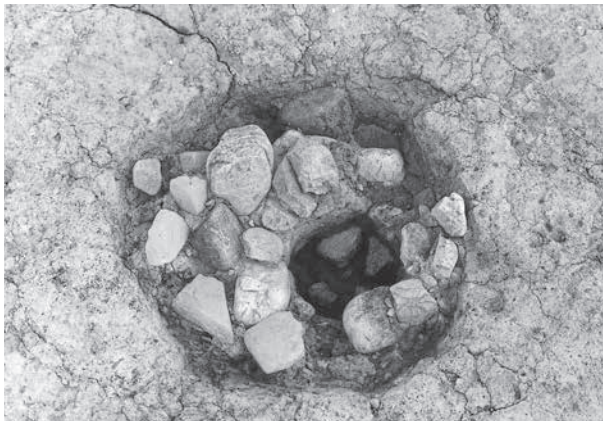


SB01（南から）

SB01（東から）

SB01（P02）検出状況（南西から）

SB01（P03）検出状況（南西から）



SB01（P02）柱痕掘り抜き状況（北東から）

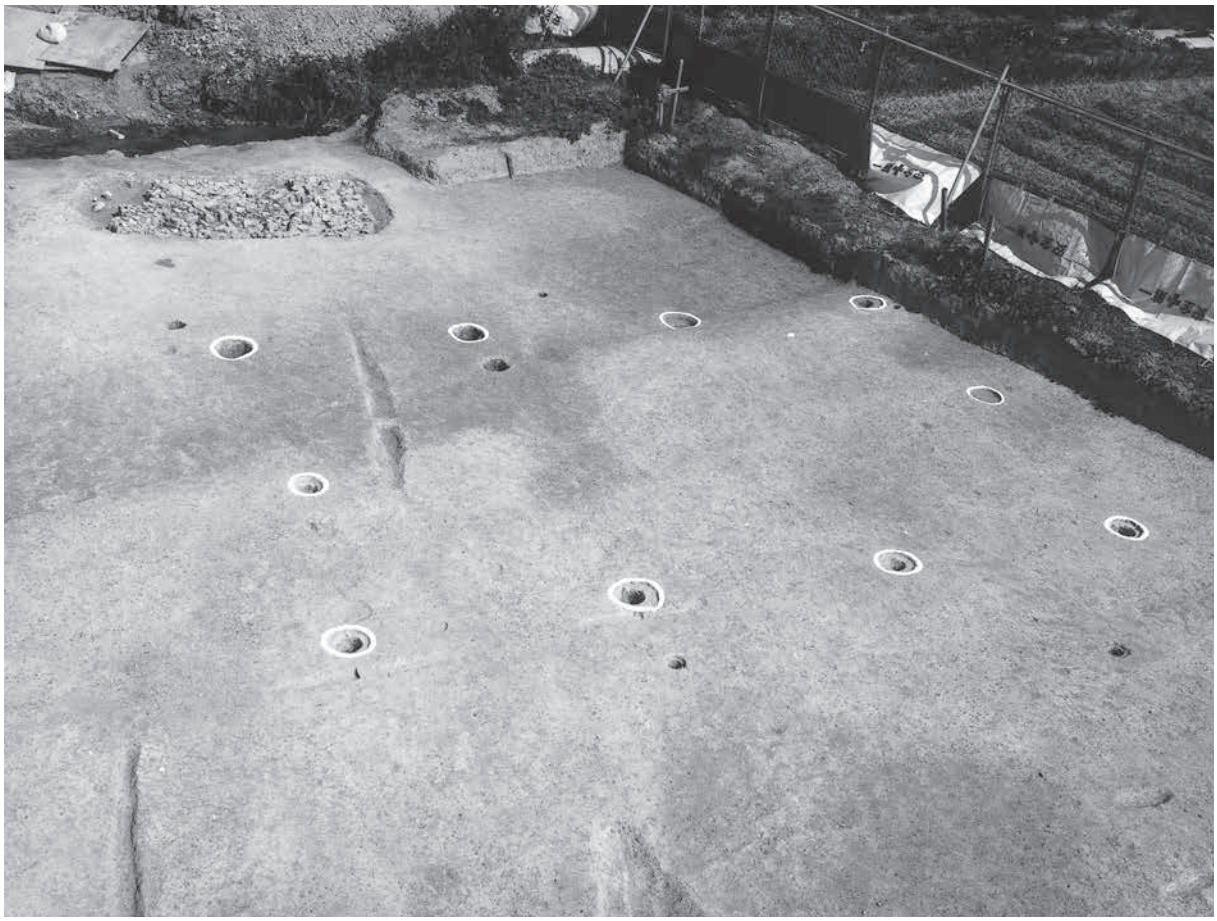
SB01（P03）柱痕掘り抜き状況（東から）

SB01（P02）断ち割り状況（東から）

SB01（P03）断ち割り状況（東から）

SB01（P39）柱痕掘り抜き状況（東から）

SB01（P39）断ち割り状況（東から）

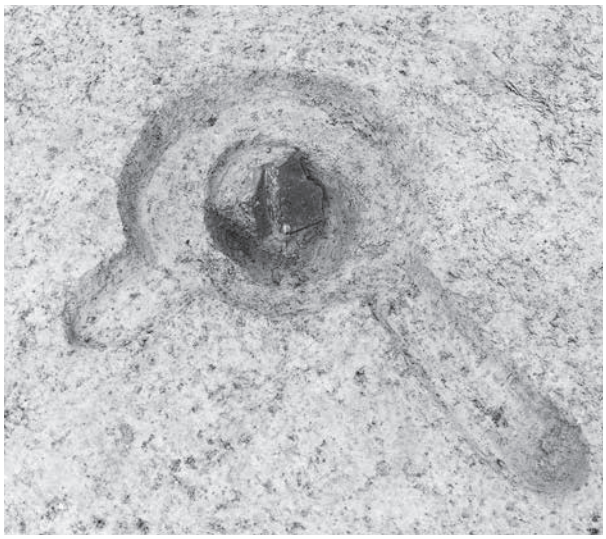


SB02（南西から）

SB02（西から）

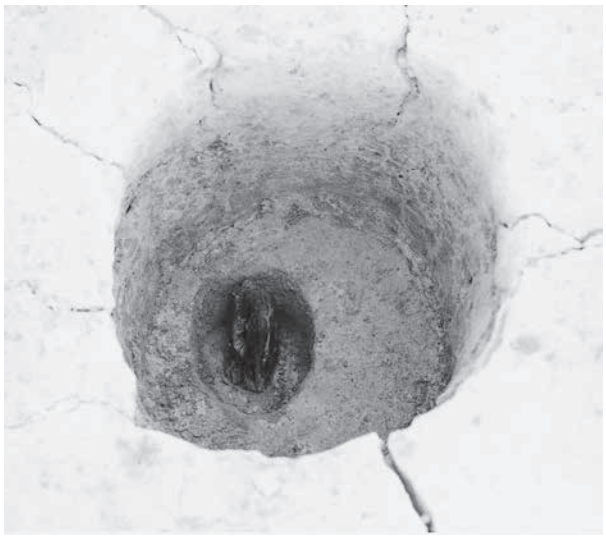
SB03（南から）

SB03（北から）



SB03（PB01）検出状況（東から）

SB03（PC01）断ち割り状況（東から）

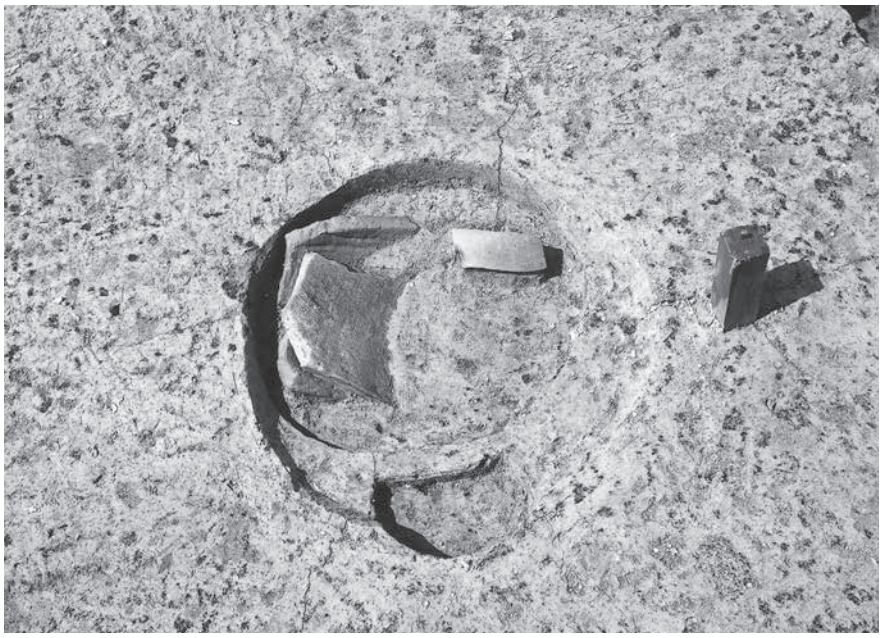


SB03（PB02）柱材検出状況（北から）

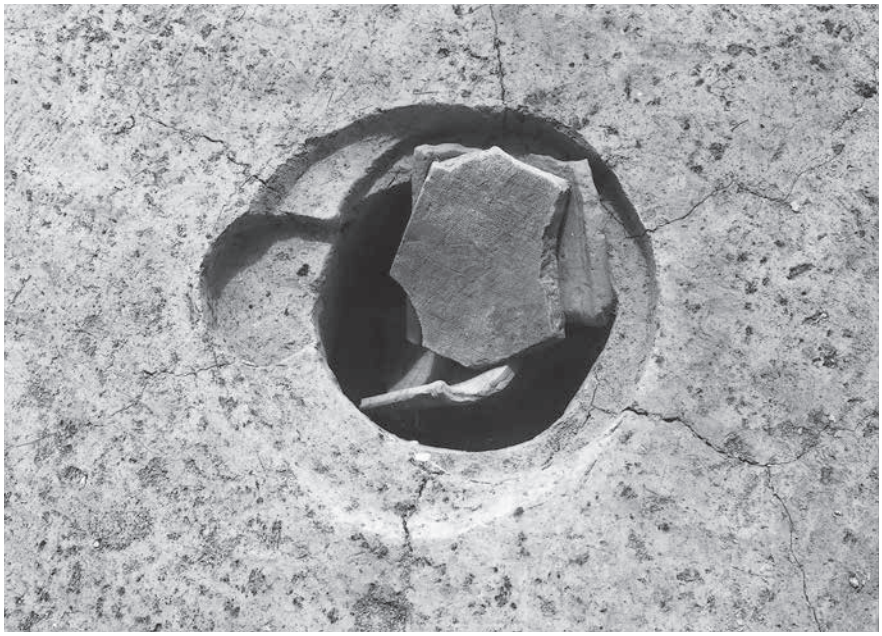
SB03（PD02）断ち割り状況（東から）

SB03（PB05）遺物出土状況（東から）

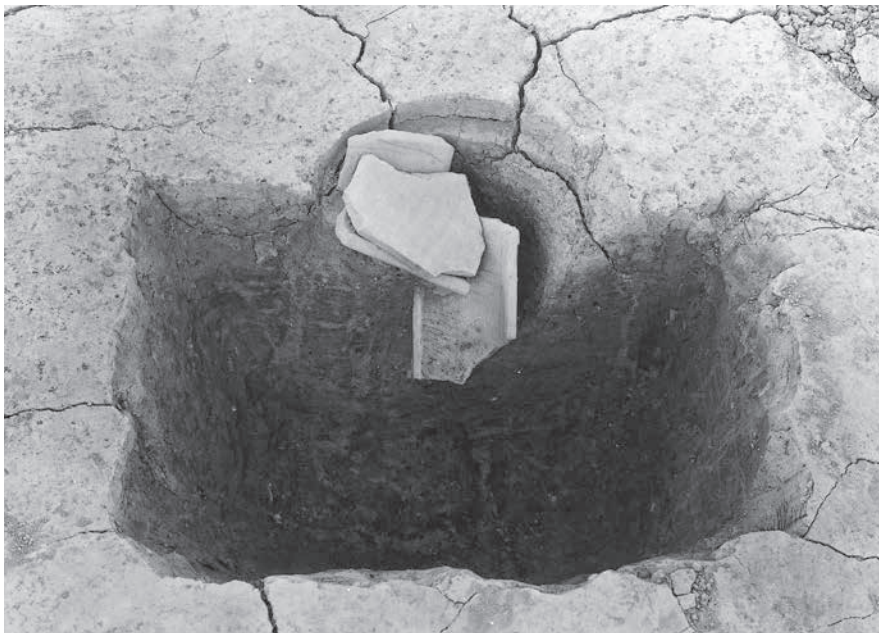
SB03（PE02）断ち割り状況（東から）



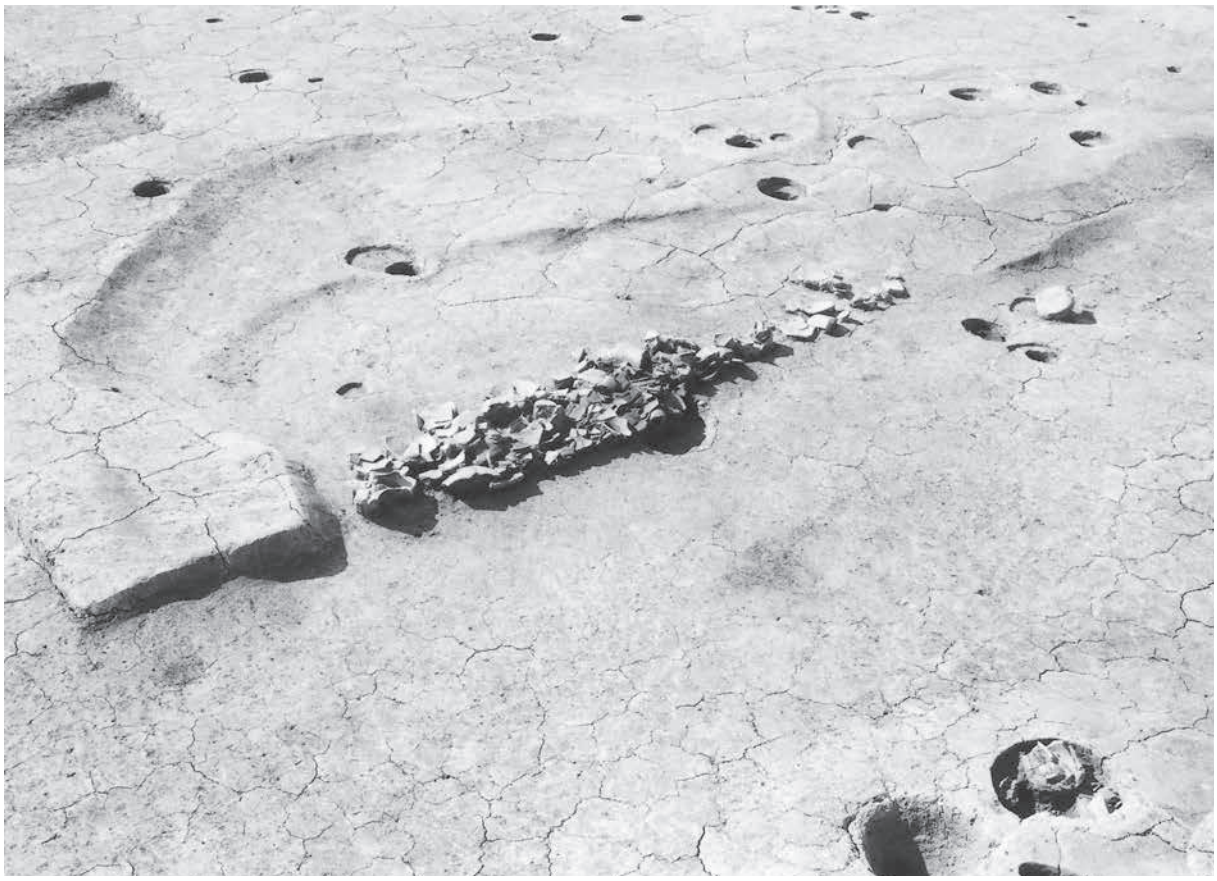
SB03（PE04）検出状況
（南から）



SB03（PE04）掘り抜き状況
（東から）



SB03（PE04）断ち割り状況
（南から）

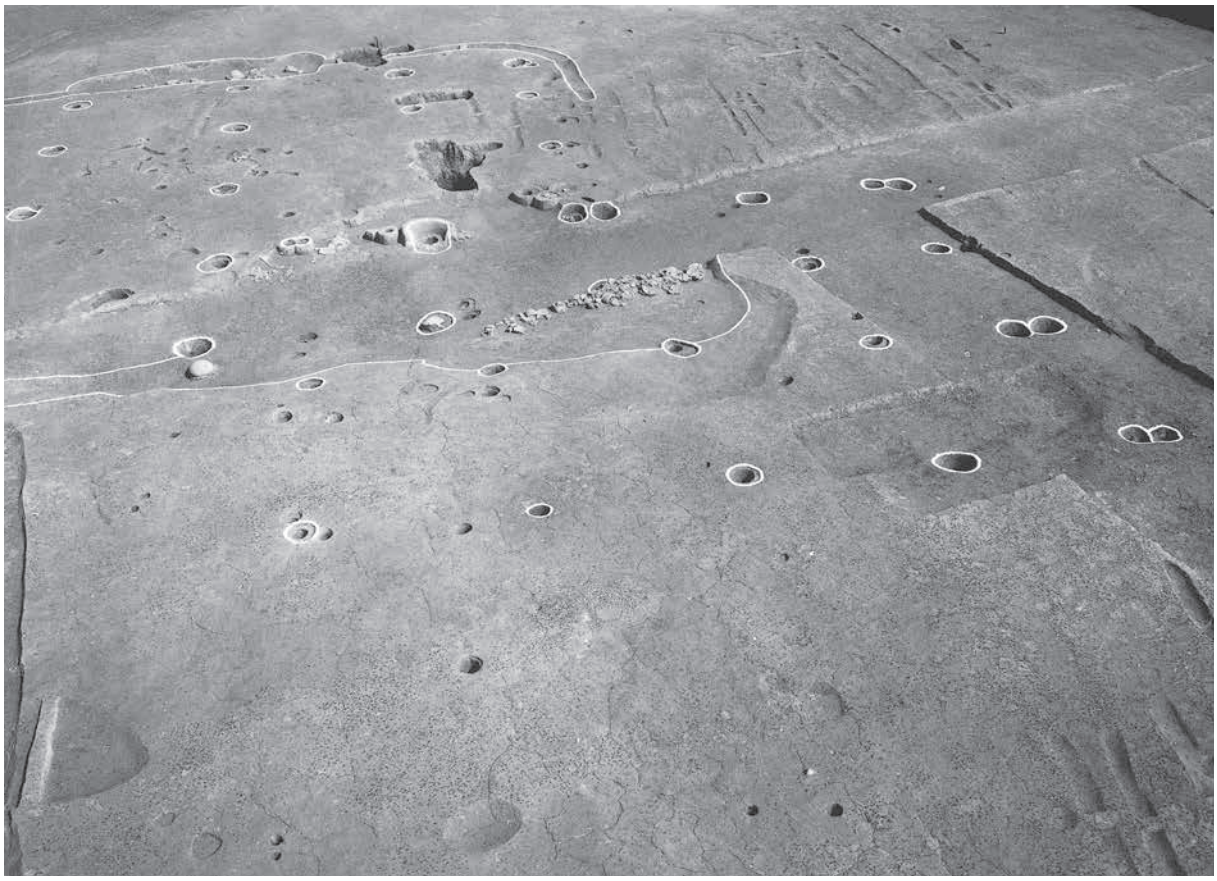


SK03 遺物出土状況（北東から）

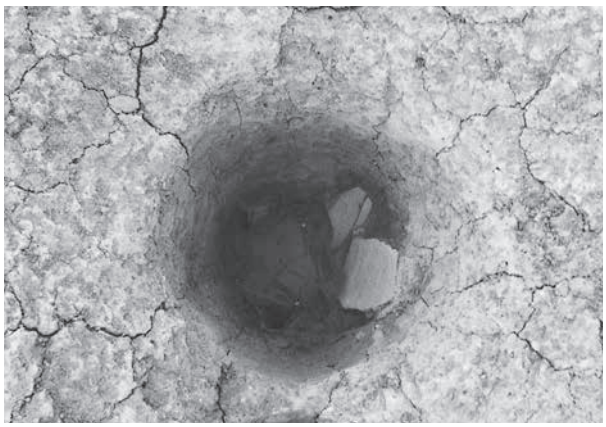
SK03 遺物出土状況（北から）

SB03 内 SD03 東西畦断面（南から）

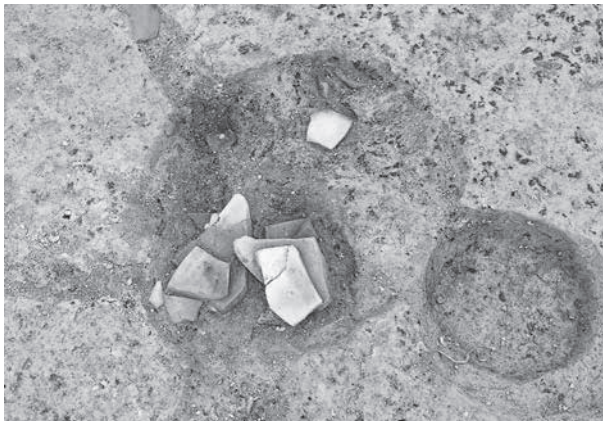
SB03 内 SK07 南北畦断面（東から）



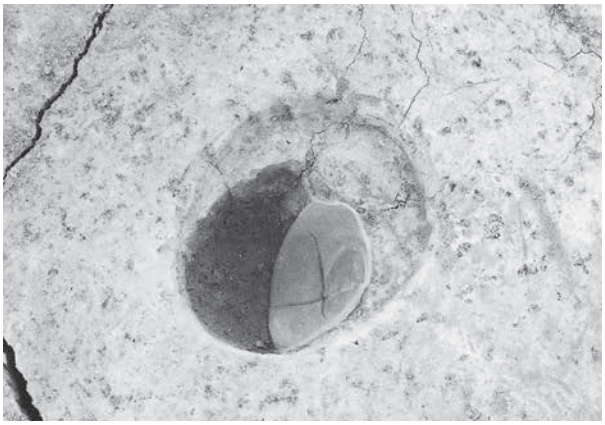
SB04（南西から）



SB04（PA03）遺物出土状況（東から）

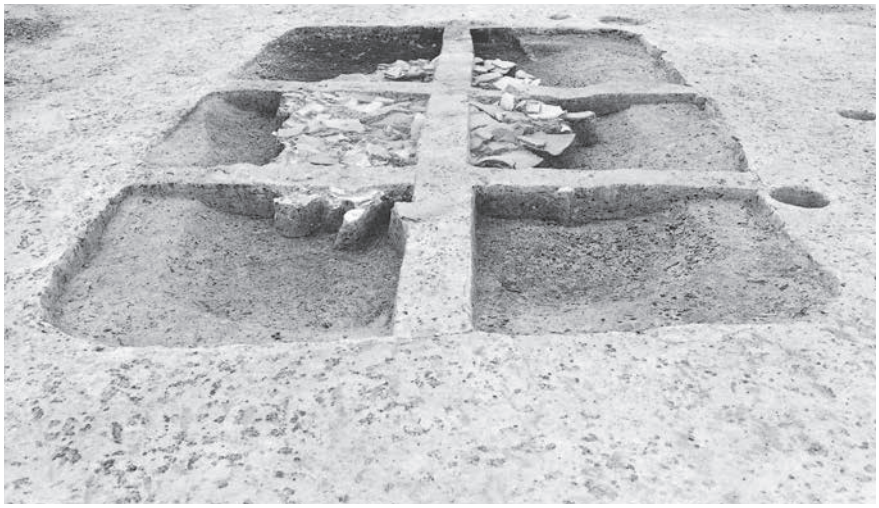


P11 遺物出土状況（南東から）

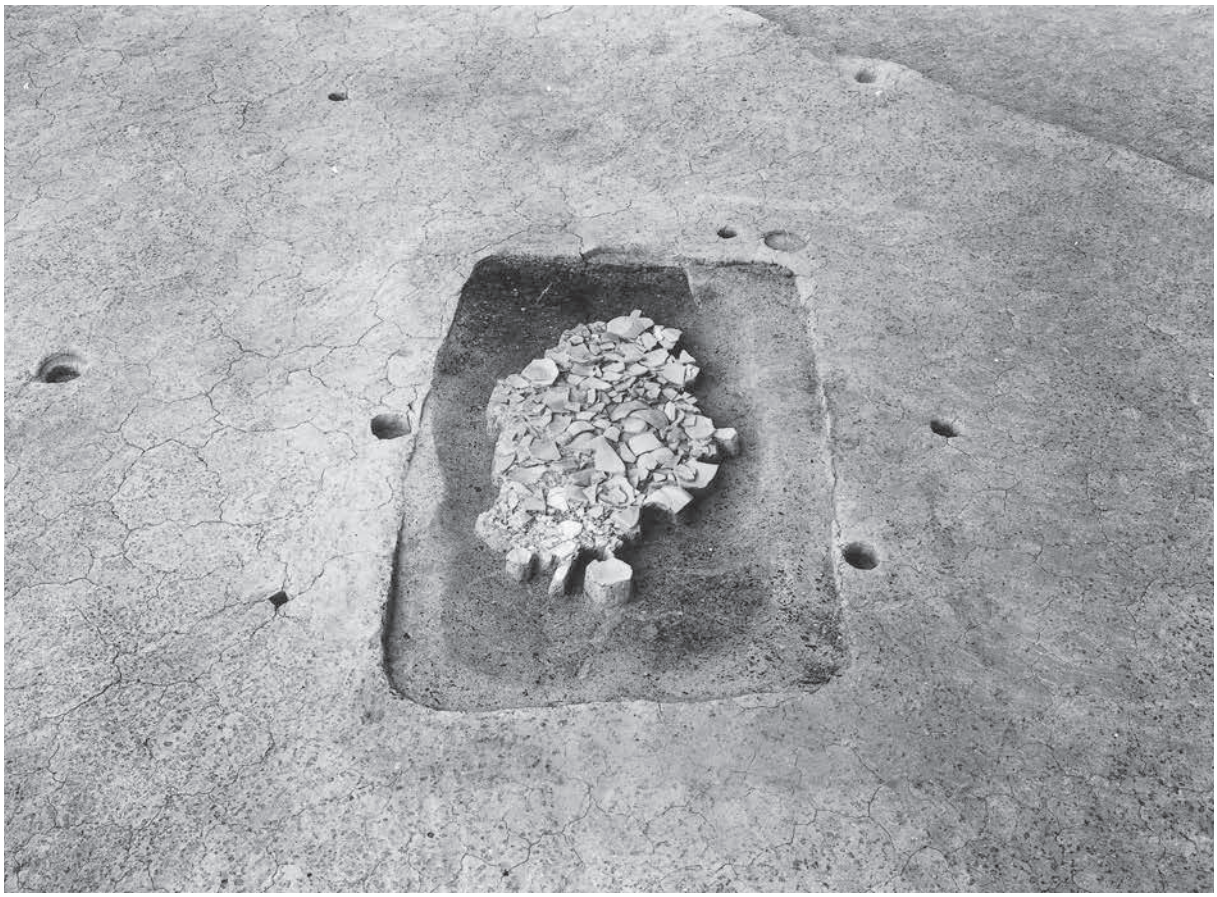


P31 遺物出土状況（東から）

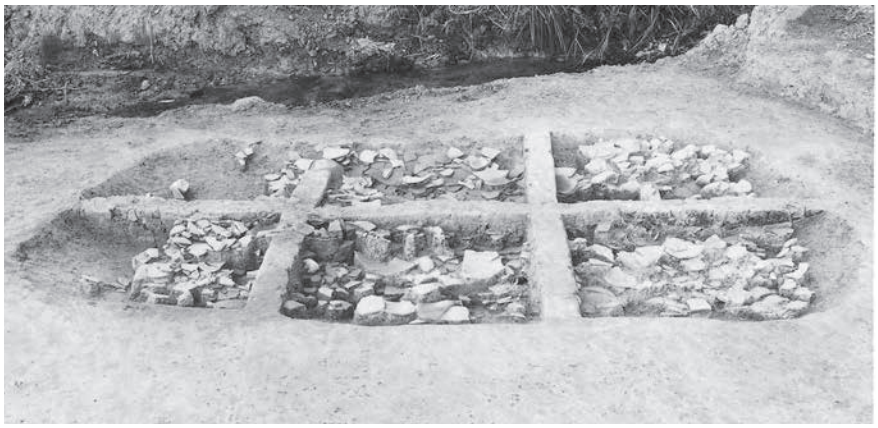
炭窯 01 東西畦断面
（北から）



炭窯 01 南北畦断面
（東から）



炭窯 01（東から）



炭窯 02 東西畦断面
（南から）

炭窯 02 南北畦断面
（東から）

炭窯 02（東から）

A13

A24

A25

A26

A37

A18

A17

A27

A28

A29

A30

A31

SB03 出土土器

A41

A45

A49

A50

A51

A56

A58

A60

A59

A64

柱穴・炭窯 01 出土土器

A69

A80

A74

A81

A75

A83

A84

A87

A85

A89

A86

炭窯 02 出土土器

A95

A98

A96

A100

A101

A115

A119

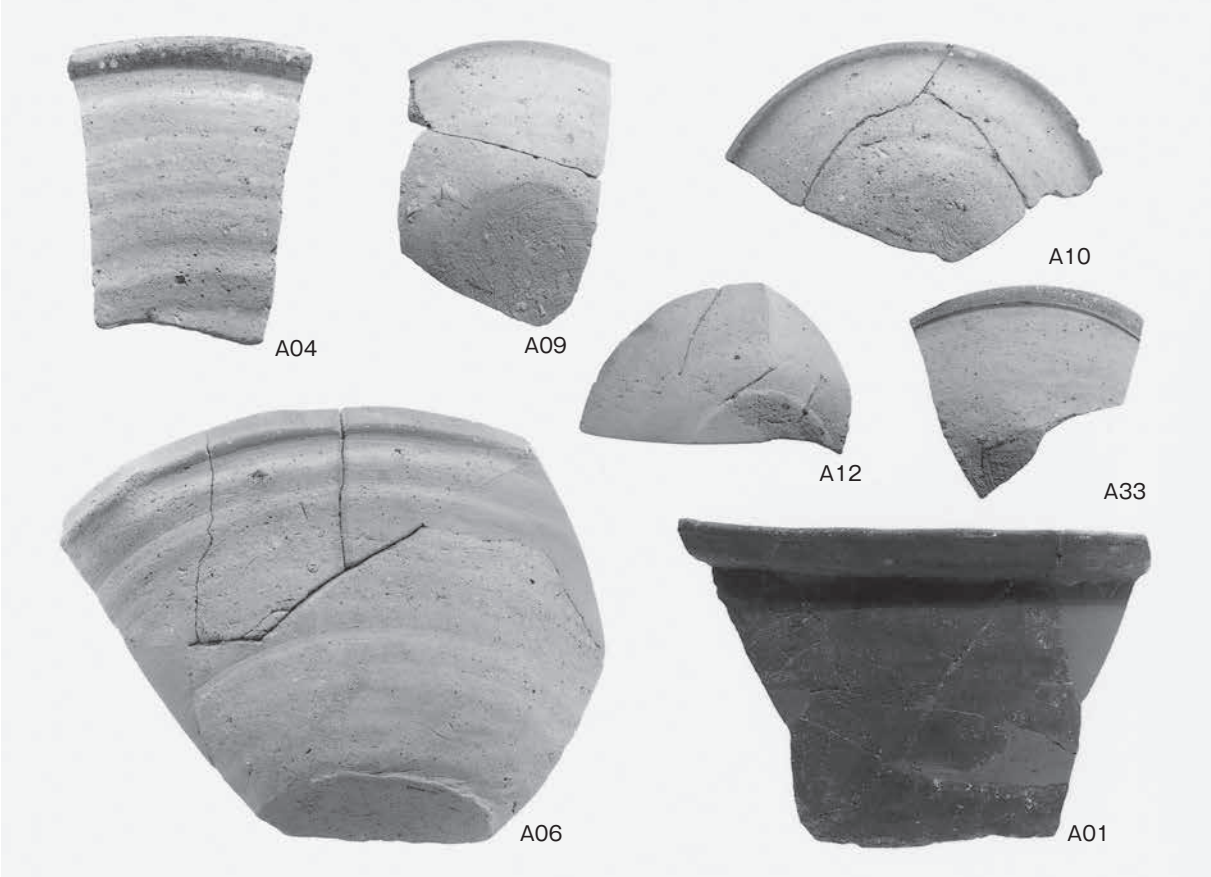
A120

A116

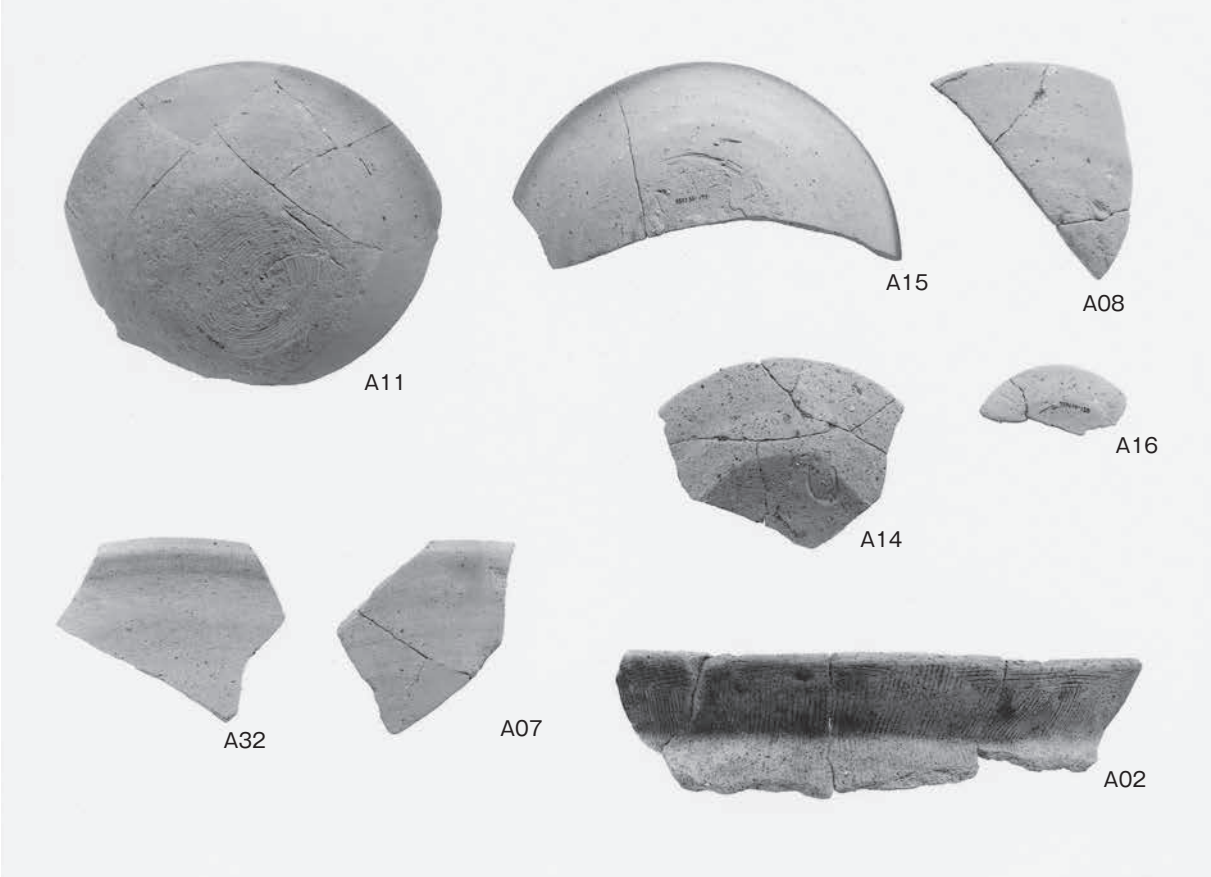
A132

A130

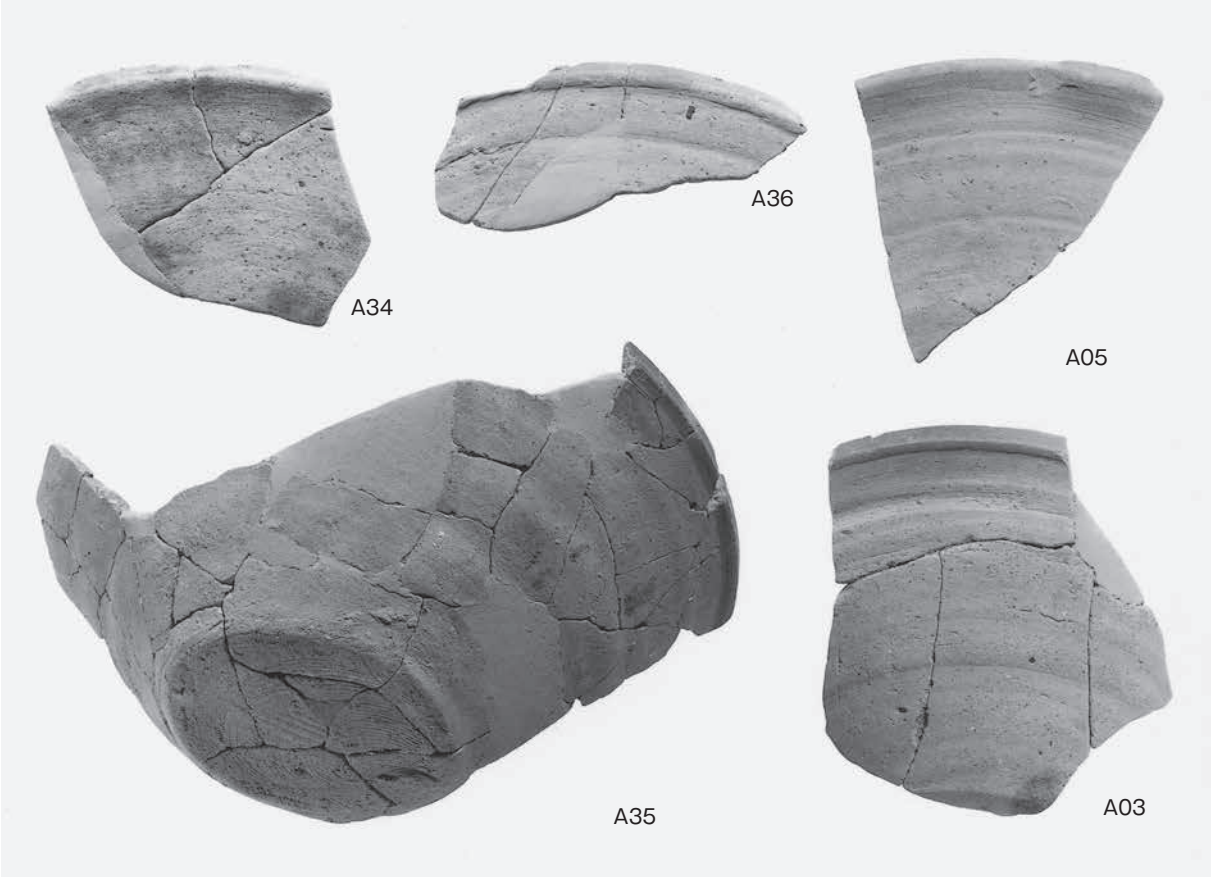
炭窯 02・SK03・包含層出土土器



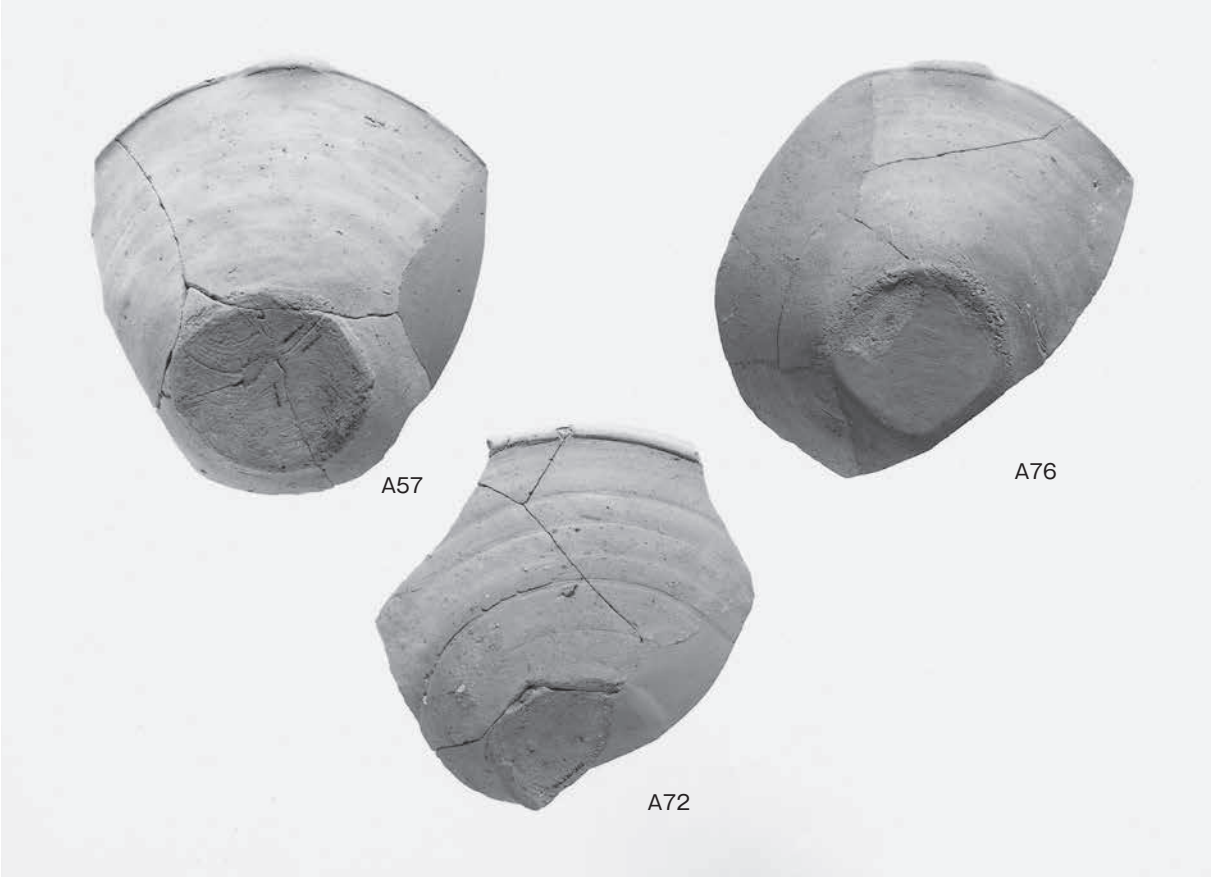
SB03 出土土器



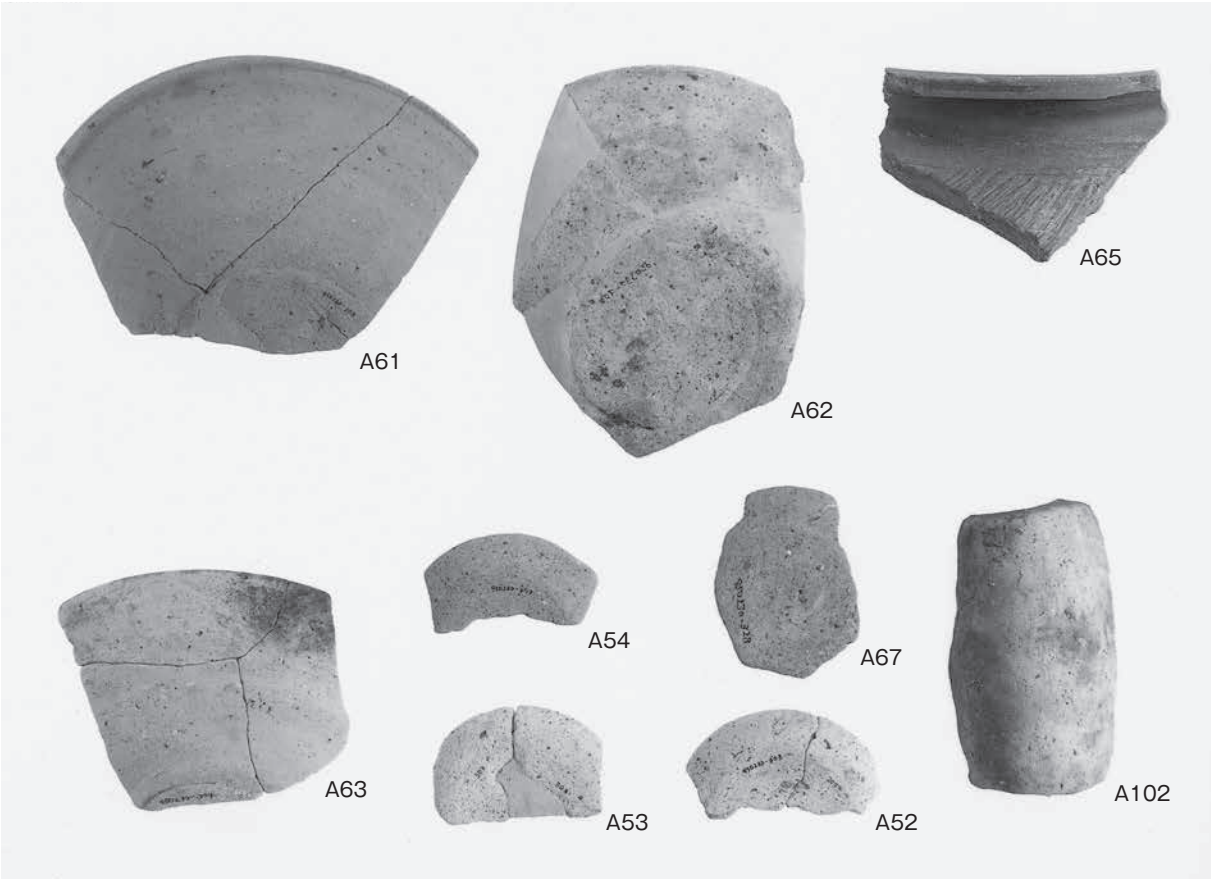
SB03 出土土器



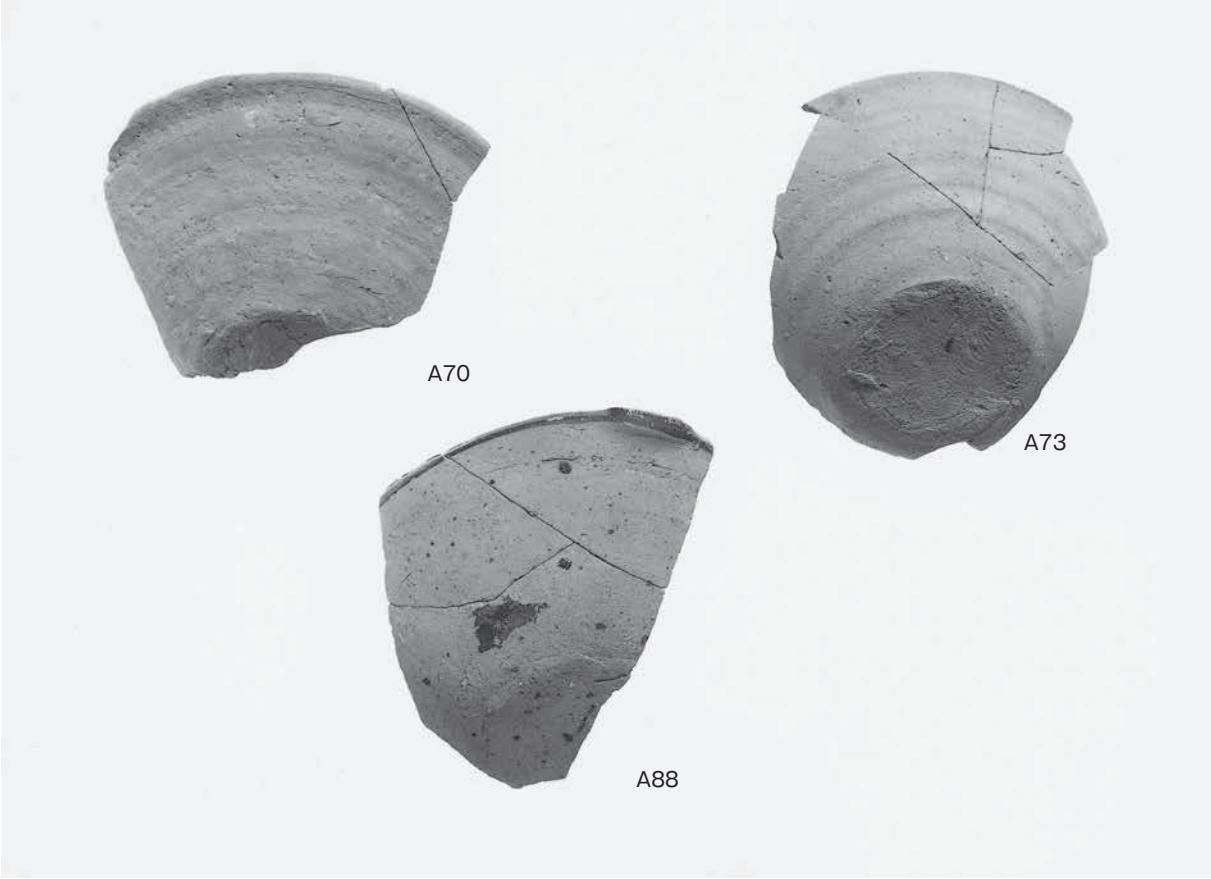
SB03・04 出土土器



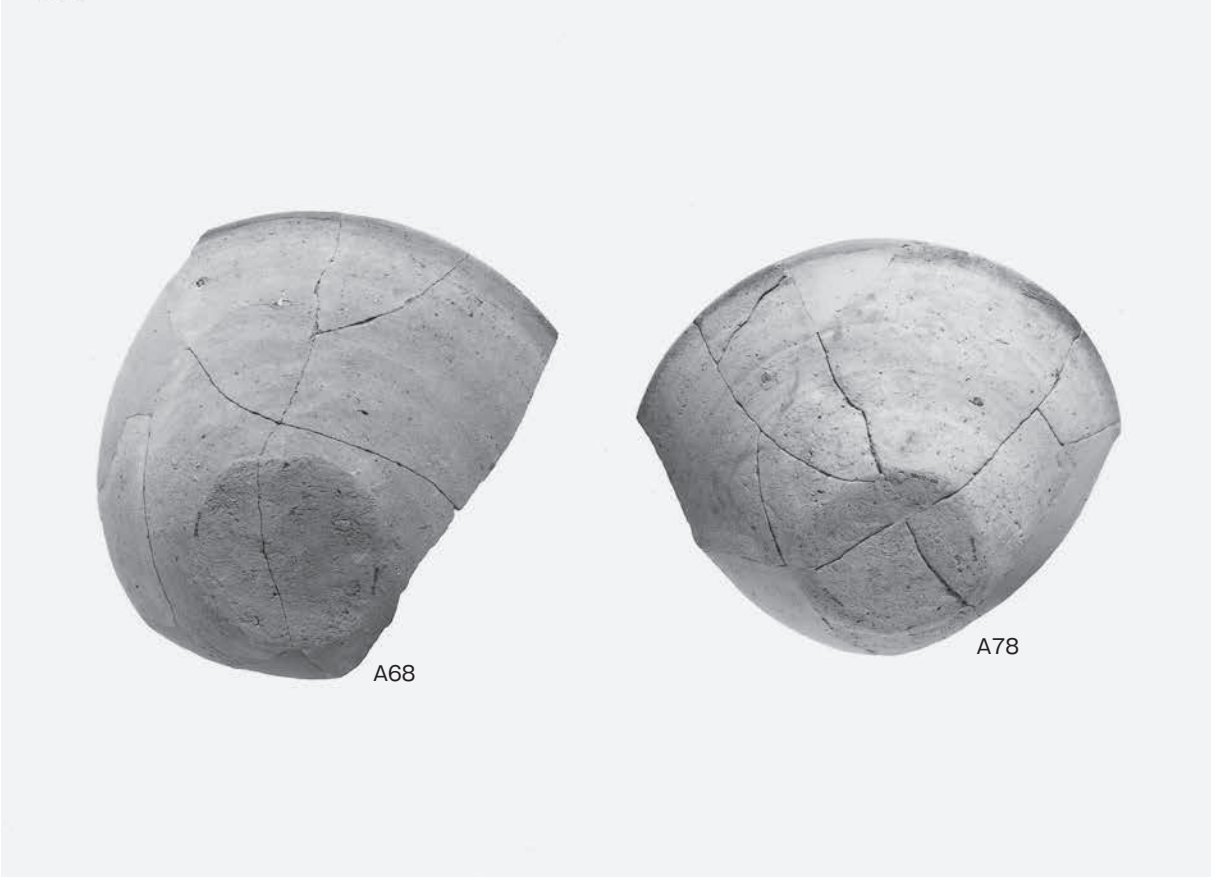
炭窯 01・02 出土土器



炭窯 01・02 出土土器

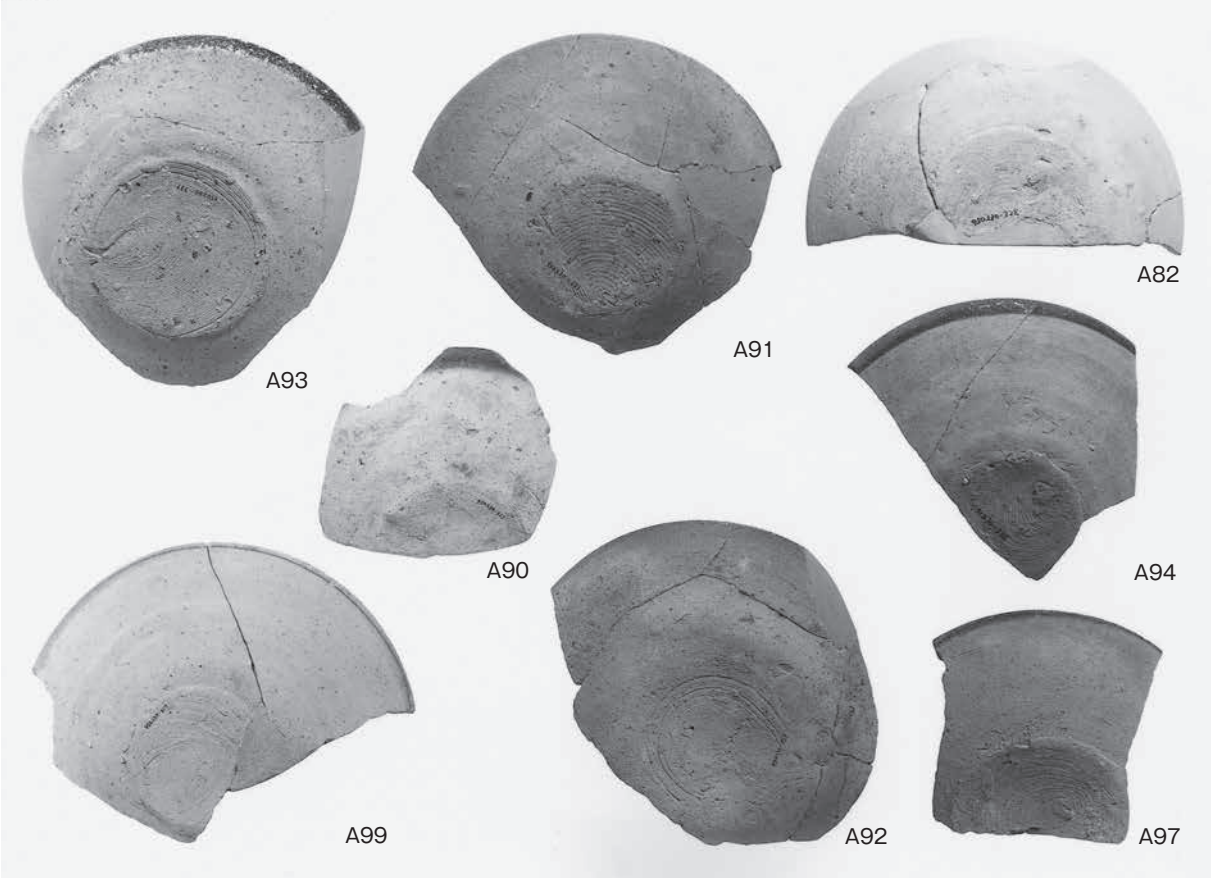


炭窯 02 出土土器

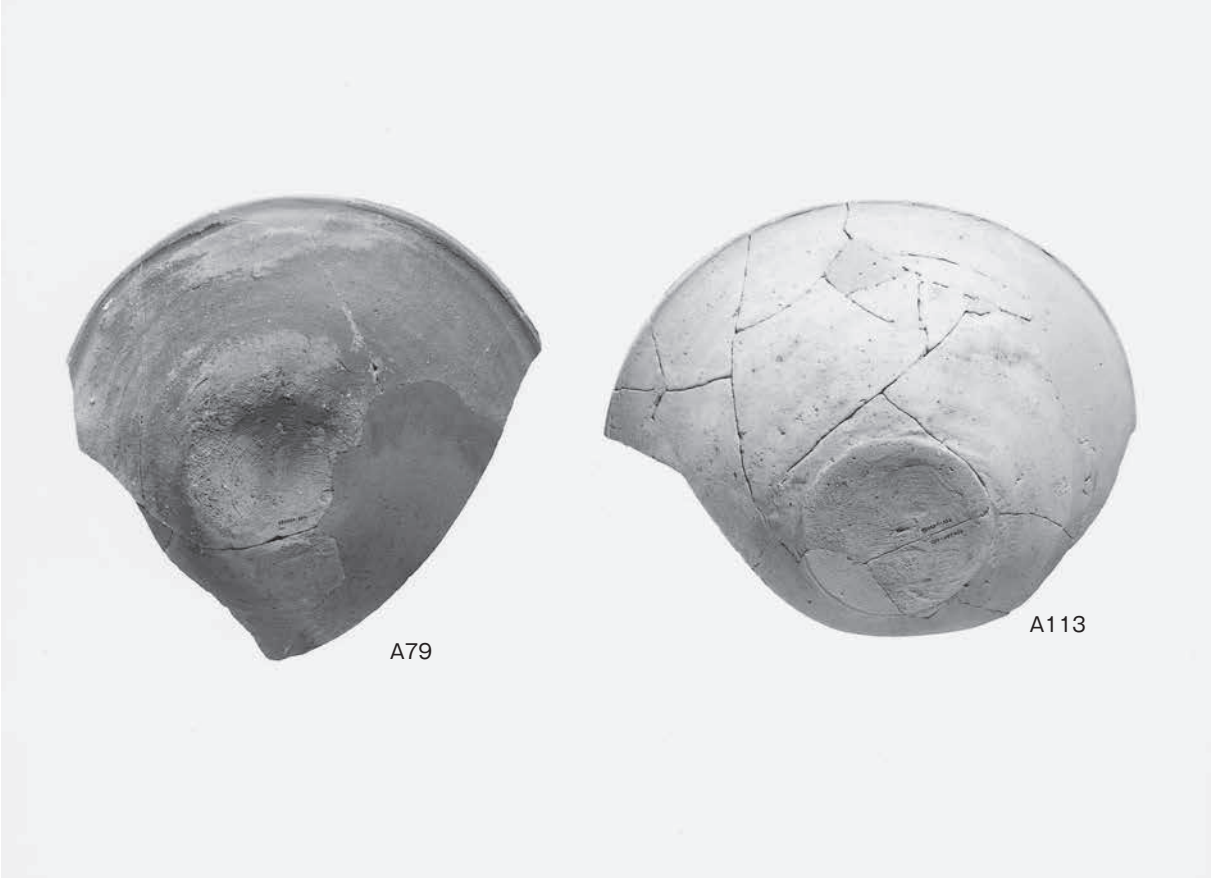


炭窯 02 出土土器

炭窯 02 出土土器



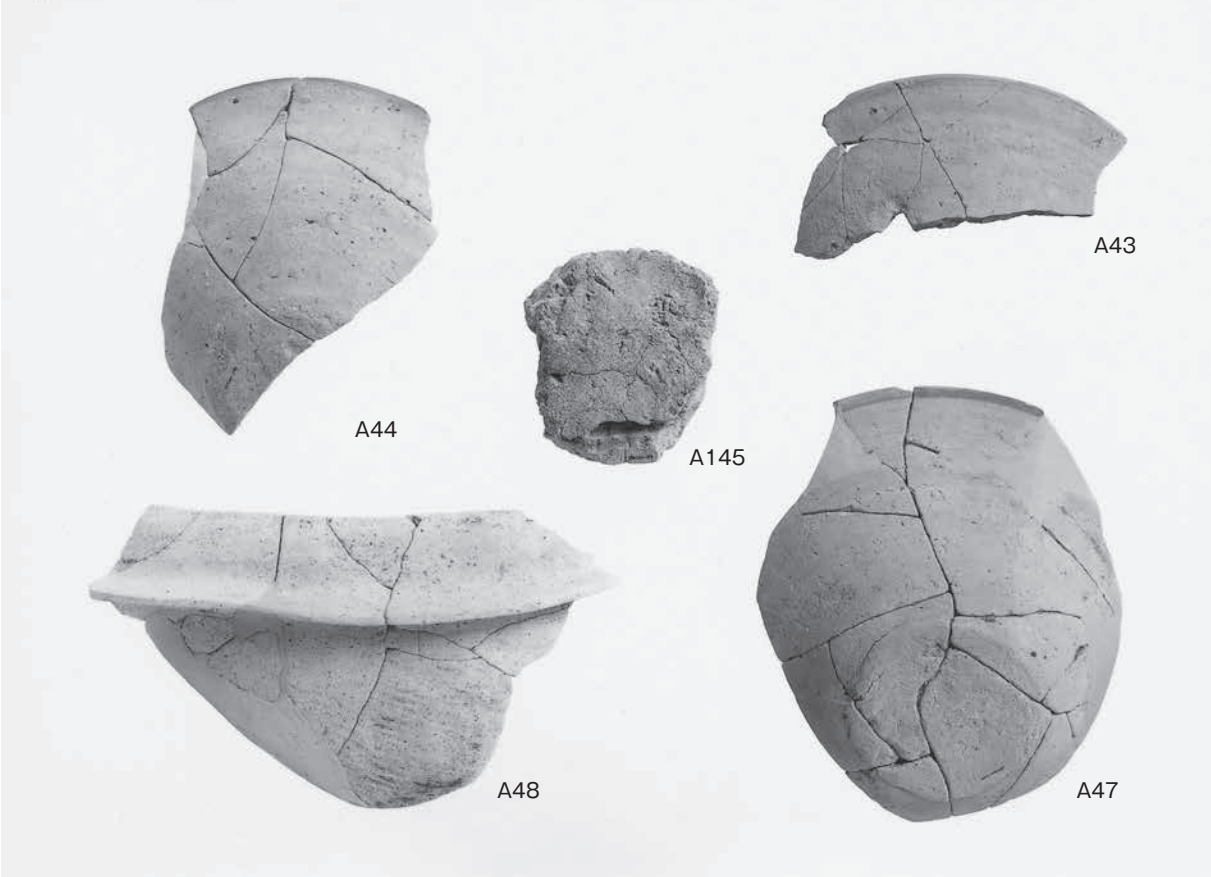
炭窯 02 出土土器



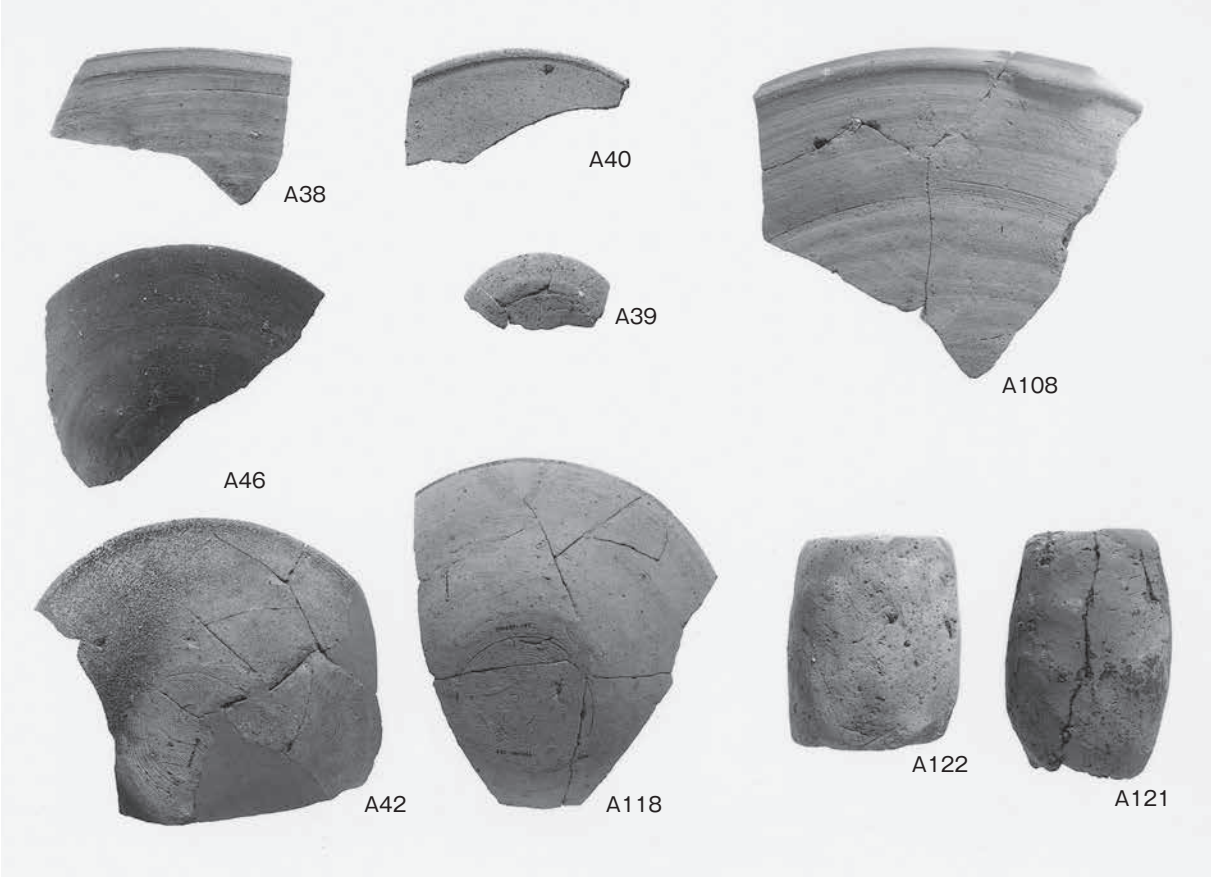
炭窯 02・SK03 出土土器

SK03 出土土器

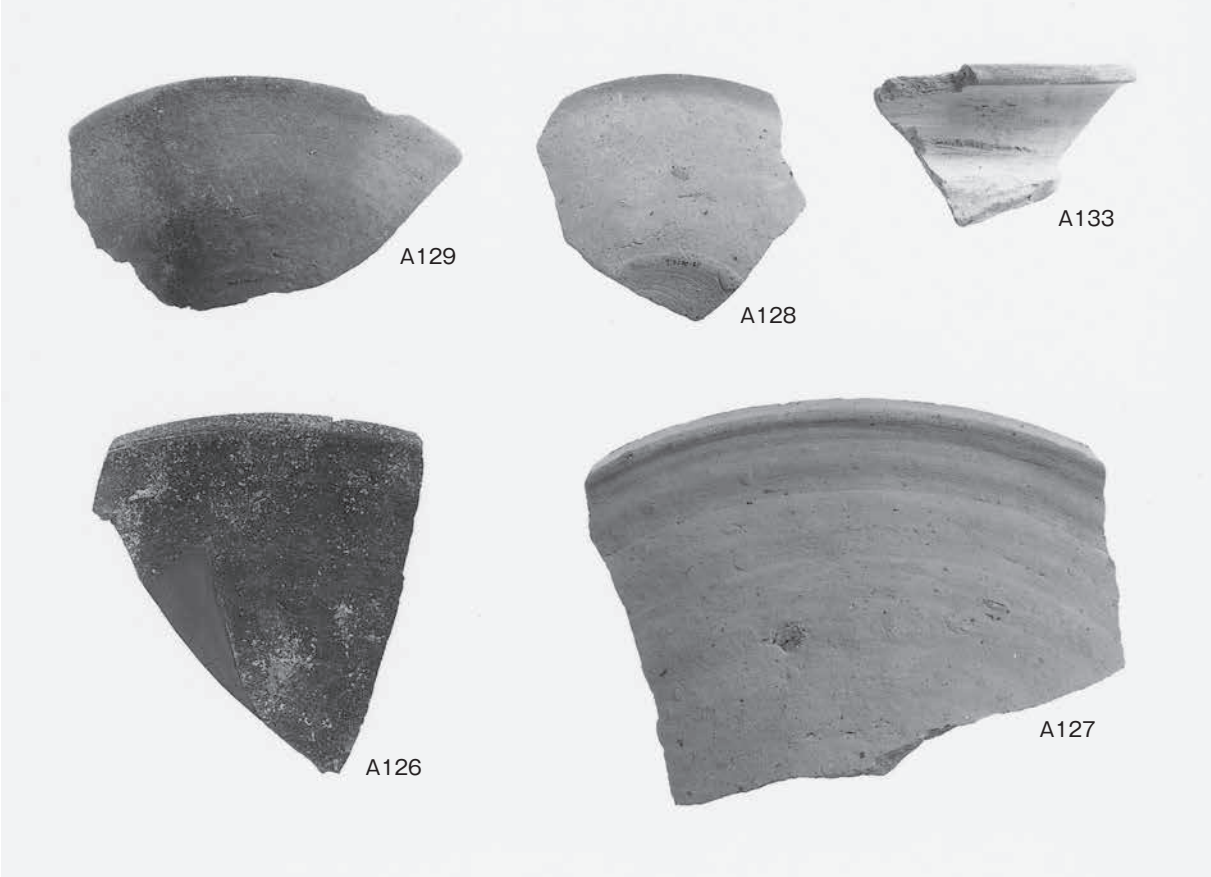
SK03 出土土器



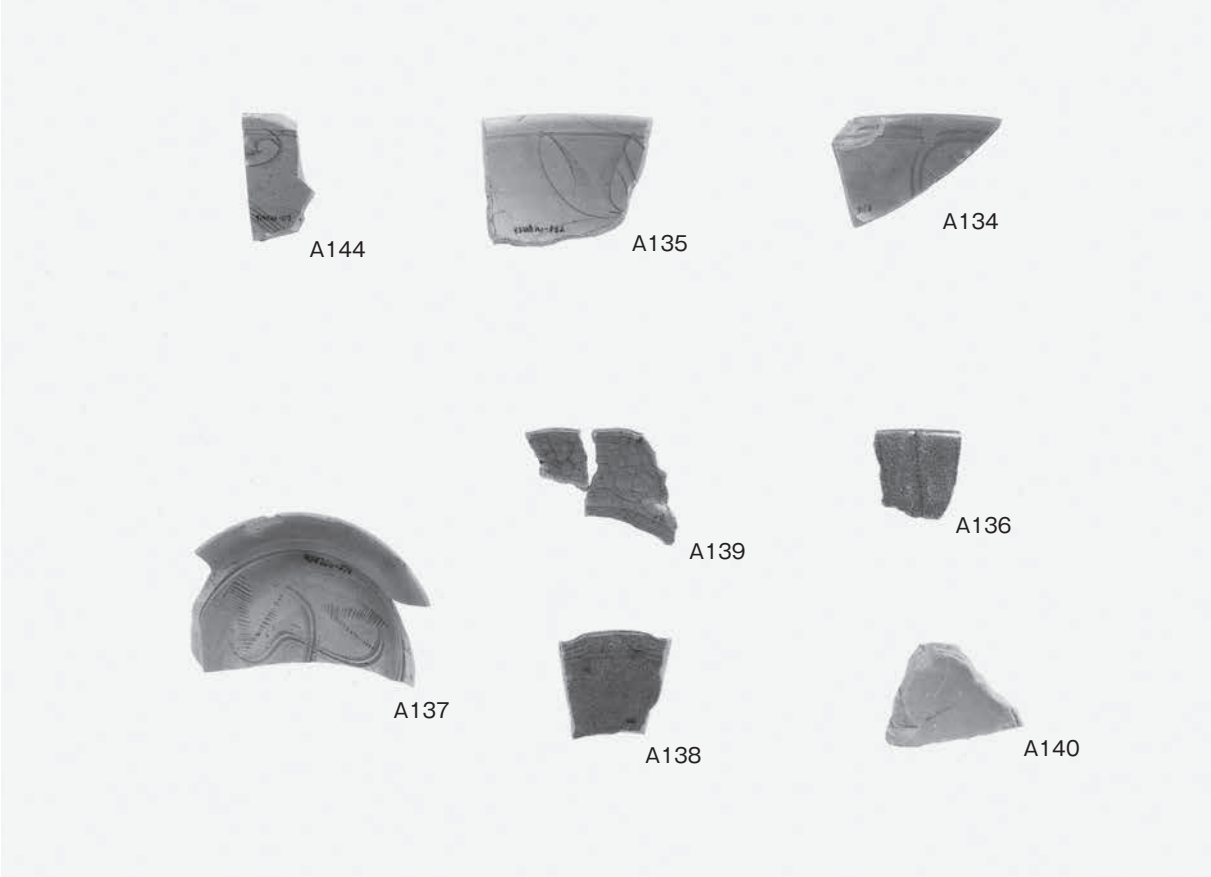
柱穴出土土器



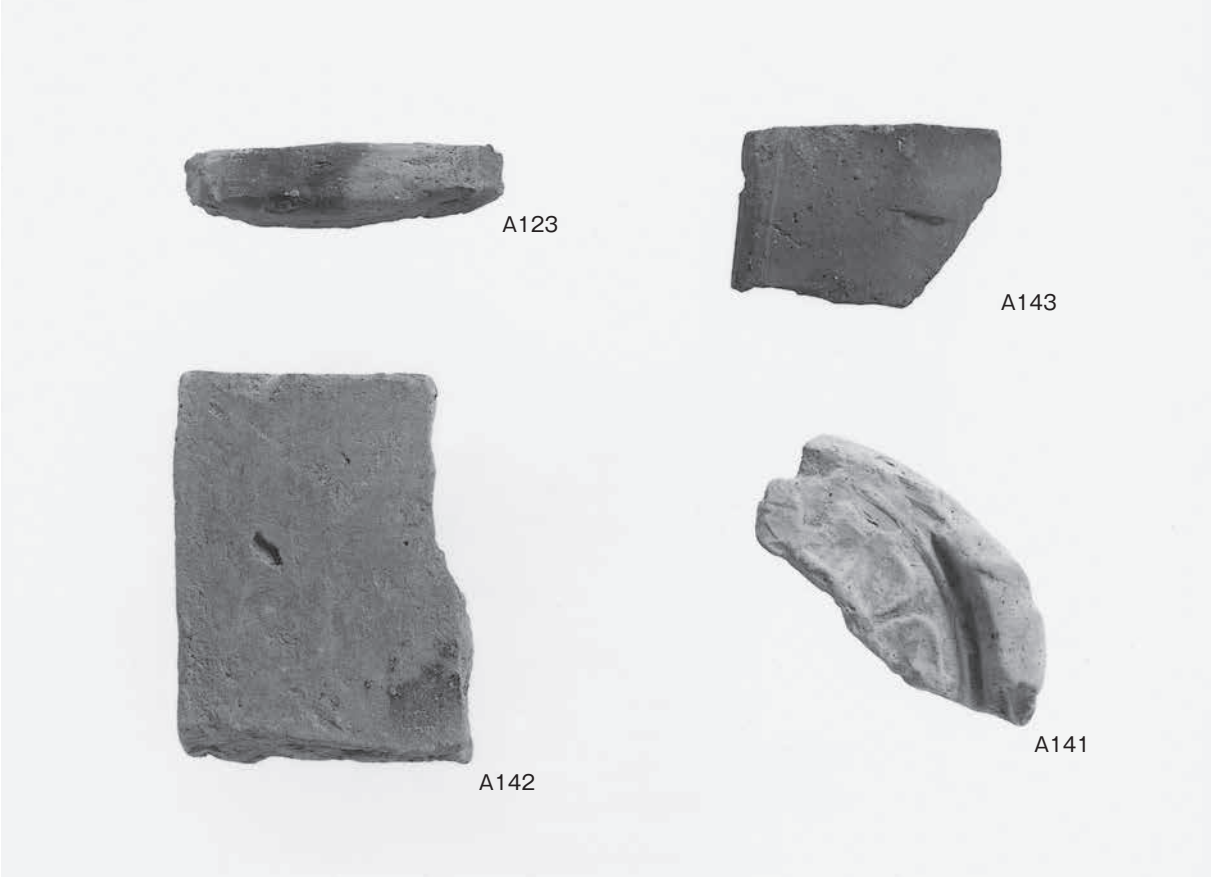
柱穴・SK03 出土土器



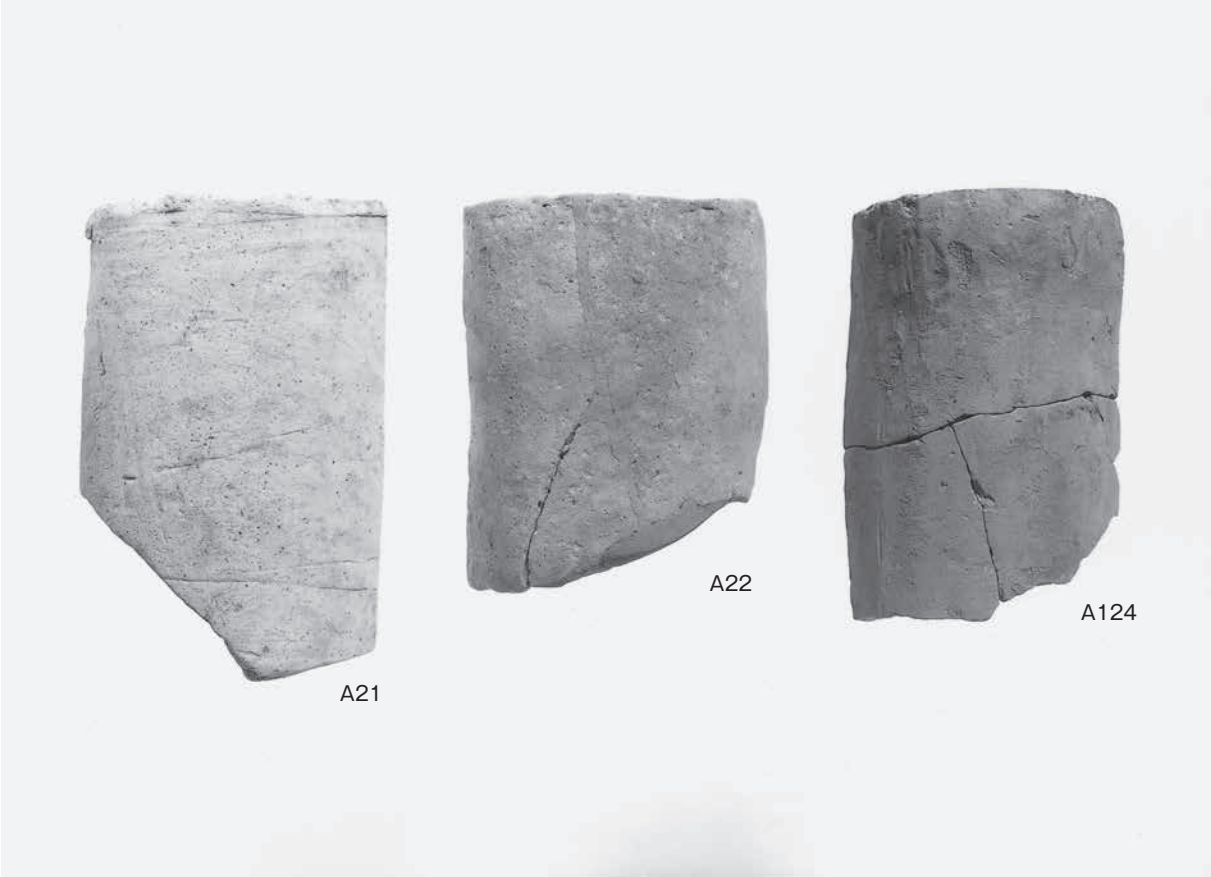
包含層出土土器



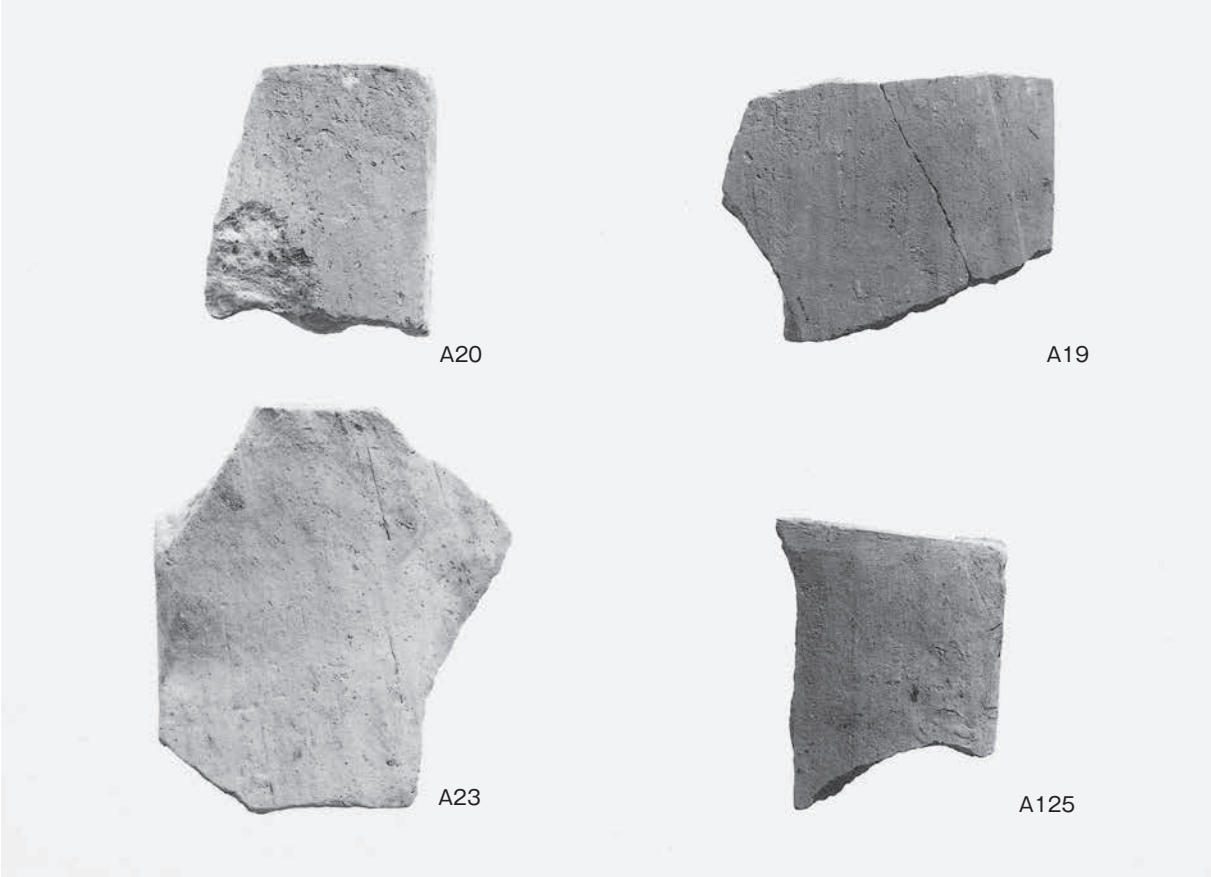
包含層出土土器



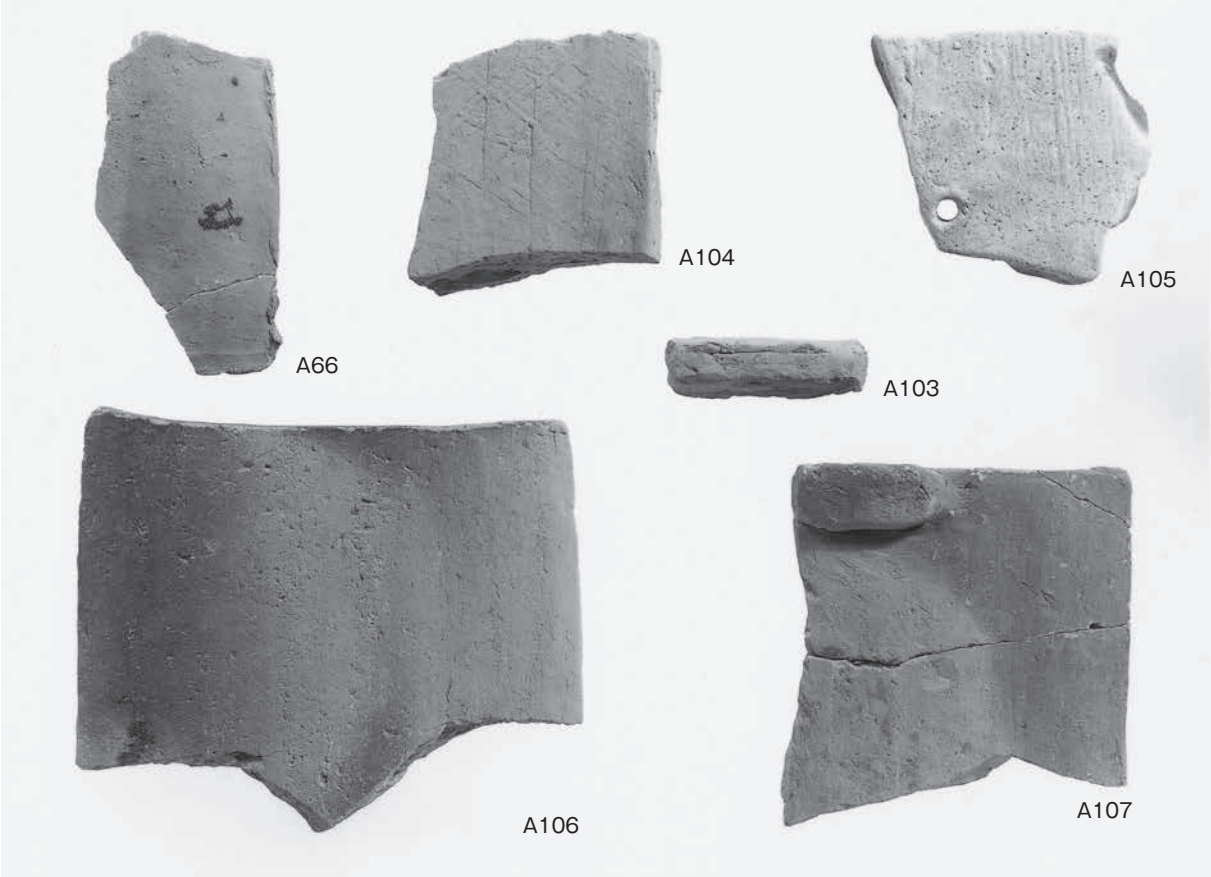
SK03・包含層出土瓦



柱穴・SK03 出土瓦



柱穴・SK03 出土瓦



炭窯 02 出土瓦

出土石器

出土石器

出土金属器

B地区

調査区遠景（西上空から）

調査区遠景（南上空から）

調査区遠景（南上空から）

調査区全景（西上空から）

調査区全景（南から）

調査区全景（北から）

北側地区南東部土層堆積状況（北東から）

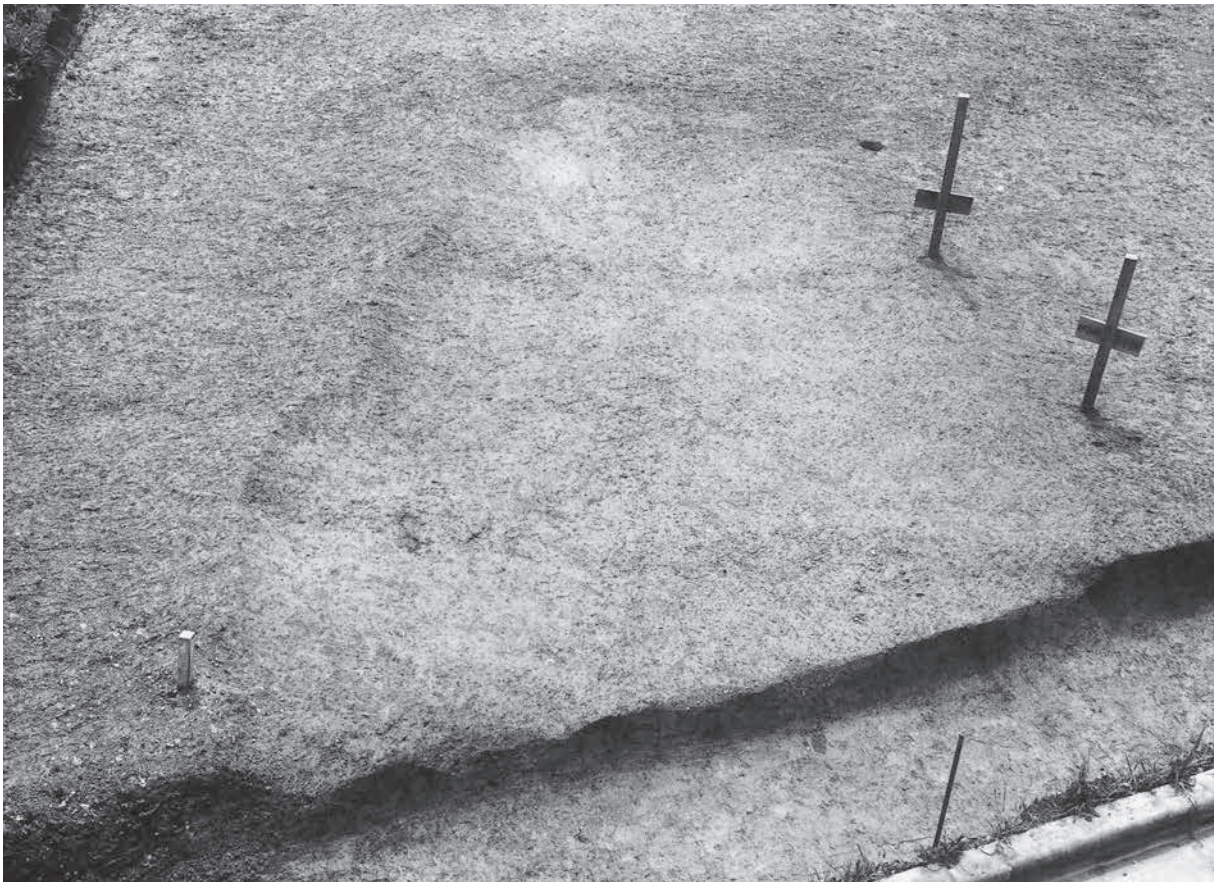
北側地区中央部土層堆積状況（東から）

北側地区中央部土層堆積状況（東から）

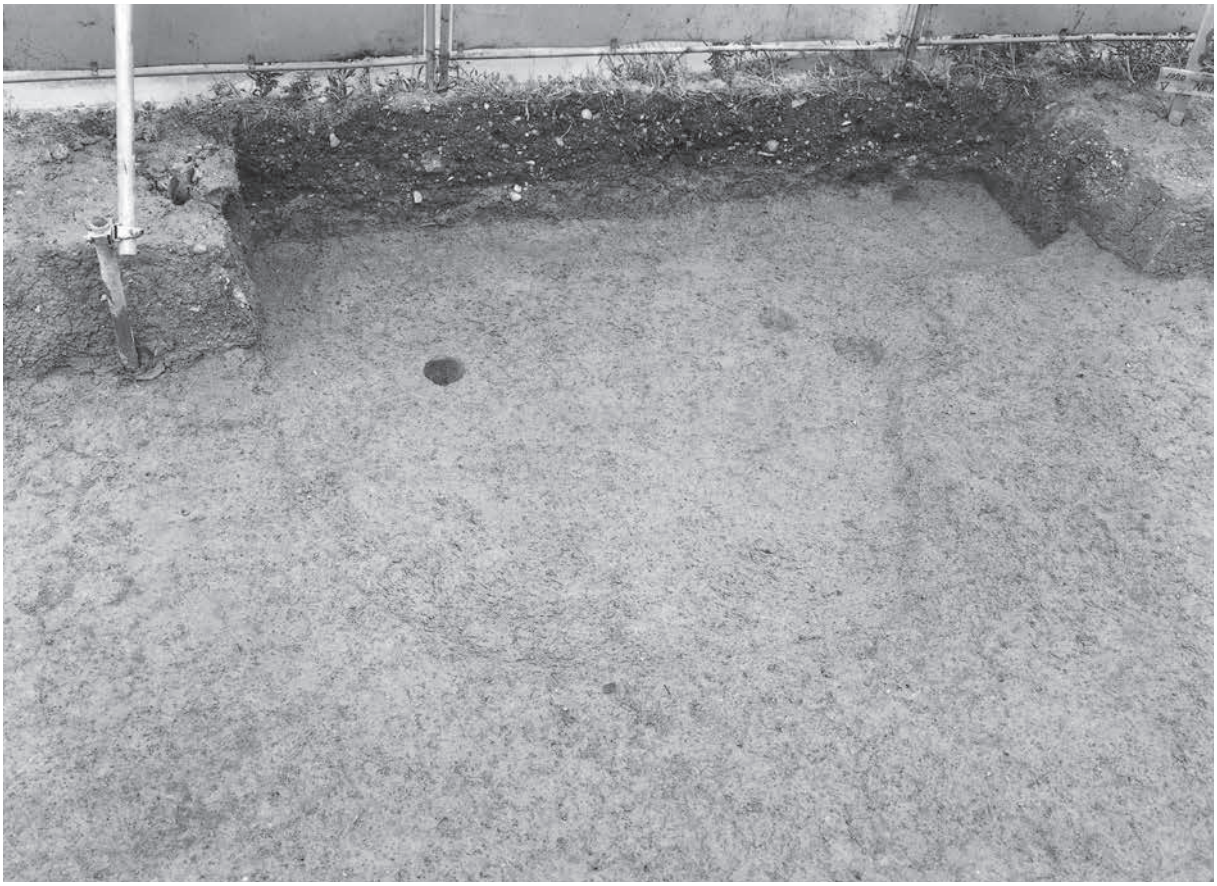
北側地区中央部西側壁土層堆積状況（東から）

南側調査区全景（西から）

南側調査区 SK01・02（南から）



SK01 完掘状況（北から）



SK02 完掘状況（南から）

① SK01 遺物出土状況（北東から）

② SK01 上層埋土土層断面（東から）

③ SK01 埋土土層断面（北から）

④ SK02 埋土土層断面（南東から）

北側調査区北部の溝（東から）

SE01 須恵器鉢出土状況（北から）

SE01 完掘状況（北から）

① SE01 遺物出土状況（南東から）

② SE01 遺物出土状況（北西から）

③ SE01 遺物出土状況（南から）

④ SD02 南岸補修部土層断面（東から）

SD02 東部北岸付近須恵器鉢出土状況（南から）

① SK03 上層埋土土層断面（東から）

② SK03 下層埋土土層断面（東から）

③ SD01 埋土土層断面（東から）

④ SD01 埋土土層断面（東から）

⑤機械掘削状況

⑥人力掘削状況

⑦ SE01 遺物取上げ状況

⑧遺構実測状況

B12

B13

B17

B21

B18

B22

B19

B23

B20

B24

SK02・土器集中部・SE01 出土土器

B25

B31

B26

B32

B27

B33

B28

B35

B29

B36

SE01 出土土器

B37

B43

B40

B44

B41

B45

B42

B47

B54

B48

B55

B50

B56

B51

B59

B52

B60

SD02 出土土器

B61

B65

B63

B67

B76

B79

B77

B80

B78

B81

SD02 出土土器

B82

B85

B83

B87

B89

B94

B96

B100

B99

B101

SD02 出土土器

B102

B103

B146

B150

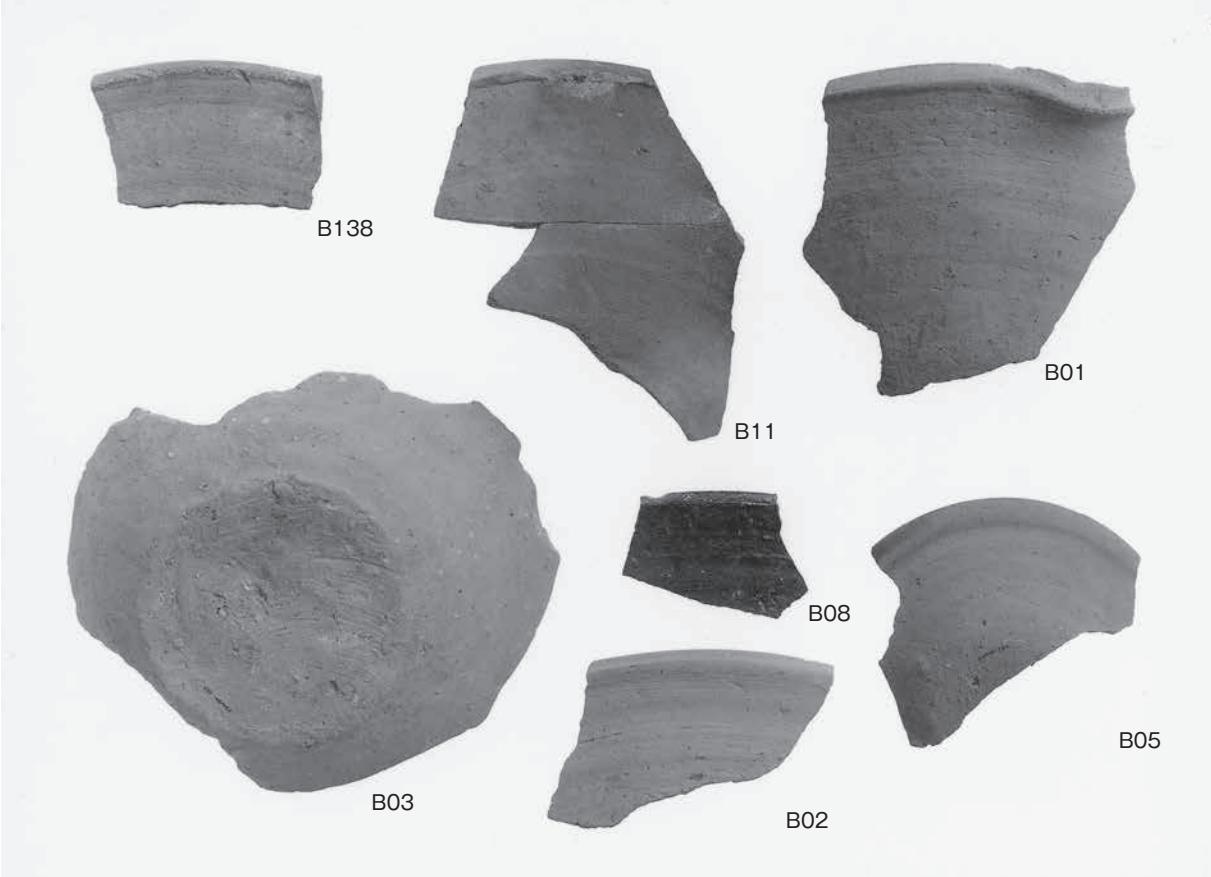
B158

B163

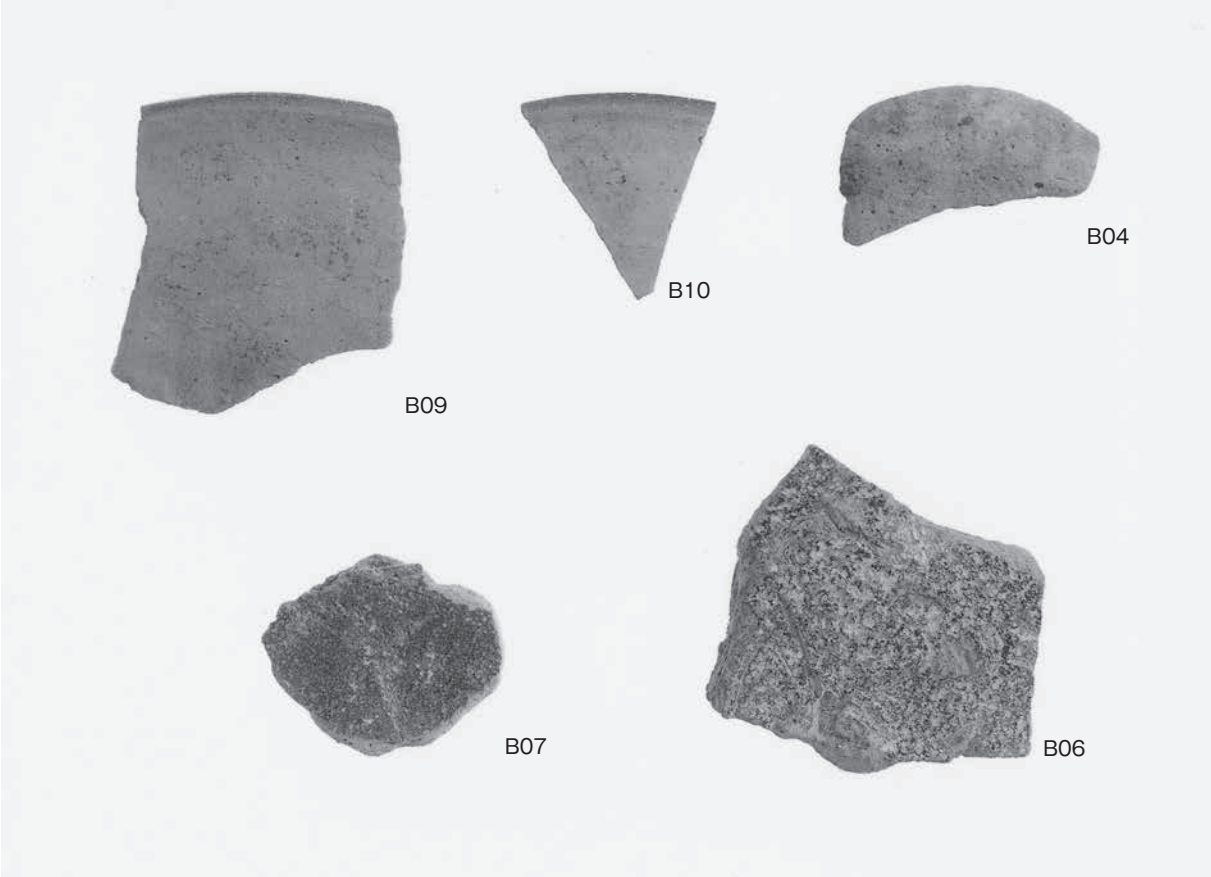
B116

AIM01

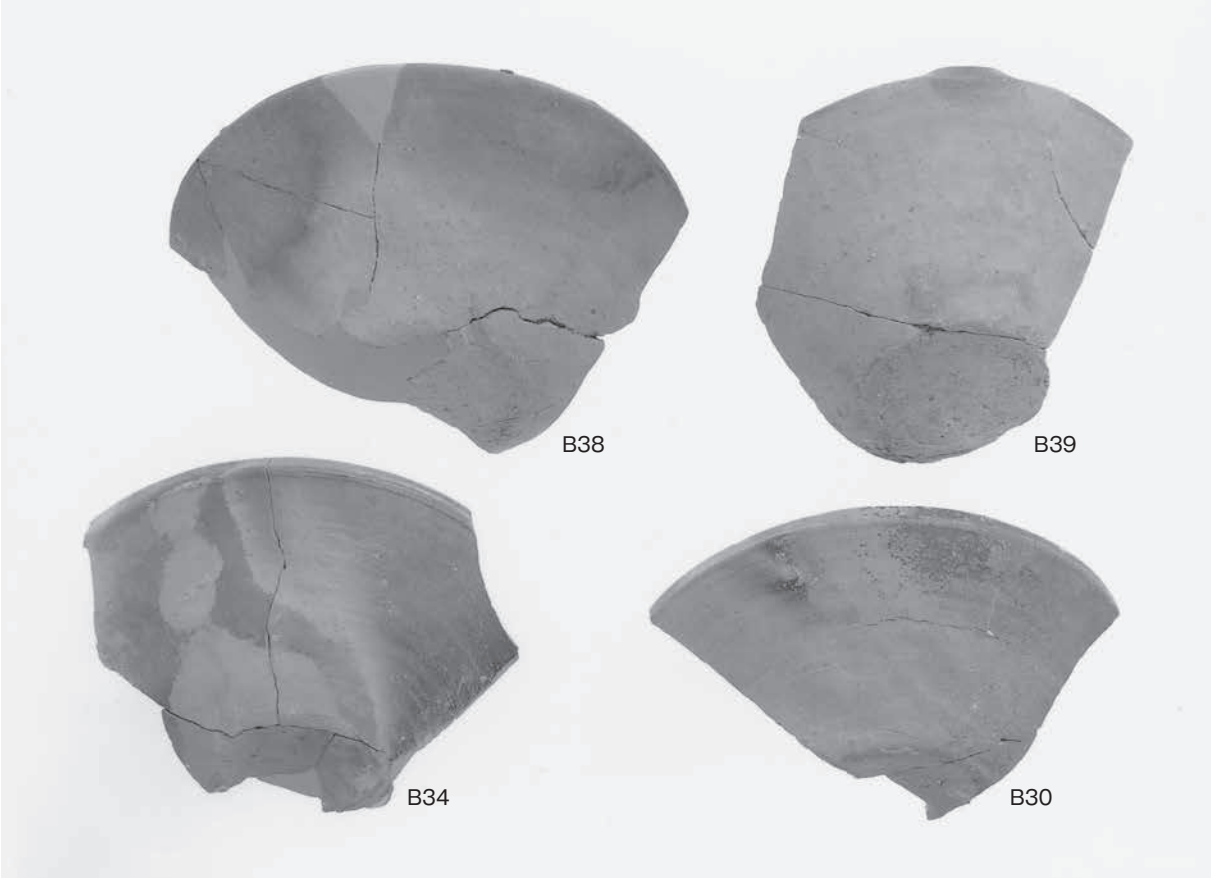
SD02 出土土器・瓦・金属器



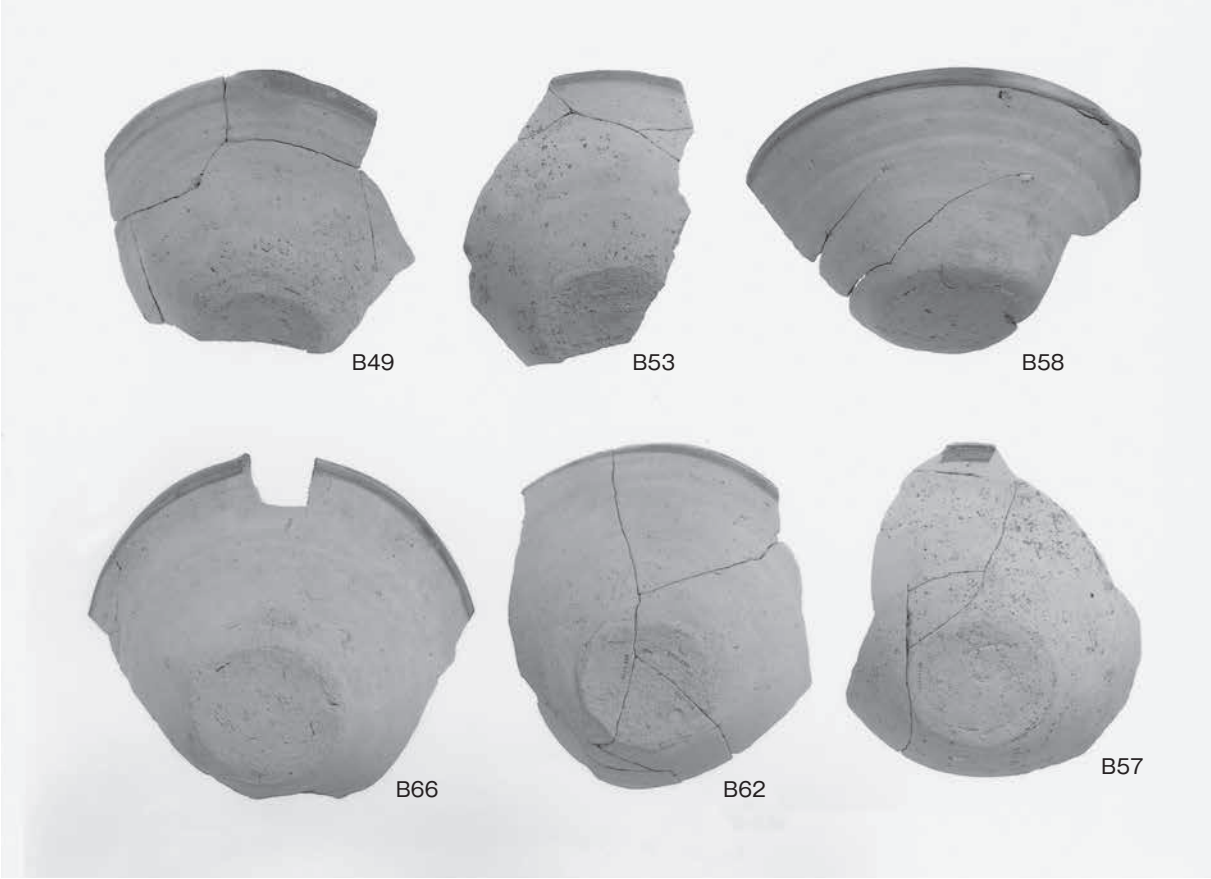
SK01・SK02・SD01 出土土器



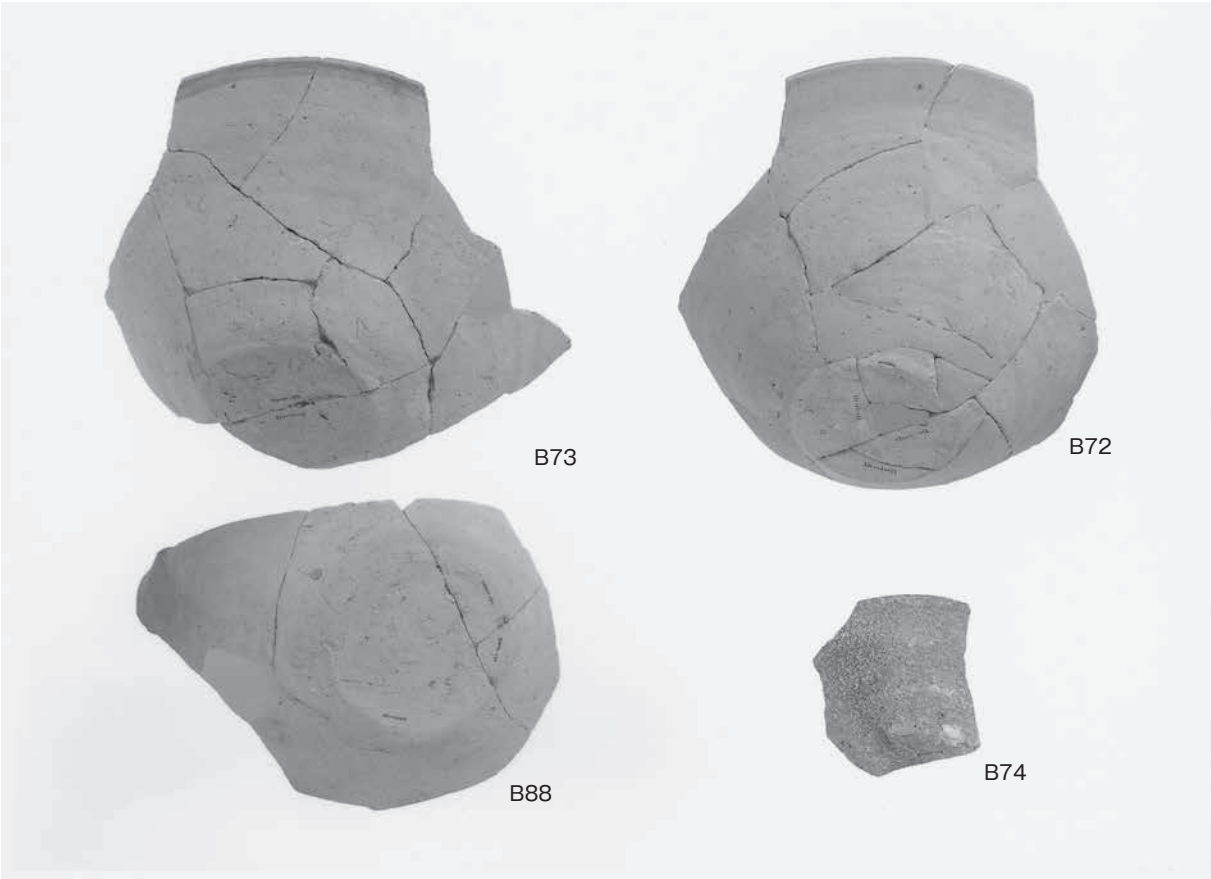
SK01 出土土器



SE01 出土土器

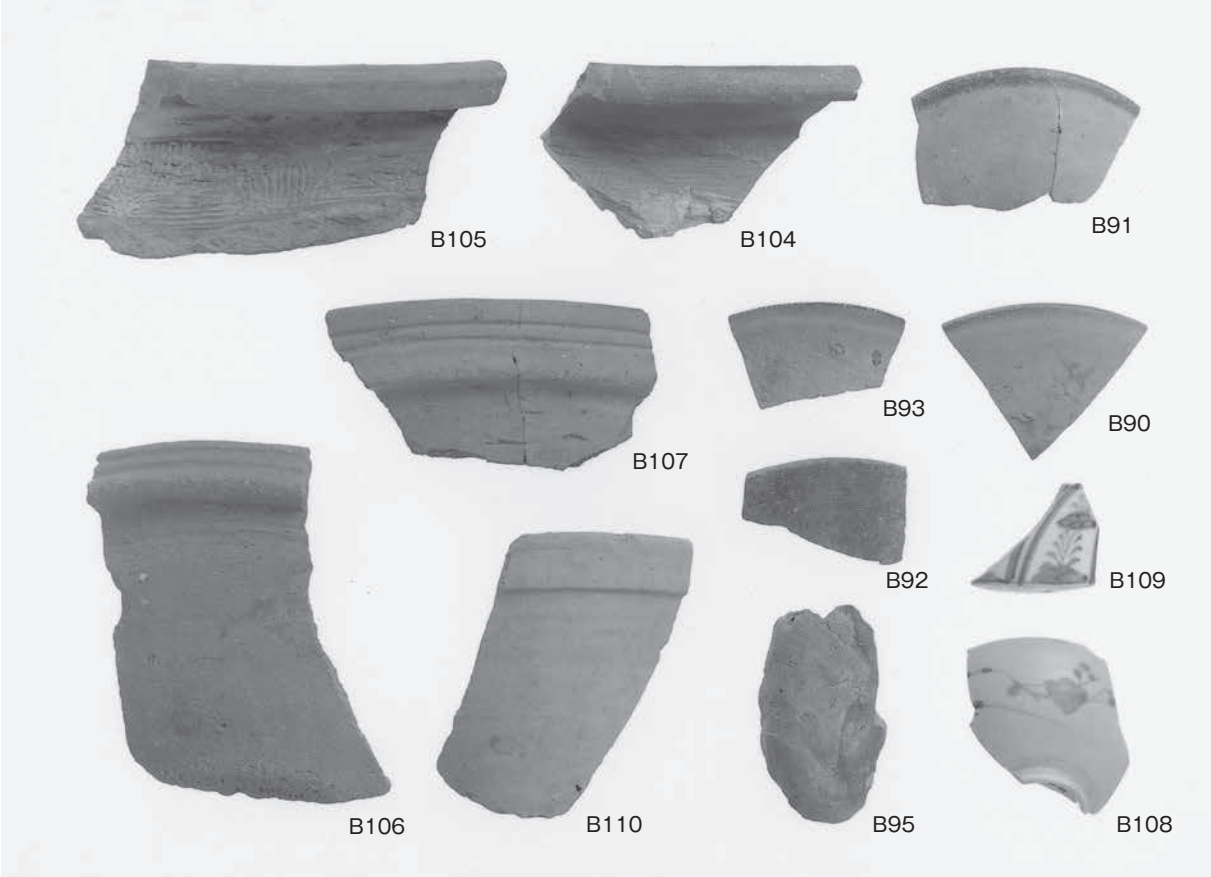


SD02 出土土器



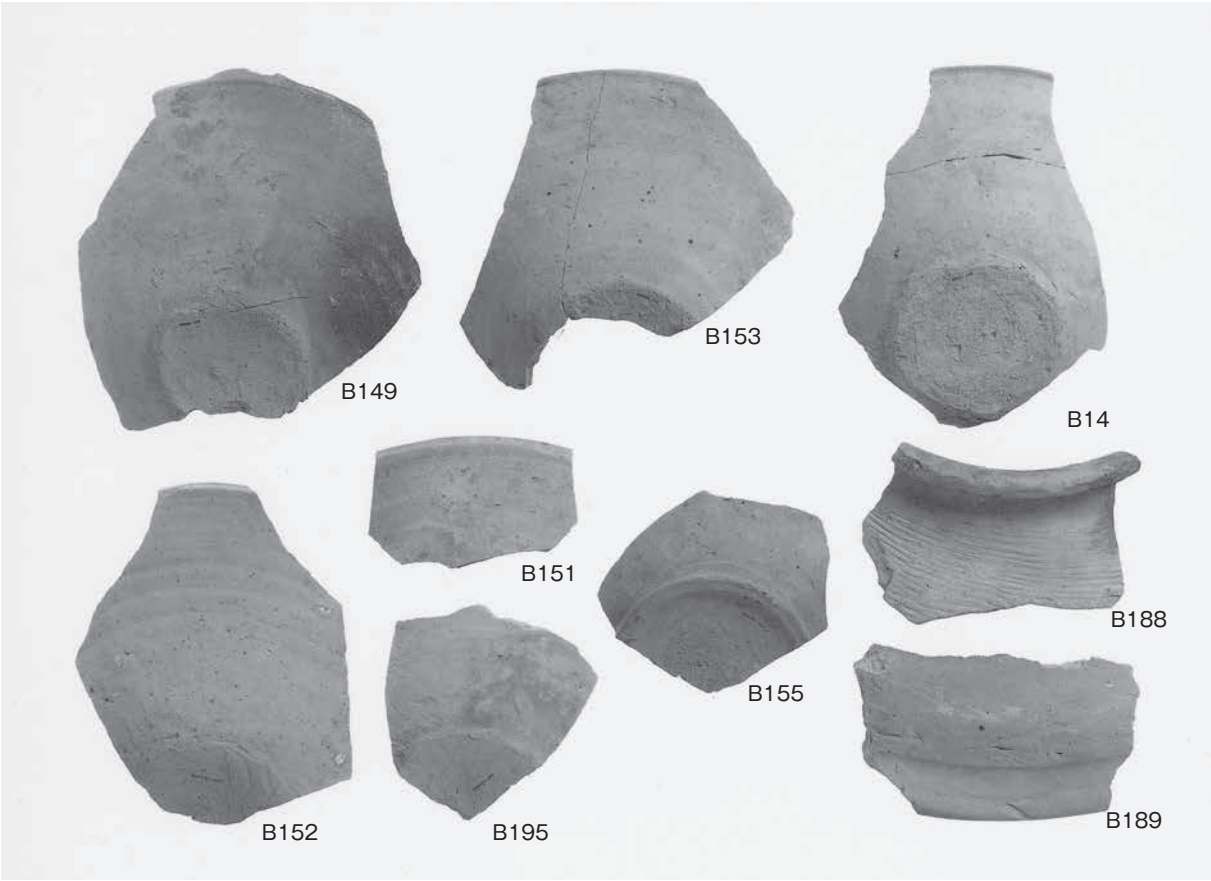
SD02 出土土器

SD02 出土土器

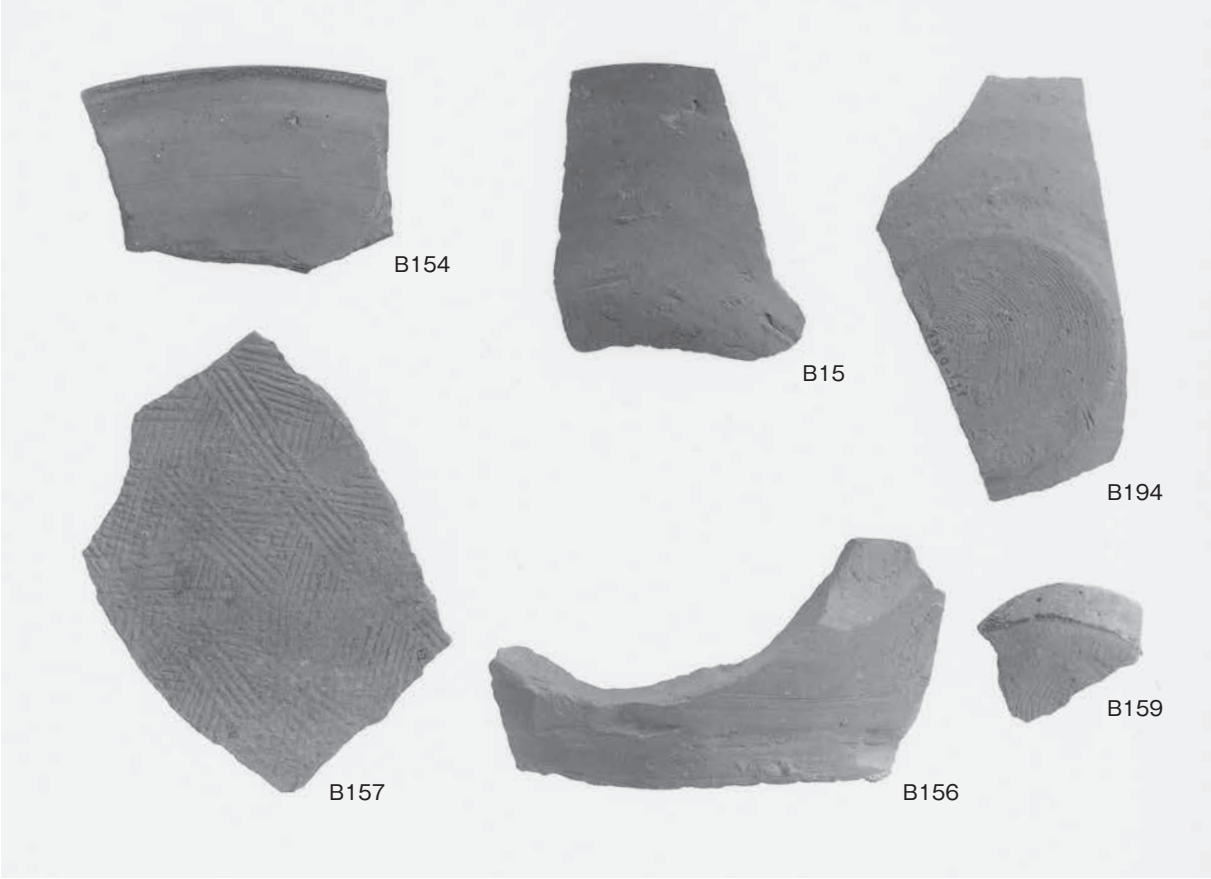


SD02 出土土器

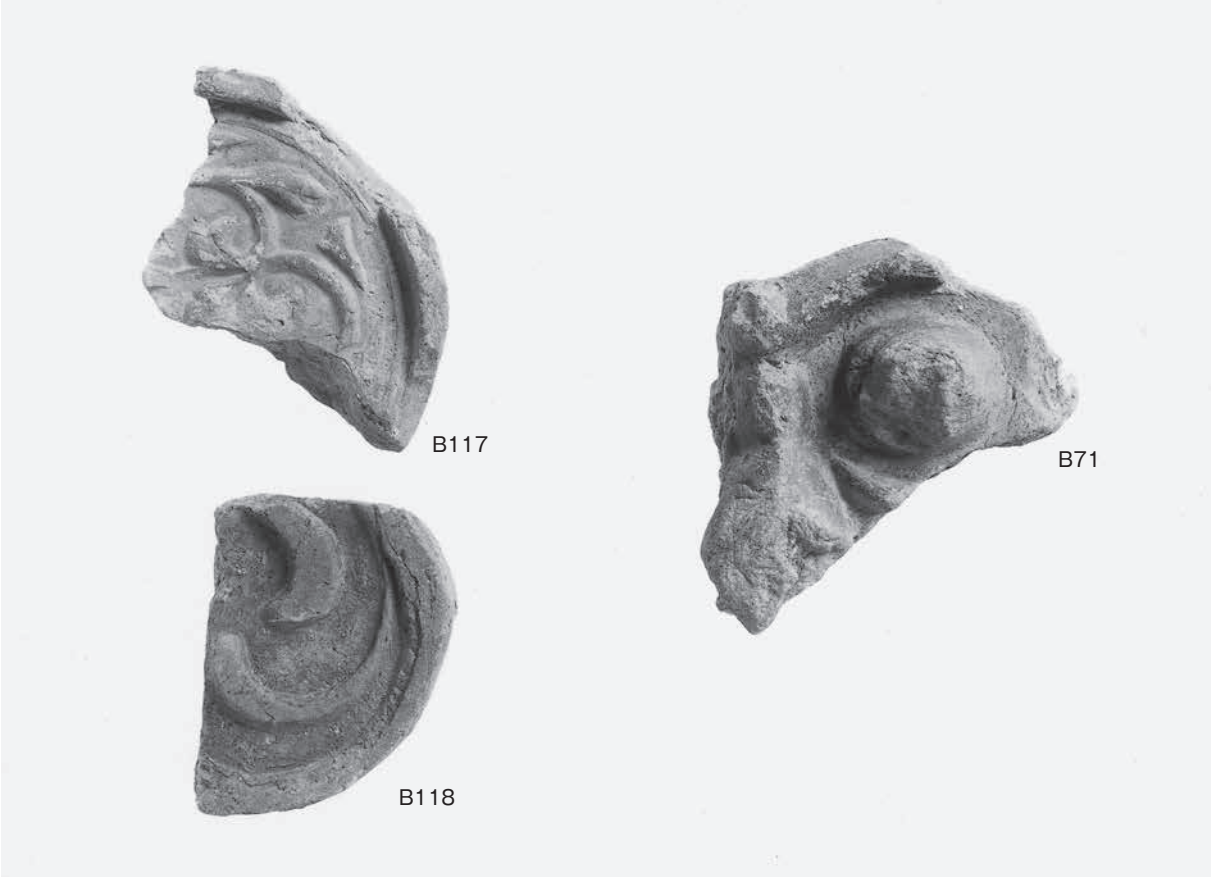
SD01 出土土器



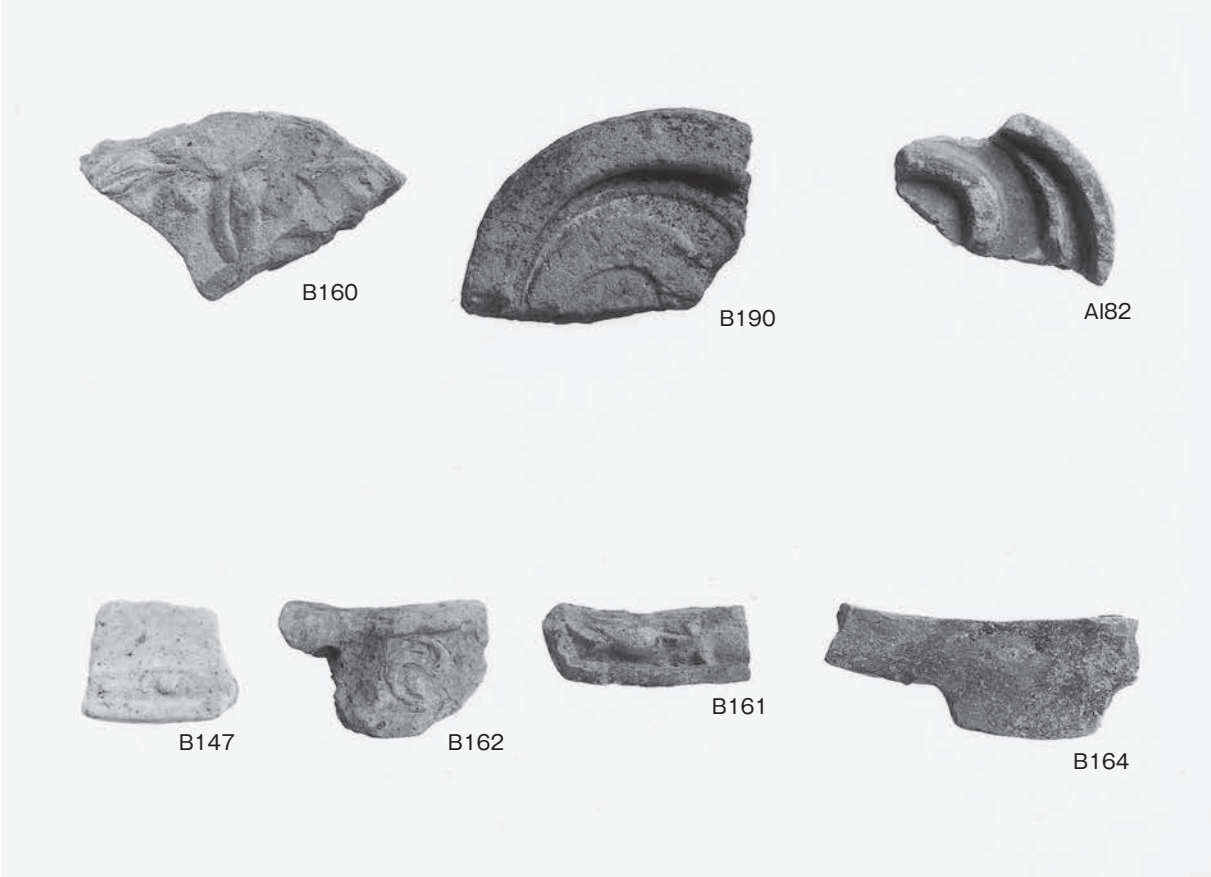
包含層出土土器



包含層出土土器

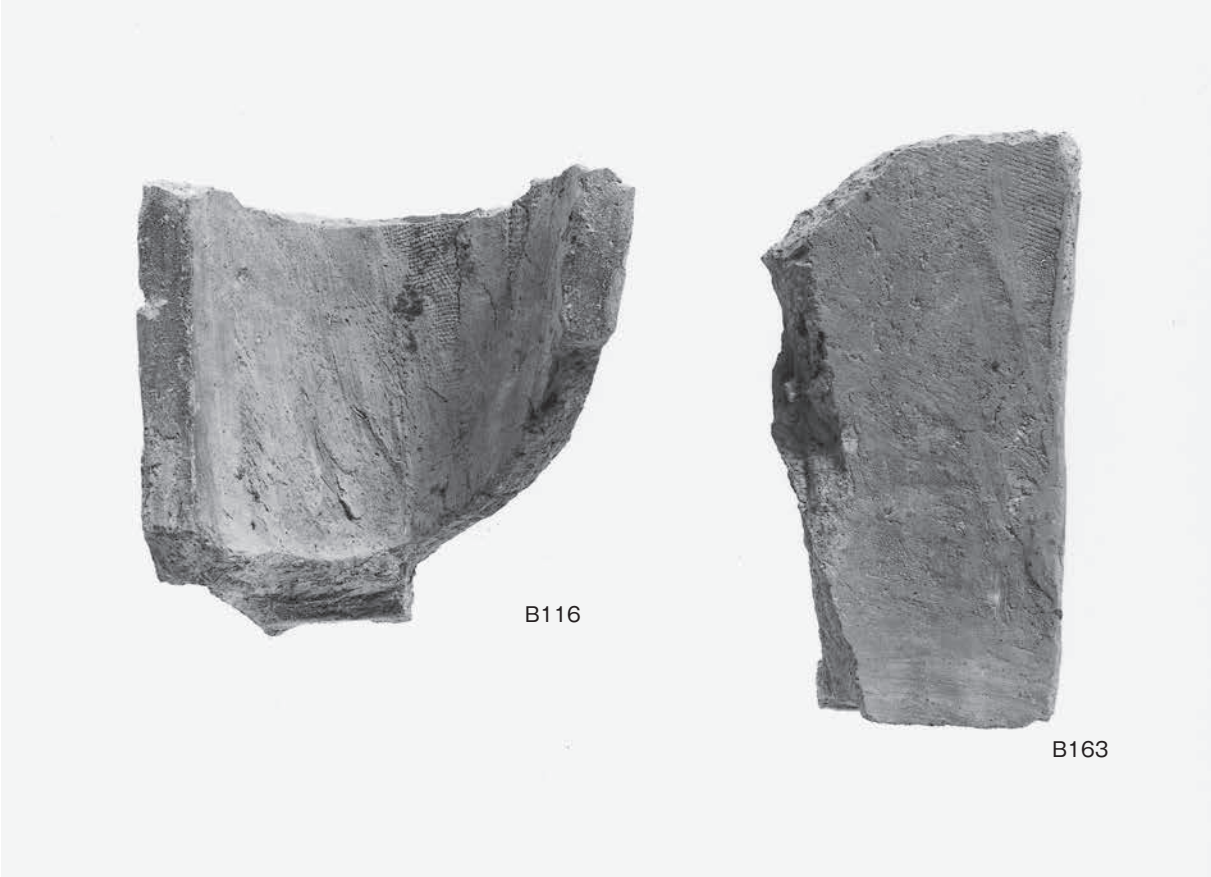


SD02 出土軒丸瓦・鬼瓦

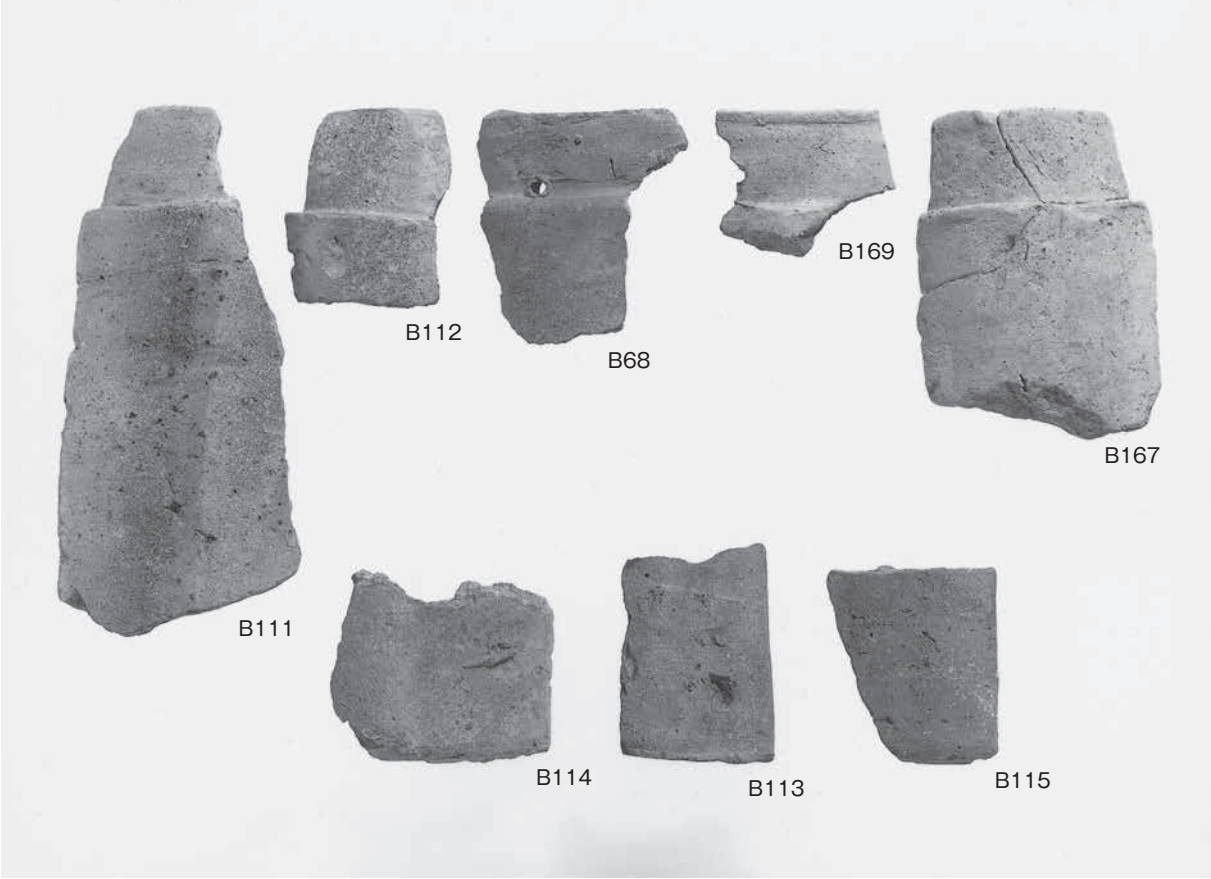


包含層・A地区3トレンチ出土軒丸瓦・軒平瓦

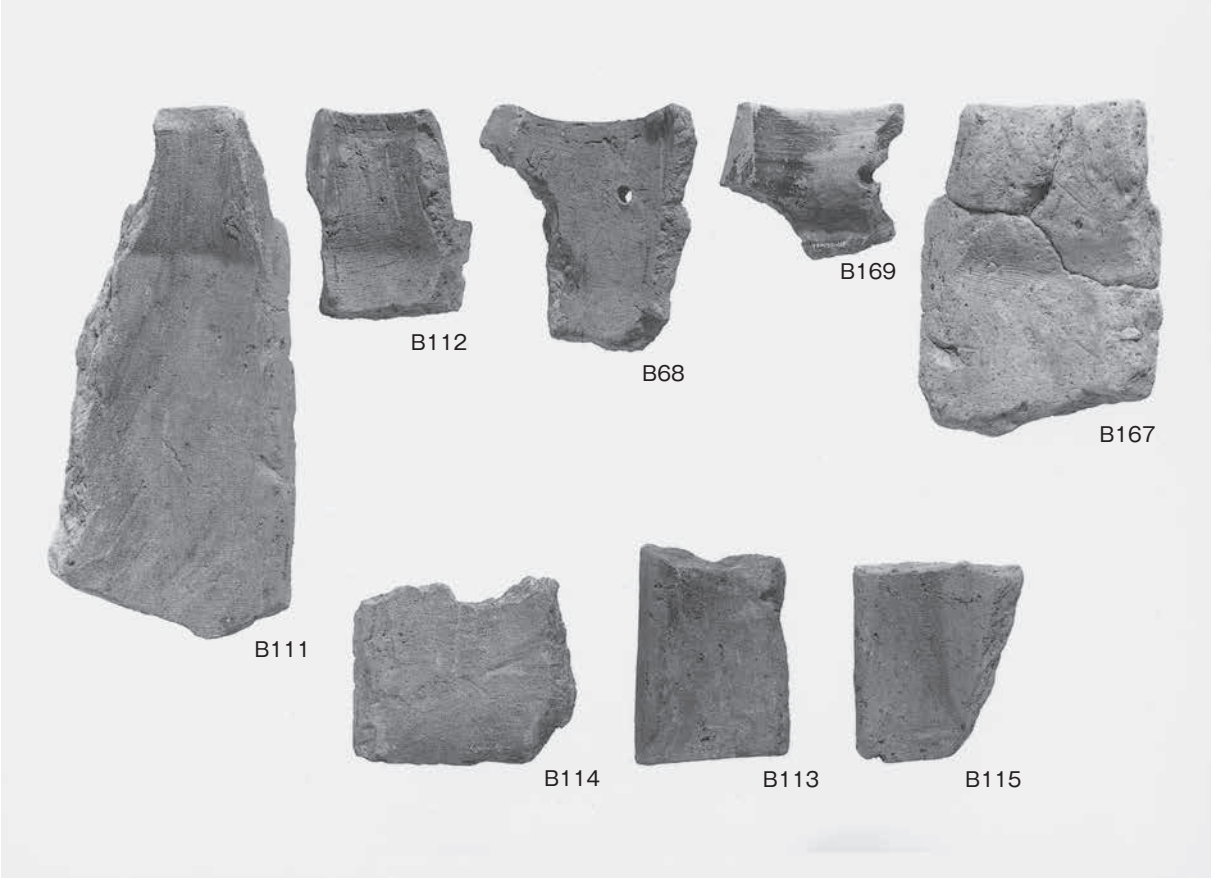
SD02・包含層出土軒丸瓦・軒平瓦（凸面）



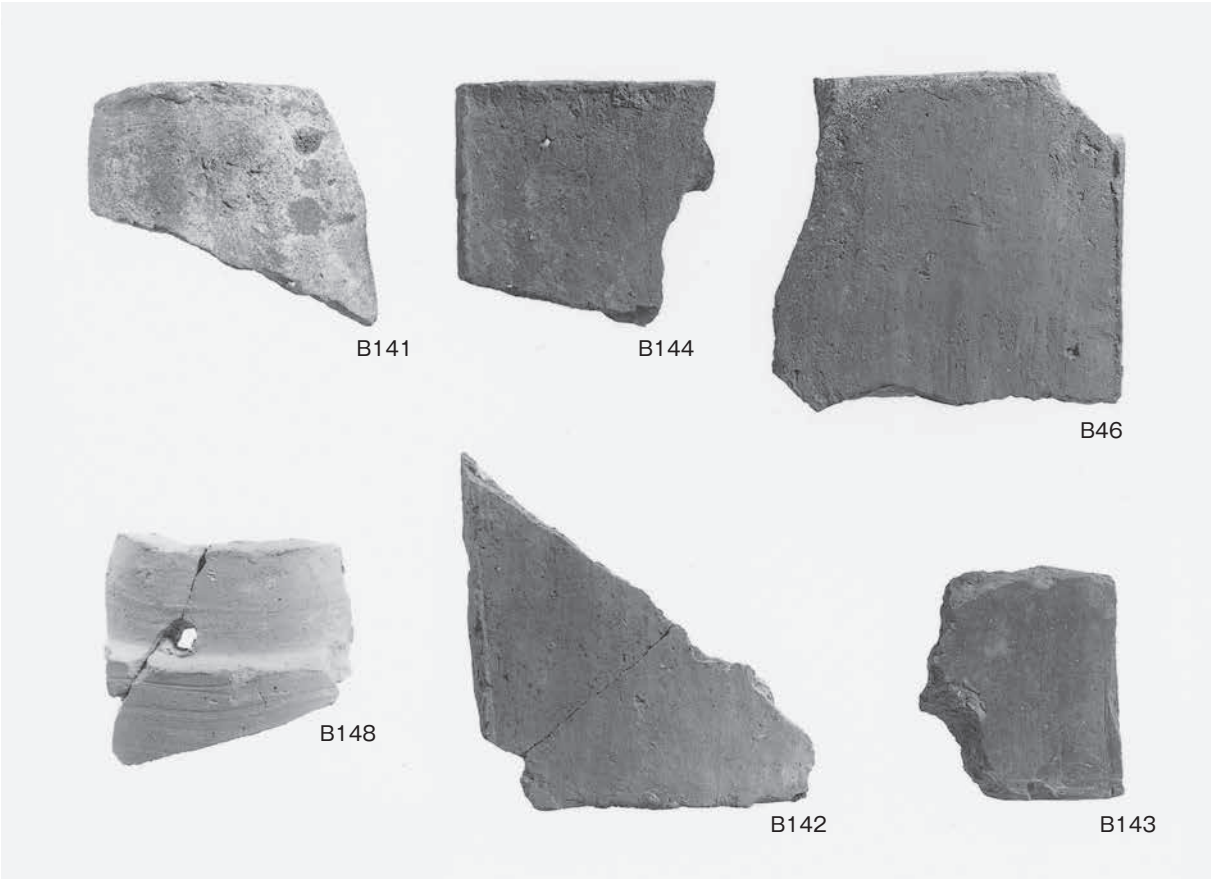
SD02・包含層出土軒丸瓦・軒平瓦（凹面）



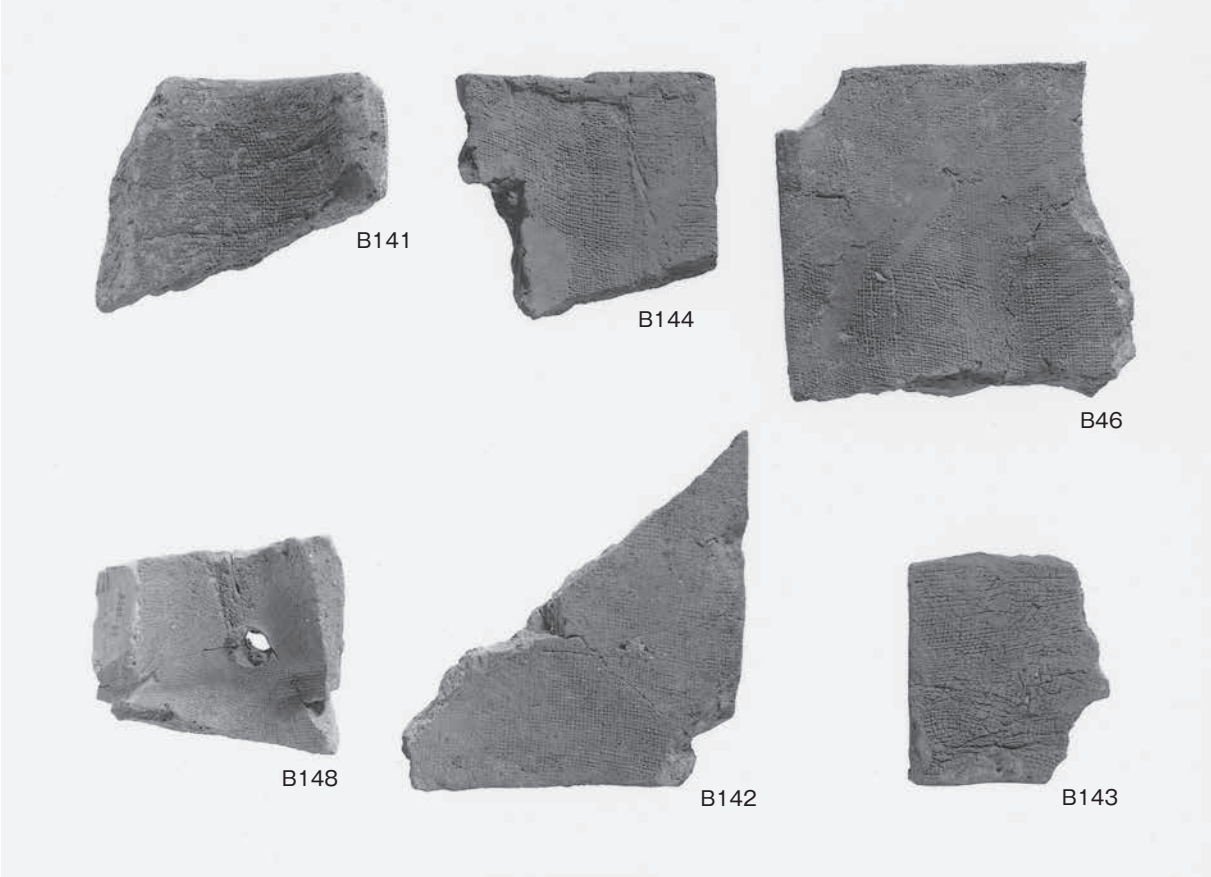
SD02・包含層出土丸瓦（凸面）



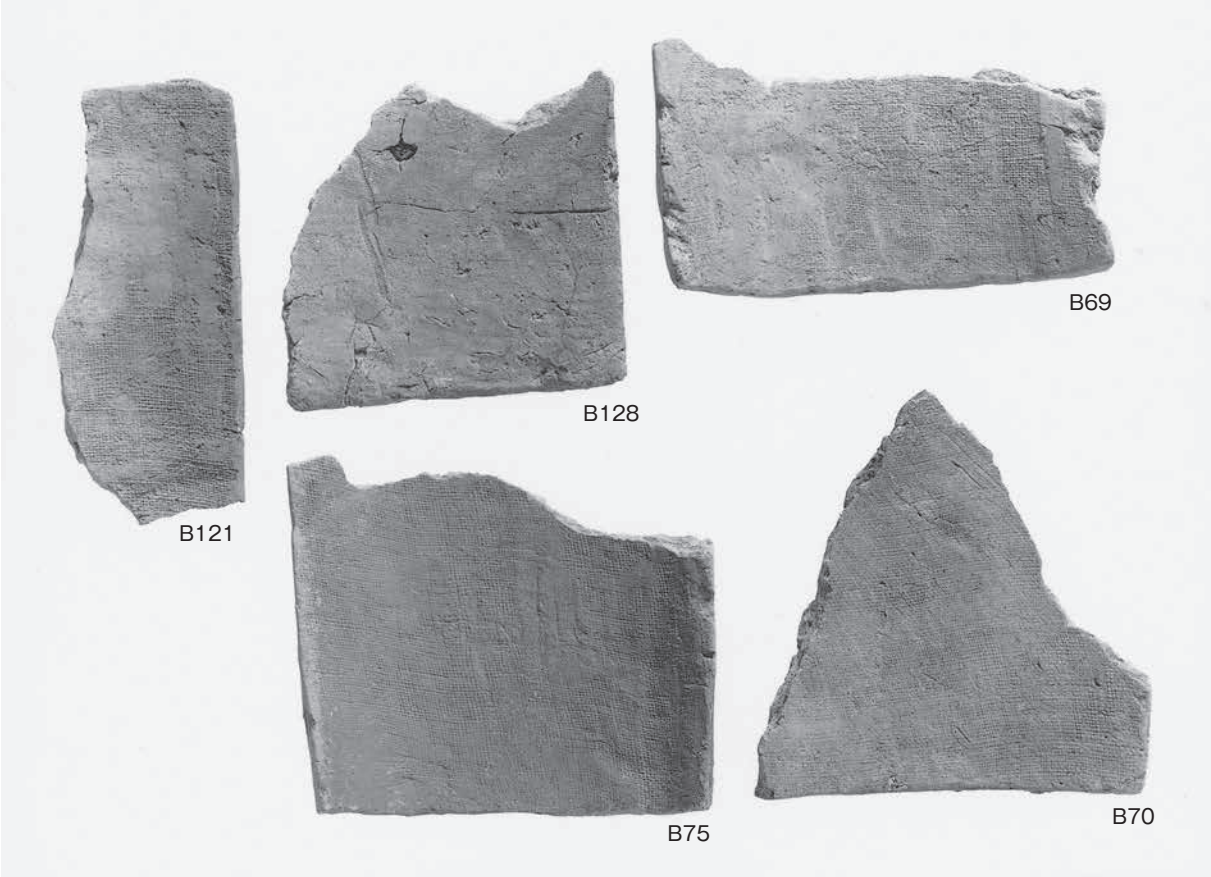
SD02・包含層出土丸瓦（凹面）



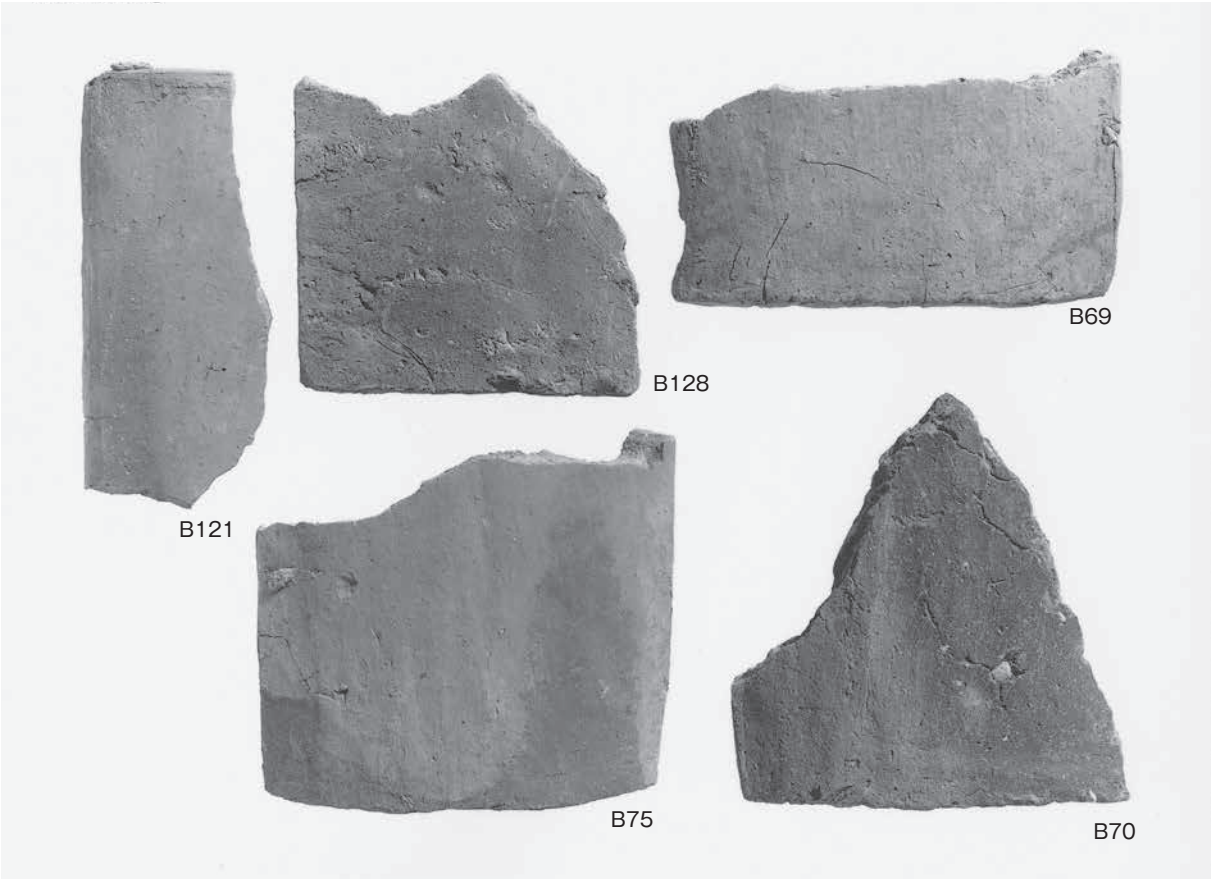
SE01・SD01・包含層出土丸瓦（凸面）



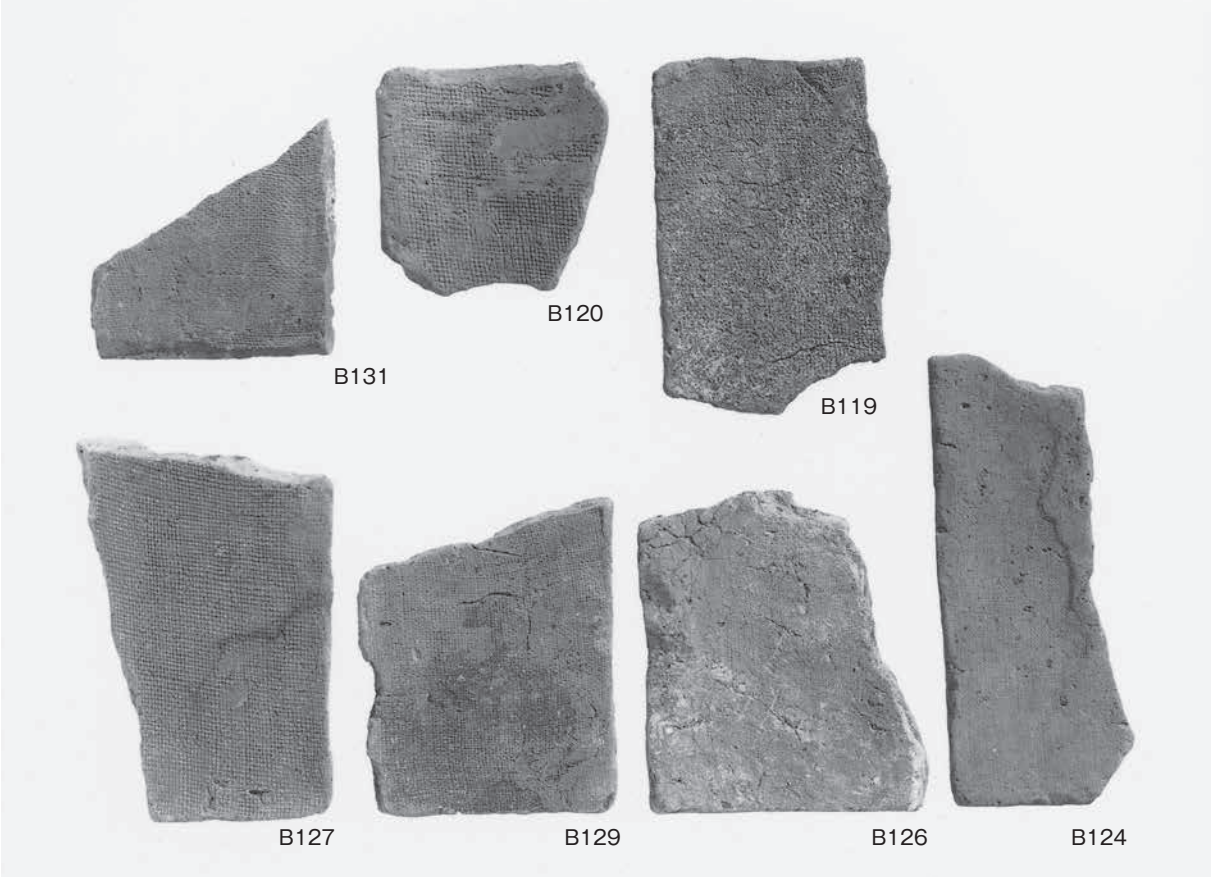
SE01・SD01・包含層出土丸瓦（凹面）



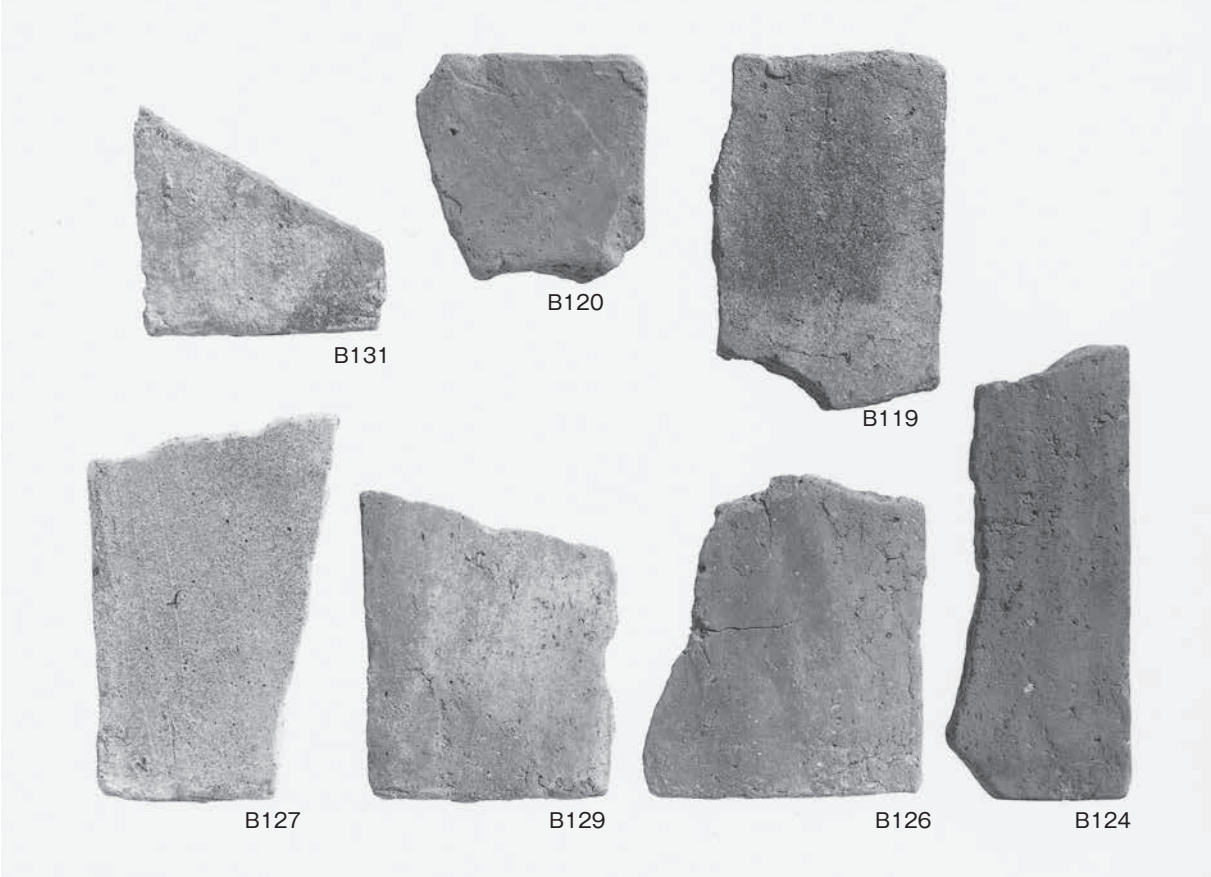
SD02 出土平瓦（凹面）



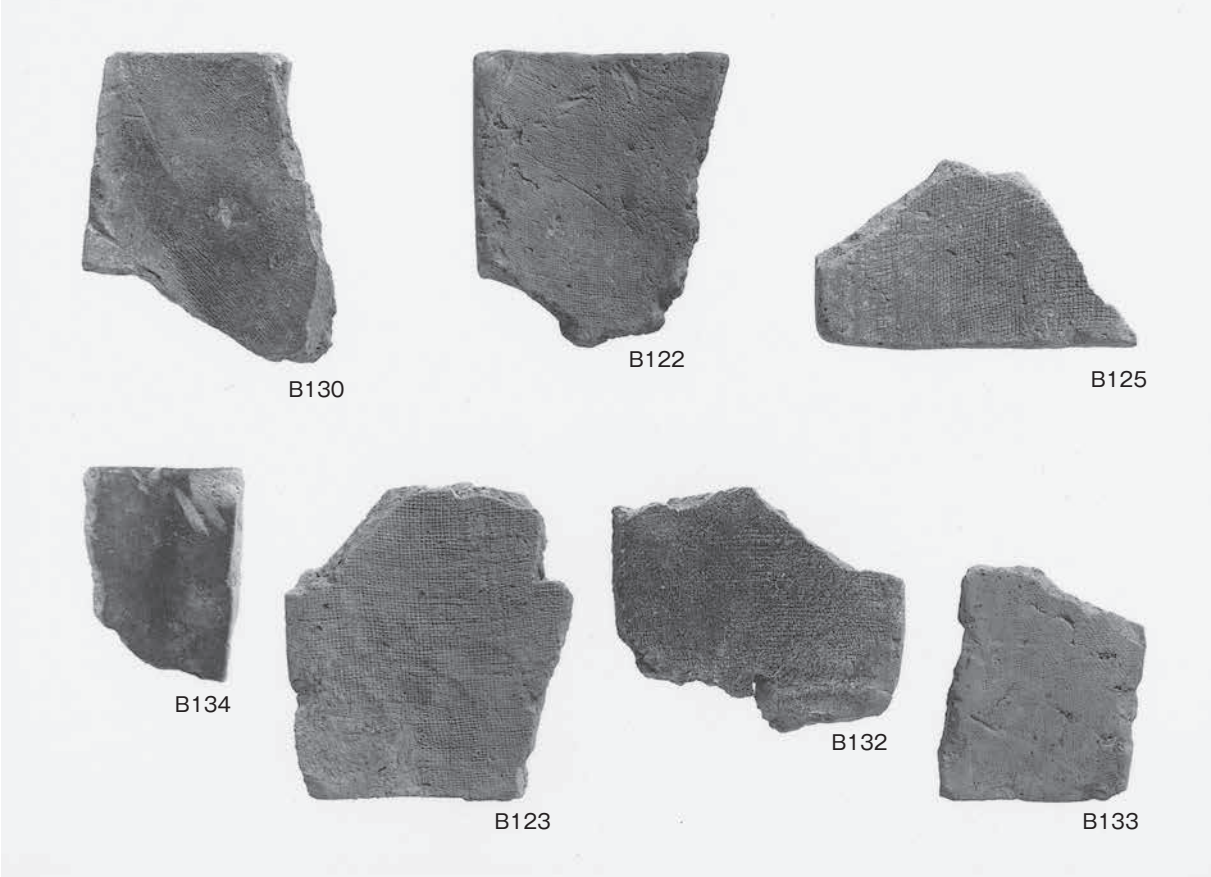
SD02 出土平瓦（凸面）



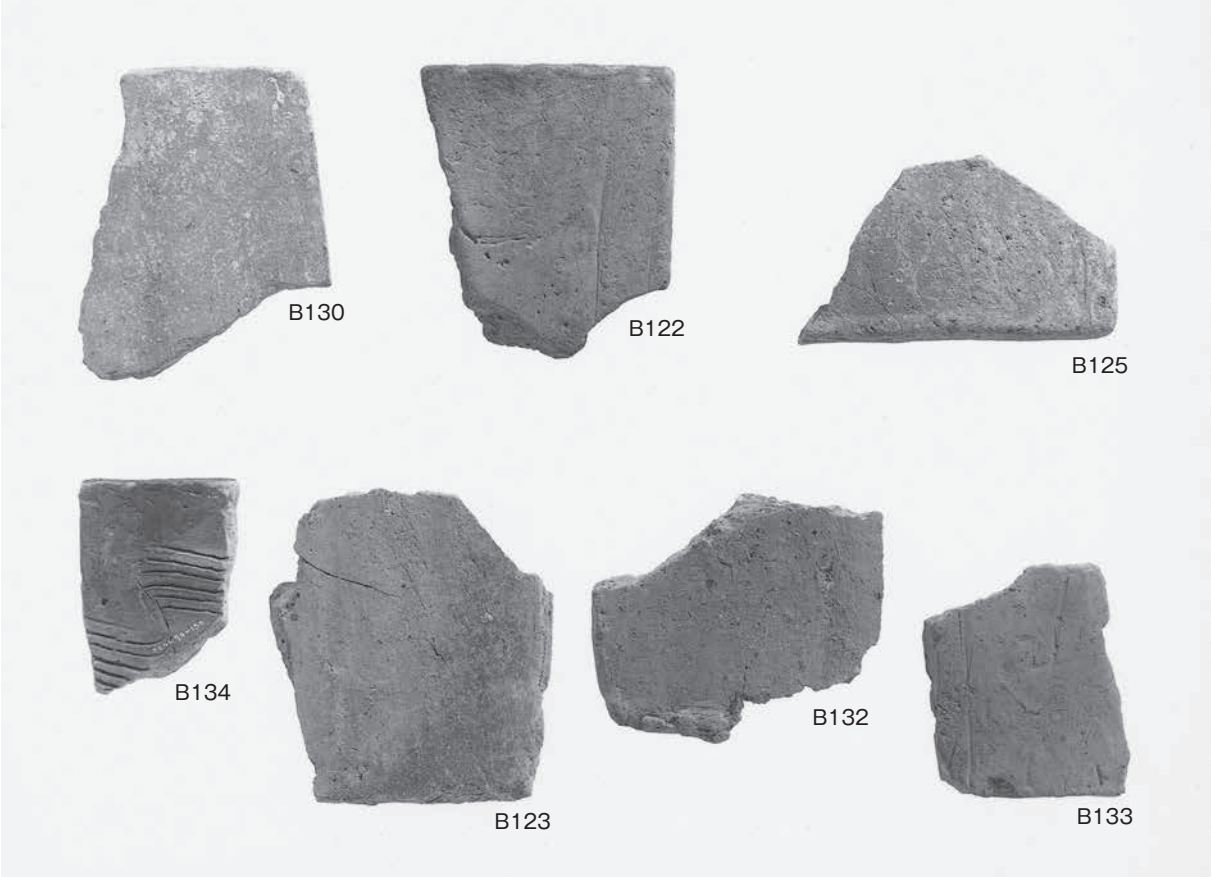
SD02 出土平瓦（凹面）



SD02 出土平瓦（凸面）



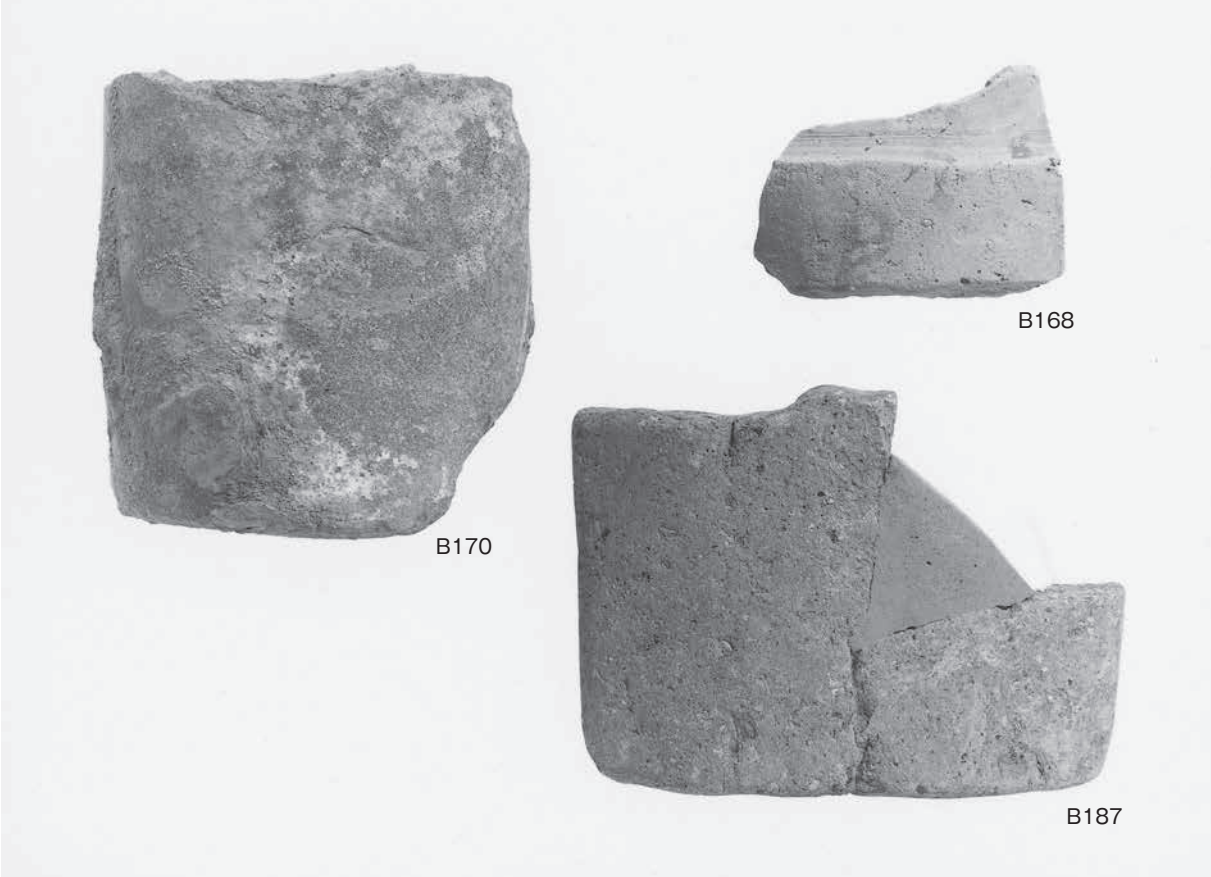
SD02 出土平瓦（凹面）



SD02 出土平瓦（凸面）

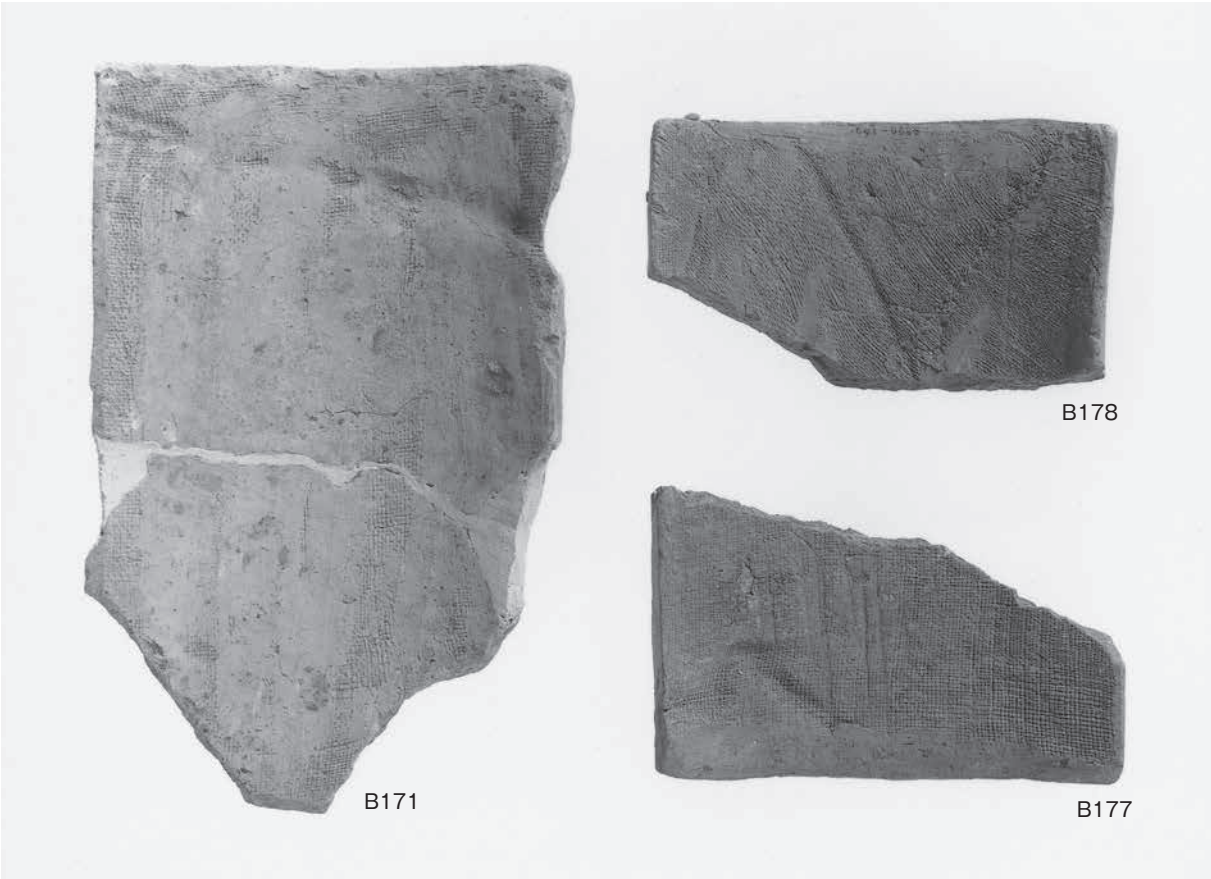
包含層出土丸瓦（凸面）

包含層出土丸瓦（凹面）

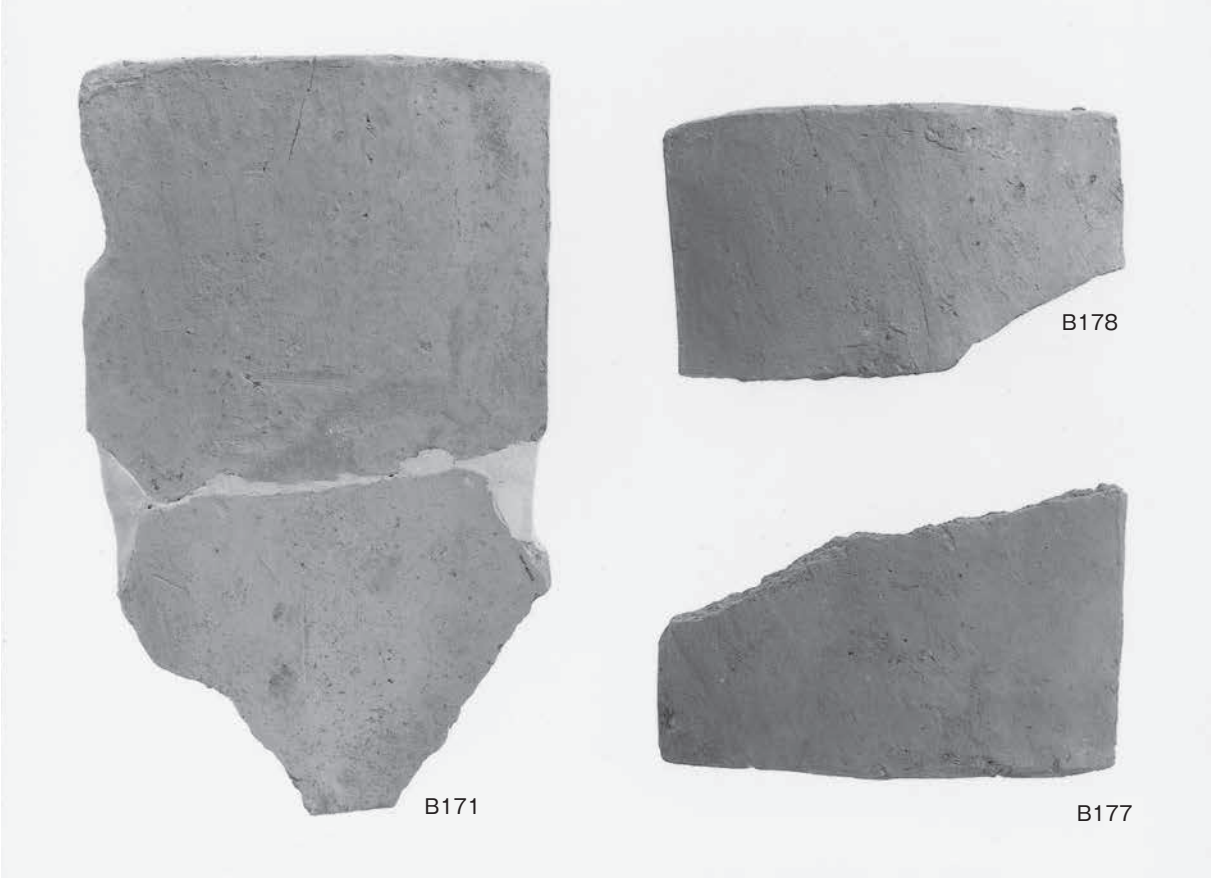


包含層出土丸瓦（凸面）

包含層出土丸瓦（凹面）

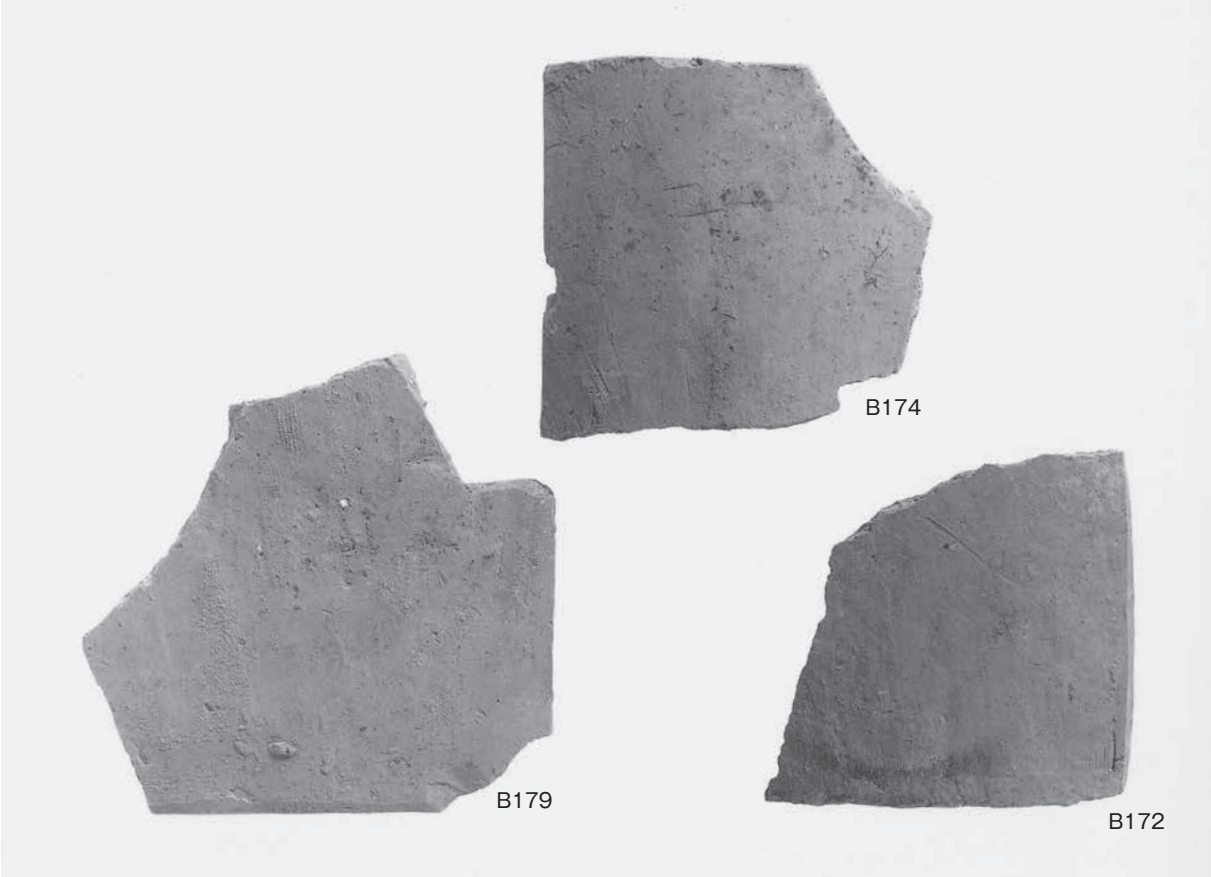


包含層出土平瓦（凹面）

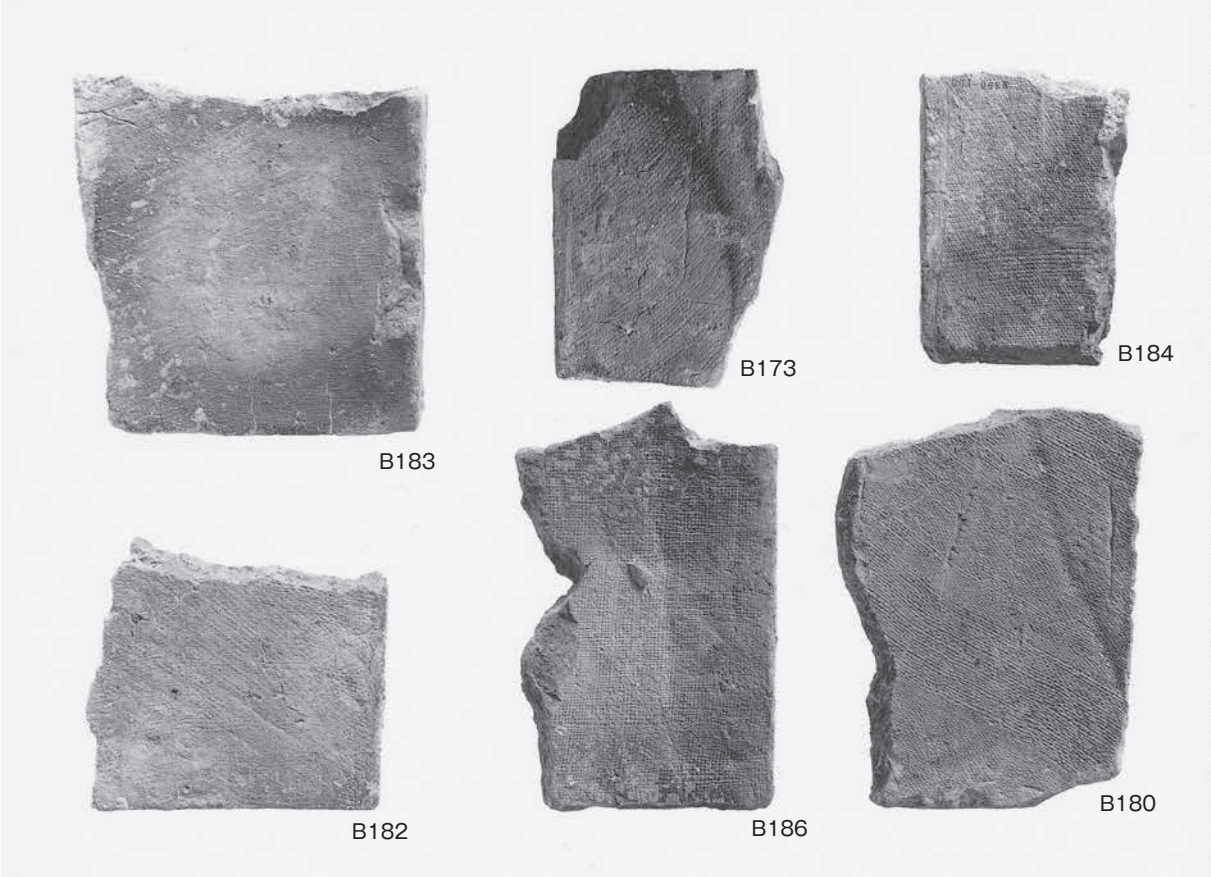


包含層出土平瓦（凸面）

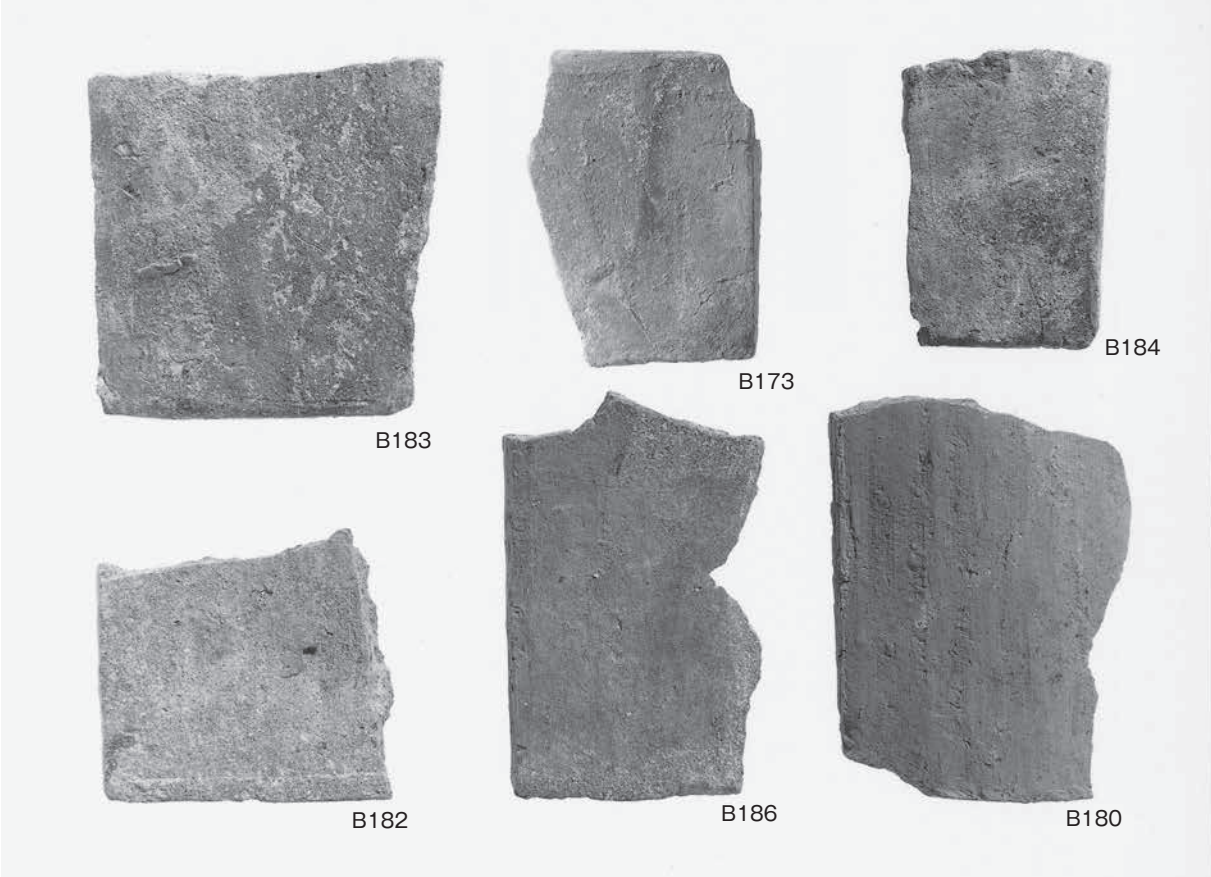
包含層出土平瓦（凹面）



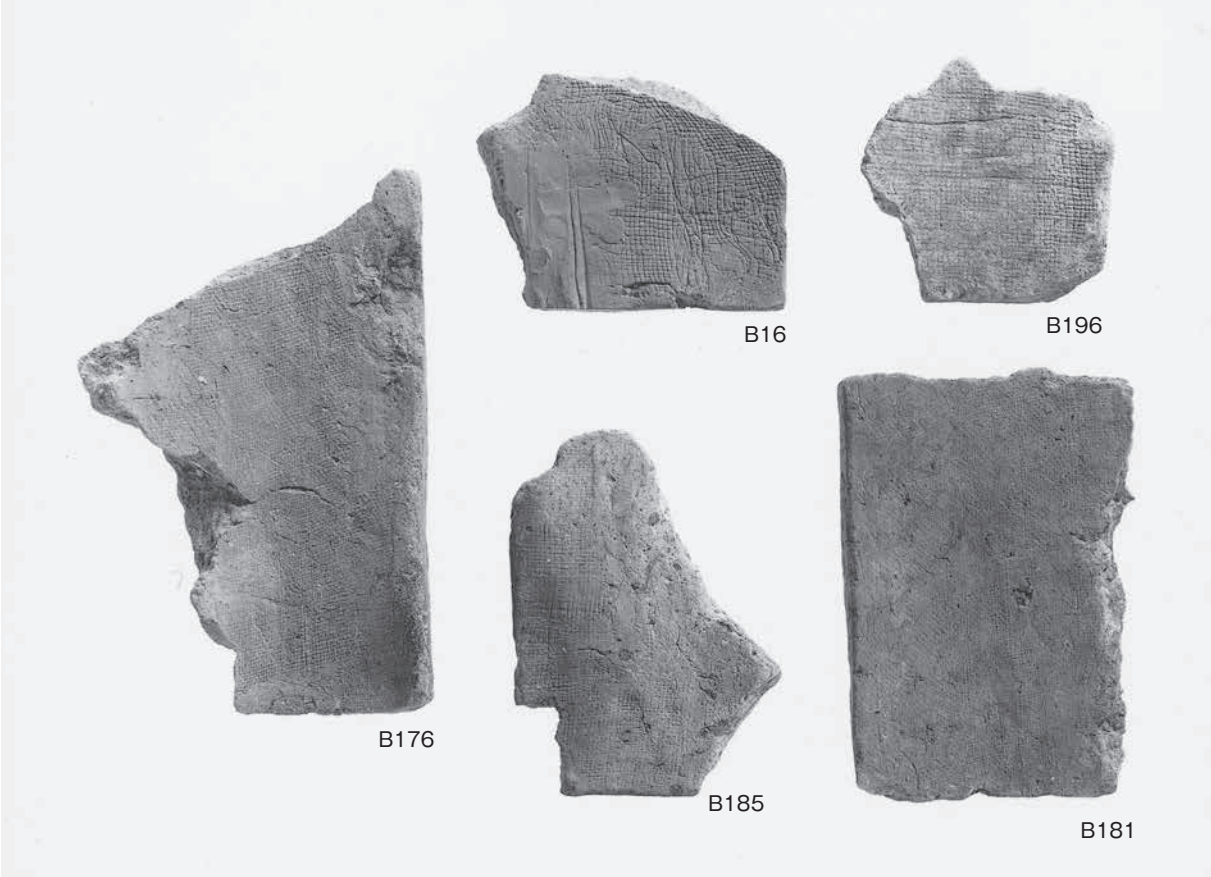
包含層出土平瓦（凸面）



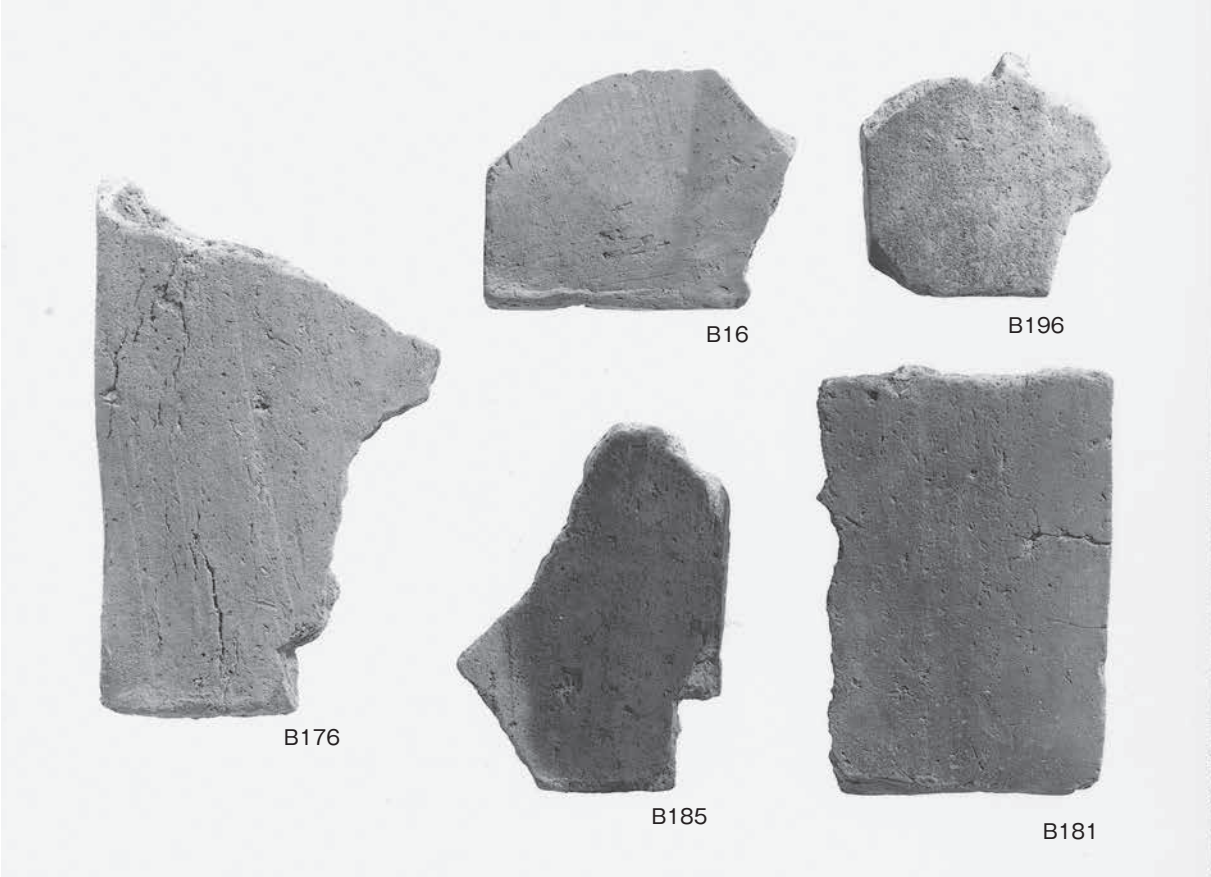
包含層出土平瓦（凹面）



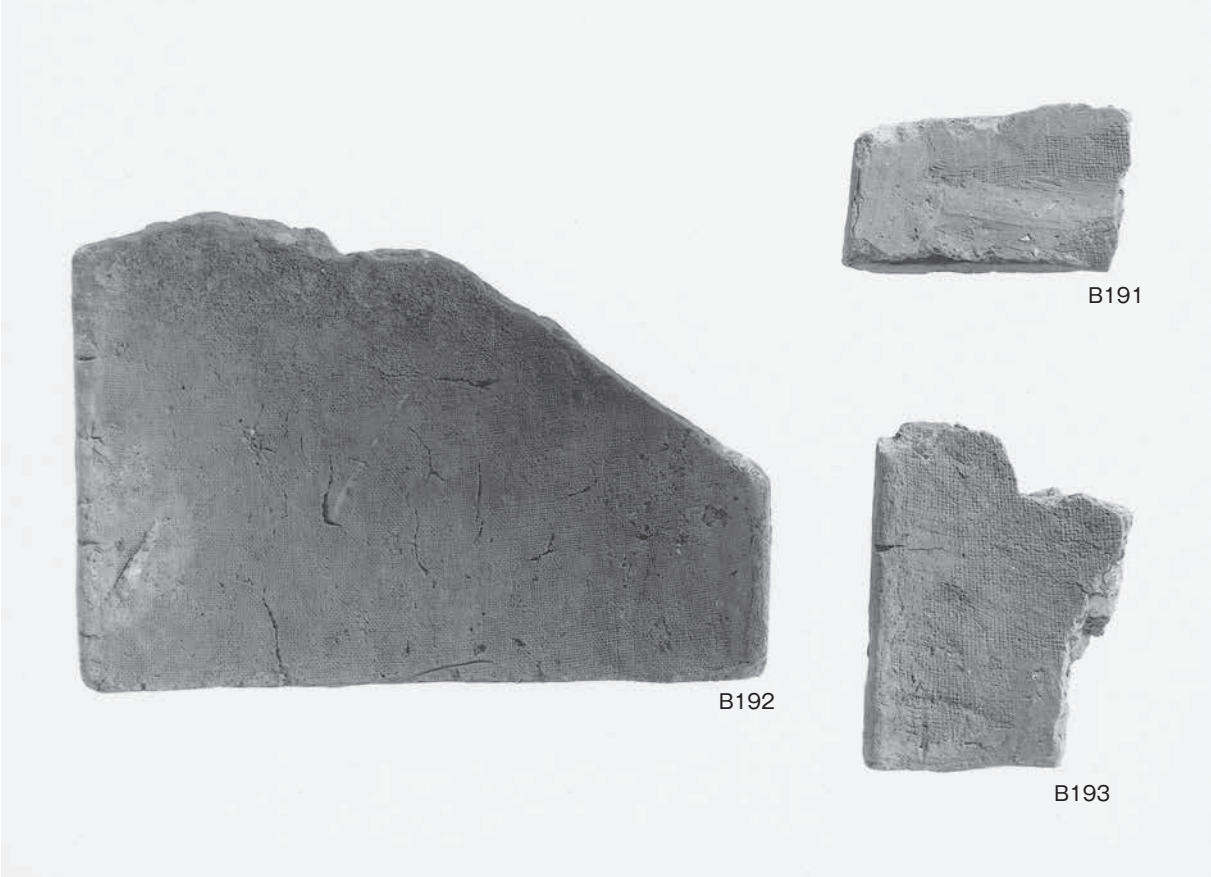
包含層出土平瓦（凸面）



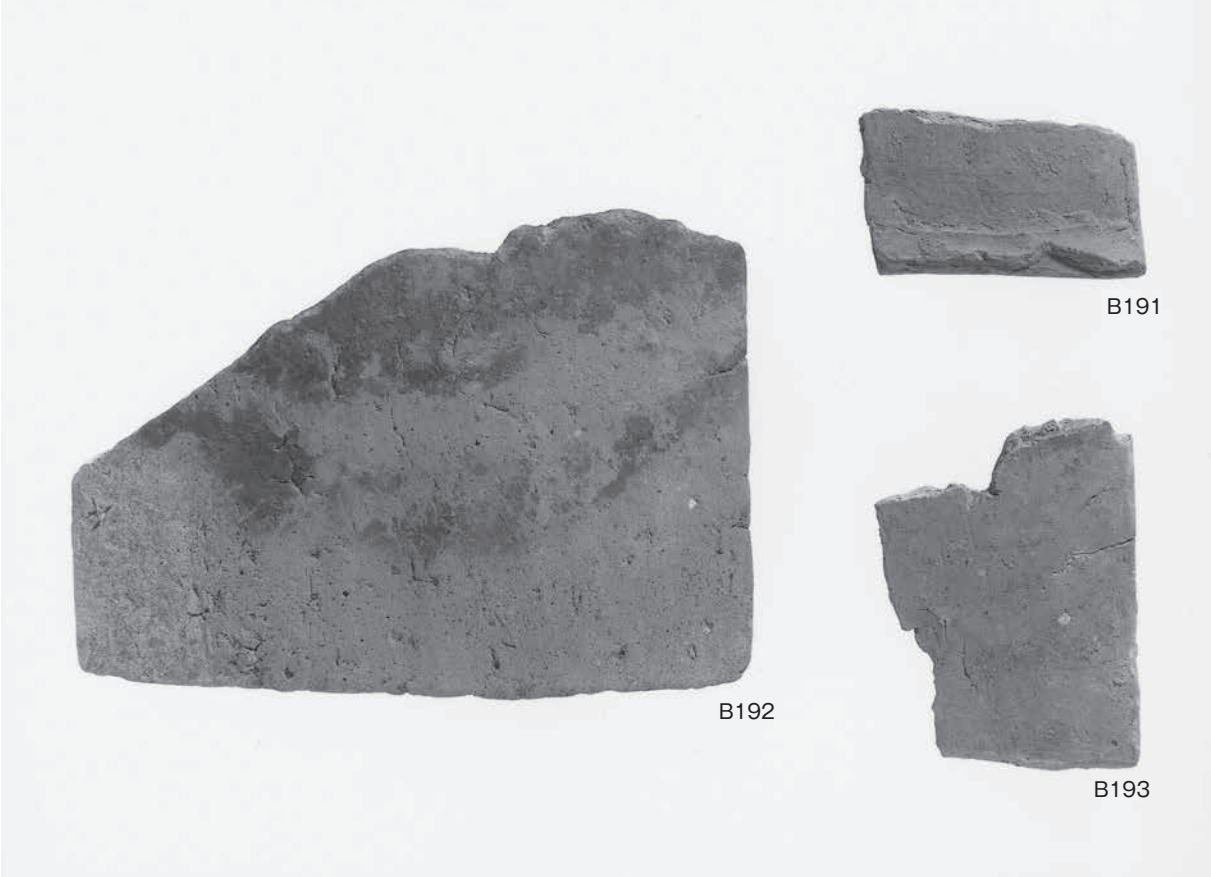
包含層出土平瓦（凹面）



包含層出土平瓦（凸面）



包含層出土平瓦（凹面）



包含層出土平瓦（凸面）

C地区

調査区遠景（南西から）

調査区遠景（東から）

調査区全景（南西から）

C地区・D地区・鴨谷地区を望む（南東から）

調査区全景（東から）

調査区全景（上空から）

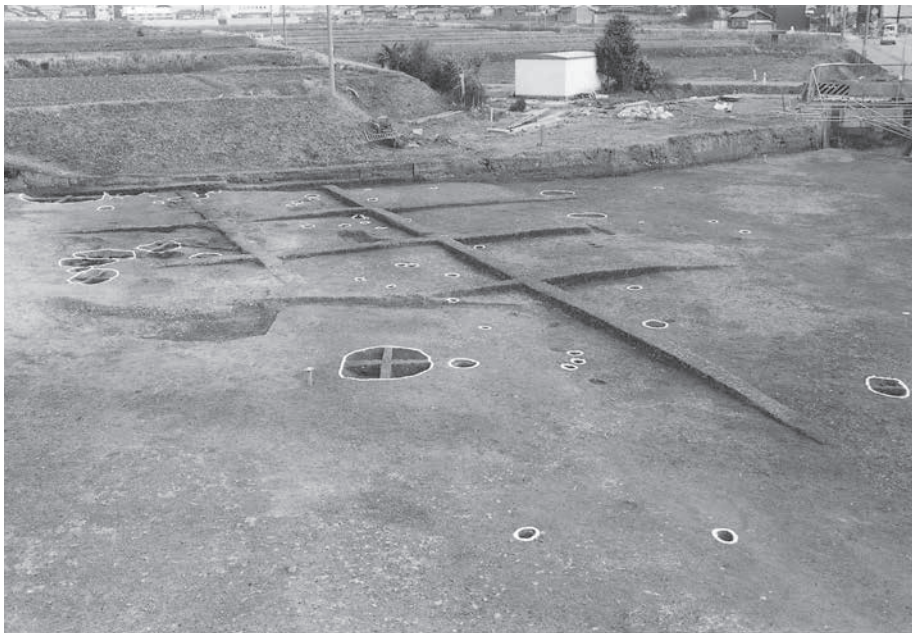
灰原検出状況
（東北から）

灰原検出状況
（東南から）

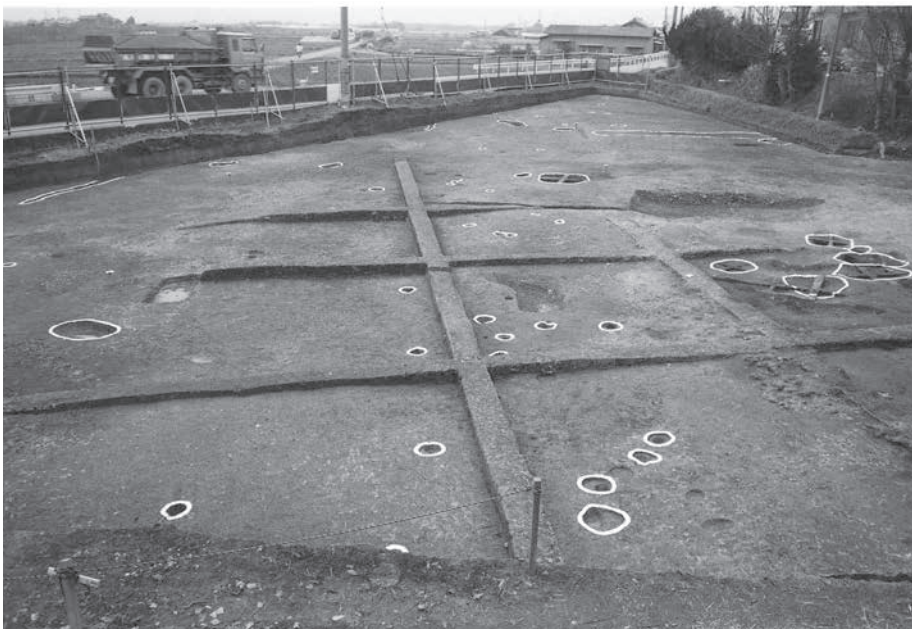
灰原遺物検出状況
（東から）

灰原全景及び
遺物検出状況
（西から）

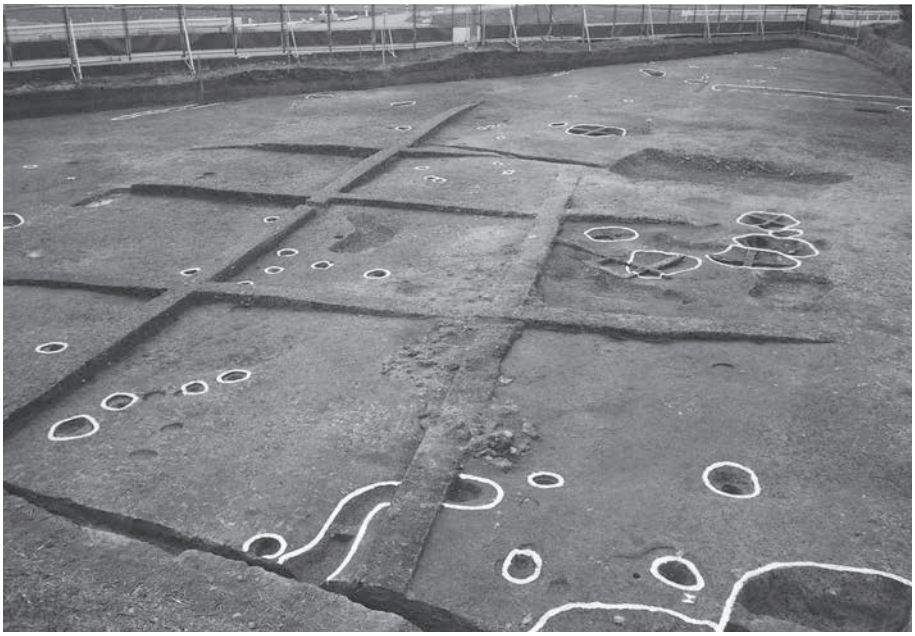
灰原遺物検出状況
（南西から）



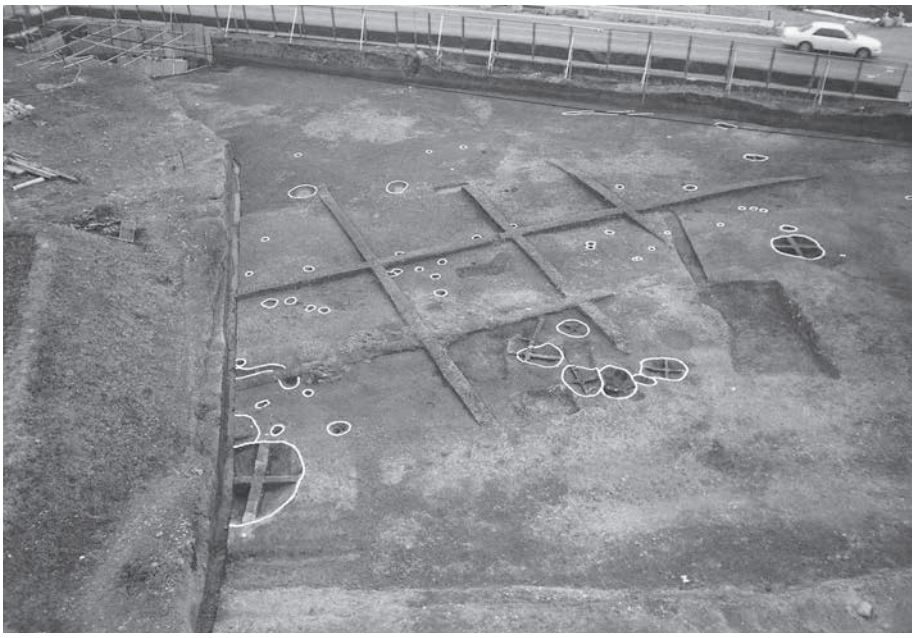
灰原全景
（西から）



灰原下遺構検出状況
（東から）



灰原下遺構検出状況
（東から）



灰原下遺構検出状況
（北から）

土坑群検出作業状況

土坑群
（南から）

SK01
（南から）

SK03 遺物検出状況
（南から）

SK03
（南から）

SK06
（南から）

SK04
（西から）

SK04
（南から）

SK04 遺物出土状況
（北西から）

SK05
（南から）

SK05 土層断面
（西から）

SD05
（西から）

灰原及び SR01
（北西から）

SR01 上面 SD01
（北から）

SD01
（北西から）

① SD01 杭列（北から）

③杭列断ち割り（北から）

④杭列断ち割り（北から）

② SD01 杭列（東から）

⑤ SD01 西肩土器出土状況（北東から）

① SR01 下層の掘削
（西から）

② SR01 下層の遺物出土状況
（東から）

③ SR01 下層の遺物出土状況（北から）

④軒丸瓦出土状況

⑤軒平瓦出土状況

C01

C07

C02

C08

C03

C09

C04

C11

C05

C12

SK04 出土土器

C16

C17

C24

C27

C56

C59

C57

C61

SK02・04・06・灰原出土土器

C65

C67

C102

C103

C106

C107

C89

C100

C105

C111

灰原出土土器

C113

C114

C115

C118

C119

C120

C121

C122

C124

C125

C126

C127

灰原出土土器

C128

C129

C130

C131

C132

C133

C134

C135

C136

C137

C139

C140

C141

C142

C144

C145

C148

C147

C152

C156

C155

灰原出土土器

C161

C165

C172

C173

C177

C182

C181

C185

灰原出土土器

C183

C184

C186

C196

C197

C198

C199

C200

C201

灰原・SD01 出土土器

C202

C203

C206

C207

C208

C209

C210

C211

C222

C223

C225

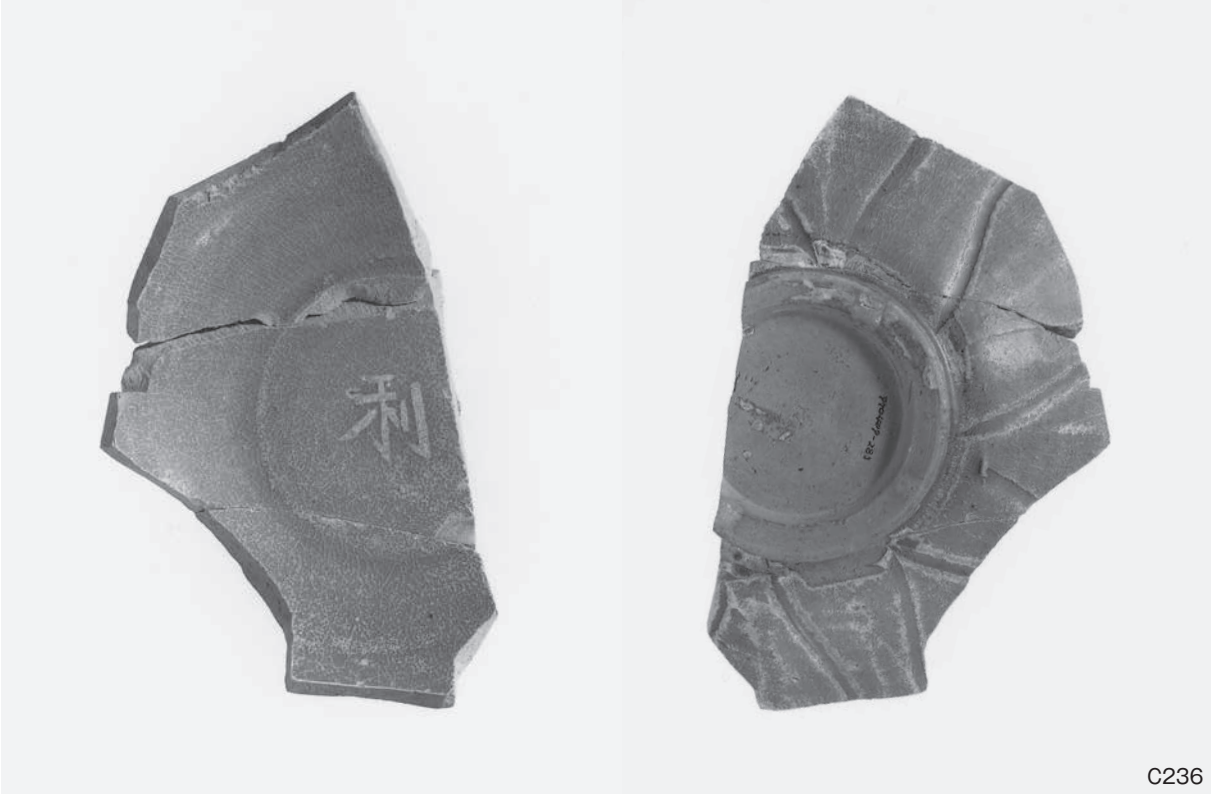
C226

SD01・SR01 出土土器

C227

C229

C228



C236

C237

C238

C239

C245

C240

C246

C241

C242

C247

C244

SR01 出土土器

C248

C252

C253

C250

C254

C251

C255

C256

C257

C258

C259

SR01 出土土器

C260

C261

C262

C263

C264

C265

C266

C267

C268

C269

C270

C271

SR01 出土土器

C272

C273

C274

C275

C276

C277

C278

C279

C280

C281

C282

C283

SR01 出土土器

C284

C287

C285

C286

C338

C291

C298

C351

SR01・包含層出土土器

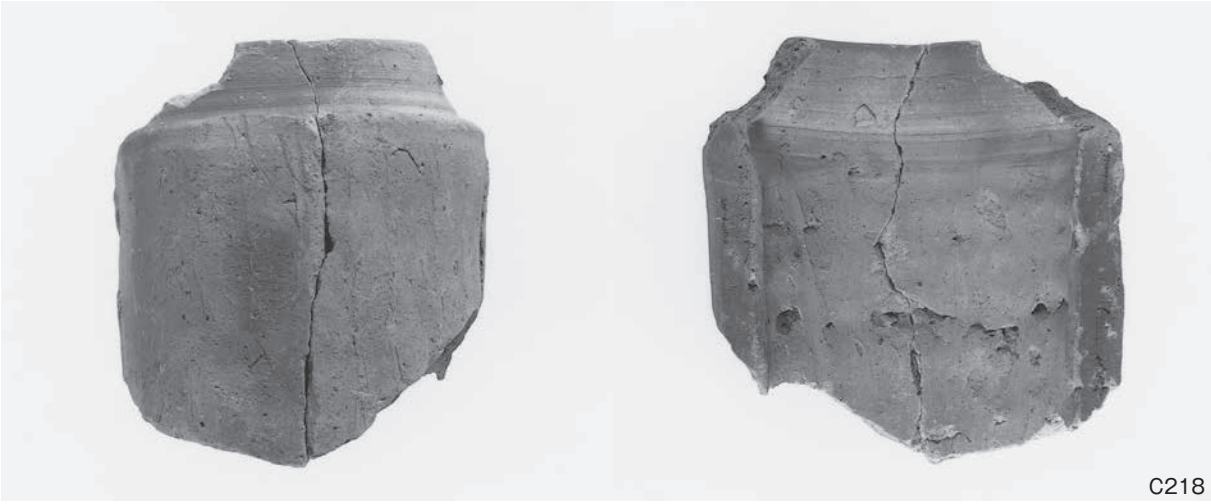
C359

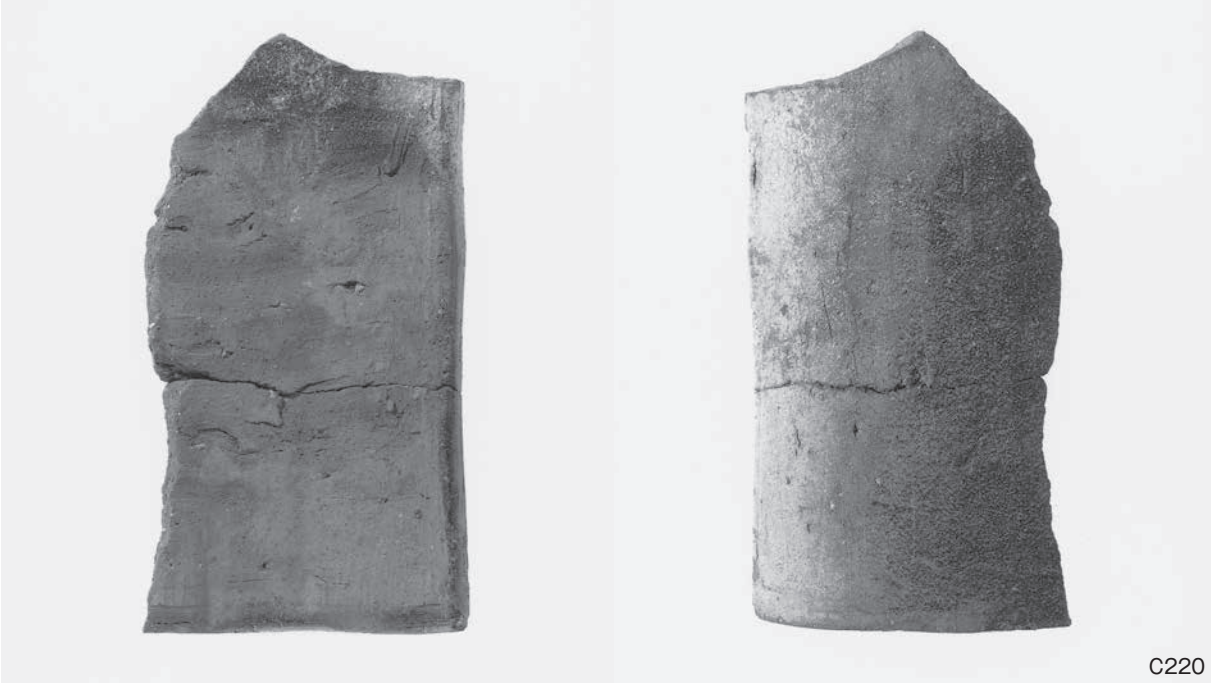
C369

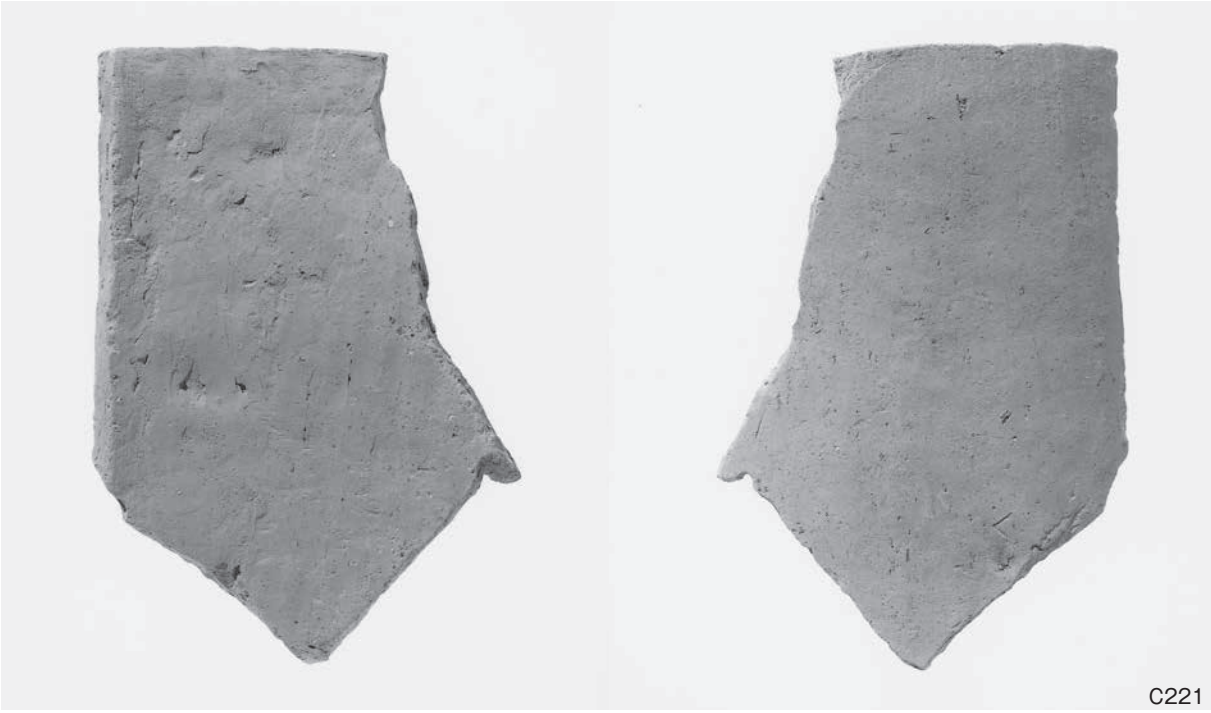
C187

C191

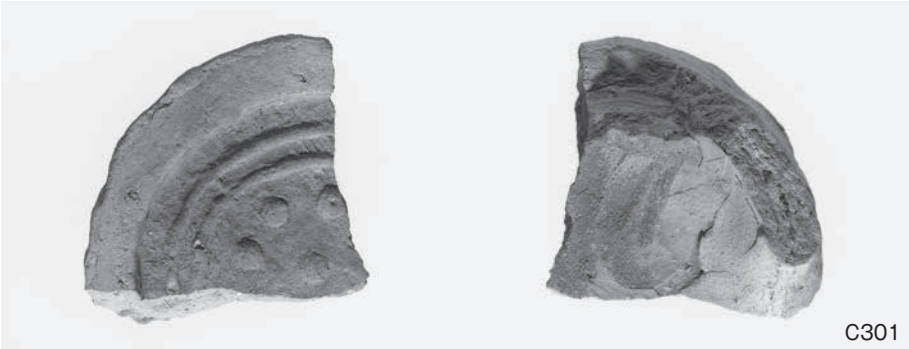
SD01 出土軒丸瓦・軒平瓦







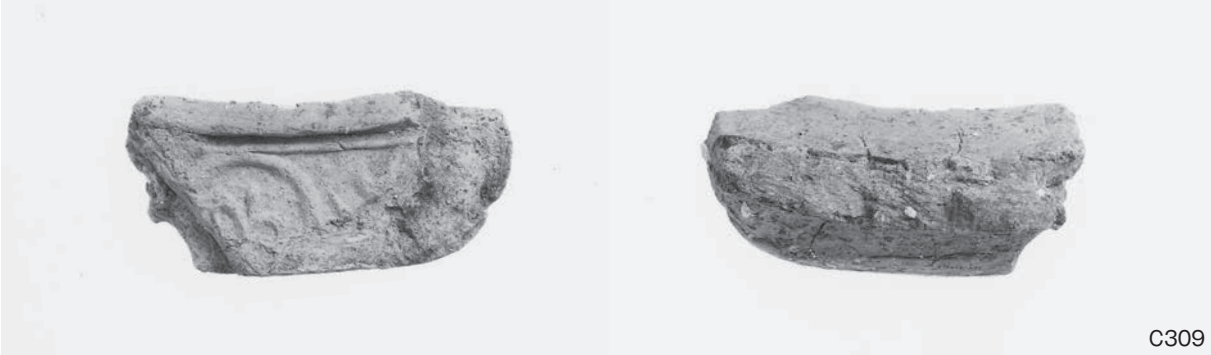
SD01 出土丸瓦・平瓦



SR01 出土軒丸瓦・軒平瓦

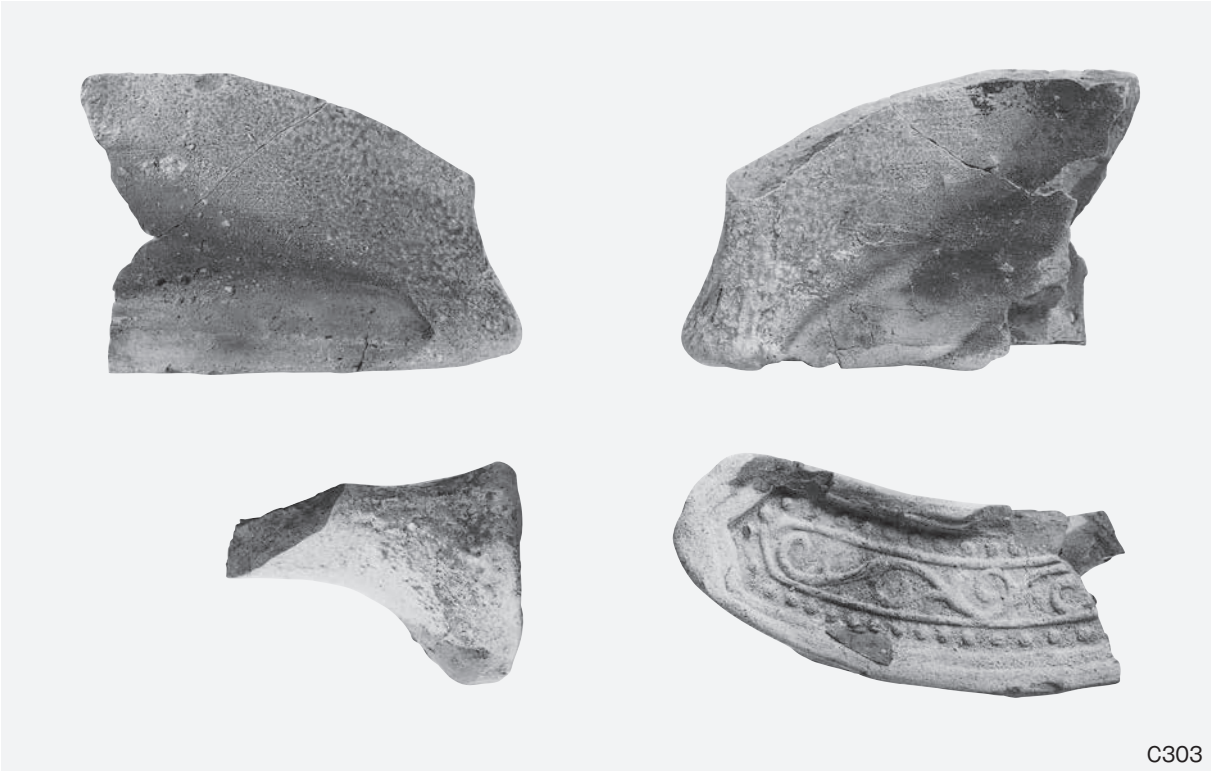
C302

C307



C309

SR01 出土軒平瓦

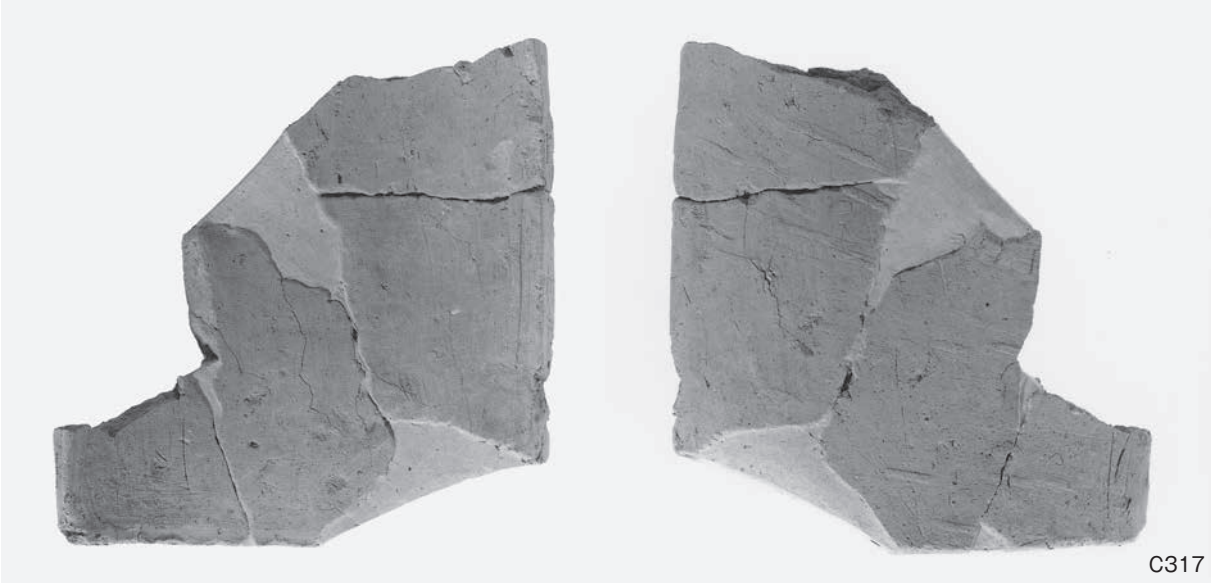


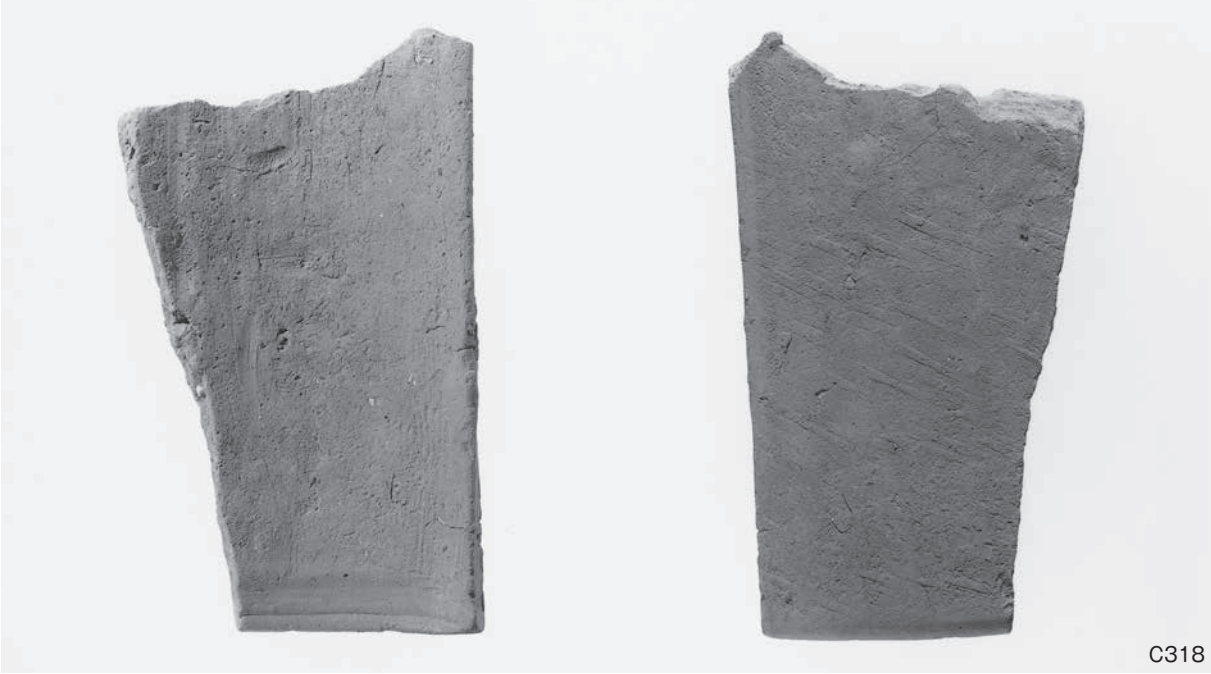
C303

C304

SR01 出土軒平瓦

SR01 出土軒平瓦・丸瓦





SR01 出土平瓦

C319

C320

C322

C323

SR01 出土平瓦

SR01 出土平瓦

C324

C327

C329

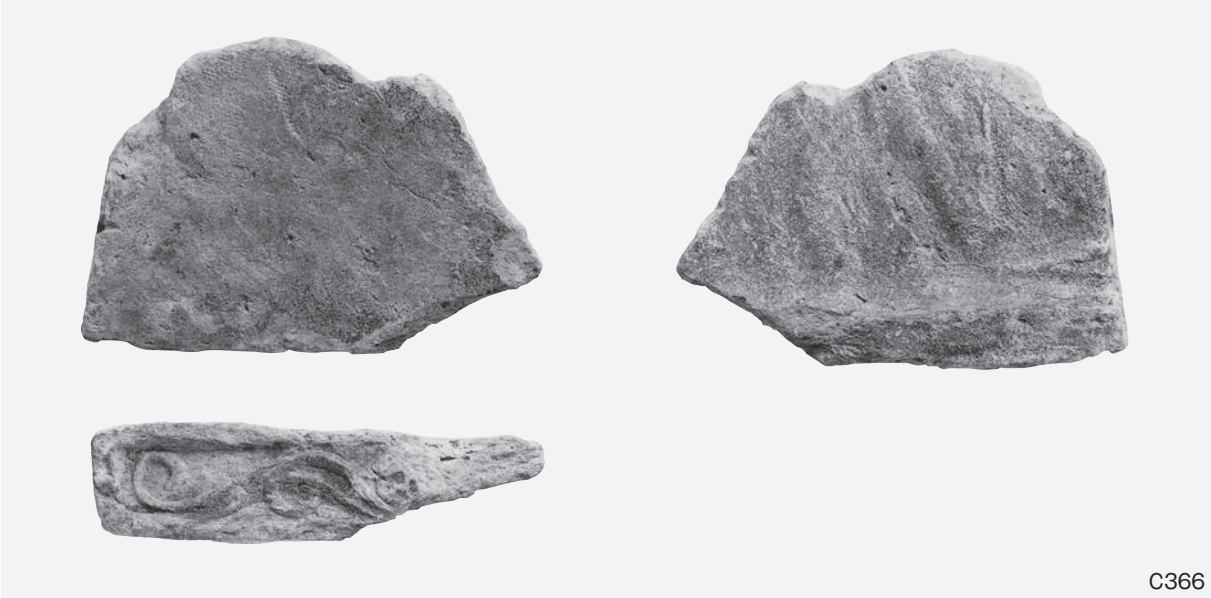
C330

SR01 出土平瓦

C361

C363

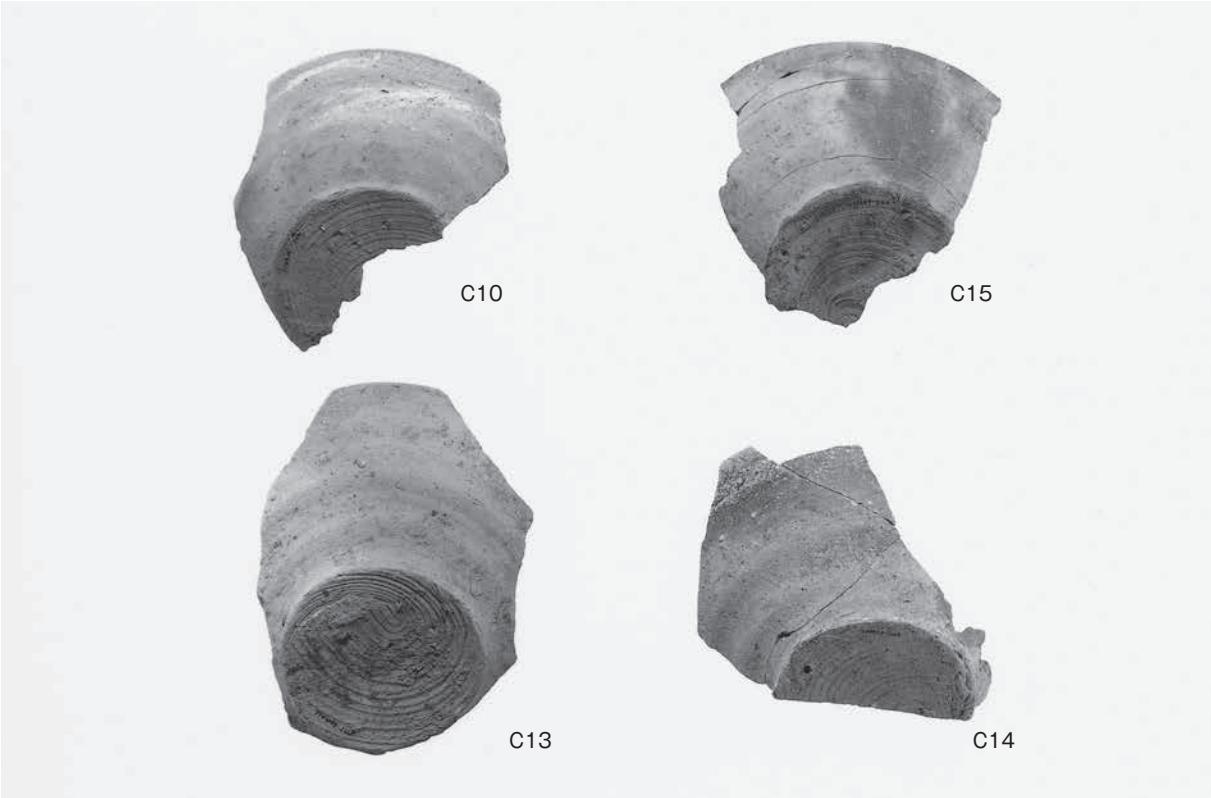
C365


C366

C368

包含層出土軒丸瓦・軒平瓦

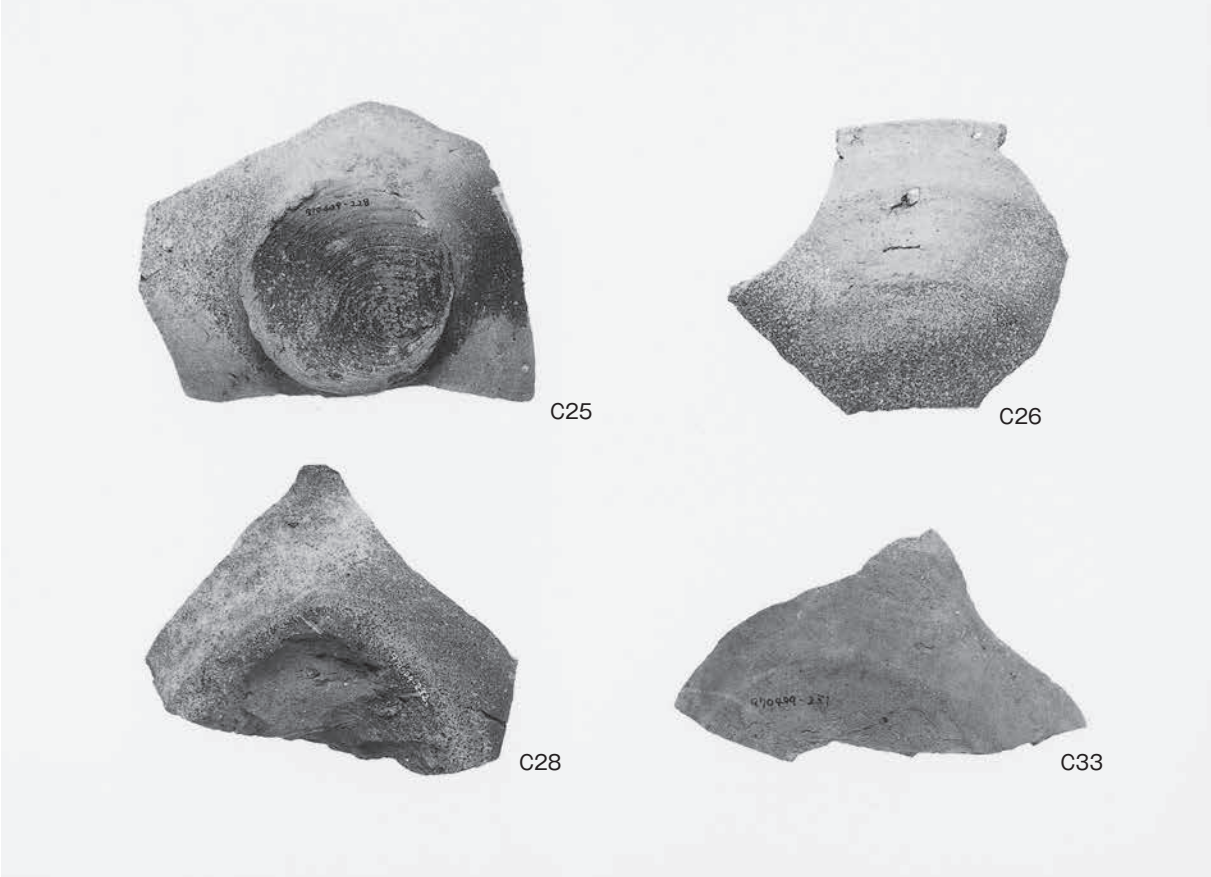
包含層出土軒平瓦



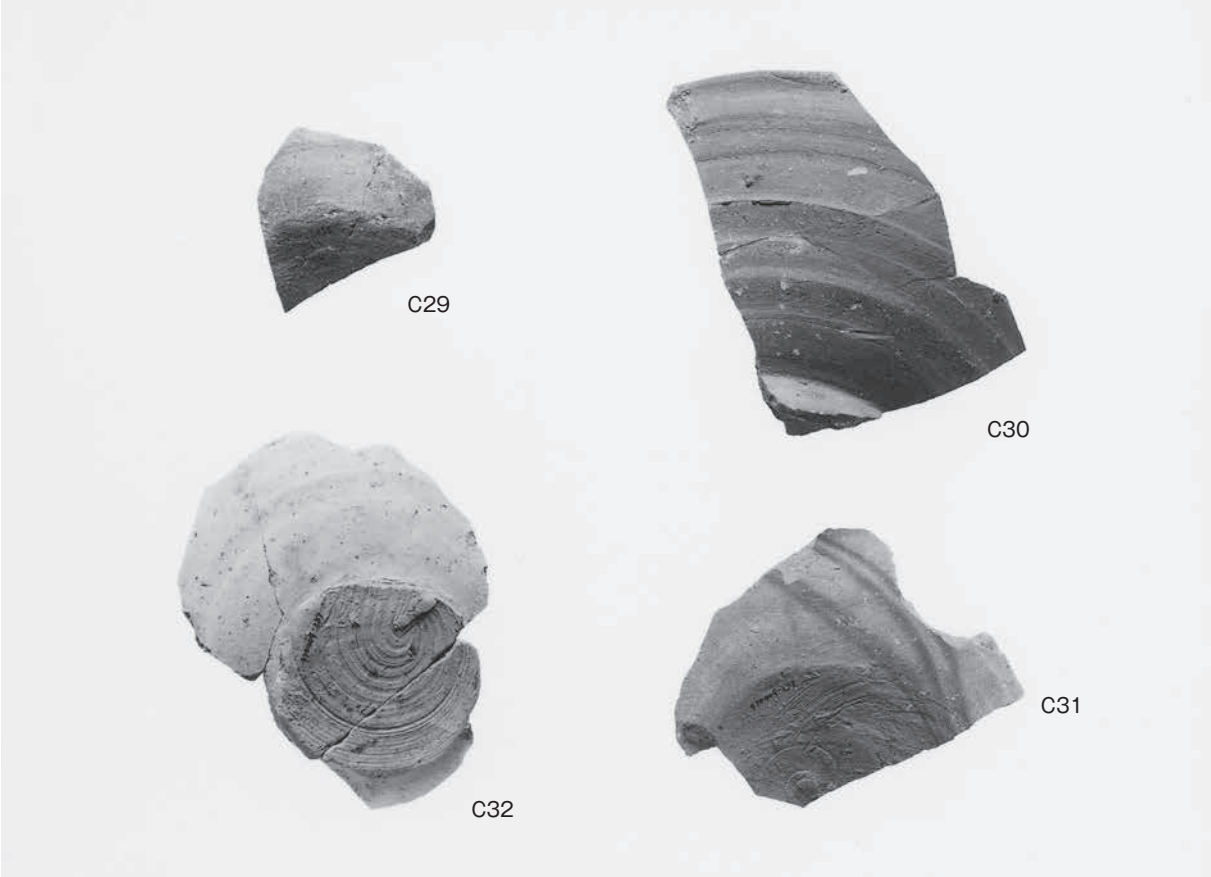
SK04 出土土器

SK04 出土土器

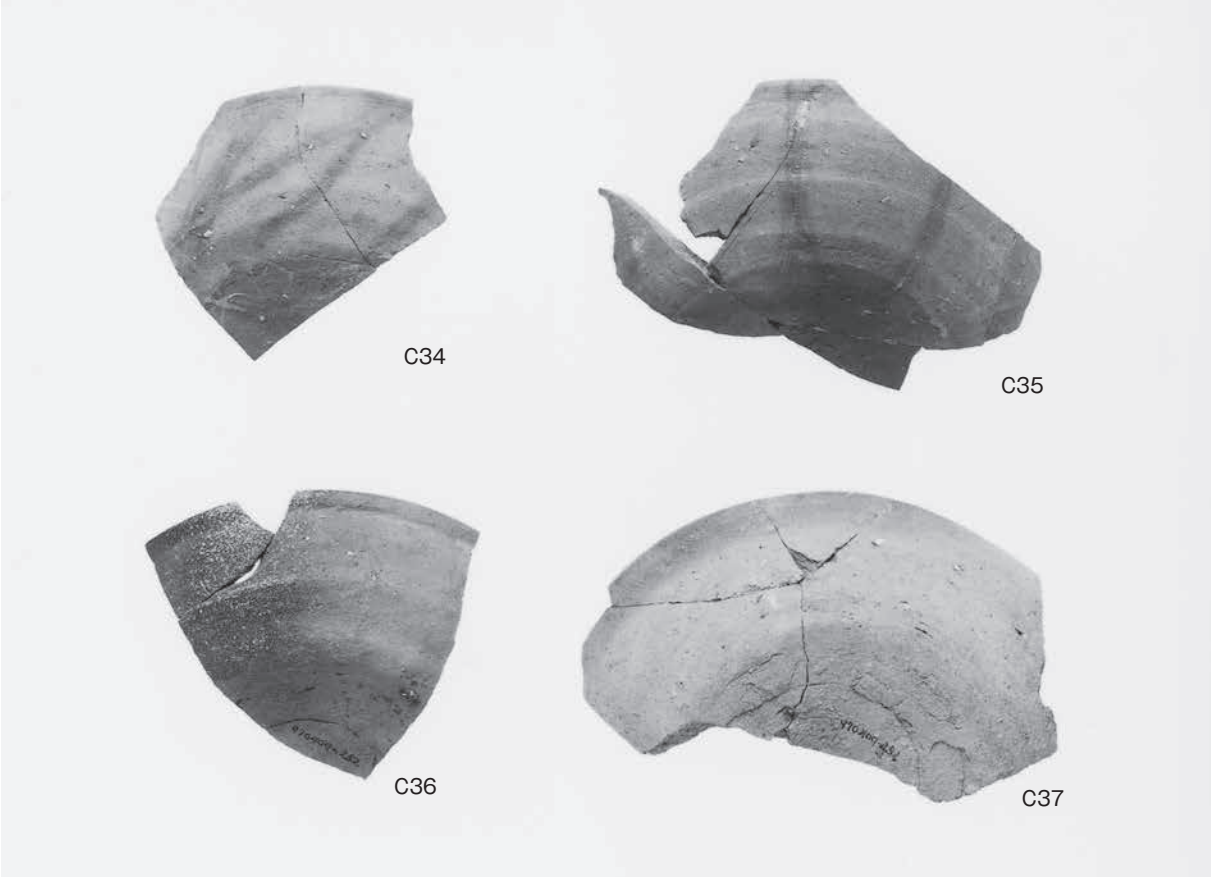
SK04・包含層出土土器



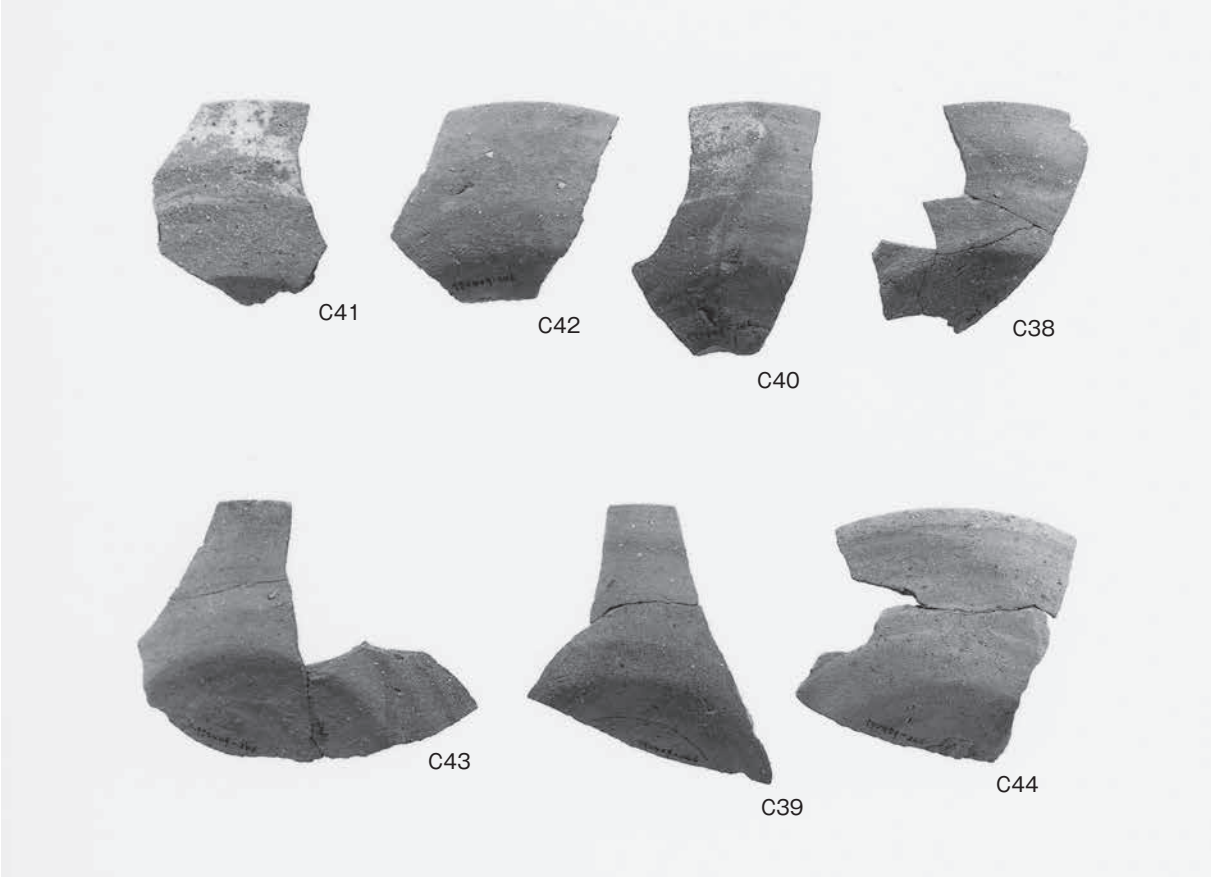
SK02・05・07・13 出土土器



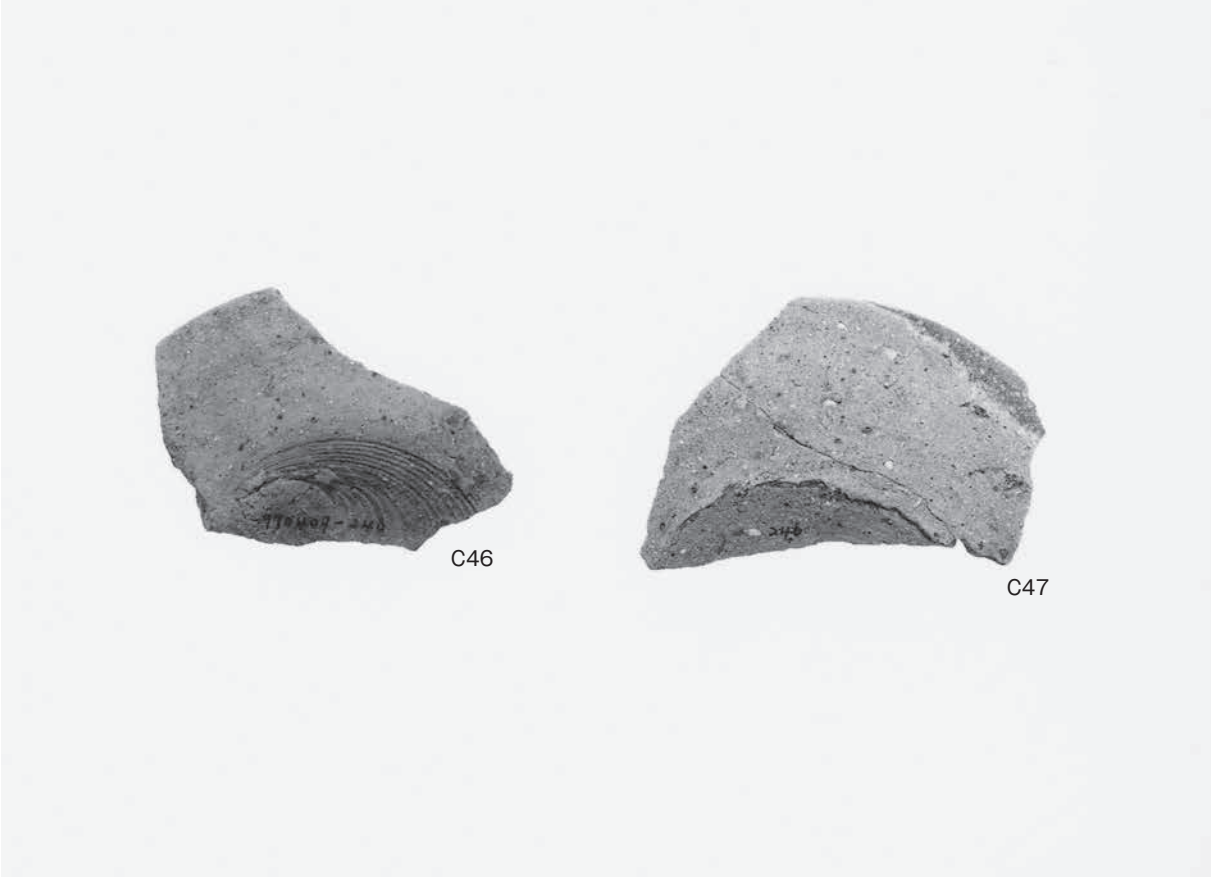
SK09・10 出土土器



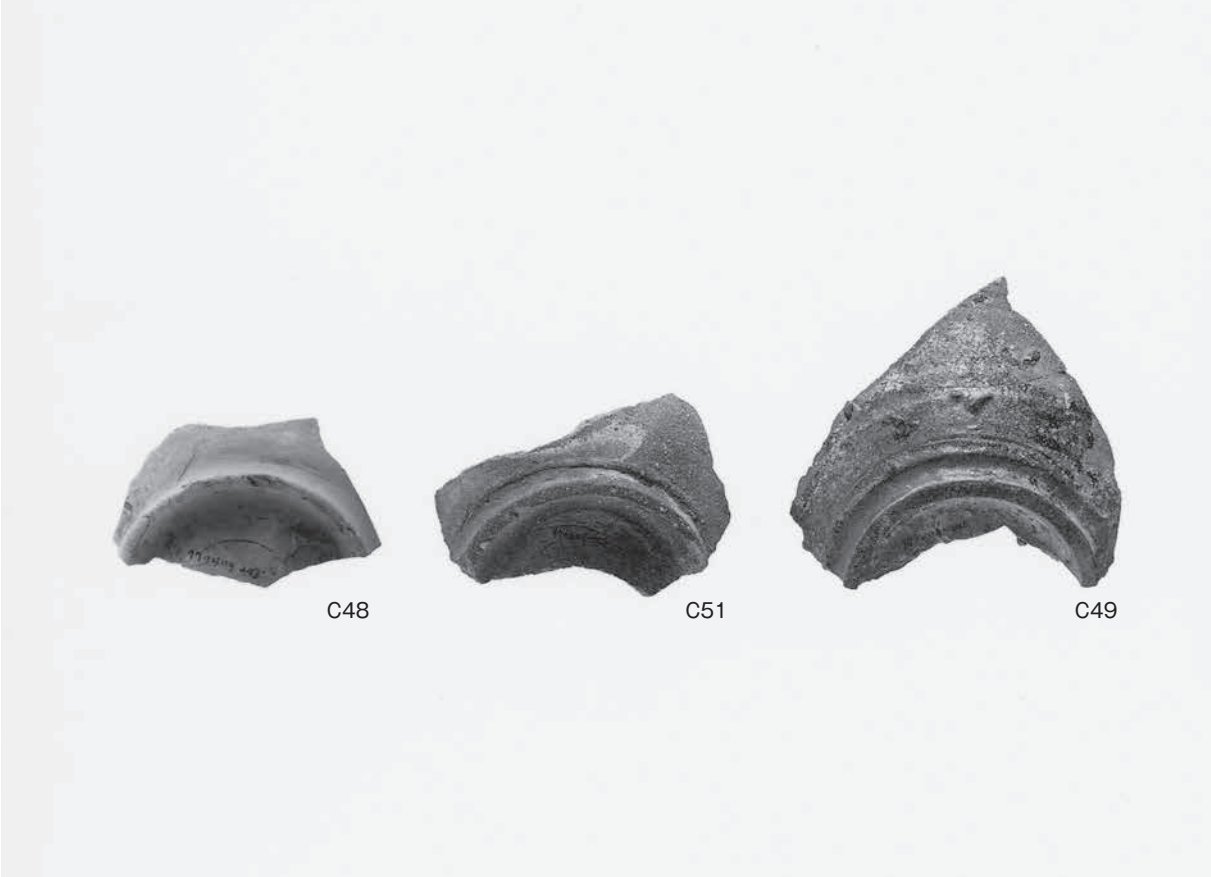
SK14 出土土器



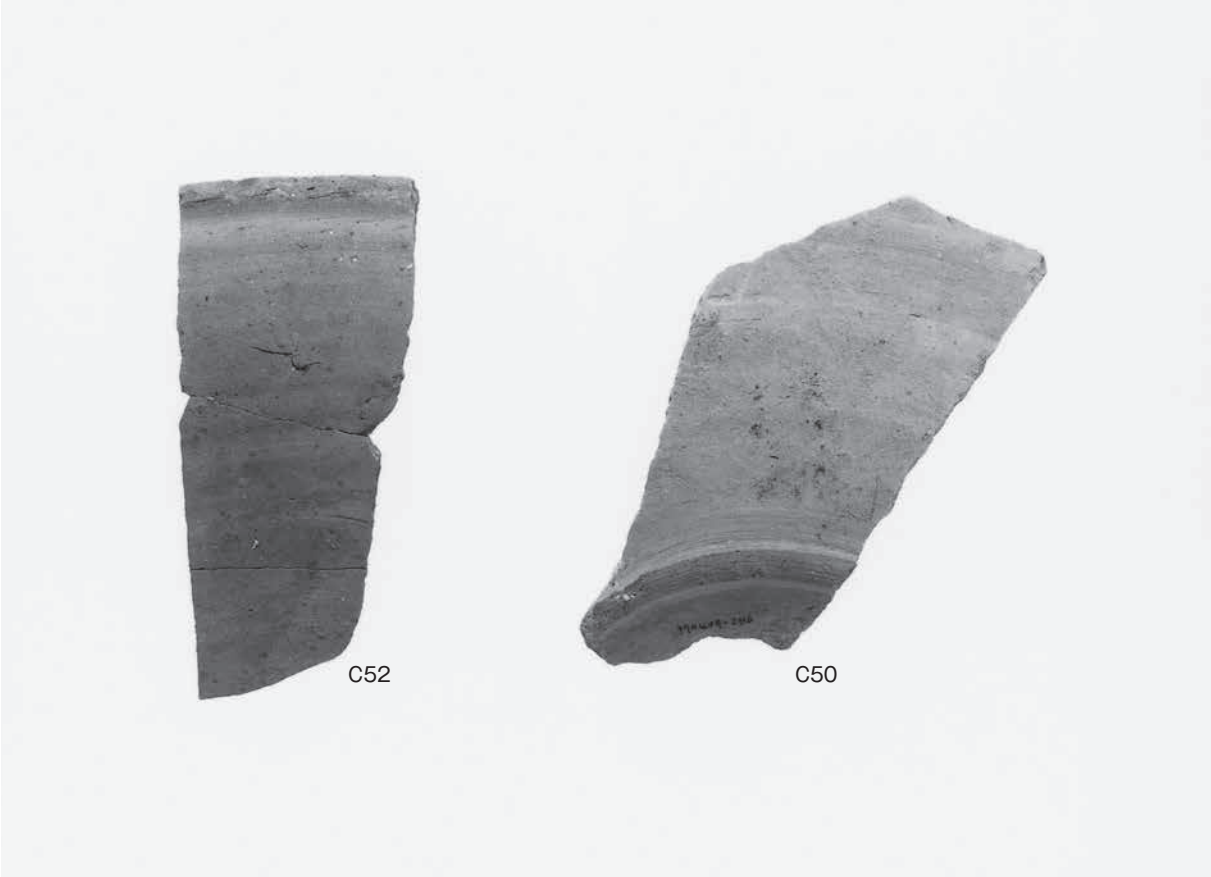
SK11・12 出土土器



SK11・12 出土土器

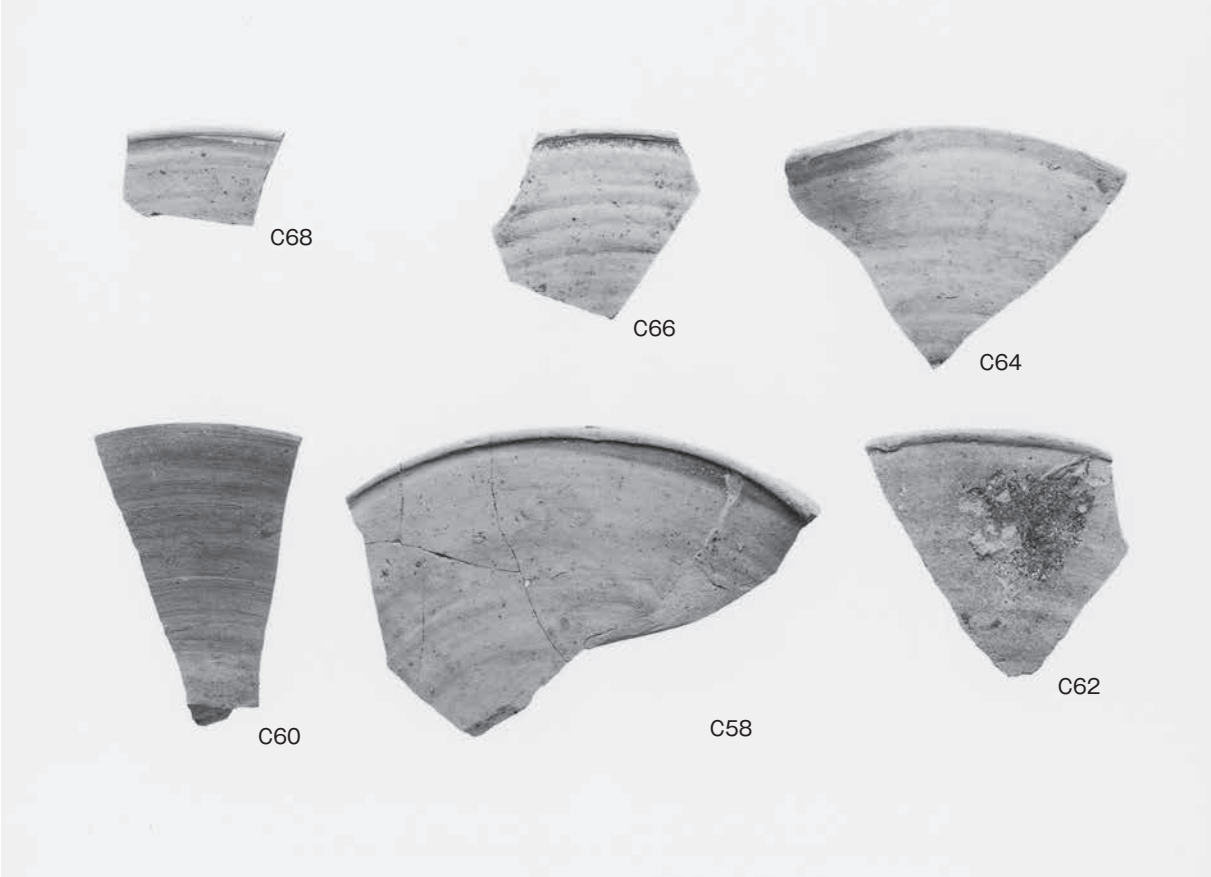


SK11・12 出土土器

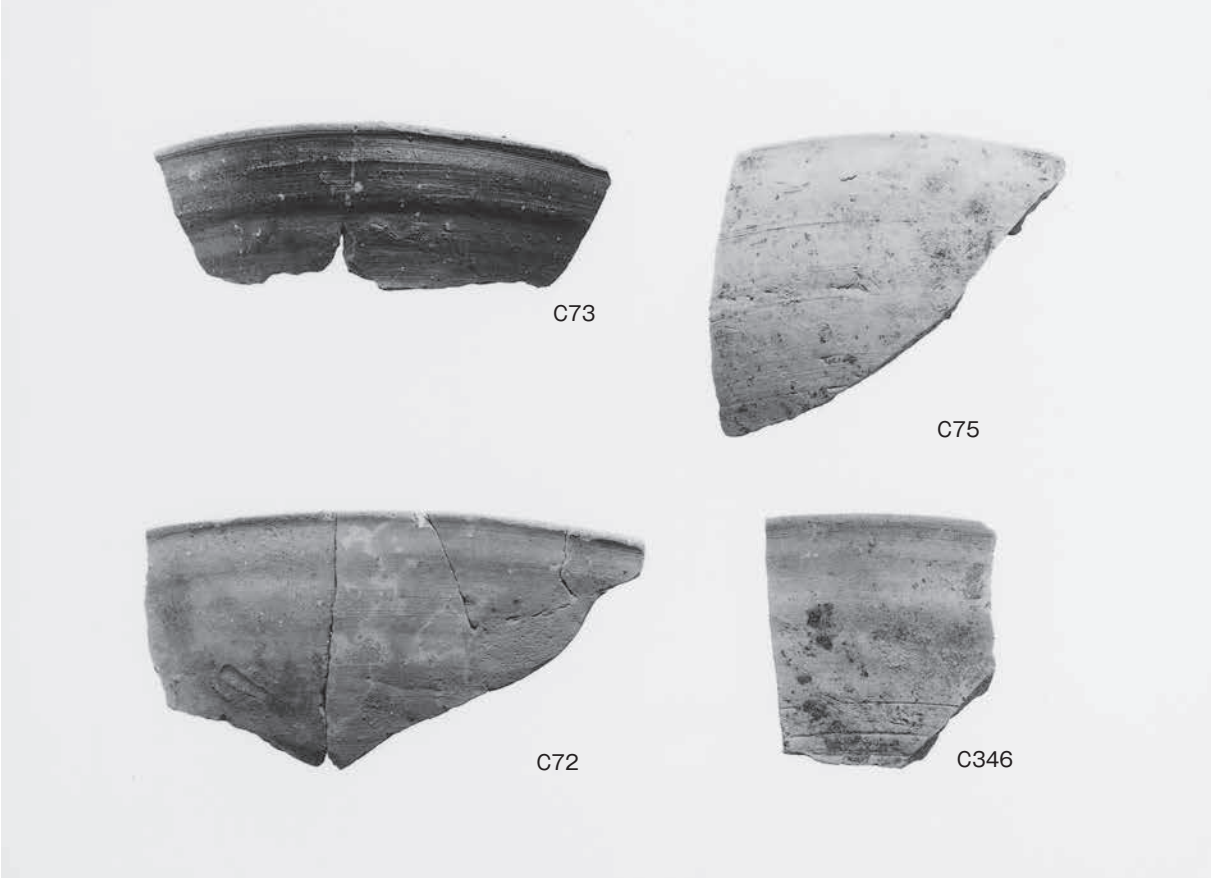


SK11・12 出土土器

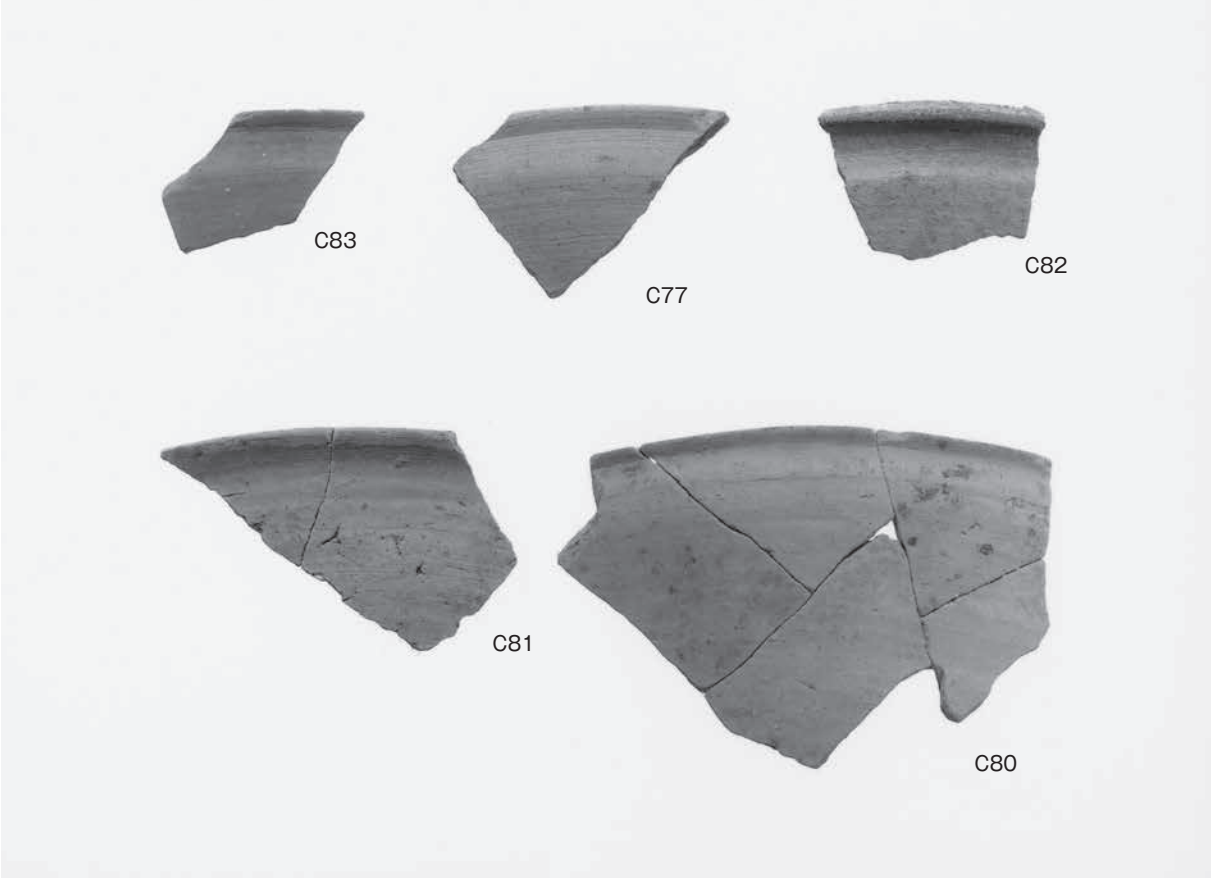
灰原出土土器



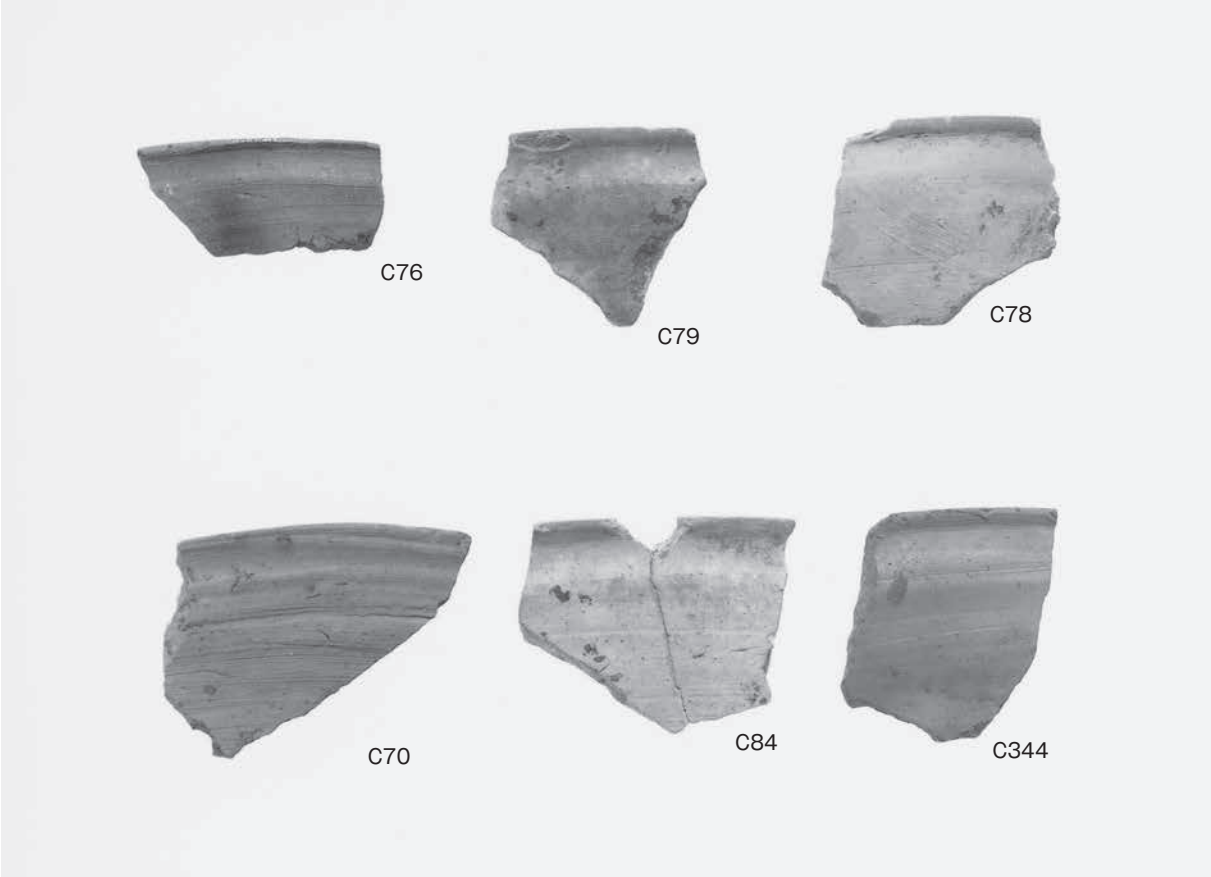
灰原出土土器



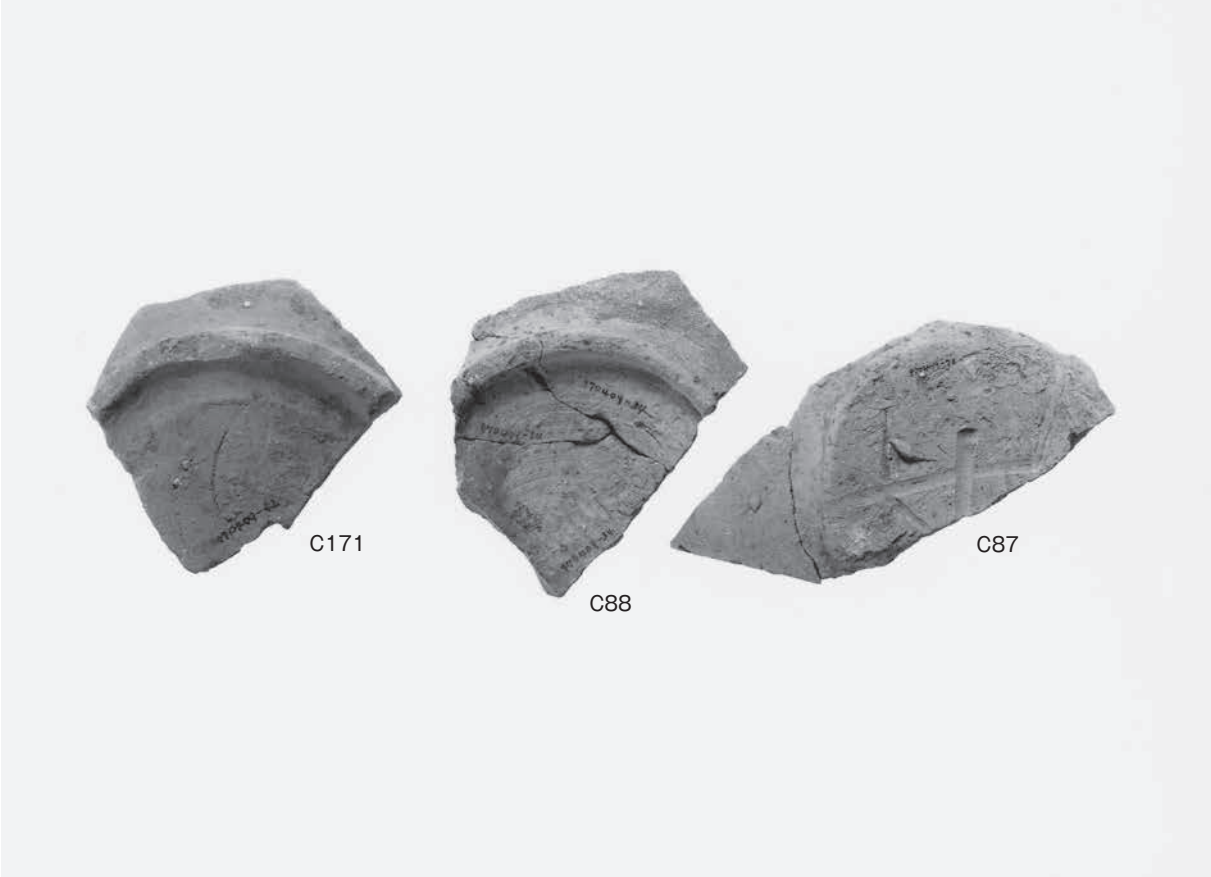
灰原出土土器



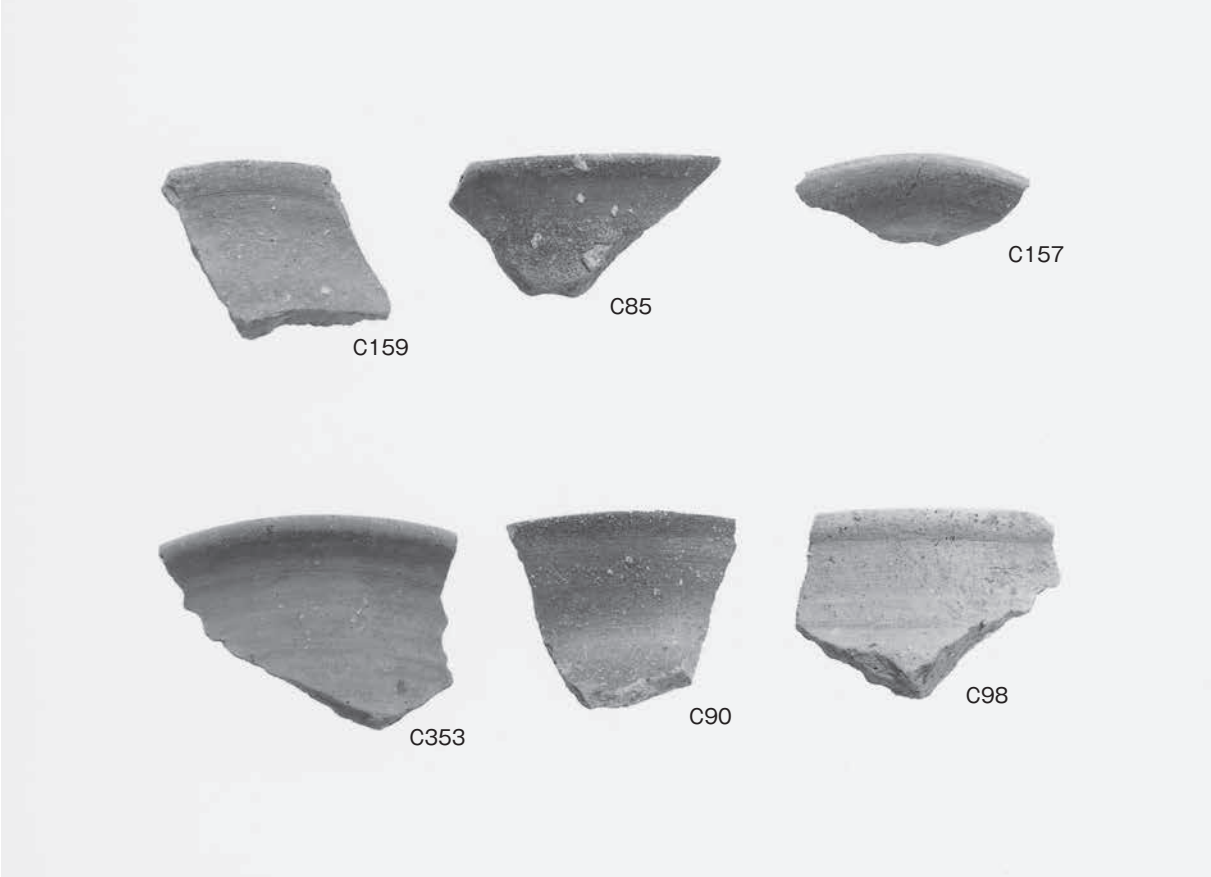
灰原出土土器



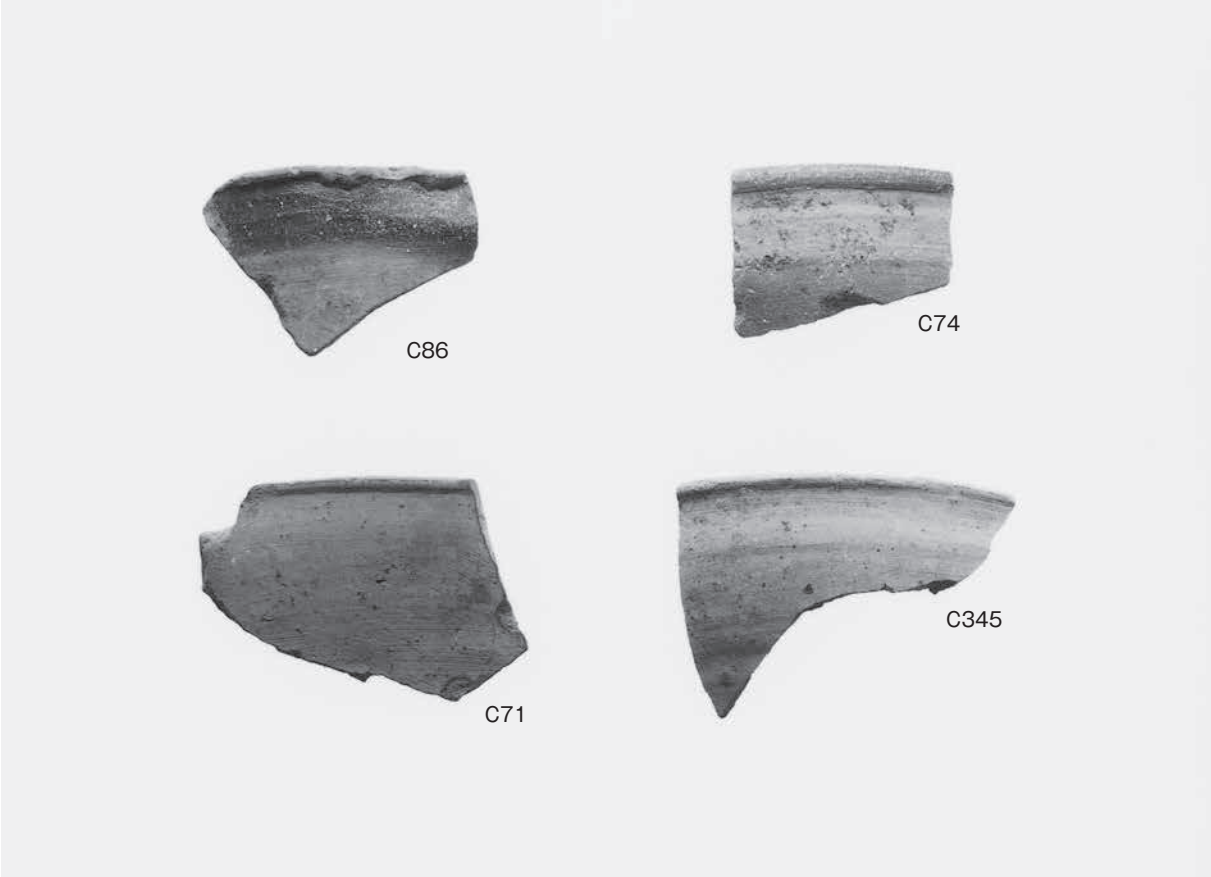
灰原出土土器



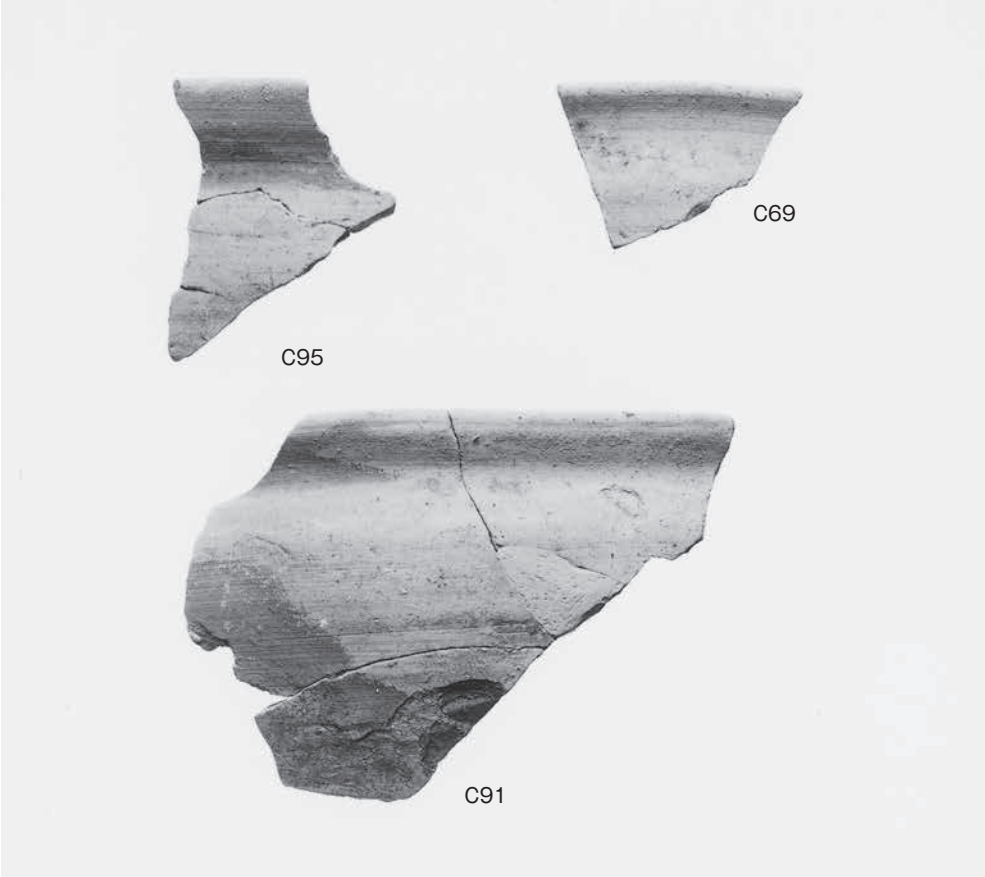
灰原出土土器



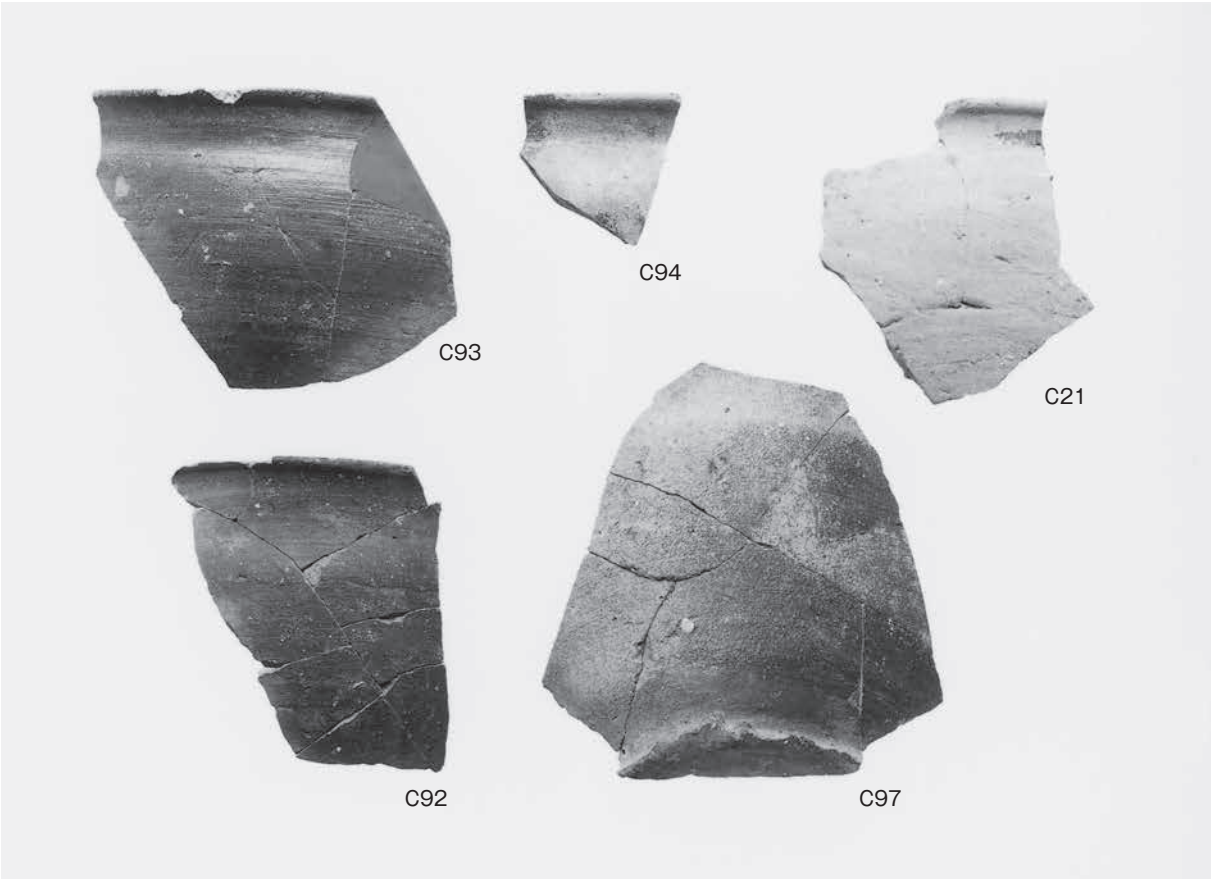
灰原出土土器



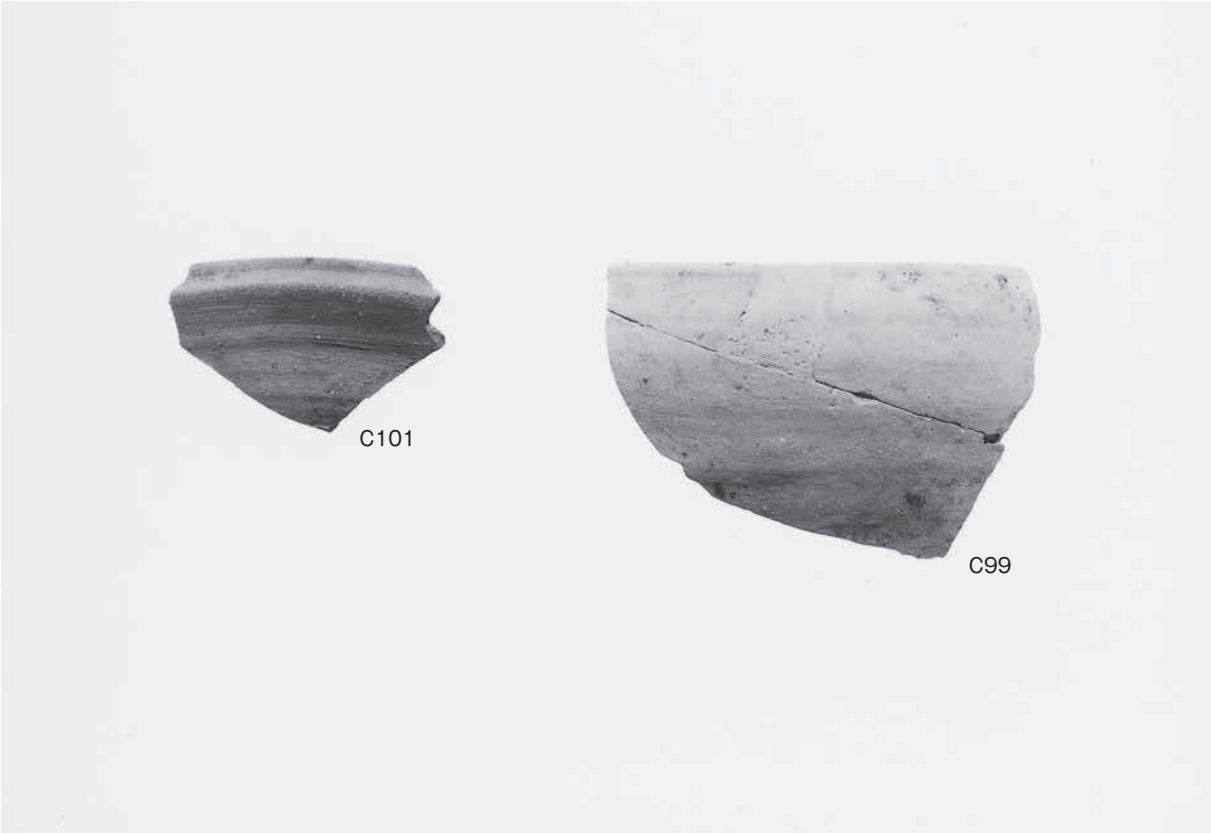
灰原出土土器



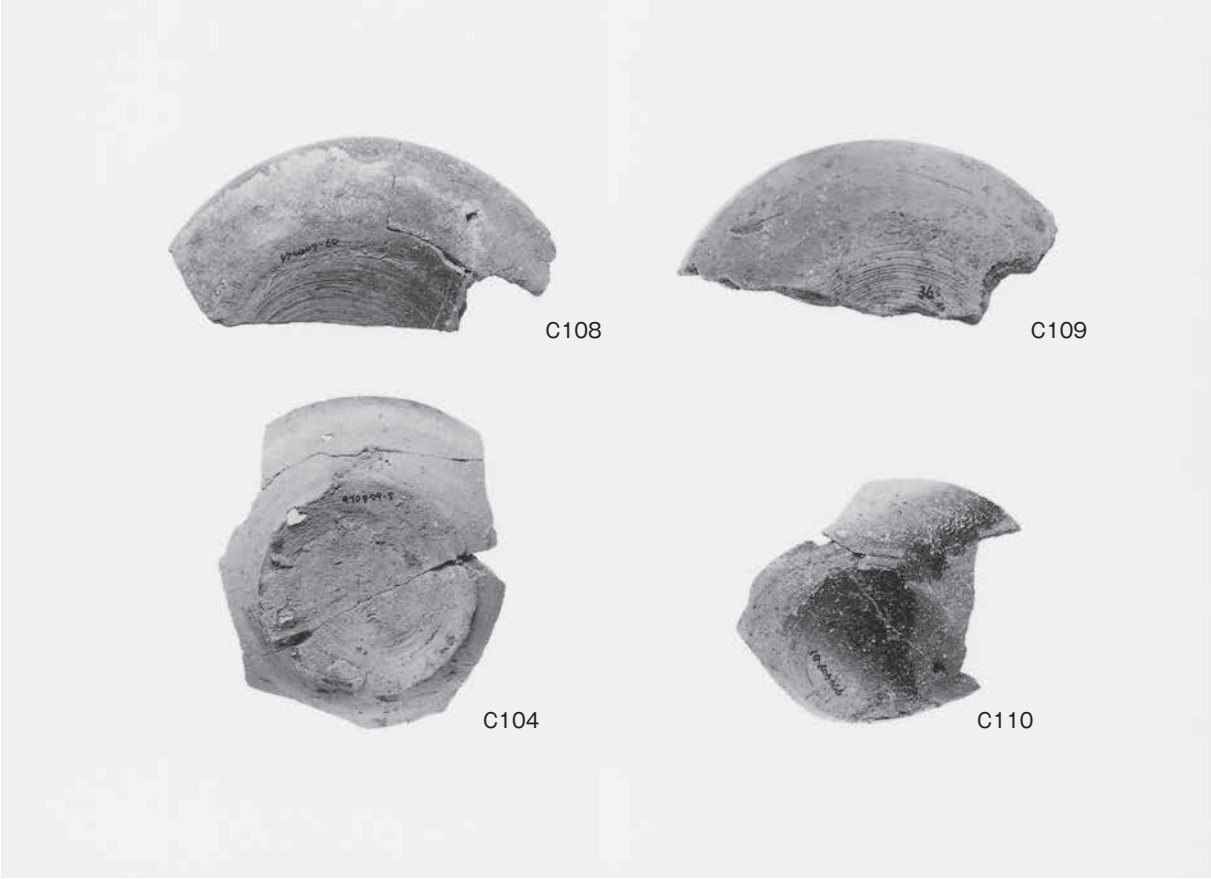
灰原・包含層出土土器



SE01・SK04・灰原・包含層出土土器

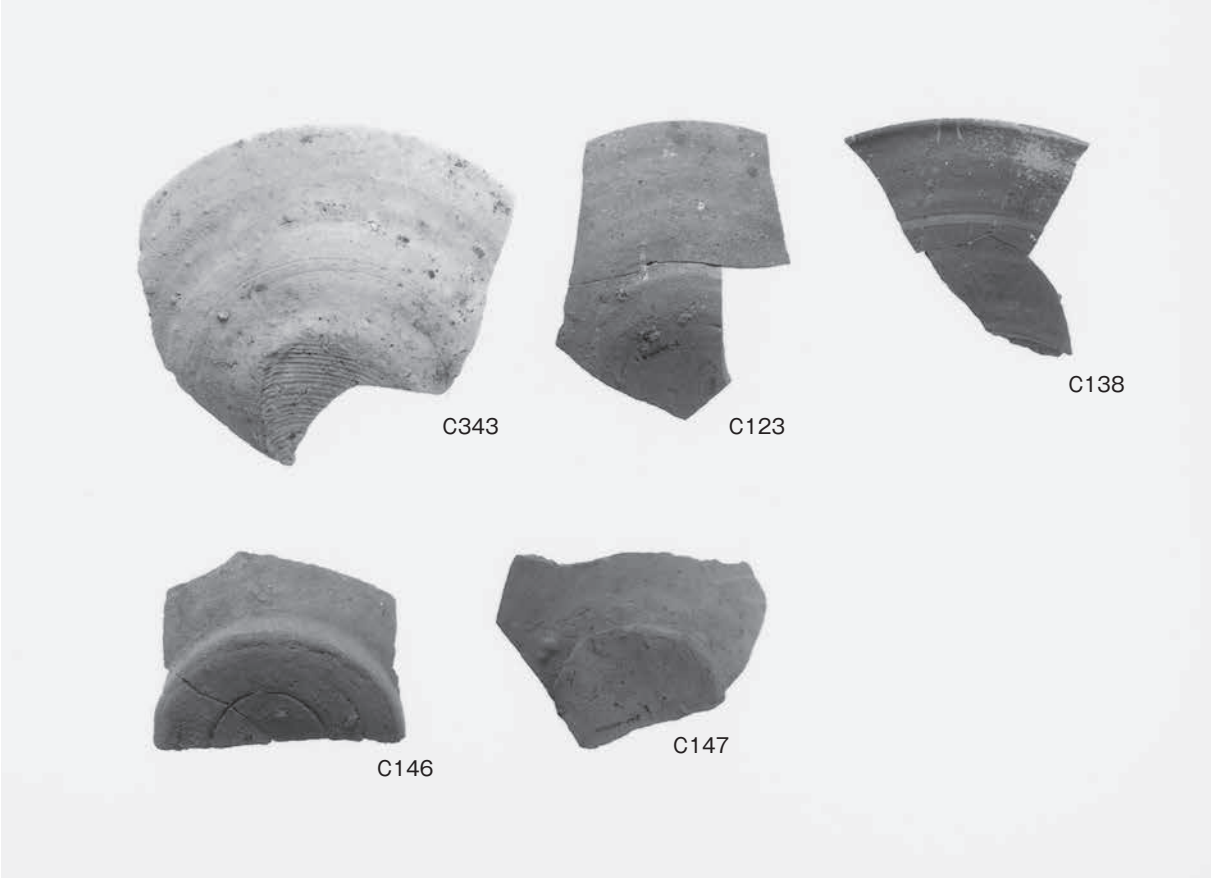


灰原出土土器

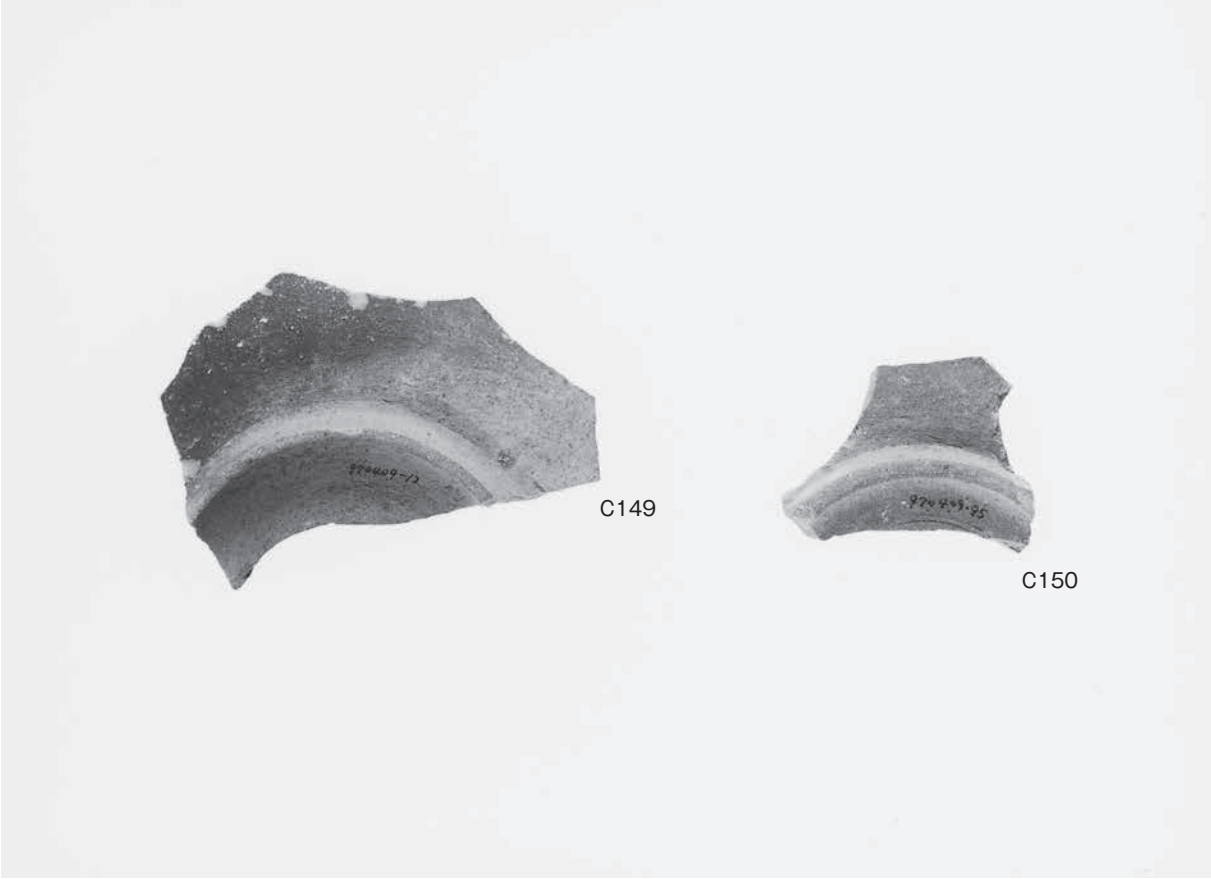


灰原出土土器

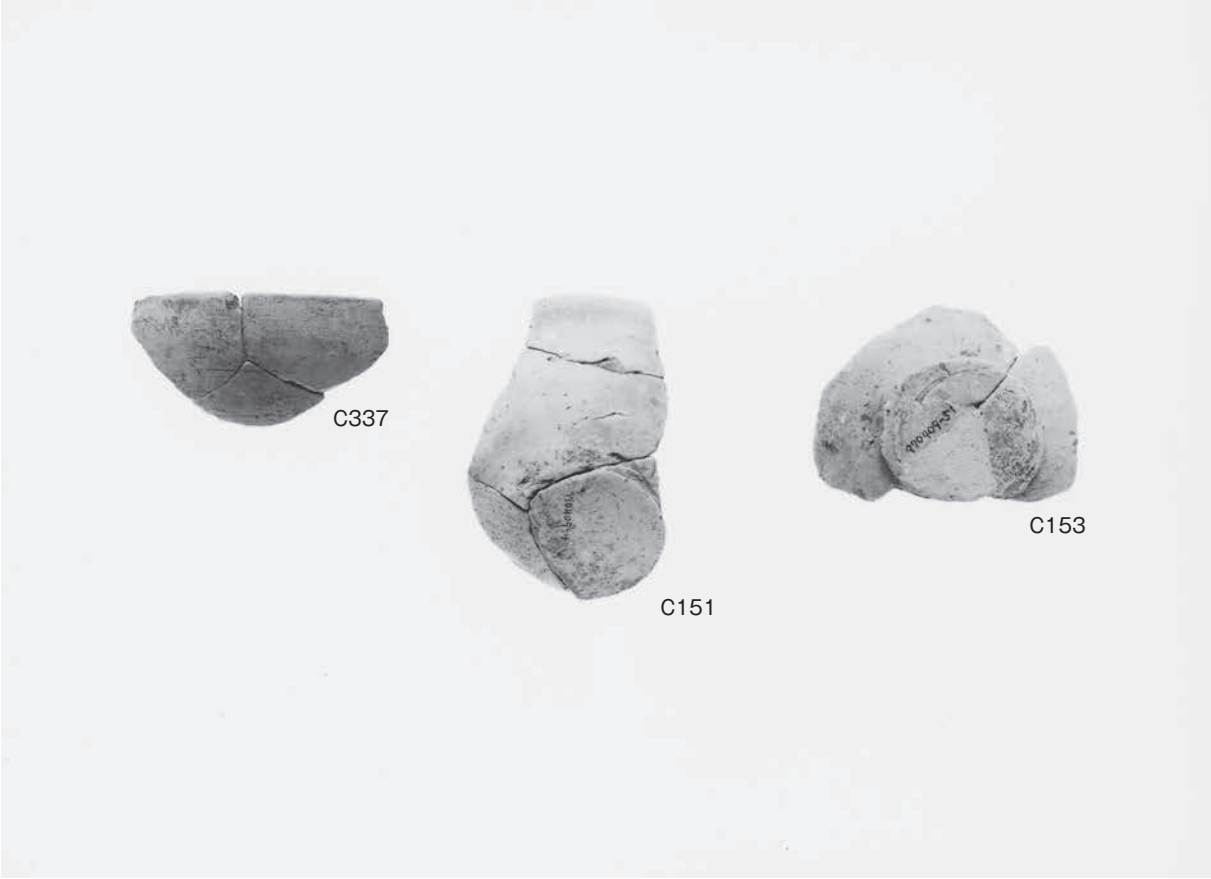
灰原出土土器



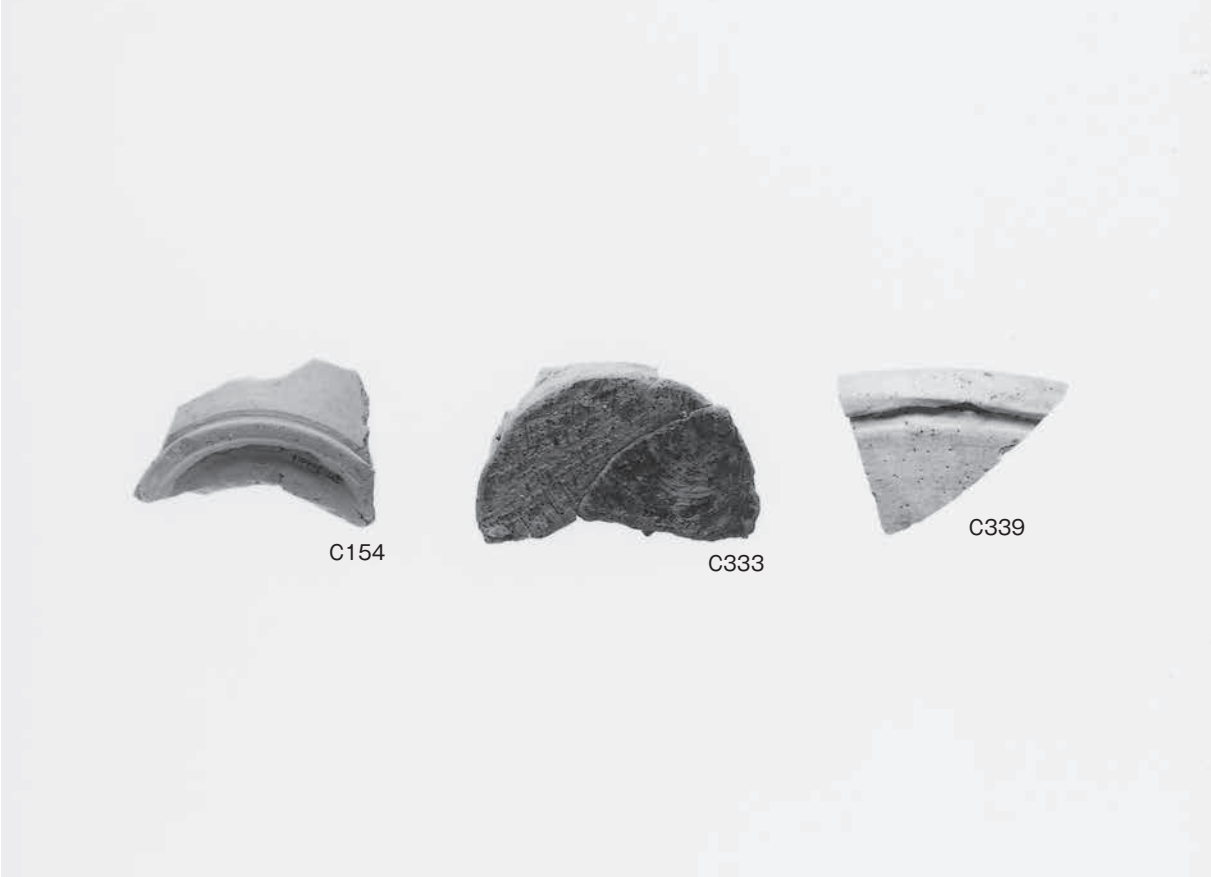
灰原出土土器



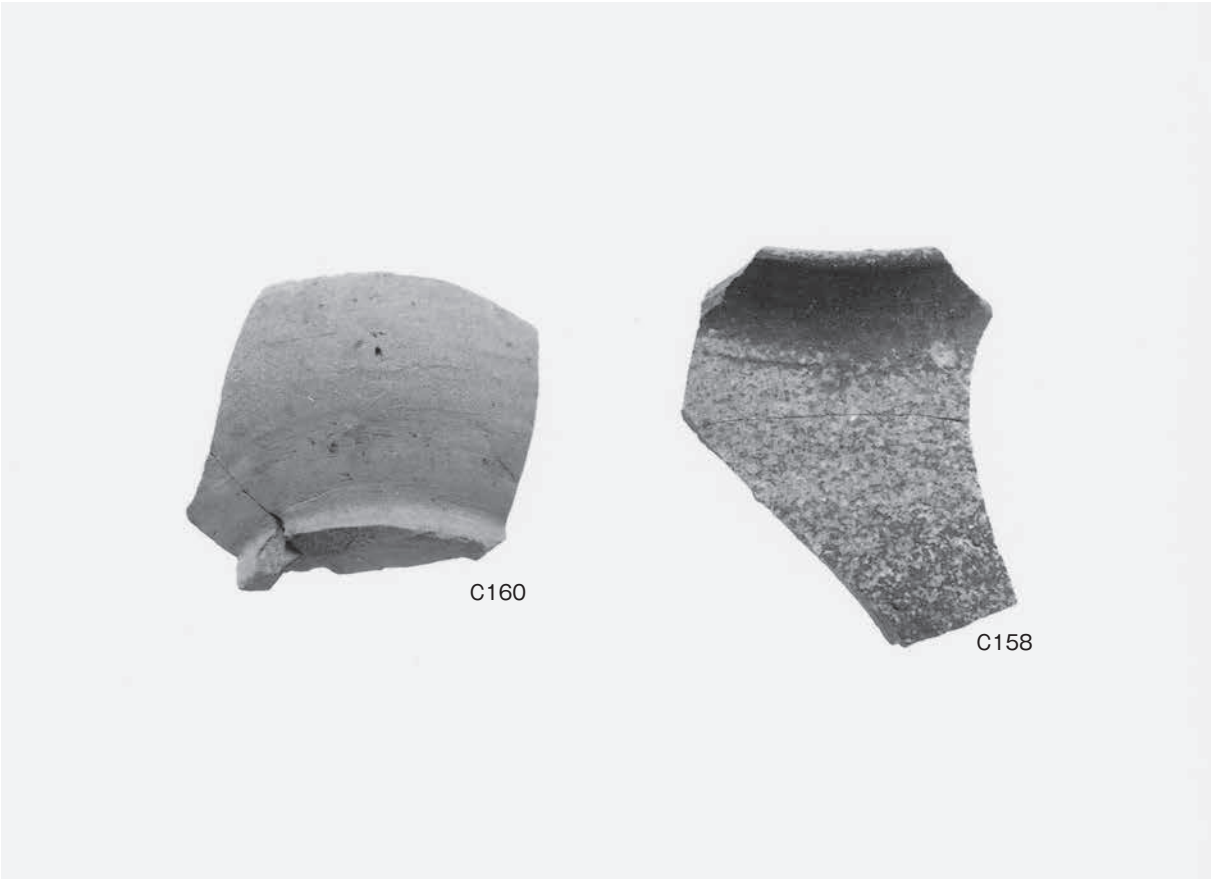
灰原出土土器



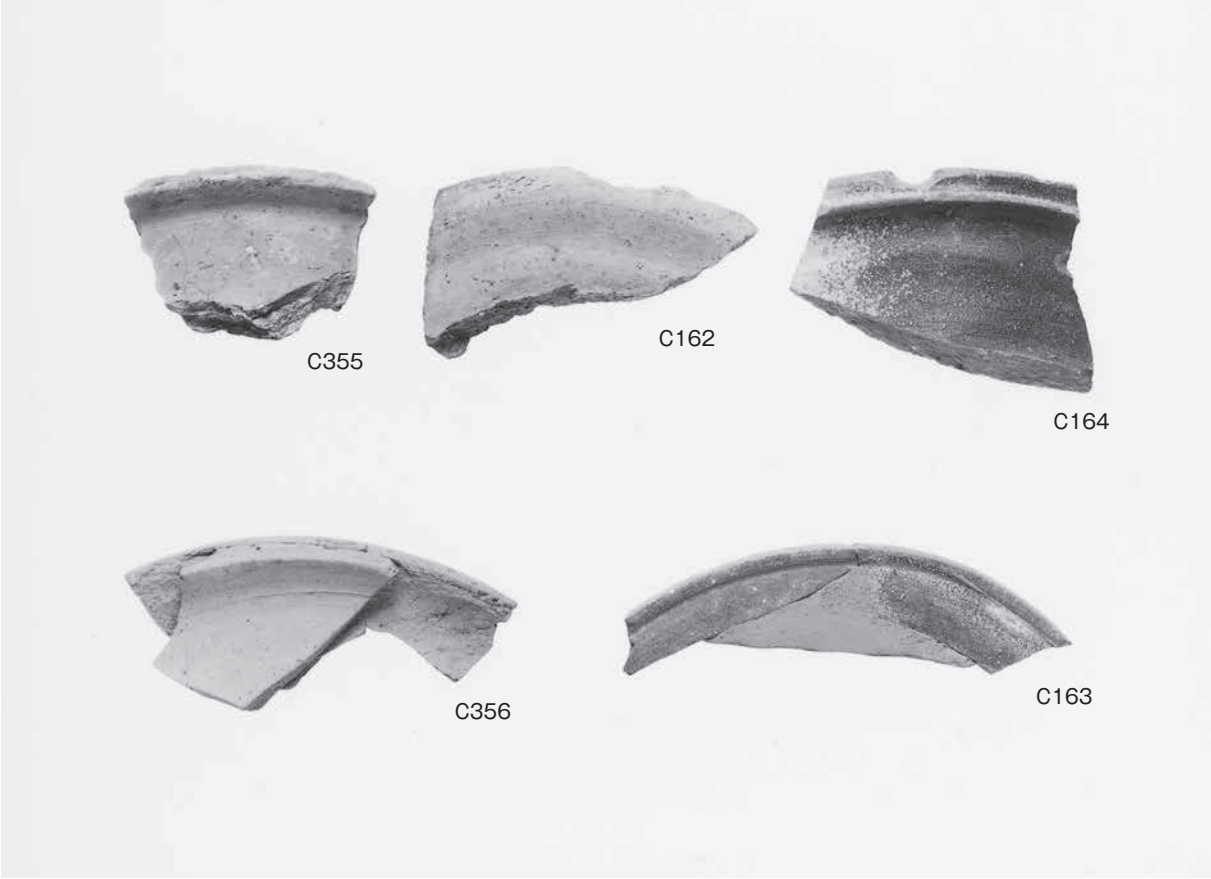
灰原出土土器



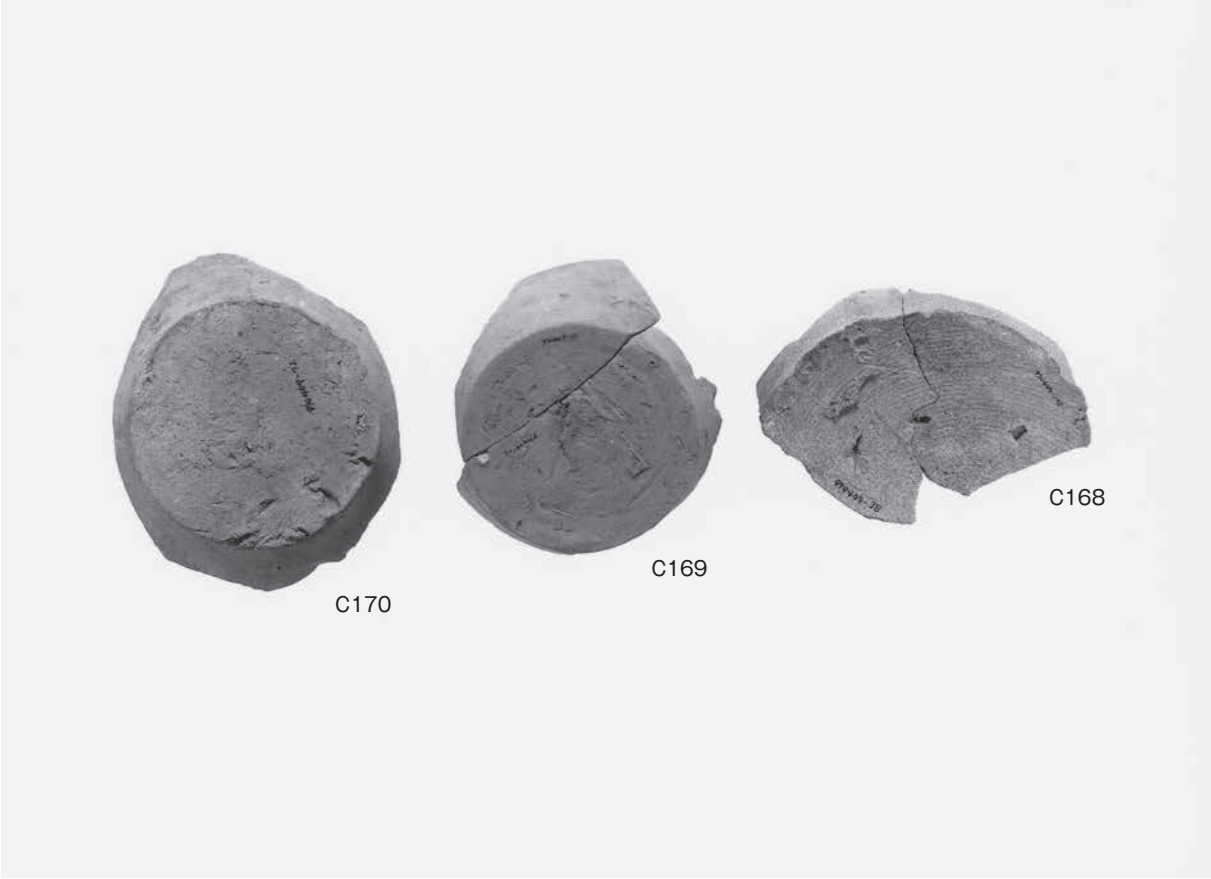
灰原出土土器



灰原出土土器

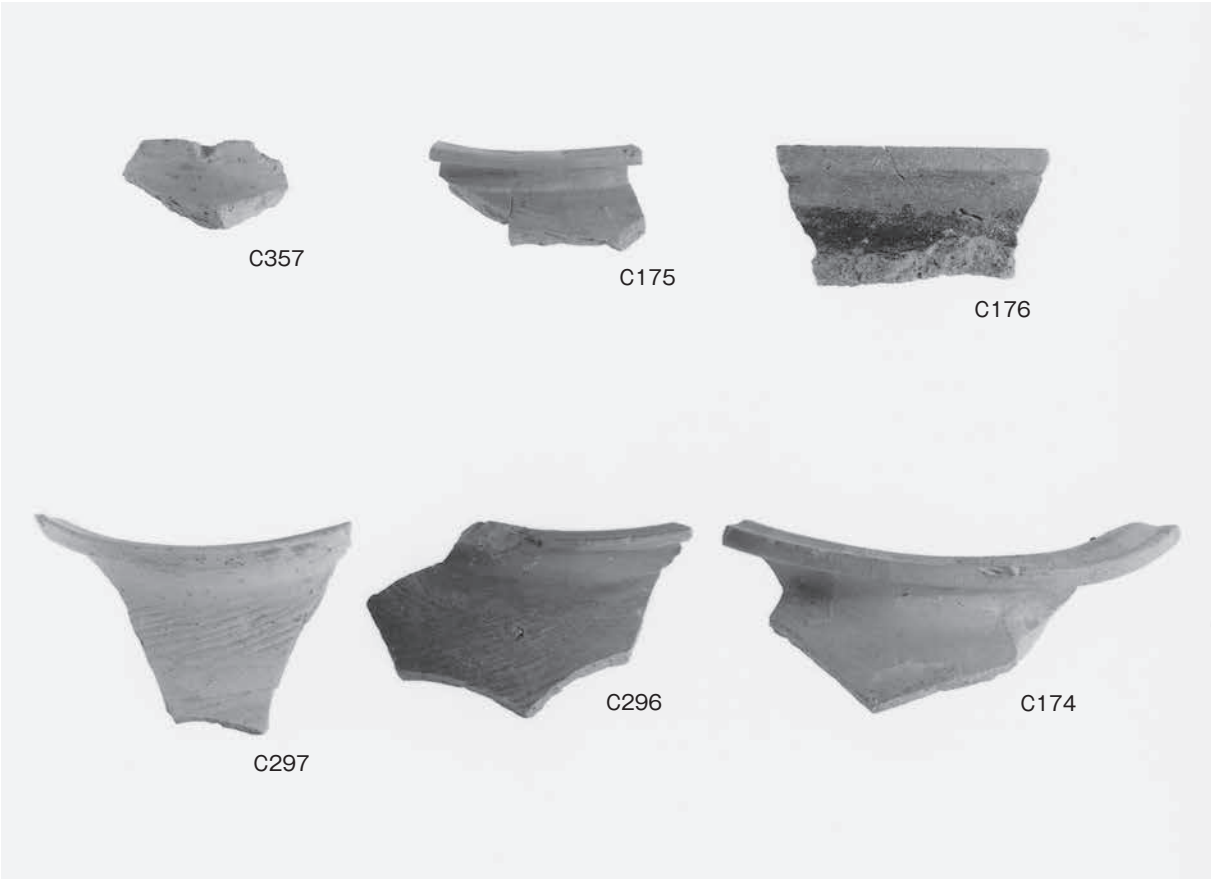


灰原出土土器

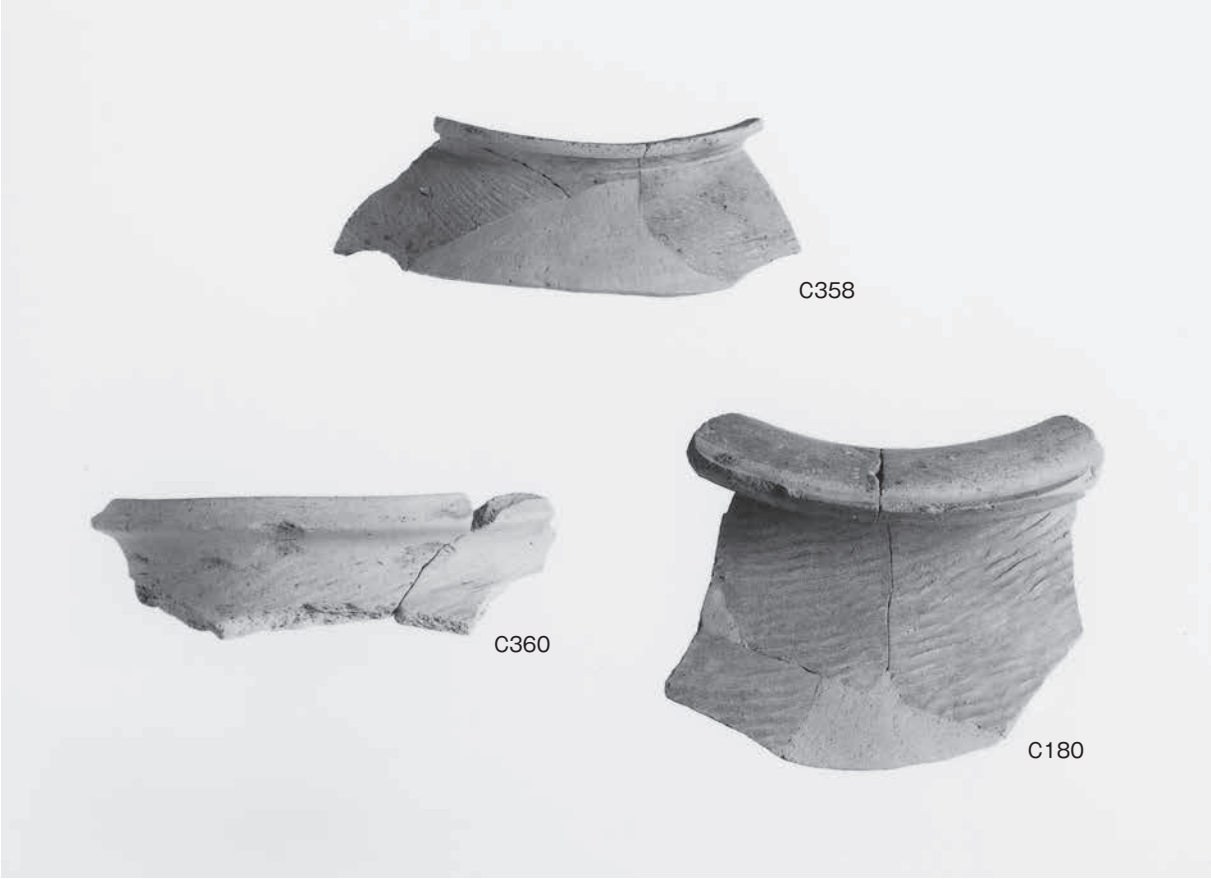


灰原出土土器

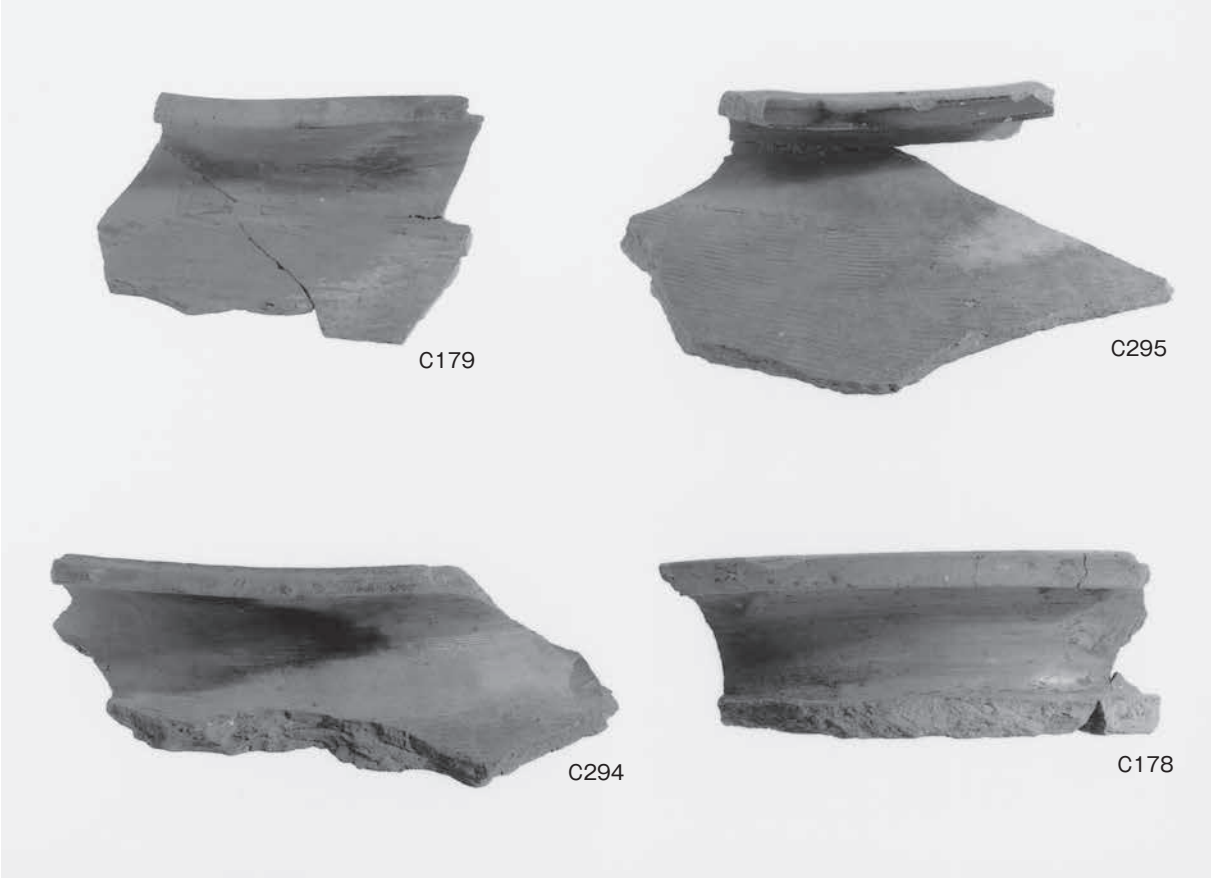
SK04・灰原出土土器



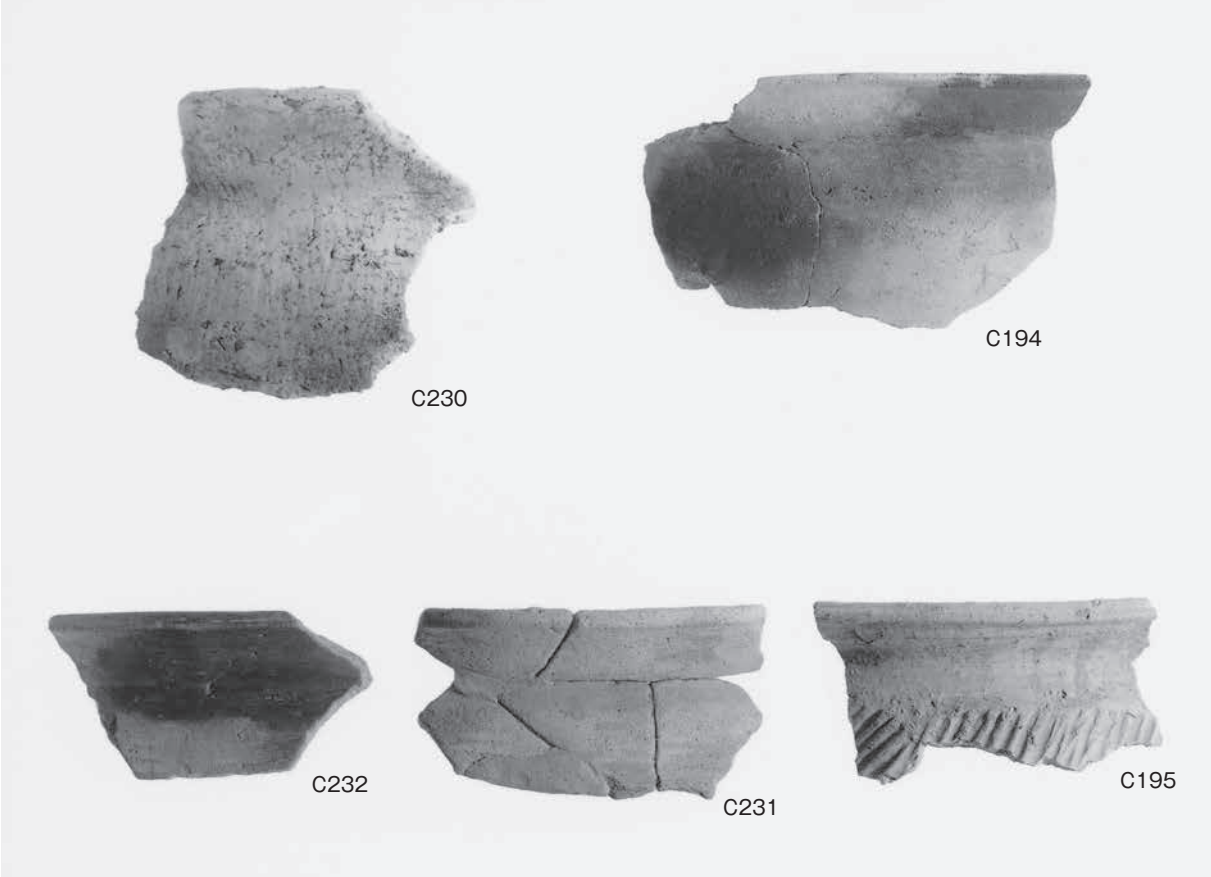
灰原・SR01・包含層出土土器



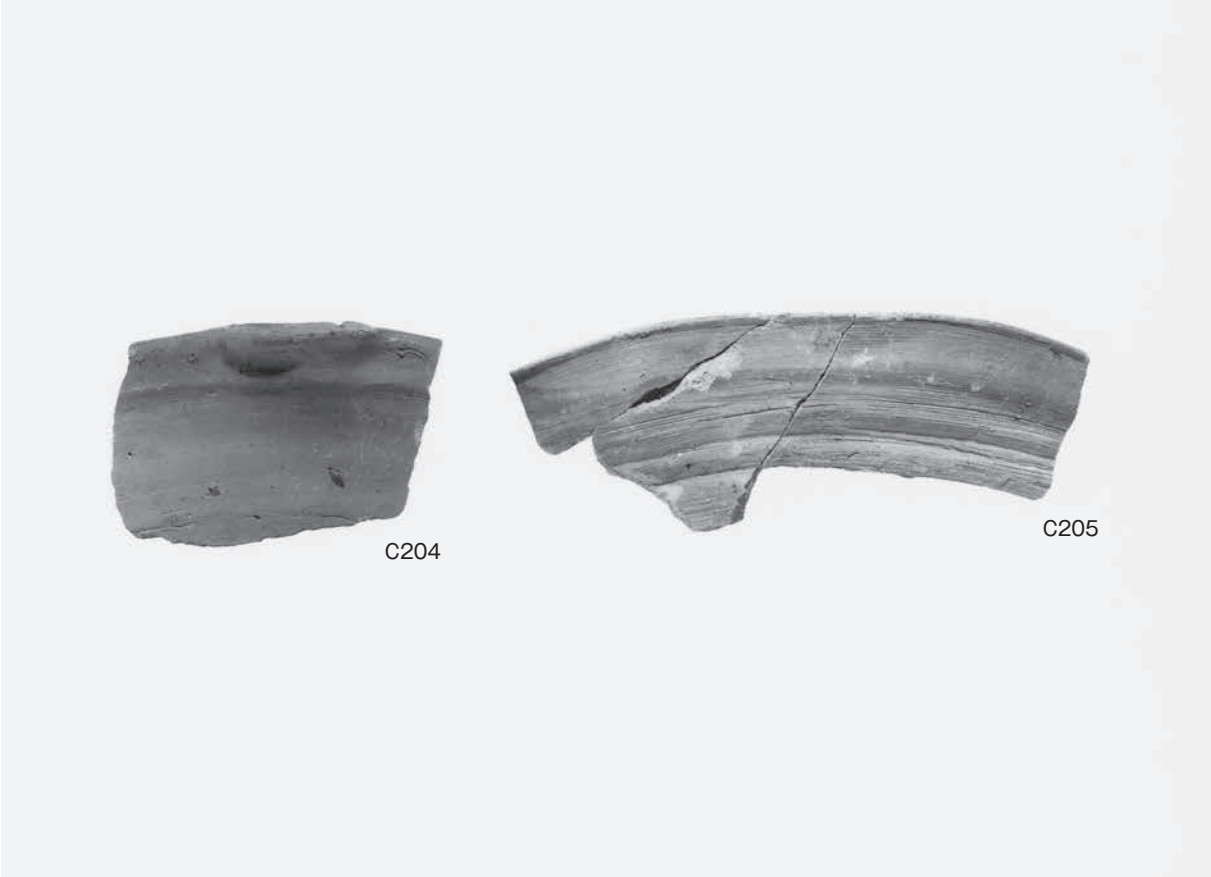
灰原出土土器



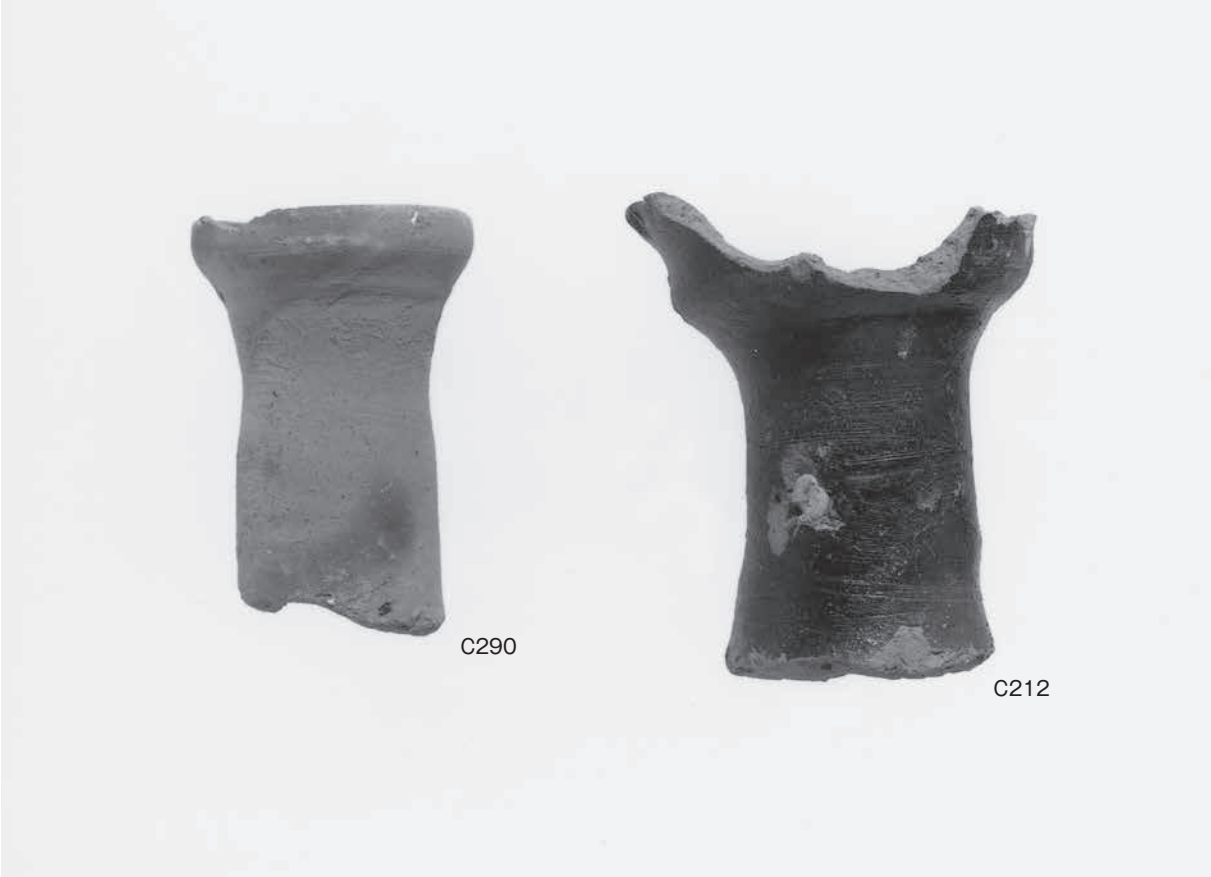
灰原・SR01 出土土器



SD01・SR01 出土土器



SD01 出土土器

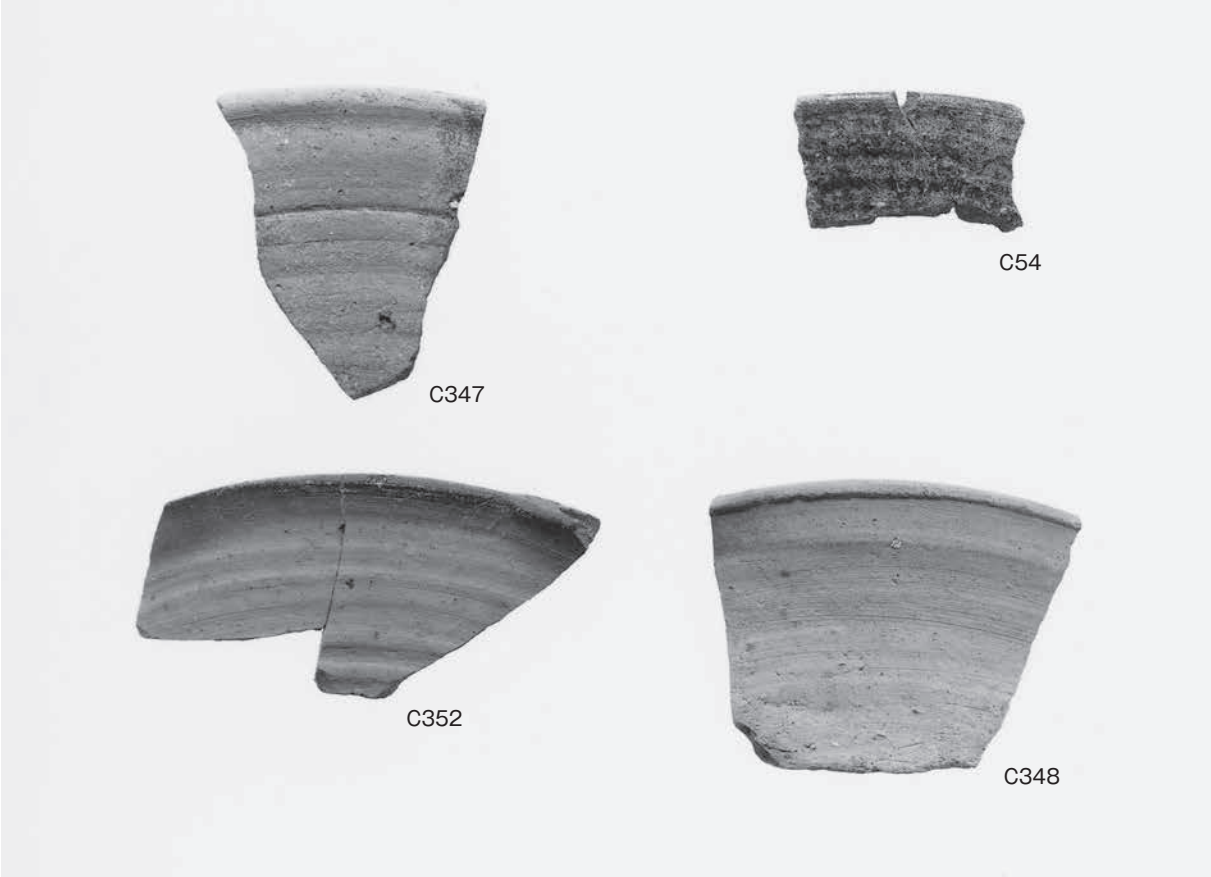


SD01・SR01 出土土器

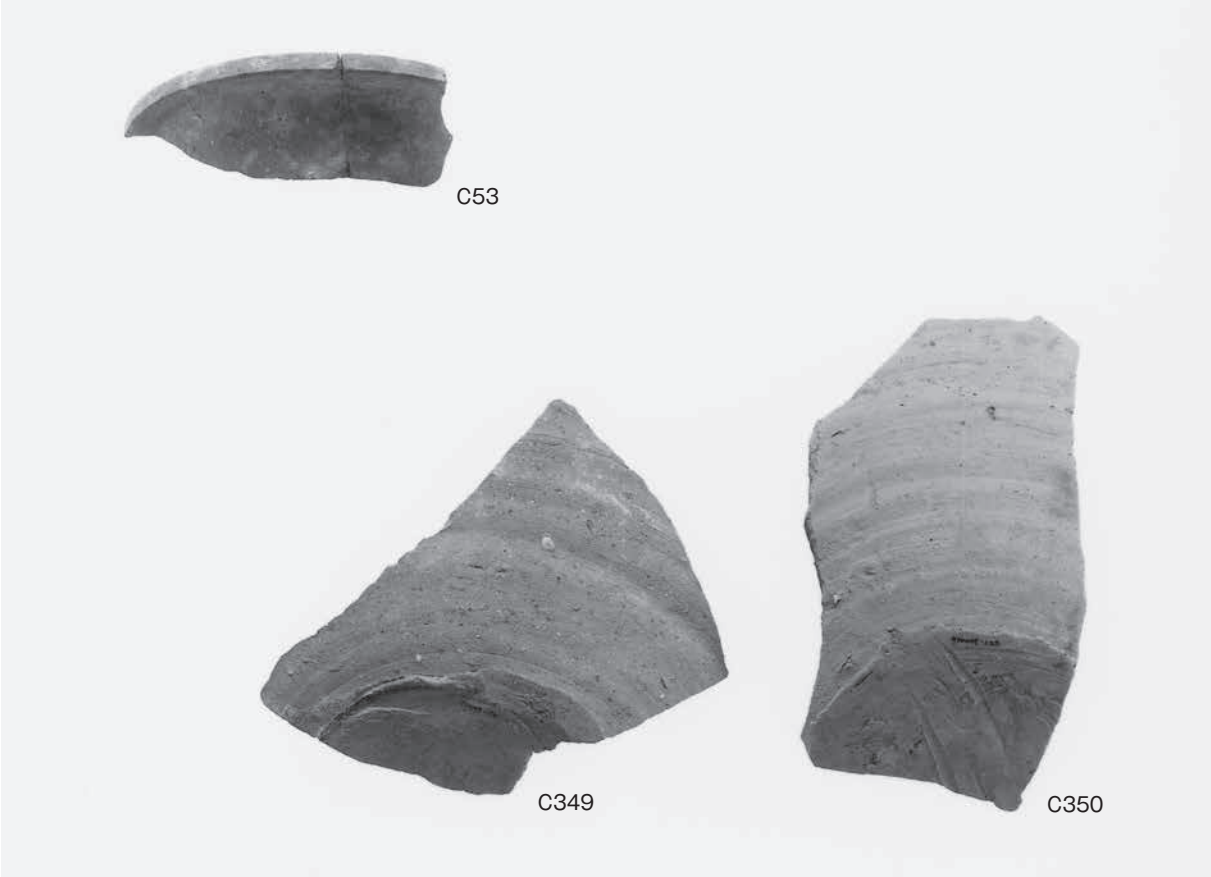
SD01 出土土器

SR01 出土土器

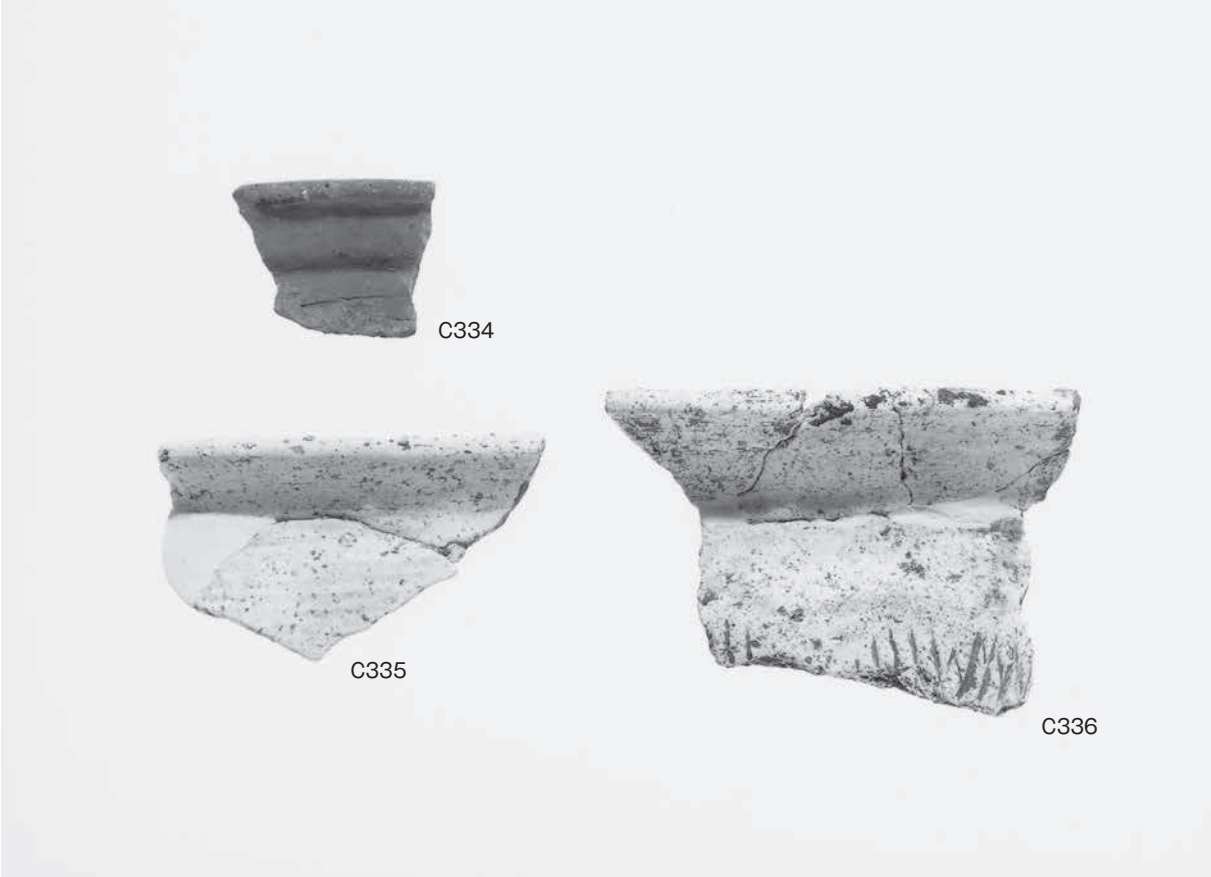
SR01 出土土器



SD02・05 出土土器



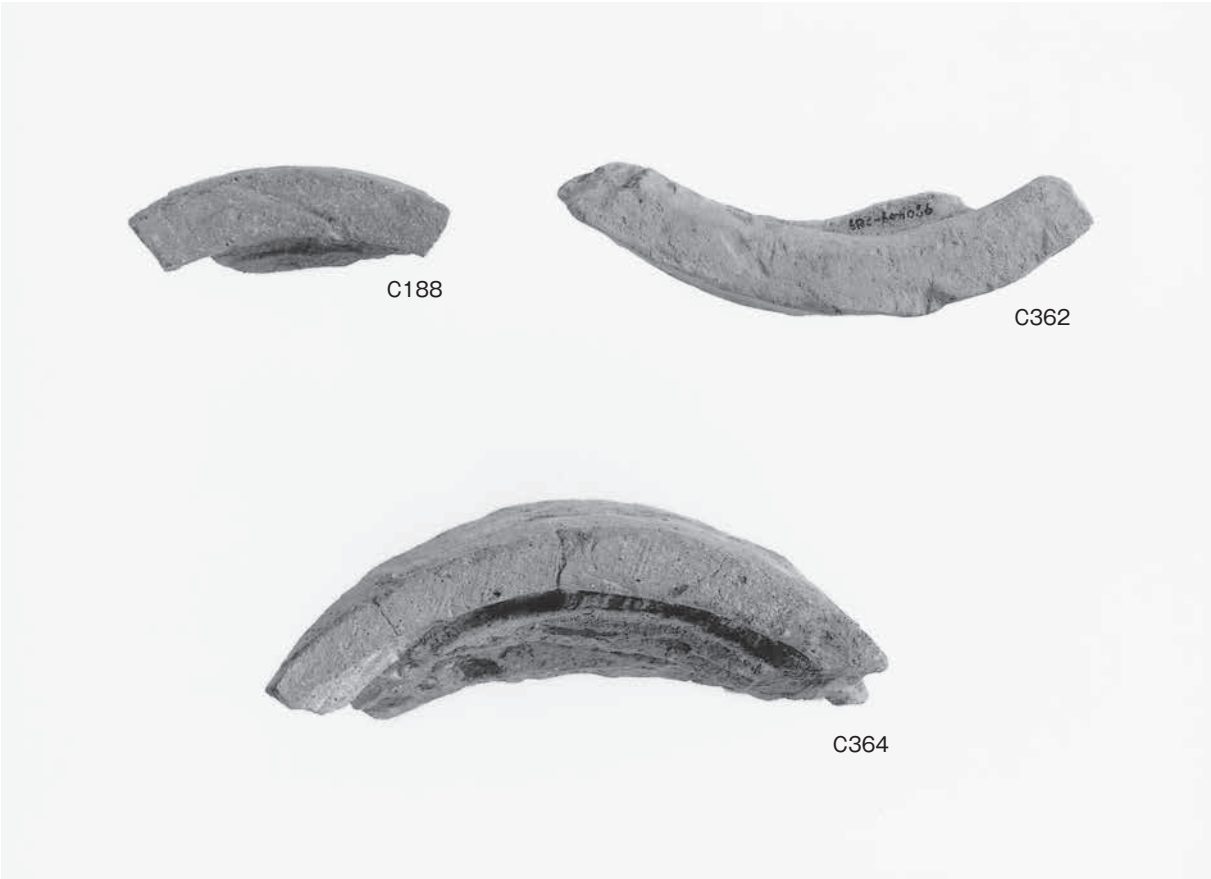
SD02・05 出土土器



灰原・包含層出土土器

包含層出土土器

SR01・包含層出土土器



SE01・灰原・包含層出土軒丸瓦

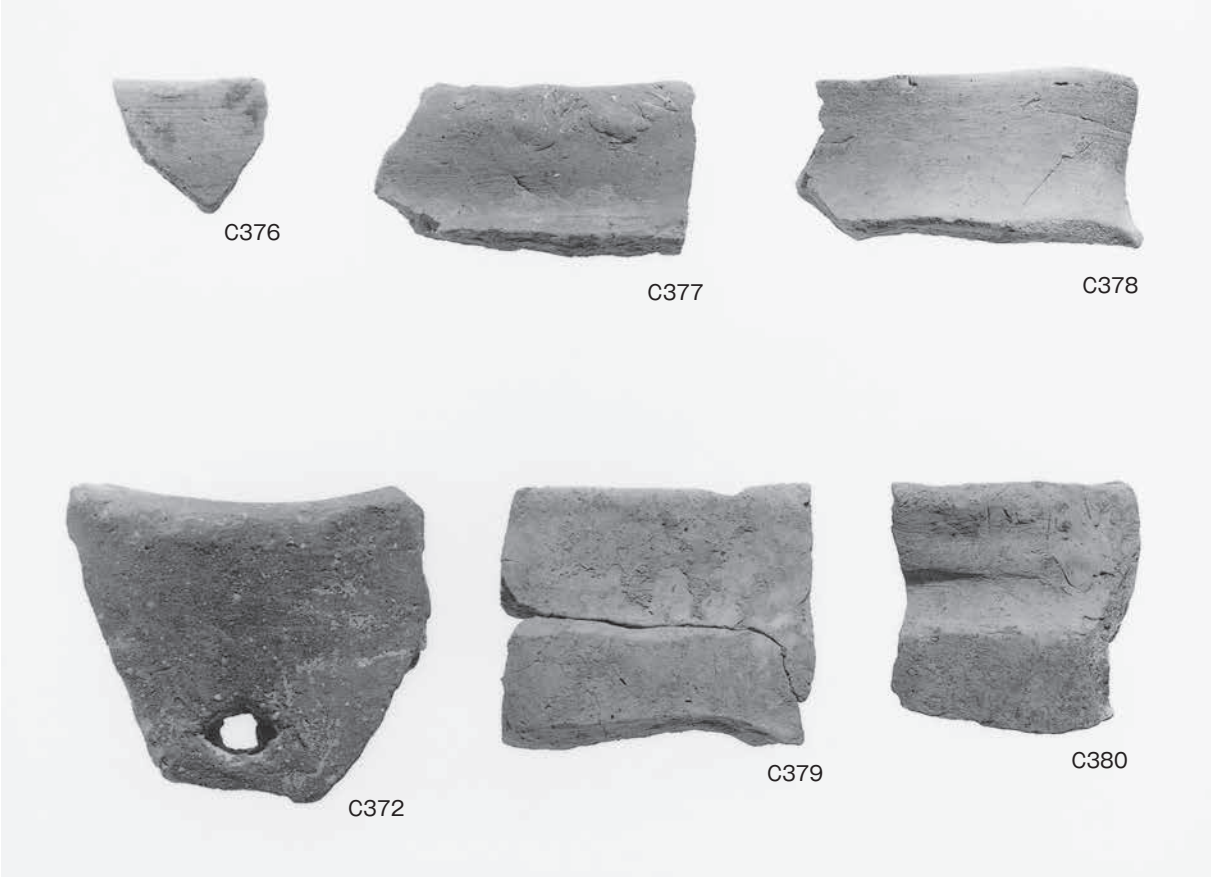
灰原出土丸瓦

灰原出土丸瓦（凸面）

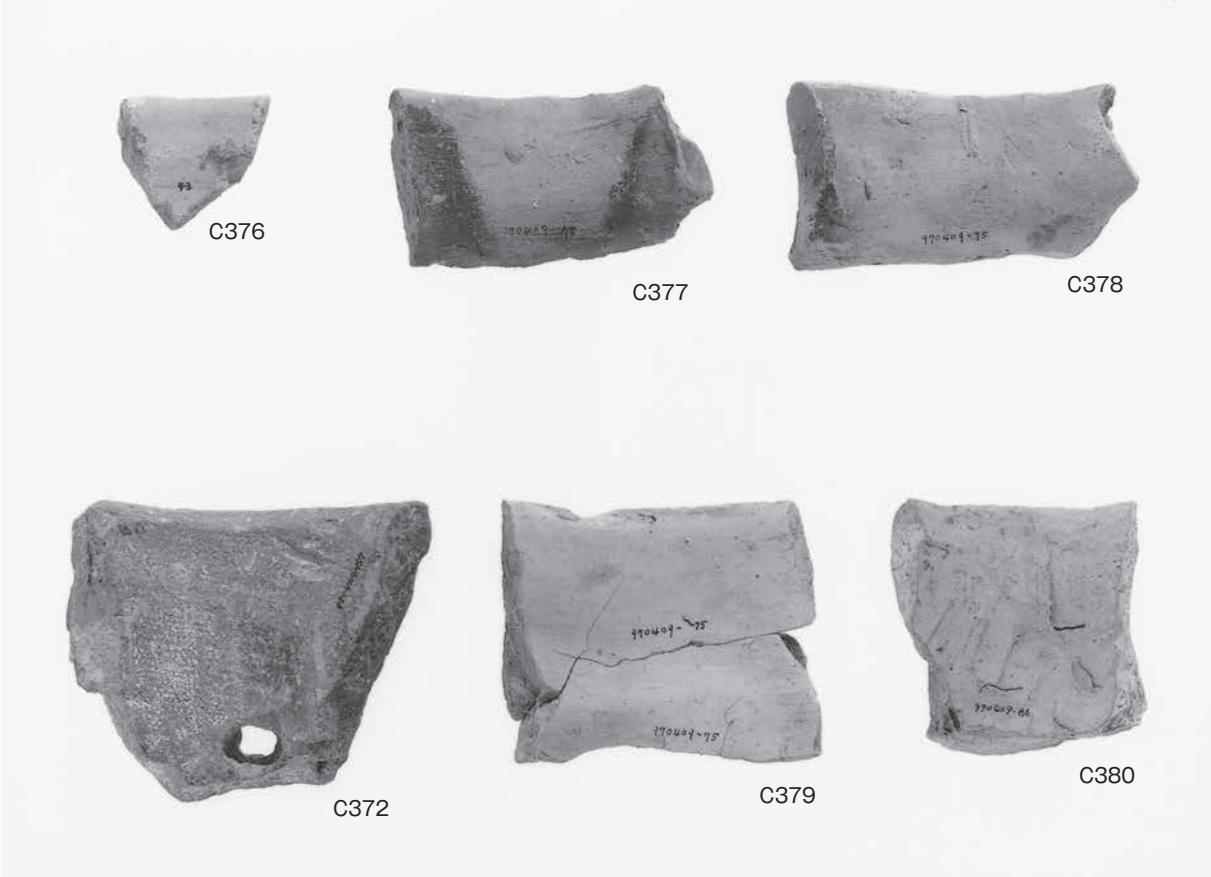
灰原出土丸瓦（凹面）

灰原出土平瓦（凹面）

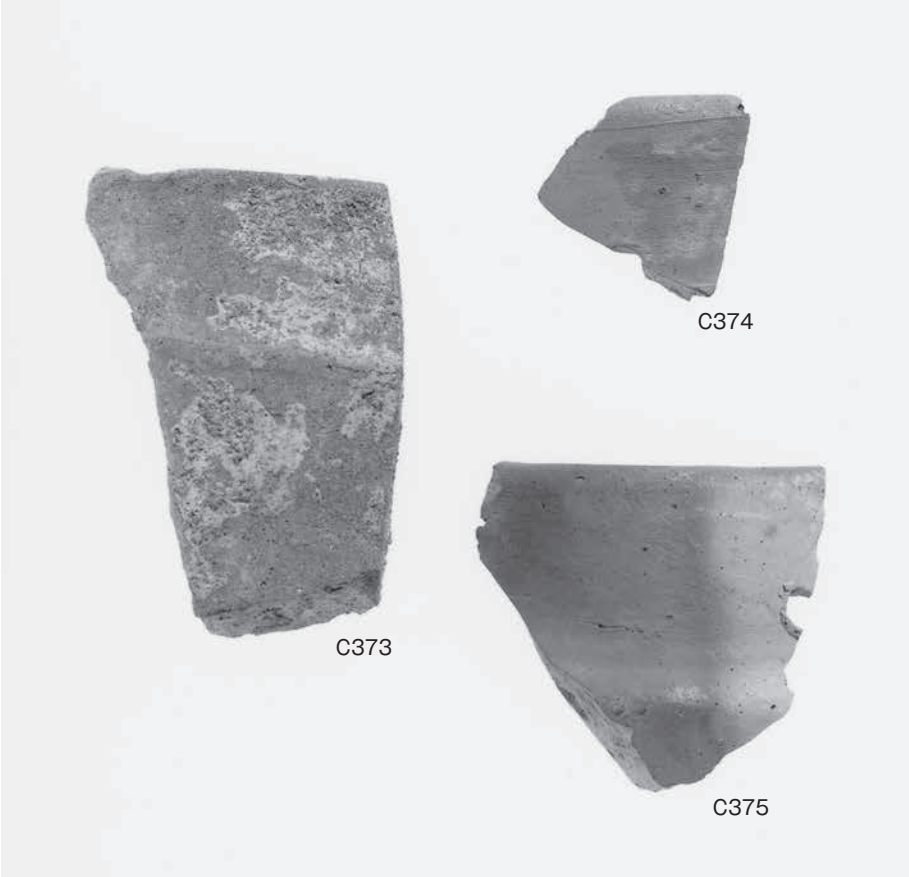
灰原出土平瓦（凸面）



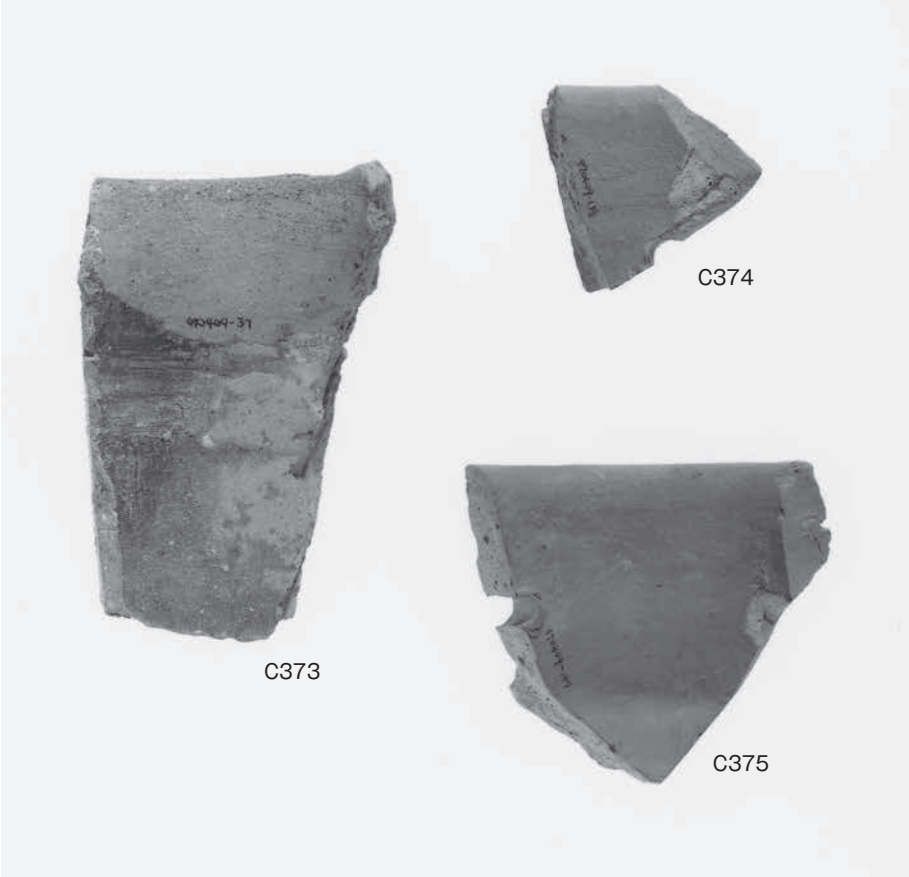
SD01・包含層出土丸瓦（凸面）



SD01・包含層出土丸瓦（凹面）

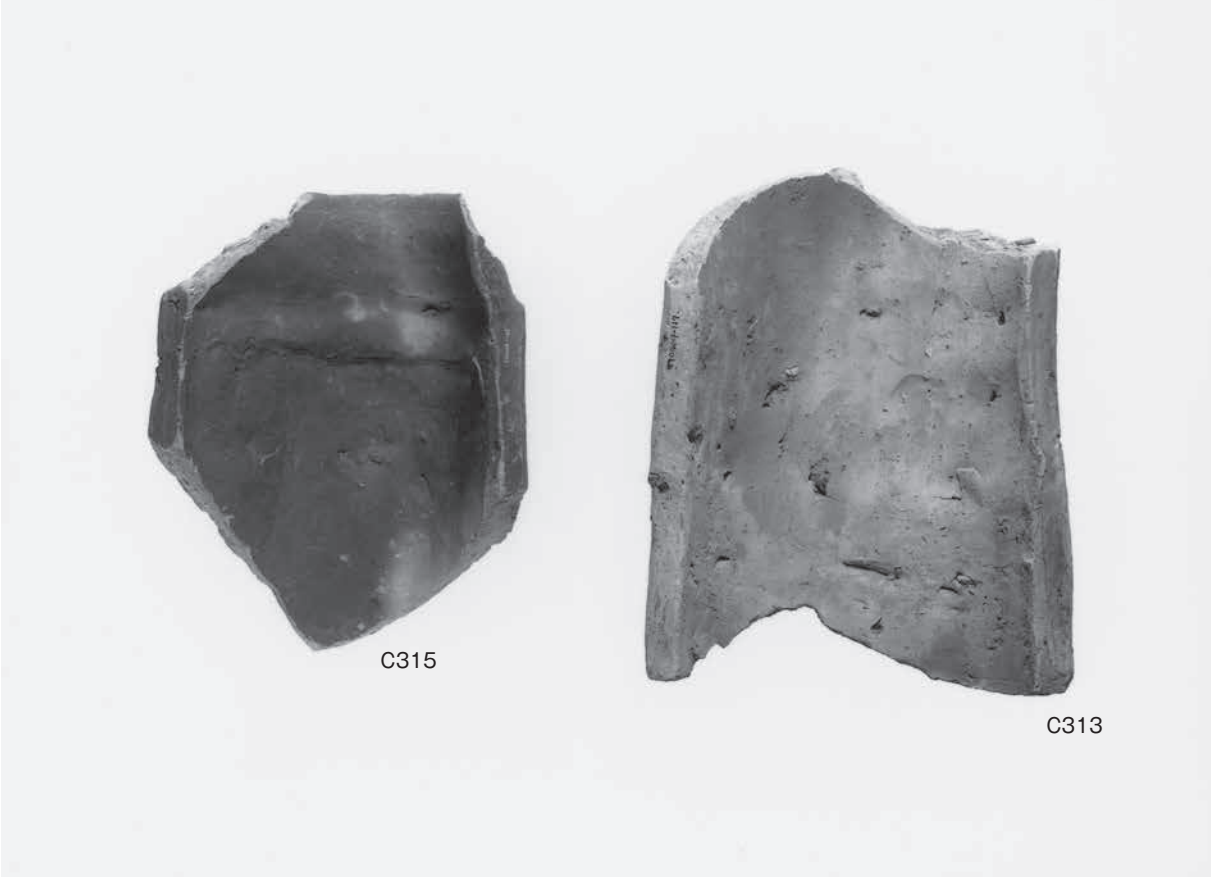


SD01・灰原・SR01 出土丸瓦（凸面）

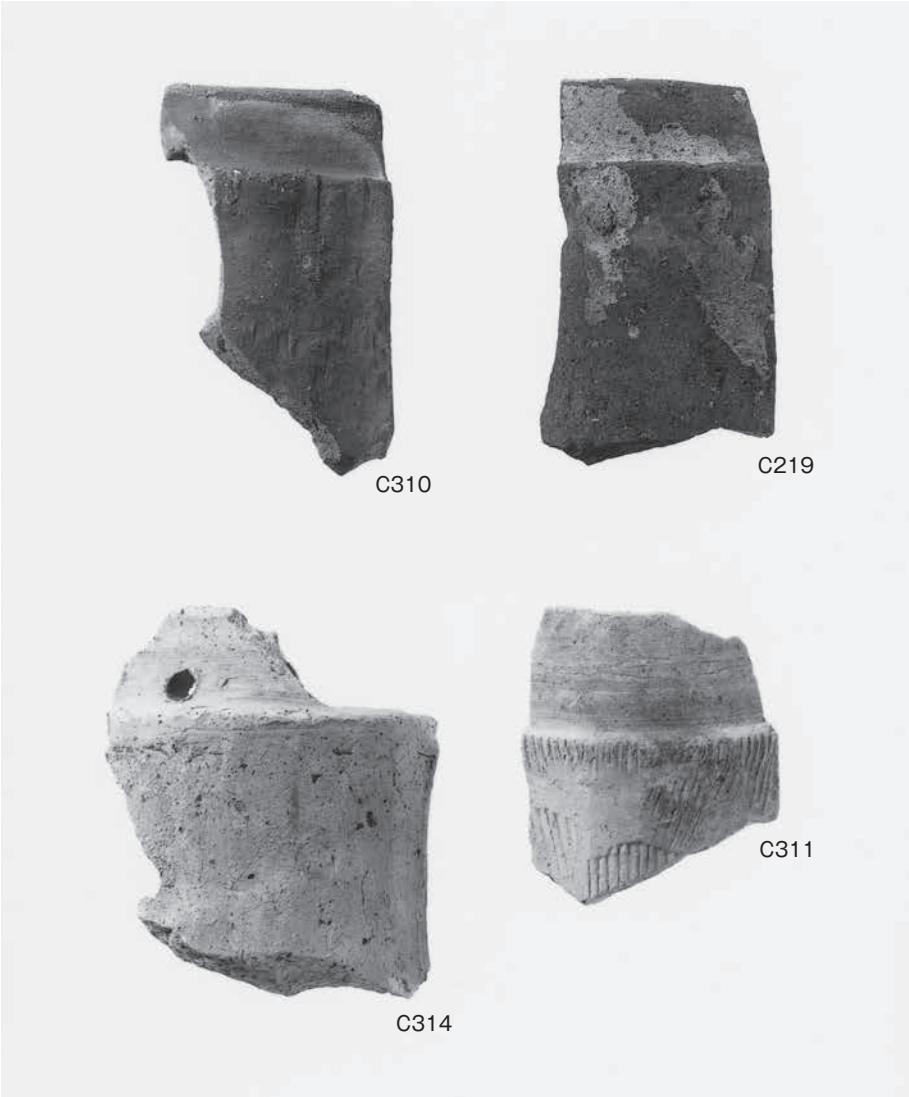


SD01・灰原・SR01 出土丸瓦（凹面）

SR01 出土丸瓦（凸面）



SR01 出土丸瓦（凹面）



SD01・SR01 出土丸瓦

SR01 出土平瓦

SR01 出土平瓦（凹面）

SR01 出土平瓦（凸面）

CW01

CW03

CW02

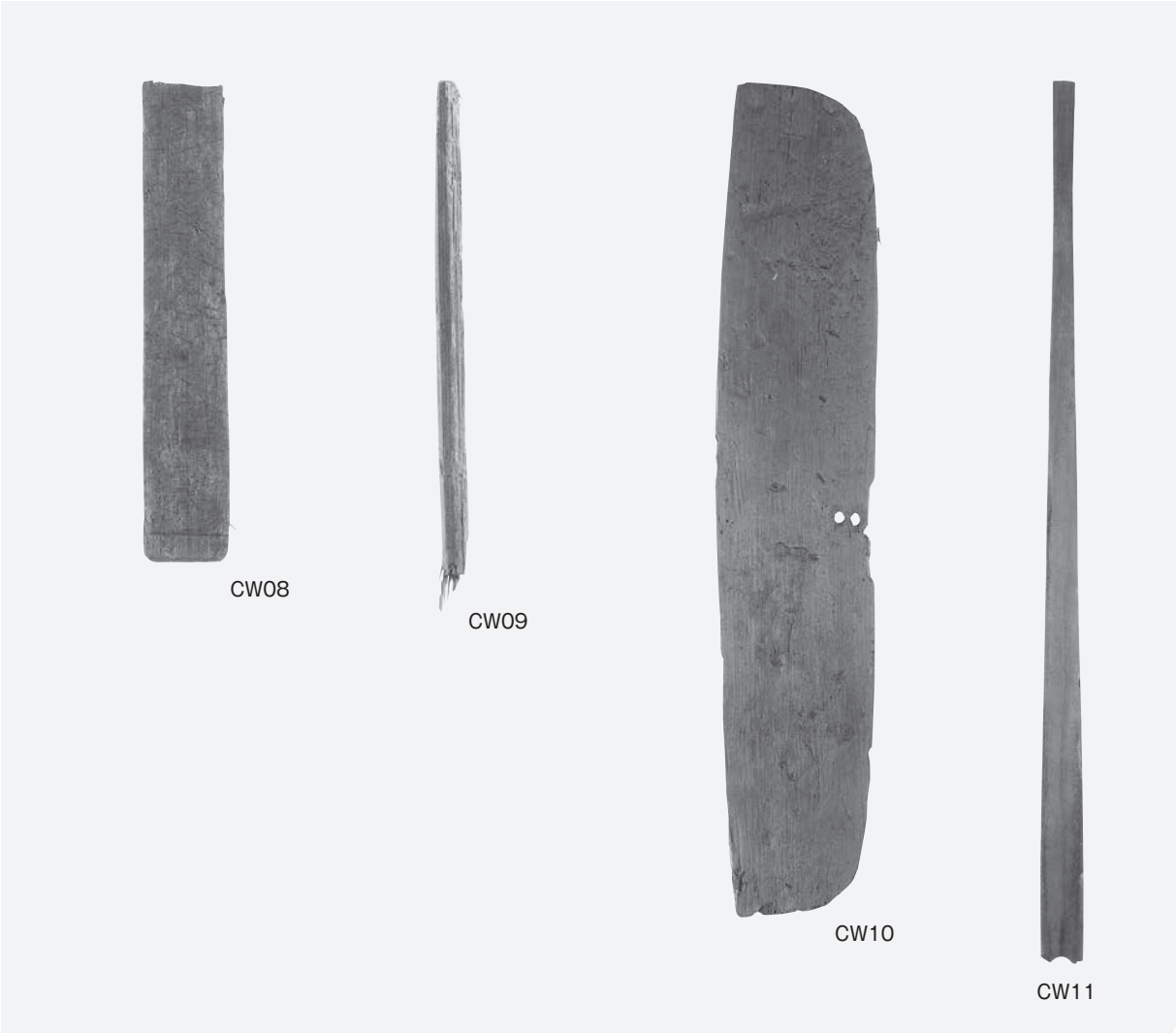
CW05

CW04

CW06

CW07

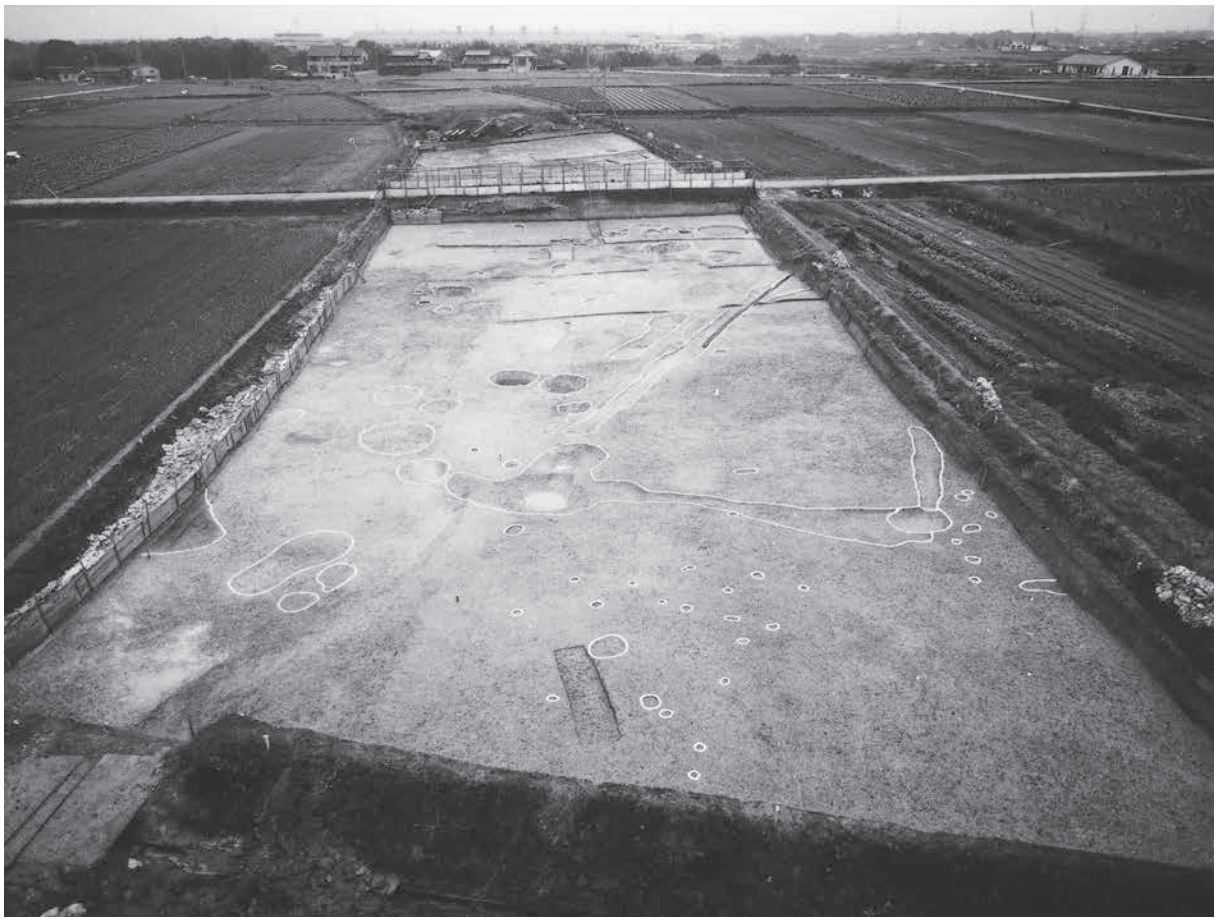
出土木器



出土木器

出土金属器

D地区

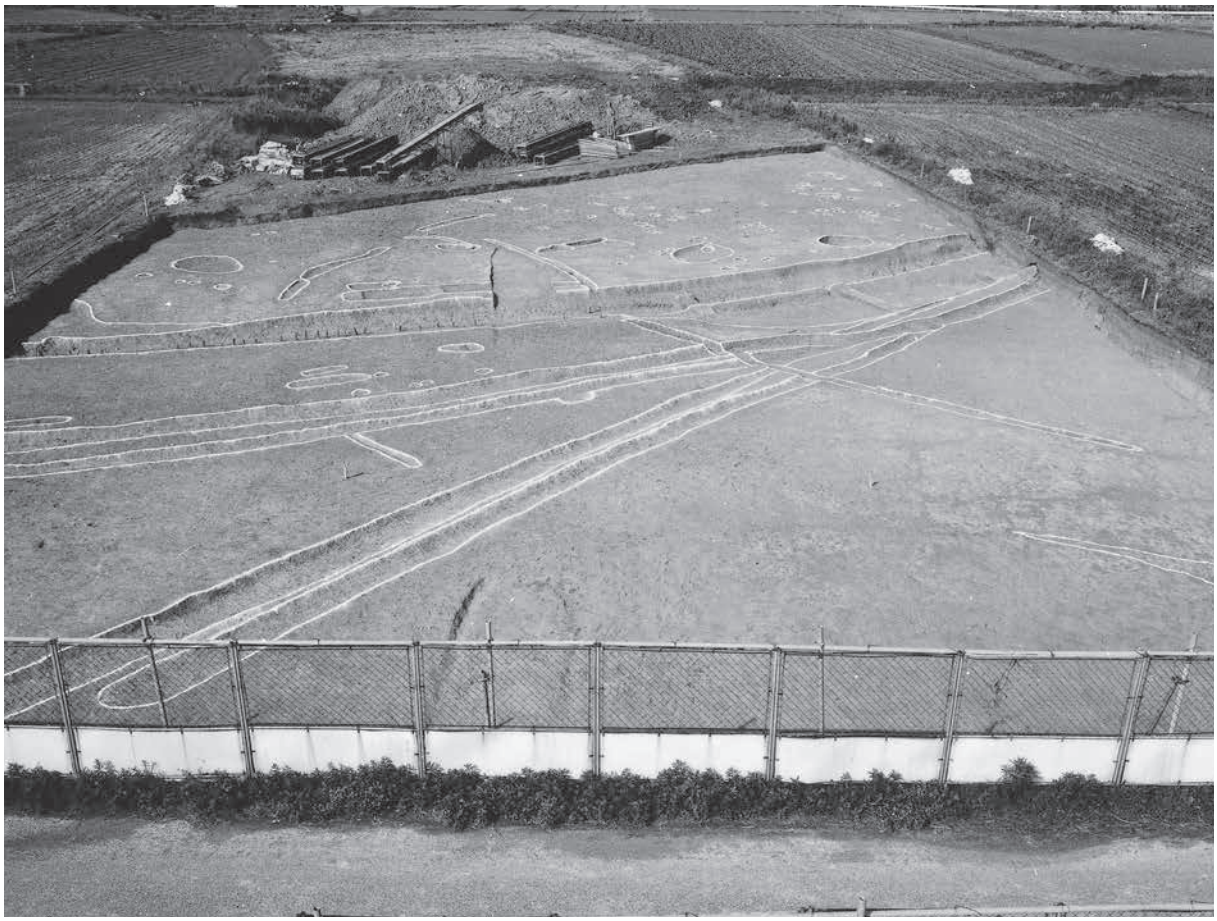


南区全景（南から）①

南区全景（南から）②

南区全景（北から）

南区 SD04 周辺（北から）



北区全景（南から）

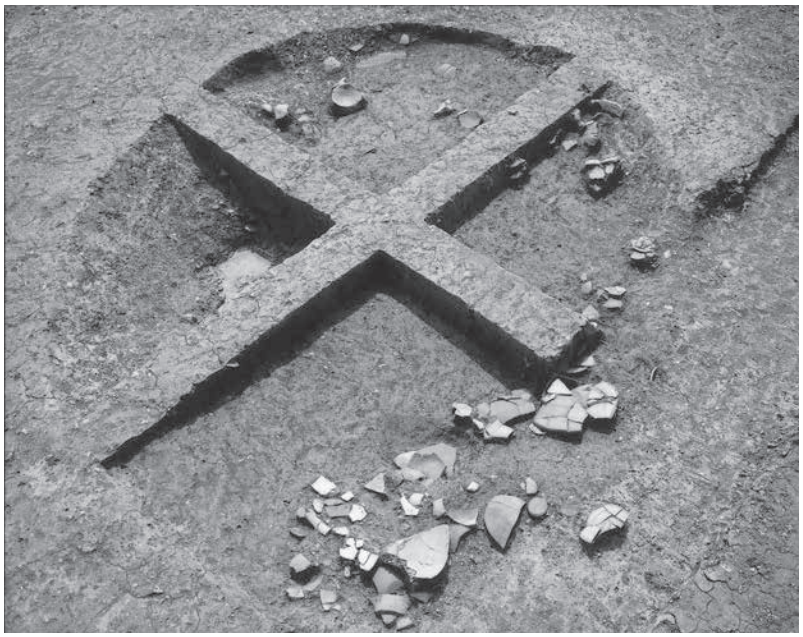
北区全景（北から）

北区全景（西から）①

北区全景（西から）②

SK01 畦断面（西から）

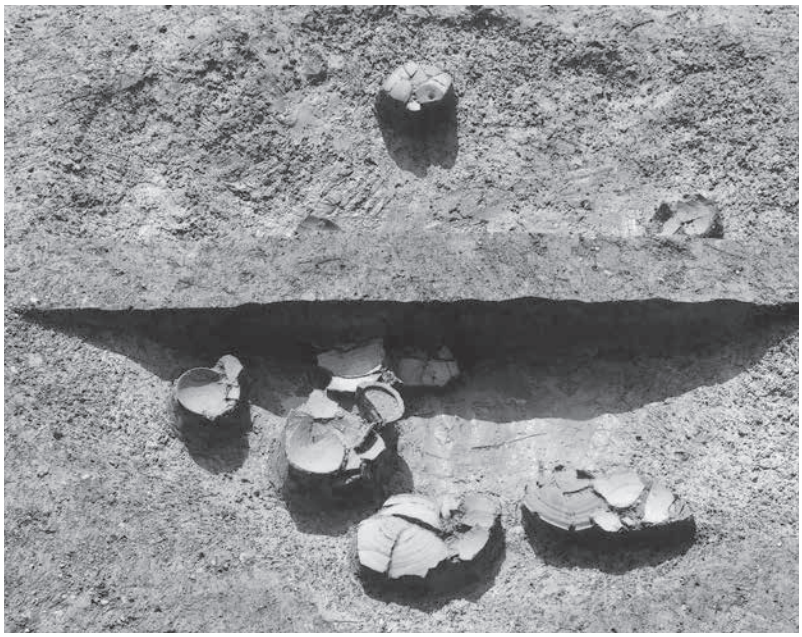
SK01 完掘状況（南から）



SK09 検出状況
（北から）

SK09 遺物出土状況
（西から）

SK09 完掘状況
（東から）

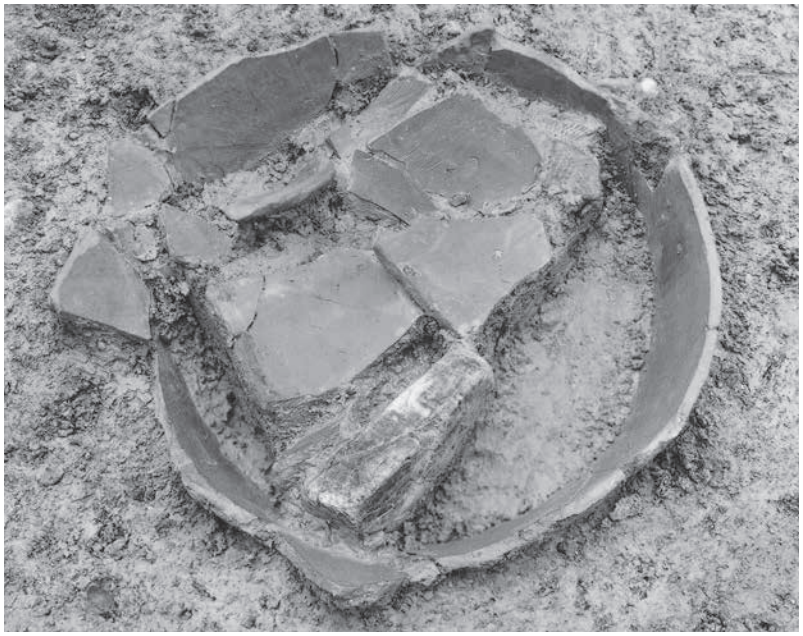


SK16 畦断面
（北から）

SK16 遺物出土状況
（北から）

SK57 遺物出土状況
（西から）

SK62 検出状況
（西から）



SK62 検出状況
（上から）

SK62 完掘状況
（西から）

SD05 遺物出土状況
（西から）

SD57 畦（B-B’）断面
（東から）

P123 完掘状況
（東から）

D01

D02

D03

D04

D05

D06

D16

D25

D23

P02・09・40・SK01・06・09 出土土器

D26

D27

D28

D32

D33

D34

D43

D35

D36

D37

D38

D41

D42

SK09 出土土器

D45

D46

D47

D48

D49

D51

D54

D53

D55

SK09 出土土器

D57

D58

D59

D60

D62

D63

D64

D65

D66

D67

D68

SK09 出土土器

D71

D75

D72

D76

D73

D84

D82

D85

D83

D86

D87

SK09・12・14・16 出土土器

D88

D89

D90

D91

D92

D93

D95

D96

D98

D99

D101

SK16 出土土器

D94

D97

D100

D102

D105

D103

D106

D108

D104

D107

SK16 出土土器

D111

D116

D117

D120

D131

D124

D137

D126

D138

D127

D154

SK57 出土土器

D152

D157

D161

D165

D166

D170

D168

D169

D173

D176

D177

SK62・SD04・05 出土土器

D178

D179

D180

D181

D182

D183

D185

D189

D192

D193

D194

D195

SD05 出土土器

D196

D197

D198

D199

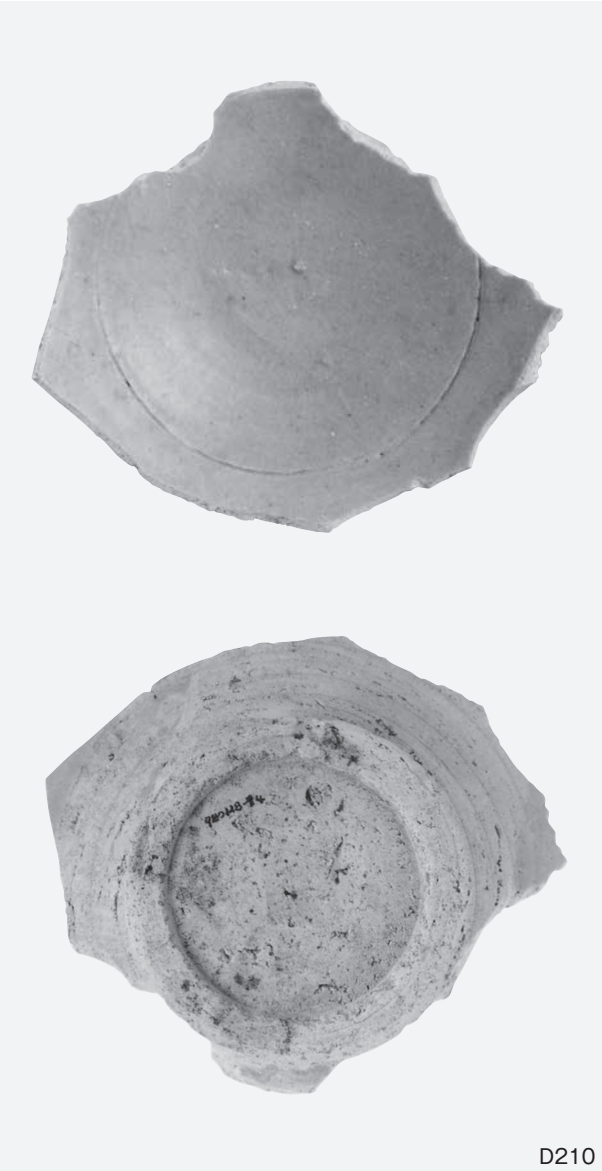
D201

D202

D203

D205

D206


D210

SD05 出土土器

D216

D217

D224

D226

D225

D227

D229

D244

D235

D246

D248

D249

D247

SD51・52・62 出土土器

D250

D251

D252

D257

D258

D264

D259

D265

D260

D261

D267

D262

D268

SD62・68・70 出土土器

D270

D271

D272

D273

D274

D275

D277

D278

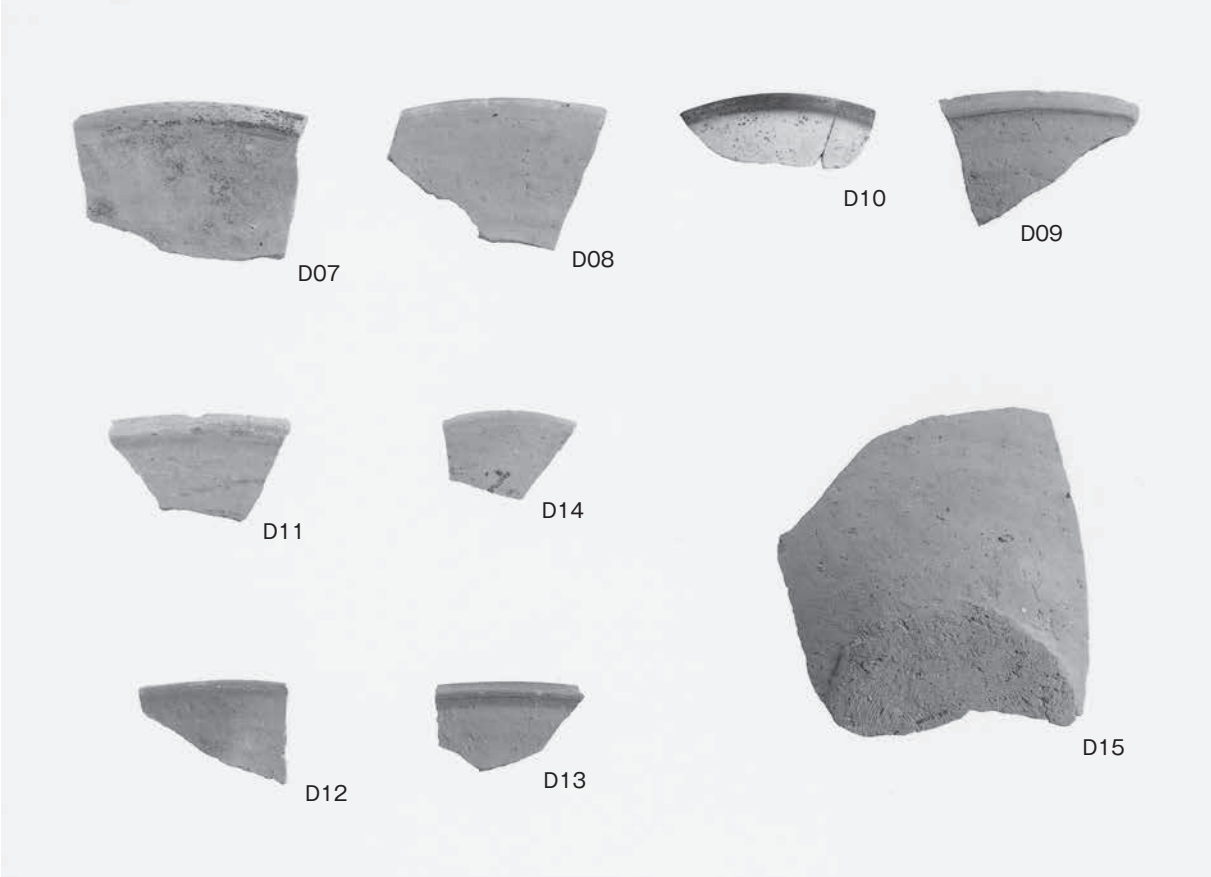
D279

D280

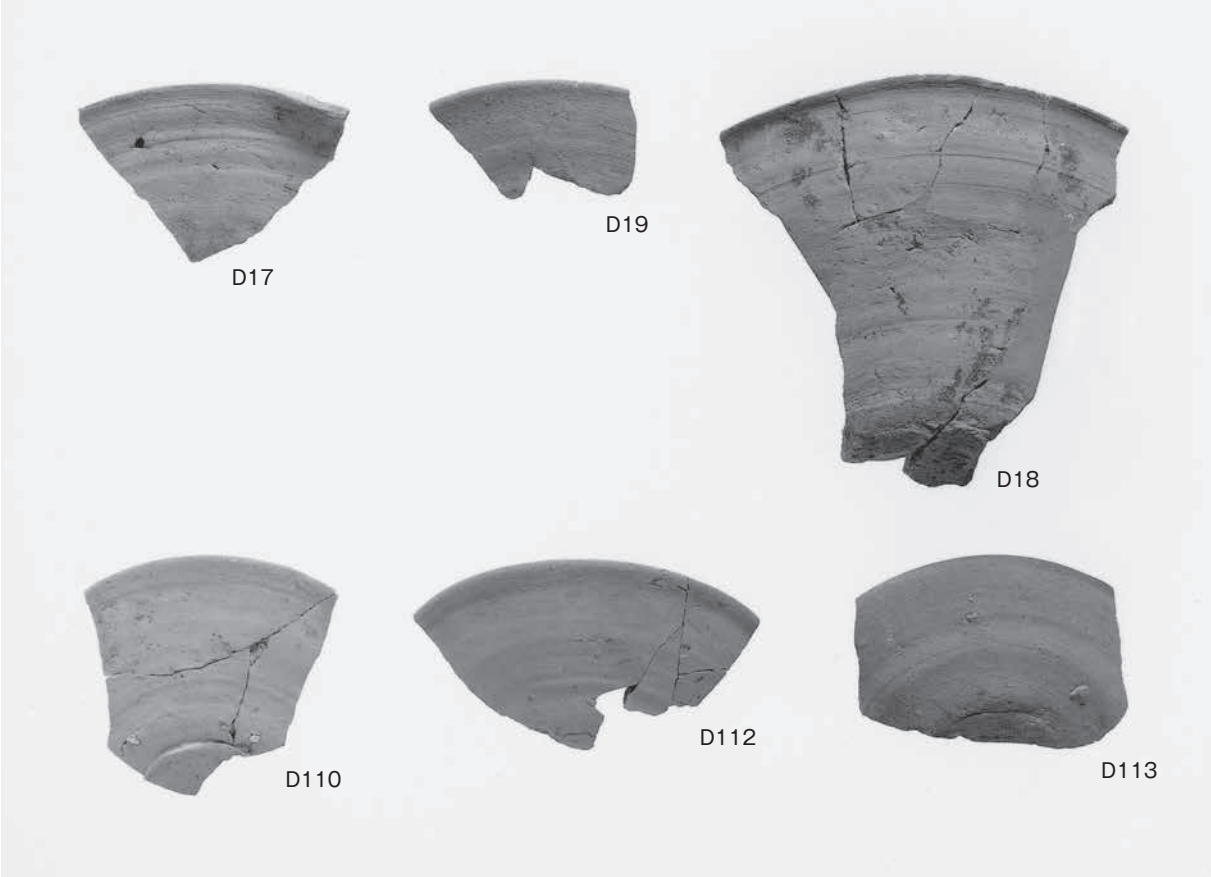
D281

D284

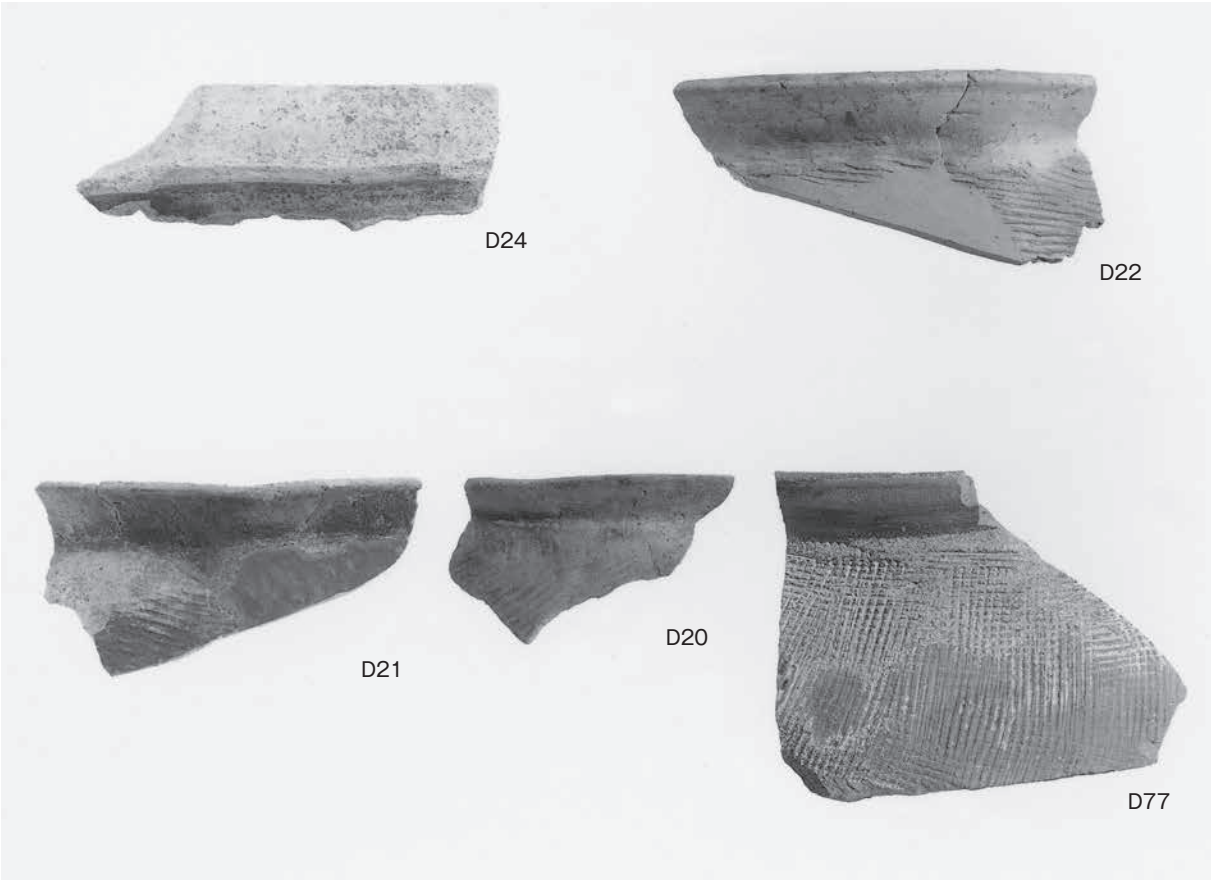
SD70 出土土器



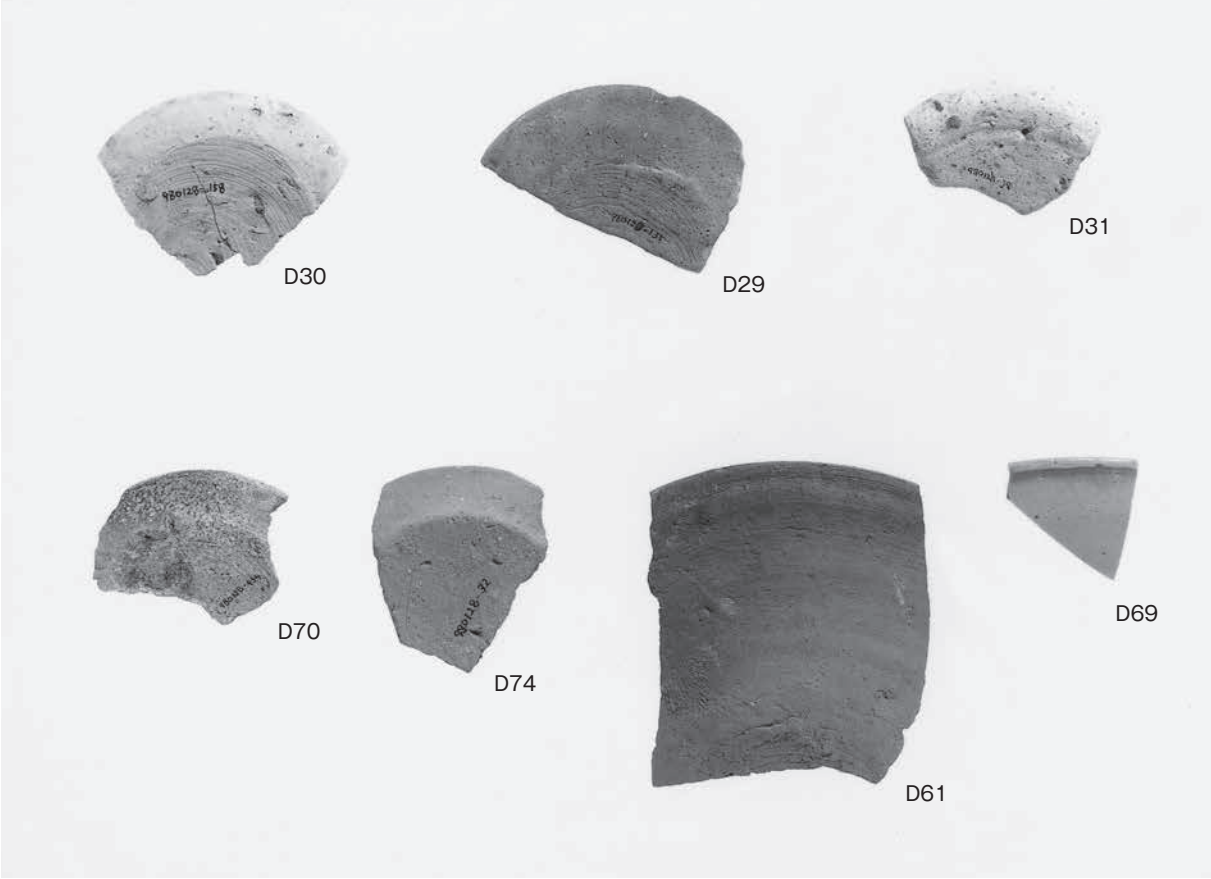
SK01 ～ 05 出土土器



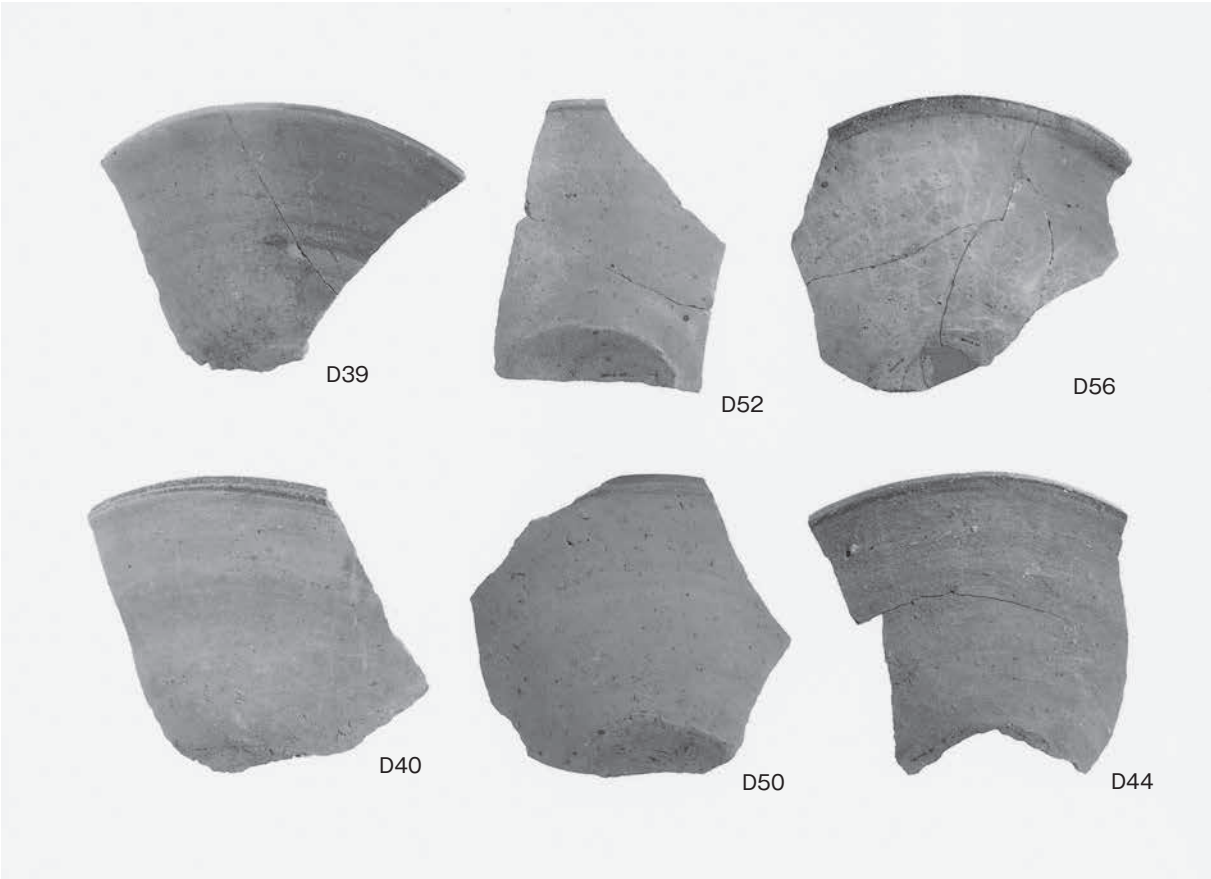
SK06・07・17・22 出土土器



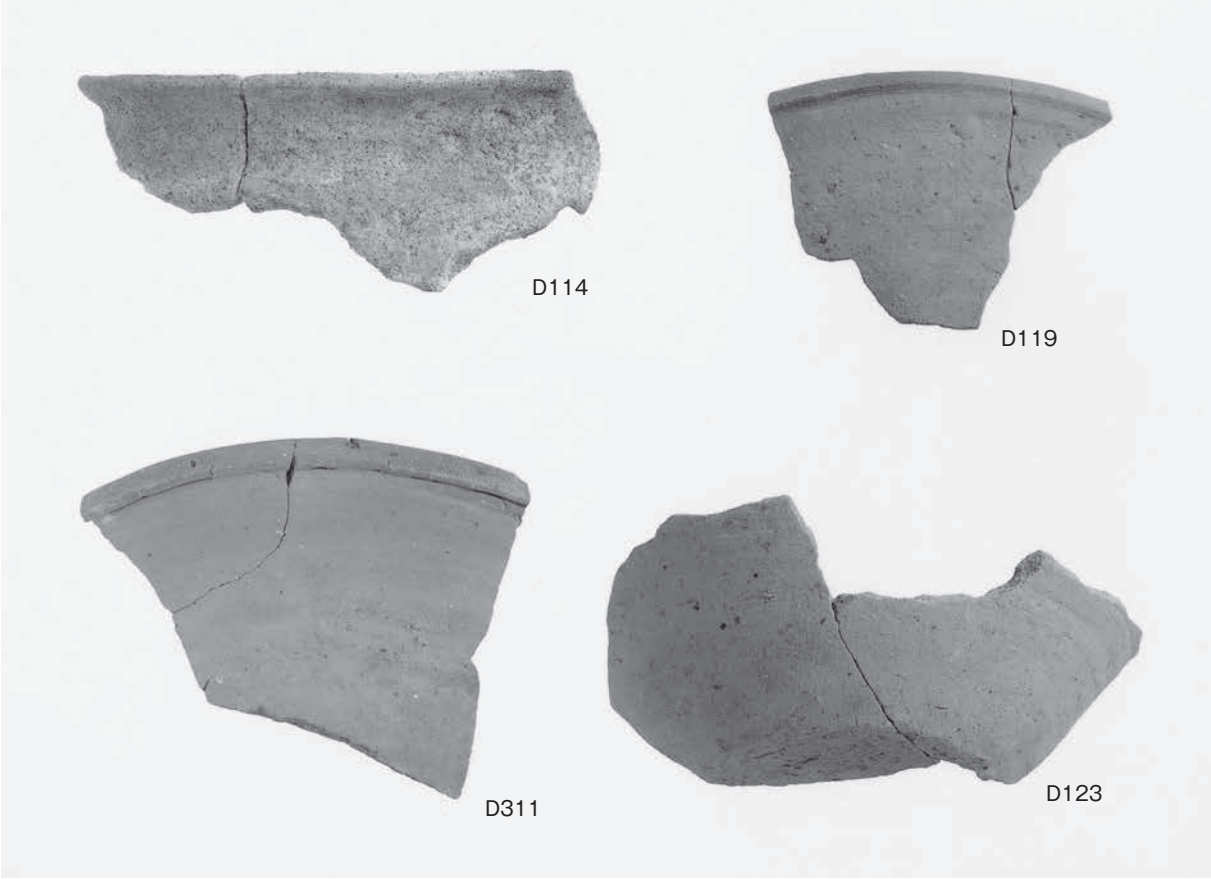
SK09 出土土器



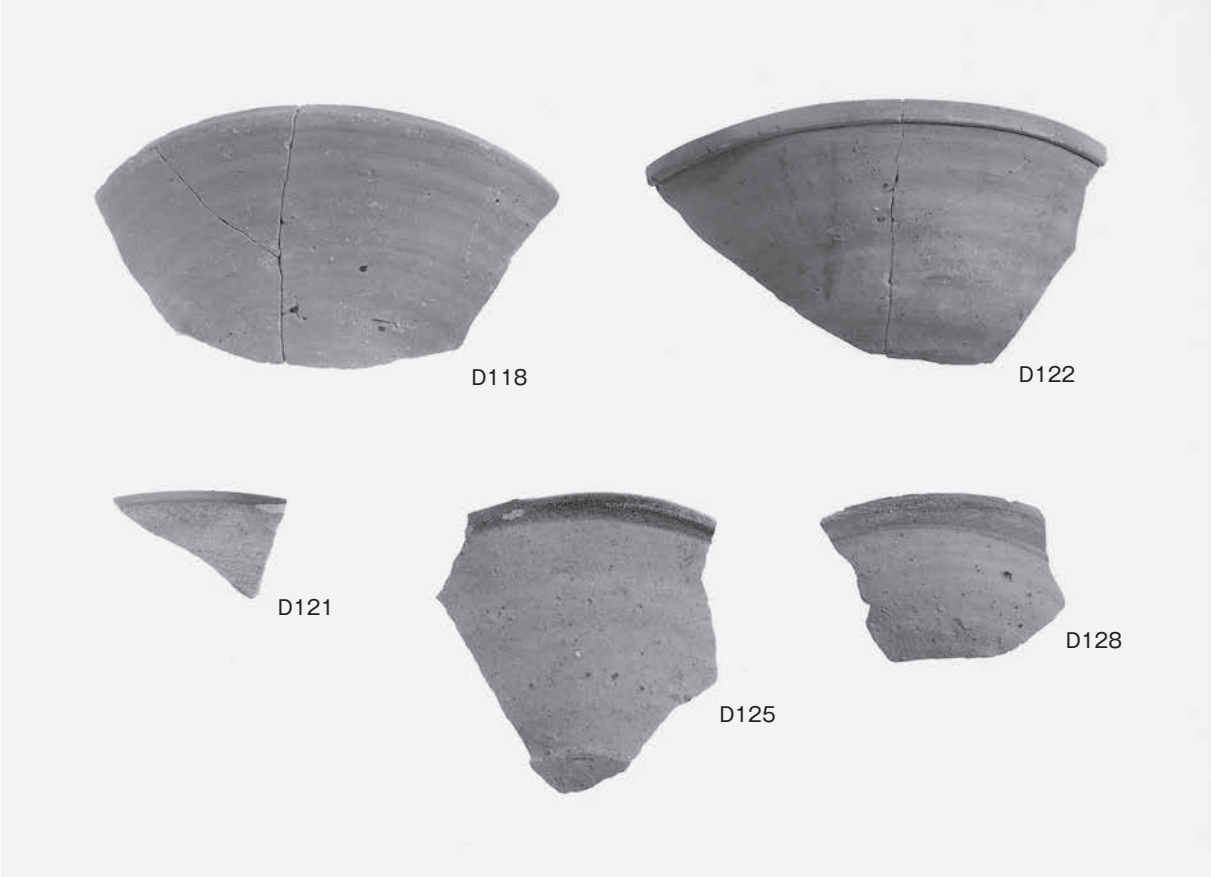
SK09 出土土器



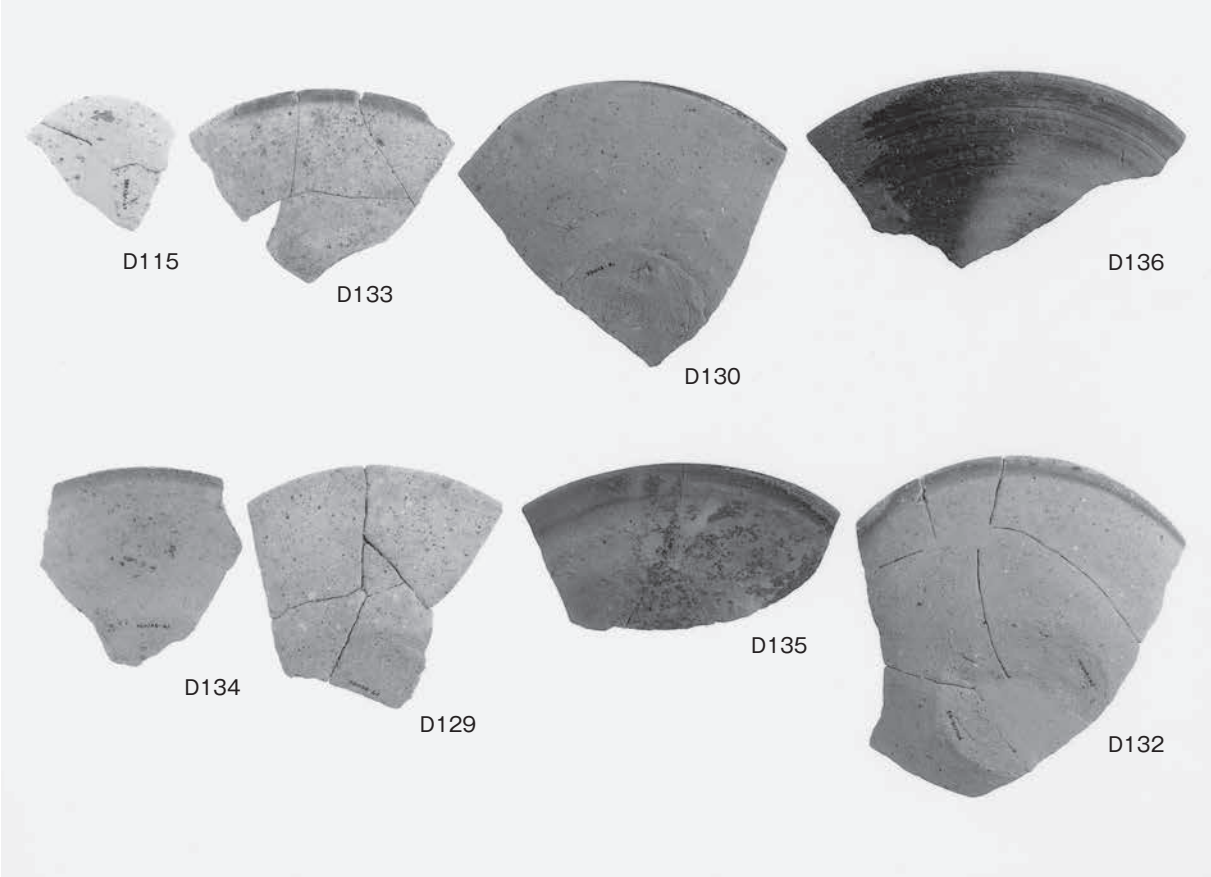
SK09 出土土器



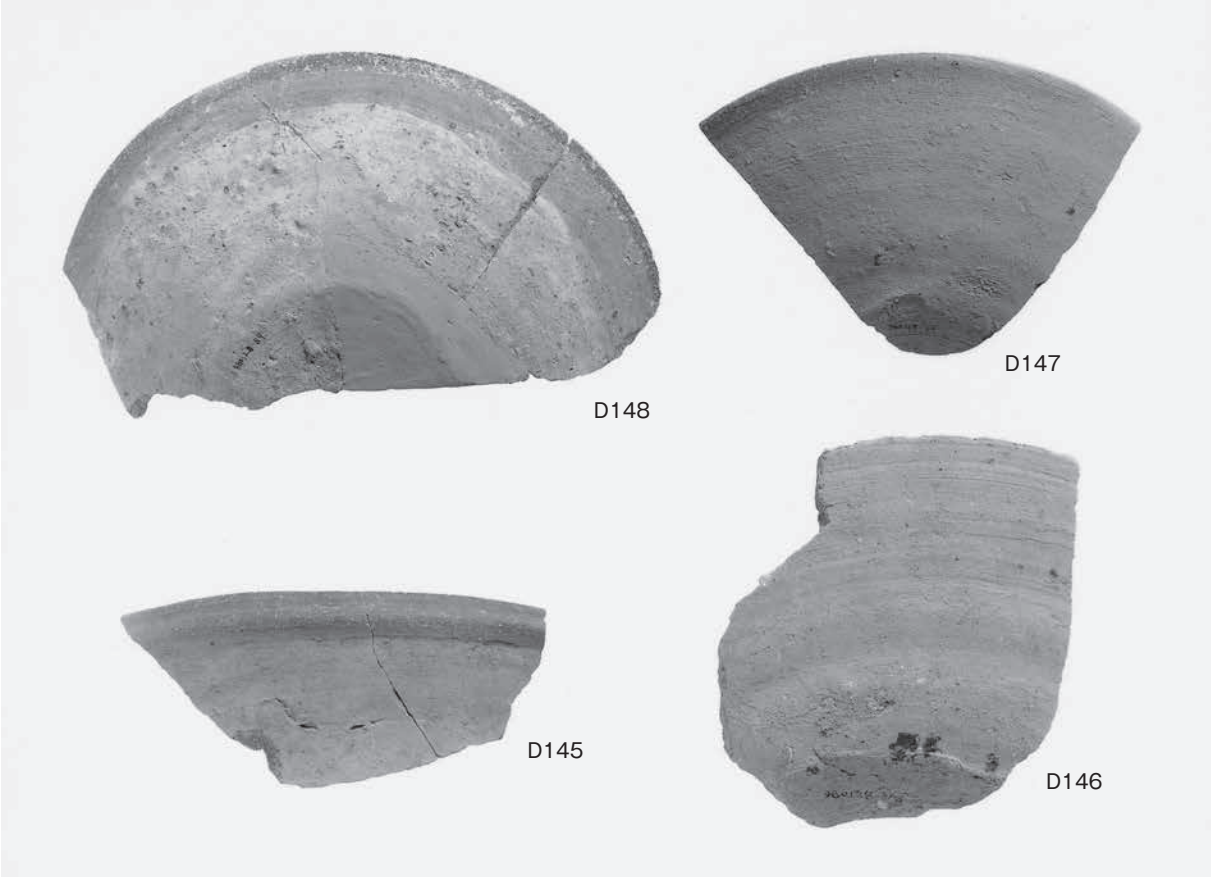
SK57 出土土器



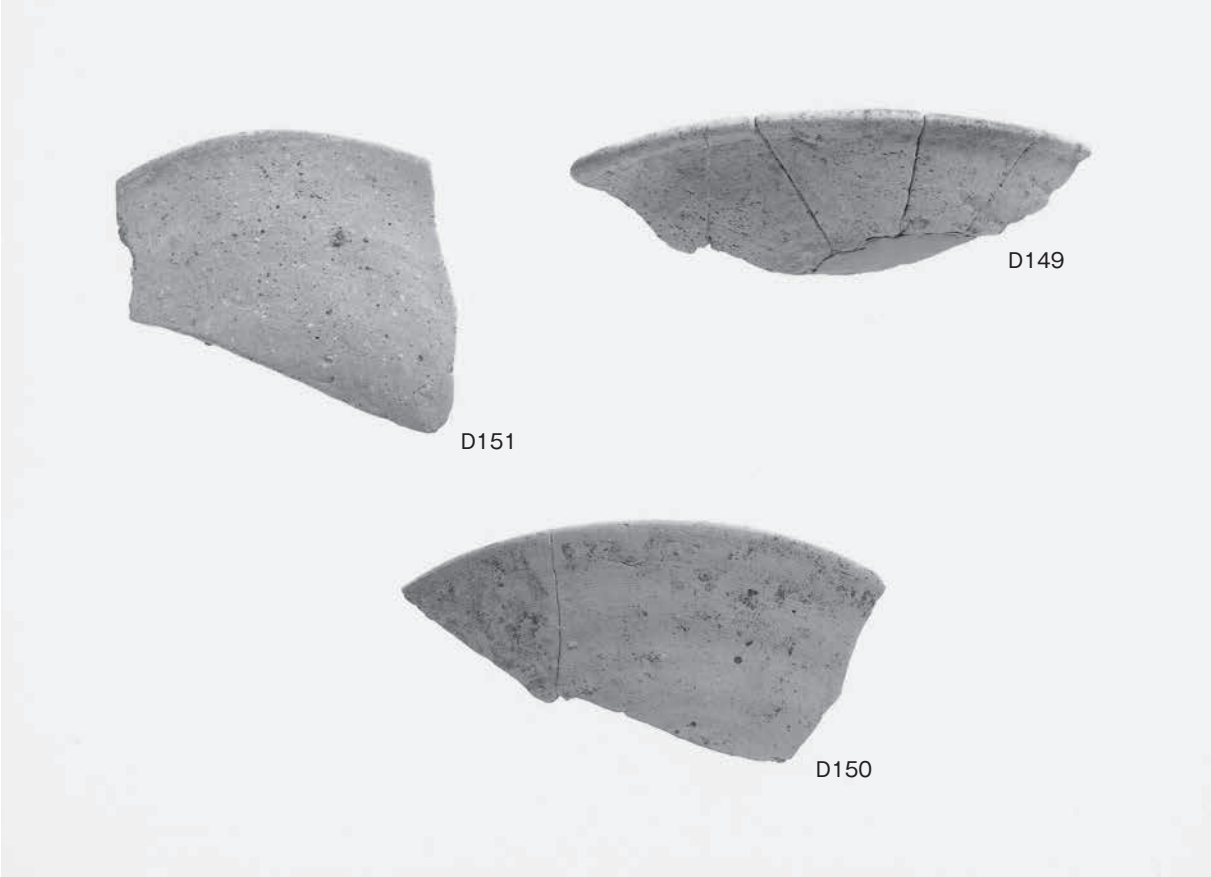
SK57 出土土器



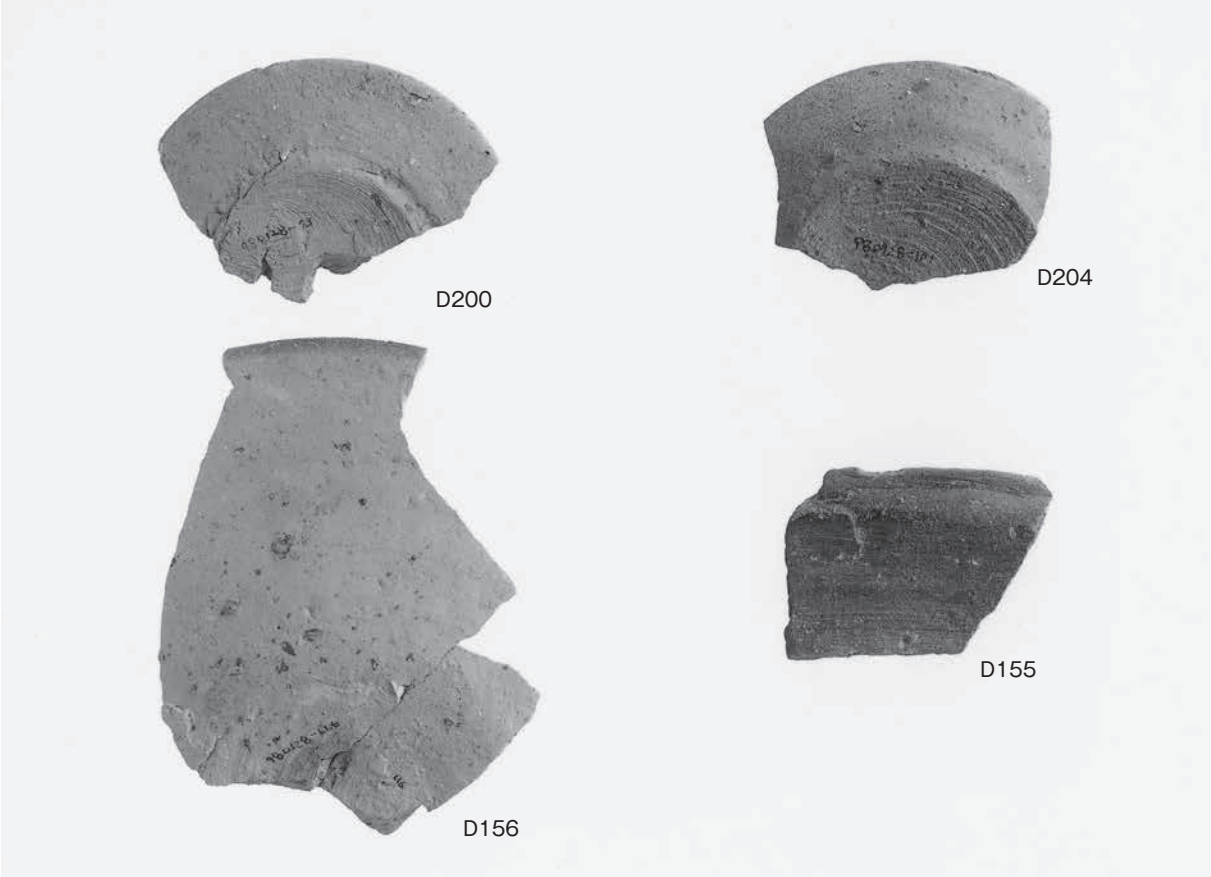
SK57 出土土器



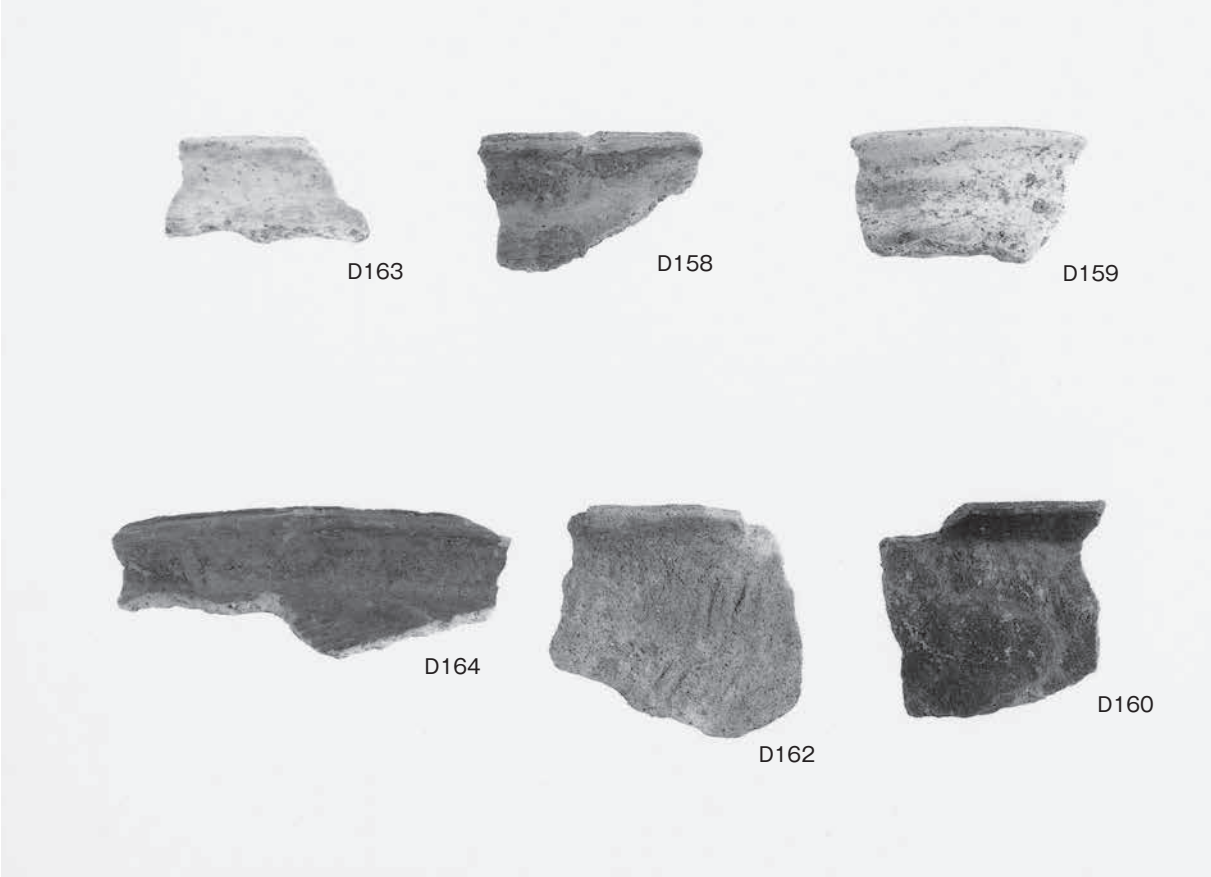
SK58 出土土器



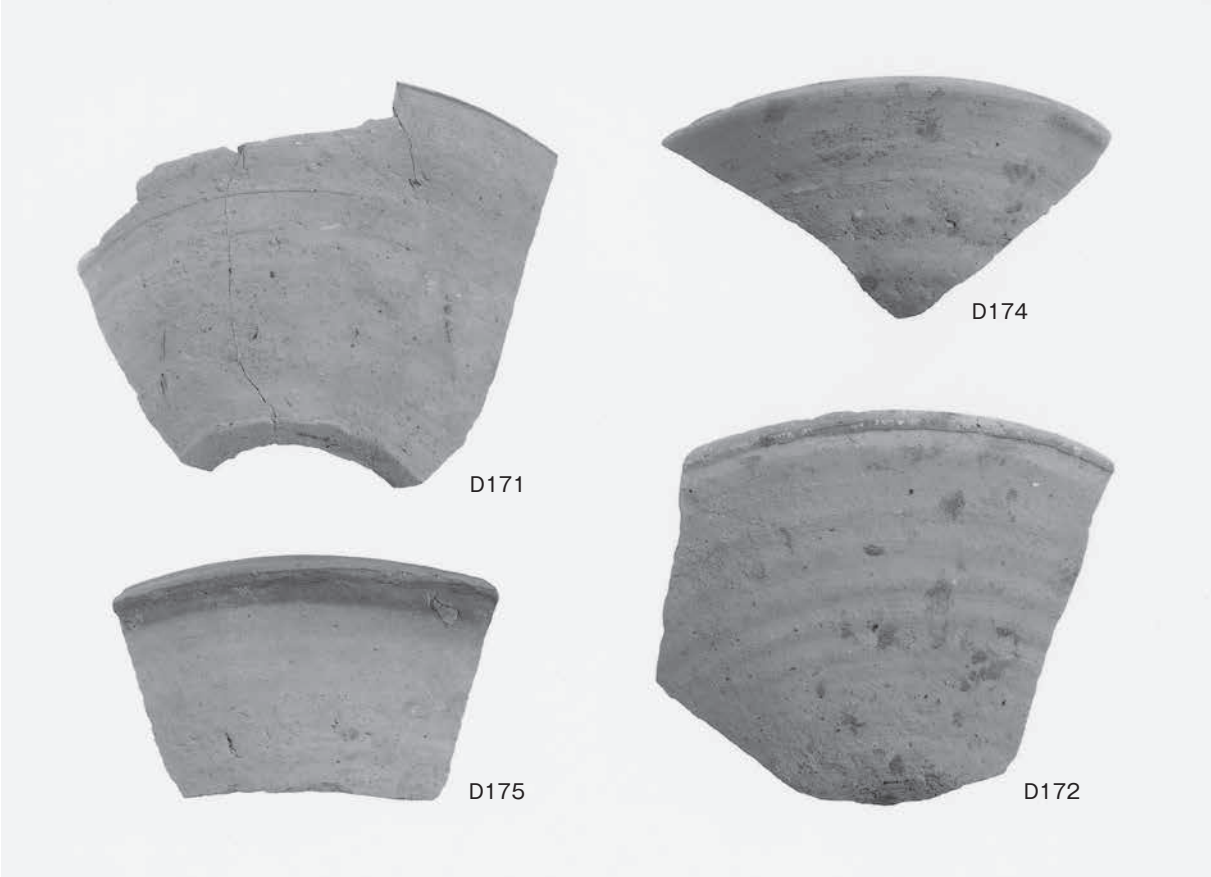
SK59・62 出土土器



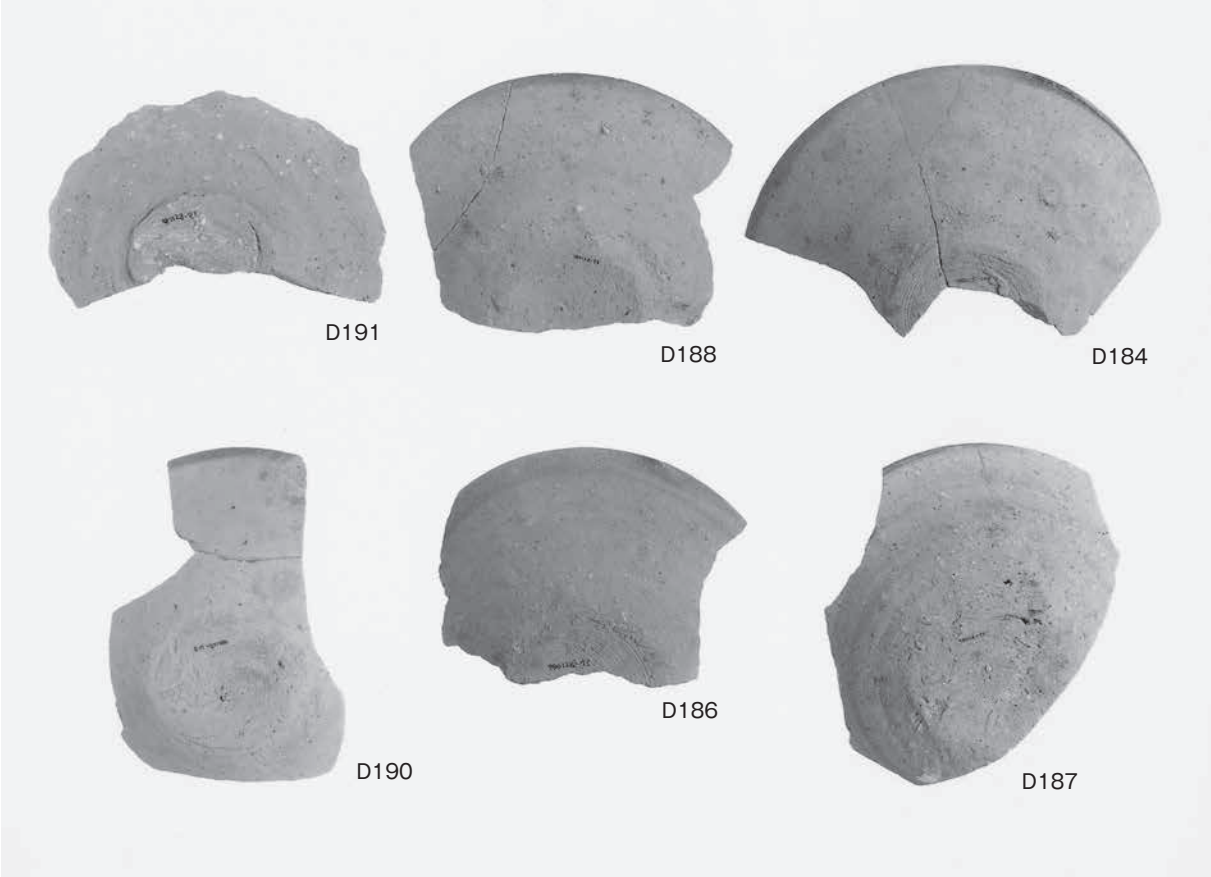
SD04・05 出土土器



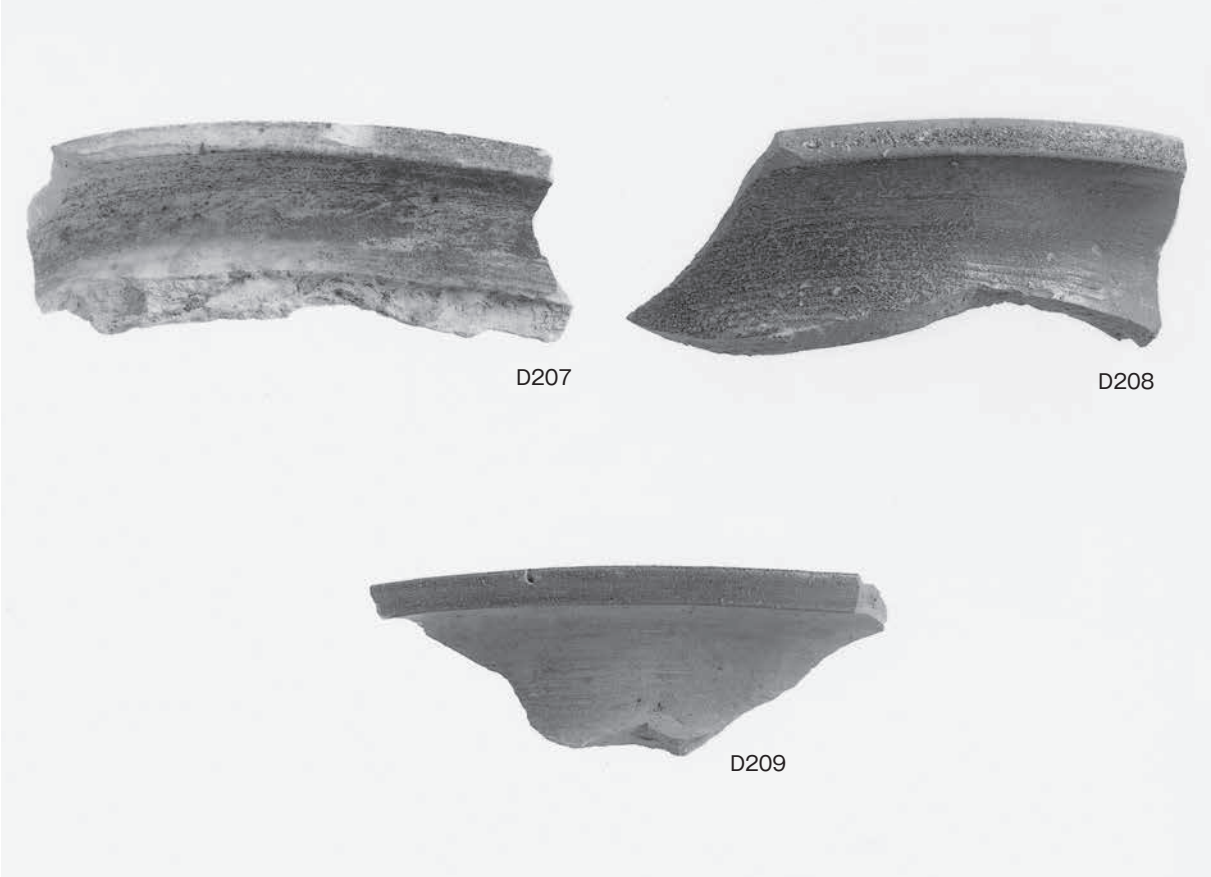
SD05 出土土器



SD05 出土土器



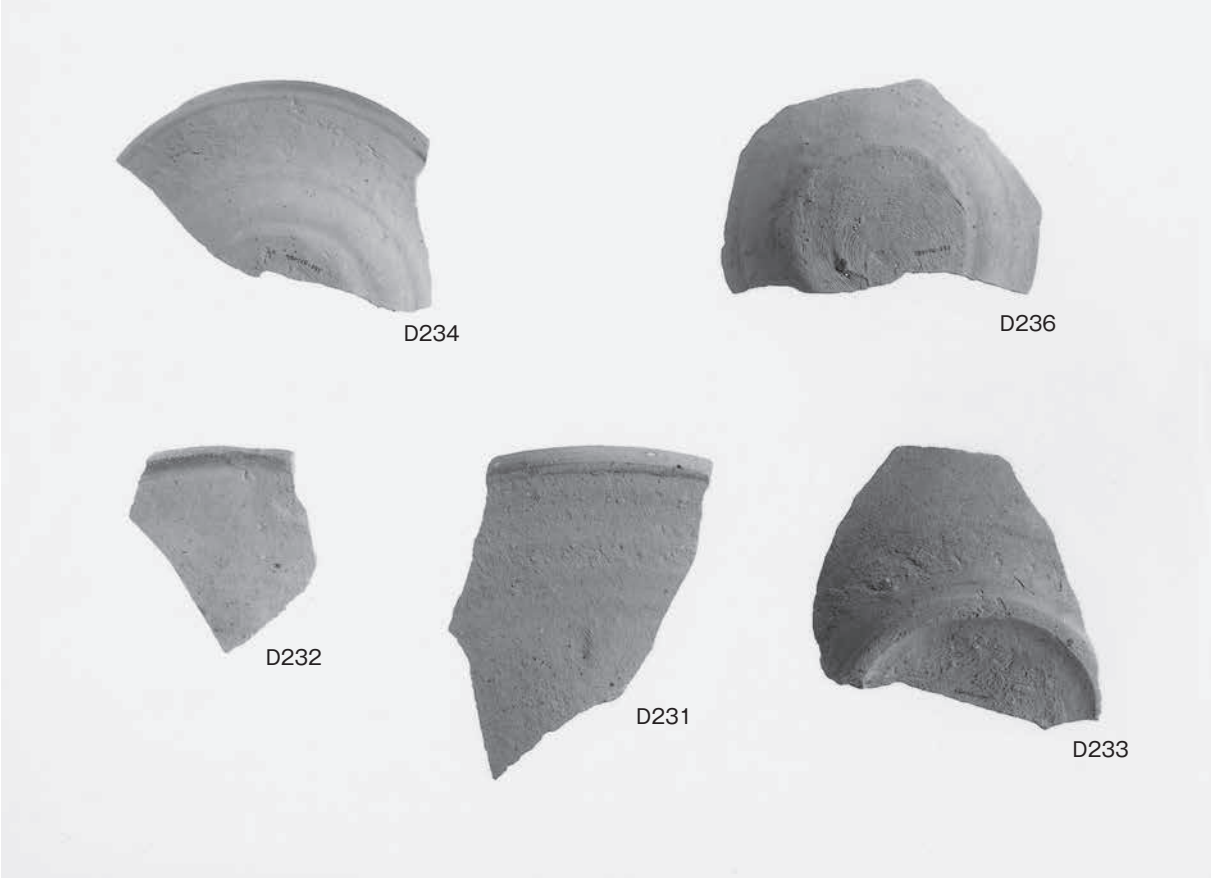
SD05 出土土器



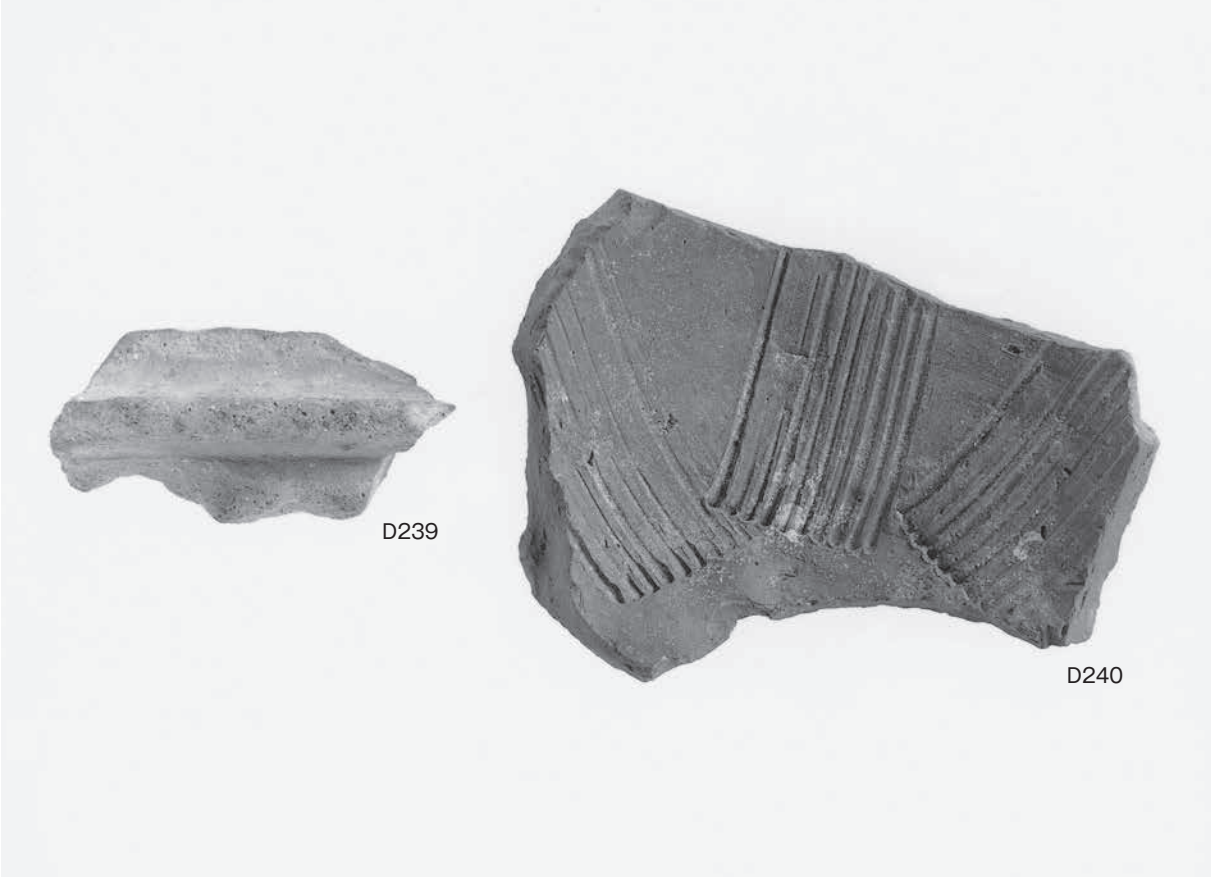
SD05 出土土器

SD51 出土土器

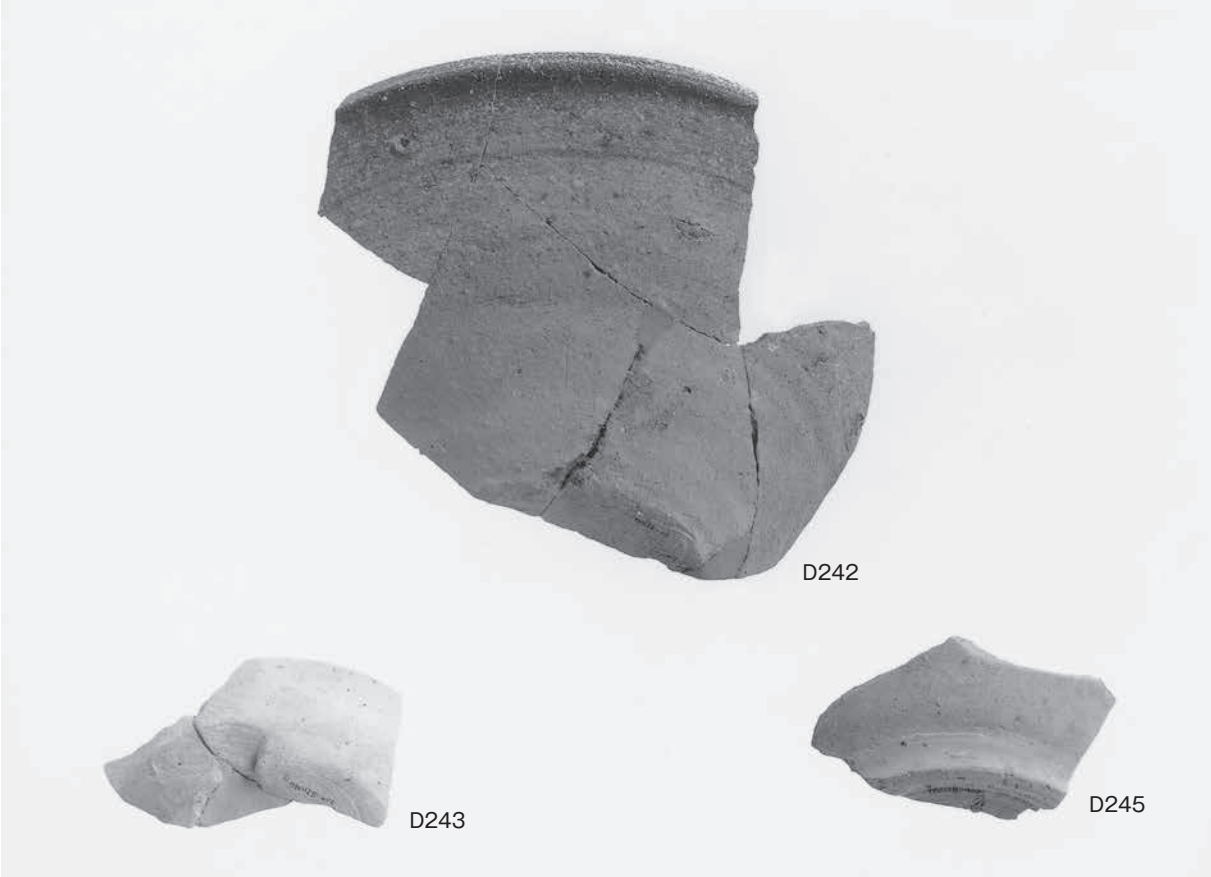
SD51 出土土器



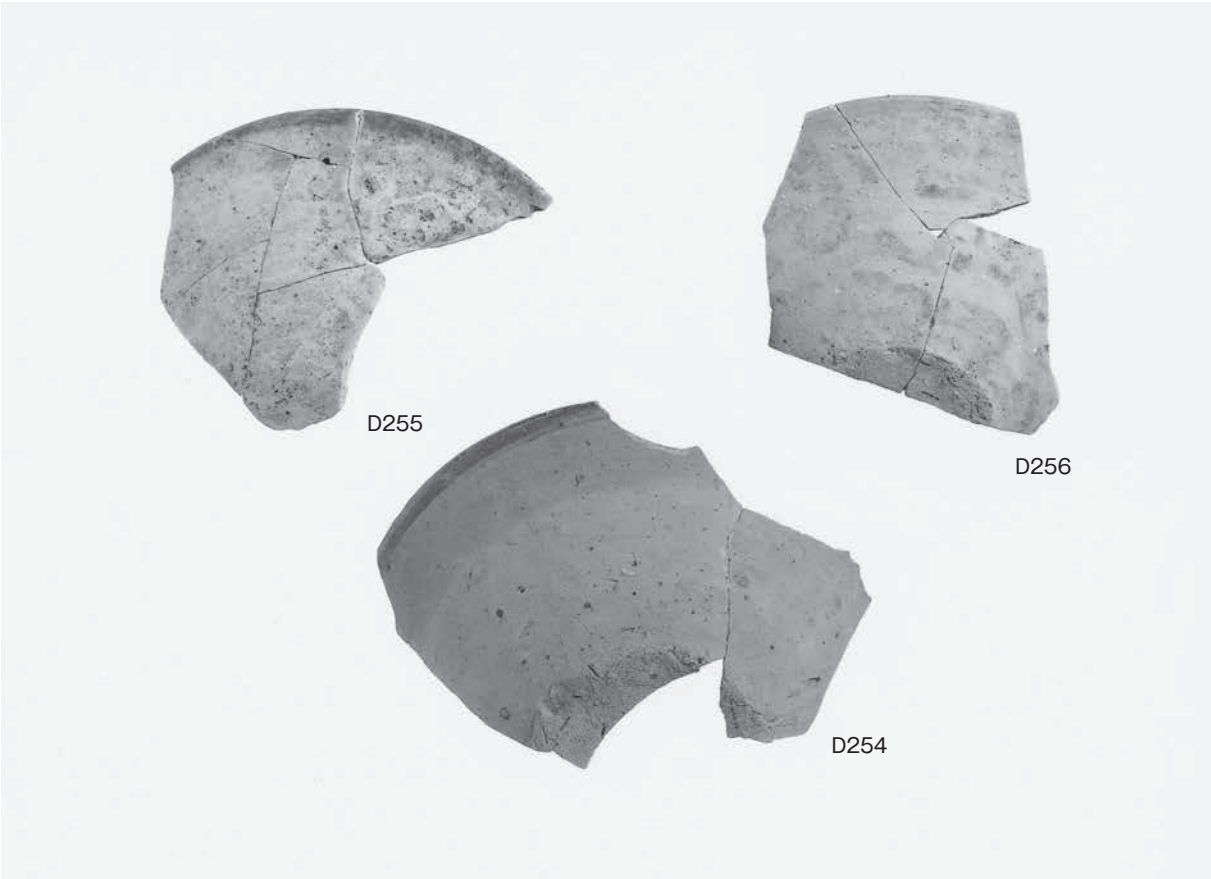
SD52 出土土器



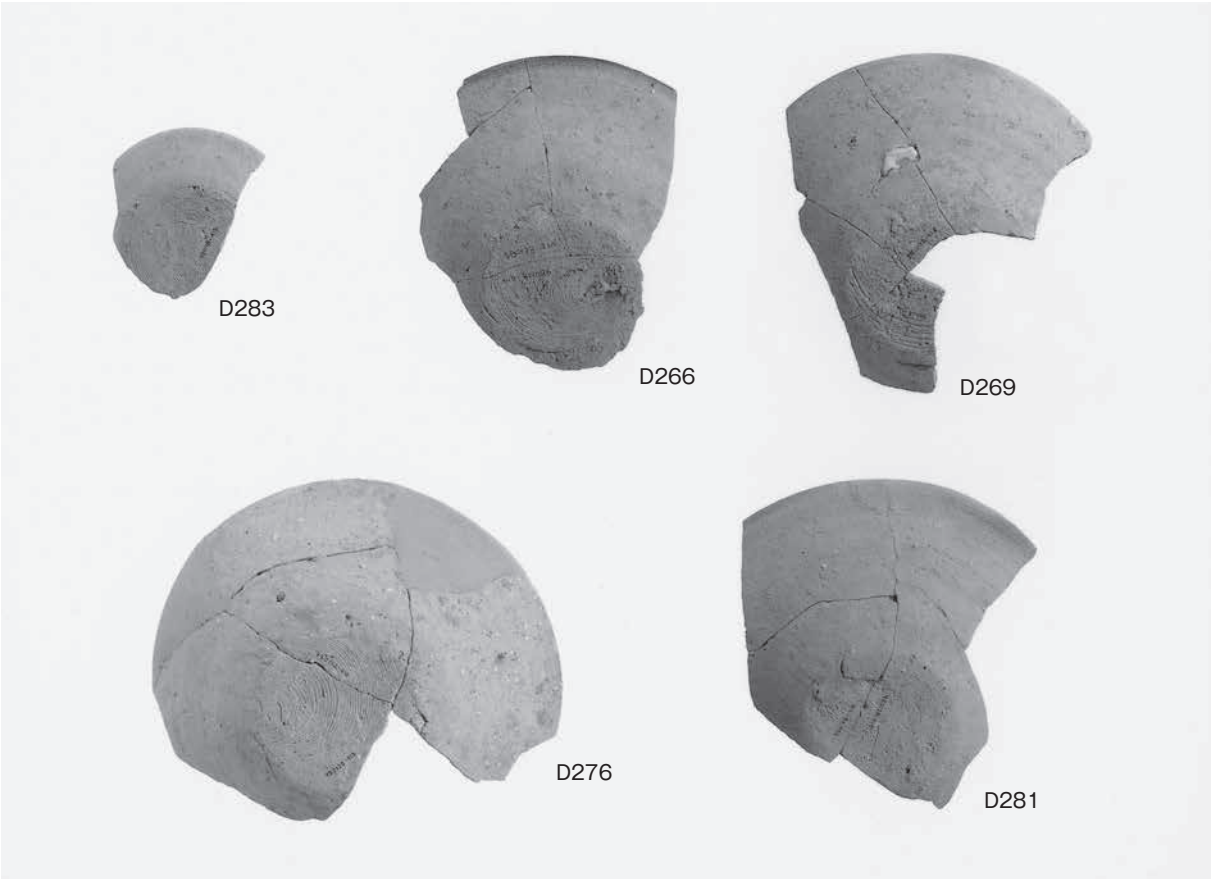
SD58 出土土器



SD60・62 出土土器



SD68 出土土器



SD70 出土土器

D78

D241

D109

D211

SK09・SD58 出土鬼瓦・SK16・SD05 出土軒丸瓦

SK57 出土軒平瓦

D238

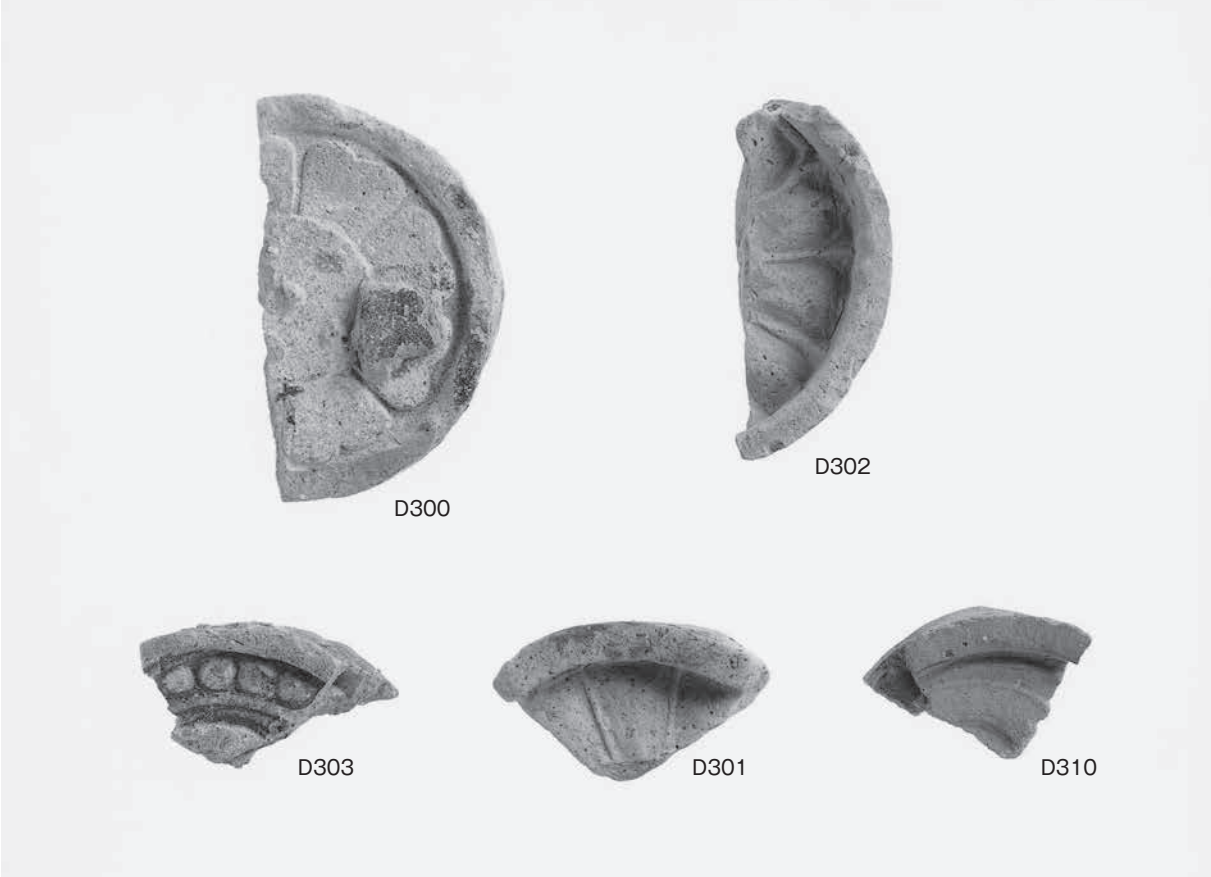
D80

D81

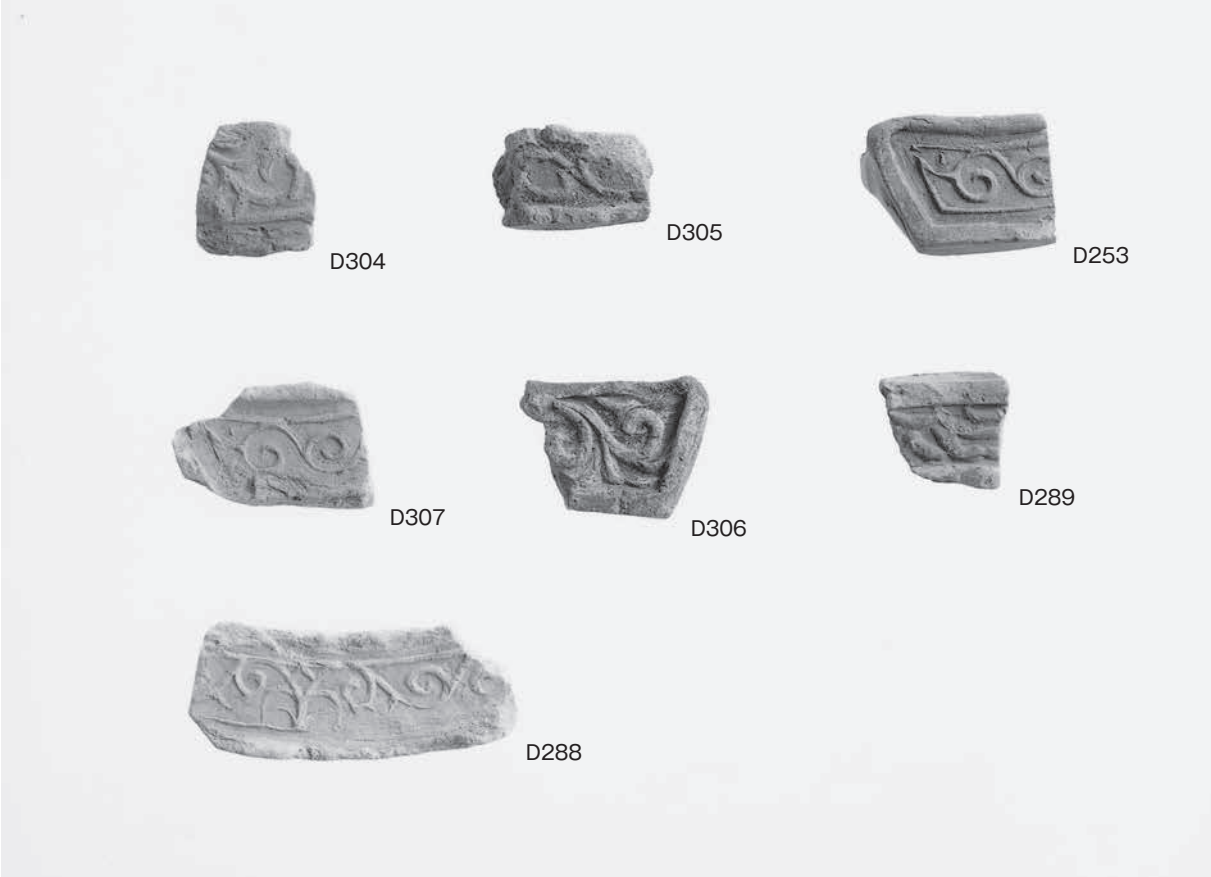
D144

SK57 出土軒平瓦・SK09・57 出土平瓦

SK57・SD05・52 出土平瓦



包含層出土軒丸瓦



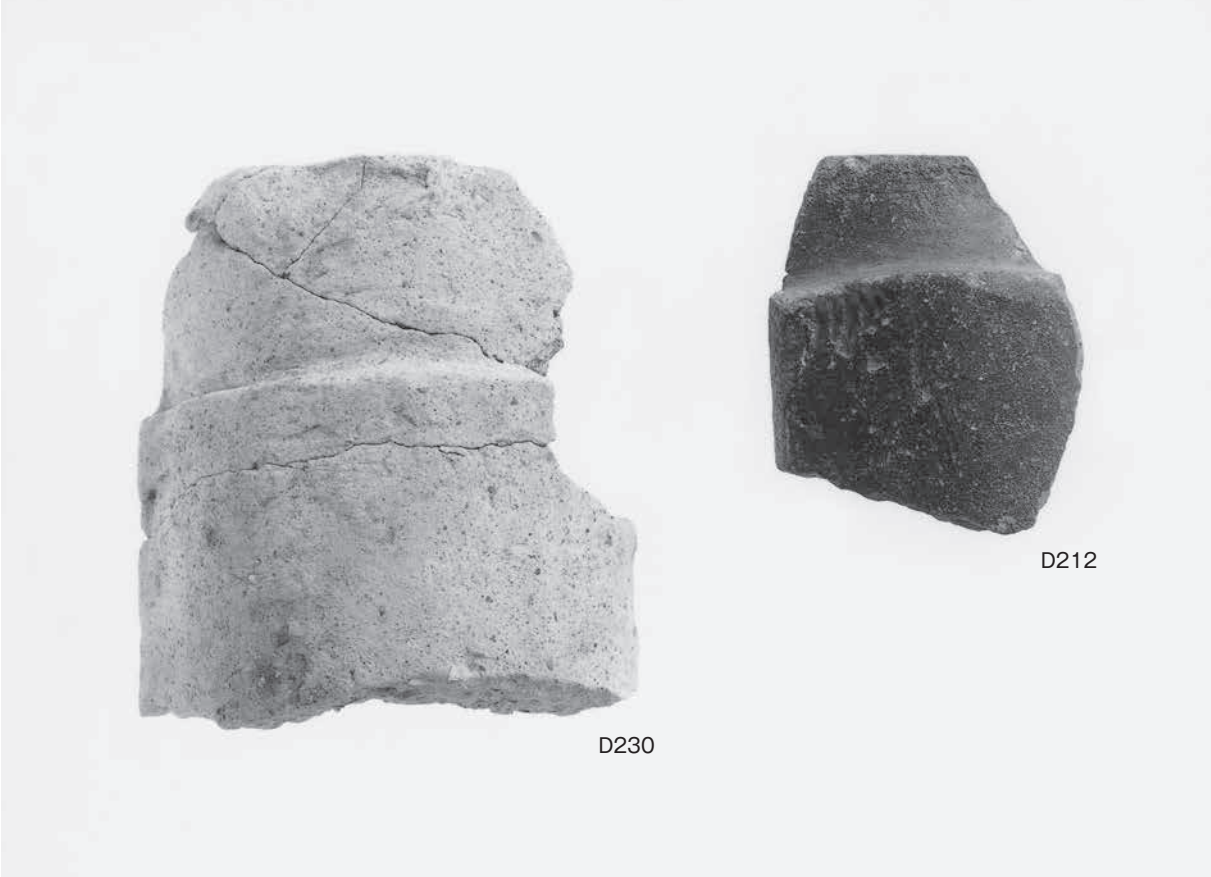
SD62・包含層出土軒平瓦

SK57 出土丸瓦（凸面）

SK57 出土丸瓦（凹面）

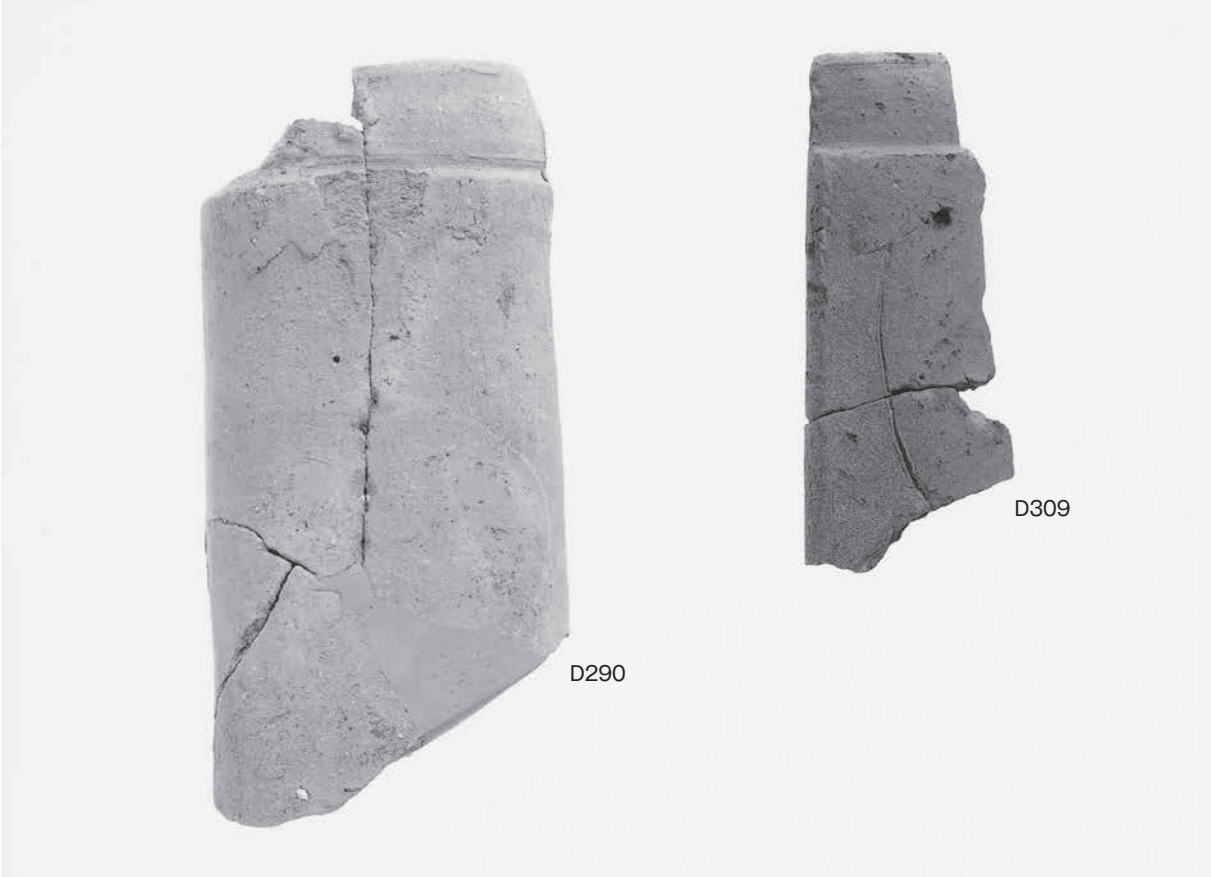
SD05 出土平瓦（凹面）

SD05 出土平瓦（凸面）



SD51 出土丸瓦（凸面）

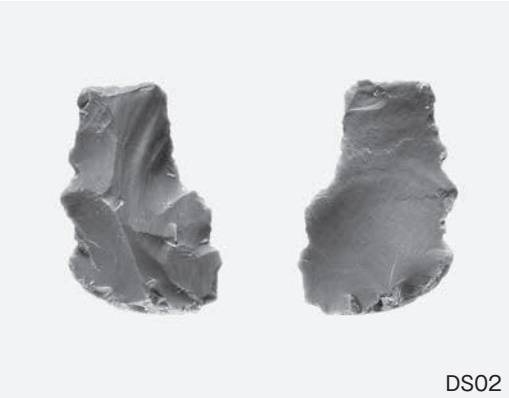
SD51 出土丸瓦（凹面）



包含層出土丸瓦（凸面）

包含層出土丸瓦（凹面）

DS01


DS02

DW01

DM01

DC01

報告書抄録

ふりがな	かんでかまあとぐん　に
書　　名	神出窯跡群Ⅱ
副　書　名	１７５号神出バイパス事業
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告
シリーズ番号	第４１８冊
編著者名	岡田章一・岸本一宏・別府洋二・深江英憲・池田征弘・森内秀造
編集機関	兵庫県立考古博物館
所　在　地	〒675-0142　兵庫県加古郡播磨町大中一丁目1-1　　Tel 079-437-5589
発行機関	兵庫県教育委員会
所　在　地	〒650-8567　兵庫県神戸市中央区下山手通五丁目10-1　　Tel 078-341-7711
発行年月日	２０１２（平成２４）年２月２８日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
神出遺跡（A地区）	神戸市西区神出町田井	28111	019004	34度44分48秒	134度58分59秒	平成７年８月25日～平成７年10月30日	1,525㎡	175号神出バイパス事業
神出遺跡（B地区）	神戸市西区神出町田井	28111	019004	34度44分51秒	134度58分58秒	平成５年６月19日～平成５年11月15日	1,181㎡	
神出遺跡（C地区）	神戸市西区神出町北	28111	019004	34度44分57秒	134度58分59秒	平成10年１月14日～平成10年３月16日	1,070㎡	
神出遺跡（D地区）	神戸市西区神出町北	28111	019004	34度45分01秒	134度58分59秒	平成10年８月25日～平成10年12月２日	2,876㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
神出遺跡（A地区）	集落跡	平安時代 鎌倉時代	掘立柱建物・土坑・炭窯・ピット・溝	須恵器・土師器・瓦・丹波焼・白磁・青磁・金属器	
神出遺跡（B地区）	須恵器窯跡群・集落跡	平安時代 鎌倉時代 江戸時代	土坑（窯の残欠）・土坑・井戸・溝	須恵器・土師器・瓦・丹波焼・近世陶磁器	
神出遺跡（C地区）	須恵器窯跡群・集落跡	平安時代 鎌倉時代	土坑・溝・流路・灰原	須恵器・土師器・瓦・土製品・木器・金属器	
神出遺跡（D地区）	須恵器窯跡群・集落跡	平安時代 鎌倉時代	ピット・土坑・溝	須恵器・土師器・瓦・備前焼・白磁・木器・古銭	

調査概要	・A地区では、ロクロピットを伴う掘立柱建物や雨落ち溝を伴う大型掘立柱建物、炭窯跡等、須恵器生産の工房跡関連遺構を検出した。 ・B地区では、窯体塊が多量に集積した土坑、多量の須恵器鉢を廃棄した井戸の他、中世及び近世の溝を検出した。 ・C地区では、神出窯でも初期の段階、また最盛期に至るまでの窯跡の存在を窺わせる土坑、灰原、流路を検出した。また、流路内からは、檜扇や漆器椀等の木製品が出土した。 ・D地区では、水田域の拡張に伴う居住域の拡大を想定させる溝、土坑、ピット群を検出した。

兵庫県文化財調査報告　第４１８冊

神出窯跡群Ⅱ

（神出遺跡の調査）

１７５号神出バイパス事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 24 年２月 28 日　発行

編集　兵庫県立考古博物館

〒 675-0142　兵庫県加古郡播磨町大中一丁目１番１号

Tel.　079-437-5589

発行　兵庫県教育委員会

〒 650-8567　神戸市中央区下山手通５丁目 10 番１号

印刷　株式会社　北星社

〒 668-0061　兵庫県豊岡市上佐野 1620